

上野学園大学

音楽学部 音楽学科

音楽専攻科

2019年度

講義要旨

講義要旨参照上の留意事項

科目コード	科目記号と科目番号を付与し、それぞれ学問分野と学修の段階、履修順序を示したもの。
概要	全体の趣旨
到達目標	講義を通して到達すべき目標
対象コース/専門/年次	履修対象* ※一部コースは次の省略表記を使用する グローバル教養コース…GLAコース
授業計画	授業の進め方についての概略、各回の授業内容 事前・事後学習内容と所要時間
フィードバック	授業内での課題（試験やレポートなど）のフィードバック方法
成績評価	評価を算定する方法・基準
テキスト	履修学生が購買部で購入すべき教科書（文献）、資料、楽譜類 参考図書、推薦図書は、各自で入手して参照することが望ましいもの
オフィス・アワー	学生から授業に関する質問を受け付けるための時間帯
備考	担当教員からのメッセージや指示事項
学位授与の方針との関連	本学のカリキュラムを修めた者（学位を授与される者）が身に付けているべき資質・能力を 項目建て、当該講義の履修を通じて身に付けることができる力

※複数年次が混在する科目のうち1、2年次生が履修するものについては、セメスター制の講義要旨となっている。

3、4年次生は前期と後期の講義要旨をあわせて参照すること。なお、単位数も前期と後期の合算した単位数となる。

上野学園大学 音楽学部 音楽学科
上野学園大学 音楽専攻科

講義要旨

目 次

上野学園大学 音楽学部 音楽学科

専門教育 共通必修科目

初年次プログラム	1
情報リテラシーⅠa・b	2
情報リテラシーⅡa・b	3
西洋音楽史-1a	4
西洋音楽史-2a	5
西洋音楽史-1b	6
西洋音楽史-2b	7
日本音楽史-1	8
日本音楽史-2	9
音楽美学-1	10
音楽美学-2	11
特別講座	12
ソルフェージュⅠ-1S	13
ソルフェージュⅠ-2S	14
ソルフェージュⅠ-1A	15
ソルフェージュⅠ-2A	16
ソルフェージュⅠ-1B	17
ソルフェージュⅠ-2B	18
ソルフェージュⅠ-1C	19
ソルフェージュⅠ-2C	20
和声法-1S	21
和声法-2S	22
和声法-1A	23
和声法-2A	24
和声法-1B	25
和声法-2B	26
和声法-1C	27
和声法-2C	28
楽式論-1	29
楽式論-2	30
(演)楽式論-1A	31
(演)楽式論-2A	32
(演)楽式論-1B	33
(演)楽式論-2B	34
芸術社会学-1	35
芸術社会学-2	36
卒業演習	37

専門教育 コース・専門別必修科目 (実技系)

専門実技Ⅰ-1(ピアノ)	40
専門実技Ⅰ-2(ピアノ)	41
専門実技Ⅱ-1(ピアノ)	42
専門実技Ⅱ-2(ピアノ)	43
専門実技Ⅲ(ピアノ)	44
専門実技Ⅳ(ピアノ)	45
専門実技Ⅰ-1(弦楽器)	46
専門実技Ⅰ-2(弦楽器)	47
専門実技Ⅱ-1(弦楽器)	48
専門実技Ⅱ-2(弦楽器)	49
専門実技Ⅲ(弦楽器)	50
専門実技Ⅳ(弦楽器)	51
専門実技Ⅰ-1(ハープ)	52
専門実技Ⅰ-2(ハープ)	53
専門実技Ⅱ-1(ハープ)	54
専門実技Ⅱ-2(ハープ)	55
専門実技Ⅲ(ハープ)	56
専門実技Ⅳ(ハープ)	57
専門実技Ⅰ-1(管楽器)	58
専門実技Ⅰ-2(管楽器)	59
専門実技Ⅱ-1(管楽器)	60

専門実技Ⅱ-2(管楽器)	61
専門実技Ⅲ(管楽器)	62
専門実技Ⅳ(管楽器)	63
専門実技Ⅰ-1(打楽器)	64
専門実技Ⅰ-2(打楽器)	65
専門実技Ⅱ-1(打楽器)	66
専門実技Ⅱ-2(打楽器)	67
専門実技Ⅲ(打楽器)	68
専門実技Ⅳ(打楽器)	69
専門実技Ⅰ-1(オルガン・古楽)	70
専門実技Ⅰ-2(オルガン・古楽)	71
専門実技Ⅱ-1(オルガン・古楽)	72
専門実技Ⅱ-2(オルガン・古楽)	73
専門実技Ⅲ(オルガン・古楽)	74
専門実技Ⅳ(オルガン・古楽)	75
専門実技Ⅰ-1(声楽)	76
専門実技Ⅰ-2(声楽)	77
専門実技Ⅱ-1(声楽)	78
専門実技Ⅱ-2(声楽)	79
専門実技Ⅲ(声楽)	80
専門実技Ⅳ(声楽)	81
(演)専門実技Ⅰ-1(ピアノ)	82
(演)専門実技Ⅰ-2(ピアノ)	83
(演)専門実技Ⅱ-1(ピアノ)	84
(演)専門実技Ⅱ-2(ピアノ)	85
(演)専門実技Ⅲ(ピアノ)	86
(演)専門実技Ⅳ(ピアノ)	87
(演)専門実技Ⅰ-1(弦楽器)	88
(演)専門実技Ⅰ-2(弦楽器)	89
(演)専門実技Ⅱ-1(弦楽器)	90
(演)専門実技Ⅱ-2(弦楽器)	91
(演)専門実技Ⅲ(弦楽器)	92
(演)専門実技Ⅳ(弦楽器)	93
(演)専門実技Ⅰ-1(ハープ)	94
(演)専門実技Ⅰ-2(ハープ)	95
(演)専門実技Ⅱ-1(ハープ)	96
(演)専門実技Ⅱ-2(ハープ)	97
(演)専門実技Ⅲ(ハープ)	98
(演)専門実技Ⅳ(ハープ)	99
(演)専門実技Ⅰ-1(管楽器)	100
(演)専門実技Ⅰ-2(管楽器)	101
(演)専門実技Ⅱ-1(管楽器)	102
(演)専門実技Ⅱ-2(管楽器)	103
(演)専門実技Ⅲ(管楽器)	104
(演)専門実技Ⅳ(管楽器)	105
(演)専門実技Ⅰ-1(打楽器)	106
(演)専門実技Ⅰ-2(打楽器)	107
(演)専門実技Ⅱ-1(打楽器)	108
(演)専門実技Ⅱ-2(打楽器)	109
(演)専門実技Ⅲ(打楽器)	110
(演)専門実技Ⅳ(打楽器)	111
(演)専門実技Ⅰ-1(オルガン・古楽)	112
(演)専門実技Ⅰ-2(オルガン・古楽)	113
(演)専門実技Ⅱ-1(オルガン・古楽)	114
(演)専門実技Ⅱ-2(オルガン・古楽)	115
(演)専門実技Ⅲ(オルガン・古楽)	116
(演)専門実技Ⅳ(オルガン・古楽)	117
(演)専門実技Ⅰ-1(声楽)	118
(演)専門実技Ⅰ-2(声楽)	119
(演)専門実技Ⅱ-1(声楽)	120
(演)専門実技Ⅱ-2(声楽)	121
(演)専門実技Ⅲ(声楽)	122
(演)専門実技Ⅳ(声楽)	123
ピアノ・アンサンブルⅠ	124
ピアノ・アンサンブルⅡ	125
ピアノ・アンサンブルⅢ	126
ピアノ伴奏法A	127

(演)ピアノ伴奏法A	128
演奏法	129
弦楽合奏 I-1・II-1・III・IV	130
弦楽合奏 I-2・II-2・III・IV	131
ハープ・アンサンブル I-1・II-1・III・IV	132
ハープ・アンサンブル I-2・II-2・III・IV	133
管楽合奏 I-1・II-1・III・IV(木管A)	134
管楽合奏 I-2・II-2・III・IV(木管A)	135
管楽合奏 I-1・II-1・III・IV(木管B)	136
管楽合奏 I-2・II-2・III・IV(木管B)	137
管楽合奏 I-1・II-1・III・IV(木管C)	138
管楽合奏 I-2・II-2・III・IV(木管C)	139
管楽合奏 I-1・II-1・III・IV(木管D)	140
管楽合奏 I-2・II-2・III・IV(木管D)	141
管楽合奏 I-1・II-1・III・IV(金管)	142
管楽合奏 I-2・II-2・III・IV(金管)	143
打楽器合奏 I-1・II-1・III・IV	144
打楽器合奏 I-2・II-2・III・IV	145
古楽合奏 I-1・II-1・III・IV	146
古楽合奏 I-2・II-2・III・IV	147
副科ピアノ I-1・II-1	148
副科ピアノ I-2・II-2	149
通奏低音奏法 I-1・II-1	150
通奏低音奏法 I-2・II-2	151
合唱 I-1・II-1・III・IV	152
合唱 I-2・II-2・III・IV	153
(演)室内楽 I	154
(演)室内楽 II	155
(演)室内楽 III	156
(演)室内楽 IV	157

専門教育 コース・専門別必修科目 (研究系)

音楽学概論-1	158
音楽学概論-2	159
音楽教育概論-1	160
音楽教育概論-2	161
民族音楽学1	162
民族音楽学2	163
文化創造概論-1	164
文化創造概論-2	165
ビジネス経営概論-1	166
ビジネス経営概論-2	167
特殊講義(西洋音楽史)-1	168
特殊講義(西洋音楽史)-2	169
特殊講義(日本音楽史)-1	170
特殊講義(日本音楽史)-2	171
特殊講義(音楽教育A)-1	172
特殊講義(音楽教育A)-2	173
特殊講義(文化創造論)-1	174
特殊講義(文化創造論)-2	175
特殊講義(ビジネス経営論)-1	176
特殊講義(ビジネス経営論)-2	177
演習(西洋音楽史)	178
演習(音楽教育A)	179
演習(文化創造マネジメント)	180
英語コミュニケーション I-1	181
英語コミュニケーション I-2	183
英語コミュニケーション II-1	185
英語コミュニケーション II-2	186
ファシリテーター概論-1	187
ファシリテーター概論-2	188
マネジメント概論-1	189
マネジメント概論-2	190
マネジメント実習-1	191
マネジメント実習-2	192
リコーダー合奏	193
歌唱伴奏演習	194

外国語必修科目

英語 I -1(コミュニケーション・スキルズ)A	196
英語 I -2(コミュニケーション・スキルズ)A	197
英語 I -1(コミュニケーション・スキルズ)B	198
英語 I -2(コミュニケーション・スキルズ)B	199
英語 I -1(コミュニケーション・スキルズ)C	200
英語 I -2(コミュニケーション・スキルズ)C	201
英語 I -1(総合)A	202
英語 I -2(総合)A	203
英語 I -1(総合)B	204
英語 I -2(総合)B	205
英語 I -1(総合)C	206
英語 I -2(総合)C	207
ドイツ語 I -1a・b	208
ドイツ語 I -2a・b	209
フランス語 I -1	210
フランス語 I -2	211
イタリア語 I -1	212
イタリア語 I -2	213

外国語選択科目

英語 II -1A	214
英語 II -2A	215
英語 II -1B	216
英語 II -2B	217
ドイツ語 II -1	218
ドイツ語 II -2	219
フランス語 II -1	220
フランス語 II -2	221
イタリア語 II -1	222
イタリア語 II -2	223

教養・基礎科目

哲学1	224
文学1	225
美学1	226
歴史学1	227
歴史学2	228
法学(日本国憲法)	229
社会学1	230
心理学1	231
音響理学2	232
日本美術史	233
ヨーロッパ芸術論	234
イギリス文化と芸術	235

専門教育 選択科目

ピアノ教育法	236
最新ピアノ指導者育成講義	237
室内楽 I・II・III	238
オーケストラ I -1・II -1・III・IV	239
オーケストラ I -2・II -2・III・IV	240
ウィンド・アンサンブル I -1・II -1・III・IV	241
ウィンド・アンサンブル I -2・II -2・III・IV	242
ピアノ伴奏法B	243
声楽特殊演習 I (オペラ)	244
声楽特殊演習 II (ドイツ歌曲・日本歌曲)-1	245
声楽特殊演習 II (ドイツ歌曲・日本歌曲)-2	246
声楽アンサンブル	247
副科器楽 I -1・II -1(ピアノ)	248
副科器楽 I -2・II -2(ピアノ)	249
副科器楽 I -1・II -1(弦楽器)	250
副科器楽 I -2・II -2(弦楽器)	251
副科器楽 I -1・II -1(管打楽器)	252
副科器楽 I -2・II -2(管打楽器)	253

副科器楽 I-1・II-1(オルガン・古楽)	254
副科器楽 I-2・II-2(オルガン・古楽)	255
副科声楽 I-1・II-1	256
副科声楽 I-2・II-2	257
生涯学習概論-1	258
生涯学習概論-2	259
ラテン語-1	260
ラテン語-2	261
社会教育実習1	262
社会教育実習2	263
古楽研究(鍵盤音楽史)-1	264
古楽研究(鍵盤音楽史)-2	265
古楽研究(古楽概説)-1	266
古楽研究(古楽概説)-2	267
ソルフェージュ：読譜と表現-1	268
ソルフェージュ：読譜と表現-2	269
ソルフェージュ：鍵盤和声-1	270
ソルフェージュ：鍵盤和声-2	271
ソルフェージュ：聴音-1	272
ソルフェージュ：聴音-2	273
(演)ソルフェージュ II-1A	274
(演)ソルフェージュ II-2A	275
(演)ソルフェージュ II-1B	276
(演)ソルフェージュ II-2B	277
(演)ソルフェージュ III	278
(演)ソルフェージュ IV	279
管弦楽法-1	280
管弦楽法-2	281
対位法-1	282
対位法-2	283
楽典：基礎	284
楽典：発展	285
(演)音楽理論上級1	286
(演)音楽理論上級2	287
指揮法a・b	288
作曲法a・b	289
演奏者のための心理学	290
自由科目	
体育実技-1	291
体育実技-2	292
音楽療法概論	293
教職課程(教科に関する科目)	
和楽器研究／日本の伝統的な歌唱研究a・b	294
教職課程(教職に関する専門科目)	
音楽科教育法 I	295
音楽科教育法 II	296
音楽科教育法 III	297
音楽科教育法 IV	298
教育原理	299
教職概論	300
教育社会学	301
教育心理学	302
特別支援教育	303
教育課程総論	304
道徳教育指導論	305
特別活動の指導法	306
教育方法論	307
生徒指導論	308
教育相談	309
教育実習(事前事後指導1単位を含む)	310
教職実践演習(中・高)	311
学校体験活動	312
音楽授業観察実習	313

必修科目

音楽文化研究-1	315
音楽文化研究-2	316
楽曲・演奏研究-1(器楽)	317
楽曲・演奏研究-2(器楽)	318
楽曲・演奏研究-1(声楽)	319
楽曲・演奏研究-2(声楽)	320
ヨーロッパ古典語研究-1	321
ヨーロッパ古典語研究-2	322
専門実技-1(ピアノ)	323
専門実技-2(ピアノ)	324
専門実技-1(弦楽器)	325
専門実技-2(弦楽器)	326
専門実技-1(管打楽器)	327
専門実技-2(管打楽器)	328
専門実技-1(オルガン・古楽)	329
専門実技-2(オルガン・古楽)	330
専門実技-1(声楽)	331
専門実技-2(声楽)	332
合奏-1	333
合奏-2	334
楽曲・演奏研究報告書-1	335
楽曲・演奏研究報告書-2	336
重唱-1	337
重唱-2	338

選択科目

音楽教育-1	339
音楽教育-2	340
音楽史-1	341
音楽史-2	342
応用音楽理論-1	343
応用音楽理論-2	344
古楽実習-1	345
古楽実習-2	346
副科器楽-1	347
副科器楽-2	348
副科声楽-1	349
副科声楽-2	350

上野学園大学 音楽学部 音楽学科

講義要旨

初年次プログラム

学部長 特任教授 柳澤美枝子

科目コード：CAR101

対象コース／専門／学年：全コース／全専門／1年次

形態：講義

単位数：2単位

概要 このプログラムは大学での学業習得をよりスムーズに図るための、新入生のための勉学および生活牽引の講座である。各回、学内施設の利用法、論文の書き方、建学の精神、大学の教育方針などの講義により、大学の学びをいかに将来に繋げていくかのキャリア形成ガイダンスに重点を置いている。

到達目標 大学という場を理解し、高校までの受動的な学習態度から能動的かつ自律的学習態度への変換を図る。このために必要な自己管理・時間管理能力を身につけ、大学で学ぶためのスタディスキルやアカデミックスキルを獲得する。また、将来にわたるライフ・プランの中での大学生活を見通す。

授業計画 未定の部分は後日発表する。

第1回	学内PCの起動・操作方法	事前 パソコンを開き、基本的な用語を予習しておく 事後 スムーズに文書が作成できるよう練習する	100分 180分
第2回	楽器の取り扱い方／楽器の借り方・返し方 図書館の利用方法 学内の楽器の取り扱いに関する諸注意。楽器室からの貸出方法、図書館の利用について知る	事前 備品、楽器室、図書館について学生のためのハンドブックを参照して理解しておく 事後 実際にスムーズな利用が可能になるよう実践する	140分 140分
第3回	3つのポリシー／カリキュラムマップ・カリキュラムツリー、ナンバリング 自分の時間割を作る 卒業までに修得すべき科目や必要単位数を知り、履修計画を立てた上で一年次の時間割を作成する	事前 学生のためのハンドブック、ならびに履修計画表をよく読み、案を作成しておく 事後 過不足なく必要単位が取得できるよう時間割を精査する	140分 140分
第4回	古楽入門 古楽器、歴史的情報に基づいた演奏実践等古楽の様々な側面を紹介し、その今日的意義を考える。	事前 古楽に関する情報を集め、それを批判的に考察して自分なりの考え方を整理する。 事後 様々な演奏を聞きそれぞれの特徴を比較する。	180分 100分
第5回	キャリア体験談 卒業後留学をし、現在演奏活動をしている先輩の体験談を聞き、自分のキャリアプランニングを考える	事前 事前に配布する資料をよく読む 事後 自分の目標を再確認する	100分 180分
第6回	ボランティア入門 音楽の力によっていかに地域に密着した社会貢献ができるか考える。	事前 学生のためのハンドブックの課外活動、ボランティア活動支援の欄を参照する 事後 自らの勉学生活の一部に、社会との関わりを意識し、奉仕の精神を培う	100分 180分
第7回	【1】学長招待新入生歓迎会 本学の伝統行事で昼食の茶話会。 新入生が一同に会し、将来の抱負、勉学意欲などを語り合い交換する。 【2】初年次ゼミ① ディスカッション～充実した大学生活を送るために～	事前 【1】招待される目的、意義を考えて、会に臨むこと 【2】ホームページを読み込み、大学について深く知る 事後 【1】各自の大学生活への期待を確認する 【2】ディスカッションした内容を振り返り、自分の考えをレポートにまとめる	100分 180分
第8回	キャリア・プラン① 「音楽とともに働く」を考える。	事前 事前に配布する資料をよく読む 事後 自分の進路についてもう一度よく考える。	100分 180分
第9回	キャリア・プラン② 自分の成長をイメージする。	事前 10年後のキャリアについて考え、自分が目指す職業について具体的に調べる 事後 授業内で作成するワークシートを完成させる	100分 180分
第10回	ライフ・プラン①（確井俊樹客員教授） 講師の確井氏は大卒後、留学。以後、国内外で活躍。音楽家として演奏家に留まらず文化活動のクリエイターとして講師の発想力、行動力の魅力の源点、ヒントを聴く。	事前 自分の将来プランを各自が思い描いてみる 事後 プランを具体化させるために必要なスキルに焦点を定める	140分 140分
第11回	ライフ・プラン②（年金講座） 学生も今日、選挙権を有する一社会人としての自覚のもとに、自分と社会との関わり方を年金を通して学び理解を深める	事前 学生にとっての年金制度について、イメージしてみる 事後 学生から社会人になっても安定した生活設計を描けるよう意識を高める	135分 135分
第12回	論文・レポートの書き方 大学において必須である論文やレポートを書くにあたっての基本的留意事項を学ぶ	事前 学生のためのハンドブックの該当項を読み理解する。レポート用紙、筆記用具を用意する 事後 再度確認し、本学の一人としての自覚を持つ	100分 180分
第13回	自校史 本学の成立、歴史を知る	事前 学生のためのハンドブックの「沿革」を読む 事後 建学の精神を知り、本学の一人としての自覚を持つ	140分 140分
第14回	初年次ゼミ② 前期のディスカッションを発展させ身近なテーマを基にお互いを理解し合う	事前 ディスカッションしたいテーマを考える 事後 ディスカッションした内容を振り返り、自分の考えをレポートにまとめる	135分 135分
第15回	言語表現（建学の精神） 本学建学の精神「自覚」について深く考え、自らの言葉で表現する	事前 事前レポートを書く 事後 面談で自分の言葉で表現し、対話を通して建学の精神を理解する	140分 140分

フィードバック 講義後課すレポートにより文章力を養い、講義内容がより有機的に蓄積されることが期待される。

成績評価 それぞれの課題に対する取り組みと成果を見て行う。

テキスト 学生のためのハンドブック、履修計画表、その他、必要に応じ配布。

オフィスアワー 各授業時間前後にて質問を受け付ける。

備考 入学直後ガイダンス時期から不定期に実施されるため日程を掲示板等で確認すること。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・目的発働能力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>				

対象コース／専門／学年：全コース／全専門／1 年次

形態：講義

単位数：2 単位

概要 パソコンによる情報処理操作を学ぶ授業である。パソコンの機能を理解し、操作方法を習得、文書の作成や情報の検索や通信の技量を身につけ、今後の生活や職務に役立てる。

到達目標 高度情報化社会の環境を理解し、パソコンの機能を理解する。Word、Excel、Powerpoint などの文書作成ソフトの操作演習を通じて、必要な情報処理操作を習得し、パソコンを適切に利活用できるようになる。

授業計画

第 1 回	WindowsOS の理解。パソコンの起動と終了、キーボードやマウスの操作。	事前 講義要旨、テキスト全体を読む。 事後 テキスト該当箇所の復習。	135 分 135 分
第 2 回	ファイルとフォルダー（ディレクトリ）の理解。ファイル操作、管理方法の習得。	事前 テキスト該当箇所、前回の講義内容確認。 事後 テキスト該当箇所の復習。	135 分 135 分
第 3 回	Word 基本理解。Word の起動と文章の入力。	事前 テキスト該当箇所、前回の講義内容確認。 事後 テキスト該当箇所の復習。	135 分 135 分
第 4 回	文章の作成。事例としてチラシの作成。	事前 テキスト該当箇所、前回の講義内容確認。 事後 テキスト該当箇所の復習。	135 分 135 分
第 5 回	文章の作成その 2。レポートに必要な機能。	事前 テキスト該当箇所、前回の講義内容確認。 事後 テキスト該当箇所の復習。	135 分 135 分
第 6 回	文章の作成まとめ。	事前 テキスト該当箇所、前回の講義内容確認。 事後 テキスト該当箇所の復習。	135 分 135 分
第 7 回	Excel 基本理解。Excel の起動とデータのセル入力。	事前 テキスト該当箇所、前回の講義内容確認。 事後 テキスト該当箇所の復習。	135 分 135 分
第 8 回	表の作成。事例としての表の作成。	事前 テキスト該当箇所、前回の講義内容確認。 事後 テキスト該当箇所の復習。	135 分 135 分
第 9 回	表の作成その 2。表の印刷と計算処理。	事前 テキスト該当箇所、前回の講義内容確認。 事後 テキスト該当箇所の復習。	135 分 135 分
第 10 回	グラフの作成。事例としてのグラフの作成・編集。	事前 テキスト該当箇所の確認。 事後 テキスト該当箇所の復習。	135 分 135 分
第 11 回	PowerPoint の基本理解。プレゼンテーションの基本と PowerPoint の起動。	事前 テキスト該当箇所、前回の講義内容確認。 事後 テキスト該当箇所の復習。	135 分 135 分
第 12 回	スライドの作成。事例としてのスライド資料作成。	事前 テキスト該当箇所、前回の講義内容確認。 事後 テキスト該当箇所の復習。	135 分 135 分
第 13 回	セキュリティと情報モラル。セキュリティの意味と防止。	事前 テキスト該当箇所、前回の講義内容確認。 事後 テキスト該当箇所の復習。	135 分 135 分
第 14 回	セキュリティと情報モラルその 2。 情報社会、著作権、個人情報保護、ルール・マナーの理解。	事前 テキスト該当箇所の確認。 事後 テキスト該当箇所の復習。	135 分 135 分
第 15 回	全体のまとめ、学習内容の総復習。	事前 これまでの授業内容の確認。 事後 授業内容の復習。	135 分 135 分

フィードバック 必要時、個人指導を行い提出課題等について、コメントを付けフィードバックする。

成績評価 定期試験 60%、課題等 20%、授業態度 20%

テキスト イチからしっかり学ぶ！Office 基礎と情報モラル 2016 バージョン（noa 出版）
その他、必要に応じてプリントなどを配布する。

オフィスアワー 授業終了後教室にて、もしくは E メールにて相談の上、対応する。

備考 事前事後学習の際には、座学に加えパソコン実機による操作を行うことを推奨する。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>

情報リテラシーⅡa・b

非常勤講師 齋藤健

科目コード：INF201

対象コース／専門／学年：全コース／全専門／2 年次以降

形態：講義	単位数：2 単位
概要	パソコンによる高度な情報処理操作を学ぶ授業である。情報リテラシーⅠの履修を前提として、さらなる応用的なパソコンの操作方法を習得、より高度な文書の作成や情報の検索や通信の技量を身につけ、今後の生活や職務に役立てる。

到達目標	高度なパソコンの機能を理解する。Word、Excel、PowerPoint などの文書作成ソフトの応用レベルの操作演習を通じて、より利便性の高い高度な情報処理操作を習得し、パソコンを自由かつ適切に活用できるようになる。
------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------

授業計画		
第 1 回	文章の構成・体裁、表・図グラフの理解 文章の要素と構成、各種文書の体裁、図解とグラフ	事前 シラバス、テキスト全体を読む。 事後 テキスト該当箇所の復習。 135 分
第 2 回	Word 応用 文書のフォーマットの要点の理解	事前 テキスト該当箇所の確認。 事後 テキスト該当箇所の復習。 135 分
第 3 回	Word 応用その 2 表の作成、分かりやすくする工夫	事前 テキスト該当箇所、前回の作成内容確認。 事後 テキスト該当箇所の復習。 135 分
第 4 回	Word 応用その 3 図の挿入、活用方法	事前 テキスト該当箇所、前回の作成内容確認。 事後 テキスト該当箇所の復習。 135 分
第 5 回	Excel 応用 書式の設定、印刷の設定、見やすくする編集方法	事前 テキスト該当箇所の確認。 事後 テキスト該当箇所の復習。 135 分
第 6 回	Excel 応用その 2 代表的な関数の理解、活用方法	事前 テキスト該当箇所、前回の作成内容確認。 事後 テキスト該当箇所の復習。 135 分
第 7 回	Excel 応用その 3 グラフの作成と分かりやすくする修飾	事前 テキスト該当箇所、前回の作成内容確認。 事後 テキスト該当箇所の復習。 135 分
第 8 回	Excel 応用その 4 データベースの活用、データの操作方法	事前 テキスト該当箇所、前回の作成内容確認。 事後 テキスト該当箇所の復習。 135 分
第 9 回	Excel 応用その 5 様々なデータ集計方法の理解と操作	事前 テキスト該当箇所、前回の作成内容確認。 事後 テキスト該当箇所の復習。 135 分
第 10 回	Excel 応用その 6 処理の高速化のための工夫	事前 テキスト該当箇所、前回の作成内容確認。 事後 テキスト該当箇所の復習。 135 分
第 11 回	Word と Excel の活用 特徴を生かした併用による資料作成、データ連携。	事前 テキスト該当箇所の確認。 事後 テキスト該当箇所の復習。 135 分
第 12 回	PowerPoint 応用 プレゼンテーションの準備とやり方	事前 テキスト該当箇所の確認。 事後 テキスト該当箇所の復習。 135 分
第 13 回	PowerPoint 応用その 2 見やすいスライドの作成方法、図や票の挿入・編集	事前 テキスト該当箇所、前回の作成内容確認。 事後 テキスト該当箇所の復習。 135 分
第 14 回	PowerPoint 応用その 3 スライドの効果的な修飾、各種有効な表現技法	事前 テキスト該当箇所、前回の作成内容確認。 事後 テキスト該当箇所の復習。 135 分
第 15 回	PowerPoint 応用その 4 スライドショーによるプレゼンの実施	事前 テキスト該当箇所、前回の作成内容確認。 事後 テキスト該当箇所の復習。 135 分

フィードバック 提出課題等について、コメントを付けフィードバックする。

成績評価 定期試験 60%、課題等 20%、授業態度 20%

テキスト 文書作成・プレゼンに役立つ！実践ドリルで学ぶ Office 活用術 2016 バージョン（noa 出版）
その他、必要に応じてプリントなどを配布する。

オフィスアワー 授業終了後教室にて、もしくは E メールにて相談の上、対応する。

備考 事前事後学習の際には、座学に加えパソコン実機による操作を行うことを推奨する。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>

西洋音楽史-1a

教授 上尾信也

科目コード : MUS101

対象コース/専門/学年 : GLA コース/全専門/1 年次

形態 : 講義

単位数 : 2 単位

概要 音楽史を前近代（19 世紀以前）と近代以降（19 世紀以降）に区分し、長く続く中世と長く続く近代においての音楽史の前近代を扱う。音楽の在り方、音楽家の在り方と意識、それによる作品概念と技法、楽器の変化を踏まえつつ、中世近代ともに大小のリノベーションを繰り返し緩やかにまた画期的に変容する姿を、英語のテキストと音源および楽譜などの資料に従って概観していく。

到達目標 英語（原語）による音楽用語に慣れ、それぞれの時代の音楽を聴くとともに、音楽の背景にある諸芸術や歴史的な脈も合わせて理解していく。

授業計画

【AL】

回数	授業内容	事前	事後	時間
第 1 回	Introduction : periods and keywords	音楽史年表を見ておく	配布したテキストで第 1 回分を復習する	80 分 200 分
第 2 回	Ancient and the Medieval European Music	Jenkins, Discover Early Music の第 2 回目分を予習	授業で紹介された音源を鑑賞しつつ復習する	110 分 170 分
第 3 回	The Church and Music	Jenkins, Discover Early Music の第 3 回目分を予習	授業で紹介された音源を鑑賞しつつ復習する	110 分 170 分
第 4 回	Secular Monophonic Music : Troubadours and Trouvères	Jenkins, Discover Early Music の第 4 回目分を予習	授業で紹介された音源を鑑賞しつつ復習する	110 分 170 分
第 5 回	Notation and Instruments	Jenkins, Discover Early Music の第 5 回目分を予習	授業で紹介された音源を鑑賞しつつ復習する	110 分 170 分
第 6 回	Towards the Renaissance: Ars nova and the 15 th century	Jenkins, Discover Early Music の第 6 回目分を予習	授業で紹介された音源を鑑賞しつつ復習する	110 分 170 分
第 7 回	What Was the Renaissance?	Jenkins, Discover Early Music の第 7 回目分を予習	授業で紹介された音源を鑑賞しつつ復習する	110 分 170 分
第 8 回	The Renaissance Madrigal : Music in Italy	Jenkins, Discover Early Music の第 8 回目分を予習	授業で紹介された音源を鑑賞しつつ復習する	110 分 170 分
第 9 回	Europe Divided: Germany, France, England under the Reformation Europe United	Jenkins, Discover Early Music の第 9 回目分を予習	授業で紹介された音源を鑑賞しつつ復習する	110 分 170 分
第 10 回	Music of the "Baroque Era": An Introduction - Enter the Players The Beginnings	Unger-Hamilton, Discover Music of the Baroque Era の第 10 回目分を予習	授業で紹介された音源を鑑賞しつつ復習する	110 分 170 分
第 11 回	The Fashion Spreads: Different Styles for Different Lands - Italy, the Netherlands, Germany, Austria, Spain, England and France	Unger-Hamilton, Discover Music of the Baroque Era の第 11 回目分を予習	授業で紹介された音源を鑑賞しつつ復習する	110 分 170 分
第 12 回	Full Flower: High Baroque	Unger-Hamilton, Discover Music of the Baroque Era の第 12 回目分を予習	授業で紹介された音源を鑑賞しつつ復習する	110 分 170 分
第 13 回	Music of the Classical Era: What Was the "Classical" Era? - Nature, Reason, and Sensitive Style	Johnson, Discover Music of the Classic の第 13 回目分を予習	授業で紹介された音源を鑑賞しつつ復習する	110 分 170 分
第 14 回	New Means to New End The Emergence of the Orchestra: Symphony	Johnson, Discover Music of the Classic の第 14 回目分を予習	授業で紹介された音源を鑑賞しつつ復習する	110 分 170 分
第 15 回	Old and New: Conflict or Co-existence? : Sonata, Concerto, Quartet	Johnson, Discover Music of the Classic の第 15 回目分を予習	授業で紹介された音源を鑑賞しつつ復習する	110 分 170 分

フィードバック 各回のテキスト訳と、次回授業後にそれを元に質疑する

成績評価 毎回のテキスト訳（45%）と期末課題レポート（55%）

テキスト (テキストは配布) : 参考文献の日本語版も各自参考にとすること。
 Jenkins, Lucian, Discover Early Music, 2007
 Unger-Hamilton, Clive, Discover Music of the Baroque Era, 2007
 Johnson, Stephan, Discover Music of the Classic Era, 2007
 McCleery, David, Discover Music of the Romantic Era, 2007
 McCleery, David, Discover Music of the 20th Century, 2008
 New Grove Dictionary of Music and Musicians, 2nd edition 他

オフィスアワー 授業時間後

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

西洋音楽史-2a

教授 上尾信也

科目コード : MUS102

対象コース/専門/学年 : GLA コース/全専門/1 年次

形態 : 講義

単位数 : 2 単位

概要	音楽史を前近代（19 世紀以前）と近代以降（19 世紀以降）に区分し、長く続く中世と長く続く近代における音楽史の近代以降を扱う。音楽の在り方、音楽家の在り方と意識、それによる作品概念と技法、楽器の変化を踏まえつつ、中世近代ともに大小のリノベーションを繰り返し緩やかにまた画期的に変容する姿を、英語のテキストと音源および楽譜などの資料に従って概観していく。
到達目標	英語（原語）による音楽用語に慣れ、それぞれの時代の音楽を聴くとともに、音楽の背景にある諸芸術や歴史的な脈も合わせて理解していく。

授業計画

【AL】

回数	授業内容	事前	事後	時間
第 1 回	Revolution in the Opera House Mass Movements and Secret Societies	Johnson, Discover Music of the Classic の第 1 回目分を予習	授業で紹介された音源を鑑賞しつつ復習する	80 分 200 分
第 2 回	Surprises and Subversion: Haydn and W.A. Mozart	Johnson, Discover Music of the Classic の第 2 回目分を予習	授業で紹介された音源を鑑賞しつつ復習する	110 分 170 分
第 3 回	Democracy Moves Centre Stage	Johnson, Discover Music of the Classic の第 3 回目分を予習	授業で紹介された音源を鑑賞しつつ復習する	110 分 170 分
第 4 回	The First Romantics?: Mozart to Beethoven	Johnson, Discover Music of the Classic の第 4 回目分を予習	授業で紹介された音源を鑑賞しつつ復習する	110 分 170 分
第 5 回	Music of the Romantic Era: The Dawn and the Musical Revolution	McCleery, Discover Music of the Romantic Era の第 5 回目分を予習	授業で紹介された音源を鑑賞しつつ復習する	110 分 170 分
第 6 回	A Radical New Musical Language	McCleery, Discover Music of the Romantic Era の第 6 回目分を予習	授業で紹介された音源を鑑賞しつつ復習する	110 分 170 分
第 7 回	The Classical Romantics	McCleery, Discover Music of the Romantic Era の第 7 回目分を予習	授業で紹介された音源を鑑賞しつつ復習する	110 分 170 分
第 8 回	Opera in the Nineteenth Century	McCleery, Discover Music of the Romantic Era の第 8 回目分を予習	授業で紹介された音源を鑑賞しつつ復習する	110 分 170 分
第 9 回	The Nationalists	McCleery, Discover Music of the Romantic Era の第 9 回目分を予習	授業で紹介された音源を鑑賞しつつ復習する	110 分 170 分
第 10 回	Moving West... The Epic Austrian Symphonists	McCleery, Discover Music of the Romantic Era の第 10 回目分を予習	授業で紹介された音源を鑑賞しつつ復習する	110 分 170 分
第 11 回	The End of Romantics	McCleery, Discover Music of the Romantic Era の第 11 回目分を予習	授業で紹介された音源を鑑賞しつつ復習する	110 分 170 分
第 12 回	Classical Music of the 20th Century: Introduction	McCleery, Discover Music of the 20th Century の第 12 回目分を予習	授業で紹介された音源を鑑賞しつつ復習する	110 分 170 分
第 13 回	Post-Romanticism	McCleery, Discover Music of the 20th Century の第 13 回目分を予習	授業で紹介された音源を鑑賞しつつ復習する	110 分 170 分
第 14 回	Serialism and Twelve-Note Music	McCleery, Discover Music of the 20th Century の第 14 回目分を予習	授業で紹介された音源を鑑賞しつつ復習する	110 分 170 分
第 15 回	Neoclassicism	McCleery, Discover Music of the 20th Century の第 15 回目分を予習	授業で紹介された音源を鑑賞しつつ復習する	110 分 170 分

フィードバック 各回についてテキストを訳し、次回授業後にそれを元に質疑する

成績評価 毎回のテキスト訳（45%）と期末課題レポート（55%）

テキスト (テキストは配布) : 参考文献の日本語版も各自参考にとすること。
 Jenkins, Lucian, Discover Early Music, 2007
 Unger-Hamilton, Clive, Discover Music of the Baroque Era, 2007
 Johnson, Stephan, Discover Music of the Classic Era, 2007
 McCleery, David, Discover Music of the Romantic Era, 2007
 McCleery, David, Discover Music of the 20th Century, 2008
 New Grove Dictionary of Music and Musicians, 2nd edition 他

オフィスアワー 授業時間後

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

西洋音楽史-1b

非常勤講師 長岡英

科目コード：MUS101

対象コース/専門/学年： 器楽・声楽・演奏家コース/全専門/1～2 年次

形態：講義

単位数：2 単位

概要 中世、ルネサンスからバロック、古典派時代までの音楽を対象とし、視聴覚資料を利用しながら西洋音楽についての基本的な知識を身につけさせる。

- 到達目標
1. 各時代の代表的な作曲家や作品、様式の特徴を理解する。
 2. 宗教や政治など他の領域とも関連させながら音楽史の流れを把握する。
 3. 自分が聴いたり演奏したりする作品を、より多角的に理解できるようにする。

授業計画

【AL】

第1回	音楽史概説	事前 教科書 pp. 82-86 を読みまとめる。 事後 ノートをまとめ、音楽史時代区分について理解する。	130 分 140 分
第2回	中世① グレゴリオ聖歌	事前 教科書 pp. 87-91 を読みまとめる。 事後 ノートをまとめ、グレゴリオ聖歌について理解する。	130 分 140 分
第3回	中世② 単声から多声へ	事前 教科書 pp. 92-96 を読みまとめる。 事後 ノートをまとめ、単声から多声について理解する。	130 分 140 分
第4回	ルネサンス① ミサ曲	事前 教科書 pp. 97-101 を読みまとめる。 事後 ノートをまとめ、ミサ曲について理解する。	130 分 140 分
第5回	ルネサンス② オペラの誕生	事前 教科書 pp. 106-110 を読みまとめる。 事後 ノートをまとめ、オペラの誕生について理解する。	130 分 140 分
第6回	バロック① 器楽の成立	事前 教科書 pp. 111-115 を読みまとめる。 事後 ノートをまとめ、器楽の成立について理解する。	130 分 140 分
第7回	バロック② バッハの器楽曲	事前 教科書 pp. 116-120 を読みまとめる。 事後 ノートをまとめ、バッハの器楽曲について理解する。	130 分 140 分
第8回	バロック③ バッハの声楽曲	事前 教科書 pp. 121-125 を読みまとめる。 事後 ノートをまとめ、バッハの声楽曲について理解する。	130 分 140 分
第9回	バロック④ ヘンデル	事前 教科書 pp. 126-130 を読みまとめる。 事後 ノートをまとめ、ヘンデルについて理解する。	130 分 140 分
第10回	前古典派	事前 教科書 pp. 10-14 を読みまとめる。 事後 ノートをまとめ、前古典派について理解する。	130 分 140 分
第11回	古典派① ハイドン	事前 教科書 pp. 15-19 を読みまとめる。 事後 ノートをまとめ、ハイドンについて理解する。	130 分 140 分
第12回	古典派② モーツァルト	事前 教科書 pp. 20-24 を読みまとめる。 事後 ノートをまとめ、モーツァルトについて理解する。	130 分 140 分
第13回	古典派③ ベートーヴェン（ウィーン中期まで）	事前 教科書 pp. 25-29 を読みまとめる。 事後 ノートをまとめ、ウィーン中期までのベートーヴェンについて理解する。	130 分 140 分
第14回	古典派④ ベートーヴェン（ウィーン後期）	事前 教科書 pp. 30-31 を読みまとめる。 事後 ノートをまとめ、ウィーン後期のベートーヴェンについて理解する。	130 分 140 分
第15回	前期のまとめ	事前 前期のノートを読みまとめる。 事後 ノートをまとめ、中世から古典派について理解する。	130 分 140 分

フィードバック 授業内に行う小テストや小レポートは、後日返却および解説を行いフィードバックする。

成績評価 授業の内容の理解度を測る定期試験（約 80%）、小テストや小レポートに授業中の態度を加味して（約 20%）総合的に評価する。

テキスト 長岡英『オケ奏者なら知っておきたいクラシックの常識』（アルテスパブリッシング）

参考資料：
片桐功ほか著『はじめての音楽史(決定版)』（音楽之友社）

オフィスアワー 原則として授業終了後教室にて。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>					

西洋音楽史-2b

非常勤講師 長岡英

科目コード：MUS102

対象コース/専門/学年： 器楽・声楽・演奏家コース/全専門/1～2 年次

形態：講義

単位数：2 単位

概要 ロマン派以降の音楽を対象とし、視聴覚資料を利用しながら西洋音楽についての基本的な知識を身につけさせる。

- 到達目標
1. 各時代の代表的な作曲家や作品、様式の特徴を理解する。
 2. 宗教や政治など他の領域とも関連させながら音楽史の流れを把握する。
 3. 自分が聴いたり演奏したりする作品を、より多角的に理解できるようにする。

授業計画

【AL】

回数	内容	事前	事後	ポイント
第1回	古典派⑤ ピリオド楽器について	教科書 pp. 36-40 を読みまとめる。	ノートをまとめ、ピリオド楽器について理解する。	130 分 140 分
第2回	ロマン派① シューベルト	教科書 pp. 41-45 を読みまとめる。	ノートをまとめ、シューベルトについて理解する。	130 分 140 分
第3回	ロマン派② メンデルスゾーン	教科書 pp. 46-50 を読みまとめる。	ノートをまとめ、メンデルスゾーンについて理解する。	130 分 140 分
第4回	ロマン派③ シューマン	教科書 pp. 51-55 を読みまとめる。	ノートをまとめ、シューマンについて理解する。	130 分 140 分
第5回	ロマン派④ ベルリオーズ	教科書 pp. 56-60 を読みまとめる。	ノートをまとめ、ベルリオーズについて理解する。	130 分 140 分
第6回	ロマン派⑤ ヴァーグナー	教科書 pp. 61-65 を読みまとめる。	ノートをまとめ、ヴァーグナーについて理解する。	130 分 140 分
第7回	ロマン派⑥ ヴェルディ	教科書 pp. 66-70 を読みまとめる。	ノートをまとめ、ヴェルディについて理解する。	130 分 140 分
第8回	ロマン派⑦ チェコの国民楽派	教科書 pp. 71-75 を読みまとめる。	ノートをまとめ、チェコの国民楽派について理解する。	130 分 140 分
第9回	ロマン派⑧ ロシアの国民楽派	教科書 pp. 76-78 を読みまとめる。	ノートをまとめ、ロシアの国民楽派について理解する。	130 分 140 分
第10回	ロマン派⑨ サン＝サーンス、フランク	教科書 pp. 138-142 を読みまとめる。	ノートをまとめ、19 世紀フランス音楽について理解する。	130 分 140 分
第11回	後期ロマン派	教科書 pp. 143-147 を読みまとめる。	ノートをまとめ、後期ロマン派について理解する。	130 分 140 分
第12回	印象派	教科書 pp. 148-152 を読みまとめる。	ノートをまとめ、印象派について理解する。	130 分 140 分
第13回	20 世紀音楽① ストラヴィンスキー	教科書 pp. 153-157 を読みまとめる。	ノートをまとめ、ストラヴィンスキーについて理解する。	130 分 140 分
第14回	20 世紀音楽② 新ウィーン楽派	教科書 pp. 158-162 を読みまとめる。	ノートをまとめ、新ウィーン楽派について理解する。	130 分 140 分
第15回	後期のまとめ	教科書 後期のノートを読みまとめる。	ノートをまとめ、ロマン派から 20 世紀音楽について理解する。	130 分 140 分

フィードバック 授業内に行う小テストや小レポートは、後日返却および解説を行いフィードバックする。

成績評価 授業の内容の理解度を測る定期試験（約 80%）、小テストや小レポートに授業中の態度を加味して（約 20%）総合的に評価する。

テキスト 長岡英『オケ奏者なら知っておきたいクラシックの常識』（アルテスパブリッシング）

参考資料：
片桐功ほか著『はじめての音楽史(決定版)』（音楽之友社）

オフィスアワー 原則として授業終了後教室にて。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>					

日本音楽史-1

※教育職員免許状取得に関わる科目

講師 櫻井利佳

科目コード：MUS103

対象コース/専門/学年：全コース/全専門/1~2年次

形態：講義 単位数：2単位

概要 日本に育ち、あるいは生活しながらも、日本の音楽史について何ら知るところのない学生が、本学には多い。しかし社会に出て活躍する際に、日本人としての知識教養は不可欠である。講義では、有史以来明治維新まで、日本において如何に音楽が社会の中心的位置を占めてきたか、にも関わらず何故現代は日本の音楽が教育の場から失われたか、歴史研究の立場から考える。一回は博物館美術館見学レポートを含む。毎回小課題あり。

到達目標 実証的日本音楽史を、自覚的に正しく認識する。その上で、各回のテーマについて問題意識を持ち、研究の現状と課題を知り、それらについて自身の言葉で適切に表現できる。適切な資料を利用して、日本音楽史について適切な調査を行うことができる。日本文化の重層性や多様性、文化的特徴を知り、さまざまな場面と知識を結びつけることができる。

授業計画

【AL】		
第1回	日本音楽史の問題点(1) 音楽科教育における伊沢修二の功罪 日本音楽史とは/歴史学としての学問分野/時代区分の解説	事前 シラバスを熟読し、講義内容を理解し、質問事項をまとめておく。 70分 事後 時代区分を習得する。伊沢修二についての参考文献を読み理解を補強する。 200分
第2回	日本音楽史の問題点(2) 日本音楽史は民族音楽学の一部ではないこと-田辺尚雄の功罪	事前 『日本音楽教育事典』『音楽史学』の「定義と概観」「日本の音楽史学」項を読む。 90分 事後 講義で紹介した史料の名称、所在、意義をまとめ、参考文献リストを作る。 180分
第3回	日本音楽史の問題点(3) 西洋近代五線譜は万能か?—音楽的要素の多様性に気付く	事前 『日本音楽教育事典』『楽譜』の項を読み、質問事項をまとめておく。 90分 事後 日本の楽譜の特徴を、実物を用いて分析し、結果を文章でまとめる。 180分
第4回	日本音楽史の問題点(4) 第二次世界大戦後の音楽科教育再出発の問題—トレーナー発言と諸井三郎	事前 『日本音楽教育事典』『音楽教育思想』の項を読み、質問事項をまとめておく。 90分 事後 福島和夫「戦後音楽教育の一分岐点」を読み、自身の考えをまとめる。 180分
第5回	日本音楽史の問題点(5) 世界における日本音楽史の挑戦—福島和夫と前田昭雄	事前 福島和夫「日本音楽史研究の半世紀」を読み、問題点をまとめておく。 90分 事後 前田昭雄「音楽史の概念東と西」というテーマについての考察への意見を書く。 180分
第6回	近世(1) 能が謡えなければ半人前—庶民の音楽教育としての寺子屋の小説	事前 『日本音楽教育事典』『江戸時代』の項を読み、質問事項をまとめておく。 90分 事後 同項の参考文献の中から興味を持ったものを読み、要点をまとめる。 180分
第7回	近世(2) 近世文化史概説—上野・浅草は江戸のスーパーstarを産んだ	事前 江戸時代のスーパーstarとはどのような人か、各分野の実例を調べる。 90分 事後 近世の上野・浅草が発信した諸芸能を調査する。 180分
第8回	近世(3) 現代の娯楽の出発点としての江戸文化	事前 現代の娯楽と近世の娯楽について調査し、共通点・相違点をまとめておく。 90分 事後 貴族の娯楽、武士の娯楽、庶民の娯楽について調査する。 180分
第9回	近世(4) 三味線伝来の衝撃	事前 劇場音楽、お座敷音楽、遊楽の場における三味線音楽を調べる。 90分 事後 『日本音楽大事典』『三味線音楽』の項を読み「研究史」の文献の一つ読む。 180分
第10回	近世(5) 浄瑠璃(文楽)と文運東漸	事前 『日本音楽大事典』『浄瑠璃』の項を読み、質問事項をまとめておく。 90分 事後 浄瑠璃の歴史的変遷を整理し、代表曲を調べ視聴する。 180分
第11回	近世(6) 歌舞伎—あらゆる江戸文化の受信源・発信源	事前 『日本音楽大事典』『歌舞伎音楽』の項を読み、質問事項をまとめておく。 90分 事後 同項の「資料と参考文献」を利用して、音楽史上の歌舞伎の役割をまとめる。 180分
第12回	【AL】(1) 日本音楽史の調査対象を学ぶ(グループワークを含む)	事前 福島和夫「音楽史学の方法論」を読み、質問事項をまとめておく。 90分 事後 前田昭雄「音楽史学としての日本音楽研究」を読み、自身の考えをまとめる。 180分
第13回	【AL】(2) 実地見学—江戸東京博物館で江戸文化を知る(グループワークを含む)	事前 見学準備を行う。見学ポイントや施設情報など。 90分 事後 見学した結果を図や文章にしてまとめる。 180分
第14回	【AL】(3) 調査結果をレポートにする—レポート執筆の基礎を学ぶ	事前 レポートの書き方について調べ、質問事項をまとめておく。 90分 事後 用紙の使い方、体裁、注、参考文献の書き方、禁則などを身につける。 180分
第15回	前期総括—講義内容及び自主調査で何を学び、何を考えたかを自分の言葉で表現する。	事前 ノートを見直し、前期の講義および自修内容を復習し、質問事項をまとめておく。 90分 事後 講義を踏まえ、自身の課題を設定し、レポート課題に取り組む。 180分

フィードバック 各回の終わりにB6判用紙に理解内容(質問事項を含む)をまとめて提出し、各時代ごとに小テストを行う。記述内容および小テストについて添削・採点を行うことで学修成果のフィードバックとする。

成績評価 期末論述テスト40%、小テストおよび各回のまとめ30%、小レポート15%、講義への積極的参加・発言15%
期末論述テストおよび小テストは講義内容の正確な理解を確認する。理解内容に対する受講者自身の考えを適切に述べるものを高く評価する。各回のまとめは、受講者自身の問題意識に照らして理解内容を簡潔かつ性格に記述するものを評価する。小レポートは博物館美術館見学を踏まえ、意欲的な調査結果の報告を評価する。講義時は教員の質問に対して自ら考え、積極的に発言する姿勢を評価する。

テキスト 講義時にプリントを配布する。

オフィスアワー 水曜 12:40-14:10 2階 日本音楽史研究所

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				

日本音楽史-2

※教育職員免許状取得に関わる科目

講師 櫻井利佳

科目コード：MUS104

対象コース/専門/学年：全コース/全専門/1~2年次

形態：講義	単位数：2単位
概要	日本に育ち、あるいは生活しながら、日本の音楽について何ら知るところのない学生が、本学には多い。しかし社会に出て活躍する際に、日本人としての知識教養は不可欠である。講義では、有史以来明治維新まで、日本において如何に音楽が社会の中心的位置を占めてきたか、にも関わらず何故日本の音楽が教育の場から失われたか、歴史研究の立場から考える。一回は博物館美術館見学レポートを含む。毎回小課題あり。

到達目標 実証的日本音楽史を、自覚的に正しく認識する。その上で、各回のテーマについて問題意識を持ち、研究の現状と課題を知り、それらについて自身の言葉で適切に表現できる。適切な資料を利用して、日本音楽史について適切な調査を行うことができる。日本文化の重層性や多様性、文化的特徴を知り、さまざまな場面と知識を結びつけることができる。

授業計画		【AL】	
第1回	中世(1) 中世文化史概説—戦乱と武士と寺/四大宗教と音楽	事前 『日本音楽教育事典』『平安・鎌倉時代』の項を読み、質問事項をまとめておく。	90分
		事後 四大宗教の音楽の特徴について調査し、宗教における音楽の役割を考察する。	180分
第2回	中世(2) 寺は文化の発信地—興福寺と日本最大の音楽一族/浄土教と芸能/禅宗と諸道	事前 『仏教文化事典』『唱導と語り物』『法会と芸能』の項を読み、質問事項をまとめる。	90分
		事後 仏教と芸能との関係の多様性、影響力、興福寺楽人の大規模組織について調査する。	180分
第3回	中世(3) 仏教儀式の音楽と声明(仏教声楽)	事前 『日本音楽大事典』『仏教音楽』『声明』の項を読み、質問事項をまとめる。	90分
		事後 同項「研究史」を利用し、日本の声明史と音楽的特徴について調査し、考察する。	180分
第4回	中世(4) 語り物の源流としての講式	事前 『日本音楽大事典』『講式』の項を読み、質問事項をまとめる。	90分
		事後 『四座講式』の構造、楽譜を調査し、音楽史的意義を考察する。	180分
第5回	中世(5) 琵琶法師は大金持ち?—平家語りと武家社会	事前 『日本音楽大事典』『平家琵琶』『平曲』の項を読み、質問事項をまとめる。	90分
		事後 同項「研究史」を利用し、平曲について調査し、音楽史的意義を考察する。	180分
第6回	中世(6) 猿楽(能楽)の大成者 世阿弥	事前 『日本音楽大事典』『猿楽』の項を読み、質問事項をまとめる。	90分
		事後 世阿弥の著作や作品を調査し、その業績を知り、音楽史的意義を考察する。	180分
第7回	中世(7) 狂言の分化	事前 『日本音楽大事典』『狂言』の項を読み、質問事項をまとめる。	90分
		事後 能楽以外の様々な中世芸能を調べ、寺が母体となった芸能の多様性を考察する。	180分
第8回	【AL】(1) 東京国立博物館で音楽を見つける(グループワーク)	事前 見学施設の文化的意義および基本情報を調べ、見学に備える。	90分
		事後 見学した音楽関係史料について、さらに調査を進める。	180分
第9回	【AL】(2) 日本音楽史の先行研究の調べ方を学ぶ	事前 前回の見学結果を整理し、深めるべき研究のポイントを絞る。	90分
		事後 自分の研究テーマに沿って適切な先行研究調査を実践する。	180分
第10回	【AL】(3) 先行研究を批判する	事前 調べた先行研究を読み、疑問点および問題点をまとめる。	90分
		事後 先行研究批判を発端としてレポートを執筆し、問題を解決する。	180分
第11回	上代・中古(1) 上代・中古文化史概説—国造りの中核にあった音楽	事前 『日本音楽教育事典』『飛鳥・奈良時代』の項を読み、質問事項をまとめておく。	90分
		事後 『礼記』の音楽を読み、なぜ律令国家の中心に音楽が置かれたかを考察する。	180分
第12回	上代・中古(2) 遣唐使吉備真備と礼楽思想/東大寺大仏開眼供養と諸国楽	事前 吉備真備、東大寺大仏開眼供養、正倉院について調べ、質問事項をまとめておく。	90分
		事後 正倉院の様々な音楽史料について調べ、その意義を考察する。	180分
第13回	上代・中古(3) 平安貴族必須の管絃—デートの必須アイテム：横笛と箏	事前 『落窪物語』『枕草子』の音楽場面を読み、質問事項をまとめておく。	90分
		事後 古典文学の音楽場面を参考に平安貴族社会における「詩歌管絃」の意義を考察する。	180分
第14回	上代・中古(4) 考古学から知る音楽—出土史料から分かること	事前 出土史料を東京国立博物館画像データで確認し、質問事項をまとめておく。	90分
		事後 各時代の出土史料とその特徴を調べ、その意義を考察する。	180分
第15回	後期総括—千年変わらぬ楽など存在しない—「伝統音楽」と日本音楽史の違い	事前 現代の演奏伝承、視聴覚資料の解説等を読み、学習内容との矛盾点をまとめておく。	260分
		事後 現代の「伝統音楽」の演奏伝承と日本音楽史との違いについて考察する。	10分

フィードバック 各回の終わりに B6 判用紙に理解内容(質問事項を含む)をまとめて提出し、各時代ごとに小テストを行う。記述内容および小テストについて添削・採点を行うことで学修成果のフィードバックとする。

成績評価 期末論述テスト 40%、小テストおよび各回のまとめ 30%、小レポート 15%、講義への積極的参加・発言 15%
 期末論述テストおよび小テストは講義内容の正確な理解を確認する。理解内容に対する受講者自身の考えを適切に述べるものを高く評価する。各回のまとめは、受講者自身の問題意識に照らして理解内容を簡潔かつ性格に記述するものを評価する。小レポートは博物館美術館見学を踏まえ、意欲的な調査結果の報告を評価する。講義時は教員の質問に対して自ら考え、積極的に発言する姿勢を評価する。

テキスト 『日本音楽史料展(雅楽と声明)』上野学園大学日本音楽史研究所) 2017年3月 ※講義時に配布する。

オフィスアワー

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>										

音楽美学-1

非常勤講師 池原舞

科目コード：MUS105

対象コース/専門/学年： 器楽・声楽・GLAコース/全専門/1～2年次、演奏家コース/全専門/1～4年次

形態：講義	単位数：2単位
概要	西洋音楽に関連の深い美学的思想について概観する。時代順にはなくトピックごとに、重要な概念や潮流を取り上げ、西洋音楽を理解する上で鍵となる思想を読み解いていく。それらの理解が机上のものとならぬよう、講義内および事前学習と事後学習における実践的な取り組みを通じて、「体感する」ことを重視する。

到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義で取り上げる美学的思想について、理解し、自分の言葉で説明できる。 2. 音楽について、多角的な視点で「考える」ことが、日々の習慣となる。 3. 講義中に人前で抵抗なく自分の考えを論理的に述べられるようになる。
------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

授業計画			
第1回	美と醜（「美」とは、バウムガルテンによる「感性的認識」、フィードラーと「芸術学」、「美」と「芸術」と「音楽」）	事前 あなたにとっての「美しいノート」を1冊用意する。 事後 醜いものを10個あげ、なぜそれを醜いと感じるのかを考える。	140分 140分
第2回	美しい響きの探求（古代ギリシャから中世の音楽思想、バロック時代の調律法の模索、微分音、音/雑音）	事前 「楽音」と「雑音」の違いは何か考える。 事後 微分音を楽器もしくは声で出す。	140分 140分
第3回	聴取の美学（ケージと《4分33秒》）	事前 聴取体験で印象に残っている出来事について思いをめぐらせる。 事後 《4分33秒》を途中で止めてみる。	140分 140分
第4回	サウンド・スケープ（シェーファーのサウンド・スケープ論）	事前 録音媒体を用意する。 事後 録音したもので作品をつくる。	140分 140分
第5回	【基礎講義：知の海を歩く】感性の育成、自由な発想（トピックの広げ方、固定観念からの解放）	事前 「りんご」から思いつく論文のテーマをできる限り探す。 事後 任意の本から、事物の表現として、感性が揺さぶられる1フレーズもしくは1段落を書き写す。	140分 140分
第6回	色彩論、共感覚（中世における色彩感、光と色の関係、20世紀の芸術における色彩と音）	事前 「ド」を何色に感じるか考え、なぜそう感じるのかを考える。 事後 任意の画家の画集を一冊ゆつくり読む。	140分 140分
第7回	標題音楽から交響詩へ（バルリオーズの《幻想交響曲》、リストの交響詩《レ・プレリュード》）	事前 リストの交響詩《レ・プレリュード》を何も楽観を読まずに聴く。 事後 音楽作品を言葉で説明することのメリットとデメリットについて自分の意見をまとめる。	140分 140分
第8回	内容主義と形式主義（内容主義と形式主義、プラトンの「イデア」論と芸術、ハンズリックと「絶対音楽」の成立、標題音楽と絶対音楽の対立の構図）	事前 「内容」とは何か考える。 事後 「形式」とは何か考える。	140分 140分
第9回	作品と題名（題名が喚起するイメージ、サティの反意味、無題）	事前 作品の題名を50個羅列する（芸術ジャンルは問わない）。 事後 身近なもので簡単な造形物を作り、それに題名を付ける。	140分 140分
第10回	記号と象徴（「記号」と「象徴」の定義、ソシュール、パース、ヤコブソン）	事前 自分の名前を20分間呼び続ける。 事後 言語と音声の結びつきについて考えをめぐらす。	20分 260分
第11回	芸術におけるモチーフ（絵画におけるイコノロジー、音楽における数象徴と音象徴、音楽修辭学）	事前 C, D, E, F, G, A, H, B, S, I の10文字のアルファベットを使って作れる単語をできる限り見つける。 事後 音名数字変換表を用いて、自分の運命数を見つける。	140分 140分
第12回	主観と客観（デカルトと近代哲学、イギリス経験論、カントの『判断力批判』）	事前 自分が自分であることを証明する。 事後 自分が自分であることを証明してみる（2回目）。	140分 140分
第13回	【基礎講義：知の海を歩く】論理的思考（論理展開法、クリティカル・リーディング、ディベート）	事前 任意の本を批判的に読む。 事後 任意の書評を読む。	140分 140分
第14回	芸術と制度（芸術と模倣、「アートワールド」）	事前 もし美術館に椅子があったら、それはどんな椅子で、何のためにそこにあるのかを考える。 事後 ダントーの「アートワールド」の境界線にある事例を探す。	140分 140分
第15回	試験内容の解説、試験	事前 これまでの講義について復習をする。 事後 試験を振り返り、再び前向きに学習する決意をする。	140分 140分

フィードバック 講義の冒頭で、必要に応じて前回分の復習の時間を設ける。また、学生の理解度に応じてシラバスの内容・順序を変更することを厭わない。

成績評価 試験点：50%、平常点：50%で評価する。平常点は、講義内で配布するリアクション・ペーパーの内容、事前・事後学習用ノートの内容（抜き打ちで回収する）、講義内での発言等によって評価する。なお、出席が3分の2に満たない者のレポートは受け取らない。出席回数は各自で管理すること。

テキスト 講義内で配布するレジュメの末尾に参考文献を掲載する。

オフィスアワー 質問や学習の仕方の相談は、基本的にはメールで受け付ける（maikehara@aoni.waseda.jp）。短い質問であれば、授業前後に受け付ける。

備考

学位授与の方針との関連

知識・技能・理解		授業を通して修得できる力								意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

対象コース/専門/学年： 器楽・声楽・GLAコース/全専門/1～2年次、演奏家コース/全専門/1～4年次

形態：講義

単位数：2単位

概要 西洋音楽に関連の深い美学的思想について概観する。時代順にはなくトピックごとに、重要な概念や潮流を取り上げ、西洋音楽を理解する上で鍵となる思想を読み解いていく。それらの理解が机上のものとならぬよう、講義内および事前学習と事後学習における実践的な取り組みを通じて、「体感する」ことを重視する。

- 到達目標**
1. 講義で取り上げる美学的思想について、理解し、自分の言葉で説明できる。
 2. 音楽について、多角的な視点で「考える」ことが、日々の習慣となる。
 3. 講義中に人前で抵抗なく自分の考えを論理的に述べられるようになる。

回	内容	事前	事後	時間
第1回	【基礎講義：知の海を歩く】演奏解釈（楽譜の役割、演奏解釈）	「楽譜」の役割は何か考える。	同じ楽曲で異なる演奏者による演奏を聴き、感じたことを書く。	140分
第2回	作品の同一性（作品の同一性、「作品」とは）	前回ミスタッチをしたら、どんなふうにもミスタッチをしたら、その曲でなくなるか考える。	シュトックハウゼンの《ピアノ曲第11番》を聴く。	140分
第3回	図形楽譜（いろいろな図形楽譜、図形楽譜使用の意義）※グループ学習	ケージの《ピアノとオーケストラのためのコンサート》より任意の図形楽譜を読み解く。	「作曲家」と「演奏者」の共通点と相違点をあげる。	140分
第4回	主題の解明（「ロシア・アヴァンギャルドの概要、「何を」ではなく「いかに」、その発端としての立体未来派」、構成主義）	熱いものをたくさん想像する。	「わかる」とはどういうことか考える。	140分
第5回	構成美学（構成学、シンメトリーの美学、12音技法）	構成や構造が美しいと思う絵画もしくは彫刻もしくは建築物をあげ、なぜ美しいのか考える。	12音技法作品を一曲分析する。	140分
第6回	アメリカ実験音楽から「フルクサス」へ（アメリカ実験音楽、ケージから「フルクサス」へ、フルクサスの実例）	直線を引いてそれを辿れ。	現代の東京におけるアートのあり方の問題点をあげる。	140分
第7回	反復、反復、反復（音楽における「反復」とその歴史、20世紀における執拗な反復の事例）	反復がもたらす効果について考えをめぐらす。	音楽における「発展」とはどのような概念か考える。	140分
第8回	ミニマル・ミュージック（ミニマル・ミュージックとそのルーツ、「漸次的位相変移プロセス」、偶然性や即興性との関連、ミニマル・ミュージックと身体性）	任意の短い旋律か文章を30分間繰り返し演奏もしくは発語し、気分の変化を書きとめる。	任意のミニマル・ミュージックを全曲通して聴く。	140分
第9回	「引用」（美術作品における「引用」、音楽における「引用」、「引用」とは？）	レポートで「ロピス」したらなぜダメだと言われるのか考える。	「作者」は何をする人か考える。	140分
第10回	作者の「意図」（実証的研究における「歴史」の塗り替え、「意図」の範疇）	作者の「意図」を知るにはどうしたらよいか考える。	自分しか知らないことを今後も知られないようにノートに書く。	140分
第11回	「作者の死」（「作者の死」、20世紀以降の芸術における主体性の弱化）	ある作品の「作者」は誰なのか考える。	あなたの「自伝」の序章を書く。	140分
第12回	解釈学と生成論の狭間で（文学分野における生成批評の歴史、西洋音楽分野における生成論の展開）	任意の作曲家の自筆譜（ファクシミリも可）を見る。	ある楽曲のテキストに成り得るものにはどんなものがあるか具体的に考え、調べる。	140分
第13回	【基礎講義：知の海を歩く】論文作法	機会の有無を問わず、「論じたいテーマ」を10本見つける。	レポートのテーマを決定する。	140分
第14回	【基礎講義：知の海を歩く】レポート課題の実践	レポート執筆の準備をする。	レポートの執筆をする。	140分
第15回	【基礎講義：知の海を歩く】文章校正	レポートを完成させる。	あなたの「美しいノート」を最初から最後まで読む。	140分

フィードバック 講義の冒頭で、必要に応じて前回の復習の時間を設ける。また、学生の理解度に応じてシラバスの内容・順序を変更することを厭わない。

成績評価 レポート点：50%、平常点：50%で評価する。平常点は、講義内で配布するリアクション・ペーパーの内容、事前・事後学習用ノートの内容（抜き打ちで回収する）、講義内での発言等によって評価する。なお、出席が3分の2に満たない者のレポートは受け取らない。出席回数は各自で管理すること。

テキスト 講義内で配布するレジメの末尾に参考文献を掲載する。

オフィスアワー 質問や学習の仕方の相談は、基本的にはメールで受け付ける（maikehara@aoni.waseda.jp）。短い質問であれば、授業前後に受け付ける。

備考

学位授与の方針との関連

知識・技能・理解		知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

特別講座

学部長 特任教授 柳澤美枝子

科目コード：HUM101

対象コース／専門／学年：全コース／全専門／1～4年次

形態：講義

単位数：2単位（4年間通じて）

概要 各自の定められた講義、レッスンに加えて幅広く音楽、教養に関する公開講座を実施する。特別講座は、特別公開講座Ⅰ（本学教員による公開レッスン）、および特別公開講座Ⅱ（学外の教員による公開レッスンやレクチャー・コンサート）によって構成される。様々な分野、国内外の優れた演奏家、教授から高いレベルの芸術観に触れ、多面的な思考と視野を育成する。

到達目標 講座聴講後のレポートをまとめることにより、受講内容がより一層体得されることを目標とする。

授業計画 Ⅰは年間4～6回、Ⅱは年間3～4回行うものとする。
原則として、水曜日17：40～19：10までの90分の講座
各年度初めに、日程を掲示する。

フィードバック

成績評価 1年次から卒業年次までを通じ、講座への参加状況、レポート内容で総合的に判断する。

- (1) 毎回の鑑賞レポートをABC評価で採点し、評価ABCを合格、Dを不合格とする。
- (2) 在学期間を通して提出した鑑賞レポートの数で平均得点を出す。その平均得点が属する評価段階を最終評価とする。
但し、在学期間に開催された「特別公開講座」全回数3分の2以上、出席していることを条件とする。

「学生のためのハンドブック」に定める公欠となる事由（学校感染症への罹患、忌引き、教育実習、等）により「特別公開講座」に出席できない場合は、「欠席届（出席扱い）」を提出すれば出席と認定される。

テキスト

オフィスアワー 終了後、質疑応答の時間を設ける。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>								

ソルフェージュ I-1S

※教育職員免許状取得に関わる科目

非常勤講師 井元透馬

科目コード：SLF101

対象コース／専門／学年：全コース／全専門／1 年次

形態：実習

単位数：1 単位

概要 ソルフェージュについて基礎的な技術を身につけた学生を対象とする。楽譜から音楽を読み取り表現する力と、正しく音を聴いた上で音楽を感じ取る力を養う。

到達目標 ①種々の音部記号を確実に読む。②リズムについて論理的に理解し、正しく表現する。③フレーズを感じ豊かに旋律を表現する。④旋律や和音のニュアンスを感じつつ音楽を聴く。

授業計画

クレ読み、リズム読み、視唱の課題に取り組み、ソルフェージュ能力を磨く。
様々な聴音課題に取り組み、音楽を正しく聴き取る力を養う。
*履修者の習熟度に応じて下記の計画を変更することがある。

回	内容	事前	事後	時間
第 1 回	クレ読み：準備練習 視唱・聴音の基礎練習	これまでに実習した課題を見直す。	指摘のあった箇所の反復練習を行う。	40 分 50 分
第 2 回	クレ読み：高音部記号・低音部記号・大譜表 視唱・聴音：調号が付かない長・短調	高音部記号・低音部記号を読む練習及びその他の宿題を実施する。	指摘のあった箇所の反復練習を行う。	40 分 50 分
第 3 回	クレ読み：ソプラノ記号(基礎) 視唱・聴音：調号 1 つの長調	ソプラノ記号を読む練習及びその他の宿題を実施する。	指摘のあった箇所の反復練習を行う。	40 分 50 分
第 4 回	クレ読み：ソプラノ記号(八分音符) 視唱・聴音：調号 1 つの短調	ソプラノ記号(八分音符)を読む練習及びその他の宿題を実施する。	指摘のあった箇所の反復練習を行う。	40 分 50 分
第 5 回	クレ読み：ソプラノ記号(三連符) 視唱・聴音：調号 2 つの長調	ソプラノ記号(三連符)を読む練習及びその他の宿題を実施する。	指摘のあった箇所の反復練習を行う。	40 分 50 分
第 6 回	クレ読み：ソプラノ記号(十六分音符) 視唱・聴音：調号 2 つの短調	ソプラノ記号(十六分音符)を読む練習及びその他の宿題を実施する。	指摘のあった箇所の反復練習を行う。	40 分 50 分
第 7 回	クレ読み：アルト記号(基礎) 視唱・聴音：調号 3 つの長調	アルト記号を読む練習及びその他の宿題を実施する。	指摘のあった箇所の反復練習を行う。	40 分 50 分
第 8 回	クレ読み：アルト記号(八分音符) 視唱・聴音：調号 3 つの短調	アルト記号(八分音符)を読む練習及びその他の宿題を実施する。	指摘のあった箇所の反復練習を行う。	40 分 50 分
第 9 回	クレ読み：アルト記号(三連符) 視唱・聴音：調号 4 つの長調	アルト記号(三連符)を読む練習及びその他の宿題を実施する。	指摘のあった箇所の反復練習を行う。	40 分 50 分
第 10 回	クレ読み：アルト記号(十六分音符) 視唱・聴音：調号 4 つの短調	アルト記号(十六分音符)を読む練習及びその他の宿題を実施する。	指摘のあった箇所の反復練習を行う。	40 分 50 分
第 11 回	クレ読み：テノール記号(基礎) 視唱・聴音：調号 5 つの長調	テノール記号を読む練習及びその他の宿題を実施する。	指摘のあった箇所の反復練習を行う。	40 分 50 分
第 12 回	クレ読み：テノール記号(八分音符) 視唱・聴音：調号 5 つの短調	テノール記号(八分音符)を読む練習及びその他の宿題を実施する。	指摘のあった箇所の反復練習を行う。	40 分 50 分
第 13 回	クレ読み：テノール記号(三連符) 視唱・聴音：調号 6 つの長調	テノール記号(三連符)を読む練習及びその他の宿題を実施する。	指摘のあった箇所の反復練習を行う。	40 分 50 分
第 14 回	クレ読み：テノール記号(十六分音符) 視唱・聴音：調号 6 つの短調	テノール記号(十六分音符)を読む練習及びその他の宿題を実施する。	指摘のあった箇所の反復練習を行う。	40 分 50 分
第 15 回	まとめ	クレ読み・リズム・視唱・聴音の復習をする。	指摘のあった箇所の反復練習を行う。	40 分 50 分

フィードバック 取り組んだ課題に対するコメント、添削等を通しフィードバックを行う。

成績評価 定期試験 80%、宿題の実施状況 10%、授業態度 10%

テキスト DNAMELOT 著 『Manuel pratique』(Nouvelle édition) ESCHIG 社 *新版(Nouvelle édition)を用意すること。
その他、適宜プリントを配布する。
五線ノートを用意すること。

オフィスアワー 授業終了後、教室にて

備考 宿題等を確実に実施すること。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力

知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

ソルフェージュ I-2S

※教育職員免許状取得に関わる科目

非常勤講師 井元透馬

科目コード：SLF102

対象コース／専門／学年：全コース／全専門／1 年次

形態：実習

単位数：1 単位

概要 ソルフェージュ I-1 を履修済みの学生を対象とする。楽譜から音楽を読み取り表現する力と、正しく音を聴いた上で音楽を感じ取る力を養う。

到達目標 ①種々の音部記号を確実に読む。②リズムについて論理的に理解し、正しく表現する。③フレーズを感じ豊かに旋律を表現する。④旋律や和音のニュアンスを感じつつ音楽を聴く。

授業計画	クレ読み、リズム読み、視唱の課題に取り組み、ソルフェージュ能力を磨く。様々な聴音課題に取り組み、音楽を正しく聴き取る力を養う。 *履修者の習熟度に応じて下記の計画を変更することがある。	事前 事後	40 分 50 分
第 1 回	クレ読み：大譜表 リズム：基本的なリズム課題(単純拍子) 視唱・聴音：クレ読み・リズムの進度に合わせた課題	既習の課題の復習を行う。 指摘のあった箇所の反復練習を行う。	40 分 50 分
第 2 回	クレ読み：メゾソプラノ記号(基礎) リズム：基本的なリズム課題(複合拍子) 視唱・聴音：クレ読み・リズムの進度に合わせた課題	メゾソプラノ記号を読む練習及び与えられた宿題を実施する。 指摘のあった箇所の反復練習を行う。	40 分 50 分
第 3 回	クレ読み：メゾソプラノ記号(八分音符) リズム：やや複雑なリズム課題(単純拍子) 視唱・聴音：クレ読み・リズムの進度に合わせた課題	メゾソプラノ記号(八分音符)を読む練習及び与えられた宿題を実施する。 指摘のあった箇所の反復練習を行う。	40 分 50 分
第 4 回	クレ読み：メゾソプラノ記号(三連符) リズム：やや複雑なリズム課題(複合拍子) 視唱・聴音：クレ読み・リズムの進度に合わせた課題	メゾソプラノ記号(三連符)を読む練習及び与えられた宿題を実施する。 指摘のあった箇所の反復練習を行う。	40 分 50 分
第 5 回	クレ読み：メゾソプラノ記号(十六分音符) リズム：中庸な速さの混合拍子 視唱・聴音：クレ読み・リズムの進度に合わせた課題	メゾソプラノ記号(十六分音符)を読む練習及び与えられた宿題を実施する。 指摘のあった箇所の反復練習を行う。	40 分 50 分
第 6 回	クレ読み：バリトン記号(基礎) リズム：速い混合拍子 視唱・聴音：クレ読み・リズムの進度に合わせた課題	バリトン記号を読む練習及び与えられた宿題を実施する。 指摘のあった箇所の反復練習を行う。	40 分 50 分
第 7 回	クレ読み：バリトン記号(八分音符) リズム：拍子の変化(リストッソ・テンポ) 視唱・聴音：クレ読み・リズムの進度に合わせた課題	バリトン記号(八分音符)を読む練習及び与えられた宿題を実施する。 指摘のあった箇所の反復練習を行う。	40 分 50 分
第 8 回	クレ読み：バリトン記号(三連符) リズム：拍子の変化(♪=♩) 視唱・聴音：クレ読み・リズムの進度に合わせた課題	バリトン記号(三連符)を読む練習及び与えられた宿題を実施する。 指摘のあった箇所の反復練習を行う。	40 分 50 分
第 9 回	クレ読み：バリトン記号(十六分音符) リズム：拍子の変化(基礎的なリズム) 視唱・聴音：クレ読み・リズムの進度に合わせた課題	バリトン記号(十六分音符)を読む練習及び与えられた宿題を実施する。 指摘のあった箇所の反復練習を行う。	40 分 50 分
第 10 回	クレ読み：7つの音部記号(順次進行・3度) リズム：拍子の変化(やや複雑なリズム) 視唱・聴音：クレ読み・リズムの進度に合わせた課題	Manuel pratique の未実施の課題及び宿題を実施する。 指摘のあった箇所の反復練習を行う。	40 分 50 分
第 11 回	クレ読み：7つの音部記号(4度・5度) リズム：中庸な速さの変拍子 視唱・聴音：クレ読み・リズムの進度に合わせた課題	Manuel pratique の未実施の課題及び宿題を実施する。 指摘のあった箇所の反復練習を行う。	40 分 50 分
第 12 回	クレ読み：7つの音部記号(6度) リズム：速い変拍子 視唱・聴音：クレ読み・リズムの進度に合わせた課題	Manuel pratique の未実施の課題及び宿題を実施する。 指摘のあった箇所の反復練習を行う。	40 分 50 分
第 13 回	クレ読み：7つの音部記号(7度) リズム：中庸な速さの付加リズム 視唱・聴音：クレ読み・リズムの進度に合わせた課題	Manuel pratique の未実施の課題及び宿題を実施する。 指摘のあった箇所の反復練習を行う。	40 分 50 分
第 14 回	クレ読み：7つの音部記号(8度・複音程) リズム：速い付加リズム 視唱・聴音：クレ読み・リズムの進度に合わせた課題	Manuel pratique の未実施の課題及び宿題を実施する。 指摘のあった箇所の反復練習を行う。	40 分 50 分
第 15 回	まとめ	Manuel pratique の未実施の課題及び宿題を実施する。 指摘のあった箇所の反復練習を行う。	40 分 50 分

フィードバック 取り組んだ課題に対するコメント、添削等を通しフィードバックを行う。

成績評価 定期試験 80%、宿題の実施状況 10%、授業態度 10%

テキスト DNAMELOT 著 『Manuel pratique』(Nouvelle édition) ESCHIG 社 *新版(Nouvelle édition)を用意すること。
その他、適宜プリントを配布する。
五線ノートを用意すること。

オフィスアワー 授業終了後、教室にて

備考 宿題等を確実に実施すること。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>								

ソルフェージュ I-1A

※教育職員免許状取得に関わる科目

講師 高島 亜生

科目コード：SLF101

対象コース/専門/学年：器楽・声楽・GLAコース/全専門/1年次

形態：実習

単位数：1単位

概要 入学前までに学習していたソルフェージュ能力を更に伸ばすための演習。①クレ読み（ハ音記号各種）の読譜訓練 ②視唱訓練や新曲視唱、弾き歌い ③コード付け ④リズム訓練 ⑤単旋律、複旋律、和声、リズム、記憶聴音 ⑥楽器による新曲視奏、アンサンブル初見等 ソルフェージュを総合的に、段階的に進めていく。

到達目標 音楽家にとって大切な音楽の基礎能力を養うことを目標とする。すなわち、リズム感、和声感、生き活きとした表現力の鍛錬、楽譜から即座に音楽を表現する初見力、耳によって音楽を分析するための聴音力、楽譜から音楽を想像する内的聴取力・解釈のための分析力・音楽の総合的な力を結集した即興の能力を向上させるための訓練をする。

授業計画 音楽表現のためのソルフェージュ。学年末には、各種聴音(リズム・単旋律・複旋律・和声・記憶)・さまざまな音部記号が含まれる新曲視唱・拍子の変化するリズム読み・その他の試験を行う。

第1回	オリエンテーション、総合ソルフェージュ 読譜と演奏と作曲の相互関係	事前 ソルフェージュの勉強と自分の専門楽器との関わりや意義を考えてくる。 事後 リズム打ち・弾き歌いの復習・授業プリントの復習 任意の楽曲の初見演奏	20分 70分
第2回	クレ読み：ト音記号中級&アルト中級・リズム（単純拍子 2/4、3/4 拍子）・聴唱/聴音旋律（2/4・3/4）&和声聴音三声・弾き歌い初級（カデンツI型奏）・3/4 視唱	事前 クレ読み・カデンツ奏 弾き歌い リズム練習 事後 リズム打ち・弾き歌いの復習・授業プリントの復習 任意の楽曲の初見演奏	10分 80分
第3回	クレ読み：ト音記号上級&アルト中級・リズム（単純拍子 4/4）・聴唱/聴音旋律（4/4）&和声三声体・新曲視唱（伴奏無）・弾き歌い初級（カデンツII型奏）・4/4 視唱	事前 クレ読み・カデンツ奏 弾き歌い リズム練習 事後 リズム打ち・弾き歌いの復習・授業プリントの復習 任意の楽曲の初見演奏	10分 80分
第4回	クレ読み：ヘ音記号中級&アルト上級・リズム（3/2・単純拍子まとめ）・聴音二声&和声四声体（借用無）・新曲視唱（伴奏無）・弾き歌い初級（カデンツIII型奏）・単純拍子まとめ視唱	事前 クレ読み・カデンツ奏 弾き歌い リズム練習 事後 リズム打ち・弾き歌いの復習・授業プリントの復習 任意の楽曲の初見演奏	10分 80分
第5回	クレ読み：ヘ音記号上級&アルト上級・リズム（複合拍子 6/8）・聴音二声大譜表&和声四声体（借用和音無）・新曲視唱（伴奏有 転調無）・弾き歌い中級	事前 クレ読み・カデンツ奏 弾き歌い リズム練習 事後 リズム打ち・弾き歌いの復習・授業プリントの復習 任意の楽曲の初見演奏	10分 80分
第6回	クレ読み：大譜表&アルト実音楽（弦楽四重奏のヴァイオリン声部）・リズム（複合拍子 9/8・12/8）・聴音二声大譜表&和声四声体（借用和音有）・新曲視唱（伴奏有 転調有）・弾き歌い中級	事前 クレ読み・カデンツ奏 弾き歌い リズム練習 事後 リズム打ち・弾き歌いの復習・授業プリントの復習 任意の楽曲の初見演奏	10分 80分
第7回	クレ読み：大譜表（実音楽）&テノール初級・リズム（複合拍子 6/4・6/16 等）・Pf以外の楽器聴音&合唱聴き取り聴唱・新曲視唱（伴奏有 転調有）・弾き歌い中級（転調・伴奏動き有）	事前 クレ読み・カデンツ奏 弾き歌い リズム練習 事後 リズム打ち・弾き歌いの復習・授業プリントの復習 任意の楽曲の初見演奏	10分 80分
第8回	クレ読み：大譜表（初見視奏）テノール中級・リズム（複合拍子まとめ）・Pf以外の楽器聴音&合唱聴き取り聴唱・新曲視唱（伴奏有 転調有）・弾き歌い中級（転調・伴奏動き有）	事前 クレ読み・カデンツ奏 弾き歌い リズム練習 事後 リズム打ち・弾き歌いの復習・授業プリントの復習 任意の楽曲の初見演奏	10分 80分
第9回	クレ読み：テノール中級・リズム（混合拍子 5/8・7/8 等）・聴音（声楽の聴き取り）・合奏での和音聴き取り・新曲視唱（転位音有伴奏・転調有）・弾き歌い上級（借用和音有）	事前 クレ読み・カデンツ奏 弾き歌い リズム練習 事後 リズム打ち・弾き歌いの復習・授業プリントの復習 任意の楽曲の初見演奏	10分 80分
第10回	クレ読み：テノール（Vc,Tbn,Fg 声部）・リズム（混合拍子 5/4・7/4 等）・聴音（合奏の聴き取り）・新曲視唱（転位音有伴奏・転調有）・弾き歌い上級（借用和音有）	事前 クレ読み・カデンツ奏 弾き歌い リズム練習 事後 リズム打ち・弾き歌いの復習・授業プリントの復習 任意の楽曲の初見演奏	10分 80分
第11回	クレ読み：テノール（室内楽の Vc,Fg 声部）・リズム（混合拍子まとめ）・聴音（CD 聴音）・新曲視唱（転位音有伴奏・転調有）・弾き歌い上級（借用和音有）	事前 クレ読み・カデンツ奏 弾き歌い リズム練習 事後 リズム打ち・弾き歌いの復習・授業プリントの復習 任意の楽曲の初見演奏	10分 80分
第12回	クレ読み：テノール（管弦楽の読譜より）・リズム（変拍子）・聴唱/聴音（ピアノによる遠隔転調を含む旋律と二声）・専門楽器による新曲視奏・弾き歌い上級（フランス和声）	事前 クレ読み・カデンツ奏 弾き歌い リズム練習 事後 リズム打ち・弾き歌いの復習・授業プリントの復習 任意の楽曲の初見演奏	10分 80分
第13回	クレ読み：ソプラノ初級・リズム（変拍子）・聴音（無調）・専門楽器による新曲視奏（パロック）・弾き歌い上級（フランス和声による伴奏）	事前 クレ読み・カデンツ奏 弾き歌い リズム練習 事後 リズム打ち・弾き歌いの復習・授業プリントの復習 任意の楽曲の初見演奏	10分 80分
第14回	クレ読み：ソプラノ初級・リズム（変拍子まとめ）と実音楽での総合練習・聴音（旋法を含む民謡）、専門楽器による新曲視奏（パロック）・弾き歌い上級（フランス和声による伴奏）	事前 クレ読み・カデンツ奏 弾き歌い リズム練習 事後 リズムの復習・弾き歌いの練習・新曲視唱の練習	40分 50分
第15回	クレ読みまとめ・聴音・弾き歌い・新曲視唱・リズム練習のまとめ	事前 リズムの復習・弾き歌い・新曲視唱の練習 事後 今までの学習の振り返り	80分 10分

フィードバック 授業内で実施する確認テストや一人一人実施するリズムや視唱のテストの結果や添削により改善点と今後の学習方法を各自にコメントして伝える。

成績評価 試験 70%（学年末試験は、Aクラス独自のテストと、SABCクラス共通のテストを行う）。
平常の授業への取り組み 20%、宿題等 10%

テキスト 木村和子著「リズムの練習」kmp/DANDELLOT 著：Manuel pratique（持っている学生は持参、持っていない学生は売店でプリント教材を購入）
その他、適宜、プリントを配布する。
五線紙と筆記用具を用意すること。

オフィスアワー 授業終了後教室にて、もしくはEメールにて対応する。akopo.taka85@gmail.com

備考 万一欠席をするときには、必ずメールで届け出ること。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自立的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

ソルフェージュ I-2A

※教育職員免許状取得に関わる科目

講師 高島 亜生

科目コード：SLF102

対象コース/専門/学年：器楽・声楽・GLAコース/全専門/1年次

形態：実習

単位数：1単位

概要 ソルフェージュ I-1A で学習していたソルフェージュ能力を更に伸ばすための演習。①クレ読み（ハ音記号各種）の読譜訓練 ②視唱訓練や新曲視唱、弾き歌い ③コード付け ④リズム訓練 ⑤単旋律、複旋律、和声、リズム、記憶聴音 ⑥楽器による新曲視奏、アンサンブル初見等 ソルフェージュを総合的に、段階的に進めていく。

到達目標 ソルフェージュ I-1A の単位を取得した学生が対象。音楽家にとって大切な音楽の基礎能力を養うことを目標とする。すなわち、リズム感、和声感、生き活きとした表現力の鍛錬、楽譜から即座に音楽を表現する初見力、耳によって音楽を分析するための聴音力、楽譜から音楽を想像する内的聴取力・解釈のための分析力・音楽の総合的な力を結集した即興の能力を向上させるための訓練をする。

授業計画 音楽表現のためのソルフェージュ。学年末には、各種聴音(リズム・単旋律・複旋律・和声・記憶)・さまざまな音部記号が含まれる新曲視唱・拍子の変化するリズム読み・その他の試験を行う。

第1回	声と身体の動きを使った総合ソルフェージュ	事前 ソルフェージュの勉強と自分の専門楽器との関わりや意義を考えてくる。 事後 リズム打ち・弾き歌いの復習・授業プリントの復習 任意の楽曲の初見演奏	10分 80分
第2回	クレ読み：ソプラノ中級・リズム（速さの変化する）・聴音（ピアノによる各種・調性音楽）・専門楽器による新曲視奏（古典派前期）・弾き歌い上級（フランス和声による伴奏）	事前 クレ読み・カデンツ奏 弾き歌い リズム練習 事後 リズム打ち・弾き歌いの復習・授業プリントの復習 任意の楽曲の初見演奏	10分 80分
第3回	クレ読み：ソプラノ中級（ルネサンス・バロック時代の合唱譜による）・リズム（速さの変化する）・聴音（ピアノによる各種・無調音楽）・専門楽器による新曲視奏（古典派前期）	事前 クレ読み・カデンツ奏 弾き歌い リズム練習 事後 リズム打ち・弾き歌いの復習・授業プリントの復習 任意の楽曲の初見演奏	10分 80分
第4回	クレ読み：ソプラノ上級（ルネサンス・バロック時代の合唱譜による）・リズム（混合拍子を含む変拍子）・聴音（楽器の二声・調性音楽）・専門楽器による新曲視奏（古典派後期）	事前 クレ読み・カデンツ奏 弾き歌い リズム練習 事後 リズム打ち・弾き歌いの復習・授業プリントの復習 任意の楽曲の初見演奏	10分 80分
第5回	クレ読み：ソプラノ上級（移調楽器の読譜への応用 実音楽総譜）・リズム（混合拍子を含む変拍子・実音楽）・聴音（楽器の二声・無調音楽）・専門楽器による新曲視奏（古典派後期）	事前 クレ読み・カデンツ奏 弾き歌い リズム練習 事後 リズム打ち・弾き歌いの復習・授業プリントの復習 任意の楽曲の初見演奏	10分 80分
第6回	クレ読み：メゾソプラノ初級・リズム（ルネサンス・オペラ叙唱や無調など拍子のない音楽や歌曲）・聴音（合奏の聴音）・専門楽器による新曲視奏（ロマン派前期）	事前 クレ読み・カデンツ奏 弾き歌い リズム練習 事後 リズム打ち・弾き歌いの復習・授業プリントの復習 任意の楽曲の初見演奏	10分 80分
第7回	クレ読み：メゾソプラノ初級・リズム（ルネサンス・オペラ叙唱や無調など拍子のない音楽や歌曲）・聴音（CD聴音）・専門楽器による新曲視奏（ロマン派前期）二人以上の合奏	事前 クレ読み・カデンツ奏 弾き歌い リズム練習 事後 リズム打ち・弾き歌いの復習・授業プリントの復習 任意の楽曲の初見演奏	10分 80分
第8回	クレ読み：メゾソプラノ中級・リズム（実音楽による有拍節音楽）・聴音（実際合唱音）・専門楽器による新曲視奏（ロマン派後期）二人以上による合奏	事前 クレ読み・カデンツ奏 弾き歌い リズム練習 事後 リズム打ち・弾き歌いの復習・授業プリントの復習 任意の楽曲の初見演奏	10分 80分
第9回	クレ読み：メゾソプラノ中級（ルネサンス・バロック時代の合唱譜による）・リズム（実音楽による有拍節音楽 独奏）・聴音（実際合唱音）・専門楽器による新曲視奏（近代）合奏	事前 クレ読み・カデンツ奏 弾き歌い リズム練習 事後 リズム打ち・弾き歌いの復習・授業プリントの復習 任意の楽曲の初見演奏	10分 80分
第10回	クレ読み：メゾソプラノ上級（移調楽器の読譜への応用 実音楽総譜）・リズム（実音楽による有拍節音楽 室内楽）・聴音（聴覚による楽曲分析・独奏）・専門楽器による新曲視奏（近代）	事前 クレ読み・カデンツ奏 弾き歌い リズム練習 事後 リズム打ち・弾き歌いの復習・授業プリントの復習 任意の楽曲の初見演奏	10分 80分
第11回	クレ読み：バリトン初級・リズム（実音楽による有拍節音楽 室内楽）・聴音（聴覚による楽曲分析・室内楽）・専門楽器による新曲視奏（近代）合奏	事前 クレ読み・カデンツ奏 弾き歌い リズム練習 事後 リズム打ち・弾き歌いの復習・授業プリントの復習 任意の楽曲の初見演奏	10分 80分
第12回	クレ読み：7つの音部記号による移調楽器の読譜への応用）リズム（実音楽による有拍節音楽 変拍子を含む）・聴音（聴覚による楽曲分析・室内楽）・専門楽器による新曲視奏（近代）合奏	事前 クレ読み・カデンツ奏 弾き歌い リズム練習 事後 リズム打ち・弾き歌いの復習・授業プリントの復習 任意の楽曲の初見演奏	10分 80分
第13回	クレ読み：7つの音部記号による移調楽器の読譜への応用）リズム（実音楽による有拍節音楽 変拍子を含む）・聴音（聴覚による楽曲分析・管弦楽）・専門楽器による新曲視奏（現代）	事前 クレ読み・カデンツ奏 弾き歌い リズム練習 事後 リズム打ち・弾き歌いの復習・授業プリントの復習 任意の楽曲の初見演奏	10分 80分
第14回	クレ読み：7つの音部記号による移調楽器の読譜への応用）リズム（実音楽による無拍節音楽 現代曲・聴音（聴覚による楽曲分析・管弦楽）・専門楽器による新曲視奏（現代）	事前 聴音の復習・クレ読み・カデンツ奏 弾き歌い リズム練習 事後 リズムの復習・弾き歌い・新曲視唱の練習	10分 80分
第15回	総合ソルフェージュのまとめ	事前 リズムの復習・弾き歌い・新曲視唱の練習 事後 今までの学習の振り返り	80分 10分

フィードバック 授業内で実施する確認テストや一人一人実施するリズムや視唱のテストの結果や添削により改善点と今後の学習方法を各自にコメントして伝える。

成績評価 試験 70%（学年末試験は、Aクラス独自のテストと、SABCクラス共通のテストを行う）。
平常の授業への取り組み 20%、宿題等 10%

テキスト 木村和子著「リズムの練習」kmp/DANDELLOT 著：Manuel pratique（持っている学生は持参、持っていない学生は売店でプリント教材を購入）
その他、適宜、プリントを配布する。
五線紙と筆記用具を用意すること。

オフィスアワー 授業終了後教室にて、もしくはEメールにて対応する。akopo.taka85@gmail.com

備考 万が一欠席をするときには、必ずメールで届け出ること。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性							
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自立的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲	
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	

ソルフェージュ I-1B

※教育職員免許状取得に関わる科目

非常勤講師 井上渚

科目コード：SLF101

対象コース/専門/学年： 器楽・声楽・GLA コース/全専門/1 年次

形態：実習

単位数：1 単位

概要 1.クレ読み（ト音、ヘ音記号）の読譜訓練。 2.視唱訓練や新曲視唱、弾き歌いなど。 3.リズム訓練。
4.単旋律、複旋律、和音聴音。 5.ソルフェージュを総合的に、段階的に進めていく。

到達目標 音楽家に必要な基礎能力の向上を目指す。ソルフェージュの訓練を通して、音楽の聴取力、表現力、初見視唱・視奏、分析力、読譜力などの能力を身につけて実際の演奏につなげることを目標とする。

授業計画

第1回	オリエンテーション	基礎的な聴音と視唱	事前 ト音譜表、ヘ音譜表上の24の調号の書き方を復習する	40分
			事後 ソルフェージュの庭 p.102 「ダルクロワスケール」	50分
第2回	ソルフェージュの庭	視唱 1 聴音 (リズム・単旋律・和音)	事前 ソルフェージュの庭 視唱 1A を予習する その他	40分
	ソルフェージュの庭	リズム L1	事後 ソルフェージュの庭 視唱 1B のピアノ譜のバスを(部分的に)左手で弾きながら	50分
第3回	ソルフェージュの庭	視唱 2 聴音 (リズム・単旋律・和音)	事前 ソルフェージュの庭 視唱 2A を予習する その他	40分
	ソルフェージュの庭	リズム L2	事後 ソルフェージュの庭 視唱 2B のピアノ譜のバスを(部分的に)左手で弾きながら	50分
第4回	ソルフェージュの庭	視唱 3 聴音 (リズム・単旋律・和音)	事前 ソルフェージュの庭 視唱 3A を予習する その他	40分
	ソルフェージュの庭	リズム L3	事後 ソルフェージュの庭 視唱 3B のピアノ譜のバスを(部分的に)左手で弾きながら	50分
第5回	ソルフェージュの庭	視唱 4 聴音 (リズム・単旋律・和音)	事前 ソルフェージュの庭 視唱 4A を予習する その他	40分
	ソルフェージュの庭	リズム L4	事後 ソルフェージュの庭 視唱 4B のピアノ譜のバスを(部分的に)左手で弾きながら	50分
第6回	ソルフェージュの庭	視唱 5 聴音 (リズム・単旋律・2声)	事前 ソルフェージュの庭 視唱 5A を予習する その他	40分
	ソルフェージュの庭	リズム L5	事後 ソルフェージュの庭 視唱 5B のピアノ譜のバスを(部分的に)左手で弾きながら	50分
第7回	ソルフェージュの庭	視唱 6 聴音 (リズム・単旋律・和音)	事前 ソルフェージュの庭 視唱 6A を予習する その他	40分
	ソルフェージュの庭	リズム L6	事後 ソルフェージュの庭 視唱 6B のピアノ譜1段目を弾きながら歌う	50分
第8回	ソルフェージュの庭	視唱 7 聴音 (リズム・単旋律・2声)	事前 ソルフェージュの庭 視唱 7A を予習する その他	40分
	ソルフェージュの庭	リズム L7	事後 ソルフェージュの庭 視唱 7B のピアノ譜のバスを(部分的に)左手で弾きながら	50分
第9回	ソルフェージュの庭	視唱 8 聴音 (リズム・単旋律・和音)	事前 ソルフェージュの庭 視唱 8A を予習する その他	40分
	ソルフェージュの庭	リズム L8	事後 ソルフェージュの庭 視唱 8B のピアノ譜のバスを(部分的に)左手で弾きながら	50分
第10回	ソルフェージュの庭	視唱 9 聴音 (リズム・単旋律・2声)	事前 ソルフェージュの庭 視唱 9A を予習する その他	40分
	ソルフェージュの庭	リズム L9	事後 ソルフェージュの庭 視唱 9B のピアノ譜のバスを(部分的に)左手で弾きながら	50分
第11回	ソルフェージュの庭	視唱 10 聴音 (リズム・単旋律・和音)	事前 ソルフェージュの庭 視唱 10A を予習する その他	40分
	ソルフェージュの庭	リズム L10	事後 ソルフェージュの庭 視唱 10B のピアノ譜のバスを(部分的に)左手で弾きながら歌う	50分
第12回	ソルフェージュの庭	視唱 11 聴音 (リズム・単旋律・2声)	事前 ソルフェージュの庭 視唱 11A を予習する その他	40分
	ソルフェージュの庭	リズム L11	事後 ソルフェージュの庭 視唱 11B のピアノ譜のバスを(部分的に)左手で弾きながら歌う	50分
第13回	ソルフェージュの庭	視唱 12 聴音 (リズム・単旋律・和音)	事前 ソルフェージュの庭 視唱 12A を予習する その他	40分
	ソルフェージュの庭	リズム L12	事後 ソルフェージュの庭 視唱 12B のピアノ譜のバスを(部分的に)左手で弾きながら歌う	50分
第14回	前期のまとめ	視唱テスト	事前 ソルフェージュの庭 視唱 1A~12A を復習する	40分
	小テスト		事後 ソルフェージュの庭 視唱 1B~12B のピアノ譜のバスを(部分的に)左手で弾きながら歌う	50分
第15回	聴音 仕上げとまとめ		事前 ソルフェージュの庭 リズム L1-15 を復習する	100分
			事後	

フィードバック 小テストを行い、コメントをつけ学修成果をフィードバックする。

成績評価 定期試験 50%、小テスト 30%、課題 20%

テキスト 佐怒賀悦子『ソルフェージュの庭 視唱』（音楽之友社）
五線紙と筆記用具を用意すること
その他、必要な楽譜は指示する。適宜プリント等配布する。

オフィスアワー 授業時間前もしくは授業終了後に受け付ける。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発働能力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

ソルフェージュ I-2B

※教育職員免許状取得に関わる科目

非常勤講師 井上渚

科目コード：SLF102

対象コース/専門/学年： 器楽・声楽・GLA コース/全専門/1 年次

形態：実習

単位数：1 単位

概要 1.クレ読み（ト音、ヘ音、ハ音記号）の読譜訓練。 2.視唱訓練や新曲視唱、弾き歌いなど。 3.リズム訓練。
4.単旋律、複旋律、和声聴音。5.ソルフェージュを総合的に、段階的に進めていく。
以上を毎回平行して進める。

到達目標 ソルフェージュ I-1B に続き、音楽家に必要な基礎能力のさらなる向上を目指す。ソルフェージュの訓練を通して、音楽の聴取力、表現力、初見視唱・視奏、分析力、読譜力などの能力を身につけて実際の演奏につなげることを目標とする。

授業計画

第1回	ソルフェージュの庭 ソルフェージュの庭	視唱 13 聴音 (リズム・単旋律・2声) リズム L13	事前 ソルフェージュの庭 事後 ソルフェージュの庭	視唱 13A を予習する その他 視唱 13B のピアノ譜のバスを(部分的に)左手で弾きながら歌う	40 分 50 分
第2回	ソルフェージュの庭 ソルフェージュの庭	視唱 14 聴音 (リズム・単旋律・和音) リズム L14	事前 ソルフェージュの庭 事後 ソルフェージュの庭	視唱 14A を予習する その他 視唱 14B のピアノ譜のバスを(部分的に)左手で弾きながら歌う	40 分 50 分
第3回	ソルフェージュの庭 ソルフェージュの庭	視唱 15 聴音 (リズム・単旋律・2声) リズム L15	事前 ソルフェージュの庭 事後 ソルフェージュの庭	視唱 15A を予習する その他 視唱 15B のピアノ譜のバスを(部分的に)左手で弾きながら歌う	40 分 50 分
第4回	ソルフェージュの庭 ソルフェージュの庭	視唱 16 聴音 (リズム・単旋律・3声) リズム L16	事前 ソルフェージュの庭 事後 ソルフェージュの庭	視唱 16A を予習する その他 視唱 16B のピアノ譜のバスを(部分的に)左手で弾きながら歌う	40 分 50 分
第5回	ソルフェージュの庭 ソルフェージュの庭	視唱 17 聴音 (リズム・単旋律・2声) リズム L17	事前 ソルフェージュの庭 事後 ソルフェージュの庭	視唱 17A を予習する その他 視唱 17B のピアノ譜のバスを(部分的に)左手で弾きながら歌う	40 分 50 分
第6回	ソルフェージュの庭 ソルフェージュの庭	視唱 18 (リズム・単旋律・和音) リズム L18	事前 ソルフェージュの庭 事後 ソルフェージュの庭	視唱 18A を予習する その他 視唱 18B のピアノ譜のバスを(部分的に)左手で弾きながら歌う	40 分 50 分
第7回	ソルフェージュの庭 ソルフェージュの庭	視唱 19 聴音 (リズム・単旋律・2声) リズム L19	事前 ソルフェージュの庭 事後 ソルフェージュの庭	視唱 19A を予習する その他 視唱 19B のピアノ譜のバスを(部分的に)左手で弾きながら歌う	40 分 50 分
第8回	ソルフェージュの庭 ソルフェージュの庭	視唱 20 聴音 (リズム・単旋律・3声) リズム L20	事前 ソルフェージュの庭 事後 ソルフェージュの庭	視唱 20A を予習する その他 視唱 20B のピアノ譜のバスを(部分的に)左手で弾きながら歌う	40 分 50 分
第9回	ソルフェージュの庭 ソルフェージュの庭	視唱 21 聴音 (リズム・単旋律・2声) リズム L21	事前 ソルフェージュの庭 事後 ソルフェージュの庭	視唱 21A を予習する その他 視唱 21B のピアノ譜のバスを(部分的に)左手で弾きながら歌う	40 分 50 分
第10回	ソルフェージュの庭 ソルフェージュの庭	視唱 22 (リズム・単旋律・和音) リズム L22	事前 ソルフェージュの庭 事後 ソルフェージュの庭	視唱 22A を予習する その他 視唱 22B のピアノ譜のバスを(部分的に)左手で弾きながら歌う	40 分 50 分
第11回	ソルフェージュの庭 ソルフェージュの庭	視唱 23 聴音 (リズム・単旋律・2声) リズム L23	事前 ソルフェージュの庭 事後 ソルフェージュの庭	視唱 23A を予習する その他 視唱 23B のピアノ譜のバスを(部分的に)左手で弾きながら歌う	40 分 50 分
第12回	ヴィオラのパート譜を読む練習		事前 BRAHMS 弦楽五重奏曲第2番 第II楽章を聞く 事後 BRAHMS 弦楽五重奏曲第2番 第II楽章 ヴィオラのパートに注意して楽譜を見るがら聞く	40 分 50 分	
第13回	チェロの楽譜を読む練習		事前 DEBUSSY チェロソナタ Final を聞く 事後 DEBUSSY チェロソナタ Final 楽譜を見ながら聞く	40 分 50 分	
第14回	後期のまとめ 視唱テスト		事前 ソルフェージュの庭 視唱 13A~23A を復習する 事後 ソルフェージュの庭 視唱 13B~23B のピアノ譜のバスを(部分的に)左手で弾き歌う	40 分 50 分	
第15回	小テスト 聴音 仕上げとまとめ		事前 ソルフェージュの庭 事後	リズム L13-23 を復習する 100 分	

フィードバック 小テストを行い、コメントをつけ学修成果をフィードバックする。

成績評価 定期試験 50%、小テスト 30%、課題 20%

テキスト 佐怒賀悦子『ソルフェージュの庭 視唱』（音楽之友社）
佐怒賀悦子『ソルフェージュの庭 リズム』
五線紙と筆記用具を用意すること
その他、必要な楽譜は指示する。適宜プリント等配布する。

オフィスアワー 授業時間前もしくは授業終了後に受け付ける。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発働能力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

ソルフェージュ I-1C

※教育職員免許状取得に関わる科目

非常勤講師 山下百恵

科目コード: SLF101

対象コース/専門/学年: 器楽・声楽・GLA コース/全専門/1 年次

形態: 実習

単位数: 1 単位

概要 楽譜に「何が」書いてあるかを瞬時に正しく読み取り、それが「どんな意味」を持っていて、「どのように」演奏すべきなのかを考え、演奏につなげるまでの訓練。

到達目標 音楽家に必要な基礎能力を養う。すなわち、リズム感、和声感、フレーズ感、良い耳、良い感性、形式感などを身につけ、楽譜に書かれていることを正しく理解して演奏できるようになることを目標とする。

授業計画 教科書に沿って進める。授業は参加学生の能力に応じて、以下の計画を若干変更することがある。

第 1 回	クレ読み: 高音部記号(基礎) 視唱(高音部記号無伴奏、ハーモニー訓練、他)、リズム Lesson 1、以上を応用した聴音など	事前 授業範囲に目を通し、可能な範囲で練習をする。 事後 授業でうまくできなかったところを解決する。	30 分 60 分
第 2 回	クレ読み: 高音部記号(基礎) 視唱(高音部記号無伴奏、ハーモニー訓練、他)、リズム Lesson 2、以上を応用した聴音など	事前 クレ読みの宿題、及びその他の宿題を実施する。 事後 授業でうまくできなかったところを解決する。	30 分 60 分
第 3 回	クレ読み: 高音部記号(基礎) 視唱(高音部記号無伴奏、ハーモニー訓練、他)、リズム Lesson 3、以上を応用した聴音など	事前 クレ読みの宿題、及びその他の宿題を実施する。 事後 授業でうまくできなかったところを解決する。	30 分 60 分
第 4 回	クレ読み: 高音部記号(基礎) 視唱(高音部記号無伴奏、ハーモニー訓練、他)、リズム Lesson 4、以上を応用した聴音など	事前 クレ読みの宿題、及びその他の宿題を実施する。 事後 授業でうまくできなかったところを解決する。	30 分 60 分
第 5 回	クレ読み: 高音部記号(八分音符) 視唱(高音部記号無伴奏、ハーモニー訓練、他)、リズム Lesson 5、以上を応用した聴音など	事前 クレ読みの宿題、及びその他の宿題を実施する。 事後 授業でうまくできなかったところを解決する。	30 分 60 分
第 6 回	クレ読み: 高音部記号(三連符) 視唱(高音部記号無伴奏、伴奏つき、他)、リズム Lesson 6、以上を応用した聴音など	事前 クレ読みの宿題、及びその他の宿題を実施する。 事後 授業でうまくできなかったところを解決する。	30 分 60 分
第 7 回	クレ読み: 高音部記号(十六分音符) 視唱(高音部記号無伴奏、伴奏つき、他)、リズム Lesson 7、以上を応用した聴音など	事前 クレ読みの宿題、及びその他の宿題を実施する。 事後 授業でうまくできなかったところを解決する。	30 分 60 分
第 8 回	クレ読み: 高音部記号(実作品を用いて) 視唱(高音部記号無伴奏、伴奏つき、他)、リズム Lesson 8、以上を応用した聴音など	事前 クレ読みの宿題、及びその他の宿題を実施する。 事後 授業でうまくできなかったところを解決する。	30 分 60 分
第 9 回	クレ読み: 低音部記号(基礎) 視唱(高音部・低音部記号無伴奏、伴奏つき、他)、リズム Lesson 9、以上を応用した聴音など	事前 クレ読みの宿題、及びその他の宿題を実施する。 事後 授業でうまくできなかったところを解決する。	30 分 60 分
第 10 回	クレ読み: 低音部記号(基礎) 視唱(高音部・低音部記号無伴奏、伴奏つき、他)、リズム Lesson 10、以上を応用した聴音など	事前 クレ読みの宿題、及びその他の宿題を実施する。 事後 授業でうまくできなかったところを解決する。	30 分 60 分
第 11 回	クレ読み: 低音部記号(基礎) 視唱(高音部・低音部記号無伴奏、フレーズと形式の分析、他)、リズム Lesson 11、以上を応用した聴音など	事前 クレ読みの宿題、及びその他の宿題を実施する。 事後 授業でうまくできなかったところを解決する。	30 分 60 分
第 12 回	クレ読み: 低音部記号(八分音符) 視唱(高音部・低音部記号無伴奏、フレーズと形式の分析、他)、リズム Lesson 12、以上を応用した聴音など	事前 クレ読みの宿題、及びその他の宿題を実施する。 事後 授業でうまくできなかったところを解決する。	30 分 60 分
第 13 回	クレ読み: 低音部記号(三連符) 視唱(高音部・低音部記号無伴奏、フレーズと形式の分析、他)、リズム Lesson 13、以上を応用した聴音など	事前 クレ読みの宿題、及びその他の宿題を実施する。 事後 授業でうまくできなかったところを解決する。	30 分 60 分
第 14 回	クレ読み: 低音部記号(十六分音符) 視唱(高音部・低音部記号無伴奏、フレーズと形式の分析、他)、リズム Lesson 14、以上を応用した聴音など	事前 クレ読みの宿題、及びその他の宿題を実施する。 事後 授業でうまくできなかったところを解決する。	30 分 60 分
第 15 回	クレ読み: まとめ 視唱(高音部・低音部記号無伴奏、フレーズと形式の分析、他)、リズム Lesson 15、以上を応用した聴音など	事前 クレ読みの宿題、及びその他の宿題を実施する。 事後 授業でうまくできなかったところを解決する。	30 分 60 分

フィードバック 授業での課題や提出物に対し、コメントや添削で学修成果をフィードバックする。

成績評価 平常の取り組み 30%、試験 70%

テキスト 佐怒賀悦子著 『ソルフェージュの庭 リズム』(音楽之友社)
DANDELLOT 著『Manuel pratique』(Nouvelle édition) ESCHIG 社 * 新版(Nouvelle édition)を用意すること。
五線譜と筆記用具を用意すること。
その他、必要に応じてプリントを配布する。

《参考テキスト》佐怒賀悦子著『ソルフェージュの庭 視唱』(音楽之友社)
呉暁/桐山春美著『リズムの基礎』(音楽之友社)

オフィスアワー 授業後教室にて対応

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				

ソルフェージュ I-2C

※教育職員免許状取得に関わる科目

非常勤講師 山下百恵

科目コード：SLF102

対象コース/専門/学年： 器楽・声楽・GLA コース/全専門/1 年次

形態：実習 単位数：1 単位

概要 ソルフェージュ I-1C の内容に加え、内的聴取力と感受性の育成、譜読みと練習方法の効率化、初見能力の向上、暗譜のための頭の使い方を学ぶ。

到達目標 音楽家に必要な基礎能力をさらに向上させ、自身の演奏につなげることを目標とする。楽曲と初めて向き合った時から、譜読み、暗譜をして人前で演奏できるようになるまでの各過程で活かせる能力を身につける。

授業計画 教科書に沿って進める。授業は参加学生の能力に応じて、以下の計画を若干変更することがある。

第 1 回	クレ読み：大譜表 視唱(既習クレ無伴奏、伴奏つき、他)、リズム Lesson 16、以上を応用した聴音など	事前 事後	クレ読みの宿題、及びその他の宿題を実施する。 授業でうまくできなかったところを解決する。	30 分 60 分
第 2 回	クレ読み：大譜表 視唱(既習クレ無伴奏、伴奏つき、他)、リズム Lesson 17、以上を応用した聴音など	事前 事後	クレ読みの宿題、及びその他の宿題を実施する。 授業でうまくできなかったところを解決する。	30 分 60 分
第 3 回	クレ読み：大譜表 視唱(既習クレ無伴奏、伴奏つき、他)、リズム Lesson 18、以上を応用した聴音など	事前 事後	クレ読みの宿題、及びその他の宿題を実施する。 授業でうまくできなかったところを解決する。	30 分 60 分
第 4 回	クレ読み：アルト記号(基礎) 視唱(既習クレ無伴奏、伴奏つき、他)、リズム Lesson 19、以上を応用した聴音など	事前 事後	クレ読みの宿題、及びその他の宿題を実施する。 授業でうまくできなかったところを解決する。	30 分 60 分
第 5 回	クレ読み：アルト記号(基礎) 視唱(既習クレ無伴奏、伴奏つき、他)、リズム Lesson 20、以上を応用した聴音など	事前 事後	クレ読みの宿題、及びその他の宿題を実施する。 授業でうまくできなかったところを解決する。	30 分 60 分
第 6 回	クレ読み：アルト記号(基礎) 視唱(既習クレ無伴奏、フレーズと形式の分析、他)、リズム Lesson 21、以上を応用した聴音など	事前 事後	クレ読みの宿題、及びその他の宿題を実施する。 授業でうまくできなかったところを解決する。	30 分 60 分
第 7 回	クレ読み：アルト記号(八分音符) 視唱(既習クレ無伴奏、フレーズと形式の分析、他)、リズム Lesson 22、以上を応用した聴音など	事前 事後	クレ読みの宿題、及びその他の宿題を実施する。 授業でうまくできなかったところを解決する。	30 分 60 分
第 8 回	クレ読み：アルト記号(三連符)、専攻楽器による初見視奏 視唱(既習クレ無伴奏、他)、リズム Lesson 23、以上を応用した聴音など	事前 事後	クレ読みの宿題、及びその他の宿題を実施する。 授業でうまくできなかったところを解決する。	30 分 60 分
第 9 回	クレ読み：アルト記号(十六分音符)、専攻楽器による初見視奏 視唱(既習クレ無伴奏、他)、リズム Lesson 24、以上を応用した聴音など	事前 事後	クレ読みの宿題、及びその他の宿題を実施する。 授業でうまくできなかったところを解決する。	30 分 60 分
第 10 回	クレ読み：アルト記号(六連符)、専攻楽器による初見視奏 視唱(既習クレ無伴奏、他)、リズム Lesson 25、以上を応用した聴音など	事前 事後	クレ読みの宿題、及びその他の宿題を実施する。 授業でうまくできなかったところを解決する。	30 分 60 分
第 11 回	クレ読み：アルト記号(実作品を用いて)、専攻楽器による初見視奏 視唱(既習クレ無伴奏、他)、リズム Lesson 26、以上を応用した聴音など	事前 事後	クレ読みの宿題、及びその他の宿題を実施する。 授業でうまくできなかったところを解決する。	30 分 60 分
第 12 回	クレ読み：テノール記号(基礎)、専攻楽器による初見視奏 視唱(既習クレ無伴奏、他)、リズム Lesson 27、以上を応用した聴音など	事前 事後	クレ読みの宿題、及びその他の宿題を実施する。 授業でうまくできなかったところを解決する。	30 分 60 分
第 13 回	クレ読み：テノール記号(基礎)、専攻楽器による初見視奏 視唱(既習クレ無伴奏、他)、リズム Lesson 28、以上を応用した聴音など	事前 事後	クレ読みの宿題、及びその他の宿題を実施する。 授業でうまくできなかったところを解決する。	30 分 60 分
第 14 回	クレ読み：テノール記号(基礎)、専攻楽器による初見視奏 視唱(既習クレ無伴奏、他)、リズム Lesson 29、以上を応用した聴音など	事前 事後	クレ読みの宿題、及びその他の宿題を実施する。 授業でうまくできなかったところを解決する。	30 分 60 分
第 15 回	クレ読み：まとめ 視唱(既習クレ無伴奏、他)、リズム Lesson 30、以上を応用した聴音など	事前 事後	クレ読みの宿題、及びその他の宿題を実施する。 授業でうまくできなかったところを解決する。	30 分 60 分

フィードバック 授業での課題や提出物に対し、コメントや添削で学修成果をフィードバックする。

成績評価 平常の取り組み 30%、試験 70%

テキスト 佐怒賀悦子著 『ソルフェージュの庭 リズム』(音楽之友社)
DANDELLOT 著『Manuel pratique』(Nouvelle édition) ESCHIG 社 *新版(Nouvelle édition)を用意すること。
五線譜と筆記用具を用意すること。
その他、必要に応じてプリントを配布する。

《参考テキスト》佐怒賀悦子著『ソルフェージュの庭 視唱』(音楽之友社)
呉暁/桐山春美著『リズムの基礎』(音楽之友社)

オフィスアワー 授業後教室にて対応

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				

和声法 I-1S

非常勤講師 井元透馬

科目コード：SLF103

対象コース／専門／学年：全コース／全専門／1 年次

形態：講義

単位数：2 単位

概要 和声法の基礎を習得している学生を対象とする。楽曲を的確に分析し解釈するために和声についての知識を深める。また四声体と和声書法の実習を通し、音楽的な演奏に欠かすことのできない、和声に対する鋭敏な耳を養い、カデンツの感覚を磨く。

到達目標 基本的な和声課題を確実に音楽的に実施できるようになる。転調や借用和音を含む課題をスムーズに実施できるよう知識を深め技術を高める。

授業計画 実習を中心に授業を進める。

第1回	オリエンテーション 転調を含まないバス課題	事前 これまでに学習した内容をよく復習する。 事後 授業内で扱った課題の見直しをする。	140 分 130 分
第2回	転調を含まないソプラノ課題	事前 宿題を実施する。 事後 授業内で扱った課題の見直しをする。	140 分 130 分
第3回	転調を含まない和声課題のまとめ	事前 宿題を実施する。 事後 授業内で扱った課題の見直しをする。	140 分 130 分
第4回	転調の導入	事前 宿題を実施する。 事後 授業内で扱った課題の見直しをする。	140 分 130 分
第5回	転調を含むバス課題	事前 宿題を実施する。 事後 授業内で扱った課題の見直しをする。	140 分 130 分
第6回	転調を含むソプラノ課題	事前 宿題を実施する。 事後 授業内で扱った課題の見直しをする。	140 分 130 分
第7回	転調を含む和声課題のまとめ	事前 宿題を実施する。 事後 授業内で扱った課題の見直しをする。	140 分 130 分
第8回	借用和音(副V)の導入	事前 宿題を実施する。 事後 授業内で扱った課題の見直しをする。	140 分 130 分
第9回	借用和音(副V)を含むバス課題	事前 宿題を実施する。 事後 授業内で扱った課題の見直しをする。	140 分 130 分
第10回	借用和音(副V)を含むソプラノ課題	事前 宿題を実施する。 事後 授業内で扱った課題の見直しをする。	140 分 130 分
第11回	借用和音(副V)を含む和声課題のまとめ	事前 宿題を実施する。 事後 授業内で扱った課題の見直しをする。	140 分 130 分
第12回	借用和音(準固有和音)の導入	事前 宿題を実施する。 事後 授業内で扱った課題の見直しをする。	140 分 130 分
第13回	借用和音(準固有和音)を含むバス課題	事前 宿題を実施する。 事後 授業内で扱った課題の見直しをする。	140 分 130 分
第14回	借用和音(準固有和音)を含むソプラノ課題	事前 宿題を実施する。 事後 授業内で扱った課題の見直しをする。	140 分 130 分
第15回	総まとめ	事前 宿題を実施する。 事後 授業内で扱った課題の見直しをする。	140 分 130 分

フィードバック 実施した課題の添削および解説によりフィードバックを行う。

成績評価 試験 90%、宿題の実施状況 10%

テキスト 島岡謙(執筆責任)『総合和声～実技・分析・原理』(音楽之友社)
その他、適宜、プリントを配布する。
五線ノートを用意すること。

オフィスアワー 授業終了後、教室にて受け付ける。

備考 和声は実習を通し理解を深め能力を磨く科目である。与えられた課題を確実に実施すること、また実施した課題等をピアノで弾き響きをよく聴くことが重要である。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力

知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

和声法 I -2S

非常勤講師 井元透馬

科目コード：SLF104

対象コース／専門／学年：全コース／全専門／1 年次

形態：講義

単位数：2 単位

概要 和声法 I -1S を履修済みの学生を対象とする。楽曲を的確に分析し解釈するために和声についての知識を深める。また四声体和声書法の実習を通し、音楽的な演奏に欠かすことのできない、和声に対する鋭敏な耳を養い、カデンツの感覚を磨く。

到達目標 転調や借用和音を含む課題を確実に音楽的に実施できるようになる。様々な D 和音、D2 和音を使いこなし、より色彩豊かな課題の実施を目指す。

授業計画 実習を中心に授業を進める。

第 1 回	オリエンテーション 既習事項の確認	事前	これまでに学習した内容をよく復習する。	140 分
		事後	授業内で扱った課題の見直しをする。	130 分
第 2 回	転調・借用和音を含む和声課題	事前	宿題を実施する。	140 分
		事後	授業内で扱った課題の見直しをする。	130 分
第 3 回	V9 の配置・連結	事前	宿題を実施する。	140 分
		事後	授業内で扱った課題の見直しをする。	130 分
第 4 回	V9 を和音を含むバス課題	事前	宿題を実施する。	140 分
		事後	授業内で扱った課題の見直しをする。	130 分
第 5 回	V9 を含むソプラノ課題	事前	宿題を実施する。	140 分
		事後	授業内で扱った課題の見直しをする。	130 分
第 6 回	V7 根音省略形の配置・連結	事前	宿題を実施する。	140 分
		事後	授業内で扱った課題の見直しをする。	130 分
第 7 回	V7 根音省略形を含む和声課題	事前	宿題を実施する。	140 分
		事後	授業内で扱った課題の見直しをする。	130 分
第 8 回	V 諸和音の上方変位 D 諸和音のまとめ	事前	宿題を実施する。	140 分
		事後	授業内で扱った課題の見直しをする。	130 分
第 9 回	ナボリの II の配置・連結 ナボリの II を含む和声課題	事前	宿題を実施する。	140 分
		事後	授業内で扱った課題の見直しをする。	130 分
第 10 回	ダブルドミナント諸和音を含む和声課題	事前	宿題を実施する。	140 分
		事後	授業内で扱った課題の見直しをする。	130 分
第 11 回	ダブルドミナント諸和音第 5 音下方変位の配置・連結	事前	宿題を実施する。	140 分
		事後	授業内で扱った課題の見直しをする。	130 分
第 12 回	ダブルドミナント諸和音第 5 音下方変位を含む和声課題	事前	宿題を実施する。	140 分
		事後	授業内で扱った課題の見直しをする。	130 分
第 13 回	IV7 の配置・連結 IV7 を含む和声課題	事前	宿題を実施する。	140 分
		事後	授業内で扱った課題の見直しをする。	130 分
第 14 回	ドリアの IV の配置・連結 ドリアの IV を含む和声課題	事前	宿題を実施する。	140 分
		事後	授業内で扱った課題の見直しをする。	130 分
第 15 回	総まとめ	事前	宿題を実施する。	140 分
		事後	授業内で扱った課題の見直しをする。	130 分

フィードバック 実施した課題の添削および解説によりフィードバックを行う。

成績評価 試験 90%、宿題の実施状況 10%

テキスト 島岡謙(執筆責任)『総合和声～実技・分析・原理』(音楽之友社)
その他、適宜、プリントを配布する。
五線ノートを用意すること。

オフィスアワー 授業終了後、教室にて受け付ける。

備考 和声は実習を通し理解を深め能力を磨く科目である。与えられた課題を確実に実施すること、また実施した課題等をピアノで弾き響きをよく聴くことが重要である。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲	
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	

和声法-1A

講師 高島 亜生

科目コード: SLF103

対象コース/専門/学年: 器楽・声楽・GLA コース/全専門/1 年次

形態: 講義

単位数: 2 単位

概要 西洋音楽の各時代や様式（バロック～ロマン派）の楽曲の演奏、読譜や分析解釈に必要な和声法（機能と声、調性）の基礎を四声体と和声書法や楽曲分析を通して学ぶ。

到達目標 入学前に和声法の学習経験のある学生を対象。西洋音楽を学ぶ際に必要な和声は、楽曲の他の側面（拍節、対位法、形式、時代様式、全体的な調構造等）と切り離して考えることは出来ない。このような側面と歴史的発展を考慮しつつ、和声法の理論知識と実際の音楽とのつながりを深めていく。音楽解釈の向上と豊かな演奏表現を目指す。

授業計画 「和声 入門ワーク」を用い、これまでに学習した基本的な和声書法を復習するとともに、鍵盤上で、和声連結を、響きを味わいながら丁寧に弾く練習も取り入れる。

第1回	オリエンテーション/和声の歴史、和声の魅力、旋律と和音の関係 3和音・7和音の基本形と転回形 終止・機能・カデンツ 声部と配分	事前 和声入門ワーク p.40 まで、各自復習する。 事後 授業で実施したプリント等復習して演奏する。	135分 135分
第2回	和音連結と声部進行 V→Iの連結 フレーズとよく使われる終止の定型 非和声音（経過音・刺繍音・倚音） 3和音の第2転回形（ワーク p.41）	事前 カデンツの演奏。任意の曲を和声の響きに耳を傾け声部進行に留意して演奏する。 事後 和声入門ワーク p.49 まで実施し、演奏する。	135分 135分
第3回	SとしてのIV/TとしてのVI さまざまなD ₂ 和音と終止形 II ₇ の和音（ワーク p.50）	事前 カデンツの演奏。任意の曲を和声の響きに耳を傾け声部進行に留意して演奏する。 事後 和声入門ワーク p.59 まで実施し、演奏する。	135分 135分
第4回	さまざまな終止の定型（ワーク p.55）	事前 カデンツの演奏。任意の曲を和声の響きに耳を傾け声部進行に留意して演奏する。 事後 和声入門ワーク p.67 まで実施し、演奏する。	135分 135分
第5回	和音連結の流れ（ワーク p.68） パス課題	事前 カデンツの演奏。任意の曲を和声の響きに耳を傾け声部進行に留意して演奏する。 事後 和声入門ワーク p.75 まで実施し、演奏する。	135分 135分
第6回	ソプラノ課題（ワーク p.76）	事前 カデンツの演奏。任意の曲を和声の響きに耳を傾け声部進行に留意して演奏する。 事後 和声入門ワーク .80 まで実施し、演奏する。	135分 135分
第7回	総合問題（ワーク p.81）	事前 カデンツの演奏。任意の曲を和声の響きに耳を傾け声部進行に留意して演奏する。 事後 和声入門ワーク p.82 まで実施し、演奏する。	135分 135分
第8回	準固有和音（ワーク p.84 分析篇 p.318）	事前 カデンツの演奏。任意の曲を和声の響きに耳を傾け声部進行に留意して演奏する。 事後 和声入門ワーク p.87 まで実施し、演奏する。	135分 135分
第9回	ナボリのII（ワーク p.88 分析篇 p.326） ドッペルドミナント（分析篇 p.321）	事前 カデンツの演奏。任意の曲を和声の響きに耳を傾け声部進行に留意して演奏する。 事後 和声入門ワーク p.91 まで実施し、演奏する。	135分 135分
第10回	副V（ワーク p.92 分析篇 p.310）	事前 カデンツの演奏。任意の曲を和声の響きに耳を傾け声部進行に留意して演奏する。 事後 和声入門ワーク p.96 まで実施し、演奏する。	135分 135分
第11回	借用和音の復習（総合和声）	事前 カデンツの演奏。任意の曲を和声の響きに耳を傾け声部進行に留意して演奏する。 事後 総合和声の課題 24、課題 25 より指定された課題を実施し、演奏する。	135分 135分
第12回	非和声音（ワーク p.97 分析篇 p.256）	事前 カデンツの演奏。任意の曲を和声の響きに耳を傾け声部進行に留意して演奏する。 事後 和声入門ワーク p.100 までおよび p.104 を実施し、演奏する。	135分 135分
第13回	総合問題（ワーク p.101）	事前 カデンツの演奏。任意の曲を和声の響きに耳を傾け声部進行に留意して演奏する。 事後 和声入門ワーク p.103 まで実施し、演奏する。	135分 135分
第14回	総合問題の確認	事前 カデンツの演奏。任意の曲を和声の響きに耳を傾け声部進行に留意して演奏する。 事後 総合和声から四声体課題の実施と分析課題	135分 135分
第15回	前期のまとめ（四声体の実施と和声分析）	事前 前期の復習をする。 事後 前期の振り返り。任意の曲を和声の響きに耳を傾け声部進行に留意して演奏する。	135分 135分

フィードバック 授業内で実施する確認テストや課題の添削により改善点や今後の学習方法を各自にコメントして伝える。

成績評価 試験の成績 80%、平常点（カデンツ奏・宿題実施・課題提出）20%。

テキスト 島岡 謙（執筆責任）『総合和声～実技・分析・原理』（音楽之友社）
※適宜、プリントを配布

五線紙を用意すること。

オフィスアワー 授業後教室にて、もしくはEメールにて対応。 akopo.taka85@gmail.com

備考 授業初日までに『演奏につなげる 和声 入門ワーク』p.40 までを、なるべく復習しておくこと。各自の演奏表現につなげるための学習であることを意識して、積極的に学習してほしい。毎週、実施した課題は、ピアノで弾いてみること。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>					

和声法-2A

講師 高畠 亜生

科目コード：SLF104

対象コース/専門/学年： 器楽・声楽・GLA コース/全専門/1 年次

形態：講義

単位数：2 単位

概要 西洋音楽の各時代や様式（バロック～ロマン派）の楽曲の演奏、読譜や分析解釈に必要な和声法（機能と声、調性）の基礎を四声体と和声書法や楽曲分析を通して学ぶ。和声法の基礎を学ぶには 1 年間では不十分なので、2 年次以降も選択でこの上のクラスを履修することをお勧めする。

到達目標 和声法 I・1A の単位を取っている学生を対象。西洋音楽を学ぶ際に必要な和声は、楽曲の他の側面（拍節、対位法、形式、時代様式、全体的な調構造等）と切り離して考えることは出来ない。このような側面と歴史的発展を考慮しつつ、和声法の理論知識と実際の音楽とのつながりを深めていく。音楽解釈の向上と豊かな演奏表現を目指す。

授業計画 和声法 I・1A で学習した和声書法を復習するとともに、鍵盤上で、和声連結を、響きを味わいながら丁寧に弾く練習も採り入れる。「総合和声」のテキストを用い、バロックからロマン派までの作品が分析できるように、さまざまな和声の語彙（諸和音）と文法（機能原理）を学ぶ。

第 1 回	転調 バス課題（実技篇 p.75）	事前	カデンツの演奏。任意の曲を和声の響きに耳を傾け声部進行に留意して演奏する。	135 分
		事後	総合和声 課題 21 の実施と演奏。	135 分
第 2 回	転調 ソプラノ課題（実技篇 p.82）	事前	カデンツの演奏。任意の曲を和声の響きに耳を傾け声部進行に留意して演奏する。	135 分
		事後	総合和声 課題 22 の実施と演奏。	135 分
第 3 回	属九の和音（実技篇 p.106）	事前	カデンツの演奏。任意の曲を和声の響きに耳を傾け声部進行に留意して演奏する。	135 分
		事後	総合和声 課題 31,32 の実施と演奏。	135 分
第 4 回	属九の副 V（実技篇 p.117 分析篇 p.322）	事前	カデンツの演奏。任意の曲を和声の響きに耳を傾け声部進行に留意して演奏する。	135 分
		事後	総合和声 課題 33 の実施と演奏。	135 分
第 5 回	復習と演習	事前	カデンツの演奏。任意の曲を和声の響きに耳を傾け声部進行に留意して演奏する。	135 分
		事後	総合和声 課題 31～34 の実施と演奏。	135 分
第 6 回	様々な D ₂ 和音ドッペルドミナント（実技篇 p.125 分析篇 p.324）	事前	カデンツの演奏。任意の曲を和声の響きに耳を傾け声部進行に留意して演奏する。	135 分
		事後	総合和声 課題 35～37 の実施と演奏。	135 分
第 7 回	様々な D ₂ 和音（実技篇 p.134）	事前	カデンツの演奏。任意の曲を和声の響きに耳を傾け声部進行に留意して演奏する。	135 分
		事後	総合和声 課題 38 の実施と演奏。	135 分
第 8 回	様々な D ₂ 和音ドリアの和音（実技篇 p.142 分析篇 p.328） 異名同音的転調（実技篇 p.150 分析篇 p.352）	事前	カデンツの演奏。任意の曲を和声の響きに耳を傾け声部進行に留意して演奏する。	135 分
		事後	総合和声 課題 39 の実施と演奏。	135 分
第 9 回	様々な S 和音（実技篇 p.154）	事前	カデンツの演奏。任意の曲を和声の響きに耳を傾け声部進行に留意して演奏する。	135 分
		事後	総合和声 課題 43 の実施と演奏。	135 分
第 10 回	転位・修飾 基本練習（実技篇 p.159 分析篇 p.261）	事前	カデンツの演奏。任意の曲を和声の響きに耳を傾け声部進行に留意して演奏する。	135 分
		事後	総合和声 課題 45 の中から実施と演奏。	135 分
第 11 回	転位・修飾	事前	カデンツの演奏。任意の曲を和声の響きに耳を傾け声部進行に留意して演奏する。	135 分
		事後	総合和声 課題 45 の中から続きの課題の実施と演奏。	135 分
第 12 回	転位・修飾 演習	事前	カデンツの演奏。任意の曲を和声の響きに耳を傾け声部進行に留意して演奏する。	135 分
		事後	総合和声 課題 47 の 1 番の実施と演奏。	135 分
第 13 回	反復進行 基本練習（実技篇 p.193 分析篇 p.379）	事前	カデンツの演奏。任意の曲を和声の響きに耳を傾け声部進行に留意して演奏する。	135 分
		事後	総合和声 課題 55 の実施と演奏。	135 分
第 14 回	反復進行 厳格バス課題	事前	カデンツの演奏。任意の曲を和声の響きに耳を傾け声部進行に留意して演奏する。	135 分
		事後	総合和声 課題 58 の中から実施と演奏。	135 分
第 15 回	まとめ（四声体の実施と和声分析）	事前	後期の復習をする。	135 分
		事後	今までの振り返り任意の曲を和声の響きに耳を傾け声部進行に留意して演奏する。	135 分

フィードバック 授業内で実施する確認テストや課題の添削により改善点や今後の学習方法を各自にコメントして伝える。

成績評価 試験の成績 80%、平常点（カデンツ奏・宿題実施・課題提出）20%。

テキスト 島岡 謙（執筆責任）『総合和声～実技・分析・原理』（音楽之友社）
※適宜、プリントを配布

五線紙を用意すること。

オフィスアワー 授業後教室にて、もしくは E メールにて対応。 akopo.taka85@gmail.com

備考 各自の演奏表現につなげるための学習であることを意識して、積極的に学習してほしい。毎週、実施した課題は、ピアノで弾いてみる。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>					

和声法-1B

非常勤講師 笹原絵美

科目コード：SLF103

対象コース／専門／学年：全コース／全専門／1 年次

形態：講義

単位数：2 単位

概要 入学前に楽典、和声法の学習経験のある学生を対象とする。西洋音楽を学ぶ際に必要となる和声について、その理論を学び、課題を実施して理解を深めていく。また、実作品の和声分析などを行い、その作曲家が作曲にあたりどのような工夫を施したのかを知る。

到達目標 基礎的な和声法を習得する。また、自らの演奏する曲についての理解を深め、演奏や解釈、表現力の向上を目指す。

授業計画

第 1 回	オリエンテーション／大作曲家達の和声の紹介／旋律と和音の関係について	事前 自分が演奏している曲について、和音の特徴などを調べておく。 事後 授業内容をよく復習し、ピアノで弾いて響きを確認する。	100 分 170 分
第 2 回	和声の基礎知識（構成音、基本位置三和音の和音記号）／基本位置三和音の配置	事前 自分が演奏している曲について、和声を意識しながらよく弾いておく。 事後 授業内容をよく復習し、ピアノで弾いて響きを確認する。繰り返し課題を実施する。	100 分 170 分
第 3 回	共通音のある和音連結（II→V以外）／共通音のない和音連結（V→VI以外）	事前 自分が演奏している曲について、和声を意識しながらよく弾いておく。 事後 自分が演奏している曲について、和声を意識しながらよく弾いておく。繰り返し課題を実施する。	100 分 170 分
第 4 回	II→Vの連結／V→VIの連結／長調の第3音高位IV→II	事前 自分が演奏している曲について、和声を意識しながらよく弾いておく。 事後 授業内容をよく復習し、ピアノで弾いて響きを確認する。繰り返し課題を実施する。	100 分 170 分
第 5 回	和音設定／和音機能（T, D, S）／カデンツ／終止／基本位置三和音のみによるバス課題	事前 自分が演奏している曲について、和声を意識しながらよく弾いておく。 事後 課題 9 までを復習し、ピアノで弾いて響きを確認する。繰り返し課題を実施する。	100 分 170 分
第 6 回	各種の調（長調の課題を中心に）	事前 自分が演奏している曲について、和声を意識しながらよく弾いておく。 事後 課題 12 までを復習し、ピアノで弾いて響きを確認する。繰り返し課題を実施する。	100 分 170 分
第 7 回	各種の調（短調の課題を中心に）	事前 自分が演奏している曲について、和声を意識しながらよく弾いておく。 事後 授業内容をよく復習し、ピアノで弾いて響きを確認する。繰り返し課題を実施する。	100 分 170 分
第 8 回	3 和音の第 1 転回位置	事前 自分が演奏している曲について、和声を意識しながらよく弾いておく。 事後 授業内容をよく復習し、ピアノで弾いて響きを確認する。繰り返し課題を実施する。	100 分 170 分
第 9 回	II の第 1 転回位置の配置・連結	事前 自分が演奏している曲について、和声を意識しながらよく弾いておく。 事後 授業内容をよく復習し、ピアノで弾いて響きを確認する。繰り返し課題を実施する。	100 分 170 分
第 10 回	iv 音上の和音設定／vi 音上の和音設定	事前 自分が演奏している曲について、和声を意識しながらよく弾いておく。 事後 授業内容をよく復習し、ピアノで弾いて響きを確認する。繰り返し課題を実施する。	100 分 170 分
第 11 回	第 1 転回位置のまとめ	事前 自分が演奏している曲について、和声を意識しながらよく弾いておく。 事後 授業内容をよく復習し、ピアノで弾いて響きを確認する。繰り返し課題を実施する。	100 分 170 分
第 12 回	3 和音の第 2 転回位置	事前 自分が演奏している曲について、和声を意識しながらよく弾いておく。 事後 授業内容をよく復習し、ピアノで弾いて響きを確認する。繰り返し課題を実施する。	100 分 170 分
第 13 回	第 2 転回位置のまとめ	事前 自分が演奏している曲について、和声を意識しながらよく弾いておく。 事後 授業内容をよく復習し、ピアノで弾いて響きを確認する。繰り返し課題を実施する。	100 分 170 分
第 14 回	V 7 の和音の配置と連結／限定進行音について	事前 自分が演奏している曲について、和声を意識しながらよく弾いておく。 事後 授業内容をよく復習し、ピアノで弾いて響きを確認する。繰り返し課題を実施する。	100 分 170 分
第 15 回	まとめ 確認テスト	事前 第 1 回～第 14 回の授業の復習とテスト勉強。 事後 テストで分からなかった部分をわかるようにしておく。	100 分 170 分

フィードバック 授業での課題や試験問題について、添削やコメントで学修成果をフィードバックする。

成績評価 定期試験 70%、課題・宿題 20%、授業態度 10%

テキスト 島岡譲（執筆責任）『和声 理論と実習 I』（音楽之友社）
その他、必要に応じてプリントを配布する。

オフィスアワー 授業終了後教室にて、もしくはEメールにて対応する。 sculpture.of.my.1010@gmail.com

備考 必ず授業内容を復習し、ピアノで弾いて響きを確認すること。宿題を実施すること。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				

和声法-2B

非常勤講師 笹原絵美

科目コード：SLF104

対象コース／専門／学年：全コース／全専門／1 年次

形態：講義

単位数：2 単位

概要 和声法-1B を履修済みの学生を対象とする。西洋音楽を学ぶ際に必要となる和声について、その理論を学び、課題を実施して理解を深めていく。また、実作品の和声分析などを行い、その作曲家が作曲にあたりどのような工夫を施したのかを知る。

到達目標 基礎的な和声法を習得する。また、自らの演奏する曲についての理解を深め、演奏や解釈、表現力の向上を目指す。

授業計画

回	内容	事前	事後	100 分	170 分
第 1 回	V7 の和音 バス課題の実施	和声法-1B の授業の復習をしておく。	授業内容をよく復習し、ピアノで弾いて響きを確かめる。繰り返し課題を実施する。	100 分	170 分
第 2 回	V7 の和音 バス課題の実施 応用	自分が演奏している曲について、和声を意識しながらよく弾いておく。	授業内容をよく復習し、ピアノで弾いて響きを確かめる。繰り返し課題を実施する。	100 分	170 分
第 3 回	V7 の和音 バス課題の実施 発展	自分が演奏している曲について、和声を意識しながらよく弾いておく。	授業内容をよく復習し、ピアノで弾いて響きを確かめる。繰り返し課題を実施する。	100 分	170 分
第 4 回	既習の和音を含むバス課題の実施	自分が演奏している曲について、和声を意識しながらよく弾いておく。	授業内容をよく復習し、ピアノで弾いて響きを確かめる。繰り返し課題を実施する。	100 分	170 分
第 5 回	ソプラノ課題における配置・連結	自分が演奏している曲について、和声を意識しながらよく弾いておく。	授業内容をよく復習し、ピアノで弾いて響きを確かめる。繰り返し課題を実施する。	100 分	170 分
第 6 回	ソプラノ定型 (順次進行をするソプラノ定型)	自分が演奏している曲について、和声を意識しながらよく弾いておく。	授業内容をよく復習し、ピアノで弾いて響きを確かめる。繰り返し課題を実施する。	100 分	170 分
第 7 回	ソプラノ定型 (順次進行をしないソプラノ定型)	自分が演奏している曲について、和声を意識しながらよく弾いておく。	授業内容をよく復習し、ピアノで弾いて響きを確かめる。繰り返し課題を実施する。	100 分	170 分
第 8 回	ソプラノの終止定型	自分が演奏している曲について、和声を意識しながらよく弾いておく。	授業内容をよく復習し、ピアノで弾いて響きを確かめる。繰り返し課題を実施する。	100 分	170 分
第 9 回	ソプラノ課題の和音設定	自分が演奏している曲について、和声を意識しながらよく弾いておく。	授業内容をよく復習し、ピアノで弾いて響きを確かめる。繰り返し課題を実施する。	100 分	170 分
第 10 回	ソプラノ課題の実施	自分が演奏している曲について、和声を意識しながらよく弾いておく。	授業内容をよく復習し、ピアノで弾いて響きを確かめる。繰り返し課題を実施する。	100 分	170 分
第 11 回	ソプラノ課題の実施 応用	自分が演奏している曲について、和声を意識しながらよく弾いておく。	授業内容をよく復習し、ピアノで弾いて響きを確かめる。繰り返し課題を実施する。	100 分	170 分
第 12 回	ソプラノ課題の実施 発展	自分が演奏している曲について、和声を意識しながらよく弾いておく。	授業内容をよく復習し、ピアノで弾いて響きを確かめる。繰り返し課題を実施する。	100 分	170 分
第 13 回	バス課題の演習	自分が演奏している曲について、和声を意識しながらよく弾いておく。	授業内容をよく復習し、ピアノで弾いて響きを確かめる。繰り返し課題を実施する。	100 分	170 分
第 14 回	ソプラノ課題の演習	自分が演奏している曲について、和声を意識しながらよく弾いておく。	授業内容をよく復習し、ピアノで弾いて響きを確かめる。繰り返し課題を実施する。	100 分	170 分
第 15 回	まとめ 確認テスト	事前 第 1 回～第 14 回の授業の復習とテスト勉強。	事後 テストで分からなかった部分をわかるようにしておく。	100 分	170 分

フィードバック 授業での課題や試験問題について、添削やコメントで学修成果をフィードバックする。

成績評価 定期試験 70%、課題・宿題 20%、授業態度 10%

テキスト 島岡譲 (執筆責任) 『和声 理論と実習 I』(音楽之友社)
島岡譲 (執筆責任) 『和声 理論と実習 II』(音楽之友社)
その他、必要に応じてプリントを配布する。

オフィスアワー 授業終了後教室にて、もしくは E メールにて対応する。 sculpture.of.my.1010@gmail.com

備考 必ず授業内容を復習し、ピアノで弾いて響きを確かめること。宿題を実施すること。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション能力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>					

和声法-1C

非常勤講師 山下百恵

科目コード：SLF103

対象コース/専門/学年：全コース/全専門/1 年次

形態：講義

単位数：2 単位

概要 四声体和声書法と鍵盤での実習。

到達目標 課題の実施のみにとどまらず、鍵盤での実習を通じて、手の形や動き、耳からも音楽を和音のつながりで捉えることができる。

授業計画 教科書に従って進める。

第1回	第1章 予備知識	事前	授業で扱う範囲に目を通し、内容を理解する。	135 分
		事後	授業でわからなかった所の解決と、消化していない課題の実施、及び鍵盤での実習。	135 分
第2回	第2章 基本位置 3 和音の配置	事前	授業で扱う範囲に目を通し、内容を理解する。宿題の実施。	135 分
		事後	授業でわからなかった所の解決と、消化していない課題の実施、及び鍵盤での実習。	135 分
第3回	第3章 基本位置 3 和音の連結 10 2 音の関係～14 同時進行に関する禁則	事前	授業で扱う範囲に目を通し、内容を理解する。宿題の実施。	135 分
		事後	授業でわからなかった所の解決と、消化していない課題の実施、及び鍵盤での実習。	135 分
第4回	第3章 基本位置 3 和音の連結 15 連結～16 基本位置 3 和音の上 3 声の標準連結	事前	授業で扱う範囲に目を通し、内容を理解する。宿題の実施。	135 分
		事後	授業でわからなかった所の解決と、消化していない課題の実施、及び鍵盤での実習。	135 分
第5回	第3章 基本位置 3 和音の連結 17 II→V、V→VIの連結	事前	授業で扱う範囲に目を通し、内容を理解する。宿題の実施。	135 分
		事後	授業でわからなかった所の解決と、消化していない課題の実施、及び鍵盤での実習。	135 分
第6回	第4章 和音設定の原理 18 和音設定～21 基本位置 3 和音による各種のカデンツ	事前	授業で扱う範囲に目を通し、内容を理解する。宿題の実施。	135 分
		事後	授業でわからなかった所の解決と、消化していない課題の実施、及び鍵盤での実習。	135 分
第7回	第4章 和音設定の原理 22 和音進行の可能性～24 終止	事前	授業で扱う範囲に目を通し、内容を理解する。宿題の実施。	135 分
		事後	授業でわからなかった所の解決と、消化していない課題の実施、及び鍵盤での実習。	135 分
第8回	第5章 各種の調 25 旋法と主音	事前	授業で扱う範囲に目を通し、内容を理解する。宿題の実施。	135 分
		事後	授業でわからなかった所の解決と、消化していない課題の実施、及び鍵盤での実習。	135 分
第9回	第5章 各種の調 26 主音の移動(移調)	事前	授業で扱う範囲に目を通し、内容を理解する。宿題の実施。	135 分
		事後	授業でわからなかった所の解決と、消化していない課題の実施、及び鍵盤での実習。	135 分
第10回	第5章 各種の調 27 旋法の変換(移旋)～28 各調の総括	事前	授業で扱う範囲に目を通し、内容を理解する。宿題の実施。	135 分
		事後	授業でわからなかった所の解決と、消化していない課題の実施、及び鍵盤での実習。	135 分
第11回	第6章 3 和音の第 1 転回位置 29 I 1 転・IV1 転・V1 転の標準配置	事前	授業で扱う範囲に目を通し、内容を理解する。宿題の実施。	135 分
		事後	授業でわからなかった所の解決と、消化していない課題の実施、及び鍵盤での実習。	135 分
第12回	第6章 3 和音の第 1 転回位置 30 I 1 転・IV1 転・V1 転をふくむ標準連結	事前	授業で扱う範囲に目を通し、内容を理解する。宿題の実施。	135 分
		事後	授業でわからなかった所の解決と、消化していない課題の実施、及び鍵盤での実習。	135 分
第13回	第6章 3 和音の第 1 転回位置 31 II 1 転の配置・連結～32 [1 転]3 和音をふくむカデンツ	事前	授業で扱う範囲に目を通し、内容を理解する。宿題の実施。	135 分
		事後	授業でわからなかった所の解決と、消化していない課題の実施、及び鍵盤での実習。	135 分
第14回	第6章 3 和音の第 1 転回位置 33 [1 転]3 和音をふくむバス課題の実施法	事前	授業で扱う範囲に目を通し、内容を理解する。宿題の実施。	135 分
		事後	授業でわからなかった所の解決と、消化していない課題の実施、及び鍵盤での実習。	135 分
第15回	まとめ	事前	授業で扱う範囲に目を通し、内容を理解する。宿題の実施。	135 分
		事後	授業でわからなかった所の解決と、消化していない課題の実施、及び鍵盤での実習。	135 分

フィードバック 授業での課題や提出物に対し、コメントや添削で学修成果をフィードバックする。

成績評価 平常の取り組み 30%、試験 70%

テキスト 島岡譲(執筆責任)『和声 理論と実習 I』(音楽之友社)

《参考テキスト》佐怒賀悦子著『演奏につなげる 和声 入門ワーク』(ヤマハミュージックメディア)
島岡譲(執筆責任)『総合和声～実技・分析・原理』(音楽之友社)

オフィスアワー 授業後教室にて対応。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>						

和声法-2C

非常勤講師 山下百恵

科目コード：SLF104

対象コース／専門／学年：全コース／全専門／1 年次

形態：講義	単位数：2 単位
概要	和声法1C に引き続き、四声体和声書法と鍵盤での実習。その他、実際の楽曲を用いて和声を分析し、音楽の持つ表情と和声との関連を体感する。

到達目標	学んだ和声法の理論を、楽曲の解釈や演奏表現につなげることができる。
------	-----------------------------------

授業計画	教科書に従って進める。
------	-------------

回数	章	和音の第 2 転回位置	和音の第 2 転回位置	和音の標準配置～36	[2 転]3 和音をふくむ標準連結	事前	事後	分
第 1 回	第 7 章	3 和音の第 2 転回位置	34	第 2 転回位置	3 和音の標準配置～36	[2 転]3 和音をふくむ標準連結	授業で扱う範囲に目を通し、内容を理解する。宿題の実施。	135
							授業でわからなかった所の解決と、消化していない課題の実施、及び鍵盤での実習。	135
第 2 回	第 7 章	3 和音の第 2 転回位置	37	S 和音→I [2 転]V の連結			授業で扱う範囲に目を通し、内容を理解する。宿題の実施。	135
							授業でわからなかった所の解決と、消化していない課題の実施、及び鍵盤での実習。	135
第 3 回	第 7 章	3 和音の第 2 転回位置	38	[2 転]3 和音をふくむバス課題の実施法			授業で扱う範囲に目を通し、内容を理解する。宿題の実施。	135
							授業でわからなかった所の解決と、消化していない課題の実施、及び鍵盤での実習。	135
第 4 回	第 8 章	V7 の和音	39	7 の和音～42	V7 の和音と限定進行音		授業で扱う範囲に目を通し、内容を理解する。宿題の実施。	135
							授業でわからなかった所の解決と、消化していない課題の実施、及び鍵盤での実習。	135
第 5 回	第 8 章	V7 の和音	43	「V7 の和音」→「I の和音」の連結～44	先行和音→「V7 の和音」の連結		授業で扱う範囲に目を通し、内容を理解する。宿題の実施。	135
							授業でわからなかった所の解決と、消化していない課題の実施、及び鍵盤での実習。	135
第 6 回	第 8 章	V7 の和音	45	V7 の和音をふくむバス課題の実施法			授業で扱う範囲に目を通し、内容を理解する。宿題の実施。	135
							授業でわからなかった所の解決と、消化していない課題の実施、及び鍵盤での実習。	135
第 7 回	第 8 章	V7 の和音	46	V7→VI の連結～47	V7→VI の連結をふくむバス課題の実施法		授業で扱う範囲に目を通し、内容を理解する。宿題の実施。	135
							授業でわからなかった所の解決と、消化していない課題の実施、及び鍵盤での実習。	135
第 8 回	第 8 章	V7 の和音	48	V7 の和音の根音省略形～49	V7 根音省略形[2 転]の配置と連結		授業で扱う範囲に目を通し、内容を理解する。宿題の実施。	135
							授業でわからなかった所の解決と、消化していない課題の実施、及び鍵盤での実習。	135
第 9 回	第 8 章	V7 の和音	50	V7 根音省略形をふくむバス課題の実施法			授業で扱う範囲に目を通し、内容を理解する。宿題の実施。	135
							授業でわからなかった所の解決と、消化していない課題の実施、及び鍵盤での実習。	135
第 10 回	第 9 章	V9 の和音	51	9 の和音～54	V9→I の連結		授業で扱う範囲に目を通し、内容を理解する。宿題の実施。	135
							授業でわからなかった所の解決と、消化していない課題の実施、及び鍵盤での実習。	135
第 11 回	第 9 章	V9 の和音	55	並進 9 度についての制限～57	長調の V9 根音省略形体の和音の配置と連結		授業で扱う範囲に目を通し、内容を理解する。宿題の実施。	135
							授業でわからなかった所の解決と、消化していない課題の実施、及び鍵盤での実習。	135
第 12 回	第 9 章	V9 の和音	58	長調の V9・V9 根音省略形体の和音をふくむバス課題の実施法			授業で扱う範囲に目を通し、内容を理解する。宿題の実施。	135
							授業でわからなかった所の解決と、消化していない課題の実施、及び鍵盤での実習。	135
第 13 回	第 9 章	V9 の和音	59	短調の V9 根音省略形体の和音の配置と連結			授業で扱う範囲に目を通し、内容を理解する。宿題の実施。	135
							授業でわからなかった所の解決と、消化していない課題の実施、及び鍵盤での実習。	135
第 14 回	第 9 章	V9 の和音	60	短調の V9・V9 根音省略形体の和音をふくむバス課題の実施法			授業で扱う範囲に目を通し、内容を理解する。宿題の実施。	135
							授業でわからなかった所の解決と、消化していない課題の実施、及び鍵盤での実習。	135
第 15 回	まとめ						事前 授業で扱う範囲に目を通し、内容を理解する。宿題の実施。	135
							事後 授業でわからなかった所の解決と、消化していない課題の実施、及び鍵盤での実習。	135

フィードバック	授業での課題や提出物に対し、コメントや添削で学修成果をフィードバックする。
---------	---------------------------------------

成績評価	平常の取り組み 30%、試験 70%
------	--------------------

テキスト	島岡譲(執筆責任)『和声 理論と実習 I』(音楽之友社) 《参考テキスト》佐怒賀悦子著『演奏につなげる 和声 入門ワーク』(ヤマハミュージックメディア) 島岡譲(執筆責任)『総合和声～実技・分析・原理』(音楽之友社)
------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

オフィスアワー	授業後教室にて対応。
---------	------------

備考	
----	--

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>					

楽式論-1

非常勤講師 井上渚

科目コード：SLF201

対象コース/専門/学年：器楽、声楽、GLAコース/全専門/2年次

形態：講義

単位数：2単位

概要 音楽の諸形式と内容の関連について考える。
様々なジャンル、時代の作品を通じて、ヨーロッパの音楽の代表的な形式を概観する。

到達目標 西洋音楽の代表的な形式についての知識を身につける。
得られた知識を使って、自分で簡単な形式分析を口頭で、または筆記で発表する力を養う。

授業計画

回	ガイダンス	楽式論の学習に必要な楽典の項目	事前	事後	分
第1回	ガイダンス	楽式論の学習に必要な楽典の項目	事前	楽式論の学習に必要な楽典の項目を確認する	270分
第2回	旋律の機能と構造について	Joseph-Maurice Ravel “ボレロ”	事前	使われている楽器を確認する	110分
			事後	楽譜を見ながら音源を聴いて学習曲を復習する	160分
第3回	舞曲 組曲について	Modest Petrovich Mussorgsky “展覧会の絵” 他	事前	舞曲 組曲の定義を調べる	110分
			事後	楽譜を見ながら音源を聴いて学習曲を復習する	160分
第4回	組曲の中の舞曲	Georg Friedrich HANDEL 『王宮の花火のための音楽』より Menuet I-II	事前	使われている楽器を確認する	110分
			事後	楽譜を見ながら音源を聴いて学習曲を復習する	160分
第5回	2部形式 3部形式について	Franz Peter Schubert “Heidenröslein”他	事前	歌詞の内容を確認する。	110分
			事後	楽譜を見ながら音源を聴いて学習曲を復習する	160分
第6回	複合3部形式について①	Johannes Brahms “Ungarische Tänze Nr.5”	事前	複合3部形式について形式を考える	110分
			事後	楽譜を見ながら音源を聴いて学習曲を復習する	160分
第7回	複合3部形式について②	グループで話し合い発表	事前	小節番号をふる	110分
			事後	楽譜を見ながら音源を聴いて学習曲を復習する	160分
第8回	リトルネッロ形式について	Antonio Lucio Vivaldi “Concert No.1 La Primavera”	事前	使われている楽器を確認する	110分
			事後	楽譜を見ながら音源を聴いて学習曲を復習する	160分
第9回	ロンド形式について	Wolfgang Amadeus Mozart “An Chloe”	事前	歌詞の内容を確認する	110分
			事後	楽譜を見ながら音源を聴いて学習曲を復習する	160分
第10回	拡大されたロンド形式について	Carl Maria Friedrich Ernst von Weber “Aufforderung zum Tanz”	事前	音源を聴き形式を考える	110分
			事後	楽譜を見ながら音源を聴いて学習曲を復習する	160分
第11回	変奏曲①（基礎）	グループで変奏曲を作成	事前	Beethoven の SECHS VARIATIONEN の音源を聴く	110分
			事後	変奏曲の作成	160分
第12回	変奏曲②（応用）	グループで変奏曲を作成	事前	変奏曲の作成	110分
			事後	変奏曲の作成	160分
第13回	変奏曲③（変奏曲のグループ発表）		事前	作成した曲を演奏する	110分
			事後	作成した曲を演奏する	160分
第14回	変奏曲④（変奏曲のグループ発表をし感想を書く）		事前	作成した曲を演奏する	110分
			事後	前期の学習項目を復習する	160分
第15回	理解度確認テスト	仕上げとまとめ	事前	前期の学習項目を復習する	270分
			事後		分

フィードバック グループ発表の際のコメントなどを通して、学修成果をフィードバックする。

成績評価 グループ発表 40%、試験 40%、授業態度 20%

テキスト [参考図書] 野平一郎『ベートーヴェン ピアノソナタの探求』（春秋社）

オフィスアワー 授業後教室にて対応

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経歴・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

楽式論-2

非常勤講師 井上渚

科目コード：SLF202

対象コース／専門／学年： 器楽、声楽、GLA コース／全専門／2 年次

形態：講義	単位数：2 単位
概要	音楽の諸形式と内容の関連について考える。 楽式論-1 の応用として本年度大学オーケストラ定期演奏会の曲目を学習したのち、グループに分かれて短い楽曲の形式分析を発表する。
到達目標	あらかじめ形式を学習した曲を実際に演奏会（大学オーケストラ定期演奏会）で聞き、その利点を理解し、習慣とする。

授業計画		
第 1 回	カノンについて Johann Sebastian Bach “音楽の捧げもの”	事前 カノンの定義を確認する 事後 楽譜を見ながら音源を聴いて学習曲を復習する 110 分 160 分
第 2 回	フーガ① Johan Sebastian BACH “Das Wohltemperierte Klavier” 第 I 巻より no.8 Fugue BWV853	事前 フーガの定義を確認する 事後 楽譜を見ながら音源を聴いて学習曲を復習する 110 分 160 分
第 3 回	フーガ② Wolfgang Amadeus Mozart “Requiem” より II Kyrie eleison 他	事前 歌詞の内容を調べる 事後 楽譜を見ながら音源を聴いて学習曲を復習する 110 分 160 分
第 4 回	[大学オーケストラ定期演奏会曲目] Gioachino Antonio Rossini “泥棒かささぎ” 序曲	事前 作曲家について調べる 事後 楽譜を見ながら音源を聴いて学習曲を復習する 110 分 160 分
第 5 回	[大学オーケストラ定期演奏会曲目] Manuel de Fallay Matheu バレエ “三角帽子” から第 2 組曲	事前 作曲家について調べる 事後 楽譜を見ながら音源を聴いて学習曲を復習する 90 分 180 分
第 6 回	[大学オーケストラ定期演奏会曲目] Paul Hindemith “ウェーバーの主題による交響的変容”	事前 作曲家について調べる 事後 楽譜を見ながら音源を聴いて学習曲を復習する 110 分 160 分
第 7 回	単一旋律主題によるソナタ形式 Wolfgang Amadeus Mozart 『フルートとハープのための協奏曲』より第 II 楽章	事前 使われている楽器を確認する 事後 楽譜を見ながら音源を聴いて学習曲を復習する 110 分 160 分
第 8 回	ソナタ形式 19 世紀の作品から César Franck 「ヴァイオリンとピアノのためのソナタ」より第 IV 楽章	事前 時代背景について調べる 事後 楽譜を見ながら音源を聴いて学習曲を復習する 110 分 160 分
第 9 回	形式分析の試み①（基礎） Beethoven の Klaviersonaten より 1 楽章	事前 小節番号をふる 事後 より深く楽譜を読む 110 分 160 分
第 10 回	形式分析の試み②（応用） Beethoven の Klaviersonaten より 1 楽章	事前 小節番号をふる 事後 より深く楽譜を読む 110 分 160 分
第 11 回	形式分析の試み③（発展） Beethoven の Klaviersonaten より 1 楽章	事前 小節番号をふる 事後 より深く楽譜を読む 110 分 160 分
第 12 回	グループ発表①（基礎） Beethoven の Klaviersonaten より 1 楽章	事前 小節番号をふる 事後 より深く楽譜を読む 110 分 160 分
第 13 回	グループ発表②（応用） Beethoven の Klaviersonaten より 1 楽章	事前 小節番号をふる 事後 より深く楽譜を読む 110 分 160 分
第 14 回	グループ発表③（発展） Beethoven の Klaviersonaten より 1 楽章	事前 小節番号をふる 事後 より深く楽譜を読む 110 分 160 分
第 15 回	理解度確認テスト 仕上げとまとめ	事前 後期の学習項目を復習する 事後 270 分

フィードバック グループ発表の際のコメントなどを通して、学修成果をフィードバックする。

成績評価 グループ発表 40%、試験 40%、授業態度 20%

テキスト [参考図書] 野平一郎『ベートーヴェン ピアノソナタの探求』（春秋社）

オフィスアワー 授業後教室にて対応

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経歴・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

(演) 楽式論-1A

講師 高島亜生

科目コード: SLF201

対象コース/専門/学年: 演奏家コース/全専門/2 年次

形態: 講義・演習

単位数: 2 単位

概要 ドッペルドミナント各種、ドリア・ナポリの和音のバス課題、非和声音を含むソプラノ課題の実習を扱う。また基礎的な楽式を学び、簡潔な楽曲の分析を行う。

到達目標 和声法 S 及び A クラスを履修した学生を対象。西洋音楽を学ぶ際に必要な和声は楽曲の他の側面(旋律、対位法、リズム、終止、形式、様式、調構造)と切り離して考えることは出来ない。このような側面と歴史的発展を考慮しつつ、和声法の理論知識と実際の音楽とのつながりを深めていくため、4 声体書法実習を中心に楽曲分析も平行して行う。音楽解釈の向上と豊かな演奏表現を目指す。

授業計画		
【AL】		
第 1 回	これまで学習した和声法の確認	事前 これまでに勉強した和声のノートを復習する。 80 分 事後 実際の授業内容に応じて適宜指示。主に終わった課題をピアノで弾く。 200 分
第 2 回	さまざまな D2 和音/ドッペルドミナントー四声体和声理論	事前 P125~128 の説明を譜例はピアノで弾きながら読んでおく。 140 分 事後 実際の授業内容に応じて適宜指示。 140 分
第 3 回	さまざまな D2 和音/ドッペルドミナントー四声体和声実習	事前 ドッペルドミナントを用いた終止定型をピアノで弾く。 180 分 事後 実際の授業内容に応じて適宜指示。主に終わった課題をピアノで弾く。 100 分
第 4 回	ドッペルドミナントを含む楽曲分析	事前 第 18 回の授業最後に指示された楽曲中のドッペルドミナントの和音を探す。 100 分 事後 実際の授業内容に応じて適宜指示。 180 分
第 5 回	ドッペルドミナント下方変位ー四声体和声実習	事前 P128~130 の説明を譜例はピアノで弾きながら読んでおく。 180 分 事後 実際の授業内容に応じて適宜指示。主に終わった課題をピアノで弾く。 100 分
第 6 回	ドッペルドミナント下方変位を含む楽曲分析	事前 P324~325 分析編ードッペルドミナント下方変位 (a) ~ (d) の譜例をピアノで弾いておく。 160 分 事後 実際の授業内容に応じて適宜指示。 120 分
第 7 回	D2 諸和音のまとめ/総合問題	事前 P137,139 の譜例をピアノで弾いておく。 140 分 事後 実際の授業内容に応じて適宜指示。主に終わった課題をピアノで弾く。 140 分
第 8 回	ドリアの IV の和音 (実習と楽曲分析)	事前 P142 のドリアの IV の説明を譜例はピアノで弾きながら読んでおく。 120 分 事後 分析編 P329 課題 85-2 の和声分析をしましょう。 160 分
第 9 回	さまざまな S 和音 (実習と楽曲分析)	事前 P154,155 のさまざまな S 和音の説明を譜例はピアノで弾きながら読んでおく。 260 分 事後 実際の授業内容に応じて適宜指示。 20 分
第 10 回	転位・修飾/四声体和声ー理論	事前 P159~163 の転位音の説明を譜例はピアノで弾きながら読んでおく。 120 分 事後 実際の授業内容に応じて適宜指示。 160 分
第 11 回	転位・修飾/四声体和声ー実習 1	事前 P168~171 の 2 つの例題の手順を復習してピアノで弾いておく。 120 分 事後 実際の授業内容に応じて適宜指示。主に終わった課題をピアノで弾く。 160 分
第 12 回	転位・修飾/四声体和声ー実習 2 & 楽曲分析	事前 P171.172 課題 45 の課題を進める。 140 分 事後 実際の授業内容に応じて適宜指示。主に終わった課題をピアノで弾く。 140 分
第 13 回	転位・修飾/楽曲分析	事前 各自、専門楽器の学年末試験の中から任意の楽曲の和声や転位音を分析する (1)。 140 分 事後 各自、専門楽器の学年末試験の中から任意の楽曲の和声や転位音を分析する (2)。 140 分
第 14 回	異名同音的転調/楽曲分析	事前 P150~152 の異名同音的転調の説明を譜例はピアノで弾きながら読んでおく。 140 分 事後 分析編 P352 の異名同音的転調(a)~(c)の譜例をピアノで弾いておく。 140 分
第 15 回	第 1~14 回のまとめ/定期試験 2	事前 第 1~14 回の復習と定期試験 2 に向けて学習する。 140 分 事後 各自、専門楽器の学年末試験の中から任意の楽曲の和声や転位音を分析する (1)。 140 分

フィードバック 授業内で実施する確認テストや課題の添削により改善点や今後の学習方法を各自にコメントして伝える。

成績評価 定期試験 70%、小テスト 10%、宿題・課題 10%、授業への取り組み 10%

テキスト 島岡謙 (執筆責任) 『総合和声~実技・分析・原理』音楽之友社

五線紙を用意すること。
その他、使用する楽譜やテキストは必要に応じて指示する。適宜、プリントを配布する。

オフィスアワー 終了後に教室で受け付ける。E-mail: akopo.taka85@gmail.com

備考 和声法で学習した内容を復習しておくこと。宿題や課題をすること。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>					

(演) 楽式論-2A

講師 高島亜生

科目コード : SLF202

対象コース/専門/学年 : 演奏家コース/全専門/2 年次

形態 : 講義・演習

単位数 : 2 単位

概要 非和声音を含む自由ソプラノ課題や反復進行、AB 組み合わせを含むバス課題を扱う。また基礎的な楽式を学び、簡潔な楽曲の分析を行う。

到達目標 和声法 S 及び A クラスを履修した学生を対象。西洋音楽を学ぶ際に必要な和声は楽曲の他の側面（旋律、対位法、リズム、終止、形式、様式、調構造）と切り離して考えることは出来ない。このような側面と歴史的発展を考慮しつつ、和声法の理論知識と実際の音楽とのつながりを深めていくため、4 声体書法実習を中心に楽曲分析も平行して行う。音楽解釈の向上と豊かな演奏表現を目指す。

授業計画 [AL] Table with 15 rows (第1回 to 第15回) and columns for lesson content, pre/post tasks, and scores.

フィードバック 授業内で実施する確認テストや課題の添削により改善点や今後の学習方法を各自にコメントして伝える。

成績評価 定期試験 70%、小テスト 10%、宿題・課題 10%、授業への取り組み 10%

テキスト 島岡謙 (執筆責任) 『総合和声〜実技・分析・原理』音楽之友社
五線紙を用意すること。
その他、使用する楽譜やテキストは必要に応じて指示する。適宜、プリントを配布する。

オフィスアワー 終了後に教室で受け付ける。E-mail: akopo.taka85@gmail.com

備考 和声法で学習した内容を復習しておくこと。宿題や課題をすること。

学位授与の方針との関連

Table showing the relationship between course learning outcomes and degree requirements across various categories like knowledge, skills, and attitude.

(演) 楽式論-1B

非常勤講師 井元透馬

科目コード：SLF201

対象コース／専門／学年：演奏家コース／全専門／2 年次

形態：講義

単位数：2 単位

概要 和声法を履修済みの学生を対象とする。楽曲分析力を高め、調性に対する感覚を磨き豊かな音楽表現力を育むために和声法を学ぶ。

到達目標 基本的な和音による和声法の習熟度を深めるとともに、和声に彩を与える様々な和音を四声体和声書法の実習を通して理解する。楽曲の分析を行い、作曲家がその作品に対しどのような工夫を施したかを確認したうえで、表現法について考察する。

授業計画 下記の計画は四声体和声書法の実習についてのものである。ただし学生の能力に応じて予定を変更する場合がある。その他、与えられた旋律への伴奏付けや楽曲の分析を学生の習熟度に合わせて実施する。

第 1 回	ガイダンス 習熟度の確認	事前 既習事項の復習を十分に行う。 事後 実施した課題の誤りを訂正する。また実施した課題やその他の譜例をピアノで演奏する。	130 分 140 分
第 2 回	II 7 の配置・連結・II 7 を含むバス課題	事前 与えられた和声課題を実施する。 事後 実施した課題の誤りを訂正する。また実施した課題やその他の譜例をピアノで演奏する。	130 分 140 分
第 3 回	II 7 を含むソプラノ課題	事前 与えられた和声課題を実施する。 事後 実施した課題の誤りを訂正する。また実施した課題やその他の譜例をピアノで演奏する。	130 分 140 分
第 4 回	転調の導入	事前 与えられた和声課題を実施する。 事後 実施した課題の誤りを訂正する。また実施した課題やその他の譜例をピアノで演奏する。	130 分 140 分
第 5 回	転調を含むバス課題	事前 与えられた和声課題を実施する。 事後 実施した課題の誤りを訂正する。また実施した課題やその他の譜例をピアノで演奏する。	130 分 140 分
第 6 回	転調を含むソプラノ課題	事前 与えられた和声課題を実施する。 事後 実施した課題の誤りを訂正する。また実施した課題やその他の譜例をピアノで演奏する。	130 分 140 分
第 7 回	転調を含むバス課題・ソプラノ課題のまとめ	事前 与えられた和声課題を実施する。 事後 実施した課題の誤りを訂正する。また実施した課題やその他の譜例をピアノで演奏する。	130 分 140 分
第 8 回	副次固有和音の導入	事前 与えられた和声課題を実施する。 事後 実施した課題の誤りを訂正する。また実施した課題やその他の譜例をピアノで演奏する。	130 分 140 分
第 9 回	副 V 7 を含むバス課題	事前 与えられた和声課題を実施する。 事後 実施した課題の誤りを訂正する。また実施した課題やその他の譜例をピアノで演奏する。	130 分 140 分
第 10 回	副 V 7 を含むソプラノ課題	事前 与えられた和声課題を実施する。 事後 実施した課題の誤りを訂正する。また実施した課題やその他の譜例をピアノで演奏する。	130 分 140 分
第 11 回	副次固有和音の総括	事前 与えられた和声課題を実施する。 事後 実施した課題の誤りを訂正する。また実施した課題やその他の譜例をピアノで演奏する。	130 分 140 分
第 12 回	準固有和音の導入	事前 与えられた和声課題を実施する。 事後 実施した課題の誤りを訂正する。また実施した課題やその他の譜例をピアノで演奏する。	130 分 140 分
第 13 回	準固有和音を含むバス課題	事前 与えられた和声課題を実施する。 事後 実施した課題の誤りを訂正する。また実施した課題やその他の譜例をピアノで演奏する。	130 分 140 分
第 14 回	準固有和音を含むソプラノ課題	事前 与えられた和声課題を実施する。 事後 実施した課題の誤りを訂正する。また実施した課題やその他の譜例をピアノで演奏する。	130 分 140 分
第 15 回	総まとめ	事前 与えられた和声課題を実施する。 事後 実施した課題の誤りを訂正する。また実施した課題やその他の譜例をピアノで演奏する。	130 分 140 分

フィードバック 実施した課題の添削・解説によりフィードバックを行う。

成績評価 定期試験 80%、宿題の実施状況 10%、授業態度 10%

テキスト 島岡譲（執筆責任）『総合和声～実技・分析・原理』（音楽之友社）
その他、適宜、プリントを配布する。
五線ノートを用意すること。

オフィスアワー 授業終了後、教室にて

備考 実施した課題や譜例等を演奏し、理論を理解するとともに感覚を磨くことに努めること。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性							
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション能力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	

(演) 楽式論-2B

非常勤講師 井元透馬

科目コード：SLF202

対象コース／専門／学年：演奏家コース／全専門／2 年次

形態：講義

単位数：2 単位

概要 (演) 楽式論-1B を履修済みの学生を対象とする。楽曲分析力を高め、調性に対する感覚を磨き豊かな音楽表現力を育むために和声法を学ぶ。

到達目標 基本的な和音による和声法の習熟度を深めるとともに、和声に彩を与える様々な和音を四声体和声書法の実習を通して理解する。楽曲の分析を行い、作曲家がその作品に対しどのような工夫を施したかを確認したうえで、表現法について考察する。

授業計画 下記の計画は四声体和声書法の実習についてのものである。ただし学生の能力に応じて予定を変更する場合がある。その他、与えられた旋律への伴奏付けや楽曲の分析を学生の習熟度に合わせて実施する。

第1回	ガイダンス 習熟度の確認	事前 既習事項の復習を十分に行う。 事後 実施した課題の誤りを訂正する。また実施した課題やその他の譜例をピアノで演奏する。	130 分 140 分
第2回	転調・副V・準固有和音を含むバス課題	事前 与えられた和声課題を実施する。 事後 実施した課題の誤りを訂正する。また実施した課題やその他の譜例をピアノで演奏する。	130 分 140 分
第3回	転調・副V・準固有和音を含むソプラノ課題	事前 与えられた和声課題を実施する。 事後 実施した課題の誤りを訂正する。また実施した課題やその他の譜例をピアノで演奏する。	130 分 140 分
第4回	ナボリのII	事前 与えられた和声課題を実施する。 事後 実施した課題の誤りを訂正する。また実施した課題やその他の譜例をピアノで演奏する。	130 分 140 分
第5回	様々な借用和音を含む和声課題	事前 与えられた和声課題を実施する。 事後 実施した課題の誤りを訂正する。また実施した課題やその他の譜例をピアノで演奏する。	130 分 140 分
第6回	V9の和音の配置・連結	事前 与えられた和声課題を実施する。 事後 実施した課題の誤りを訂正する。また実施した課題やその他の譜例をピアノで演奏する。	130 分 140 分
第7回	V9を含むバス課題	事前 与えられた和声課題を実施する。 事後 実施した課題の誤りを訂正する。また実施した課題やその他の譜例をピアノで演奏する。	130 分 140 分
第8回	V9を含むソプラノ課題	事前 与えられた和声課題を実施する。 事後 実施した課題の誤りを訂正する。また実施した課題やその他の譜例をピアノで演奏する。	130 分 140 分
第9回	V7の根音省略形態の配置・連結	事前 与えられた和声課題を実施する。 事後 実施した課題の誤りを訂正する。また実施した課題やその他の譜例をピアノで演奏する。	130 分 140 分
第10回	V7の根音省略形態を含む和声課題	事前 与えられた和声課題を実施する。 事後 実施した課題の誤りを訂正する。また実施した課題やその他の譜例をピアノで演奏する。	130 分 140 分
第11回	ダブルドミナント諸和音の配置、連結	事前 与えられた和声課題を実施する。 事後 実施した課題の誤りを訂正する。また実施した課題やその他の譜例をピアノで演奏する。	130 分 140 分
第12回	ダブルドミナント諸和音を含む和声課題	事前 与えられた和声課題を実施する。 事後 実施した課題の誤りを訂正する。また実施した課題やその他の譜例をピアノで演奏する。	130 分 140 分
第13回	ダブルドミナント諸和音の第五音下方変位の配置・連結	事前 与えられた和声課題を実施する。 事後 実施した課題の誤りを訂正する。また実施した課題やその他の譜例をピアノで演奏する。	130 分 140 分
第14回	増6の和音	事前 与えられた和声課題を実施する。 事後 実施した課題の誤りを訂正する。また実施した課題やその他の譜例をピアノで演奏する。	130 分 140 分
第15回	総まとめ	事前 与えられた和声課題を実施する。 事後 実施した課題の誤りを訂正する。また実施した課題やその他の譜例をピアノで演奏する。	130 分 140 分

フィードバック 実施した課題の添削・解説によりフィードバックを行う。

成績評価 定期試験 80%、宿題の実施状況 10%、授業態度 10%

テキスト 島岡譲（執筆責任）『総合和声～実技・分析・原理』（音楽之友社）
その他、適宜、プリントを配布する。
五線ノートを用意すること。

オフィスアワー 授業終了後、教室にて

備考 実施した課題や譜例等を演奏し、理論を理解するとともに感覚を磨くことに努めること。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション能力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	

芸術社会学-1

非常勤講師 三枝まり

科目コード：CAR201

対象コース/専門/学年：全コース/全専門/2 年次

形態：講義

単位数：2 単位

概要 音楽は社会や政治の歩みと密接に関連している。近代化の過程で、音楽が歴史的・社会的にどのように位置づけられてきたのか、トピックごとに取りあげ、音楽に与える社会の影響や社会において音楽が持つ意味について考察する。

到達目標

1. 音楽をとりまく社会と文化を総合的に理解する多角的な視野を養い、音楽を通じて社会を論じることができるようになる。
2. 自分なりの視点で音楽文化の形成について理解し、これからの日本の社会の中でどのように音楽と向き合っていきたいかを考えることができる。

授業計画 ※

第1回	音楽と社会（総論）	事前 授業に期待することを頭の中でまとめておく（授業でリアクションペーパーに記入） 事後 レジュメに基づいて授業の内容を再確認し、関連する作品を実際に聴く。	130 分 140 分
第2回	音楽家の生活と演奏会の成立	事前 音楽家と呼ばれる人々はどのような存在か考えてみる。 事後 レジュメに基づいて授業の内容を再確認し、関連する作品を実際に聴く。	130 分 140 分
第3回	クラシックの聴衆社会層	事前 19 世紀ヨーロッパの一般的な世界史の知識を得ておく。 事後 レジュメに基づいて授業の内容を再確認し、関連する作品を実際に聴く。	130 分 140 分
第4回	出版、著作権と音楽	事前 著作権について調べる。 事後 レジュメに基づいて授業の内容を再確認し、関連する作品を実際に聴く。	130 分 140 分
第5回	近代化と楽器	事前 楽器を通してどのような音楽観が抱かれてきたのか考える。 事後 レジュメに基づいて授業の内容を再確認し、関連する作品を実際に聴く。	130 分 140 分
第6回	近代国家としての日本	事前 明治初期の日本の近代化政策と音楽について調べてくる。 事後 レジュメに基づいて授業の内容を再確認し、関連する作品を実際に聴く。	130 分 140 分
第7回	学校教育の中の音楽—東京音楽学校における音楽教育と今日の課題	事前 学校教育で印象に残っている音楽が、自分にどのような影響を与えたか考える。 事後 レジュメに基づいて授業の内容を再確認し、関連する作品を実際に聴く。	130 分 140 分
第8回	国家と音楽	事前 明治時代以降の日本史の知識を得ておく。 事後 レジュメに基づいて授業の内容を再確認し、関連する作品を実際に聴く。	130 分 140 分
第9回	大正デモクラシーと音楽	事前 大正デモクラシーについて知識を得ておく。 事後 レジュメに基づいて授業の内容を再確認し、関連する作品を実際に聴く。	130 分 140 分
第10回	宝塚歌劇団の意義	事前 任意の宝塚歌劇団の映像資料を見てくる。 事後 レジュメに基づいて授業の内容を再確認し、関連する作品を実際に聴く。	130 分 140 分
第11回	吹奏楽の広がり—軍隊、民間の楽隊、学校や職業での吹奏楽	事前 自分の周りにおける吹奏楽団の活動状況とレパートリーについて調べる。 事後 レジュメに基づいて授業の内容を再確認し、関連する作品を実際に聴く。	130 分 140 分
第12回	戦争と音楽—戦時歌謡、絶対音感教育	事前 昭和時代の日本史の知識を得ておく。 事後 レジュメに基づいて授業の内容を再確認し、関連する作品を実際に聴く。	130 分 140 分
第13回	戦争と音楽—作曲界の動向	事前 伝統音楽の演奏を聴いてくる。 事後 レジュメに基づいて授業の内容を再確認し、関連する作品を実際に聴く。	130 分 140 分
第14回	海外への日本文化の発信—近衛秀麿	事前 好きな指揮者の活動とレパートリーについて調べる。 事後 レジュメに基づいて授業の内容を再確認し、関連する作品を実際に聴く。	130 分 140 分
第15回	前期のまとめ	事前 前期に学んだことを復習し、レポートに書く内容を整理する。 事後 関連する作品を実際に聴く。	130 分 140 分

フィードバック 必要に応じて提出物にコメントを加えることによりフィードバックする。また、理解度に応じてシラバスの内容を変更する。

成績評価 期末論述テスト 40%、平常点(リアクションペーパー等の提出物、授業態度)60%

テキスト 講義内で配布するレジュメに参考文献を掲載する。

オフィスアワー 原則として授業終了後に教室にて。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経歴・多様性							
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲	
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>					

芸術社会学-2

非常勤講師 三枝まり

科目コード：CAR202

対象コース/専門/学年：全コース/全専門/2 年次

形態：講義

単位数：2 単位

概要 音楽は社会や政治の歩みと密接に関連している。近代化の過程で、音楽が歴史的・社会的にどのように位置づけられてきたのか、トピックごとに取りあげ、音楽に与える社会の影響や社会において音楽が持つ意味について考察する。

到達目標

1. 音楽をとりまく社会と文化を総合的に理解する多角的な視野を養い、音楽を通じて社会を論じることができるようになる。
2. 自分なりの視点で音楽文化の形成について理解し、これからの日本の社会の中でどのように音楽と向き合っていきたいかを考えることができる。

授業計画		事前	事後	130 分
第 1 回	日本におけるオーケストラ	日本のプロオーケストラの数と場所を調べる。	レジュメに基づいて授業の内容を再確認し、関連する作品を実際に聴く。	140 分
第 2 回	戦後日本の文化と音楽	戦後の日本史についての知識を得ておく。	レジュメに基づいて授業の内容を再確認し、関連する作品を実際に聴く。	140 分
第 3 回	社会主義運動と音楽	社会主義運動とは何かを調べる。	レジュメに基づいて授業の内容を再確認し、関連する作品を実際に聴く。	140 分
第 4 回	音楽趣味の形成と大衆化	これまで習った習い事を思い出し、自分にどのような影響を与えたか考える。	レジュメに基づいて授業の内容を再確認し、関連する作品を実際に聴く。	140 分
第 5 回	経済活動と音楽—音楽祭、都市計画、ホール運営	日本の音楽祭について調べる。	レジュメに基づいて授業の内容を再確認し、関連する作品を実際に聴く。	140 分
第 6 回	音楽とジェンダー	任意の曲を選び、歌詞において女性/男性がどのように描かれているか調べる。	レジュメに基づいて授業の内容を再確認し、関連する作品を実際に聴く。	140 分
第 7 回	映画の中の音楽	映画音楽で表される「日本」について、事例をできる限り探す。	レジュメに基づいて授業の内容を再確認し、関連する作品を実際に聴く。	140 分
第 8 回	ポピュラー音楽の諸相	任意の曲を選び、音楽と歌詞の特徴を見つける。	レジュメに基づいて授業の内容を再確認し、関連する作品を実際に聴く。	140 分
第 9 回	世界の音楽の受容	自分が関心を持つ国でどのような音楽が演奏されているのか調べる。	レジュメに基づいて授業の内容を再確認し、関連する作品を実際に聴く。	140 分
第 10 回	社会の中の音楽療法	音楽療法の歴史について調べる。	レジュメに基づいて授業の内容を再確認し、関連する作品を実際に聴く。	140 分
第 11 回	芸は身を助く?	第二次世界大戦時のヨーロッパの一般的な世界史の知識を得ておく。	レジュメに基づいて授業の内容を再確認し、関連する作品を実際に聴く。	140 分
第 12 回	今日のアートと社会	身の回りでなされている、社会と音楽をつなぐ取り組みについて調べる。	レジュメに基づいて授業の内容を再確認し、関連する作品を実際に聴く。	140 分
第 13 回	保育における音楽—パネルシアターを学ぶ	どのような音楽が保育現場で用いられているか調べる。	レジュメに基づいて授業の内容を再確認し、関連する作品を実際に聴く。	140 分
第 14 回	保育における音楽—パネルシアターの実践	発表の練習をする。	レジュメに基づいて授業の内容を再確認し、関連する作品を実際に聴く。	140 分
第 15 回	後期のまとめ	後期に学んだことを復習し、レポートに書く内容を整理する。	関連する作品を実際に聴く。	140 分

フィードバック 講義の始めに復習の時間を設けるとともに、必要に応じて提出物にコメントを加えることによりフィードバックする。また、理解度に応じてシラバスの内容を変更する。

成績評価 期末論述テスト 40%、平常点(リアクションペーパー等の提出物、授業態度)60%

テキスト 講義内で配布するレジュメに参考文献を掲載する。

オフィスアワー 原則として授業終了後に教室にて。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経歴・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>					

卒業演習

教授 山内雅子

科目コード：EDU401/EDU402

対象コース/専門/学年：GLA コース/音楽教育専門/4 年次

形態：通年

単位数：4 単位

概論 卒業論文執筆に向け、3年次の「演習（音楽教育 A）」での学修を基に、具体的な論文執筆に入り 12 月中に書きあげて提出する。7 月には中間発表会、1 月には論文審査の口頭試問、3 月には大学内外に向けて、卒業論文口述発表会を行う。

到達目標 音楽教育の研鑽を通じて、各自選んだテーマで研究を行う。論文の形にまとめ、口頭での要約発表を行うことを目標とする。文献調査と整理の基本的スキルを身に付けると共に、教育実践の現場から学び、また課題を読み取る能力を養い、それらを基に自己の考えをまとめ、プレゼンテーションする能力を鍛錬する。

授業計画

【AL】

第 1 回	各自の研究テーマについて確認し、研究のゴールの形を見据える。	事前 3 年次の演習で積み上げた研究内容を A4 1 枚にまとめて持参する。 事後 卒業論文（論文）の書き方を、先輩の論文を 2 本読んで学ぶ。	130 分 140 分
第 2 回	卒業演習・論文の意義	事前 卒業論文（論文）の書き方を、先輩の論文を 2 本読んで学ぶ。 事後 卒業論文（論文）の意義を、先輩の論文を 2 本読んで考える。	130 分 140 分
第 3 回	卒業演習・論文の進め方	事前 自分が卒業論文で取り組もうとする内容を、再度見直して行く。 事後 講義をうけて、卒業論文の方向を決定し、プロットを考える。	130 分 140 分
第 4 回	プロットの検討	事前 先輩の論文を参考にして、プロットをたてて行く。 事後 講義を受けて、プロットを修正する。	130 分 140 分
第 5 回	研究方法の検討	事前 研究方法を考え、検討資料を作成する。 事後 講義を受けて、研究方法を修正する。	130 分 140 分
第 6 回	文献研究 1	事前 事前に提示された適切な先行研究 a のレビューを行い、検討資料を作成する。 事後 講義を受けて、先行研究 a の成果と課題をまとめる。	130 分 140 分
第 7 回	文献研究 2	事前 事前に提示された適切な先行研究 b のレビューを行い、検討資料を作成する。 事後 講義を受けて、先行研究 b の成果と課題をまとめる。	130 分 140 分
第 8 回	フィールド研究 1（学校訪問・授業参観等）	事前 訪問する学校の教育活動について、インターネットを利用して把握する。 事後 学校訪問、授業参観、講話の内容を論文にまとめる。	130 分 140 分
第 9 回	フィールド研究 1 の分析と考察	事前 学校訪問、授業参観、講話の内容を考察し、検討資料を作成する。 事後 講義を受けて、事前課題の修正を行う。	130 分 140 分
第 10 回	フィールド研究 2（学校訪問・授業参観等）	事前 訪問する学校の教育活動について、インターネットを利用して把握する。 事後 学校訪問、授業参観、講話の内容を論文にまとめる。	130 分 140 分
第 11 回	フィールド研究 2 の分析と考察	事前 学校訪問、授業参観、講話の内容を考察し、検討資料を作成する。 事後 講義を受けて、事前課題の修正を行う。	130 分 140 分
第 12 回	研究の方向の修正	事前 これまでの文献研究、フィールド研究を受けて、研究の方向を修正し、検討資料を作成する。 事後 講義を受けて、プロット、研究方法の修正を行う。	130 分 140 分
第 13 回	これまでの研究のまとめ	事前 中間報告会に向けて、これまでの研究をまとめ、発表内容の原案を作成する。 事後 講義を受けて、発表内容を修正する。	130 分 140 分
第 14 回	中間報告：レジュメ作成	事前 中間発表のレジュメを作成する。 事後 講義を受けて、中間発表のレジュメを修正する。	130 分 140 分
第 15 回	中間報告：口頭発表	事前 口頭発表の発表原稿を作成する。 事後 発表会で受けた質問や課題を受け止め、足りない部分を明らかにする。	130 分 140 分
第 16 回	新たな課題の提起 プロットの修正	事前 研究内容について、軌道修正を行い、プロット他の修正案を作成する。 事後 講義を受けて、今後の研究の方向を明らかにする。	130 分 140 分
第 17 回	文献研究 3	事前 更に、理論研究が必要となった部分に関しての文献研究を行い、検討資料を作成する。 事後 講義を受けて、更なる課題を明確に、他の文献も検索し、入手する。	130 分 140 分
第 18 回	フィールド研究 3（学校訪問等）	事前 訪問する学校（等）について、インターネットで事前に学習する。 事後 訪問した学校（等）で学んだことを、論文にまとめる。	130 分 140 分
第 19 回	フィールド研究 3 の分析と考察	事前 学校訪問で得た内容を、論文に入れ込む。 事後 講義を受けて、原稿の修正を行う。	130 分 140 分
第 20 回	論文作成 1 プロット・研究の方法の確定	事前 第 19 回までの学修の全てを見直し、プロットの見直しをし、検討資料を作成する。 事後 講義を受けて、プロットを確定する。	130 分 140 分
第 21 回	論文作成 2 序章の修正・第 1 章の加筆修正	事前 論文の完成に向けて、序章から第 1 章を見直し、加筆修正を行う。 事後 講義を受けて、序章と第 1 章を仕上げる。	130 分 140 分
第 22 回	論文作成 3 第 2 章の執筆	事前 論文の完成に向けて、第 2 章を見直し、加筆修正を行う。 事後 講義を受けて、第 2 章の加筆修正を行う。	130 分 140 分
第 23 回	論文作成 4 第 3 章の執筆	事前 論文の完成に向けて、第 3 章を見直し、加筆修正を行う。 事後 講義を受けて、第 2 章の加筆修正を行う。	130 分 140 分
第 24 回	論文作成 5 終章の執筆	事前 論文の完成に向けて、終章を見直し、加筆修正を行う。 事後 講義を受けて、第 2 章の加筆修正を行う。	130 分 140 分
第 25 回	論文作成 6 脚注・引用・参考文献のチェック	事前 脚注・引用・参考文献の頁を執筆する。 事後 講義を受けて、脚注・引用・参考文献について加筆修正する。	130 分 140 分
第 26 回	論文要旨作成と全体的見直し	事前 論文の要旨を作成する。 事後 講義を受けて、論文の要旨を修正する。	130 分 140 分
第 27 回	発表レジュメ作成と全体的見直し	事前 発表のレジュメを作成する。 事後 講義を受けて、レジュメの修正を行う。	130 分 140 分
第 28 回	論文発表準備	事前 論文発表に向けて、パワーポイントを作成する。 事後 講義を受けて、パワーポイントを修正する。	130 分 140 分
第 29 回	論文発表	事前 発表原稿を作成する。 事後 卒業論文審査での指導助言を受けて、要旨、並びに論文を修正する。	130 分 140 分
第 30 回	まとめ	事前 論文、並びに要旨を仕上げ、提出する。 事後 卒業後の新しい仕事の中で、研究したことを生かしていく課題意識を明確にする。	130 分 140 分

フィードバック 学生が事前に準備してきた内容を授業内で検討し、新たな課題を見出す形で進めていく。授業内での討議、指導がフィードバックにあたり、フィードバックされた内容を生かして、次週に向け新たな課題に取り組む。

成績評価 卒業論文と卒業論文口頭試問によって評価する。具体的には、論文の形式、目的、方法、内容、参考文献の記載方法等が適切であるかを評価する。なお、評価の対象とはしないが、7 月上旬に卒業論文の中間報告が義務づけられる。

テキスト ・中学校学習指導要領解説 音楽編 平成 29 年

オフィスアワー 疑問・質問は授業後随時対応する。また Email での論文添削も随時行う。

備考 正規の演習時間外に演習の時間を設定する場合がある。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・目的意識	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>										

卒業演習

教授 上尾信也

科目コード：MUS401/MUS402

対象コース/専門/学年：MRコース/音楽学専門/4年次

形態：演習	単位数：4単位
概要	音楽学・音楽史での研鑽を通じて、各自選んだテーマで研究を行う。論文のかたちにもとめ、口頭での要約発表を行うことを目標とする。文献調査と整理の基本的スキル、音楽に関わる外国語によるコミュニケーション、および自己の考えのプレゼンテーション能力を鍛錬する。
到達目標	卒業論文の作成、中間発表、口頭発表の実践を目指す。論理的思考、資料を用いた説明、口頭によるプレゼンテーション能力を実践的に学び、多方面に生かせる経験を積む。

授業計画		
【AL】		
第1回	論文とは	事前 過去の卒業論文の検索 事後 IPACでの検索法を学ぶ 110分 170分
第2回	論文の意義・構成・書法	事前 論文の書き方を用意する 110分 事後 論文の書き方に従って、参考文献表をつくる 170分
第3回	研究の進め方1：テーマ	事前 関心のあるテーマを箇条書きにする 110分 事後 それぞれのテーマについてのキーワードを考え、検索する 170分
第4回	研究の進め方2：仮説と証明	事前 検索に当たった論文を読んでみる 110分 事後 授業で参考となった論文を書法の点から分析する 170分
第5回	文献調査の実際1：文献の性格	事前 関心のある分野のキーワードを考える 110分 事後 様々なデータベースの文献検索を試みる 170分
第6回	文献調査の実際2：整理法	事前 文献検索の結果を電子媒体に保存する 110分 事後 ワード、電子媒体の保存ファイルを作成する 170分
第7回	非文献資料の活用	事前 非文献資料とは何か調査する 110分 事後 非文献資料の実際を調査する 170分
第8回	楽譜資料の扱い方：楽譜の性格	事前 『新グローヴ世界音楽大事典』などから「記譜法」「楽譜」の項目を読む 110分 事後 関心のある作品の楽譜を調査する(petrucci) 170分
第9回	楽譜資料の扱い方：楽譜の活用	事前 Petrucciの検索結果を整理する 110分 事後 対象楽譜の性格を、作曲家の作品全集・目録より整理する 170分
第10回	文献調査実習の方法と構成との関連	事前 研究テーマを決める、研究の進め方を確認する、キーワードを整理する 110分 事後 研究テーマからどのような論理展開にするかを考える、何がポイントかを整理する 170分
第11回	実習：文献調査1：日本語文献	事前 先行研究を調査する(広い範囲で) 110分 事後 日本語文献の検索調査、整理 170分
第12回	実習：文献調査2：外国語文献	事前 日本語文献で参照引用されていた原文を調査する 110分 事後 外国語文献の検索調査、整理 170分
第13回	実習：文献調査3：インターネットの活用	事前 必要不必要な文献、重要度を見定める 110分 事後 中間発表用のレジュメをつくってみる 170分
第14回	中間報告1：レジュメ	事前 中間発表用のレジュメの整理と制作、参考文献リスト 110分 事後 レジュメ以外の資料を整理 170分
第15回	中間報告2：口頭発表	事前 口頭報告の準備 80分 事後 口頭報告の指摘の整理、再構築 200分
第16回	新たな課題の提起：構成と文献整理	事前 文献の読み込み 140分 事後 文献の読み込み 140分
第17回	実習：構成と文献整理1：目次作成	事前 文献の読み込み 140分 事後 文献の読み込みと整理 140分
第18回	実習：構成と文献整理2：参考文献と引用文献	事前 文献の読み込みと整理 140分 事後 文献の読み込みと整理 140分
第19回	実習：構成と文献整理3：概要	事前 文献の読み込みと整理 140分 事後 文献の読み込みと整理 140分
第20回	実習：構成と文献整理4：各論	事前 文献の読み込みと整理 140分 事後 文献の読み込みと整理 140分
第21回	実習：構成と文献整理5：注	事前 文献の読み込みと整理 140分 事後 文献の読み込みと整理 140分
第22回	実習：論文作成1：ワードなどのツール活用	事前 文献の整理 140分 事後 草稿作成 140分
第23回	実習：論文作成2：ツールを用いた実習	事前 草稿作成 140分 事後 草稿作成 140分
第24回	実習：論文作成3：概要	事前 草稿作成 140分 事後 草稿作成 140分
第25回	実習：論文作成4：注記と参考・引用文献	事前 草稿作成 140分 事後 原稿校正 140分
第26回	実習：要旨作成と発表レジュメ	事前 原稿作成 140分 事後 原稿完成 140分
第27回	実習：校正と再考	事前 要旨作成 170分 事後 資料整理 110分
第28回	論文発表の方法	事前 発表用原稿の作成 170分 事後 発表用原稿の校正 110分
第29回	論文発表の実際	事前 準備 200分 事後 発表後の訂正 80分
第30回	まとめ	事前 論文の自己評価 140分 事後 問題点 140分

フィードバック 授業内での質疑応答と、卒業論文作成の進捗に応じての資料に関する個別相談などの機会を設ける

成績評価 受講状況と、研究発表、レポート、卒業論文、および口頭試問の評価。

テキスト 参考文献はその都度提示する。

オフィスアワー 授業終了後

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	

卒業演習

客員教授 原源郎

科目コード：MGT401/MGT402

対象コース/専門/学年：GLAコース/文化創造マネジメント専門/4年次

形態：講義

単位数：4単位

概要 卒業演習（制作）と卒業論文のそれぞれに選んだテーマによるグループ個人指導を行う。

到達目標 文化創造マネジメントの研鑽を通じて、各自選んだ課題で研究を行う。論文や制作レポートをまとめ、口頭でも要約発表も行うことを目標とする。文献調査と必要なデータ整理のスキルを身に付けると共に、論理的作業能力を養い課題を読み取る能力、それらを基に自己の考えをまとめ、プレゼンテーションする能力を鍛錬する。また、演習（制作）では課題の制作計画を立て、それに基づく目的、目標の成果を出すべく、マネジメントスキルの演習を行うことと、それをレポートに集約して発表する。

授業計画			【AL】		
第1回	各自の研究卒業演習・論文について確認し、計画表を作成。	事前 3年次の演習で積み上げた内容をA4 1枚にまとめて持参。コンサート研修鑑賞 事後 卒業論文・演習レポートの書き方を、関連書を読んで学ぶ。	120分	150分	
第2回	卒業演習・論文の意義	事前 卒業論文・演習レポートの書き方を、関連書を読んで学ぶ。コンサート研修鑑賞 事後 論文の意義を、他者の論文を読んで考える。	120分	150分	
第3回	卒業演習・論文の進め方	事前 卒業論文・演習の内容を、再度見直し。コンサート研修鑑賞 事後 講義をうけて、卒業論文・演習の方向を決定し、構成を考える。	120分	150分	
第4回	論文・演習の構想再検討	事前 他の論文を参考にして、構想を考えてくる。コンサート研修鑑賞 事後 講義を受けて、内容の修正をする。	120分	150分	
第5回	論文・演習の方法の検討	事前 他の論文を参考にして、検討資料を作成する。コンサート研修鑑賞 事後 講義を受けて、内容の修正をする。	120分	150分	
第6回	論文・演習の文献研究1	事前 事前に配布又は提示された適切な論文・演習のレビューを行う。コンサート研修鑑賞 事後 論文・演習の課題をまとめる。	120分	150分	
第7回	論文・演習の文献研究2 (Hakuju Hall 5/23 夜のコンサートサポート現地実習)	事前 論文・演習の課題をまとめる。個々のテーマに添った実習先1を調べる。コンサート研修鑑賞 事後 講義を受けて、論文・演習の修正と成果をまとめる。	120分	150分	
第8回	実習研究1 (論文・演習のテーマに関連する講義やコンサートを選定して研究実習)	事前 個々のテーマに添った実習先を調べる。コンサート研修鑑賞 事後 実習先の内容を論文・演習レポートにまとめる。	120分	150分	
第9回	実習研究1の分析と考察	事前 実習先の内容を論文・演習レポートに纏める。個々のテーマに添った実習先2を調査。コンサート研修鑑賞 事後 講義を受けて、事前課題の修正を行う。個々のテーマに添った実習先を調べる。	120分	150分	
第10回	実習研究2 (論文・演習のテーマに関連する講義やコンサートを選定して研究実習)	事前 個々のテーマに添った実習先を調べる。コンサート研修鑑賞 事後 実習の内容を論文・演習レポートにまとめる。	120分	150分	
第11回	実習研究2の分析と考察	事前 実習の内容を考察し、検討資料を作成する。コンサート研修鑑賞 事後 講義を受けて、課題の修正を行う。実習先の内容を論文・演習レポートに纏める。	120分	150分	
第12回	研究の方向の修正	事前 これまでの文献研究、実習研究を受けて、方向を修正し、検討資料を作成。コンサート研修鑑賞 事後 講義を受けて、内容構成、研究方法の修正を行う。	120分	150分	
第13回	これまでの研究のまとめ	事前 中間報告会に向けて、これまでの研究をまとめ、発表内容の原案を作成する。コンサート研修鑑賞 事後 講義を受けて、発表内容を修正する。	120分	150分	
第14回	中間報告：レジュメ作成	事前 中間発表のレジュメを作成する。コンサート研修鑑賞 事後 講義を受けて、中間発表のレジュメを修正する。	120分	150分	
第15回	中間報告：口頭発表	事前 口頭発表の発表原稿を作成する。コンサート研修鑑賞 事後 発表会で受けた質問や課題を受け止め、足りない部分を補足。個々のテーマに添った実習先3を調べる。	120分	150分	
第16回	新たな課題の提起 構成の修正	事前 研究内容について、軌道修正を行い修正案を作成する。コンサート研修鑑賞 事後 講義を受けて、今後の研究の方向を明らかにする。	120分	150分	
第17回	実習研究3 (論文・演習のテーマに関連した講義やコンサートを選定して研究実習)	事前 理論研究が必要となった部分に関しての文献研究を行い、検討資料を作成する。コンサート研修鑑賞 事後 講義を受けて、更なる課題を明確に、他の文献も検索し、入手する。	120分	150分	
第18回	実習研究3の分析と考察	事前 実習について、インターネットで事前に学習する。コンサート研修鑑賞 事後 訪問した学校（等）で学んだことを、論文にまとめる。	120分	150分	
第19回	実習研究3のまとめ	事前 学習先の内容を論文・演習レポートにまとめる。コンサート研修鑑賞 事後 講義を受けて、原稿の修正を行う。	120分	150分	
第20回	論文作成1・演習レポート 内容、構成の方法について	事前 第19回までの学修の全てを見直し、プロットの見直しをし、検討資料を作成する。コンサート研修鑑賞 事後 講義を受けて、プロットを確定する。	120分	150分	
第21回	論文作成2・演習レポート 修正・第2章 加筆修正	事前 論文の完成に向けて、序章から第1章を見直し、加筆修正を行う。コンサート研修鑑賞 事後 講義を受けて、序章と第1章を仕上げる。	120分	150分	
第22回	論文作成3・演習レポート 修正・第2章の加筆修正	事前 論文の完成に向けて、第2章を見直し、加筆修正を行う。コンサート研修鑑賞 事後 講義を受けて、第2章の加筆修正を行う。	120分	150分	
第23回	論文作成4・演習レポート 修正・第3章の加筆修正	事前 論文の完成に向けて、第3章を見直し、加筆修正を行う。コンサート研修鑑賞 事後 講義を受けて、第3章の加筆修正を行う。	120分	150分	
第24回	論文作成5・演習レポート 修正・終章の加筆修正	事前 論文の完成に向けて、終章を見直し、加筆修正を行う。コンサート研修鑑賞 事後 講義を受けて、終章の加筆修正を行う。	120分	150分	
第25回	論文作成6・演習レポート 脚注・引用・参考文献のチェック	事前 脚注・引用・参考文献の頁を執筆する。コンサート研修鑑賞 事後 講義を受けて、脚注・引用・参考文献について加筆修正する。	120分	150分	
第26回	論文要旨作成・演習レポートの全体の見直し	事前 論文・演習レポートの要旨を見直す。コンサート研修鑑賞 事後 講義を受けて、論文演習レポートの要旨を修正する。	120分	150分	
第27回	発表レジュメ作成と全体の見直し	事前 発表のレジュメを作成する。コンサート研修鑑賞 事後 講義を受けて、レジュメの修正を行う。	120分	150分	
第28回	論文発表・演習レポート準備	事前 論文発表に向けて、パワーポイントを作成する。コンサート研修鑑賞 事後 講義を受けて、パワーポイントを修正する。	120分	150分	
第29回	論文・演習レポート発表	事前 発表原稿を作成する。コンサート研修鑑賞 事後 卒業論文審査での指導助言を受けて、要旨、並びに論文を修正する。	120分	150分	
第30回	まとめ	事前 論文、並びに要旨を仕上げ、提出する。コンサート研修鑑賞 事後 卒業後の新しい仕事の中で、研究したことを生かしていく課題意識を明確にする。	120分	150分	

フィードバック 授業内で個々のテーマに添った内容でフィードバックをする。

成績評価 卒業論文と卒業制作（演習）のレポートの内容と面接によって評価する。

テキスト 未定 参考：Cashvertising by Drew Eric Whitman

オフィスアワー 疑問・質問は授業中随時対応する。また Email での論文添削も随時行う。

備考 正規の演習時間外に演習の時間を設定する場合がある。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>											

専門実技 I-1 (ピアノ)

ピアノ部会主任 教授 山崎紫乃

科目コード: IND101

対象コース/専門/学年: 器楽コース/ピアノ専門/1年次

形態: 実技

単位数: 4 単位

概要 演奏の基本的な技術の習得と、バロック作品の様式を学ぶ。

到達目標 音階、分散和音を通じて打鍵の基礎を見直し、和声感を養う。
更に、バロック作品で多声音楽技法と舞曲形式を学び、様式観を伴った表現力を身に付ける。

授業計画 前期 15 回、各人 60 分の個人指導

第 1 回	ガイダンス 前期の学習計画を立てる	事前 現状の自己分析をし、課題を明確に考える。 事後 課題曲の設定。	320 分 520 分
第 2 回	音階 練習曲(1)手の形と打鍵法	事前 音階の練習。 事後 スムーズな音階演奏の反復練習。課題曲の読譜。	320 分 520 分
第 3 回	音階 練習曲(2)指の強化	事前 様々な運指法、打鍵法の研究。 事後 打鍵の強さ、スピード、角度の研究。課題曲の読譜。	320 分 520 分
第 4 回	分散和音 練習曲(1)和声感を養う	事前 分散和音のスムーズな奏法を研究、反復練習。 事後 和声を感じながら音のまとまりをとらえて練習する。課題曲の読譜。	320 分 520 分
第 5 回	分散和音 練習曲(2)正確な打鍵	事前 まとまりを意識して弾く練習。 事後 手指の準備と理想的な形を追求する。課題曲の読譜。	320 分 520 分
第 6 回	バロック様式について	事前 バロック作品の特徴を調べる。 事後 バロック作品の特徴を意識して作品を分析する。	320 分 520 分
第 7 回	指使い	事前 指使いを研究する。 事後 音型、楽句に合った指使いの設定。	320 分 520 分
第 8 回	奏法(装飾音)	事前 様々な装飾音を調べる。 事後 バロックの装飾音の研究。	320 分 520 分
第 9 回	奏法(アーティキュレーション)	事前 楽句を区切る。 事後 楽句ごとの音楽的なアーティキュレーションの研究。	320 分 520 分
第 10 回	リズム	事前 リズムを正確に練習。 事後 生きたリズムの奏法を練習。	320 分 520 分
第 11 回	様式、形式について	事前 作品の構成を考え、バロックの様式を調べる。 事後 作品の全体像、奏法を研究する。	320 分 520 分
第 12 回	楽曲の性格	事前 作品のテンポ、リズム、調性、拍子などから性格を読み取る。 事後 性格を的確に捉え、表現法を研究する。	320 分 520 分
第 13 回	前期 表現法	事前 性格を踏まえ相応しい表現の工夫。 事後 表現に相応しい奏法、音色、音質の研究と反復練習。	320 分 520 分
第 14 回	前期 表現法の掘り下げと仕上げ	事前 学習内容の再確認と反復練習。 事後 演奏の質と技術の向上を目指し反復練習。	320 分 520 分
第 15 回	前期 成果の発表	事前 構成やバランスを意識して反復練習。 事後 音楽の形がクリアに表現できたか自己分析。	320 分 520 分

フィードバック 実技試験後、担当教員及び審査員のコメントを聞くことができる。

成績評価 実技試験により評価する。評価は複数の審査員の採点による。

テキスト 各自の進度に合わせて適宜選定する。試験曲はピアノ専門・演奏試験要項に基づき選定する。

オフィスアワー レッスン終了後、各実技担当者のレッスン室にて受け付ける。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

専門実技 I-2 (ピアノ)

ピアノ部会主任 教授 山崎紫乃

科目コード: IND102

対象コース/専門/学年: 器楽コース/ピアノ専門/1年次

形態: 実技

単位数: 4 単位

概要 演奏の基本的な技術の習得と、古典作品の様式を学ぶ。

到達目標 音階、分散和音を通じて、脱力とより自然な奏法について研究し、習得する。
更に、古典ソナタと変奏曲を通じて、構成力や立体的な表現力を身につけると共に、様式理解を深める。

授業計画 後期 15 回、各人 60 分の個人指導

回数	内容	事前	事後	時間
第 1 回	後期の学習計画を立てる	自己分析をし、課題の確認。	課題曲の設定。	320 分
第 2 回	音階 練習曲(3)脱力	手腕の状態を意識して練習。	脱力の確認と実践。課題曲の読譜。	320 分
第 3 回	分散和音 練習曲(3)手首の脱力	手腕の状態を意識して練習。	特に手首の脱力と自然な奏法を研究、練習。課題曲の読譜。	320 分
第 4 回	古典派様式について	古典派様式について調べる。	様式を踏まえて作品を分析する。	320 分
第 5 回	正確な読譜	指使い、リズム、楽句を正しく練習。	楽譜の指示を正しく読み取って練習。	320 分
第 6 回	楽曲分析	和声感、和声進行を読み解く。	和声進行を把握し音楽の方向性、抑揚を感じて練習。	320 分
第 7 回	形式、構成の理解	作品の全体像を捉える。	作品のまとまり、展開を表現するよう練習。	320 分
第 8 回	作品の性格と表情	調性、リズム、音型、旋律など諸要素を踏まえ性格を捉える。	作品の持つ性格、表情を的確に捉え、表現法を追求する。	320 分
第 9 回	正確なリズムとテンポ	作品の性格や様式を踏まえてテンポを考える。	リズムの正確さを確認し、相応しいテンポ設定と反復練習。	320 分
第 10 回	ペダルについて	ペダルの設定。	音楽的に相応しいペダリングの習得。	320 分
第 11 回	技術的問題の解決法と練習法	自分の演奏上の諸問題を明確にする。	担当教員のアドバイスを基に反復練習。	320 分
第 12 回	音、響きを磨く	自分の演奏を客観的に聴いて練習。	作品に相応しい音、響きを探求する。	320 分
第 13 回	後期 表現法	より豊かに深い表現を求めて練習。	担当教員のアドバイスを基に表現の可能性を探求する。	320 分
第 14 回	後期 表現の掘り下げと仕上げ	様々な視点から自分の演奏を確認。	説得力のある演奏を目指し反復練習。	320 分
第 15 回	後期 成果の発表	古典派音楽の様式を踏まえ、作品の総理解を深める。	学習したことを演奏に反映できたか自己分析する。	320 分

フィードバック 実技試験後、担当教員及び審査員のコメントを聞くことができる。

成績評価 実技試験により評価する。評価は複数の審査員の採点による。

テキスト 各自の進度に合わせて適宜選定する。試験曲はピアノ専門・演奏試験要項に基づき選定する。

オフィスアワー レッスン終了後、各実技担当者のレッスン室にて受け付ける。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

専門実技Ⅱ-1 (ピアノ)

ピアノ部会主任 教授 山崎紫乃

科目コード：IND201

対象コース/専門/学年：器楽コース/ピアノ専門/2年次

形態：実技

単位数：4単位

概要 演奏のより高度な技術の習得と、古典派作品からロマン派作品へ、興行きを上げた研究を行う。

到達目標 練習曲を通じて更なる指の強化、多様なタッチを身につける。古典派とロマン派の様式観のちがいを学びペダルの使い方や響きのつくり方等、より掘り下げた作品理解に到達することを目標とする。

授業計画 前期 15回、各人 60分の個人指導

第1回	ガイダンス 前期の学習計画を立てる	事前 現状を自己分析し学習したい内容を確認。 事後 課題曲の設定。	320分 520分
第2回	練習曲(1)指の強化	事前 これまで習得した奏法を意識してさらに強化に努める。 事後 反復練習。課題曲の読譜。	320分 520分
第3回	練習曲(2)様々なタッチ	事前 様々な音質、音色をイメージしてタッチを工夫する。課題曲の読譜。 事後 反復練習。課題曲の読譜。	320分 520分
第4回	ソナタ形式について	事前 ソナタ形式について調べる。 事後 作品の形式を理解し演奏を整理する。	320分 520分
第5回	楽曲分析 楽曲 A	事前 主題、和声進行、展開について調べる。 事後 主題の扱い、作品の展開を意識して練習。	320分 520分
第6回	奏法(ペダル)	事前 ペダルの設定。 事後 構成、様式に相応しく、響きの美しいペダルの設定の徹底。	320分 520分
第7回	奏法(レガート)	事前 レガート奏法の工夫。 事後 鍵盤楽器のレガート奏法の探求。	320分 520分
第8回	ロマン派様式について	事前 ロマン派様式について調べる。 事後 様式を踏まえて作品の全体像を把握する。	320分 520分
第9回	音、響きを磨く	事前 相応しい音、響きを追求。 事後 作品に求められている音、響きの探求。	320分 520分
第10回	様々なタッチの研究	事前 音、響きの探求。 事後 表現のための効果的なタッチの探求。	320分 520分
第11回	楽曲分析 楽曲 B	事前 和声の分析と音楽の流れを把握する。 事後 作品の全体像と展開を理解して練習。	320分 520分
第12回	表現法	事前 分析を基に作品の理解を深める。 事後 作品の性格や展開を捉え様々な表現を試みる。	320分 520分
第13回	表現の掘り下げ	事前 作品に相応しい表現を追求する。 事後 自由な表現を目指して練習。	320分 520分
第14回	仕上げ	事前 全体のバランス、表現を意識して練習。 事後 明確なビジョンを持って練習。	320分 520分
第15回	前期 成果の発表	事前 作品の表現を明確にする。 事後 演奏の自己評価。	320分 520分

フィードバック 実技試験後、担当教員及び審査員のコメントを聞くことができる。

成績評価 実技試験により評価する。評価は複数の審査員の採点による。

テキスト 各自の進度に合わせ適宜選定する。試験曲はピアノ専門・演奏試験要項に基づき選定する。

オフィスアワー レッスン終了後、各実技担当者のレッスン室にて受け付ける。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性							
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・目的意識	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲	
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>							

専門実技Ⅱ-2 (ピアノ)

ピアノ部会主任 教授 山崎紫乃

科目コード：IND202

対象コース/専門/学年： 器楽コース/ピアノ専門/2 年次

形態：実技

単位数：4 単位

概要 ピアニストにとって重要なレパートリーである、ショパンとシューマンの作品を中心に、より深いロマン派の様式への理解と表現方法を学ぶ。また発表会に出演し、公開演奏会での心構えを学ぶ。

到達目標 ショパンとシューマンの作品を通じて、様々な響きの研究、身体の使い方の研究を通じ、作品の表現に相応しい奏法を確立することを目標とする。

授業計画 後期 15 回、各人 60 分の個人指導

回数	内容	事前	事後	時間
第 1 回	後期の学習計画を立てる	現状を自己分析し、学習の計画を立てる。	課題曲の設定。	320 分
第 2 回	作曲技法について	バロック、古典、ロマン派の音楽の違いを確認する。	作品研究。課題曲の読譜。	520 分
第 3 回	作品の内容、性格の把握	作品の具体的なイメージを深める。	作曲家のメッセージ、内容を読み取り、演奏表現を具体的にイメージする。	520 分
第 4 回	時代背景	作曲家の生きた時代の文化、歴史について調べる。	時代が作曲家や作品の完成に与えた影響を考察する。	320 分
第 5 回	楽曲分析 楽曲 C	和声の展開を分析し音楽の流れを理解する。	音楽の抑揚を意識して練習。	520 分
第 6 回	構成理解	構成を分析しまとめる。	全体像をつかみ、音楽の展開、抑揚を把握する。	320 分
第 7 回	練習方法の工夫	自分の技術的、表現的問題を認識する。	担当教員のアドバイスを基に効果的な練習法を実践し、表現に必要な奏法を習得する。	520 分
第 8 回	ルパートについて	ロマン派音楽の様式を確認する。	作曲家による音楽語法を理解し、相応しいルパートを研究する。	320 分
第 9 回	脱力と手腕の使い方	表現に相応しい奏法の研究。	手腕の状態を意識して練習。	520 分
第 10 回	強弱、音色、響きの研究	奏法による音の違いを研究。	作品の表現に相応しい奏法の確立。	320 分
第 11 回	和声感	全体像を再確認する。	和声の色、方向性、エネルギーを意識して練習。	520 分
第 12 回	リズムとテンポ	反復練習。	相応しいテンポ設定と生きたリズムの確認。	320 分
第 13 回	表現の工夫	作品の理解を深める。	表現に必要な奏法、イメージの徹底。	520 分
第 14 回	まとめ	全体像を再確認、奏法の確実化。	より豊かな表現を目指す。	320 分
第 15 回	後期 成果の発表	作品の全体像を再確認。	自己評価。	520 分

フィードバック 実技試験後、担当教員及び審査員のコメントを聞くことができる。発表会后、各教員のコメントを聞くことができる。

成績評価 実技試験により評価する。評価は複数の審査員の採点による。

テキスト 各自の進度に合わせ適宜選定する。試験曲はピアノ専門・演奏試験要項に基づき選定する。

オフィスアワー レッスン終了後、各実技担当者のレッスン室にて受け付ける。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>						

専門実技Ⅲ（ピアノ）

ピアノ部会主任 教授 山崎紫乃

科目コード：IND301/IND302

対象コース/専門/学年: 器楽コース/ピアノ専門/3 年次

形態：実技

単位数：8 単位

概要 前期は学内演奏会の出演のための準備を行い、後期は後期ロマン派から近現代の作品に取り組む。

到達目標 学内演奏会の出演により聴衆の前で研究成果を発表する。
更に、後期ロマン派から近現代の作品を通じて色彩感覚や音楽語法など、演奏表現の幅を広げる。

授業計画 年間 30 回、各人 60 分の個人指導

第 1 回	ガイダンス 前期の学習計画を立てる	事前 現状を自己分析し、課題を明確にする。 事後 課題曲の設定。	320 分 520 分
第 2 回	読譜の注意点	事前 楽譜の指示を良く見る。 事後 様々な作曲家の指示、記譜法について研究する。課題曲の読譜。	320 分 520 分
第 3 回	技術的問題点の解決法	事前 自分の技術的問題点を把握する。 事後 様々な問題を想起し、練習法を整理、復習する。課題曲の読譜。	320 分 520 分
第 4 回	楽曲分析 楽曲 A	事前 和声の確認。 事後 和声進行、音楽の流れ、展開の把握。	320 分 520 分
第 5 回	構成理解	事前 楽句、フレーズを整理する。 事後 作品の構成を理解し、全体像を明確にする。	320 分 520 分
第 6 回	ペダルの確認	事前 音、響きをイメージして練習。 事後 作曲家の指示を踏まえ正しいペダル、効果的なペダルを追求。	320 分 520 分
第 7 回	奏法の工夫	事前 作品のイメージを明確にする。 事後 相応しい奏法の研究。	320 分 520 分
第 8 回	作品の内容、性格について	事前 構成、楽曲分析の復習。 事後 楽譜の指示、様々な要素から作品の内容、性格を読み取る。	320 分 520 分
第 9 回	表現の工夫	事前 演奏表現のイメージを明確にし、パートナーとの合同練習。 事後 アンサンブルの音、響き、表現を追求して練習。	320 分 520 分
第 10 回	音色、響きの研究	事前 作品に相応しい音のイメージを追求し合同練習。 事後 理想の響きを求めて奏法、タッチを工夫する。	320 分 520 分
第 11 回	バランス	事前 全体を良く聴いて合同練習。 事後 相手パートとの理想のバランスを追求して練習。	320 分 520 分
第 12 回	表現の掘り下げ	事前 作品の内容、性格を確認して合同練習。 事後 アンサンブルにおける理想の表現を追求して練習。	320 分 520 分
第 13 回	ホールでの演奏を想定した表現、奏法	事前 ホールを想定しながら合同練習。 事後 担当教員のアドバイスを基に広いホールでの表現を意識して練習。	320 分 520 分
第 14 回	ホールでの演奏を想定した表現、奏法の徹底	事前 イメージトレーニングと反復練習。 事後 ホールをイメージして反復練習。	320 分 520 分
第 15 回	前期 成果の発表	事前 ポジションを確認して仕上げ練習。 事後 自己評価。	320 分 520 分
第 16 回	協奏曲について	事前 協奏曲について調べる。 事後 古典派の協奏曲のスタイルを研究する。オーケストラパートも共に課題曲の読譜。	320 分 520 分
第 17 回	楽曲分析 楽曲 B	事前 和声進行、調性を基に作品の流れを見る。オーケストラパートの確認。 事後 和声感を意識した響き、抑揚、流れを研究。	320 分 520 分
第 18 回	奏法の可能性	事前 作品のイメージを明確にする。合同練習。 事後 作品の演奏表現に相応しい奏法を追求する。	320 分 520 分
第 19 回	テンポ、バランスについて	事前 作品の性格や形式、様式の再確認。合同練習。 事後 相応しいテンポ設定と、伴奏者とのバランスを整理して練習。	320 分 520 分
第 20 回	仕上げ、発表	事前 反復練習。合同練習。 事後 自己評価。	320 分 520 分
第 21 回	近現代作品について	事前 近現代の作曲家を調べる。 事後 作曲家ごとの作風、特徴を意識して読譜。	320 分 520 分
第 22 回	音色、響きの研究	事前 様々な手腕の使い方による音、響きの違いを研究する。 事後 作品に相応しい音色、響きの追求と奏法の工夫。	320 分 520 分
第 23 回	ペダルの工夫	事前 楽譜を確認し、作品の音のイメージを明確にする。 事後 ペダルの様々な効果を確認しながら練習。	320 分 520 分
第 24 回	ハーモニー、色彩研究	事前 和音、響きをよく聴いて練習。 事後 バランス、タッチ、ペダルなどによる響きの違いを聴き分けて研究する。	320 分 520 分
第 25 回	身体の使い方	事前 様々な奏法の研究。 事後 身体の状態による音や響きの違いを確認、作品に合った音を追求していく。	320 分 520 分
第 26 回	国民性について	事前 各国の作曲家について調べる。 事後 国や民族による違いを意識しながら様々な作曲家について研究。	320 分 520 分
第 27 回	リズム、イントネーション研究	事前 民族による特徴的な要素、特にリズムについて調べる。 事後 特徴的なリズムの奏法を研究、習得する。	320 分 520 分
第 28 回	技術的課題の練習法	事前 自分の技術的問題点を把握する。 事後 担当教員のアドバイスを基に練習方法を工夫、実践する。	320 分 520 分
第 29 回	仕上げ	事前 作品の性格、特徴を再確認。 事後 色彩、ハーモニー、リズムを徹底調整。	320 分 520 分
第 30 回	後期 成果の発表	事前 イメージを徹底して仕上げる。 事後 イメージ通りの音が再現できたか自己評価。	320 分 520 分

フィードバック 学内演奏会後、各教員のコメントを聞くことができる。
実技試験後、担当教員及び審査員のコメントを聞くことができる。

成績評価 後期のみの実技試験により評価する。評価は複数の審査員の採点による。

テキスト 各自の進度に合わせて適宜選定する。試験曲はピアノ専門・演奏試験要項に基づき選定する。

オフィスアワー レッスン終了後、各実技担当者のレッスン室にて受け付ける。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>						

専門実技Ⅳ（ピアノ）

ピアノ部会主任 教授 山崎紫乃

科目コード：IND403/IND404

対象コース/専門/学年： 器楽コース/ピアノ専門/4年次

形態：実技

単位数：8単位

概要：これまで様々な時代の作品に取り組んできた学びの集大成として、卒業試験に向けて課題曲と自由曲に取り組み、まとめ上げる。

到達目標：時代様式に沿った演奏法と演奏解釈をより深く学び修得する。
前期はこれまでの学びをより一層確かなものにし、レパートリーを拡げる。後期は4年間の集大成としての卒業試験に向け、これまでの学びを生かし自己を見つめた上で丹念に選曲し、広い空間での演奏表現法を身につける。

授業計画：年間 30回、各人 60分の個人指導

回数	学習の計画	事前	事後	時間
第1回	学習の計画 プログラムの検討	自己分析。	集大成に相応しいテーマと課題を設定する。	320分 520分
第2回	基礎技術の確認	基礎技術教材を使って反復練習。	反復練習。	320分 520分
第3回	練習曲(正確な打鍵)	正しいフォームを意識して反復練習。	苦手な指を意識して反復練習。	320分 520分
第4回	練習曲(様々な音型)	反復練習。	手指の柔軟性と強化を意識して反復練習。	320分 520分
第5回	J.S.バッハを学ぶ	バッハ作品読譜。	バロックの様式を意識して練習。	320分 520分
第6回	音色、響きの追求	様々な奏法による響きの違いを確認。	音、響きを聴きながら効果的、理想的な身体、手腕の使い方を追求。	320分 520分
第7回	自由曲(構成の理解)	形式の異なる複数の作品を取り上げ全体像をつかむ。	それぞれ形式、音楽の構造を明確にしながら演奏。	320分 520分
第8回	自由曲(表現法)	様式の異なる複数の作品を取り上げ全体像をつかむ。	拍子感、リズム、色彩、テンポルパート等、様々な表現を追求する。	320分 520分
第9回	技術課題の取り組み方	得手不得手を自己分析。	問題点を判断する視点、練習法、留意点を整理する。	320分 520分
第10回	まとめ	異なる様式の作品に取り組む。	技術、表現、理解度を確認。	320分 520分
第11回	ポリフォニーの奏法	構造を読み取り整理する。	各声部の弾き分け、コントロールを徹底練習。	320分 520分
第12回	楽曲分析	和声進行と構造を整理。	整理された演奏を追求。	320分 520分
第13回	装飾音について	様々な装飾音を調べる。	装飾音の入れ方、演奏の技術の習得。	320分 520分
第14回	声部の弾き分け	作品の横ラインを確認。	耳、指のコントロールを徹底して訓練。	320分 520分
第15回	諸要素の徹底	音楽理解と演奏を総合的に自己分析する。	課題を自覚して取り組む。	320分 520分
第16回	卒業試験の選定とアプローチについて	学習の成果を基に選曲。	担当教員のアドバイスを基に組みの計画を立てる。	320分 520分
第17回	時代背景と様式	作曲家の時代、人物、作品について幅広く学ぶ。	作品とその演奏法についてビジョンを明確にする。	320分 520分
第18回	楽曲分析	作品の構造を調べる。	分析を通して表現、演奏法のイメージを明確にする。	320分 520分
第19回	読譜の注意	楽譜を細部まで読む。	作曲家の指示や行間の意味を読み取る。	320分 520分
第20回	技術的課題の練習法	技術的問題点の自覚。	原因追究、理想を基に効果的な解決法を工夫する。	320分 520分
第21回	作品全体の構成と内容理解	楽曲分析の徹底。	形式、様式を読み取り、魅力的な演奏表現に結びつける。	320分 520分
第22回	コントラスト(音色、強弱、ハーモニー感など)	音楽の様々な変化を意識して練習。	それぞれの変化、違いをどう表現するか。	320分 520分
第23回	表現の工夫	作品に相応しい表現、魅力を整理する。	様式、作品に相応しく、奏者の心を通した表現の探求。	320分 520分
第24回	拍子感、リズム、テンポの確認	作品の様式、形式、性格、内容を確認する。	拍子感、リズム、テンポが相応しく音楽が生きているか追求。	320分 520分
第25回	演奏技術の錬磨	作品の総合理解を深める。	演奏、表現に適した技術の確認と練習。	320分 520分
第26回	ホール演奏を踏まえた表現、バランス	ホールの広さをイメージして練習。	客観的な耳、深い呼吸、伸びやかな身体などのチェック。	320分 520分
第27回	ペダルの確認	ペダル操作の確認、耳の訓練。	美しい響きの追求。	320分 520分
第28回	表現の正確さ、自在さ	作品演奏のイメージを明確にする。	作品に共感しイメージ通り弾けているか、技術的問題を解決しているか、自己分析と錬磨。	320分 520分
第29回	全体バランスの調整	細部、全体まんべんなく練習。	自己分析と反復練習。	320分 520分
第30回	演奏への最終確認	イメージ、表現、技術の再確認。	仕上げ。	320分 520分

フィードバック：卒業試験後、担当教員及び審査員のコメントを聞くことができる。

成績評価：卒業試験により評価する。評価は複数の審査員の採点による。

テキスト：自由曲は各自の進度に合わせ適宜選定する。卒業試験課題曲は7月の発表掲示を参照のこと。

オフィスアワー：レッスン終了後、各実技担当者のレッスン室にて受け付ける。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経歴・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	

専門実技 I-1 (弦楽器)

弦楽部会主任 准教授 佐藤まどか

科目コード：IND101

対象コース／専門／学年： 器楽コース／弦楽器専門／1 年次

形態：実技

単位数：4 単位

概要 演奏の基本的な技術を学び、音楽を通しての表現の多様性を学ぶ。

到達目標 バロック、古典派の作品やエチュードを中心に、それぞれの様式感に応じた奏法を身につける。

授業計画 前期 15 回、各人 60 分の個人指導。
必要に応じて適宜楽曲を選ぶ。各回の授業内容は、進度により変更することがある。

第 1 回	ガイダンスおよび課題の確認 バロック、古典派の特色について学ぶ	事前 入学までの学修を確認し、学修計画案をたてる。 事後 学修計画を確認し、楽譜等、今後必要な準備をする。	420 分 420 分
第 2 回	バロック、古典派の曲、エチュードを学ぶ (1) 時代背景、様式を中心に	事前 課題に対し、時代背景、様式感を、文献によって確認し、実践に向けて練習する。 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分 420 分
第 3 回	バロック、古典派の曲、エチュードを学ぶ (2) 形式、和声を中心に	事前 課題に対し、形式、和声を、楽譜を見ながら分析し、実践に向けて練習する。 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分 420 分
第 4 回	バロック、古典派の曲、エチュードを学ぶ (3) 奏法を中心に	事前 課題に対し、技術的に新たな奏法上の問題点を練習する。 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分 420 分
第 5 回	バロック、古典派の曲、エチュードを学ぶ (4) 表現法、音色を中心に	事前 課題に対し、全体像から、立体的な表現ができるよう、アプローチしながら練習する。 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分 420 分
第 6 回	バロック、古典派の曲、エチュードを学ぶ (5) 表現の掘り下げ	事前 音色の変化や表現のために、奏法上の問題点を洗い出し、練習しておく。 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分 420 分
第 7 回	バロック、古典派の曲、エチュードを学ぶ (6) 仕上げとまとめ	事前 暗譜の確認。 事後 次回につなげられるよう、読譜から演奏までの経緯を確認しておく。	420 分 420 分
第 8 回	前期試験へのアプローチ法を探る	事前 一年次前期試験の課題曲を選曲するにあたり、各自の音楽的特徴を把握する。 事後 前期試験の課題曲の楽譜を準備し、譜読みをする。	420 分 420 分
第 9 回	前期試験課題曲を学ぶ (1) 時代背景、様式を中心に	事前 試験課題の時代背景、様式感を、文献によって確認し、実践に向けて練習する。 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分 420 分
第 10 回	前期試験課題曲を学ぶ (2) 楽譜の読み方を中心に	事前 試験課題に対し、形式、和声を、楽譜を見ながら分析し、実践に向けて練習する。 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分 420 分
第 11 回	前期試験課題曲を学ぶ (3) 奏法を中心に	事前 試験課題に対し、技術的に新たな奏法上の問題点を練習する。 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分 420 分
第 12 回	前期試験課題曲を学ぶ (4) 表現法、音色を中心に	事前 音色の変化や表現のために、奏法上の問題点を洗い出し、練習しておく。 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分 420 分
第 13 回	前期試験課題曲を学ぶ (5) ピアノ合わせでのレッスン。アンサンブルの問題点	事前 ピアノとの合わせを行っておく。 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分 420 分
第 14 回	前期試験課題曲を学ぶ (6) ピアノ合わせでのレッスン。暗譜。	事前 ピアノとの合わせを行っておく。 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分 420 分
第 15 回	前期試験の演奏内容の反省から課題を探る	事前 暗譜の確認。 事後 前期試験の反省と、次回の課題を確認する。	420 分 420 分

フィードバック 実技試験終了後、あるいは授業内にて適宜、担当者よりコメントをフィードバックする。

成績評価 前期試験により評価する。

テキスト 各人の進度に合わせて、取り組む曲を適宜選定する。

オフィスアワー 各教員出校日に各レッスン室において受け付ける。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性							
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	プレゼンテーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>									

専門実技 I-2 (弦楽器)

弦楽部会主任 准教授 佐藤まどか

科目コード：IND102

対象コース/専門/学年： 器楽コース/弦楽器専門/1 年次

形態：実技	単位数：4 単位
概要	演奏の基礎力をさらに高め、音楽的表現のためのスキルを身につける。

到達目標	古典派、ロマン派の作品やエチュードを中心に、それぞれの様式感に応じた解釈で演奏する。
------	--------------------------------------------

授業計画		後期 15 回、各人 60 分の個人指導。 必要に応じて適宜楽曲を選ぶ。各回の授業内容は、進度により変更することがある。	
第 1 回	ガイダンスおよび課題の確認 古典派、ロマン派の特色について学ぶ	事前 後期までの学修を確認し、学修計画案をたてる。 事後 学修計画を確認し、楽譜等、後期に必要な準備をする。	420 分 420 分
第 2 回	古典派、ロマン派の小曲、エチュードを学ぶ (1) 時代背景、様式を中心に	事前 課題に対し、時代背景、様式感を、文献によって確認し、実践に向けて練習する。 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分 420 分
第 3 回	古典派、ロマン派の小曲、エチュードを学ぶ (2) 形式、和声を中心に	事前 課題に対し、形式、和声を、楽譜を見ながら分析し、実践に向けて練習する。 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分 420 分
第 4 回	古典派、ロマン派の小曲、エチュードを学ぶ (3) 奏法を中心に	事前 課題に対し、技術的に新たな奏法上の問題点を練習する。 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分 420 分
第 5 回	古典派、ロマン派の小曲、エチュードを学ぶ (4) 表現法を中心に	事前 音色の変化や表現のために、奏法上の問題点を洗い出し、練習しておく。 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分 420 分
第 6 回	後期試験へのアプローチ法を探る	事前 一年次後期試験の課題曲を選曲するにあたり、各自の音楽的特徴、課題を把握する。 事後 後期試験の課題曲の楽譜を準備し、譜読みをする。	420 分 420 分
第 7 回	後期試験課題曲を学ぶ (1) 時代背景、様式を中心に	事前 試験課題の時代背景、様式感を、文献によって確認し、実践に向けて練習する。 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分 420 分
第 8 回	後期試験課題曲を学ぶ (2) 奏法を中心に	事前 試験課題に対し、技術的に難易度の高い奏法上の問題点を洗い出し、練習しておく。 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分 420 分
第 9 回	後期試験課題曲を学ぶ (3) 原典版と校訂版について	事前 原典版と校訂版を準備し、版の意味、内容を、文献を見ながら確認しておく。 事後 作曲者の意図から、音楽を深く読み込み、表現につながるように練習する。	420 分 420 分
第 10 回	後期試験課題曲を学ぶ (4) 形式、和声を中心に	事前 試験課題に対し、形式、和声を、楽譜を見ながら分析し、実践に向けて練習する。 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分 420 分
第 11 回	後期試験課題曲を学ぶ (5) 装飾音、デユナーミクを中心に	事前 様式感から装飾音や、音のイメージを確認し、実践につなげられるよう練習しておく。 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分 420 分
第 12 回	後期試験課題曲を学ぶ (6) 楽曲全体の構成を中心に	事前 曲の全体像から、立体的な表現につながるよう、効果的に演奏できる工夫をする。 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分 420 分
第 13 回	後期試験課題曲を学ぶ (7) ピアノ合わせでのレッスン。アンサンブルの問題点	事前 ピアノとの合わせを行っておく。 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分 420 分
第 14 回	前期試験課題曲を学ぶ (8) ピアノ合わせでのレッスン。暗譜。	事前 ピアノとの合わせを行っておく。 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分 420 分
第 15 回	後期試験の演奏内容の反省から課題を探る	事前 暗譜の確認。 事後 後期試験の反省、および次年度に向けての課題を確認する。	420 分 420 分

フィードバック	実技試験終了後、あるいは授業内にて適宜、担当者よりコメントをフィードバックする。
---------	------------------------------------------

成績評価	後期試験により評価する。
------	--------------

テキスト	各人の進度に合わせて、取り組む曲を適宜選定する。
------	--------------------------

オフィスアワー	各教員出校日に各レッスン室において受け付ける。
---------	-------------------------

備考	
----	--

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>									

専門実技Ⅱ-1 (弦楽器)

准教授 佐藤まどか

科目コード：IND201

対象コース／専門／学年：器楽コース／弦楽器専門／2 年次

形態：実技 単位数：4 単位

概要 演奏の技術と高度な音楽的表現力を養う。

到達目標 古典派、ロマン派、エチュードの様式感を身につける。

授業計画 前期 15 回、各人 60 分の個人指導。
必要に応じて適宜楽曲を選ぶ。各回の授業内容は、進度により変更することがある。

回	内容	事前	事後	420 分
第 1 回	ガイダンスおよび課題の確認 古典、ロマン派の特色について学ぶ	一年次の学修を確認し、二年次の学修計画案をたてる。	学修計画を確認し、楽譜等、今後必要な準備をする。	420 分
第 2 回	古典派、ロマン派の曲、エチュードを学ぶ (1) 時代背景、様式を中心に	課題に対し、時代背景、様式感を、文献によって確認し、実践に向けて練習する。	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分
第 3 回	古典派、ロマン派の曲、エチュードを学ぶ (2) 楽譜の読み方を中心に	課題に対し、形式、和声を、楽譜を見ながら分析し、実践に向けて練習する。	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分
第 4 回	古典派、ロマン派の曲、エチュードを学ぶ (3) 奏法を中心に	課題に対し、技術的に新たな奏法上の問題点を練習する。	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分
第 5 回	古典派、ロマン派の曲、エチュードを学ぶ (4) 表現法、音色を中心に	課題に対し、全体像から、立体的な表現ができるよう、アプローチしながら練習する。	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分
第 6 回	古典派、ロマン派の曲、エチュードを学ぶ (5) 表現の掘り下げ	音色の変化や表現のために、奏法上の問題点を洗い出し、練習しておく。	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分
第 7 回	古典派、ロマン派の曲、エチュードを学ぶ (6) 仕上げとまとめ	暗譜の確認。	次回につなげられるよう、読譜から演奏までの経緯を確認しておく。	420 分
第 8 回	前期試験へのアプローチ法を探る	二次前期試験の課題曲を選曲するにあたり、各目の音楽的特徴を把握する。	前期試験の課題曲の楽譜を準備し、譜読みをする。	420 分
第 9 回	前期試験課題曲を学ぶ (1) 時代背景、様式を中心に	試験課題の時代背景、様式感を、文献によって確認し、実践に向けて練習する。	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分
第 10 回	前期試験課題曲を学ぶ (2) 楽譜の読み方を中心に	試験課題に対し、形式、和声を、楽譜を見ながら分析し、実践に向けて練習する。	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分
第 11 回	前期試験課題曲を学ぶ (3) 奏法を中心に	試験課題に対し、技術的に新たな奏法上の問題点を練習する。	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分
第 12 回	前期試験課題曲を学ぶ (4) 表現法、音色を中心に	音色の変化や表現のために、奏法上の問題点を洗い出し、練習しておく。	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分
第 13 回	前期試験課題曲を学ぶ (5) ピアノ合わせでのレッスン。アンサンブルの問題点	ピアノとの合わせを行っておく。	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分
第 14 回	前期試験課題曲を学ぶ (6) ピアノ合わせでのレッスン。暗譜。	ピアノとの合わせを行っておく。	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分
第 15 回	前期試験の演奏内容の反省から課題を探る	暗譜の確認。	前期試験の反省と、次回の課題を確認する。	420 分

フィードバック 実技試験終了後、あるいは授業内にて適宜、担当者よりコメントをフィードバックする。

成績評価 前期試験により評価する。

テキスト 各人の進度に合わせて、取り組む曲を適宜選定する。

オフィスアワー 各教員出校日に各レッスン室において受け付ける。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経歴・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>								

専門実技Ⅱ-2（弦楽器）

准教授 佐藤まどか

科目コード：IND202

対象コース／専門／学年：器楽コース／弦楽器専門／2年次

形態：実技 単位数：4単位
 概要 演奏の技術を高め、より高度な音楽的表現力を養う。

到達目標 古典派、ロマン派の様式感に加え、ソナタ形式や楽譜の読み方についても学習する。

授業計画		後期15回、各人60分の個人指導。 必要に応じて適宜楽曲を選ぶ。各回の授業内容は、進度により変更することがある。	
第1回	ガイダンスおよび課題の確認 古典派のソナタおよびソナタ形式の特色について学ぶ	事前 前期までの学修を確認し、学修計画案をたてる。 事後 学修計画を確認し、楽譜等、後期に必要な準備をする。	420分 420分
第2回	古典派、ロマン派の小曲、エチュードを学ぶ（1）時代背景、様式を中心に	事前 課題に対し、時代背景、様式感を、文献によって確認し、実践に向けて練習する。 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420分 420分
第3回	古典派、ロマン派の小曲、エチュードを学ぶ（2）楽譜の読み方を中心に	事前 課題に対し、形式、和声を、楽譜を見ながら分析し、実践に向けて練習する。 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420分 420分
第4回	古典派、ロマン派の小曲、エチュードを学ぶ（3）奏法を中心に	事前 課題に対し、技術的に新たな奏法上の問題点を練習する。 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420分 420分
第5回	古典派、ロマン派の小曲、エチュードを学ぶ（4）表現法を中心に	事前 音色の変化や表現のために、奏法上の問題点を洗い出し、練習しておく。 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420分 420分
第6回	後期試験へのアプローチ法を探る	事前 二年度後期試験の課題曲を選曲するにあたり、各自の音楽的特徴、課題を把握する。 事後 後期試験の課題曲の楽譜を準備し、譜読みをする。	420分 420分
第7回	後期試験課題曲を学ぶ（1）時代背景、様式を中心に	事前 試験課題の時代背景、様式感を、文献によって確認し、実践に向けて練習する。 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420分 420分
第8回	後期試験課題曲を学ぶ（2）ソナタ及びソナタ形式について	事前 ソナタ形式について、文献を読み、把握しておく。 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420分 420分
第9回	後期試験課題曲を学ぶ（3）原典版と校訂版について	事前 原典版と校訂版を準備し、版の意味、内容、文献を見ながら確認しておく。 事後 作曲者の意図から、音楽を深く読み込み、表現につながるように練習する。	420分 420分
第10回	後期試験課題曲を学ぶ（4）楽譜の読み方を中心に	事前 試験課題に対し、形式、和声を、楽譜を見ながら分析し、実践に向けて練習する。 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420分 420分
第11回	後期試験課題曲を学ぶ（5）デュナーミク、コントラストのつけ方を中心に	事前 曲の全体像から、立体的な表現につながるよう、効果的に演奏できる工夫をする。 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420分 420分
第12回	後期試験課題曲を学ぶ（6）楽曲全体の構成を中心に	事前 様式感から装飾音や、音のイメージを確認し、実践につなげられるよう練習しておく。 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420分 420分
第13回	後期試験課題曲を学ぶ（7）ピアノ合わせでのレッスン。アンサンブルの問題点	事前 ピアノとの合わせを行っておく。 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420分 420分
第14回	後期試験課題曲を学ぶ（8）ピアノ合わせでのレッスン。暗譜。	事前 ピアノとの合わせを行っておく。 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420分 420分
第15回	後期試験の演奏内容の反省から課題を探る	事前 暗譜の確認。 事後 後期試験の反省、および次年度に向けての課題を確認する。	420分 420分

フィードバック 実技試験終了後、あるいは授業内にて適宜、担当者よりコメントをフィードバックする。

成績評価 後期試験により評価する。

テキスト 各人の進度に合わせて、取り組む曲を適宜選定する。

オフィスアワー 各教員出校日に各レッスン室において受け付ける。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用					意欲・経歴・多様性							
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>								

専門実技Ⅲ（弦楽器）

弦楽部会主任 准教授 佐藤まどか

科目コード：IND301/IND302

対象コース/専門/学年： 器楽コース/弦楽器専門/3 年次

形態：実技	単位数：8 単位
概要	技術と表現のバランスをとりながら、ロマン派、近現代までの様式感を学び、それぞれの演奏解釈を学ぶ。学内演奏会での経験を活かして、聴衆に対する豊かな演奏表現を会得する。

到達目標 レパートリーの拡充と、時代ごとあるいは作曲家ごとの楽曲の解釈を行い、より幅広い音楽の表現を身につける。

授業計画 年間 30 回、各人 60 分の個人指導。
必要に応じて適宜楽曲を選ぶ。各回の授業内容は、進度により変更することがある。

回数	内容	事前	事後	単位数
第 1 回	ガイダンスおよび課題の確認 ロマン派、近現代の特色について学ぶ	二年次の学修を確認し、三年次の学修計画案をたてる。	学修計画を確認し、楽譜等、今後必要な準備をする。	420 分
第 2 回	ロマン派、近現代の曲、エチュードを学ぶ (1) 時代背景、様式を中心に	課題に対し、時代背景、様式感を、文献によって確認し、実践に向けて練習する。	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分
第 3 回	ロマン派、近現代の曲、エチュードを学ぶ (2) 楽譜の読み方を中心に	課題に対し、形式、和声を、楽譜を見ながら分析し、実践に向けて練習する。	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分
第 4 回	ロマン派、近現代の曲、エチュードを学ぶ (3) 奏法を中心に	課題に対し、技術的に新たな奏法上の問題点を練習する。	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分
第 5 回	ロマン派、近現代の曲、エチュードを学ぶ (4) 表現法、音色を中心に	課題に対し、全体像から、立体的な表現ができるよう、アプローチしながら練習する。	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分
第 6 回	ロマン派、近現代の曲、エチュードを学ぶ (5) 表現の掘り下げ	音色の変化や表現のために、奏法上の問題点を洗い出し、練習しておく。	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分
第 7 回	ロマン派、近現代の曲、エチュードを学ぶ (6) 仕上げとまとめ	暗譜の確認。	次回につなげられるよう、読譜から演奏までの経緯を確認しておく。	420 分
第 8 回	学内演奏会へのアプローチ法を探る	学内演奏会の課題曲を選曲するにあたり、各自の音楽的特徴を把握する。	学内演奏会の課題曲の楽譜を準備し、譜読みをする。	420 分
第 9 回	学内演奏会曲目を学ぶ (1) 時代背景、様式を中心に	試験課題の時代背景、様式感を、文献によって確認し、実践に向けて練習する。	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分
第 10 回	学内演奏会曲目を学ぶ (2) 楽譜の読み方を中心に	試験課題に対し、形式、和声を、楽譜を見ながら分析し、実践に向けて練習する。	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分
第 11 回	学内演奏会曲目を学ぶ (3) 奏法を中心に	試験課題に対し、技術的に新たな奏法上の問題点を練習する。	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分
第 12 回	学内演奏会曲目を学ぶ (4) 表現法、音色を中心に	音色の変化や表現のために、奏法上の問題点を洗い出し、練習しておく。	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分
第 13 回	学内演奏会曲目を学ぶ (5) ピアノ合わせでのレッスン。アンサンブルの問題点	ピアノとの合わせを行っておく。	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分
第 14 回	学内演奏会曲目を学ぶ (6) ピアノ合わせでのレッスン。暗譜。	ピアノとの合わせを行っておく。	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分
第 15 回	学内演奏会の演奏内容の反省から課題を探る	暗譜の確認。	学内演奏会の反省と、次回の課題を確認する。	420 分
第 16 回	ガイダンスおよび課題の確認	前期までの学修を確認し、学修計画案をたてる。	学修計画を確認し、楽譜等、後期に必要な準備をする。	420 分
第 17 回	ロマン派、近現代の小曲、エチュードを学ぶ (1) 時代背景、様式を中心に	課題に対し、時代背景、様式感を、文献によって確認し、実践に向けて練習する。	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分
第 18 回	ロマン派、近現代の小曲、エチュードを学ぶ (2) 楽譜の読み方を中心に	課題に対し、形式、和声を、楽譜を見ながら分析し、実践に向けて練習する。	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分
第 19 回	ロマン派、近現代の小曲、エチュードを学ぶ (3) 奏法を中心に	課題に対し、技術的に新たな奏法上の問題点を練習する。	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分
第 20 回	ロマン派、近現代の小曲、エチュードを学ぶ (4) 表現法を中心に	音色の変化や表現のために、奏法上の問題点を洗い出し、練習しておく。	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分
第 21 回	後期試験へのアプローチ法を探る	三年次後期試験の課題曲を選曲するにあたり、各自の音楽的特徴、課題を把握する。	後期試験の課題曲の楽譜を準備し、譜読みをする。	420 分
第 22 回	後期試験課題曲を学ぶ (1) 時代背景、様式を中心に	試験課題の時代背景、様式感を、文献によって確認し、実践に向けて練習する。	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分
第 23 回	後期試験課題曲を学ぶ (2) 形式を中心に	試験課題の形式について、文献を読み、把握しておく。	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分
第 24 回	後期試験課題曲を学ぶ (3) 奏法、表現法を中心に	原典版と校訂版を準備し、版の意味、内容を、文献を見ながら確認しておく。	作曲者の意図から、音楽を深く読み込み、表現につながるよう練習する。	420 分
第 25 回	後期試験課題曲を学ぶ (4) 和声を中心に	試験課題に対し、形式、和声を、楽譜を見ながら分析し、実践に向けて練習する。	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分
第 26 回	後期試験課題曲を学ぶ (5) デュナーミック、コントラストのつけ方を中心に	曲の全体像から、立体的な表現につながるよう、効果的に演奏できる工夫をする。	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分
第 27 回	後期試験課題曲を学ぶ (6) 楽曲全体の構成を中心に	様式感から裝飾音や、音のイメージを確認し、実践につなげられるよう練習しておく。	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分
第 28 回	後期試験課題曲を学ぶ (7) ピアノ合わせでのレッスン。アンサンブルの問題点	ピアノとの合わせを行っておく。	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分
第 29 回	前期試験課題曲を学ぶ (8) ピアノ合わせでのレッスン。暗譜。	ピアノとの合わせを行っておく。	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分
第 30 回	後期試験の演奏内容の反省から課題を探る	暗譜の確認。	後期試験の反省、および次年度に向けての課題を確認する。	420 分

フィードバック 実技試験終了後、あるいは授業内にて適宜、担当者よりコメントをフィードバックする。

成績評価 学年末試験により評価する。

テキスト 各人の進度に合わせて、取り組む曲を適宜選定する。

オフィスアワー 各教員出校日に各レッスン室において受け付ける。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

専門実技Ⅳ（弦楽器）

弦楽部会主任 准教授 佐藤まどか

科目コード：IND401/IND402

対象コース/専門/学年： 器楽コース/弦楽器専門/4 年次

形態：実技	単位数：8 単位
概要	今まで培ってきた演奏技術や表現力の集大成として、卒業演奏試験にむけて自ら音楽を解釈し、説得力のある演奏をもって表現する。

到達目標	メモリアルホールでの演奏にあたりソノリティを意識し、様式感や演奏解釈を自ら行うことで、音楽を通したメッセージを伝えることができる。
------	-------------------------------------------------------------------

授業計画	年間 90 回、各人 60 分の個人指導。 必要に応じて適宜楽曲を選ぶ。各回の授業内容は、進度により変更することがある。	事前	事後	420 分
第 1 回	ガイダンスおよび、課題の確認	三年次の学修を確認し、最終学年の学修計画案をたてる。	学修計画を確認し、楽譜等、今後必要な準備をする。	420 分
第 2 回	課題曲Ⅰ（ソナタ）を学ぶ（1）時代背景、様式を中心に	課題に対し、時代背景、様式感を、文献によって確認し、実践に向けて練習する。	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分
第 3 回	課題曲Ⅰを学ぶ（2）楽譜の読み方を中心に	課題に対し、和声や、楽譜を見ながら分析し、実践に向けて練習する。	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分
第 4 回	課題曲Ⅰを学ぶ（3）奏法、表現法、音色を中心に	音色の変化や表現のために、奏法上の問題点を洗い出し、練習しておく。	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分
第 5 回	課題曲Ⅰを学ぶ（4）形式を中心に	課題の形式について、文献を読み、把握しておく。	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分
第 6 回	課題曲Ⅰを学ぶ（5）デュナーミク、コントラストのつけ方を中心に	曲の全体像から、立体的な表現につながるよう、効果的に演奏できる工夫をする。	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分
第 7 回	課題曲Ⅰを学ぶ（6）ピアノ合わせでのレッスン	ピアノとの合わせを行っておく。	アンサンブル上の問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分
第 8 回	課題曲Ⅰを学ぶ（7）ピアノ合わせでのレッスン 仕上げ	暗譜の確認。ピアノとの合わせを行っておく。	課題曲Ⅰの反省と、次回の課題を確認する。	420 分
第 9 回	課題曲Ⅱ（無伴奏作品）を学ぶ（1）時代背景、様式を中心に	試験課題の時代背景、様式感を、文献によって確認し、実践に向けて練習する。	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分
第 10 回	課題曲Ⅱを学ぶ（2）楽譜の読み方を中心に	試験課題に対し、形式、和声や、楽譜を見ながら分析し、実践に向けて練習する。	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分
第 11 回	課題曲Ⅱを学ぶ（3）奏法、表現法、音色を中心に	試験課題に対し、技術的な奏法上の問題点を練習する。	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分
第 12 回	課題曲Ⅱを学ぶ（4）声部の色分け、立体感を中心に	音色の変化や表現のために、奏法上の問題点を洗い出し、練習しておく。	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分
第 13 回	課題曲Ⅱを学ぶ（5）デュナーミク、コントラストのつけ方を中心に	無伴奏作品ならではの効果を把握しておく。	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分
第 14 回	課題曲Ⅱを学ぶ（6）表現の掘り下げ	体感しながら演奏できるように、練習する。	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分
第 15 回	課題曲Ⅱを学ぶ（7）仕上げ	暗譜の確認。	前期の反省と、次回の課題を確認する。	420 分
第 16 回	ガイダンスおよび、課題の確認	前期までの学修を確認し、学修計画案をたてる。	学修計画を確認し、楽譜等、後期に必要な準備をする。	420 分
第 17 回	課題曲Ⅲ（小品）を学ぶ（1）様式を中心に	課題に対し、時代背景、様式感を、文献によって確認し、実践に向けて練習する。	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分
第 18 回	課題曲Ⅲを学ぶ（2）奏法を中心に	課題に対し、技術的に高度な奏法上の問題点を練習する。	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分
第 19 回	課題曲Ⅰを学ぶ（3）効果的な演奏とは 仕上げ	曲の全体像から、立体的な表現につながるよう、効果的に演奏できる工夫をする。	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分
第 20 回	卒業演奏試験課題曲へのアプローチ法を探る	集大成としての卒業試験課題曲を選曲するにあたり、各自の音楽的特徴、課題を把握	課題曲の楽譜を準備し、譜読みをする。	420 分
第 21 回	卒業演奏試験課題曲を学ぶ（1）時代背景、様式を中心に	試験課題の時代背景、様式感を、文献によって確認し、実践に向けて練習する。	後期試験の課題曲の楽譜を準備し、譜読みをする。	420 分
第 22 回	卒業演奏試験課題曲を学ぶ（2）形式、和声を中心に	試験課題に対し、形式、和声や、楽譜を見ながら分析し、実践に向けて練習する。	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分
第 23 回	卒業演奏試験課題曲を学ぶ（3）奏法、表現法を中心に	音色の変化や表現のために、奏法上の問題点を洗い出し、練習しておく。	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分
第 24 回	卒業演奏試験課題曲を学ぶ（4）ホールの響きを踏まえた表現について	聴衆、空間、残響などから、演奏する姿勢や、客観的な耳を養う。	演奏が客観的に聴こえているか、確認しながら練習する。	420 分
第 25 回	卒業演奏試験課題曲を学ぶ（5）曲のキャラクター、音色を中心に	様式感からテンポ感や音色のイメージを確認し、実践につなげられるよう練習しておく	作曲者の意図から、音楽を深く読み込み、表現につながるように練習する。	420 分
第 26 回	卒業演奏試験課題曲を学ぶ（6）デュナーミク、コントラストのつけ方を中心に	曲の全体像から、立体的な表現につながるよう、効果的に演奏できる工夫をする。	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分
第 27 回	卒業演奏試験課題曲を学ぶ（7）ピアノ合わせでのレッスン	ピアノとの合わせを行っておく。	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分
第 28 回	卒業演奏試験課題曲を学ぶ（8）ピアノ合わせでのレッスン	ピアノとの合わせを行っておく。	アンサンブル上の問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分
第 29 回	卒業演奏試験課題曲を学ぶ（9）ホールリハーサル	ピアノとの合わせを行っておく。	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分
第 30 回	公開試験の演奏内容の反省	暗譜の確認。	卒業演奏試験の反省、および今後の課題を確認する。	420 分

フィードバック	実技試験終了後、あるいは授業内にて適宜、担当者よりコメントをフィードバックする。
---------	------------------------------------------

成績評価	卒業試験により評価する。
------	--------------

テキスト	各人の進度に合わせて、取り組む曲を適宜選定する。
------	--------------------------

オフィスアワー	各教員出校日に各レッスン室において受け付ける。
---------	-------------------------

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				

専門実技 I-1 (ハーブ)

客員教授 井上美江子

科目コード：IND101

対象コース/専門/学年： 器楽コース/ハーブ専門/1 年次

形態：実技	単位数：4 単位
概要	ハーブの演奏技術の確立。週 1 時間のレッスンを通して、エチュードを使つての技術の向上を図りながら、1~2 曲のソロ曲を仕上げることでより深い音楽表現を学び、7 月の実技試験で成果を発表する。

到達目標	正確な読譜力、解釈力、音楽の表現力の向上。テクニック確立のための基礎練習を重視しながら、比較的短めのソロ曲を 2 曲仕上げ、実技試験で演奏する。比較的難度の低い古典作品が望ましい。
------	--------------------------------------------------------------------------------------------

授業計画 前期 15 回、各人 60 分の個人指導。各回の授業内容は、進度、個人の技量により変更することがある。また曲目は一例であり、変更することがある。

回数	内容	事前	事後	時間
第 1 回	ガイダンス 基礎練習、エチュード (ナダマン 30 のプレリユード) ソロ曲①デュセック：ソナチネ 譜読み	課題曲の指使いを入手して譜読みを始める	指摘された箇所を中心に反復練習	420 分
第 2 回	基礎練習、エチュード (ナダマン 30 のプレリユード) ソロ曲①デュセック：ソナチネ 奏法を中心に	主にフィンガリング、奏法を中心に練習	指摘された箇所を中心に反復練習	420 分
第 3 回	基礎練習、エチュード (ナダマン 30 のプレリユード) ソロ曲①デュセック：ソナチネ 音楽的な掘り下げ	特にダイナミクス、音色に注意して練習	指摘された箇所を中心に反復練習	420 分
第 4 回	基礎練習、エチュード (ナダマン 30 のプレリユード) ソロ曲①デュセック：ソナチネ 全体のまとめ	音楽的な表現に注意しながらテンポでの演奏を目指す	指摘された箇所を中心に反復練習	420 分
第 5 回	基礎練習、エチュード (ナダマン 30 のプレリユード) ソロ曲②グリカ：テーマとヴァリエーション譜読み	課題曲の指使いを入手して譜読みを始める	指摘された箇所を中心に反復練習	420 分
第 6 回	基礎練習、エチュード (ナダマン 30 のプレリユード) ソロ曲②グリカ：テーマとヴァリエーション 奏法を中心に	主にフィンガリング、奏法を中心に練習	指摘された箇所を中心に反復練習	420 分
第 7 回	基礎練習、エチュード (ナダマン 30 のプレリユード) ソロ曲②グリカ：テーマとヴァリエーション 音楽的な掘り下げ	特にダイナミクス、音色に注意して練習	指摘された箇所を中心に反復練習	420 分
第 8 回	基礎練習、エチュード (ナダマン 30 のプレリユード) ソロ曲②グリカ：テーマとヴァリエーション 全体のまとめ	音楽的な表現に注意しながらテンポでの演奏を目指す	指摘された箇所を中心に反復練習	420 分
第 9 回	エチュード (ナダマン 30 のプレリユード) 前期試験曲 (デュセック or グリカ) 奏法、音色、ダイナミクス、リズムの確認	奏法、音色、ダイナミクス、リズムに注意して練習	指摘された箇所を中心に反復練習	420 分
第 10 回	エチュード (ナダマン 30 のプレリユード) 前期試験曲、音楽表現を中心に	全体のテンポや音楽の流れを確認	指摘された箇所を中心に反復練習	420 分
第 11 回	前期試験曲、暗譜の確認	暗譜を中心に練習	指摘された箇所を中心に反復練習	420 分
第 12 回	前期試験曲、より深い音楽解釈	全体の音楽解釈を考えて練習	指摘された箇所を中心に反復練習	420 分
第 13 回	前期試験曲、全体の仕上げ	総合的な練習	指摘された箇所を中心に反復練習	420 分
第 14 回	前期試験曲、弾き合い	通して演奏する練習	弾き合いでの録音を聴いて反省、問題点を中心に練習	420 分
第 15 回	まとめと復習、後期の計画、目標の確認	試験の演奏の反省、問題点を中心に復習	後期にやる曲の譜面の準備、書き込み	420 分

フィードバック レッスン内でのコメント、実技試験終了後に口頭で講評する。

成績評価 実技試験に平常点を加味して総合的に評価。なお、実技試験評価は複数教員 (弦楽器実技担当教員) による。

テキスト 各人の演奏曲目の楽譜

オフィスアワー 1008 室
月曜日 11:00~19:00、火曜日 13:00~19:00、金曜日 13:10~14:40
E-mail: miekoinoue19@ybb.ne.jp

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性							
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・目的発働能力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲	
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	

専門実技 I-2 (ハーブ)

客員教授 井上美江子

科目コード：IND102

対象コース/専門/学年： 器楽コース/ハーブ専門/1 年次

形態：実技	単位数：4 単位
概要	ハーブの演奏技術の確立。前期に引き続き、エチュードを通しての技術の習得に加え、より高度な音楽表現を学ぶ。前期よりも難度の高いソロ曲で実技試験に臨む。

到達目標	正確な読譜力、解釈力、音楽の表現力の向上。前期に引き続き基礎練習で技術を高めながら、より深い音楽表現が必要なソロ曲を習得する。実技試験の曲目は、前期とは違う様式の曲が望ましい。
------	------------------------------------------------------------------------------------------

授業計画	後期 15 回、各人 60 分の個人指導。各回の授業内容は、進度、個人の技量により変更することがある。また曲目は一例であり、変更することがある。
------	--------------------------------------------------------------------------

回数	内容	事前	事後	時間
第 1 回	基礎練習、エチュード (ナダマン 30 のプレリュード) ソロ曲③ハッセルマン：泉 譜読み	課題曲の指使いを入手して譜読みを始める	指摘された箇所を中心に反復練習	420 分
第 2 回	基礎練習、エチュード (ナダマン 30 のプレリュード) ソロ曲③ハッセルマン：泉 奏法を中心に	主にフィンガリング、奏法を中心に練習	指摘された箇所を中心に反復練習	420 分
第 3 回	基礎練習、エチュード (ナダマン 30 のプレリュード) ソロ曲③ハッセルマン：泉 音楽的な掘り下げ	特にダイナミクス、音色に注意して練習	指摘された箇所を中心に反復練習	420 分
第 4 回	基礎練習、エチュード (ナダマン 30 のプレリュード) ソロ曲③ハッセルマン：泉 全体的なまとめ	音楽的な表現に注意しながらテンポでの演奏を目指す	指摘された箇所を中心に反復練習	420 分
第 5 回	基礎練習、エチュード (ナダマン 30 のプレリュード) ソロ曲④アンドレ：納骨堂 譜読み	課題曲の指使いを入手して譜読みを始める	指摘された箇所を中心に反復練習	420 分
第 6 回	基礎練習、エチュード (ナダマン 30 のプレリュード) ソロ曲④アンドレ：納骨堂 奏法を中心に	主にフィンガリング、奏法中心に練習	指摘された箇所を中心に反復練習	420 分
第 7 回	基礎練習、エチュード (ナダマン 30 のプレリュード) ソロ曲④アンドレ：納骨堂 音楽的な掘り下げ	特にダイナミクス、音色に注意して練習	指摘された箇所を中心に反復練習	420 分
第 8 回	基礎練習、エチュード (ナダマン 30 のプレリュード) ソロ曲④アンドレ：納骨堂 全体的なまとめ	音楽的な表現に注意しながらテンポでの演奏を目指す	指摘された箇所を中心に反復練習	420 分
第 9 回	エチュード (ナダマン 30 のプレリュード) 後期試験曲 (ハッセルマン or アンドレ) 奏法、音色、ダイナミクス、リズムの確認	奏法、音色、ダイナミクス、リズムに注意して練習	指摘された箇所を中心に反復練習	420 分
第 10 回	エチュード (ナダマン 30 のプレリュード) 後期試験曲 音楽表現を中心に	全体のテンポや音楽の流れを確認	指摘された箇所を中心に反復練習	420 分
第 11 回	後期試験曲、暗譜の確認	暗譜を中心に練習	指摘された箇所を中心に反復練習	420 分
第 12 回	後期試験曲、より深い音楽表現	全体の音楽解釈を考えて練習	指摘された箇所を中心に反復練習	420 分
第 13 回	後期試験曲、全体の仕上げ	総合的な練習	指摘された箇所を中心に反復練習	420 分
第 14 回	後期試験曲、弾き合い	通して演奏する練習	弾き合いの録音を聴いて反省、問題点を中心に練習	420 分
第 15 回	まとめと復習、来年度の計画、目標の確認	試験の演奏の反省、問題点を中心に復習	今年度に行った曲を復習、来年度にやる曲の譜面を入手、書き込み	420 分

フィードバック レッスン内でのコメント、実技試験終了後に口頭で講評する。

成績評価 実技試験に平常点を加味して総合的に評価。なお、実技試験評価は複数教員（弦楽器実技担当教員）による。

テキスト 各人の演奏曲目の楽譜

オフィスアワー 1008 室
月曜日 11：00～19：00、火曜日 13：00～19：00、金曜日 13：10～14：40
E-mail: miekoinoue19@ybb.ne.jp

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・目的発働能力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>

専門実技Ⅱ-1 (ハーブ)

客員教授 井上美江子

科目コード：IND201

対象コース／専門／学年： 器楽コース／ハーブ専門／2 年次

形態：実技	単位数：4 単位
概要	ハーブ演奏技術の確立。1 年次に引き続き、週 1 時間のレッスンを通してテクニックの確立のための毎日の基礎練習、エチュードの実習をしながら、1 年次より長く複雑なソロ曲を半期で 1～2 曲仕上げる。個人の技量により差は出てくるが、基本的に前期には古典や比較的易しいソナタなどを学習する。
到達目標	正確な読譜力、解釈力、音楽の表現力、創造力の向上を目標とする。1 年次よりの基礎練習、エチュードによる技術の向上を続けながら、より複雑で長いソロ曲を演奏することで、より大きな音楽表現を目指す。

授業計画 前期 15 回、各人 60 分の個人指導。各回の授業内容は、進度、個人の技量により変更することがある。また曲目は一例であり、変更することがある。

回数	内容	事前	事後	時間
第 1 回	ガイダンス、基礎練習、エチュード (ボクサ 25 のエチュード)、 ソロ曲①ヘンデル：テーマとヴァリエーション 譜読み	指使いを入手して譜読みを始める	指摘された箇所を中心に反復練習	420 分
第 2 回	基礎練習、エチュード (ボクサ 25 のエチュード)、 ソロ曲①ヘンデル：テーマとヴァリエーション 奏法を中心に	主にフィンガリング、奏法を中心に練習	指摘された箇所を中心に反復練習	420 分
第 3 回	基礎練習、エチュード (ボクサ 25 のエチュード)、 ソロ曲①ヘンデル：テーマとヴァリエーション 音楽的な掘り下げ	特にダイナミクス、音色に注意して練習	指摘された箇所を中心に反復練習	420 分
第 4 回	基礎練習、エチュード (ボクサ 25 のエチュード)、 ソロ曲①ヘンデル：テーマとヴァリエーション 全体的なまとめ	音楽的な表現に注意しながらテンポでの演奏を目指す	指摘された箇所を中心に反復練習	420 分
第 5 回	基礎練習、エチュード (ボクサ 25 のエチュード)、 ソロ曲②ワトキンス：小組曲 譜読み	指使いを入手して譜読みを始める	指摘された箇所を中心に反復練習	420 分
第 6 回	基礎練習、エチュード (ボクサ 25 のエチュード)、 ソロ曲②ワトキンス：小組曲 奏法を中心に	主にフィンガリング、奏法を中心に練習	指摘された箇所を中心に反復練習	420 分
第 7 回	基礎練習、エチュード (ボクサ 25 のエチュード)、 ソロ曲②ワトキンス：小組曲 音楽的な掘り下げ	特にダイナミクス、音色に注意して練習	指摘された箇所を中心に反復練習	420 分
第 8 回	基礎練習、エチュード (ボクサ 25 のエチュード)、 ソロ曲②ワトキンス：小組曲 全体的なまとめ	音楽的な表現に注意しながらテンポでの演奏を目指す	指摘された箇所を中心に反復練習	420 分
第 9 回	エチュード、前期試験曲 (ヘンデル or ワトキンス) 奏法、音色、ダイナミクス、リズムの確認	奏法、音色、ダイナミクス、リズムに注意して練習	指摘された箇所を中心に反復練習	420 分
第 10 回	エチュード、前期試験曲、音楽表現を中心に	全体のテンポや音楽の流れを確認	指摘された箇所を中心に反復練習	420 分
第 11 回	前期試験曲、暗譜の確認	暗譜を中心に練習	指摘された箇所を中心に反復練習	420 分
第 12 回	前期試験曲、より深い音楽解釈	全体の音楽解釈を考えて練習	指摘された箇所を中心に反復練習	420 分
第 13 回	前期試験曲、全体の仕上げ	総合的な練習	指摘された箇所を中心に反復練習	420 分
第 14 回	前期試験曲、弾き合い	通して演奏する練習	弾き合いの録音を聴いて反省、問題点を中心に練習	420 分
第 15 回	まとめと復習、後期の計画、目標の確認	試験の演奏の反省、問題点を中心に復習	後期の課題曲の譜面を入手、書き込み	420 分

フィードバック レッスン内でのコメント、実技試験終了後に口頭で講評する。

成績評価 実技試験に平常点を加味して総合的に評価。
なお、実技試験評価は複数教員(弦楽器実技担当教員)による。

テキスト 各人の演奏曲目の楽譜

オフィスアワー 1008 室
月曜日 11：00～19：00、火曜日 13：00～19：00、金曜日 13：10～14：40

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>

専門実技Ⅱ-2 (ハーブ)

客員教授 井上美江子

科目コード：IND202

対象コース／専門／学年： 器楽コース／ハーブ専門／2 年次

形態：実技	単位数：4 単位
概要	ハーブ演奏技術の確立。前期に引き続き、エチュードを通しての技術の習得に加え、より高度な音楽表現を学ぶ。前期より長く複雑なソロ曲を半期で1～2 曲仕上げ、基本的には前期試験とは時代様式の違う楽曲で実技試験に臨む。

到達目標	正確な読譜力、解釈力、音楽の表現力、創造力の向上を目標とする。1 年次よりの基礎練習、エチュードによる技術の向上を続けながら、より複雑で長いソロ曲を演奏することで、より大きな音楽表現を目指す。
------	--------------------------------------------------------------------------------------------------

授業計画	後期 15 回、各人 60 分の個人指導。各回の授業内容は、進度、個人の技量により変更することがある。また曲目は一例であり、変更することがある。
------	--------------------------------------------------------------------------

回数	内容	事前	事後	時間
第 1 回	基礎練習、エチュード (ボクサ 25 のエチュード)、ソロ曲③ドビュッシー：アラバスク 譜読み	指使いを入手して譜読みを始める	指摘された箇所を中心に反復練習	420 分
第 2 回	基礎練習、エチュード (ボクサ 25 のエチュード)、ソロ曲③ドビュッシー：アラバスク 奏法を中心に	主にフィンガリング、奏法を中心に練習	指摘された箇所を中心に反復練習	420 分
第 3 回	基礎練習、エチュード (ボクサ 25 のエチュード)、ソロ曲③ドビュッシー：アラバスク 音楽的な掘り下げ	特にダイナミクス、音色に注意して練習	指摘された箇所を中心に反復練習	420 分
第 4 回	基礎練習、エチュード (ボクサ 25 のエチュード)、ソロ曲③ドビュッシー：アラバスク 全体的なまとめ	音楽的な表現に注意しながらテンポでの演奏を目指す	指摘された箇所を中心に反復練習	420 分
第 5 回	基礎練習、エチュード (ボクサ 25 のエチュード)、ソロ曲④ビエルネ：アムプロムプチュ・カプリス 譜読み	指使いを入手して譜読みを始める	指摘された箇所を中心に反復練習	420 分
第 6 回	基礎練習、エチュード (ボクサ 25 のエチュード)、ソロ曲④ビエルネ：アムプロムプチュ・カプリス 奏法を中心に	主にフィンガリング、奏法に注意して練習	指摘された箇所を中心に反復練習	420 分
第 7 回	基礎練習、エチュード (ボクサ 25 のエチュード)、ソロ曲④ビエルネ：アムプロムプチュ・カプリス 音楽的な掘り下げ	特にダイナミクス、音色に注意して練習	指摘された箇所を中心に反復練習	420 分
第 8 回	基礎練習、エチュード (ボクサ 25 のエチュード)、ソロ曲④ビエルネ：アムプロムプチュ・カプリス 全体的なまとめ	音楽的な表現に注意しながらテンポでの演奏を目指す	指摘された箇所を中心に反復練習	420 分
第 9 回	エチュード、後期試験曲 (シユボア or ビエルネ) 奏法、音色、ダイナミクス、リズムの確認	奏法、音色、ダイナミクス、テンポに注意して練習	指摘された箇所を中心に反復練習	420 分
第 10 回	エチュード、後期試験曲、音楽表現を中心に	奏法、音色、ダイナミクス、リズムに注意して練習	指摘された箇所を中心に反復練習	420 分
第 11 回	後期試験曲、暗譜の確認	暗譜を中心に練習	指摘された箇所を中心に反復練習	420 分
第 12 回	後期試験曲、より深い音楽解釈	全体の音楽解釈を考えて練習	指摘された箇所を中心に反復練習	420 分
第 13 回	後期試験曲、全体の仕上げ	総合的な練習	指摘された箇所を中心に反復練習	420 分
第 14 回	後期試験曲、弾き合い	通して演奏する練習	弾き合いの録音を聴いて反省、問題点を中心に練習	420 分
第 15 回	まとめと復習、来年度の計画と目標の確認	試験の演奏の反省、問題点を中心に復習	今年度に行った曲の復習、来年度の課題曲の譜面を入手、書き込み	420 分

フィードバック レッスン内でのコメント、実技試験終了後に口頭で講評する

成績評価 実技試験に平常点を加味して総合的に評価。
なお、実技試験評価は複数教員(弦楽器実技担当教員)による。

テキスト 各人の演奏曲目の楽譜

オフィスアワー 1008 室
月曜日 11：00～19：00、火曜日 13：00～19：00、金曜日 13：10～14：40

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発働能力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>

専門実技Ⅲ (ハープ)

客員教授 井上美江子

科目コード：IND301/IND302

対象コース/専門/学年：器楽コース/ハープ専門/3 年次

形態：実技

単位数：8 単位

概要 ハープ演奏技術の確立。テクニックの確立のための毎日の基礎練習、エチュードの実習をしながら、2 年次までに習得した技術を踏まえ、様々な様式の楽曲を学び、レパートリーの拡大を目指す。2 年次までに学習した曲よりもより長く複雑で、時代様式の異なるソロ曲を年間 3~4 曲仕上げる。

到達目標 正確な読譜力、解釈力、音楽の表現力、創造力の向上を目標とする。グランジャンニー、サルツェード、ルニエ、トゥルニエなどハーピストの作品と、ハーピスト以外の作曲家の作品をバランスよく学習することが望ましい。

授業計画 年間 30 回、各人 60 分の個人指導。各回の授業内容、進度、個人の技量により変更することがある。また曲目は一例であり、変更することがある。

第 1 回	ガイダンス、基礎練習、エチュード (ナダマン 18 のプレリュード) ソロ曲①バシェッティ：ソナタ 譜読み	事前 指使いを入手して譜読みを始める 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	420 分 420 分
第 2 回	基礎練習、エチュード (ナダマン 18 のプレリュード) ソロ曲①バシェッティ：ソナタ 奏法を中心に	事前 主にフィンガリング、奏法を中心に練習 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	420 分 420 分
第 3 回	基礎練習、エチュード (ナダマン 18 のプレリュード) ソロ曲①バシェッティ：ソナタ 音楽的な掘り下げ	事前 特にダイナミクス、音色に注意して練習 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	420 分 420 分
第 4 回	基礎練習、エチュード (ナダマン 18 のプレリュード) ソロ曲①バシェッティ：ソナタ 全体的なまとめ	事前 音楽的な表現に注意しながらテンポでの演奏を目指す 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	420 分 420 分
第 5 回	基礎練習、エチュード (ナダマン 18 のプレリュード) ソロ曲②トゥルニエ：フェリー 譜読み	事前 指使いを入手して譜読みを始める 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	420 分 420 分
第 6 回	基礎練習、エチュード (ナダマン 18 のプレリュード) ソロ曲②トゥルニエ：フェリー 奏法を中心に	事前 主にフィンガリング、奏法を中心に練習 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	420 分 420 分
第 7 回	基礎練習、エチュード (ナダマン 18 のプレリュード) ソロ曲②トゥルニエ：フェリー 音楽的な掘り下げ	事前 特にダイナミクス、音色に注意して練習 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	420 分 420 分
第 8 回	基礎練習、エチュード (ナダマン 18 のプレリュード) ソロ曲②トゥルニエ：フェリー 全体的なまとめ	事前 音楽的な表現に注意しながらテンポでの演奏を目指す 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	420 分 420 分
第 9 回	エチュード、前期試験曲 (バシェッティ or トゥルニエ) 奏法、音色、ダイナミクス、リズムの確認	事前 奏法、音色、ダイナミクス、リズムに注意して練習 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	420 分 420 分
第 10 回	エチュード、前期試験曲 音楽表現を中心に	事前 全体のテンポや音楽の流れを確認 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	420 分 420 分
第 11 回	学内演奏会 暗譜の確認	事前 暗譜を中心に練習 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	420 分 420 分
第 12 回	学内演奏会、より深い音楽解釈	事前 全体の音楽解釈を考えて練習 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	420 分 420 分
第 13 回	学内演奏会、全体の仕上げ	事前 総合的な練習 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	420 分 420 分
第 14 回	学内演奏会、弾き合い	事前 通して演奏する練習 事後 弾き合いの録音を聴いて反省、問題点を中心に練習	420 分 420 分
第 15 回	まとめと復習、後期の計画と目標の確認	事前 試験の演奏の反省、問題点を中心に復習 事後 前期にやった曲の復習、後期の課題曲の譜面を入手、書き込み	420 分 420 分
第 16 回	基礎練習、エチュード (バッハ・グランジャンニーエチュード) ソロ曲③ハチャトリアン：オリエンタルとトッカータ 譜読み	事前 指使いを入手して譜読みを始める 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	420 分 420 分
第 17 回	基礎練習、エチュード (バッハ・グランジャンニーエチュード) ソロ曲③ハチャトリアン：オリエンタルとトッカータ 奏法を中心に	事前 主にフィンガリング、奏法を中心に練習 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	420 分 420 分
第 18 回	基礎練習、エチュード (バッハ・グランジャンニーエチュード) ソロ曲③ハチャトリアン：オリエンタルとトッカータ 音楽的な掘り下げ	事前 特にダイナミクス、音色に注意して練習 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	420 分 420 分
第 19 回	基礎練習、エチュード (バッハ・グランジャンニーエチュード) ソロ曲③ハチャトリアン：オリエンタルとトッカータ 全体的なまとめ	事前 音楽的な表現に注意しながらテンポでの演奏を目指す 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	420 分 420 分
第 20 回	基礎練習、エチュード (バッハ・グランジャンニーエチュード) ソロ曲④グランジャンニー：ファンタジー 譜読み	事前 指使いを入手して譜読みを始める 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	420 分 420 分
第 21 回	基礎練習、エチュード (バッハ・グランジャンニーエチュード) ソロ曲④グランジャンニー：ファンタジー 奏法を中心に	事前 主にフィンガリング、奏法を中心に練習 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	420 分 420 分
第 22 回	基礎練習、エチュード (バッハ・グランジャンニーエチュード) ソロ曲④グランジャンニー：ファンタジー 音楽的な掘り下げ	事前 特にダイナミクス、音色に注意して練習 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	420 分 420 分
第 23 回	基礎練習、エチュード (バッハ・グランジャンニーエチュード) ソロ曲④グランジャンニー：ファンタジー 全体的なまとめ	事前 音楽的な表現に注意しながらテンポでの演奏を目指す 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	420 分 420 分
第 24 回	エチュード、後期試験曲 (ハチャトリアン or グランジャンニー) 奏法、音色、ダイナミクス、テンポの確認	事前 奏法、音色、ダイナミクス、リズムに注意して練習 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	420 分 420 分
第 25 回	エチュード、後期試験曲 音楽表現を中心に	事前 全体のテンポや音楽の流れを確認 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	420 分 420 分
第 26 回	後期試験曲、暗譜の確認	事前 暗譜を中心に練習 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	420 分 420 分
第 27 回	後期試験曲、より深い音楽解釈	事前 全体のテンポや音楽の流れを確認 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	420 分 420 分
第 28 回	後期試験曲、全体の仕上げ	事前 総合的な練習 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	420 分 420 分
第 29 回	後期試験曲、弾き合い	事前 通して演奏する練習 事後 弾き合いの録音を聴いて反省、問題点を中心に練習	420 分 420 分
第 30 回	まとめと復習、来年度の計画、目標の確認	事前 試験の演奏の反省、問題点を中心に復習 事後 今年度に行った曲の復習、来年度の課題曲の譜面を入手、書き込み	420 分 420 分

フィードバック レッスン内でのコメント、実技試験終了後に口頭で講評する。

成績評価 実技試験に平常点を加味して総合的に評価。
なお、実技試験評価は複数教員(弦楽器実技担当教員)による。

テキスト 各人の演奏曲目の楽譜

オフィスアワー 1008 室
月曜日 11:00~19:00、火曜日 13:00~19:00、金曜日 13:10~14:40

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>

専門実技Ⅳ（ハープ）

客員教授 井上美江子

科目コード：IND403/IND404

対象コース/専門/学年：器楽コース/ハープ専門/4年次

形態：実技

単位数：8単位

概要 ハープ演奏技術の確立。テクニックの確立のための毎日の基礎練習、エチュードの実習をしながら、4年間の集大成としてのホールでの卒業試験で演奏する大曲を含め、様々な様式の楽曲を学習し、卒業後も長く演奏していけるレパートリーを確立する。余裕のある学生に於いては、協奏曲の学習も望まれる。

到達目標 正確な読譜力、解釈力、音楽の表現力、創造力の向上を目標とする。技術の向上とともに、より深い音楽を通しての表現を目指し、時代様式の違う3~4曲を仕上げる。うち1曲は、卒業試験および新人演奏会などで演奏する、高度で比較的長い、ハープの重要なレパートリーから選択する。

授業計画 年間30回、各人60分の個人指導。各回の授業内容は進度、個人の技量により変更することがある。また曲目は一例であり、変更することがある。

第1回	ガイドダンス、基礎練習、エチュード（ボクサ50のエチュード） ソロ曲①デュセック：ソナタ 譜読み	事前 指使いを入手して譜読みを始める 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	420分 420分
第2回	基礎練習、エチュード（ボクサ50のエチュード） ソロ曲①デュセック：ソナタ 奏法を中心に	事前 主にフィンガリング、奏法を中心に練習 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	420分 420分
第3回	基礎練習、エチュード（ボクサ50のエチュード） ソロ曲①デュセック：ソナタ 音楽表現を中心に	事前 特にダイナミクス、音色に注意して練習 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	420分 420分
第4回	基礎練習、エチュード（ボクサ50のエチュード） ソロ曲①デュセック：ソナタ 全体的なまとめ	事前 音楽的な表現に注意しながらテンポでの演奏を目指す 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	420分 420分
第5回	基礎練習、エチュード（ボクサ50のエチュード） ソロ曲②ツァーベル：噴水 譜読み	事前 指使いを入手して譜読みを始める 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	420分 420分
第6回	基礎練習、エチュード（ボクサ50のエチュード） ソロ曲②ツァーベル：噴水 奏法を中心に	事前 主にフィンガリング、奏法を中心に練習 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	420分 420分
第7回	基礎練習、エチュード（ボクサ50のエチュード） ソロ曲②ツァーベル：噴水 音楽表現を中心に	事前 特にダイナミクス、音色に注意して練習 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	420分 420分
第8回	基礎練習、エチュード（ボクサ50のエチュード） ソロ曲②ツァーベル：噴水 暗譜の確認	事前 暗譜を中心に練習 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	420分 420分
第9回	基礎練習、エチュード（ボクサ50のエチュード） ソロ曲②ツァーベル：噴水 全体的なまとめ	事前 音楽的な表現に注意しながらテンポでの演奏を目指す 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	420分 420分
第10回	基礎練習、エチュード（ボクサ50のエチュード） ソロ曲③ヘンデル：ハープ協奏曲 1楽章譜読み	事前 指使いを入手して譜読みを始める 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	420分 420分
第11回	基礎練習、エチュード（ボクサ50のエチュード） ソロ曲③ヘンデル：ハープ協奏曲 2、3楽章 譜読み	事前 指使いを入手して譜読みを始める 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	420分 420分
第12回	基礎練習、エチュード（ボクサ50のエチュード） ソロ曲③ヘンデル：ハープ協奏曲 奏法を中心に	事前 主にフィンガリング、奏法を中心に練習 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	420分 420分
第13回	基礎練習、エチュード（ボクサ50のエチュード） ソロ曲③ヘンデル：ハープ協奏曲 音楽表現を中心に	事前 特にダイナミクス、音色に注意して練習 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	420分 420分
第14回	基礎練習、エチュード（ボクサ50のエチュード） ソロ曲③ヘンデル：ハープ協奏曲 暗譜の確認	事前 暗譜を中心に練習 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	420分 420分
第15回	基礎練習、エチュード（ボクサ50のエチュード） ソロ曲③ヘンデル：ハープ協奏曲 全体的なまとめ	事前 音楽的な表現に注意しながらテンポでの演奏を目指す 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	420分 420分
第16回	基礎練習、エチュード（ボクサ50のエチュード） ソロ曲④サルツェード：テーマとヴァリエーション テーマ~Var.3 譜読み	事前 指使いを入手して譜読みを始める 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	420分 420分
第17回	基礎練習、エチュード（ボクサ50のエチュード） ソロ曲④サルツェード：テーマとヴァリエーション Var.4~Var.7 譜読み	事前 指使いを入手して譜読みを始める 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	420分 420分
第18回	基礎練習、エチュード（ボクサ50のエチュード） ソロ曲④サルツェード：テーマとヴァリエーション Var.8~Var.10 譜読み	事前 指使いを入手して譜読みを始める 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	420分 420分
第19回	基礎練習、エチュード（ボクサ50のエチュード） ソロ曲④サルツェード：テーマとヴァリエーション 奏法を中心に	事前 主にフィンガリング、奏法を中心に練習 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	420分 420分
第20回	基礎練習、エチュード（ボクサ50のエチュード） ソロ曲④サルツェード：テーマとヴァリエーション 音楽表現を中心に	事前 音楽的な表現に注意しながらテンポでの演奏を目指す 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	420分 420分
第21回	卒業試験の曲（サルツェードなど）音色、リズム、ダイナミクスの確認	事前 音色、リズム、ダイナミクスに注意して練習 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	420分 420分
第22回	卒業試験の曲（サルツェードなど）暗譜の確認	事前 暗譜を中心に練習 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	420分 420分
第23回	卒業試験の曲（サルツェードなど）より深い音楽解釈	事前 全体のテンポや音楽の流れを確認 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	420分 420分
第24回	卒業試験の曲（サルツェードなど）全体の仕上げ	事前 総合的な練習 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	420分 420分
第25回	卒業試験の曲（サルツェードなど）弾き合い	事前 通して演奏する練習 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	420分 420分
第26回	卒業後に演奏できるレパートリーの確立・4年間で学習したソロ曲の復習	事前 4年間に演奏したソロ曲をリストアップして整理する 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	420分 420分
第27回	卒業後に演奏できるレパートリーの確立・4年間で学習したソロ曲の仕上げ	事前 レパートリーの確立 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	420分 420分
第28回	卒業後に演奏できるレパートリーの確立・BGMとしても使えるレパートリーの譜読み	事前 BGMとして演奏できるレパートリーを譜読みする 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	420分 420分
第29回	卒業後に演奏できるレパートリーの確立・BGMとしても使えるレパートリーの仕上げ	事前 いつでも演奏できるレパートリーを確立すべく練習 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	420分 420分
第30回	まとめと復習、卒業後の計画	事前 将来の計画。新人演奏会へ向けての練習 事後 さらになる努力	420分 420分

フィードバック レッスン内でのコメント、実技試験終了後に口頭で講評する。

成績評価 実技試験に平常点を加味して総合的に評価。
なお、実技試験評価は複数教員（弦楽器実技担当教員）による。

テキスト 各人の演奏曲目の楽譜

オフィスアワー 1008室
月曜日 11:00~19:00、火曜日 13:00~19:00、金曜日 13:10~14:40

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>

専門実技 I-1 (管楽器)

管・打楽器部会主任 特任教授 三上明子

科目コード：IND101

対象コース/専門/学年： 器楽コース/管楽器専門/1 年次

形態：実技

単位数：4 単位

概要 奏法の基本を認識・確認し、体得する。奏法（原因）と表現（結果）の関わりを楽曲を通じて認識し、演奏に生かす訓練をする。

到達目標 ①良い姿勢・呼吸法を身に付ける ②正しい読譜力の確立 ③演奏技術の向上 ④多くのレパートリーをこなす の4点。
実際の楽曲に当たっては、様式感および形式を理解することを目標とする。なお、リードを使用する楽器については、リードの製作指導も行う。

回	内容	事前	事後	420 分
第 1 回	ガイダンス・レッスンの進め方と目標	入学までの学修を確認し、学修計画案をたてる	学修計画を確認し、楽譜等今後必要な準備をする	420 分
第 2 回	基礎訓練的な練習①呼吸法	基礎訓練的な練習の準備をする	問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	420 分
第 3 回	基礎訓練的な練習②正しい構え方	引き続き、問題個所の是正に取り組む	問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	420 分
第 4 回	練習曲①確認、曲①確認	練習曲①、曲①の譜読みと準備に取り組む	練習曲①、曲①の問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	420 分
第 5 回	練習曲①定着、曲①表現の工夫	練習曲①の習熟、曲①の表現に取り組む	練習曲①のまとめ、曲①の表現を更に身に付ける	420 分
第 6 回	練習曲②確認、曲②仕上げの演奏	練習曲②の譜読みと準備。曲②の完成を目指す	練習曲②問題箇所を確認し、曲②のまとめを行う	420 分
第 7 回	練習曲②定着、曲②確認	練習曲②の習熟、曲②の譜読みと準備に取り組む	練習曲②のまとめ、曲②の問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	420 分
第 8 回	練習曲③確認、曲③表現の工夫	練習曲③の譜読みと準備。曲③の表現に取り組む	練習曲③の問題箇所を確認し、曲③の表現を身に付ける	420 分
第 9 回	練習曲③定着、曲③仕上げの演奏	練習曲③の習熟、曲③の完成を目指す	練習曲③、曲③のまとめを行う	420 分
第 10 回	前期試験曲、確認	前期試験曲の譜読みと準備に取り組む	前期試験曲の問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	420 分
第 11 回	前期試験曲、奏法を中心に	前期試験曲の奏法について予習する	前期試験曲の奏法について問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	420 分
第 12 回	前期試験曲、表現の工夫	前期試験曲の表現に取り組む	前期試験曲の表現を更に身に付ける	420 分
第 13 回	前期試験曲、表現の掘り下げ	前期試験曲について、全般的に確認する	前期試験曲の問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	420 分
第 14 回	前期試験曲、仕上げの演奏	前期試験曲の仕上げを目指す	前期試験曲の問題箇所を確認する	420 分
第 15 回	前期のまとめ	前期の取り組みの問題点を確認する	後期に向けての課題に取り組む	420 分

フィードバック 各教員から学生へのフィードバックは、必要に応じて常に行われる。また、実技試験後には講評をする。

成績評価 実技試験で評価する。
なお、実技試験評価は複数教員による。

テキスト 担当教員の指示による。

オフィスアワー 授業後、教員の指示を受けること。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性							
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲	
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>									

専門実技 I-2 (管楽器)

管・打楽器部会主任 特任教授 三上明子

科目コード：IND102

対象コース／専門／学年： 器楽コース／管楽器専門／1 年次

形態：実技

単位数：4 単位

概要 より高度な楽曲をこなして、演奏家にふさわしい表現力と実力を身に付ける

到達目標 専門実技 I-1 (管楽器) の到達目標を継続し、さらに深い理解を得ると共に、より難易度の高い楽曲も演奏してゆく。

授業計画

第 1 回	後期レッスンの進め方の確認	事前 後期の学修計画案をたてる 事後 学修計画を確認し、楽譜等今後必要な準備をする	420 分 420 分
第 2 回	基礎訓練的な練習③アンブシュアについて	事前 基礎訓練的な練習の準備をする 事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	420 分 420 分
第 3 回	基礎訓練的な練習④基礎奏法の総合	事前 引き続き、問題個所の是正に取り組む 事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	420 分 420 分
第 4 回	練習曲④確認、曲③確認	事前 練習曲④、曲③の譜読みと準備に取り組む 事後 練習曲④、曲③の問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	420 分 420 分
第 5 回	練習曲④定着、曲③表現の工夫	事前 練習曲④の習熟、曲③の表現に取り組む 事後 練習曲④のまとめ、曲③の表現を更に身に付ける	420 分 420 分
第 6 回	練習曲⑤確認、曲③仕上げの演奏	事前 練習曲⑤の譜読みと準備。曲③の完成を目指す 事後 練習曲⑤問題個練習曲②の習熟、曲④の譜読みと準備に取り組む	420 分 420 分
第 7 回	練習曲⑤定着、曲④確認	事前 練習曲⑤の習熟、曲④の譜読みと準備に取り組む 事後 練習曲⑤のまとめ、曲④の問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	420 分 420 分
第 8 回	練習曲⑥確認、曲④表現の工夫	事前 練習曲⑥の譜読みと準備。曲④の表現に取り組む 事後 練習曲⑥の問題箇所を確認し、曲④の表現を身に付ける	420 分 420 分
第 9 回	練習曲⑥定着、曲④仕上げの演奏	事前 練習曲⑥の習熟、④の完成を目指す 事後 練習曲⑥、曲④のまとめを行う	420 分 420 分
第 10 回	後期試験曲、確認	事前 後期試験曲の譜読みと準備に取り組む 事後 後期試験曲の問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	420 分 420 分
第 11 回	後期試験曲、奏法を中心に	事前 後期試験曲の奏法について予習する 事後 後期試験曲の奏法について問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	420 分 420 分
第 12 回	後期試験曲、表現の工夫	事前 後期試験曲の表現に取り組む 事後 後期試験曲の表現を更に身に付ける	420 分 420 分
第 13 回	後期試験曲、表現の掘り下げ	事前 後期試験曲について、全般的に確認する 事後 後期試験曲の問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	420 分 420 分
第 14 回	後期試験曲仕上げの演奏	事前 後期試験曲の仕上げを目指す 事後 後期試験曲の問題箇所を確認する	420 分 420 分
第 15 回	一年のまとめ	事前 一年間の取り組みの問題点を確認する 事後 来年度についての課題に取り組む	420 分 420 分

フィードバック 各教員から学生へのフィードバックは、必要に応じて常に行われる。また、実技試験後には講評をする。

成績評価 実技試験で評価する。
なお、実技試験評価は複数教員による。

テキスト 担当教員の指示による。

オフィスアワー 授業後、教員の指示を受けること。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性							
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲	
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>									

専門実技Ⅱ-1 (管楽器)

管・打楽器部会主任 特任教授 三上明子

科目コード：IND201

対象コース／専門／学年： 器楽コース／管楽器専門／2 年次

形態：実技	単位数：4 単位
概要	奏法の基本を認識・確認し、体得する。奏法（原因）表現（結果）の関わりを楽曲を通じて認識し、演奏に生かす訓練をする。

到達目標	①良い姿勢・呼吸法を身に付ける ②正しい読譜力の確立 の2点。なお、リードを使用する楽器については、リードの製作指導も行う。
------	----------------------------------------------------------------

授業計画		
第1回	ガイダンス・レッスンの目標と進め方	事前 前年度までの学修を確認し、学修計画案をたてる。 事後 学修計画を確認し、楽譜等今後必要な準備をする。 420 分
第2回	基礎訓練的な練習①呼吸法	事前 基礎訓練的な練習の準備をする 事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する 420 分
第3回	基礎訓練的な練習②正しい構え方	事前 引き続き、問題個所の是正に取り組む 事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する 420 分
第4回	練習曲①確認、曲①確認	事前 練習曲①、曲①の譜読みと準備に取り組む 事後 練習曲①、曲①の問題箇所を確認し、是正にむけて練習する。 420 分
第5回	練習曲①定着、曲①表現の工夫	事前 練習曲①の習熟、曲①の表現に取り組む。 事後 練習曲①のまとめ、曲①の表現を更に身に付ける 420 分
第6回	練習曲②確認、曲②仕上げの演奏	事前 練習曲②の譜読みと準備。曲②の完成を目指す 事後 練習曲②問題箇所を確認し、曲②のまとめを行う 420 分
第7回	練習曲②定着、曲②確認	事前 練習曲②の習熟、曲②の譜読みと準備に取り組む 事後 練習曲②のまとめ、曲②の問題箇所を確認し、是正にむけて練習する。 420 分
第8回	練習曲③確認、曲③表現の工夫	事前 練習曲③の譜読みと準備。曲③の表現に取り組む 事後 練習曲③の問題箇所を確認し、曲③の表現を身に付ける。 420 分
第9回	練習曲③定着、曲③仕上げの演奏	事前 練習曲③の習熟、曲③の完成を目指す。 事後 練習曲③、曲③のまとめを行う。 420 分
第10回	前期試験曲、確認	事前 前期試験曲の譜読みと準備に取り組む。 事後 前期試験曲の問題箇所を確認し、是正にむけて練習する。 420 分
第11回	前期試験曲、奏法を中心に	事前 前期試験曲の奏法について予習する。 事後 前期試験曲の奏法について問題箇所を確認し、是正にむけて練習する。 420 分
第12回	前期試験曲、表現の工夫	事前 前期試験曲の表現に取り組む。 事後 前期試験曲の表現を更に身に付ける 420 分
第13回	前期試験曲、表現の掘り下げ	事前 前期試験曲について、全般的に確認する。 事後 前期試験曲の問題箇所を確認し、是正にむけて練習する。 420 分
第14回	前期試験曲、仕上げの演奏	事前 前期試験曲の仕上げを目指す。 事後 前期試験曲の問題箇所を確認する。 420 分
第15回	前期のまとめ	事前 前期の取り組みの問題点を確認する。 事後 後期に向けての課題に取り組む 420 分

フィードバック 各教員から学生へのフィードバックは、必要に応じて常に行われる。また、実技試験後には講評をする。

成績評価	前期末の実技試験で評価する。 なお、実技試験評価は複数教員による。
テキスト	担当教員の指示による。

オフィスアワー 授業後、教員の指示を受けること。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経歴・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>								

専門実技Ⅱ-2（管楽器）

管・打楽器部会主任 特任教授 三上明子

科目コード：IND202

対象コース／専門／学年： 器楽コース／管楽器専門／2 年次

形態：実技

単位数：4 単位

概要 高度な楽曲を数多くこなして、演奏家にふさわしい表現力と実力を身に付ける。

到達目標 ①演奏技術の向上 ②多くのレパートリーをこなす の2点。実際の楽曲に当たっては、様式感および形式を理解することを目標とする。なお、リードを使用する楽器については、リードの製作指導も行う。

授業計画		
第1回	後期レッスンの進め方の確認	事前 後期の学修計画案をたてる。 事後 学修計画を確認し、楽譜等今後必要な準備をする。 420分
第2回	基礎訓練的な練習③アンブシュアについて	事前 基礎訓練的な練習の準備をする 事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する 420分
第3回	基礎訓練的な練習④基礎奏法の総合	事前 引き続き、問題個所の是正に取り組む 事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する 420分
第4回	練習曲④確認、曲③確認	事前 練習曲④、曲③の譜読みと準備に取り組む 事後 練習曲④、曲③の問題箇所を確認し、是正にむけて練習する。 420分
第5回	練習曲④定着、曲③表現の工夫	事前 練習曲④の習熟、曲③の表現に取り組む。 事後 練習曲④のまとめ、曲③の表現を更に身に付ける 420分
第6回	練習曲⑤確認、曲③仕上げの演奏	事前 練習曲⑤の譜読みと準備。曲③の完成を目指す 事後 練習曲⑤問題個所練習曲②の習熟、曲②の譜読みと準備に取り組む。 420分
第7回	練習曲⑤定着、曲④確認	事前 練習曲⑤の習熟、曲④の譜読みと準備に取り組む 事後 練習曲⑤のまとめ。曲④の問題箇所を確認し、是正にむけて練習する 420分
第8回	練習曲⑥確認、曲④表現の工夫	事前 練習曲⑥の譜読みと準備。曲④の表現に取り組む 事後 練習曲⑥の問題箇所を確認し、曲④の表現を身に付ける。 420分
第9回	練習曲⑥定着、曲④仕上げの演奏	事前 練習曲⑥の習熟、④の完成を目指す。 事後 練習曲③、曲②のまとめを行う。 420分
第10回	後期試験曲、確認	事前 後期試験曲の譜読みと準備に取り組む。 事後 後期試験曲の問題箇所を確認し、是正にむけて練習する。 420分
第11回	後期試験曲、奏法を中心に	事前 後期試験曲の奏法について予習する。 事後 後期試験曲の奏法について問題箇所を確認し、是正にむけて練習する 420分
第12回	後期試験曲、表現の工夫	事前 後期試験曲の表現に取り組む。 事後 後期試験曲の表現を更に身に付ける 420分
第13回	後期試験曲、表現の掘り下げ	事前 後期試験曲について、全般的に確認する。 事後 後期試験曲の問題箇所を確認し、是正にむけて練習する。 420分
第14回	後期試験曲仕上げの演奏	事前 後期試験曲の仕上げを目指す。 事後 後期試験曲の問題箇所を確認する。 420分
第15回	一年のまとめ	事前 一年間の取り組みの問題点を確認する。 事後 来年度についての課題に取り組む。 420分

フィードバック 各教員から学生へのフィードバックは、必要に応じて常に行われる。また、実技試験後には講評をする。

成績評価 後期末の実技試験で評価する。

なお、実技試験評価は複数教員による。

テキスト 担当教員の指示による。

オフィスアワー 授業後、教員の指示を受けること。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経歴・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>								

専門実技Ⅲ（管楽器）

管・打楽器部会主任 特任教授 三上 明子

科目コード：IND301/IND302

対象コース/専門/学年： 器楽コース/管楽器専門/3 年次

形態：実技 単位数：8 単位
 概要 奏法の基本を認識・確認し、体得する。奏法（原因）表現（結果）の関わりを楽曲を通じて認識し、演奏に生かす訓練をする。

到達目標 ①良い姿勢・呼吸法を身に付ける ②正しい読譜力の確立 ③演奏技術の向上 ④多くのレパートリーをこなす の4点。実際の楽曲に当たっては、様式感および形式を理解することを目標とする。なお、リードを使用する楽器については、リードの製作指導も行う。

回	内容	事前	事後	420 分
第 1 回	ガイダンス・レッスンの目標と進め方	前年度までの学修を確認し、学修計画案をたてる	学修計画を確認し、楽譜等今後必要な準備をする	420 分
第 2 回	基礎訓練的な練習①呼吸法	基礎訓練的な練習の準備をする	問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	420 分
第 3 回	基礎訓練的な練習②正しい構え方	引き続き、問題個所の是正に取り組む	問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	420 分
第 4 回	練習曲①確認、曲①の確認	練習曲①、曲①の譜読みと準備に取り組む	練習曲①、曲①の問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	420 分
第 5 回	練習曲①定着、曲①の表現の工夫	練習曲①の習熟、曲①の表現に取り組む	練習曲①のまとめ、曲①の表現を更に身に付ける	420 分
第 6 回	練習曲②確認、曲①仕上げの演奏	練習曲②の譜読みと準備に取り組む。曲①の表現の工夫	練習曲②問題箇所を確認し、曲①のまとめを行う	420 分
第 7 回	練習曲②定着、学内演奏会曲の確認 1	練習曲②の習熟、曲の譜読みと準備に取り組む	練習曲②のまとめ、曲の問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	420 分
第 8 回	練習曲③確認、学内演奏会曲の確認 2	練習曲③の譜読みと準備。曲の問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	練習曲③の問題箇所を確認し、曲の問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	420 分
第 9 回	練習曲③定着、学内演奏曲の様式を学ぶ	練習曲③の習熟、曲の様式について予習する	練習曲③のまとめを行う。曲の様式に関して更に理解する	420 分
第 10 回	学内演奏会曲の確認	曲の奏法について予習する	曲の奏法について問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	420 分
第 11 回	学内演奏会曲、奏法を中心に	曲の奏法について問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	曲の奏法について問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	420 分
第 12 回	学内演奏曲、表現の工夫	曲の表現に取り組む	曲の表現を更に身に付ける	420 分
第 13 回	学内演奏曲、表現の掘り下げ	曲について、全般的に確認する	曲の問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	420 分
第 14 回	学内演奏会曲、仕上げの演奏	曲の仕上げを目指す	曲の問題箇所を確認する	420 分
第 15 回	前期のまとめ	前期の取り組みの問題点を確認する	後期に向けての課題に取り組む	420 分
第 16 回	後期レッスンの進め方の確認	後期の学修計画案をたてる	学修計画を確認し、楽譜等今後必要な準備をする	420 分
第 17 回	基礎訓練的な練習③アンブシュアについて	基礎訓練的な練習の準備をする	問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	420 分
第 18 回	基礎訓練的な練習④基礎奏法の総合	引き続き、問題個所の是正に取り組む	問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	420 分
第 19 回	練習曲④確認、曲③確認	練習曲④、曲③の譜読みと準備に取り組む	練習曲④、曲③の問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	420 分
第 20 回	練習曲④定着、曲③表現の工夫	練習曲④の習熟、曲③の表現に取り組む	練習曲④のまとめ、曲③の表現を更に身に付ける	420 分
第 21 回	練習曲⑤確認、曲③仕上げの演奏	練習曲⑤の譜読みと準備。曲③の完成を目指す	練習曲⑤問題箇所を確認し是正に取り組む。曲③のまとめ	420 分
第 22 回	練習曲⑤定着、曲④確認	練習曲⑤の習熟、曲④の譜読みと準備に取り組む	練習曲⑤のまとめ。曲④の問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	420 分
第 23 回	練習曲⑥確認、曲④表現の工夫	練習曲⑥の譜読みと準備。曲④の表現に取り組む	練習曲⑥の問題箇所を確認し、曲④の表現を身に付ける	420 分
第 24 回	練習曲⑥定着、曲④仕上げの演奏	練習曲⑥の習熟、④の完成を目指す	練習曲③、曲④のまとめを行う	420 分
第 25 回	後期試験曲、確認	後期試験曲の譜読みと準備に取り組む	後期試験曲の問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	420 分
第 26 回	後期試験曲、奏法を中心に	後期試験曲の奏法について予習する	後期試験曲の奏法について問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	420 分
第 27 回	後期試験曲、表現の工夫	後期試験曲の表現に取り組む	後期試験曲の表現を更に身に付ける	420 分
第 28 回	後期試験曲、表現の掘り下げ	後期試験曲について、全般的に確認する	後期試験曲の問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	420 分
第 29 回	後期試験曲仕上げの演奏	後期試験曲の仕上げを目指す	後期試験曲の問題箇所を確認する	420 分
第 30 回	一年のまとめ	一年間の取り組みの問題点を確認する	来年度についての課題に取り組む	420 分

フィードバック 各教員から学生へのフィードバックは、必要に応じて常に行われる。また、実技試験後には講評をする。

成績評価 後期末実技試験で評価する。
 なお、実技試験評価は複数教員による。

テキスト 担当教員の指示による。

オフィスアワー 授業後、教員の指示を受けること。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>								

専門実技Ⅳ（管楽器）

管・打楽器部会主任 特任教授 三上 明子

科目コード：IND403/IND404

対象コース/専門/学年： 器楽コース/管楽器専門/4 年次

形態：実技	単位数：8 単位
概要	奏法の基本を認識・確認し、体得する。奏法（原因）表現（結果）の関わりを楽曲を通じて認識し、演奏に生かす訓練をする。

到達目標 ①良い姿勢・呼吸法を身に付ける ②正しい読譜力の確立 ③演奏技術の向上 ④多くのレパートリーをこなす の4点。実際の楽曲に当たっては、様式感および形式を理解することを目標とする。なお、リードを使用する楽器については、リードの製作指導も行う。

回	内容	事前	事後	420 分
第 1 回	ガイダンス・レッスンの目標と進め方	前年度までの学修を確認し、学修計画案をたてる	学修計画を確認し、楽譜等今後必要な準備をする	420 分
第 2 回	基礎訓練的な練習①呼吸法	基礎訓練的な練習の準備をする	問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	420 分
第 3 回	基礎訓練的な練習②正しい構え方	引き続き、問題箇所は是正に取り組む	問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	420 分
第 4 回	練習曲①確認、曲①の確認	練習曲①、曲①の譜読みと準備に取り組む	練習曲①、曲①の問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	420 分
第 5 回	練習曲①定着、曲①表現の工夫	練習曲①の習熟、曲①の表現に取り組む	練習曲①のまとめ、曲①の表現を更に身に付ける	420 分
第 6 回	練習曲②確認、曲①仕上げの演奏	練習曲①定着、曲①の表現の工夫	練習曲②問題箇所を確認し、曲①のまとめを行う	420 分
第 7 回	練習曲②定着、曲②確認	練習曲②の習熟、曲②の譜読みと準備に取り組む	練習曲②のまとめ、曲②の問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	420 分
第 8 回	練習曲③確認、曲②表現の工夫	練習曲③の譜読みと準備、曲②の表現に取り組む	練習曲③の問題箇所を確認し、曲②の表現を身に付ける	420 分
第 9 回	練習曲③定着、曲②仕上げの演奏	練習曲③の習熟、曲②の完成を目指す	練習曲③、曲②のまとめを行う	420 分
第 10 回	自由曲、確認	自由曲の譜読みと準備に取り組む	問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	420 分
第 11 回	自由曲、奏法を中心に	自由曲の奏法について予習する	自由曲の奏法について問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	420 分
第 12 回	自由曲、表現の工夫	自由曲の表現に取り組む	自由曲の表現を更に身に付ける	420 分
第 13 回	自由曲、表現の掘り下げ	自由曲について、全般的に確認する	自由曲の問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	420 分
第 14 回	自由曲、仕上げの演奏	自由曲の仕上げを目指す	自由曲の問題箇所を確認する	420 分
第 15 回	前期のまとめ	前期の取り組みの問題点を確認する	後期に向けての課題に取り組む	420 分
第 16 回	後期レッスンの進め方の確認	後期の学修計画案をたてる	学修計画を確認し、楽譜等今後必要な準備をする	420 分
第 17 回	基礎訓練的な練習③アンブシュアについて	基礎訓練的な練習の準備をする	問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	420 分
第 18 回	基礎訓練的な練習④基礎奏法の総合	引き続き、問題箇所は是正に取り組む	問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	420 分
第 19 回	練習曲④確認、曲③確認	練習曲④、曲③の譜読みと準備に取り組む	練習曲④、曲③の問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	420 分
第 20 回	練習曲④定着、曲③表現の工夫	練習曲④の習熟、曲③表現の工夫に取り組む	練習曲④のまとめ、曲③の表現を更に身に付ける	420 分
第 21 回	練習曲⑤確認、曲③仕上げの演奏	練習曲⑤の譜読みと準備、曲③の完成を目指す	練習曲⑤問題箇所を確認し是正に取り組む。曲③のまとめ	420 分
第 22 回	練習曲⑤定着、卒業試験曲、確認 1	練習曲⑤の習熟。卒業試験曲の譜読みと準備に取り組む。	練習曲⑤のまとめ、卒業試験曲の問題箇所は是正に取り組む	420 分
第 23 回	卒業試験曲、確認 2	引き続き、卒業試験曲の問題箇所は是正に取り組む	問題箇所を確認し是正に取り組む	420 分
第 24 回	卒業試験曲の様式を学ぶ	卒業試験曲の様式について予習する	卒業試験曲の様式についてさらに理解する	420 分
第 25 回	卒業試験曲、奏法を中心に 1	卒業試験曲の奏法について予習する	卒業試験曲の奏法について問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	420 分
第 26 回	卒業試験曲、奏法を中心に 2	卒業試験曲の奏法について問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	卒業試験曲の奏法について問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	420 分
第 27 回	卒業試験曲、表現の工夫	卒業試験曲の表現に取り組む	卒業試験曲の表現を更に身に付ける	420 分
第 28 回	卒業試験曲、表現の掘り下げ	卒業試験曲について、全般的に確認する	卒業試験曲の問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	420 分
第 29 回	卒業試験曲、仕上げの演奏	卒業試験曲の仕上げを目指す	卒業試験曲の問題箇所を確認する	420 分
第 30 回	4 年間のまとめ	4 年間の取り組みを振り返る	卒業後に向けて展望する	420 分

フィードバック 各教員から学生へのフィードバックは、必要に応じて常に行われる。また、実技試験後には講評をする。

成績評価 実技試験で評価する。
なお、実技試験評価は複数教員による。

テキスト 担当教員の指示による。

オフィスアワー 授業後、教員の指示を受けること。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				

専門実技 I-1 (打楽器)

客員教授 岡田全弘

科目コード: IND101

対象コース/専門/学年: 器楽コース/打楽器専門/1 年次

形態: 実技

単位数: 4 単位

概要 打楽器の基本奏法を 2 本のスティックを扱う小太鼓から始め、マリンバの 2 本のマレットの扱い方も学ぶ。

到達目標 小太鼓において 1 つ打ちと 2 つ打ちの違いを理解する。
マリンバにおいてロールでメロディを弾くことができる。

授業計画

第 1 回	小太鼓を使って基本奏法を確認する。1 つ打ちと 2 つ打ちの違いについて。伴奏付きの課題曲を決める。	事前 学生各々が過去に学んだ小太鼓の課題を練習しておく。 事後 基本奏法を復習し、決めた課題曲の楽譜を購入する。	420 分 420 分
第 2 回	基本奏法を学ぶための練習曲を演奏する。決められた課題曲の譜読みをする。リズムにおいて拍の重さについて解説する。	事前 基本奏法の 1 つ打ちと 2 つ打ちを練習しておく。 事後 拍の重さを変えて実際にリズムを叩いてみる。	420 分 420 分
第 3 回	マリンバを使って音階を確認する。2 本のマレットの動かし方を確認する。マリンバの伴奏付きの課題曲を決める。	事前 マリンバのマレットを用意しておく。 事後 決めた課題曲の楽譜を購入する。	420 分 420 分
第 4 回	音階を 3 連符のパターンで演奏する。ゆっくりした速さで確実に音板を鳴らす。伴奏付きの課題曲を譜読みする。	事前 音階は全調できるように練習する。 事後 メトロノームを使って復習する。	420 分 420 分
第 5 回	小太鼓を使っての基本奏法、ロールを解説する。練習曲と課題曲のリズムをどのように演奏すべきか解説する。	事前 2 つ打ちとロールの関係を確認しながら練習しておく。 事後 ささまざまな表情のロールを研究しておく。	420 分 420 分
第 6 回	小太鼓の課題曲を伴奏者と演奏する。互いのどこを注意して聞くべきかを解説する。	事前 この回までに伴奏者と合わせておく。 事後 練習方法一通りではなく発展させておく。	420 分 420 分
第 7 回	マリンバを使って 2 本のマレットを駆使する練習曲を演奏する。マレットの動かし方を解説する。	事前 マリンバに慣れておく。音階練習とメトロノームを用いて練習曲を練習しておく。 事後 練習曲と課題曲をさらいこんでおく。	420 分 420 分
第 8 回	マリンバにおいてロールでメロディを弾く。ロールでの弾き方の解説。	事前 曲を暗譜できるまで練習しておく。 事後 ロールの数や腕の移動について復習しておく。	420 分 420 分
第 9 回	小太鼓の基本奏法がすべて含まれた練習曲を演奏。拍の重さについて解説する。	事前 練習曲を練習しておく。 事後 各リズムの特徴と拍の重さを感じながら復習する。	420 分 420 分
第 10 回	小太鼓の基本奏法と同時に楽器の扱いやチューニングについて解説。	事前 自分の耳であらかじめ楽器を調整しておく。 事後 楽器の清掃と練習曲をさらう。	420 分 420 分
第 11 回	前期試験の曲を決める。マリンバの練習曲、音階を演奏。	事前 マリンバの音階練習をしておく。 事後 前期試験曲の楽譜を購入しておく。	420 分 420 分
第 12 回	試験曲の譜読み。フレーズやリズムの演奏法を解説。	事前 前期試験曲の作曲者や曲について調べておく。 事後 伴奏者と合わせをしておく。	420 分 420 分
第 13 回	試験曲を伴奏者と演奏。バランスを解説。	事前 フレーズの取り方を確認しておく。 事後 伴奏者とバランスを再確認しておく。	420 分 420 分
第 14 回	試験曲の技術的な部分を取り出して演奏。練習の仕方を解説。	事前 伴奏者と練習しておく。 事後 できないところを練習方法を検討してさらしておく。	420 分 420 分
第 15 回	前期試験曲の仕上げ。試験会場の響きを加味して演奏の仕方を検討する。(前期を打楽器にした場合、後期は鍵盤打楽器にする。)	事前 演奏を録音して研究しておく。 事後 伴奏者と最終確認しておく。	420 分 420 分

フィードバック 授業内で解説したことについて学生が次回のレッスンまでにどのような練習方法を用意するのかを問い、アドバイスをを行う。

成績評価 実技試験による評価。
なお、実技試験評価は複数教員(管打楽器担当教員)による。

テキスト (参照資料)
M.Goldenberg:Modernschool
A.Cirone:Portraits for Rhythm
M.Peters:Advanced Snare Drum Studies
J.Delecluse:Douze Etudes
その他、適宜授業内に指示する。

オフィスアワー 授業後教室にて

備考

学位授与の方針との関連

知識・技能・理解		知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>								

専門実技 I-2 (打楽器)

客員教授 岡田全弘

科目コード: IND102

対象コース/専門/学年: 器楽コース/打楽器専門/1 年次

形態: 実技

単位数: 4 単位

概要 打楽器の基本奏法をマリンバの 4 本マレット、マレットを使わない打楽器を学ぶ。

到達目標 小太鼓において 1 つ打ちの分解練習が演奏できる。
マリンバにおいて音階と 4 本マレットのコントロールが出来る。

授業計画

回数	内容	事前	事後	420 分
第 1 回	マリンバの課題曲を伴奏者と演奏。 伴奏者のどこに注意して演奏すべきか解説。	課題曲を伴奏者と合わせておく。	伴奏者との練習方法を考える。	420 分
第 2 回	マリンバの音階を復習し、短調も演奏する。 マレットの運び方を解説する。	音階をメトロノームを使って練習しておく。	打ち方と運び方に注意して練習する。	420 分
第 3 回	小太鼓のさまざまな種類があることを学ぶ。 楽器の調整について解説。	厚みの違う小太鼓を用意し自分なりに調整しておく。	最も効果的なチューニングを実施しておく。	420 分
第 4 回	小太鼓の基本奏法の 1 つ打ちを分解練習する。 具体的な楽譜を提示して解説する。	基本奏法に立ち返り予習しておく。	4 分音符が 80 で練習する。	420 分
第 5 回	マリンバの音階を演奏。 伴奏付きの課題曲を演奏。バランスや表現を解説。	メトロノームを使って音階を練習しておく。	練習方法を発展させる。	420 分
第 6 回	マリンバの 4 本マレットを学ぶ。持ち方とコントロールの仕方について解説。	マリンバの音階を練習しておく。	4 本をアルペジオで練習しておく。	420 分
第 7 回	小太鼓の 1 つ打ち分解練習を演奏。 マリンバの音階、練習曲を演奏。	基本奏法を再確認しておく。	メトロノームを使って練習する。	420 分
第 8 回	小太鼓の 2 つ打ちとロールを演奏。 マリンバの音階、4 本マレットの練習曲を演奏。	練習曲を復習する。	基本奏法をよく練習しておく。	420 分
第 9 回	小太鼓の基本奏法を演奏。マリンバの基本奏法を演奏。	小太鼓、マリンバの基本奏法を練習。	試験曲を探す。	420 分
第 10 回	楽器の清掃、扱い方を解説。 セッティングの仕方を解説。	使う楽器を選び、セッティングを考える。	試験曲を検討しておく。	420 分
第 11 回	後期試験の曲を決める。	手順など確認しておく。	後期試験曲の楽譜を購入する。	420 分
第 12 回	試験曲の譜読み。フレーズやリズムの演奏法を解説。	後期試験曲の作曲者や曲について調べておく。	伴奏者と合わせをしておく。	420 分
第 13 回	試験曲を伴奏者と演奏。 バランスを解説。	フレーズの取り方を確認しておく。	手順の確認。	420 分
第 14 回	試験曲の技術的な部分を取り出して演奏。 練習の仕方を解説。	伴奏者と練習しておく。	できないところを練習方法を検討してさらしておく。	420 分
第 15 回	後期試験曲の仕上げ。試験会場の響きを加味して演奏の仕方を検討する。 (前期を打楽器にした場合、後期は鍵盤打楽器にする。)	演奏を録音して研究しておく。	伴奏者と最終確認しておく。	420 分

フィードバック 授業内で解説したことについて学生が次回のレッスンまでにどのような練習方法を用意するのかを問い、アドバイスを行う。

成績評価 実技試験による評価。
なお、実技試験評価は複数教員(管打楽器担当教員)による。

テキスト (参照資料)
M.Goldenberg:Modernschool
A.Cirone:Portraits for Rhythm
M.Peters:Advanced Snare Drum Studies
J.Delecluse:Douze Etudes
その他、適宜授業内に指示する。

オフィスアワー 授業後教室にて

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性							
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発働力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲	
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>									

専門実技Ⅱ-1 (打楽器)

客員教授 岡田全弘

科目コード: IND201

対象コース/専門/学年: 器楽コース/打楽器専門/2年次

形態: 実技

単位数: 4 単位

概要 専門実技Ⅰを踏まえて小太鼓の基本奏法を再確認し楽器の扱いを識る。

到達目標 小太鼓において2つ打ちと装飾音符の演奏法を会得する。

授業計画		前期 15 回、各人 60 分の個人指導。 各人の進度に合わせて授業を進める。	
第1回	小太鼓の1つ打ち、2つ打ち、分解練習を演奏。	事前 小太鼓の基本奏法を見直しておく。 事後 装飾音符を含む練習曲を練習しておく。	420 分 420 分
第2回	小太鼓の練習曲、マリンバの音階を演奏。	事前 小太鼓の練習曲をさらい込んでおく。 事後 スティックを曲にあわせて準備する。	420 分 420 分
第3回	小太鼓とマリンバの練習曲を演奏。	事前 マリンバの練習曲をさらい込んでおく。 事後 マレットを練習曲に合うものを購入する。	420 分 420 分
第4回	小太鼓のオーケストラ作品から装飾音符の演奏について解説。	事前 オーケストラ作品の原曲を予め聴いておく。 事後 装飾音符の演奏法を確認する。	420 分 420 分
第5回	マリンバの練習曲と音階を演奏。	事前 練習曲と音階を弾き込んでおく。 事後 メトロノームを使って復習する。	420 分 420 分
第6回	小太鼓の練習曲と基本奏法を演奏。	事前 小太鼓の練習曲を弾き込んでおく。 事後 2つ打ちとロールを抜き出して研究しておく。	420 分 420 分
第7回	小太鼓の2つ打ちとロールを分析し解説する。	事前 試験曲の候補を探しておく。 事後 基本奏法を見直しておく。	420 分 420 分
第8回	前期試験曲を決める。	事前 マリンバの音階、練習曲を弾き込んでおく。 事後 試験曲の楽譜を購入し譜読みを始める。	420 分 420 分
第9回	試験曲の譜読み。セッティングも検討する。	事前 試験曲のことを調べておく。作曲の背景など。 事後 試験当日のセッティング表を完成させる。	420 分 420 分
第10回	試験曲の楽器選定と調整をする。	事前 予め自分で楽器を選んでおく。 事後 試験曲を弾き込んでおく。	420 分 420 分
第11回	フレーズやリズムの演奏法を解説。	事前 試験曲のフレーズ分けをしておく。 事後 伴奏者と合わせをしておく。	420 分 420 分
第12回	試験曲を伴奏者と演奏。	事前 楽譜を見直しておく。 事後 レッソンを録音し聞き直す。	420 分 420 分
第13回	試験曲の技術的な部分を抜き出して演奏。	事前 通した時の問題点を挙げておく。 事後 メトロノームを使ってさらに直しておく。	420 分 420 分
第14回	試験会場かそれに近い響きの部屋で演奏。	事前 基本奏法を見直して試験曲に生かせる点を見つける。 事後 試験曲を録音して聞き直す。	420 分 420 分
第15回	前期試験曲の仕上げ。	事前 響きを利用することをイメージして練習する。 事後 楽譜を見て本番をイメージトレーニングしておく。	420 分 420 分

フィードバック 授業内で解説した内容について学生が次回のレッスンまでにどのような練習をするべきか問いアドバイスを行う。

成績評価 実技試験による評価。
なお実技試験評価は複数教員(管打楽器担当教員)による。

テキスト (参照資料)
M.Goldenberg:Modernschool
A.Cirone:Portraits in Rhythm
P.Tanner:Sonata for Marimba and Piano
G.Frock:Concertino

オフィスアワー 授業後教室にて

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>								

専門実技Ⅱ-2（打楽器）

客員教授 岡田全弘

科目コード：IND202

対象コース／専門／学年： 器楽コース／打楽器専門／2 年次

形態：実技

単位数：4 単位

概要 専門実技Ⅰを踏まえてマリンバの基本奏法を再確認し楽器の扱いを識る。

到達目標 マリンバにおいて2本のマレットと4本マレットの演奏法を会得する。

授業計画 後期15回、各人60分の個人指導。
各人の進度に合わせて授業を進める。

回数	内容	事前	事後	時間
第1回	マリンバの音階と練習曲を演奏。	マリンバの練習曲を暗譜しておく。	4本マレットの練習曲をさらしておく。	420分
第2回	小太鼓の練習曲、4本マレットの練習曲を演奏。	音を確実に取れるように練習しておく。	4本マレットの練習曲を暗譜する。	420分
第3回	小太鼓の基本奏法、マリンバの練習曲を演奏。	演奏の問題点を取り出しリズムを変えて練習する。	レッスンを録音して聞き直す。	420分
第4回	小太鼓の練習曲、オーケストラ作品を演奏。	オーケストラ作品の原曲を聴いておく。	装飾音符とロールを研究する。	420分
第5回	マリンバの練習曲をシロフォンで演奏。	後期試験曲の候補曲を出しておく。	シロフォンの音色をコントロールできるように復習する。	420分
第6回	小太鼓及びマリンバの練習曲のまとめ。	マリンバの練習曲を暗譜しておく。	レッスンを録音して聞き直す。	420分
第7回	後期試験曲を決める。	音階、練習曲、基本奏法を復習する。	試験曲の楽譜を購入し譜読みを始める。	420分
第8回	試験曲の譜読み。セッティングの検討。	試験曲のことを調べておく。	フレーズ分けをする。	420分
第9回	フレーズやリズムの演奏法を解説。	試験当日のセッティング表を完成させる。	フレーズ分けを完成させる。	420分
第10回	試験曲と小太鼓の基本奏法を演奏。	試験曲の構成を考えて演奏のメリハリをつけておく。	演奏の方向性を伴奏者に伝える。	420分
第11回	試験曲を伴奏者と演奏。バランスを聴く。	メトロノームを使ってテンポを確認しておく。	演奏を再構成しておく。	420分
第12回	試験曲とマリンバの音階、4本マレットの練習曲を演奏。	苦手な技術を試験曲及び練習曲からみつけておく。	レッスンで得た練習方法を試す。	420分
第13回	試験会場かそれに近い響きの部屋で演奏。	響きの違いを知り、どのように利用すべきか考える。	レッスンを録音して聞き直す。	420分
第14回	技術的に難しい部分を再検討する。	通し練習だけでなく、部分に拘って練習しておく。	メトロノームを使って難しい部分を復習する。	420分
第15回	後期試験曲の仕上げ。	試験曲を弾き込んでおく。	楽譜だけを見てイメージトレーニングする。	420分

フィードバック 授業内で解説した内容について学生が次回のレッスンまでにどのような練習をするべきか問いアドバイスを行う。

成績評価 実技試験による評価。
なお、実技試験評価は複数教員（管打楽器担当教員）による。

テキスト (参照資料)
M.Goldenberg:Modernschool
A.Cirone:Portraits in Rhythm
P.Tanner:Sonata for Marimba and Piano
G.Frock:Concertino

オフィスアワー 授業後教室にて

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>								

専門実技Ⅲ（打楽器）

客員教授 岡田全弘

科目コード：IND301/IND302

対象コース/専門/学年： 器楽コース/打楽器専門/3 年次

形態：実技

単位数：8 単位

概要 小太鼓やマリimbaの基本奏法を継続して学びながらティンパニ、マルチパーカッションの作品を学ぶ。

到達目標 小太鼓で学んだ基本奏法を2台、4台のティンパニのエチュードを使って応用させる。
マルチパーカッションの作品では楽器をどのように配置するべきか、それによっては楽譜を複数個所に分けなくてはならない。
楽器のセッティングと楽譜の再構成と作成を自分でできるようにする。

授業計画 年間 30 回、各人 60 分の個人指導。
各人の進度に合わせて授業を進める。

第 1 回	小太鼓の基本奏法を確認する。1つ打ち、2つ打ち、ロールについて復習する。	事前 小太鼓をチューニングしておく。 事後 基本奏法を復習する。	420 分 420 分
第 2 回	小太鼓の1つ打ち分解練習を演奏。マリimbaの音階を演奏。	事前 メトロノームを使って練習しておく。 事後 小太鼓とマリimbaの練習曲をさらしておく。	420 分 420 分
第 3 回	小太鼓の基本奏法とマリimbaの練習曲を演奏。 手順と腕の使い方を解説。	事前 マリimbaのマレットを随時追加し用意しておく。 事後 マリimbaのロールの数を研究しておく。	420 分 420 分
第 4 回	小太鼓の2つ打ちとマリimbaの音階を演奏。 ティンパニの練習曲を演奏。	事前 ティンパニのチューニングをしておく。 事後 手順を確認する。	420 分 420 分
第 5 回	小太鼓の1つ打ちとマリimbaの練習曲を演奏。 ティンパニの腕の使い方を解説する。	事前 ティンパニの練習曲をさらしておく。 事後 腕の動かし方を再確認しておく。	420 分 420 分
第 6 回	小太鼓の練習曲とマリimbaの音階を演奏。 ティンパニのペダル操作の練習。	事前 ティンパニの練習曲を用意する。 事後 ティンパニの清掃とペダルの復習。	420 分 420 分
第 7 回	小太鼓の基本奏法とマリimbaの練習曲を演奏。 マリimbaの4本マレットの練習曲を演奏。	事前 4本マレットのアルペジオを練習しておく。 事後 腕の動きを再確認する。	420 分 420 分
第 8 回	小太鼓の練習曲とマリimbaの音階を演奏。 ヴァイブラフォンの4本マレットの練習曲を演奏。	事前 ヴァイブラフォンのマレットを用意しておく。 事後 ゆっくりなテンポで練習しておく。	420 分 420 分
第 9 回	小太鼓の基本奏法、マリimbaの音階を演奏。 学内演奏会の曲を決める。	事前 試験会場の響きに近い会場を予約する。 事後 決めた曲の背景などを調べておく。	420 分 420 分
第 10 回	小太鼓の1つ打ちと分解練習を演奏。マリimbaの練習曲を演奏。 学内の曲の楽譜、譜読み。	事前 学内の曲の楽譜を作成しておく。 事後 試験曲の楽譜を購入する。	420 分 420 分
第 11 回	小太鼓の練習曲とマリimbaの音階を演奏。 学内演奏の曲をフレーズを確認。	事前 学内の曲のフレーズ分けをしておく。 事後 手順など確認しておく	420 分 420 分
第 12 回	小太鼓の基本奏法とマリimbaの練習曲を演奏。 学内演奏の曲を伴奏者と演奏。	事前 ゆっくりのテンポで確実にさらしておく。 事後 伴奏者との練習方法を検討する。	420 分 420 分
第 13 回	小太鼓の練習曲とマリimbaの練習曲を演奏。 学内演奏の曲の構造を分析する。	事前 曲のつくりを把握しておく。 事後 できないところを練習方法を検討してさらしておく。	420 分 420 分
第 14 回	学内演奏の曲を通し練習。	事前 ゆっくりなテンポで練習しておく。 事後 録音の準備をしておく。	420 分 420 分
第 15 回	学内演奏会の曲の仕上げ。	事前 伴奏者とバランスを再確認しておく。 事後 録音を聴いて最終確認しておく。	420 分 420 分
第 16 回	小太鼓の基本奏法、マリimbaの練習曲を演奏。 ヴァイブラフォンの練習曲を演奏。	事前 ヴァイブラフォンのマレットを用意する。 事後 練習室の楽器を整頓しておく。	420 分 420 分
第 17 回	小太鼓の1つ打ち分解練習を演奏。マリimbaの音階を演奏。	事前 分解練習をメトロノームを使って練習する。 事後 楽器の清掃をしておく。	420 分 420 分
第 18 回	小太鼓の練習曲とマリimbaの練習曲を演奏。	事前 練習曲をゆっくりなテンポで演奏できるようにしておく。 事後 手順をよく確認しておく。	420 分 420 分
第 19 回	小太鼓の2つ打ちとマリimbaの音階を演奏。	事前 種類の違う小太鼓で2つ打ちを練習しておく。 事後 図書館を活用し試験曲を探す。	420 分 420 分
第 20 回	小太鼓のロールとマリimbaの練習曲を演奏。	事前 様々なバランスでロールをさらしておく。 事後 後期試験曲の候補を絞り込んでおく。	420 分 420 分
第 21 回	小太鼓の練習曲とマリimbaの練習曲を演奏。 後期試験曲を決める。	事前 腕の動きを再確認する。 事後 試験曲のフレーズ分けをしておく。	420 分 420 分
第 22 回	小太鼓の基本奏法とマリimbaの練習曲を演奏。 後期試験曲の譜読み。	事前 試験曲の楽譜を購入する。 事後 ゆっくりなテンポで演奏できるようにしておく。	420 分 420 分
第 23 回	小太鼓の練習曲とマリimbaの音階を演奏。 後期試験曲のフレーズを確認する。	事前 使う楽器を選び、セッティングを考える。 事後 試験曲を伴奏者と合わせておく。	420 分 420 分
第 24 回	小太鼓の基本奏法とマリimbaの練習曲を演奏。 試験曲のセッティングを再検討する。	事前 フレーズの取り方を再確認しておく。 事後 試験会場の響きに近い部屋を予約しておく。	420 分 420 分
第 25 回	小太鼓の練習曲とマリimbaの練習曲を演奏。 後期試験曲を伴奏つきで演奏。	事前 試験曲を伴奏者と合わせをしておく。 事後 腕の動かし方を確認しておく。	420 分 420 分
第 26 回	小太鼓の基本奏法とマリimbaの練習曲を演奏。 試験曲の表現を研究する。	事前 伴奏者との練習方法を検討しておく。 事後 クライマックスの表現を検討しておく。	420 分 420 分
第 27 回	小太鼓の練習曲とマリimbaの音階を演奏。 後期試験曲の技術的に難しい部分を取り出して演奏。	事前 聴かせたいメロディとリズムを決めておく。 事後 メトロノームを使って練習する。	420 分 420 分
第 28 回	試験会場の響きに近い部屋で通し練習。	事前 できないところを練習方法を検討してさらしておく。 事後 もう一度楽譜を読み直しておく。	420 分 420 分
第 29 回	伴奏者とのバランスを確認する。	事前 セッティングの再考察。 事後 音楽の流れを復習しておく。	420 分 420 分
第 30 回	後期試験曲の仕上げ。	事前 演奏をシュミレーションしておく。 事後 録音を聴いて最終確認しておく。	420 分 420 分

フィードバック 授業内で解説したことについて学生が次回のレッスンまでにどのような練習方法を用意するのかを問いアドバイスを行う。

成績評価 実技試験による評価。
なお、実技試験評価は複数教員（管打楽器担当教員）による。

テキスト (参照資料)
N.Woud:The Timpani Challenge
N.Woud:Musical Studies for Pedal timpani
D.Milhaud:Concerto
北爪道夫：サイド・バイ・サイド

オフィスアワー 授業後教室にて

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解				知識・技能の活用						意欲・経歴・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	プレゼンテーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲	
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>					

専門実技Ⅳ（打楽器）

客員教授 岡田全弘

科目コード：IND403/IND404

対象コース/専門/学年： 器楽コース/打楽器専門/4 年次

形態：実技 単位数：8 単位

概要 3 年次までに修得したものをふまえて総合的に学ぶ。

到達目標 各打楽器の基本奏法に立ち返る 1 年間を目指す。

授業計画			年間 90 回、各人 60 分の個人指導。 各人の進度に合わせて授業を進める。	
第 1 回	小太鼓の基本奏法がすべて含まれた練習曲とマリンバの音階を演奏。 小物楽器：タンブリンの扱い方、奏法を学ぶ。	事前 事後	小太鼓の練習曲を検討しておく。 手の動かし方を復習する。	420 分 420 分
第 2 回	小太鼓の基本奏法の 1 打ちを分解練習しマリンバの音階を演奏。 小物楽器：トライアングルの扱い方、奏法を学ぶ。	事前 事後	分解練習を確認しておく。 マリンバのマレットを随時追加し用意しておく。	420 分 420 分
第 3 回	小太鼓の練習曲とマリンバの音階を演奏。 小物楽器：カステネットの扱い方、奏法を学ぶ。	事前 事後	カステネットを選んでおく。 打ち方と運び方に注意して練習する。	420 分 420 分
第 4 回	小太鼓の 2 つ打ちとロールとマリンバの練習曲を演奏。 大物楽器：大太鼓の扱い方、奏法を学ぶ。	事前 事後	さまざまな表情のロールを研究しておく。 ロールの数や腕の移動について復習しておく。	420 分 420 分
第 5 回	小太鼓の基本奏法の 1 つ打ちを分解練習しマリンバの練習曲を演奏。 大物楽器：シンバルの扱い方と奏法を学ぶ。	事前 事後	マリンバに慣れておく。 シンバルの合わせ方をよく研究しておく。	420 分 420 分
第 6 回	小太鼓の基本奏法がすべて含まれた練習曲とマリンバの練習曲を演奏。 大物楽器：タムタムの扱い方、奏法を学ぶ。	事前 事後	大きさの違うタムタムを用意しておく。 腕の動かし方を再確認しておく。	420 分 420 分
第 7 回	小太鼓の 2 つ打ちとロールとマリンバの音階を演奏。 ティンパニのチューニングを学ぶ。	事前 事後	自分の耳であらかじめ楽器を調整しておく。 ティンパニの練習曲を用意する。	420 分 420 分
第 8 回	小太鼓の練習曲とマリンバの練習曲を演奏。 ティンパニの練習曲を演奏。	事前 事後	メトロノームを使って練習する。 楽器の清掃。	420 分 420 分
第 9 回	小太鼓の基本奏法の 1 つ打ちを分解練習とマリンバの練習曲を演奏。 卒業試験曲の選定について検討する。	事前 事後	卒業試験曲を探す。 図書館を活用する。	420 分 420 分
第 10 回	小太鼓の基本奏法がすべて含まれた練習曲とマリンバの音階を演奏。 ヴァイブラフォンの練習曲を演奏。	事前 事後	ヴァイブラフォンのマレットを用意しておく。 ペダリングを再確認しておく。	420 分 420 分
第 11 回	小太鼓の 2 つ打ちとロールとマリンバの練習曲を演奏。 グロックンシュピールの扱い方と練習曲を演奏。	事前 事後	様々なバランスでロールをさらしておく。 音の余韻を聴く習慣をつける。	420 分 420 分
第 12 回	小太鼓の基本奏法の 1 つ打ちを分解練習しマリンバの練習曲を演奏。 シロフォンの練習曲を演奏。	事前 事後	シロフォンのマレットを用意しておく。 メトロノームを使って練習する。	420 分 420 分
第 13 回	小太鼓の基本奏法がすべて含まれた練習曲とマリンバの音階を演奏。 卒業試験曲の選定について検討する。	事前 事後	基本奏法を再確認しておく。 チューブラーベルを清掃しておく。	420 分 420 分
第 14 回	小太鼓の練習曲とマリンバの音階を演奏。 チューブラーベルの扱い方と奏法を学ぶ。	事前 事後	さまざまなマレットを用意しておく。 手順をよく確認しておく。	420 分 420 分
第 15 回	小太鼓の基本奏法がすべて含まれた練習曲とマリンバの練習曲を演奏。 4 本マレットの練習曲を演奏。	事前 事後	ゆっくりなテンポで練習しておく。 4 本をアルペジオで練習しておく。	420 分 420 分
第 16 回	小太鼓の基本奏法の 1 つ打ちを分解練習しマリンバの音階を演奏。 卒業試験曲の選定を検討する。	事前 事後	試験曲の候補を絞っておく。 基本奏法を確認しておく。	420 分 420 分
第 17 回	小太鼓の 2 つ打ちとロールとマリンバの練習曲を演奏。 楽器の清掃と調整について解説する。	事前 事後	練習室の楽器を整頓しておく。 楽器の清掃と練習曲をさらう。	420 分 420 分
第 18 回	小太鼓の基本奏法がすべて含まれた練習曲とマリンバの練習曲を演奏。 卒業試験曲を決定する。	事前 事後	腕の動きを再確認する。 卒業試験曲の楽譜を購入する。	420 分 420 分
第 19 回	小太鼓の基本奏法の 1 つ打ちを分解練習しマリンバの音階を演奏。 試験曲の楽譜作成とセッティングを検討する。	事前 事後	卒業試験曲の作曲者や曲について調べておく。 フレーズの取り方を確認しておく。	420 分 420 分
第 20 回	小太鼓の 2 つ打ちとロールとマリンバの練習曲を演奏。 試験曲のフレーズ分けと譜読み。	事前 事後	使う楽器を選び、セッティングを考える。 試験会場に近い響きの練習室を検討しておく。	420 分 420 分
第 21 回	小太鼓の練習曲とマリンバの音階を演奏。 試験曲の譜読みと手順の決定。	事前 事後	ゆっくりなテンポで演奏できるようにしておく。 手順など確認しておく。	420 分 420 分
第 22 回	小太鼓の基本奏法がすべて含まれた練習曲とマリンバの練習曲を演奏。 試験曲の技術的な部分を取り出して演奏。	事前 事後	卒業試験曲を最も効果的なチューニングを実施しておく。 できないところを練習方法を検討してさらしておく。	420 分 420 分
第 23 回	小太鼓の 2 つ打ちとロールと 4 本マレットの練習曲を演奏。 試験曲を伴奏者と演奏。	事前 事後	卒業試験曲を伴奏者と合わせをしておく。 伴奏者との練習方法を考える。	420 分 420 分
第 24 回	小太鼓の基本奏法の 1 つ打ちを分解練習し 4 本マレットの練習曲を演奏。 試験曲を伴奏者と演奏し、バランスを調整する。	事前 事後	メトロノームを使って練習する。 試験会場の響きに近い会場を予約する。	420 分 420 分
第 25 回	小太鼓の練習曲とマリンバの音階を演奏。 試験曲の譜読み。フレーズやリズムの演奏法を解説。	事前 事後	腕の動かし方を確認しておく。 フレーズの取り方を再確認しておく。	420 分 420 分
第 26 回	小太鼓の基本奏法がすべて含まれた練習曲とマリンバの練習曲を演奏。 試験曲を試験会場に近い響きの会場で演奏。	事前 事後	メトロノームを使って練習する。 伴奏者とバランスを再確認しておく。	420 分 420 分
第 27 回	小太鼓の 2 つ打ちとロールとマリンバの練習曲を演奏。 試験曲のリズム、伴奏者との関連を再検討する。	事前 事後	楽譜を読み込んでおく。 伴奏者との練習方法を考える。	420 分 420 分
第 28 回	小太鼓の基本奏法の 1 つ打ちを分解練習しマリンバの音階を演奏。 試験曲の技術的な部分を取り出して演奏。	事前 事後	クライマックスの表現を検討しておく。 できないところを練習方法を検討してさらしておく。	420 分 420 分
第 29 回	小太鼓の練習曲とマリンバの練習曲を演奏。 卒業試験曲を通して演奏。	事前 事後	フレーズを再検討。 演奏を録音して研究しておく。	420 分 420 分
第 30 回	卒業試験曲の仕上げ。	事前 事後	演奏をシュミレーションしておく。 伴奏者と最終確認しておく。	420 分 420 分

フィードバック 授業内で解説したことについて学生が次回のレッスンまでにどのような練習方法を用意するのかを問いアドバイスを行う。

成績評価 実技試験による評価。
なお、実技試験評価は複数教員（管打楽器担当教員）による。

テキスト (参照資料)
N.Woud:The Timpani Challenge
N.Woud:Musical Studies for Pedal timpani
D.Milhaud:Concerto
北爪道夫：サイド・バイ・サイド

オフィスアワー 授業後教室にて

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				

専門実技 I-1 (オルガン・古楽)

教授 小林英之

科目コード: IND101

対象コース/専門/学年: 器楽コース/オルガン、チェンバロ、ヴィオラ・ダ・ガバンバ、リュート、リコーダー専門/1 年次

形態: 実技

単位数: 4 単位

概要 履修する作品の演奏を通して、演奏技術を学ぶ。

到達目標 各学生の能力、進度に応じ、前期、後期それぞれ試験課題曲（メインの課題）を設定し、それを中心に様々な様式の楽曲で 45 分～1 時間程度のプログラムを作成し、読譜力、楽曲解釈、演奏技術を習得する。（この授業計画は目標であって、課題の難易度や取り組みの進捗状況に応じ、個々の課題に取り組む時間に増減があるものとする。）

回	内容	事前	事後	時間
第 1 回	前期ガイダンス。課題の設定と練習方法についての確認。	既習曲の一覧を作成しておく。	与えられた課題の楽譜を入手する。	420 分
第 2 回	前期試験課題曲の譜読み 1 (技術的な課題)	作品の構造を理解し、練習に役立てる。	習熟し、滞りなく弾けるようにする。	420 分
第 3 回	前期試験課題曲の譜読み 2 (より高度な技術的課題)	うまくいかないところの奏法 (指使い等) を変えてみる。	習熟し、滞りなく弾けるようにする。	420 分
第 4 回	前期試験課題曲の譜読み 3 (表現力)	該当作品の生まれた背景を調べる (時代)	習熟し、滞りなく弾けるようにする。	420 分
第 5 回	前期試験課題曲の譜読み 4 (総合)	該当作品の生まれた背景を調べる (作曲家)	習熟し、滞りなく弾けるようにする。	420 分
第 6 回	前期試験課題曲を通して演奏する。	全体の起承転結を考える。	習熟し、滞りなく弾けるようにする。	420 分
第 7 回	前期試験課題曲を演奏会形式で演奏する。	緊張したときの自分を想定する。	うまくいかなかった箇所の原因を探る。	420 分
第 8 回	試験課題曲に関連する作品を学ぶ 1 (技術的な課題)	作品の構造を理解し、練習に役立てる。	習熟し、滞りなく弾けるようにする。	420 分
第 9 回	試験課題曲に関連する作品を学ぶ 2 (より高度な技術的課題)	うまくいかないところの奏法 (指使い等) を変えてみる。	習熟し、滞りなく弾けるようにする。	420 分
第 10 回	試験課題曲に関連する作品を学ぶ 3 (表現力)	該当作品の生まれた背景とメインの課題曲との関連を調べる (時代)	習熟し、滞りなく弾けるようにする。	420 分
第 11 回	試験課題曲に関連する作品を学ぶ 4 (総合)	該当作品の生まれた背景とメインの課題曲との関連を調べる (作曲家)	習熟し、滞りなく弾けるようにする。	420 分
第 12 回	45 分～1 時間のプログラムを通して弾いてみる 1 (技術的な課題)	1 時間近く集中力を持続する自分なりの方法を考える。	習熟し、滞りなく弾けるようにする。	420 分
第 13 回	45 分～1 時間のプログラムを通して弾いてみる 2 (表現力)	個々の作品のみならず、プログラム全体の起承転結を考える。	習熟し、滞りなく弾けるようにする。	420 分
第 14 回	45 分～1 時間のプログラムを通して弾いてみる 3 (総合)	録音の準備をする。	録音したものから、自分の演奏を客観的に判断する。	420 分
第 15 回	試験前の最終仕上げ。	前回録音したものをもとに、自分の理想に近づける。	録音したものと、自分の想定のギャップを埋める。	420 分

フィードバック レッスン時間ごとの課題の達成度についてのコメントと、実技試験終了後の講評。

成績評価 古楽部会常勤教員とそれぞれ専門楽器の非常勤教員で構成する複数の試験官。実技試験の得点には、選択した試験課題曲の難易度と平常点を加味する。

テキスト その都度指定し、市販されていないものについては入手方法を指導する。

オフィスアワー 各教員の出校日、各教員のレッスン室。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>								

専門実技 I-2 (オルガン・古楽)

教授 小林英之

科目コード: IND102

対象コース/専門/学年: 器楽コース/オルガン、チェンバロ、ヴィオラ・ダ・ガンバ、リュート、リコーダー専門/1 年次

形態: 実技

単位数: 4 単位

概要 履修する作品の演奏を通して、演奏技術を学ぶ。

到達目標 各学生の能力、進度に応じ、前期、後期それぞれ試験課題曲（メインの課題）を設定し、それを中心に様々な様式の楽曲で 45 分～1 時間程度のプログラムを作成し、読譜力、楽曲解釈、演奏技術を習得する。（この授業計画は目標であって、課題の難易度や取り組みの進捗状況に応じ、個々の課題に取り組む時間に増減があるものとする。）

授業計画 この授業計画は目標であって、課題の難易度や取り組みの進捗状況に応じ、個々の課題に取り組む時間に増減があるものとする。後期 15 回、各人 60 分の個人指導。

第 1 回	後期ガイダンス。課題の設定と練習方法についての確認。	事前 前期試験の反省。改善方法を探る。 事後 与えられた課題の楽譜を入手する。	420 分 420 分
第 2 回	後期試験課題曲の譜読み 1（技術的な課題）	事前 作品の構造を理解し、練習に役立てる。 事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。	420 分 420 分
第 3 回	後期試験課題曲の譜読み 2（より高度な技術的課題）	事前 うまくいかないところの奏法（指使い等）を変えてみる。 事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。	420 分 420 分
第 4 回	後期試験課題曲の譜読み 3（表現力）	事前 該当作品の生まれた背景を調べる（時代） 事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。	420 分 420 分
第 5 回	後期試験課題曲の譜読み 4（総合）	事前 該当作品の生まれた背景を調べる（作曲家） 事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。	420 分 420 分
第 6 回	後期試験課題曲を通して演奏する。	事前 全体の起承転結を考える。 事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。	420 分 420 分
第 7 回	後期試験課題曲を演奏会形式で演奏する。	事前 緊張したときの自分を想定する。 事後 うまくいかなかった箇所の原因を探る。	420 分 420 分
第 8 回	試験課題曲に関連する作品を学ぶ 1（技術的な課題）	事前 作品の構造を理解し、練習に役立てる。 事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。	420 分 420 分
第 9 回	試験課題曲に関連する作品を学ぶ 2（より高度な技術的課題）	事前 うまくいかないところの奏法（指使い等）を変えてみる。 事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。	420 分 420 分
第 10 回	試験課題曲に関連する作品を学ぶ 3（表現力）	事前 該当作品の生まれた背景とメインの課題曲との関連を調べる（時代） 事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。	420 分 420 分
第 11 回	試験課題曲に関連する作品を学ぶ 4（総合）	事前 該当作品の生まれた背景とメインの課題曲との関連を調べる（作曲家） 事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。	420 分 420 分
第 12 回	45 分～1 時間のプログラムを通して弾いてみる 1	事前 1 時間近く集中力を持続する自分なりの方法を考える。 事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。	420 分 420 分
第 13 回	45 分～1 時間のプログラムを通して弾いてみる 2	事前 個々の作品のみならず、プログラム全体の起承転結を考える。 事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。	420 分 420 分
第 14 回	45 分～1 時間のプログラムを通して弾いてみる 3	事前 録音の準備をする。 事後 録音したものから、自分の演奏を客観的に判断する。	420 分 420 分
第 15 回	試験前の最終仕上げ。	事前 前回録音したものをもとに、自分の理想に近づける。 事後 録音したものと、自分の想定とのギャップを埋める。	420 分 420 分

フィードバック レッスン時間ごとの課題の達成度についてのコメントと、実技試験終了後の講評。

成績評価 古楽部会常勤教員とそれぞれ専門楽器の非常勤教員で構成する複数の試験官。実技試験の得点には、選択した試験課題曲の難易度と平常点を加味する。

テキスト その都度指定し、市販されていないものについては入手方法を指導する。

オフィスアワー 各教員の出校日、各教員のレッスン室。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>								

専門実技Ⅱ-1 (オルガン・古楽)

教授 小林英之

科目コード: IND201

対象コース/専門/学年: 器楽コース/オルガン、チェンバロ、ヴィオラ・ダ・ガンバ、リュート、リコーダー専門/2 年次

形態: 実技

単位数: 4 単位

概要 履修する作品の演奏を通して、さらに高度な演奏技術を学ぶ。

到達目標 各学生の能力、進度に応じ、試験課題曲を設定し、それを中心に様々な様式の楽曲で 45 分～1 時間程度のプログラムを設定し、読譜力、楽曲解釈、演奏技術を習得する。専門実技Ⅰより、より難度の高い作品を目指す。

授業計画 この授業計画は目標であって、課題の難易度や取り組みの進捗状況に応じ、個々の課題に取り組む時間に増減があるものとする。前期 15 回、各人 60 分の個人指導。

第 1 回	ガイダンス。課題の設定と練習方法についての確認。	事前 既習曲一覧の作成 事後 与えられた課題の楽譜を入手する。	分 840 分
第 2 回	今期試験課題曲の譜読み 1 (技術的な課題)	事前 作品の構造を理解し、練習に役立てる。 事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。	420 分 420 分
第 3 回	今期試験課題曲の譜読み 2 (より高度な技術的課題)	事前 うまくいかないところの奏法 (指使い等) を変えてみる。 事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。	420 分 420 分
第 4 回	今期試験課題曲の譜読み 3 (表現力)	事前 該当作品の生まれた背景を調べる。(時代) 事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。	420 分 420 分
第 5 回	今期試験課題曲の譜読み 4 (総合)	事前 該当作品の生まれた背景を調べる。(作曲家) 事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。	420 分 420 分
第 6 回	今期試験課題曲を通して演奏する。	事前 全体の起承転結を考える。 事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。	420 分 420 分
第 7 回	今期試験課題曲を演奏会形式で演奏する。	事前 緊張したときの自分を想定する。 事後 うまくいかなかった箇所の原因を探る。	420 分 420 分
第 8 回	試験課題曲に関連する作品を学ぶ 1 (技術的な課題)	事前 作品の構造を理解し、練習に役立てる。 事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。	420 分 420 分
第 9 回	試験課題曲に関連する作品を学ぶ 2 (より高度な技術的課題)	事前 うまくいかないところの奏法 (指使い等) を変えてみる。 事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。	420 分 420 分
第 10 回	試験課題曲に関連する作品を学ぶ 3 (表現力)	事前 該当作品の生まれた背景とメインの課題曲との関連を調べる。(時代) 事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。	420 分 420 分
第 11 回	試験課題曲に関連する作品を学ぶ 4 (総合)	事前 該当作品の生まれた背景とメインの課題曲との関連を調べる。(作曲家) 事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。	420 分 420 分
第 12 回	45 分～1 時間のプログラムを通して弾いてみる 1 (技術的な課題)	事前 1 時間近く集中力を持続する自分なりの方法を考える。 事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。	420 分 420 分
第 13 回	45 分～1 時間のプログラムを通して弾いてみる 2 (表現力)	事前 個々の作品のみならず、プログラム全体の起承転結を考える。 事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。	420 分 420 分
第 14 回	45 分～1 時間のプログラムを通して弾いてみる 3 (総合)	事前 録音の準備をする。 事後 録音したものから、自分の演奏を客観的に判断する。	420 分 420 分
第 15 回	試験前の最終仕上げ。	事前 前回録音したものをもとに、自分の理想に近づける。 事後 録音したものと、自分の想定ギャップを埋める。	420 分 420 分

フィードバック レッスン時間ごとの課題の達成度についてのコメントと、実技試験終了後の講評。

成績評価 それぞれの楽器が属する部会常勤教員と各専門楽器の教員で構成する複数の試験官。実技試験の得点には、選択した試験課題曲の難易度と平常点を加味する。

テキスト その都度指定し、市販されていないものについては入手方法を指導する。

オフィスアワー 各教員の出校日、各教員のレッスン室。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用					意欲・経験・多様性							
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>								

専門実技Ⅱ-2 (オルガン・古楽)

教授 小林英之

科目コード: IND202

対象コース/専門/学年: 器楽コース/オルガン、チェンバロ、ヴィオラ・ダ・ガンバ、リュート、リコーダー専門/2 年次

形態: 実技

単位数: 4 単位

概要 履修する作品の演奏を通して、さらに高度な演奏技術を学ぶ。

到達目標 各学生の能力、進度に応じて試験課題曲を設定し、それを中心に様々な様式の楽曲で 45 分～1 時間程度のプログラムを設定し、読譜力、楽曲解釈、演奏技術を習得する。専門実技Ⅱ-1 より、より難度の高い作品を目指す。

授業計画 この授業計画は目標であって、課題の難易度や取り組みの進捗状況に応じ、個々の課題に取り組む時間に増減があるものとする。後期 15 回、各人 60 分の個人指導。

第 1 回	ガイダンス。課題の設定と練習方法についての確認。	事前 II-1 の試験の反省、改善方法を探る。 事後 与えられた課題の楽譜を入手する。	420 分 420 分
第 2 回	今期試験課題曲の譜読み 1 (技術的な課題)	事前 作品の構造を理解し、練習に役立てる。 事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。	420 分 420 分
第 3 回	今期試験課題曲の譜読み 2 (より高度な技術的課題)	事前 うまくいかないところの奏法 (指使い等) を変えてみる。 事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。	420 分 420 分
第 4 回	今期試験課題曲の譜読み 3 (表現力)	事前 該当作品の生まれた背景を調べる。(時代) 事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。	420 分 420 分
第 5 回	今期試験課題曲の譜読み 4 (総合)	事前 該当作品の生まれた背景を調べる。(作曲家) 事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。	420 分 420 分
第 6 回	今期試験課題曲を通して演奏する。	事前 全体の起承転結を考える。 事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。	420 分 420 分
第 7 回	今期試験課題曲を演奏会形式で演奏する。	事前 緊張したときの自分を想定する。 事後 うまくいかなかった箇所の原因を探る。	420 分 420 分
第 8 回	試験課題曲に関連する作品を学ぶ 1 (技術的な課題)	事前 作品の構造を理解し、練習に役立てる。 事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。	420 分 420 分
第 9 回	試験課題曲に関連する作品を学ぶ 2 (より高度な技術的課題)	事前 うまくいかないところの奏法 (指使い等) を変えてみる。 事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。	420 分 420 分
第 10 回	試験課題曲に関連する作品を学ぶ 3 (表現力)	事前 該当作品の生まれた背景とメインの課題曲との関連を調べる。(時代) 事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。	420 分 420 分
第 11 回	試験課題曲に関連する作品を学ぶ 4 (総合)	事前 該当作品の生まれた背景とメインの課題曲との関連を調べる。(作曲家) 事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。	420 分 420 分
第 12 回	45 分～1 時間のプログラムを通して弾いてみる 1 (技術的な課題)	事前 1 時間近く集中力を持続する自分なりの方法を考える。 事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。	420 分 420 分
第 13 回	45 分～1 時間のプログラムを通して弾いてみる 2 (表現力)	事前 個々の作品のみならず、プログラム全体の起承転結を考える。 事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。	420 分 420 分
第 14 回	45 分～1 時間のプログラムを通して弾いてみる 3 (総合)	事前 録音の準備をする。 事後 録音したものから、自分の演奏を客観的に判断する。	420 分 420 分
第 15 回	試験前の最終仕上げ。	事前 前回録音したものをもとに、自分の理想に近づける。 事後 録音したものと、自分の想定ギャップを埋める。	420 分 420 分

フィードバック レッスン時間ごとの課題の達成度についてのコメントと、実技試験終了後の講評。

成績評価 それぞれの楽器が属する部会常勤教員と各専門楽器の教員で構成する複数の試験官。実技試験の得点には、選択した試験課題曲の難易度と平常点を加味する。

テキスト その都度指定し、市販されていないものについては入手方法を指導する。

オフィスアワー 各教員の出校日、各教員のレッスン室。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>								

専門実技Ⅲ（オルガン・古楽）

教授 小林英之

科目コード：IND301/IND302

対象コース/専門/学年： 器楽コース/オルガン、チェンバロ、ヴィオラ・ダ・ガンバ、リュート、リコーダー専門/3年次

形態：実技

単位数：8単位

概要 履修する作品の演奏を通して、演奏技術と表現の関連を学ぶ。

到達目標 各学生の能力、進度に応じ、前期は学内演奏会、後期は試験課題曲を設定し、それを中心に様々な様式の楽曲で1～1時間半程度のプログラムを設定し、読譜力、楽曲解釈、演奏技術を習得する。学年半ばの学内演奏会を中心に据えて、専門実技Ⅱよりさらに広範な分野の作品に習熟する。（この授業計画は目標であって、課題の難易度や取り組みの進捗状況に応じ、個々の課題に取り組む時間に増減があるものとする。）

授業計画		
第1回	前期ガイダンス。課題の設定と練習方法についての確認。	事前 専門実技Ⅱの試験結果をふりかえっておく。 事後 与えられた課題の楽譜を入手する。 300分
第2回	学内演奏会課題曲の譜読み1（技術的な課題）	事前 作品の構造を理解し、練習に役立てる。 事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。 300分
第3回	学内演奏会課題曲の譜読み2（より高度な技術的課題）	事前 うまくいかないところの奏法（指使い等）を変えてみる。 事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。 300分
第4回	学内演奏会課題曲の譜読み3（表現力）	事前 該当作品の生まれた背景を調べる（時代） 事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。 300分
第5回	学内演奏会課題曲の譜読み4（総合）	事前 該当作品の生まれた背景を調べる（作曲家） 事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。 300分
第6回	学内演奏会課題曲を通して演奏する。	事前 全体の起承転結を考える。 事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。 300分
第7回	学内演奏会課題曲を演奏会形式で演奏する。	事前 緊張したときの自分を想定する。 事後 うまくいかなかった箇所の原因を探る。 300分
第8回	学内演奏会課題曲に関連する作品を学ぶ1（技術的な課題）	事前 作品の構造を理解し、練習に役立てる。 事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。 300分
第9回	学内演奏会課題曲に関連する作品を学ぶ2（表現力）	事前 該当作品の生まれた背景とメインの課題曲との関連を調べる（作品） 事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。 300分
第10回	学内演奏会に臨む。	事前 一般聴衆を前に演奏することについて、心構えと緊張状態の緩和について考える。 事後 学内演奏会の反省。 300分
第11回	学内演奏会課題曲に関連する作品を学ぶ3	事前 該当作品の生まれた背景とメインの課題曲との関連を調べる（作曲家） 事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。 300分
第12回	45分～1時間のプログラムを通して弾いてみる1（技術的な課題）	事前 1時間近く集中力を持続する自分なりの方法を考える。 事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。 300分
第13回	45分～1時間のプログラムを通して弾いてみる2（表現力）	事前 個々の作品のみならず、プログラム全体の起承転結を考える。 事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。 300分
第14回	45分～1時間のプログラムを通して弾いてみる3（総合）	事前 録音の準備をする。 事後 録音したものから、自分の演奏を客観的に判断する。 300分
第15回	学内演奏会の課題を含む前期分の最終仕上げ。	事前 前回録音したものをもとに、自分の理想に近づける。 事後 録音したものと、自分の想定のギャップを埋める。 300分
第16回	後期ガイダンス。課題の設定と練習方法についての確認。	事前 学内演奏会の反省。改善方法を探る。 事後 与えられた課題の楽譜を入手する。 300分
第17回	後期試験課題曲の譜読み1（技術的な課題）	事前 作品の構造を理解し、練習に役立てる。 事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。 300分
第18回	後期試験課題曲の譜読み2（より高度な技術的課題）	事前 うまくいかないところの奏法（指使い等）を変えてみる。 事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。 300分
第19回	後期試験課題曲の譜読み3（表現力）	事前 該当作品の生まれた背景を調べる（時代） 事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。 300分
第20回	後期試験課題曲の譜読み4（総合）	事前 該当作品の生まれた背景を調べる（作曲家） 事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。 300分
第21回	後期試験課題曲を通して演奏する。	事前 全体の起承転結を考える。 事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。 300分
第22回	後期試験課題曲を演奏会形式で演奏する。	事前 緊張したときの自分を想定する。 事後 うまくいかなかった箇所の原因を探る。 300分
第23回	試験課題曲に関連する作品を学ぶ1（技術的な課題）	事前 作品の構造を理解し、練習に役立てる。 事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。 300分
第24回	試験課題曲に関連する作品を学ぶ2（より高度な技術的課題）	事前 うまくいかないところの奏法（指使い等）を変えてみる。 事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。 300分
第25回	試験課題曲に関連する作品を学ぶ3（表現力）	事前 該当作品の生まれた背景とメインの課題曲との関連を調べる（時代） 事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。 300分
第26回	試験課題曲に関連する作品を学ぶ4（総合）	事前 該当作品の生まれた背景とメインの課題曲との関連を調べる（作曲家） 事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。 300分
第27回	45分～1時間のプログラムを通して弾いてみる1（技術的な課題）	事前 1時間近く集中力を持続する自分なりの方法を考える。 事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。 300分
第28回	45分～1時間のプログラムを通して弾いてみる2（表現力）	事前 個々の作品のみならず、プログラム全体の起承転結を考える。 事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。 300分
第29回	45分～1時間のプログラムを通して弾いてみる3（総合）	事前 録音の準備をする。 事後 録音したものから、自分の演奏を客観的に判断する。 300分
第30回	試験前の最終仕上げ。	事前 前回録音したものをもとに、自分の理想に近づける。 事後 録音したものと、自分の想定のギャップを埋める。 300分

フィードバック レッスン時間ごとの課題の達成度についてのコメントと、実技試験終了後の講評。

成績評価 古楽部会常勤教員とそれぞれ専門楽器の非常勤教員で構成する複数の試験官。実技試験の得点には、選択した試験課題曲の難易度と平常点を加味する。

テキスト その都度指定し、市販されていないものについては入手方法を指導する。

オフィスアワー 各教員の出校日、各教員のレッスン室。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

専門実技Ⅳ（オルガン・古楽）

教授 小林英之

科目コード：IND403/IND404

対象コース/専門/学年： 器楽コース/オルガン、チェンバロ、ヴィオラ・ダ・ガンバ、リュート、リコーダー専門/4年次

形態：実技 単位数：8単位

概要 履修する作品を通して、さらに高度な演奏技術と表現の関連を学ぶ。

到達目標 各学生の能力、進度に応じ、卒業演奏試験課題曲を設定し、それを中心に様々な様式の楽曲で1時間半程度のプログラムを設定し、読譜力、楽曲解釈、演奏技術を習得する。なお、1～3年で学んだ曲も含むプログラムで、古楽研究室主催の演奏会、学外から依頼のあった演奏会等に出演し実践経験を積む。（この授業計画は目標であって、課題の難易度や取り組みの進捗状況に応じ、個々の課題に取り組む時間に増減があるものとする。）

授業計画		事前	事後	300分
第1回	後期ガイダンス。課題の設定と練習方法についての確認。	学内演奏会、専門実技Ⅲの試験結果をふりかえっておく。	与えられた課題の楽譜を入手する。	300分
第2回	前期試験課題曲の譜読み1（技術的な課題）	作品の構造を理解し、練習に役立てる。	習熟し、滞りなく弾けるようにする。	300分
第3回	前期試験課題曲の譜読み2（より高度な技術的課題）	うまくいかないところの奏法（指使い等）を変えてみる。	習熟し、滞りなく弾けるようにする。	300分
第4回	前期試験課題曲の譜読み3（表現力）	該当作品の生まれた背景を調べる（時代）	習熟し、滞りなく弾けるようにする。	300分
第5回	前期試験課題曲の譜読み4（総合）	該当作品の生まれた背景を調べる（作曲家）	習熟し、滞りなく弾けるようにする。	300分
第6回	前期試験課題曲を通して演奏する。	全体の起承転結を考える。	習熟し、滞りなく弾けるようにする。	300分
第7回	前期試験課題曲を演奏会形式で演奏する。	緊張したときの自分を想定する。	うまくいかないところの奏法（指使い等）を変えてみる。	300分
第8回	試験課題曲に関連する作品を学ぶ1（技術的な課題）	作品の構造を理解し、練習に役立てる。	習熟し、滞りなく弾けるようにする。	300分
第9回	試験課題曲に関連する作品を学ぶ2（より高度な技術的課題）	うまくいかないところの奏法（指使い等）を変えてみる。	習熟し、滞りなく弾けるようにする。	300分
第10回	試験課題曲に関連する作品を学ぶ3（表現力）	該当作品の生まれた背景とメインの課題曲との関連を調べる（時代）	習熟し、滞りなく弾けるようにする。	300分
第11回	試験課題曲に関連する作品を学ぶ4（総合）	該当作品の生まれた背景とメインの課題曲との関連を調べる（作曲家）	習熟し、滞りなく弾けるようにする。	300分
第12回	1時間半のプログラムの前半を通して弾いてみる1（技術的な課題）	1時間半近く集中力を持続する自分なりの方法を考える。	習熟し、滞りなく弾けるようにする。	300分
第13回	1時間半のプログラムの前半を通して弾いてみる2（表現力）	個々の作品のみならず、プログラム全体の起承転結を考える。	習熟し、滞りなく弾けるようにする。	300分
第14回	1時間半のプログラムの前半を通して弾いてみる3（総合）	録音の準備をする。	録音したものから、自分の演奏を客観的に判断する。	300分
第15回	試験前の最終仕上げ。	前回録音したものをもとに、自分の理想に近づける。	録音したものと、自分の想定のギャップを埋める。	300分
第16回	後期ガイダンス。課題の設定と練習方法についての確認。	前期試験の反省。改善方法を探る。	与えられた課題の楽譜を入手する。	300分
第17回	卒業試験課題曲の譜読み1（技術的な課題）	作品の構造を理解し、練習に役立てる。	習熟し、滞りなく弾けるようにする。	300分
第18回	卒業試験課題曲の譜読み2（より高度な技術的課題）	うまくいかないところの奏法（指使い等）を変えてみる。	習熟し、滞りなく弾けるようにする。	300分
第19回	卒業試験課題曲の譜読み3（表現力）	該当作品の生まれた背景を調べる（時代）	習熟し、滞りなく弾けるようにする。	300分
第20回	卒業試験課題曲の譜読み4（総合）	該当作品の生まれた背景を調べる（作曲家）	習熟し、滞りなく弾けるようにする。	300分
第21回	卒業試験課題曲を通して演奏する。	全体の起承転結を考える。	習熟し、滞りなく弾けるようにする。	300分
第22回	4年間で学んだ作品を含め、聴衆のいることを想定した1時間半のプログラムを演奏する1（技術的な課題）	該当作品の生まれた背景とメインの課題曲との関連を調べる（時代）	習熟し、滞りなく弾けるようにする。	300分
第23回	4年間で学んだ作品を含め、聴衆のいることを想定した1時間半のプログラムを演奏する2（より高度な技術的課題）	該当作品の生まれた背景とメインの課題曲との関連を調べる（作曲家）	習熟し、滞りなく弾けるようにする。	300分
第24回	4年間で学んだ作品を含め、聴衆のいることを想定した1時間半のプログラムを演奏する3（表現力）	1時間半近く集中力を持続する自分なりの方法を考える。	習熟し、滞りなく弾けるようにする。	300分
第25回	4年間で学んだ作品を含め、聴衆のいることを想定した1時間半のプログラムを演奏する4（総合）	個々の作品のみならず、プログラム全体の起承転結を考える。	習熟し、滞りなく弾けるようにする。	300分
第26回	卒業試験課題曲を演奏会形式で演奏する。	録音の準備をする。	録音したものから、自分の演奏を客観的に判断する。	300分
第27回	試験前の最終仕上げ。	前回録音したものをもとに、自分の理想に近づける。	録音したものと、自分の想定のギャップを埋める。	300分
第28回	試験結果を踏まえ、今後の方向について	試験結果の自己評価を作成	未達成の事項の整理	300分
第29回	定期的なレッスンがなくなったときの練習方法について	未達成の事項への取り組み方を考えておく。	アドヴァイスをもとに今後の勉強方法を作成する。	300分
第30回	練習の時間計画の立て方	未達成の事項への取り組み方を考えておく。	アドヴァイスをもとに今後の勉強方法を作成する。	300分

フィードバック レッスン時間後との課題の達成度についてのコメントと、実技試験終了後の講評。

成績評価 古楽部会常勤教員とそれぞれ専門楽器の非常勤教員で構成する複数の試験官。実技試験の得点には、選択した試験課題曲の難易度と平常点を加味する。

テキスト その都度指定し、市販されていないものについては入手方法を指導する。

オフィスアワー 各教員の出校日、各教員のレッスン室。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解					知識・技能の活用					意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				

専門実技 I-1 (声楽)

声楽コース部会主任 教授 吉田伸昭

科目コード: IND101

対象コース/専門/学年: 声楽コース/1 年次

形態: 実技

単位数: 4 単位

概要 個人レッスンの形態で声楽の技術、音楽を学ぶ。
課題に対しての事前、事後の各自の学習が重要となる。

到達目標 姿勢、ブレス、発声、さらにエチュード、イタリア古典歌曲を中心的題材として声楽の基礎の確立を目指す。

授業計画	15 回、週 60 分の個人指導。 実技演習においては、個々の学生の声の特性を見極め、それぞれの特性に即した題材を注意深く選択しレッスンをする。また、上記を題材として適格な読譜力、解釈力、和声感、様式感を身につける。		
第 1 回	ガイダンス 各自の学習計画を立てる	事前 入学までの学修を確認し学習計画を練る 事後 学習計画を確認し、楽譜等の準備をする	420 分 420 分
第 2 回	エチュード・歌曲 発声の基礎練習① 呼吸法、発声法を中心に	事前 発声練習を重ね、次回のレッスン予定のエチュード、歌曲の譜読みをする 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	420 分 420 分
第 3 回	エチュード・歌曲 発声の基礎練習② 母音の純化、子音の明確化を中心に	事前 次回のレッスン予定のエチュード、歌曲の練習を重ねる 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	420 分 420 分
第 4 回	エチュード・歌曲 基礎的問題点の解決	事前 次回のレッスン予定のエチュード、歌曲の練習を重ねる 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	420 分 420 分
第 5 回	歌曲 楽譜を読み込む① 言語、和声感、様式感を中心に	事前 次回のレッスン予定の歌曲の練習を重ねる (言葉の意味を調べる) 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	420 分 420 分
第 6 回	歌曲 楽譜を読み込む② 表現の発展	事前 次回のレッスン予定の歌曲の練習を重ねる 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	420 分 420 分
第 7 回	声域・カテゴリーの確立 イタリア古典を中心に学習	事前 次回のレッスン予定の歌曲の練習を重ねる (イタリア語のディクジョンに留意する) 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	420 分 420 分
第 8 回	各々の声のカテゴリーを踏まえ、複数の課題楽曲を選択する	事前 次回のレッスン予定の歌曲の練習を重ねる (イタリア語のディクジョンに留意する) 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	420 分 420 分
第 9 回	選択した楽曲につき正確な読譜と詩の解釈を進める	事前 次回のレッスン予定の歌曲の練習を重ねる (イタリア語のディクジョンに留意する) 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	420 分 420 分
第 10 回	上記に基づき演奏の深化をはかる	事前 次回のレッスン予定の楽曲の練習を重ねる (音楽的な表現に留意する) 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	420 分 420 分
第 11 回	問題点の認識と解決をはかる	事前 次回のレッスン予定の楽曲の練習を重ねる (音楽的な表現に留意する) 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	420 分 420 分
第 12 回	ピアノ伴奏を伴い楽曲の研究を深める	事前 事前にピアニストと伴奏合わせをする 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	420 分 420 分
第 13 回	暗譜を確かなものとする	事前 伴奏合わせを重ねる 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	420 分 420 分
第 14 回	暗譜の上、表現の発展、演奏の質の向上をはかる	事前 伴奏合わせを重ねる 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	420 分 420 分
第 15 回	前期のまとめ	事前 伴奏合わせを重ね、暗譜の確認、表現の確立をはかる 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	420 分 420 分

フィードバック 試験後に個人面談の形で前期を振り返り、成果や次へ課題を話し合う。

成績評価 前期演奏試験。評価は複数の審査員の採点による。

テキスト 曲目は個々の状況に合わせて、適宜選択する。

オフィスアワー 各教員の出校日、各教員のレッスン室

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

専門実技 I-2 (声楽)

声楽コース部会主任 教授 吉田伸昭

科目コード: IND102

対象コース/専門/学年: 声楽コース/1年次

形態: 実技

単位数: 4 単位

概要 個人レッスンの形態で声楽の技術、音楽を学ぶ。
課題に対しての事前、事後の各自の学習が重要となる。

到達目標 前期の学習を踏まえ、発声、エチュード、イタリア古典歌曲を中心に声楽の基礎の確立を目指し、さらに演奏に反映させる。

授業計画 15回、各人60分の個人指導。
実技演習においては、個々の学生の声の特性を見極め、それぞれの特性に即した題材を注意深く選択しレッスンをする。また、上記を題材として適格な読譜力、解釈力、和声感、様式感を身につける。

回数	内容	事前	事後	単位数
第1回	前期成果の確認と後期の学習計画を立てる	前期の学修を確認し学習計画を練る	学習計画を確認し、楽譜等の準備をする	420分 420分
第2回	エチュード・歌曲 問題点の認識と解決	事前 次回のレッスン予定のエチュード、歌曲の練習を重ねる	事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	420分 420分
第3回	異なる時代、異なる言語による作品の比較研究①	事前 次回のレッスン予定のエチュード、歌曲の練習を重ねる	事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	420分 420分
第4回	異なる時代、異なる言語による作品の比較研究② オペラにおける声のカテゴリー確認	事前 自分の声に合うオペラのレパートリーを考える	事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	420分 420分
第5回	アリア、あるいは歌曲 楽譜を読み込む① 言語、和声感、様式感を中心に	事前 次回のレッスン予定のアリア、あるいは歌曲の練習を重ねる (言葉の意味を調べる)	事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	420分 420分
第6回	アリア、あるいは歌曲 楽譜を読み込む② 表現の発展	事前 次回のレッスン予定のアリア、あるいは歌曲の練習を重ねる	事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	420分 420分
第7回	各々の声のカテゴリーを踏まえ、複数の課題楽曲を選択する	事前 次回のレッスン予定のアリア、あるいは歌曲の練習を重ねる (言語のディクッションに留意する)	事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	420分 420分
第8回	選択した楽曲につき正確な読譜と詩の解釈を進める	事前 次回のレッスン予定のアリア、あるいは歌曲の練習を重ねる (言語のディクッションに留意する)	事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	420分 420分
第9回	上記に基づき演奏の深化をはかる	事前 次回のレッスン予定のアリア、あるいは歌曲の練習を重ねる (音楽的な表現に留意する)	事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	420分 420分
第10回	問題点の認識と解決をはかる	事前 次回のレッスン予定のアリア、あるいは歌曲の練習を重ねる (音楽的な表現に留意する)	事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	420分 420分
第11回	ピアノ伴奏を伴い楽曲の研究を深める	事前 事前にピアニストと伴奏合わせをする	事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	420分 420分
第12回	暗譜を確かなものとする	事前 伴奏合わせを重ねる	事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	420分 420分
第13回	暗譜の上、楽曲の演奏内容を深める	事前 伴奏合わせを重ねる	事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	420分 420分
第14回	暗譜の上、演奏の完成度を高める	事前 伴奏合わせを重ね、暗譜の確認、表現の確立をはかる	事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	420分 420分
第15回	後期のまとめ	事前 伴奏合わせを重ね、暗譜の確認、表現の確立をはかる	事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	420分 420分

フィードバック 試験後に個人面談の形で前期を振り返り、成果や次へ課題を話し合う。

成績評価 後期演奏試験。評価は複数の審査員の採点による。

テキスト 曲目は個々の状況に合わせて、適宜選択する。

オフィスアワー 各教員の出校日、各教員のレッスン室

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性							
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	

専門実技Ⅱ-1 (声楽)

声楽コース部会主任 教授 吉田伸昭

科目コード：IND201

対象コース/専門/学年：声楽コース/2年次

形態：実技

単位数：4単位

概要 個人レッスンの形態で声楽の技術、音楽を学ぶ。
課題に対しての事前、事後の各自の学習が重要となる。

到達目標 声楽的発声を更に深く研究し、個々の進捗にあった題材で、演奏技術、表現力の向上を目指す。

授業計画	15回、週60分の個人指導。 実技演習においては、個々の学生の声の特性を見極め、それぞれの特性に即した題材を注意深く選択しレッスンをする。また、上記を題材として適格な読譜力、解釈力、和声感、様式感を身につけさせる。		
第1回	ガイダンス 各自の学習計画を立てる	事前 1年次の学修を確認し学習計画を練る 事後 学習計画を確認し、楽譜等の準備をする	420分 420分
第2回	エチュード・歌曲 発声の基礎練習① 呼吸法、発声法を中心に	事前 発声練習を重ね、次回のレッスン予定のエチュード、歌曲の譜読みをする 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	420分 420分
第3回	エチュード・歌曲 発声の基礎練習② 母音の純化、子音の明確化を中心に	事前 次回のレッスン予定のエチュード、歌曲の練習を重ねる 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	420分 420分
第4回	エチュード・歌曲 基礎的問題点の解決	事前 次回のレッスン予定のエチュード、歌曲の練習を重ねる 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	420分 420分
第5回	歌曲 楽譜を読み込む① 言語、和声感、様式感を中心に	事前 次回のレッスン予定の歌曲の練習を重ねる (言葉の意味を調べる) 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	420分 420分
第6回	歌曲 楽譜を読み込む② 表現の発展	事前 次回のレッスン予定の歌曲の練習を重ねる 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	420分 420分
第7回	声域・カテゴリーの確立 ロマン派以降のイタリア歌曲を中心に学習	事前 次回のレッスン予定の歌曲の練習を重ねる (イタリア語のディクッションに留意する) 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	420分 420分
第8回	各々の声のカテゴリーを踏まえ、複数の課題楽曲を選択する	事前 次回のレッスン予定の歌曲の練習を重ねる (イタリア語のディクッションに留意する) 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	420分 420分
第9回	選択した楽曲につき正確な読譜と詩の解釈を進める	事前 次回のレッスン予定の歌曲の練習を重ねる (イタリア語のディクッションに留意する) 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	420分 420分
第10回	上記に基づき演奏の深化をはかる	事前 次回のレッスン予定の楽曲の練習を重ねる (音楽的な表現に留意する) 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	420分 420分
第11回	問題点の認識と解決をはかる	事前 次回のレッスン予定の楽曲の練習を重ねる (音楽的な表現に留意する) 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	420分 420分
第12回	ピアノ伴奏を伴い楽曲の研究を深める	事前 事前にピアニストと伴奏合わせをする 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	420分 420分
第13回	暗譜を確かなものとする	事前 伴奏合わせを重ねる 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	420分 420分
第14回	暗譜の上、表現の発展、演奏の質の向上をはかる	事前 伴奏合わせを重ねる 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	420分 420分
第15回	まとめ	事前 伴奏合わせを重ね、暗譜の確認、表現の確立をはかる 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	420分 420分

フィードバック 試験後に個人面談の形で振り返り、成果や次への課題を話し合う。

成績評価 演奏試験。評価は複数の審査員の採点による。

テキスト 曲目は個々の状況に合わせ、適宜選択する。

オフィスアワー 各教員の出校日、各教員のレッスン室

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

専門実技Ⅱ-2 (声楽)

声楽コース部会主任 教授 吉田伸昭

科目コード：IND202

対象コース/専門/学年：声楽コース/2年次

形態：実技

単位数：4単位

概要 個人レッスンの形態で声楽の技術、音楽を学ぶ。
課題に対しての事前、事後の各自の学習が重要となる。

到達目標 声楽的発声を更に深く研究し、個々の進捗にあった題材で、演奏技術、表現力の向上を目指す。
後期は上記に加え、ドイツ歌曲における解釈、表現を習得する。

授業計画		15回、週60分の個人指導。 実技演習においては、個々の学生の声の特性を見極め、それぞれの特性に即した題材を注意深く選択しレッスンをする。また、上記を題材として適格な読譜力、解釈力、和声感、様式感を身につけさせる。	
第1回	前期の成果の確認と後期の学習計画を立てる	事前 前期の学修を確認し学習計画を練る 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	420分 420分
第2回	エチュード・歌曲 問題点の認識と解決	事前 次回のレッスン予定のエチュード、歌曲の練習を重ねる 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	420分 420分
第3回	異なる時代、異なる言語による作品の比較研究① ドイツ歌曲を含む	事前 次回のレッスン予定のエチュード、歌曲の練習を重ねる 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	420分 420分
第4回	異なる時代、異なる言語による作品の比較研究② オペラにおける声のカテゴリー確認	事前 自分の声に合うオペラのレパートリーを考える 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	420分 420分
第5回	アリア、あるいは歌曲 楽譜を読み込む① 言語、和声感、様式感を中心に	事前 次回のレッスン予定のアリア、あるいは歌曲の練習を重ねる(言葉の意味を調べる) 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	420分 420分
第6回	アリア、あるいは歌曲 楽譜を読み込む② 表現の発展	事前 次回のレッスン予定のアリア、あるいは歌曲の練習を重ねる 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	420分 420分
第7回	各々の声のカテゴリーを踏まえ、複数の課題楽曲を選択する ドイツ歌曲を含む	事前 次回のレッスン予定のアリア、あるいは歌曲の練習を重ねる(言語のディクッションに留意する) 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	420分 420分
第8回	選択した楽曲につき正確な読譜と詩の解釈を進める ドイツ歌曲を含む	事前 次回のレッスン予定のアリア、あるいは歌曲の練習を重ねる(言語のディクッションに留意する) 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	420分 420分
第9回	上記に基づき演奏の深化をはかる ドイツ歌曲を含む	事前 次回のレッスン予定のアリア、あるいは歌曲の練習を重ねる(音楽的な表現に留意する) 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	420分 420分
第10回	問題点の認識と解決をはかる ドイツ歌曲を含む	事前 次回のレッスン予定のアリア、あるいは歌曲の練習を重ねる(音楽的な表現に留意する) 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	420分 420分
第11回	ピアノ伴奏を伴い楽曲の研究を深める ドイツ歌曲を含む	事前 事前にピアニストと伴奏合わせをする 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	420分 420分
第12回	暗譜を確かなものとする ドイツ歌曲を含む	事前 伴奏合わせを重ねる 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	420分 420分
第13回	暗譜の上、楽曲の演奏内容を深める ドイツ歌曲を含む	事前 伴奏合わせを重ねる 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	420分 420分
第14回	暗譜の上、演奏の完成度を高める ドイツ歌曲を含む	事前 伴奏合わせを重ね、暗譜の確認、表現の確立をはかる 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	420分 420分
第15回	まとめ ドイツ歌曲を含む	事前 伴奏合わせを重ね、暗譜の確認、表現の確立をはかる 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	420分 420分

フィードバック 後期試験後に個人面談の形で振り返り、成果や次への課題を話し合う。

成績評価 後期演奏試験。評価は複数の審査員の採点による。

テキスト 曲目は個々の状況に合わせ、適宜選択する。

オフィスアワー 各教員の出校日、各教員のレッスン室

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性							
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	プレゼンテーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	

専門実技Ⅲ（声楽）

声楽コース部会主任 教授 吉田伸昭

科目コード：IND301/IND302

対象コース/専門/学年：声楽コース/3年次

形態：実技

単位数：8単位

概要 個人レッスンの形態で声楽の技術、音楽を学ぶ。
課題に対しての事前、事後の各自の学習が重要となる。

到達目標 発声および演奏技術、表現力のさらなる向上をはかり3年次生としてのレパートリーをもって演奏の完成度を高める。
後期は上記に加え、日本歌曲における解釈、表現を習得する。

授業計画			年間90回、週60分の個人指導。 実技演習においては、個々の学生の声の特性を見極め、それぞれの特性に即した題材を注意深く選択しレッスンをする。また、上記を題材として適格な読譜力、解釈力、和声感、様式感を身につけさせる。		
第1回	ガイダンス 各自の学習計画を立てる	事前 事後	2年次の学修を確認し学習計画を練る 学習計画を確認し、楽譜等の準備をする	420分 420分	
第2回	エチュード・歌曲 発声の基礎練習① 呼吸法、発声法を中心に	事前 事後	発声練習を重ね、次回のレッスン予定のエチュード、歌曲の譜読みをする レッスンで指摘を受けた点の改善	420分 420分	
第3回	エチュード・歌曲 発声の基礎練習② 母音の純化、子音の明確化を中心に	事前 事後	次回のレッスン予定のエチュード、歌曲の練習を重ねる レッスンで指摘を受けた点の改善	420分 420分	
第4回	エチュード・歌曲 基礎的問題点の解決	事前 事後	次回のレッスン予定のエチュード、歌曲の練習を重ねる レッスンで指摘を受けた点の改善	420分 420分	
第5回	歌曲 楽譜を読み込む① 言語、和声感、様式感を中心に	事前 事後	次回のレッスン予定の歌曲の練習を重ねる（言葉の意味を調べる） レッスンで指摘を受けた点の改善	420分 420分	
第6回	歌曲 楽譜を読み込む② 表現の発展	事前 事後	次回のレッスン予定の歌曲の練習を重ねる レッスンで指摘を受けた点の改善	420分 420分	
第7回	声域・カテゴリーの確立 オペラやオラトリオ・ミサ曲等の宗教作品を中心に学習	事前 事後	次回のレッスン予定の楽曲の練習を重ねる（言語のディクショに留意する） レッスンで指摘を受けた点の改善	420分 420分	
第8回	各々の声のカテゴリーを踏まえ、複数の課題楽曲を選択する（前期分）	事前 事後	次回のレッスン予定の楽曲の練習を重ねる（言語のディクショに留意する） レッスンで指摘を受けた点の改善	420分 420分	
第9回	選択した楽曲につき正確な読譜と詩の解釈を進める（前期分）	事前 事後	次回のレッスン予定の楽曲の練習を重ねる（言語のディクショに留意する） レッスンで指摘を受けた点の改善	420分 420分	
第10回	上記に基づき演奏の深化をはかる（前期分）	事前 事後	次回のレッスン予定の楽曲の練習を重ねる（音楽的な表現に留意する） レッスンで指摘を受けた点の改善	420分 420分	
第11回	問題点の認識と解決をはかる（前期分）	事前 事後	次回のレッスン予定の楽曲の練習を重ねる（音楽的な表現に留意する） レッスンで指摘を受けた点の改善	420分 420分	
第12回	ピアノ伴奏を伴い楽曲の研究を深める（前期分）	事前 事後	事前にピアノリストと伴奏合わせをする レッスンで指摘を受けた点の改善	420分 420分	
第13回	暗譜を確かなものとする（前期分）	事前 事後	伴奏合わせを重ねる レッスンで指摘を受けた点の改善	420分 420分	
第14回	暗譜の上、表現の発展、演奏の質の向上をはかる（前期分）	事前 事後	伴奏合わせを重ねる レッスンで指摘を受けた点の改善	420分 420分	
第15回	前期のまとめ	事前 事後	伴奏合わせを重ね、暗譜の確認、表現の確立をはかる レッスンで指摘を受けた点の改善	420分 420分	
第16回	前期成果の確認と後期の学習計画を立てる	事前 事後	前期の学修を確認し学習計画を練る レッスンで指摘を受けた点の改善	420分 420分	
第17回	エチュード・歌曲 問題点の認識と解決	事前 事後	次回のレッスン予定のエチュード、歌曲の練習を重ねる レッスンで指摘を受けた点の改善	420分 420分	
第18回	異なる時代、異なる言語による作品の比較研究① 日本歌曲を含む	事前 事後	次回のレッスン予定のエチュード、歌曲の練習を重ねる レッスンで指摘を受けた点の改善	420分 420分	
第19回	異なる時代、異なる言語による作品の比較研究② オペラにおける声のカテゴリー確認	事前 事後	自分の声に合うオペラのレパートリーを考える レッスンで指摘を受けた点の改善	420分 420分	
第20回	アリア、あるいは歌曲 楽譜を読み込む① 言語、和声感、様式感を中心に	事前 事後	次回のレッスン予定のアリア、あるいは歌曲の練習を重ねる（言葉の意味を調べる） レッスンで指摘を受けた点の改善	420分 420分	
第21回	アリア、あるいは歌曲 楽譜を読み込む② 表現の発展	事前 事後	次回のレッスン予定のアリア、あるいは歌曲の練習を重ねる（言葉の意味を調べる） レッスンで指摘を受けた点の改善	420分 420分	
第22回	各々の声のカテゴリーを踏まえ、複数の課題楽曲を選択する（後期分） 日本歌曲を含む	事前 事後	次回のレッスン予定のアリア、あるいは歌曲の練習を重ねる（言語のディクショに留意する） レッスンで指摘を受けた点の改善	420分 420分	
第23回	選択した楽曲につき正確な読譜と詩の解釈を進める（後期分） 日本歌曲を含む	事前 事後	次回のレッスン予定のアリア、あるいは歌曲の練習を重ねる（言語のディクショに留意する） レッスンで指摘を受けた点の改善	420分 420分	
第24回	上記に基づき演奏の深化をはかる（後期分） 日本歌曲を含む	事前 事後	次回のレッスン予定のアリア、あるいは歌曲の練習を重ねる（音楽的な表現に留意する） レッスンで指摘を受けた点の改善	420分 420分	
第25回	問題点の認識と解決をはかる（後期分） 日本歌曲を含む	事前 事後	次回のレッスン予定のアリア、あるいは歌曲の練習を重ねる（音楽的な表現に留意する） レッスンで指摘を受けた点の改善	420分 420分	
第26回	ピアノ伴奏を伴い楽曲の研究を深める（後期分） 日本歌曲を含む	事前 事後	事前にピアノリストと伴奏合わせをする レッスンで指摘を受けた点の改善	420分 420分	
第27回	暗譜を確かなものとする（後期分） 日本歌曲を含む	事前 事後	伴奏合わせを重ねる レッスンで指摘を受けた点の改善	420分 420分	
第28回	暗譜の上、楽曲の演奏内容を深める 日本歌曲を含む	事前 事後	伴奏合わせを重ねる レッスンで指摘を受けた点の改善	420分 420分	
第29回	暗譜の上、演奏の完成度を高める 日本歌曲を含む	事前 事後	伴奏合わせを重ね、暗譜の確認、表現の確立をはかる レッスンで指摘を受けた点の改善	420分 420分	
第30回	後期のまとめ 日本歌曲を含む	事前 事後	伴奏合わせを重ね、暗譜の確認、表現の確立をはかる レッスンで指摘を受けた点の改善	420分 420分	

フィードバック 学内演奏会、後期試験後に個人面談の形で振り返り、成果や次へ課題を話し合う。

成績評価 学年末演奏試験。評価は複数の審査員の採点による。

テキスト 曲目は個々の状況に合わせて、適宜選択する。

オフィスアワー 各教員の出校日、各教員のレッスン室

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

専門実技Ⅳ（声楽）

声楽コース部会主任 教授 吉田伸昭

科目コード：IND403/IND404

対象コース/専門/学年：声楽コース/4年次

形態：実技 単位数：8単位

概要 個人レッスンの形態で声楽の技術、音楽を学ぶ。
課題に対しての事前、事後の各自の学習が重要となる。

到達目標 発声および演奏技術、表現力をさらに深く研究する。
最終年次生としてのレパートリーの拡大をはかり、その演奏の完成度を高める。

授業計画 年間 90 回、週 60 分の個人指導。
実技演習においては、個々の学生の声の特性を見極め、それぞれの特性に即した題材を注意深く選択しレッスンをします。また、上記を題材として適格な読譜力、解釈力、和声感、様式感を身につけさせる。

第1回	ガイダンス 各自の学習計画を立てる	事前 事後	3年次の学修を確認し学習計画を練る 学習計画を確認し、楽譜等の準備をする	420分 420分
第2回	エチュード・歌曲 発声の基礎練習① 呼吸法、発声法を中心に	事前 事後	発声練習を重ね、次回のレッスン予定のエチュード、歌曲の譜読みをする レッスンで指摘を受けた点の改善	420分 420分
第3回	エチュード・歌曲 発声の基礎練習② 母音の純化、子音の明確化を中心に	事前 事後	次回のレッスン予定のエチュード、歌曲の練習を重ねる レッスンで指摘を受けた点の改善	420分 420分
第4回	エチュード・歌曲 基礎的問題点の解決	事前 事後	次回のレッスン予定のエチュード、歌曲の練習を重ねる レッスンで指摘を受けた点の改善	420分 420分
第5回	歌曲 楽譜を読み込む① 言語、和声感、様式感を中心に	事前 事後	次回のレッスン予定の歌曲の練習を重ねる（言葉の意味を調べる） レッスンで指摘を受けた点の改善	420分 420分
第6回	歌曲 楽譜を読み込む② 表現の発展	事前 事後	次回のレッスン予定の歌曲の練習を重ねる レッスンで指摘を受けた点の改善	420分 420分
第7回	声域・カテゴリーの確立 オペラやオラトリオ・ミサ曲等の宗教作品を中心に学習	事前 事後	次回のレッスン予定の楽曲の練習を重ねる（言語のディクショに留意する） レッスンで指摘を受けた点の改善	420分 420分
第8回	各々の声のカテゴリーを踏まえ、複数の課題楽曲を選択する(前期分)	事前 事後	次回のレッスン予定の楽曲の練習を重ねる（言語のディクショに留意する） レッスンで指摘を受けた点の改善	420分 420分
第9回	選択した楽曲につき正確な読譜と詩の解釈を進める（前期分）	事前 事後	次回のレッスン予定の楽曲の練習を重ねる（言語のディクショに留意する） レッスンで指摘を受けた点の改善	420分 420分
第10回	上記に基づき演奏の深化をはかる（前期分）	事前 事後	次回のレッスン予定の楽曲の練習を重ねる（音楽的な表現に留意する） レッスンで指摘を受けた点の改善	420分 420分
第11回	問題点の認識と解決をはかる（前期分）	事前 事後	次回のレッスン予定の楽曲の練習を重ねる（音楽的な表現に留意する） レッスンで指摘を受けた点の改善	420分 420分
第12回	ピアノ伴奏を伴い楽曲の研究を深める（前期分）	事前 事後	事前にピアノリストと伴奏合わせをする レッスンで指摘を受けた点の改善	420分 420分
第13回	暗譜を確かなものとする（前期分）	事前 事後	伴奏合わせを重ねる レッスンで指摘を受けた点の改善	420分 420分
第14回	暗譜の上、表現の発展、演奏の質の向上をはかる（前期分）	事前 事後	伴奏合わせを重ねる レッスンで指摘を受けた点の改善	420分 420分
第15回	前期のまとめ	事前 事後	伴奏合わせを重ね、暗譜の確認、表現の確立をはかる レッスンで指摘を受けた点の是正をはかる	420分 420分
第16回	前期成果の確認と後期の学習計画を立てる	事前 事後	前期の学修を確認し学習計画を練る レッスンで指摘を受けた点の改善	420分 420分
第17回	エチュード・歌曲 問題点の認識と解決	事前 事後	次回のレッスン予定のエチュード、歌曲の練習を重ねる レッスンで指摘を受けた点の改善	420分 420分
第18回	異なる時代、異なる言語による作品の比較研究①	事前 事後	次回のレッスン予定のエチュード、歌曲の練習を重ねる レッスンで指摘を受けた点の改善	420分 420分
第19回	異なる時代、異なる言語による作品の比較研究② オペラにおける声のカテゴリー確認	事前 事後	自分の声に合うオペラのレパートリーを考える レッスンで指摘を受けた点の改善	420分 420分
第20回	アリア、あるいは歌曲 楽譜を読み込む① 言語、和声感、様式感を中心に	事前 事後	次回のレッスン予定のアリア、あるいは歌曲の練習を重ねる（言葉の意味を調べる） レッスンで指摘を受けた点の改善	420分 420分
第21回	アリア、あるいは歌曲 楽譜を読み込む② 表現の発展	事前 事後	次回のレッスン予定のアリア、あるいは歌曲の練習を重ねる（言葉の意味を調べる） レッスンで指摘を受けた点の改善	420分 420分
第22回	各々の声のカテゴリーを踏まえ、複数の課題楽曲を選択する（後期分）	事前 事後	次回のレッスン予定のアリア、あるいは歌曲の練習を重ねる（言語のディクショに留意する） レッスンで指摘を受けた点の改善	420分 420分
第23回	選択した楽曲につき正確な読譜と詩の解釈を進める（後期分）	事前 事後	次回のレッスン予定のアリア、あるいは歌曲の練習を重ねる（言語のディクショに留意する） レッスンで指摘を受けた点の是正をはかる	420分 420分
第24回	上記に基づき演奏の深化をはかる（後期分）	事前 事後	次回のレッスン予定のアリア、あるいは歌曲の練習を重ねる（音楽的な表現に留意する） レッスンで指摘を受けた点の改善	420分 420分
第25回	問題点の認識と解決をはかる（後期分）	事前 事後	次回のレッスン予定のアリア、あるいは歌曲の練習を重ねる（音楽的な表現に留意する） レッスンで指摘を受けた点の改善	420分 420分
第26回	ピアノ伴奏を伴い楽曲の研究を深める（後期分）	事前 事後	事前にピアノリストと伴奏合わせをする レッスンで指摘を受けた点の改善	420分 420分
第27回	暗譜を確かなものとする（後期分）	事前 事後	伴奏合わせを重ねる レッスンで指摘を受けた点の改善	420分 420分
第28回	暗譜の上、楽曲の演奏内容を深める	事前 事後	伴奏合わせを重ねる レッスンで指摘を受けた点の改善	420分 420分
第29回	暗譜の上、演奏の完成度を高める	事前 事後	伴奏合わせを重ね、暗譜の確認、表現の確立をはかる レッスンで指摘を受けた点の改善	420分 420分
第30回	後期のまとめ	事前 事後	伴奏合わせを重ね、暗譜の確認、表現の確立をはかる レッスンで指摘を受けた点の改善	420分 420分

フィードバック 前期試演会、卒業試験後に個人面談の形で振り返り、4年間の成果や卒業後の音楽との関わり方等を話し合う。

成績評価 卒業演奏試験。評価は複数の審査員の採点による。

テキスト 曲目は個々の状況に合わせて、適宜選択する。

オフィスアワー 各教員の出校日、各教員のレッスン室

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

(演) 専門実技 I-1 (ピアノ)

演奏家コース部会主任 准教授 安田正昭

科目コード：IND101

対象コース/専門/学年：演奏家コース/ピアノ専門/1 年次

形態：実技

単位数：4 単位

概要 個人レッスンを通して、ピアノ演奏の基本を認識、確認し、正確かつ的確な読譜力を確立させる。

到達目標 基礎的なテクニックを確立し、特にバッハ、ショパン、エチュードを中心としたプログラムの完璧な演奏を目指す。

授業計画 前期 15 回、各人 120 分の個人指導。
各人の能力、資質、進捗等に合わせて担当教員と相談の上進めていく。

回数	実技演習	学習計画	事前	事後	スコア
第 1 回	実技演習(1) 前期の学習計画を立てる	前期の学習計画を立てる	入学までのレパートリーを確認し、学習計画案を立てる	学習計画を確認し、必要な準備をする	630 分
第 2 回	実技演習(2) 基礎能力の確認	基礎能力の確認	音階、分散和音などの基礎練習を確認する	問題点、課題を確認し、練習方法を工夫する	630 分
第 3 回	実技演習(3) バロックの曲を学ぶ(1) 時代背景、様式を中心に	バロックの曲を学ぶ(1) 時代背景、様式を中心に	読譜と練習、時代背景、様式について調べる	レッスン内容の復習	630 分
第 4 回	実技演習(4) バロックの曲を学ぶ(2) 形式、和声を中心に	バロックの曲を学ぶ(2) 形式、和声を中心に	形式、和声について考察しながら練習する	レッスン内容の復習	630 分
第 5 回	実技演習(5) バロックの曲を学ぶ(3) 奏法、運指法の確認	バロックの曲を学ぶ(3) 奏法、運指法の確認	運指、ペダリング、奏法を考察しながら練習する	レッスン内容の復習	630 分
第 6 回	実技演習(6) バロックの曲を学ぶ(4) 表現の掘り下げ、仕上げ	バロックの曲を学ぶ(4) 表現の掘り下げ、仕上げ	全体の仕上げに取り組み、暗譜で練習する	バロックの曲の仕上げ	630 分
第 7 回	実技演習(7) 練習曲の課題を確認する	練習曲の課題を確認する	これまでの練習曲を復習する	練習曲の読譜、練習	630 分
第 8 回	実技演習(8) 古典派の曲を学ぶ(1) 時代背景、様式を中心に	古典派の曲を学ぶ(1) 時代背景、様式を中心に	読譜と練習、時代背景、様式について調べる	レッスン内容の復習	630 分
第 9 回	実技演習(9) 古典派の曲を学ぶ(2) 構成、楽曲分析を中心に	古典派の曲を学ぶ(2) 構成、楽曲分析を中心に	楽曲分析に取り組みながら練習する	レッスン内容の復習	630 分
第 10 回	実技演習(10) 古典派の曲を学ぶ(3) 奏法、ペダリングを中心に	古典派の曲を学ぶ(3) 奏法、ペダリングを中心に	運指、ペダリング、奏法を考察しながら練習する	レッスン内容の復習	630 分
第 11 回	実技演習(11) 古典派の曲を学ぶ(4) 演奏技術、演奏表現の確認	古典派の曲を学ぶ(4) 演奏技術、演奏表現の確認	自分の演奏を録音して確認する	レッスン内容の復習	630 分
第 12 回	実技演習(12) 自由曲を学ぶ(1) 作曲家、時代背景について	自由曲を学ぶ(1) 作曲家、時代背景について	読譜と練習、作曲家や時代背景について調べる	レッスン内容の復習	630 分
第 13 回	実技演習(13) 自由曲を学ぶ(2) 楽譜の読み方、構成を中心に	自由曲を学ぶ(2) 楽譜の読み方、構成を中心に	読譜を進め、全体の構成をつかむ	レッスン内容の復習	630 分
第 14 回	実技演習(14) 自由曲を学ぶ(3) 奏法、音色、必要な技術の確認を中心に	自由曲を学ぶ(3) 奏法、音色、必要な技術の確認を中心に	奏法、音色、タッチに留意して練習する	レッスン内容の復習	630 分
第 15 回	実技演習(15) 自由曲を学ぶ(4) 表現を掘り下げる	自由曲を学ぶ(4) 表現を掘り下げる	暗譜で弾きこむ	レッスン内容の復習	630 分

フィードバック 学期末に実技試験を行い、内容の評価をフィードバックする。

成績評価 実技試験に平常点(レッスン受講態度等)を加味して総合的に評価する。

テキスト バッハ：平均律クラヴィーア曲集、モーツァルト・ベートーヴェン：ソナタ集、ショパン：練習曲集の他、適宜授業内に指示する。

オフィスアワー 各担当教員の出勤日に各担当教員レッスン室にて

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	リスニング・技能	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				

(演) 専門実技 I-2 (ピアノ)

演奏家コース部会主任 准教授 安田正昭

科目コード: IND102

対象コース/専門/学年: 演奏家コース/ピアノ専門/1年次

形態: 実技

単位数 4 単位

概要 前期に引き続いて個人レッスンをを行い、演奏表現上必要な技術の向上を目指す。

到達目標 古典のソナタ、ロマン派以降のレパートリーを広げ、公開演奏としてのレベルにまで完成度を高める。

授業計画 後期 15 回、各人 120 分の個人指導。
各人の能力、資質、進捗等に合わせて担当教員と相談の上進めていく。

回数	実技演習	内容	事前	事後	時間
第 1 回	実技演習(1)	基礎能力の再確認	指のトレーニングなど、演奏技術について考察する	レッスンの復習	630 分
第 2 回	実技演習(2)	各人の進捗と今後の課題と対策について	これまでの曲を復習しながら、今後の課題を考える	今後の課題を計画し練習する	630 分
第 3 回	実技演習(3)	自由曲のプログラムを決める	多くの作品に触れて、プログラムを考える	プログラムを決める	630 分
第 4 回	実技演習(4)	演奏技術向上の為に必要な課題を設定する	読譜と練習	レッスンの復習	630 分
第 5 回	実技演習(5)	表現力を深める為のアプローチを探る	読譜と練習	レッスンの復習	630 分
第 6 回	実技演習(6)	自由曲の確認と掘り下げ	読譜と練習	レッスンの復習	630 分
第 7 回	実技演習(7)	3 か月前課題(1) 読譜について	読譜と練習	レッスンの復習	630 分
第 8 回	実技演習(8)	3 か月前課題(2) 様式、奏法について	読譜と練習	レッスンの復習	630 分
第 9 回	実技演習(9)	3 か月前課題(3) 暗譜について	読譜と練習	レッスンの復習	630 分
第 10 回	実技演習(10)	3 か月前課題(4) テンポ、強弱などの確認	楽譜に書かれていることを再確認する	レッスンの復習	630 分
第 11 回	実技演習(11)	3 か月前課題(5) 全体の構成を中心に	全体の構成を考察しながら、練習する	レッスンの復習	630 分
第 12 回	実技演習(12)	1 か月前課題(1) 読譜の確認	読譜と練習	レッスンの復習	630 分
第 13 回	実技演習(13)	1 か月前課題(2) 技術、表現の確認	読譜と練習	レッスンの復習	630 分
第 14 回	実技演習(14)	自由曲、課題曲の演奏の掘り下げ	プログラム全体を通して弾く練習をする	レッスンの復習	630 分
第 15 回	実技演習(15)	仕上げとまとめ	プログラム全体を通してしながら、これまでの注意点を確認する	レッスンの復習	630 分

フィードバック 学年末の実技試験(公開)について担当教員その他が講評を行い、フィードバックする。

成績評価 実技試験に平常点(レッスン受講態度等)を加味して評価する。なお、実技試験において C の評価を得たものは次年度演奏家コースに認定されない。入試の成績が B- の者は、1 年次学年末専門実技試験の成績が B- であれば次年度演奏家コースに認定されない。

テキスト パッサ：平均律クラヴィーア曲集、モーツァルト・ベートーヴェン：ソナタ集、ショパン：練習曲集の他、適宜授業内に指示する。

オフィスアワー 各担当教員の出校日に各担当教員レッスン室にて

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>										

(演) 専門実技Ⅱ-1 (ピアノ)

演奏家コース部会主任 准教授 安田正昭

科目コード：IND201

対象コース/専門/学年：演奏家コース/ピアノ専門/2年次

形態：実技

単位数：4単位

概要 1年次に引き続きピアノ演奏における基本的な技術の向上を目指し、正確かつ迅速な読譜力を得てバロック、古典派の作品、練習曲、その他のレパートリーを広げる。また、時代様式に沿った演奏法を習得し、より多様な表現力を磨く。

到達目標 実技試験において複数様式の曲目によるプログラムを公開演奏し、演奏家としてのより高度なスキルを身につける。

授業計画 前期 15回、各人 120分の個人指導。
各人の能力、資質、進捗等に合わせて担当教員と相談の上進めていく。

回数	実技演習	事前	事後	単位数
第1回	実技演習(1) 前期の学習計画を立てる	これまでのレパートリーを確認し、学習計画案を立てる	学習計画を確認し、必要な準備をする	630分
第2回	実技演習(2) 基礎能力の確認	音階や分散和音などの基礎練習を確認する	レッスン内容の復習	630分
第3回	実技演習(3) バロックの曲を学ぶ(1) 時代背景、様式を中心に	時代背景、様式について考察し、読譜する	レッスン内容の復習	630分
第4回	実技演習(4) バロックの曲を学ぶ(2) 形式、和声、奏法を中心に	形式、和声、奏法を考慮して練習する	レッスン内容の復習	630分
第5回	実技演習(5) バロックの曲を学ぶ(3) 運指法やペダリングの確認	運指法やペダリングに留意して練習する	レッスン内容の復習	630分
第6回	実技演習(6) バロックの曲を学ぶ(4) 表現の掘り下げ、全体像の確認	全体をまとめて、暗譜で練習する	レッスン内容の復習	630分
第7回	実技演習(7) 練習曲の課題を確認する	これまでの練習曲を復習する	レッスン内容の復習	630分
第8回	実技演習(8) 古典派の曲を学ぶ(1) 時代背景、様式を中心に	時代背景、様式について考察し、読譜する	レッスン内容の復習	630分
第9回	実技演習(9) 古典派の曲を学ぶ(2) 楽譜の読み方、楽曲分析	楽曲分析を行う、読譜と練習	レッスン内容の復習	630分
第10回	実技演習(10) 古典派の曲を学ぶ(3) 奏法を中心に	時代様式にふさわしい奏法を考察し、練習する	レッスン内容の復習	630分
第11回	実技演習(11) 古典派の曲を学ぶ(4) 演奏技術についての確認	技術的に難しいところを再確認し、問題点と解決法を考える	レッスン内容の復習	630分
第12回	実技演習(12) 自由曲を学ぶ(1) 作曲家、時代背景について	作曲家、時代背景について考察し、読譜、練習する	レッスン内容の復習	630分
第13回	実技演習(13) 自由曲を学ぶ(2) 楽譜の読み方を中心に	曲の様式感をふまえて楽譜を読み込み、練習する	レッスン内容の復習	630分
第14回	実技演習(14) 自由曲を学ぶ(3) 奏法、表現法、音色を中心に	より豊かな表現力を求めて、奏法について研究する	レッスン内容の復習	630分
第15回	実技演習(15) 自由曲を学ぶ(4) 表現を掘り下げる	全体を仕上げ、暗譜する	レッスン内容の復習	630分

フィードバック 学期末に実技試験を行い、内容の評価をフィードバックする。

成績評価 実技試験に平常点（レッスン受講態度等）を加味して総合的に評価する。

テキスト バッハ：平均律クラヴィーア曲集、モーツァルト・ベートーヴェン：ソナタ集、ショパン：練習曲集の他、適宜授業内に指示する。

オフィスアワー 各担当教員の出校日に各担当教員レッスン室にて

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				

(演) 専門実技Ⅱ-2 (ピアノ)

演奏家コース部会主任 准教授 安田正昭

科目コード：IND202

対象コース/専門/学年：演奏家コース/ピアノ専門/2年次

形態：実技

単位数：4単位

概要 前期に引き続いて個人レッスンをを行い、演奏表現上必要な技術の向上を目指す。

到達目標 実技試験において複数様式の曲目によるプログラムを公開演奏し、演奏家としてのより高度なスキルを身につける。

授業計画 後期 15回、各人 120分の個人指導。各人の能力、資質、進度等に合わせて担当教員と相談の上進めていく。

Table with 3 columns: Lesson Number, Lesson Content, and Score. It lists 15 lessons with details on practice goals and scores for each.

フィードバック 実技試験について、担当教員その他が講評を行いフィードバックする。

成績評価 実技試験に平常点（レッスン受講態度等）を加味して総合的に評価する。なお、実技試験に於いて C の評価を得た者は次年度演奏家コースに認定されない。実技試験に於いて 2 年連続 B- の評価を得た者は次年度演奏家コースに認定されない。

テキスト バッハ：平均律クラヴィーア曲集、モーツァルト・ベートーヴェン：ソナタ集、ショパン：練習曲集の他、適宜授業内に指示する。

オフィスアワー 各担当教員の出校日に各担当教員レッスン室にて

備考

学位授与の方針との関連

Table showing the relationship between course learning outcomes and degree requirements. It includes columns for '知識・技能・理解', '知識・技能の活用', and '意欲・経験・多様性'.

(演) 専門実技Ⅲ (ピアノ)

演奏家コース部会主任 准教授 安田正昭

科目コード：IND301/IND302

対象コース/専門/学年：演奏家コース/ピアノ専門/3年次

形態：実技 単位数：8単位
概要 2年次までに習得した内容を踏まえ、各人の資質、特性を生かしつつ様々な作曲家の作品、異なる時代様式の作品に取り組む。また協奏曲を学び、より豊かなピアノリズムを身につける。

到達目標 全ての時代様式に加えて、協奏曲を通してすぐれたアンサンブル力をも身につける。

授業計画 年間90回、各人120分の個人指導。各人の能力、資質、進捗等に合わせて担当教員と相談の上進めていく。
第1回 実技演習(1) 年間の目標と学習計画を立てる
第2回 実技演習(2) これまでの学習で不足している分野へのアプローチ
... (rows 3-30) ...

フィードバック 実技試験について、担当教員その他が講評を行いフィードバックする。

成績評価 実技試験に平常点(レッスン受講態度等)を加味して総合的に評価する。なお、実技試験に於いてCの評価を得た者は次年度演奏家コースに認定されない。実技試験に於いて2年連続B-の評価を得た者は次年度演奏家コースに認定されない。

テキスト パッサ：平均律クラヴィーア曲集、モーツァルト・ベートーヴェン：ソナタ集、ショパン：練習曲集、協奏曲の他、適宜授業内に指示する。

オフィスアワー 各担当教員の出校日に、各担当教員のレッスン室にて

備考

学位授与の方針との関連

Table with 16 columns: 知識・技能・理解, 知識・技能の活用, 意欲・経験・多様性. Includes checkboxes for various skills and outcomes.

(演) 専門実技Ⅳ (ピアノ)

演奏家コース部会主任 准教授 安田正昭

科目コード：IND403/IND404

対象コース/専門/学年：演奏家コース/ピアノ専門/4年次

形態：実技	単位数：8単位
概要	4年間の集大成としてリサイタルプログラムと協奏曲全楽章をまとめ上げ、深い読譜力と確かな技術と感性により、説得力のある演奏を目指す。また、1回の演奏会に必要な集中力と力の配分、計画的な準備の重要性を学ぶ。

到達目標	プロの演奏家として通用するために、あらゆる能力を完全なものにする。
------	-----------------------------------

授業計画	年間 90 回、各人 120 分の個人指導。 各人の能力、資質、進度等に合わせて担当教員と相談の上進めていく。	
第 1 回	実技演習(1) 年間の目標、学習計画を立てる	事前 年間の目標と、学習計画案を考える 事後 目標と学習計画を確認し、必要な準備をする 630 分 630 分
第 2 回	実技演習(2) リサイタルプログラムを練る	事前 これまでのレパートリーを確認し、今後のプログラムを考える 事後 リサイタルプログラムをつくる 630 分 630 分
第 3 回	実技演習(3) 自由曲を学ぶ(1) 時代背景、様式を中心に	事前 時代背景、様式を考察し、読譜、練習する 事後 レッスン内容の復習 630 分 630 分
第 4 回	実技演習(4) 自由曲を学ぶ(2) 楽譜の読み方を中心に	事前 楽譜を細部まで読み込み、練習する 事後 レッスン内容の復習 630 分 630 分
第 5 回	実技演習(5) 自由曲を学ぶ(3) 運指法やペダリングの確認	事前 運指やペダリングに留意して練習する 事後 レッスン内容の復習 630 分 630 分
第 6 回	実技演習(6) 自由曲を学ぶ(4) 奏法を中心に	事前 音色、タッチ、アーティキュレーションに留意して練習する 事後 レッスン内容の復習 630 分 630 分
第 7 回	実技演習(7) 自由曲を学ぶ(5) ポリフォニーについて	事前 ポリフォニーの要素を考慮して練習する 事後 レッスン内容の復習 630 分 630 分
第 8 回	実技演習(8) 自由曲を学ぶ(6) 問題点の解決、練習方法について	事前 技術的に難しいところを確認し、工夫して練習する 事後 レッスン内容の復習 630 分 630 分
第 9 回	実技演習(9) 自由曲を学ぶ(7) 和声感について	事前 調性や和声に留意して練習する 事後 レッスン内容の復習 630 分 630 分
第 10 回	実技演習(10) 自由曲を学ぶ(8) 強弱法について	事前 強弱や表現記号に留意して練習する 事後 レッスン内容の復習 630 分 630 分
第 11 回	実技演習(11) 自由曲を学ぶ(9) 様式感、曲の性格について	事前 曲の様式やキャラクターにふさわしい演奏を目指して練習する 事後 レッスン内容の復習 630 分 630 分
第 12 回	実技演習(12) 自由曲を学ぶ(10) 表現を掘り下げる	事前 全体をまとめて、暗譜で練習する 事後 レッスン内容の復習 630 分 630 分
第 13 回	実技演習(13) 各人の進路やコンクール等の相談	事前 前期までの進捗状況を確認し、今後の課題を考える 事後 レッスン内容の復習 630 分 630 分
第 14 回	実技演習(14) 協奏曲を学ぶ(1) 読譜、運指法の確認	事前 運指やペダリングに留意しながら読譜する 事後 レッスン内容の復習 630 分 630 分
第 15 回	実技演習(15) 協奏曲を学ぶ(2) 形式、奏法について	事前 形式、奏法を考慮しながら練習する 事後 レッスン内容の復習 630 分 630 分
第 16 回	実技演習(16) 協奏曲を学ぶ(3) 表現法を中心に	事前 楽譜に書かれている表現記号に留意して練習する 事後 レッスン内容の復習 630 分 630 分
第 17 回	実技演習(17) 協奏曲を学ぶ(4) オーケストラパートの研究	事前 オーケストラパートを読譜し、ソロパートとの関わりを考察する 事後 レッスン内容の復習 630 分 630 分
第 18 回	実技演習(18) 協奏曲を学ぶ(5) アンサンブルを学ぶ	事前 ソリストとしてオーケストラとのアンサンブルを考慮して練習する 事後 レッスン内容の復習 630 分 630 分
第 19 回	実技演習(19) 協奏曲を学ぶ(6) 奏法上の問題を解決する	事前 技術面で難しいところを確認し、対策を考える 事後 レッスン内容の復習 630 分 630 分
第 20 回	実技演習(20) 協奏曲を学ぶ(7) 表現力を高める	事前 ソリストとしての幅広い表現力を高めるための練習をする 事後 レッスン内容の復習 630 分 630 分
第 21 回	実技演習(21) 協奏曲を学ぶ(8) 2台ピアノで合わせる	事前 2台ピアノで合わせる練習をする 事後 レッスン内容の復習 630 分 630 分
第 22 回	実技演習(22) 協奏曲を学ぶ(9) 2台ピアノのバランス感覚を養う	事前 2台ピアノでオーケストラパートとの調和をふまえて練習をする 事後 レッスン内容の復習 630 分 630 分
第 23 回	実技演習(23) 協奏曲を学ぶ(10) ソロパートの確認	事前 2台ピアノで合わせた上で生じた問題点について考察し、練習する 事後 レッスン内容の復習 630 分 630 分
第 24 回	実技演習(24) 協奏曲を学ぶ(11) 全体の構成を考える	事前 全体をまとめて、暗譜で練習する 事後 レッスン内容の復習 630 分 630 分
第 25 回	実技演習(25) 試験に向けてペース配分を考える	事前 全てのプログラムを確認し、練習の計画を立てる 事後 レッスン内容の復習 630 分 630 分
第 26 回	実技演習(26) プログラム全体を通して演奏する	事前 暗譜の確認と、それぞれの曲の問題点と対策を考えて練習する 事後 レッスン内容の復習 630 分 630 分
第 27 回	実技演習(27) 1か月前課題(1) 読譜の確認	事前 課題曲を読譜する 事後 レッスン内容の復習 630 分 630 分
第 28 回	実技演習(28) 1か月前課題(2) 技術、表現の確認	事前 課題曲をより深めて練習する 事後 レッスン内容の復習 630 分 630 分
第 29 回	実技演習(29) 自由曲・協奏曲の掘り下げ	事前 全体をまとめて、通して練習する 事後 レッスン内容の復習 630 分 630 分
第 30 回	実技演習(30) 仕上げとまとめ	事前 これまでの注意点に留意しながら練習する 事後 レッスン内容の復習 630 分 630 分

フィードバック	卒業試験の結果を多面的に評価し、演奏会への出演などに推薦してフィードバックする。
---------	------------------------------------------

成績評価	実技試験に平常点(レッスン受講態度等)を加味して総合的に評価する。
------	-----------------------------------

テキスト	バッハ：平均律クラヴィーア曲集、モーツァルト・ベートーヴェン：ソナタ集、ショパン：練習曲集、協奏曲の他、適宜授業内に指示する。
------	-----------------------------------------------------------------

オフィスアワー	各担当教員の出校日に、各担当教員のレッスン室にて
---------	--------------------------

備考	
----	--

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解				知識・技能の活用						意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>							

(演) 専門実技 I-1 (弦楽器)

弦楽部会主任 准教授 佐藤まどか

科目コード：IND101

対象コース／学年：演奏家コース／弦楽器専門／1 年次

形態：実技

単位数：4 単位

概要 音楽の解釈力と演奏の表現力を養うために必要な、読譜力や想像力、そのための演奏技術の向上をめざす。楽器のソノリティに耳を傾け、表現のための多様な技術を身につける。

到達目標 正確な読譜により、時代様式や作曲家の意図を読み取り、それを表現できるようにする。

授業計画 前期 15 回、各人毎週 120 分の個人指導。
各人の能力、資質、進捗等に合わせ、担当教員と相談の上進めていく。

第 1 回	各個人の学習計画を立てる	事前 事後	入学前の学修を確認し、一年次の学修計画案をたてる。 学修計画を確認し、楽譜等、今後必要な準備をする。	630 分 630 分
第 2 回	エチュード、曲 自然な音の探求	事前 事後	楽器が自然に鳴るポイントを、各自で探求しておく。 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	630 分 630 分
第 3 回	エチュード、曲 正確な読譜	事前 事後	エチュードや曲に対し、楽譜を緻密に読み込むことを意識し、総譜からアプローチを試みる。 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	630 分 630 分
第 4 回	エチュード、曲 奏法上の問題点の解決	事前 事後	音色の変化や表現のために、奏法上の問題点を洗い出し、練習しておく。 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	630 分 630 分
第 5 回	エチュード、曲 形式、和声感	事前 事後	課題に対し、形式や和声、楽譜を見ながら分析し、実践に向けて練習する。 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	630 分 630 分
第 6 回	エチュード、曲 様式感を学ぶ	事前 事後	課題に対し、時代背景、様式感を、文献によって確認し、実践に向けて練習する。 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	630 分 630 分
第 7 回	エチュード、曲 表現力、想像力の発展	事前 事後	ピアノとの合わせを行っておく。 アンサンブル上の問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	630 分 630 分
第 8 回	エチュード、曲 仕上げ ピアノ伴奏とともに	事前 事後	暗譜の確認。ピアノとの合わせを行っておく。 反省と、次回の課題を確認する。	630 分 630 分
第 9 回	課題曲 A バロック期 正確な読譜と、様式感について	事前 事後	課題曲 A に対し、楽譜を緻密に読み込むことを意識し、総譜からアプローチを試みる。 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	630 分 630 分
第 10 回	課題曲 A バロック期 形式、和声感を学ぶ	事前 事後	課題曲 A に対し、形式、和声、楽譜を見ながら分析し、実践に向けて練習する。 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	630 分 630 分
第 11 回	課題曲 A バロック期 奏法上の問題点の解決	事前 事後	課題曲 A に対し、音色の変化や表現のために、奏法上の問題点を洗い出し、練習しておく。 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	630 分 630 分
第 12 回	課題曲 B 古典派 正確な読譜と、様式感について	事前 事後	課題曲 B に対し、楽譜を緻密に読み込むことを意識し、総譜からアプローチを試みる。 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	630 分 630 分
第 13 回	課題曲 B 古典派 形式、和声感を学ぶ	事前 事後	課題曲 B に対し、形式、和声、楽譜を見ながら分析し、実践に向けて練習する。 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	630 分 630 分
第 14 回	課題曲 B 古典派 奏法上の問題点の解決	事前 事後	課題曲 B に対し、音色の変化や表現のために、奏法上の問題点を洗い出し、練習しておく。 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	630 分 630 分
第 15 回	演奏上の問題点から課題を探る	事前 事後	課題曲 A と課題曲 B を、暗譜で演奏できるように練習する。 前期の反省と、次回の課題を確認する。	630 分 630 分

フィードバック 実技試験終了後、あるいは授業内で適宜、担当者よりコメントをフィードバックする。

成績評価 実技試験平常点（レッスン受講態度等）を加味して総合的に評価する。

テキスト 個人の音楽的、技術的問題点を解決すべく課題曲を選定するため、曲目は、適宜、指導教員と相談の上、決定する。

オフィスアワー レッスン終了後、各弦楽器実技担当教員レッスン室において

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経歴・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	プレゼンテーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>								

(演) 専門実技 I-2 (弦楽器)

弦楽部会主任 准教授 佐藤まどか

科目コード：IND102

対象コース／専門／学年：演奏家コース／弦楽器専門／1 年次

形態：実技

単位数：4 単位

概要 音楽の解釈力と演奏の表現力を養うために必要な、読譜力や想像力、そのための演奏技術の向上をめざす。楽器のソノリティに耳を傾け、表現のための多様な技術を身につける。

到達目標 時代の異なる作品の様式感を理解し、説得力を持って弾き分けることを目標とする。

授業計画 後期 15 回、各人毎週 120 分の個人指導。
各人の能力、資質、進捗等に合わせて、担当教員と相談の上進めていく。

第 1 回	課題曲 C ロマン派小品 正確な読譜と、様式感について	事前 事後	課題曲 C に対し、楽譜を緻密に読み込むことを意識し、総譜からアプローチを試みる。 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	630 分 630 分
第 2 回	課題曲 C ロマン派小品 形式、和声感を学ぶ	事前 事後	課題曲 C に対し、形式、和声、楽譜を見ながら分析し、実践に向けて練習する。 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	630 分 630 分
第 3 回	課題曲 C ロマン派小品 奏法上の問題点の解決	事前 事後	課題曲 C に対し、音色の変化や表現のために、奏法上の問題点を洗い出し、練習しておく。 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	630 分 630 分
第 4 回	課題曲 D ロマン派コンチェルト 正確な読譜と、様式感について	事前 事後	課題曲 D に対し、楽譜を緻密に読み込むことを意識し、総譜からアプローチを試みる。 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	630 分 630 分
第 5 回	課題曲 D ロマン派コンチェルト 形式、和声感を学ぶ	事前 事後	課題曲 D に対し、形式、和声、楽譜を見ながら分析し、実践に向けて練習する。 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	630 分 630 分
第 6 回	課題曲 D ロマン派コンチェルト 奏法上の問題点の解決	事前 事後	課題曲 D に対し、音色の変化や表現のために、奏法上の問題点を洗い出し、練習しておく。 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	630 分 630 分
第 7 回	課題曲 E 近現代 正確な読譜と、様式感について	事前 事後	課題曲 E に対し、楽譜を緻密に読み込むことを意識し、総譜からアプローチを試みる。 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	630 分 630 分
第 8 回	課題曲 E 近現代 形式、和声感を学ぶ	事前 事後	課題曲 E に対し、形式、和声、楽譜を見ながら分析し、実践に向けて練習する。 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	630 分 630 分
第 9 回	課題曲 E 近現代 奏法上の問題点の解決	事前 事後	課題曲 E に対し、音色の変化や表現のために、奏法上の問題点を洗い出し、練習しておく。 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	630 分 630 分
第 10 回	リサイタルプログラム作成	事前 事後	問題点を意識し、各自の音楽的特徴を把握し、リサイタルプログラムの候補曲を考えておく。 選曲に対し、楽譜を緻密に読み込み、総譜からアプローチを試みる。	630 分 630 分
第 11 回	リサイタルプログラム 表現力を深める	事前 事後	様式感からテンポ感や音色のイメージを確認し、実践につなげられるよう練習しておく。 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	630 分 630 分
第 12 回	リサイタルプログラム 効果的な演奏について学ぶ	事前 事後	曲の全体像から、立体的な表現につながるよう、効果的に演奏できる工夫をする。 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	630 分 630 分
第 13 回	リサイタルプログラム ベース配分を学ぶ	事前 事後	ピアノとの合わせを行っておく。 試験曲目すべてを、続けて演奏できるよう、練習する。	630 分 630 分
第 14 回	リサイタルプログラム アンサンブルの問題点を解決	事前 事後	ピアノとの合わせを行っておく。 アンサンブル上の問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	630 分 630 分
第 15 回	公開試験の演奏内容の反省	事前 事後	暗譜の確認。 学年末演奏試験の反省、および今後の課題を確認する。	630 分 630 分

フィードバック 実技試験終了後、あるいは授業内で適宜、担当者よりコメントをフィードバックする。

成績評価 実技試験に平常点（レッスン受講態度等）を加味して総合的に評価する。なお、実技試験に於いて C の評価を得た者は次年度演奏家コースに認定されない。実技試験に於いて 2 年連続 B- の評価を得た者は次年度演奏家コースに認定されない。（入試の成績が B- の者は 1 年次学年末専門実技試験の成績が B- であれば次年度演奏家コースに認定されない。）

テキスト 個人の音楽的、技術的問題点を解決すべく課題曲を選定するため、曲目は、適宜、指導教員と相談の上、決定する。

オフィスアワー レッスン終了後、各弦楽器実技担当教員レッスン室において

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・目的意識	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>								

(演) 専門実技Ⅱ-1 (弦楽器)

准教授 佐藤まどか

科目コード: IND201

対象コース/専門/学年: 演奏家コース/弦楽器専門/2 年次

形態: 実技

単位数: 4 単位

概要 音楽の解釈と演奏の表現力を養うために必要な読譜力や想像力、そのための演奏技術の向上をめざす。技術と表現の融合によって、より多彩な音楽表現を求め、多様な場面に対応できるスキルを身につける。

到達目標 基本的な演奏技術に加えて、多様な表現を磨くとともに、ソナタなどのアンサンブルを通じた音楽的コミュニケーション力を養う。

授業計画 前期 15 回、各人毎週 120 分の個人指導。各人の能力、資質、進捗等に合わせて、担当教員と相談の上進めていく。

Table with 3 columns: Lesson Number, Lesson Content, and Score. It lists 15 lessons covering topics like reading scores, technique, and repertoire, with pre and post-lesson activities and scores (630 points each).

フィードバック 実技試験終了後、あるいは授業内で適宜、担当者よりコメントをフィードバックする。

成績評価 実技試験に平常点(レッスン受講態度等)を加味して総合的に評価する。な

テキスト 個人の音楽的、技術的問題点を解決すべく課題曲を選定するため、曲目は、適宜、指導教員と相談の上、決定する。

オフィスアワー レッスン終了後、各弦楽器実技担当教員レッスン室において

備考

学位授与の方針との関連

Table showing the relationship between course learning outcomes and degree requirements. It has columns for '知識・技能・理解', '知識・技能の活用', and '意欲・経験・多様性', with sub-columns for specific skills and competencies.

(演) 専門実技Ⅱ-2 (弦楽器)

准教授 佐藤まどか

科目コード: IND202

対象コース/専門/学年: 演奏家コース/弦楽器専門/2 年次

形態: 実技

単位数: 4 単位

概要 音楽の解釈と演奏の表現力を養うために必要な読譜力や想像力、そのための演奏技術の向上をめざす。技術と表現の融合によって、より多彩な音楽表現を求め、多様な場面に対応できるスキルを身につける。

到達目標 基本的な演奏技術に加えて、多様な表現を磨くとともに、ソナタなどのアンサンブルを通じた音楽的コミュニケーション力を養う。

授業計画 後期 15 回、各人毎週 120 分の個人指導。各人の能力、資質、進捗等に合わせて、担当教員と相談の上進めていく。

Table with 15 rows of lesson plans. Each row includes lesson number, topic, and a table of '事前' (Before) and '事後' (After) activities with their respective durations.

フィードバック 実技試験終了後、あるいは授業内で適宜、担当者よりコメントをフィードバックする。

成績評価 実技試験に平常点(レッスン受講態度等)を加味して総合的に評価する。なお、実技試験に於いて C の評価を得た者は次年度演奏家コースに認定されない。実技試験に於いて 2 年連続 B- の評価を得た者は次年度演奏家コースに認定されない。実技試験に於いて 2 年連続 B- の評価を得た者は、次年度演奏家コースに認定されない。

テキスト 個人の音楽的、技術的問題点を解決すべく課題曲を選定するため、曲目は、適宜、指導教員と相談の上、決定する。

オフィスアワー レッスン終了後、各弦楽器実技担当教員レッスン室において

備考

学位授与の方針との関連

Table showing the correlation between course learning outcomes and degree requirements. Columns include '知識・技能・理解', '知識・技能の活用', and '意欲・経験・多様性'.

(演) 専門実技Ⅲ (弦楽器)

弦楽部会主任 准教授 佐藤まどか

科目コード: IND301/IND302

対象コース/専門/学年: 演奏家コース/弦楽器専門/3 年次

形態: 実技

単位数 8 単位

概要 音楽の解釈力と演奏の表現力を養うために必要な読譜力や想像力、そのための演奏技術の向上をめざす。レパートリーの拡充とともに自己プロデュース力を身につけ、自らにもっともふさわしいプログラミングができるようにする。

到達目標 自らの特性を認識し、それに応じたレパートリーを構成してプログラミングを行い、多面的な音楽表現と構成力を身につける。

授業計画 年間 30 回、各人毎週 120 分の個人指導。各人の能力、資質、進度等に合わせて、担当教員と相談の上進めていく。

Table with 3 columns: Lesson Number, Lesson Content, and Assessment/Notes. It lists 30 lessons covering topics like Baroque and Classical periods, musical forms, and performance techniques.

フィードバック 実技試験終了後、あるいは授業内で適宜、担当者よりコメントをフィードバックする。

成績評価 実技試験に平常点（レッスン受講態度等）を加味して総合的に評価する。なお、実技試験に於いて C の評価を得た者は次年度演奏家コースに認定されない。実技試験に於いて 2 年連続 B- の評価を得た者は次年度演奏家コースに認定されない。

テキスト 個人の音楽的、技術的問題点を解決すべく課題曲を選定するため、曲目は、適宜、指導教員と相談の上、決定する。

オフィスアワー レッスン終了後、各弦楽器実技担当教員レッスン室において

備考

学位授与の方針との関連

Table showing the correlation between course learning outcomes and degree requirements. It includes columns for '知識・技能・理解', '知識・技能の活用', and '意欲・経験・多様性'.

(演) 専門実技Ⅳ (弦楽器)

弦楽部会主任 准教授 佐藤まどか

科目コード：IND401/IND402

対象コース/専門/学年：演奏家コース/弦楽器専門/4 年次

形態：実技

単位数 8 単位

概要 音楽の解釈力と演奏の表現力を養うために必要な、読譜力、想像力、そのための演奏技術の向上をめざす。多様な楽曲の中からリサイタルプログラムを構成し、計画的な準備を進めることによって、説得力のある演奏表現をおこなう。

到達目標 バロックから現代までの幅広い時代の音楽に対する様式感を習得し、リサイタルプログラムを自らの力で解釈すること。そして楽器を通した説得力のある表現ができる。

授業計画 年間 30 回、各人毎週 120 分の個人指導。各人の能力、資質、進度等に合わせて、担当教員と相談の上進めていく。

Table with 3 columns: Lesson Number, Lesson Content, and Assessment/Notes. It lists 30 lessons covering topics like Baroque period, Classical period, and Romantic period, with specific exercises and performance goals.

フィードバック 実技試験終了後、あるいは授業内で適宜、担当者よりコメントをフィードバックする。

成績評価 実技試験に平常点（レッスン受講態度等）を加味して総合的に評価する。

テキスト 個人の音楽的、技術的問題点を解決すべく課題曲を選定するため、曲目は、適宜、指導教員と相談の上、決定する。

オフィスアワー レッスン終了後、各弦楽器実技担当教員レッスン室において

備考

学位授与の方針との関連

Table showing the relationship between course learning outcomes and degree requirements. It includes columns for 'Knowledge/Skills/Understanding', 'Application of Knowledge/Skills', and 'Significance/Experience/Diversity'.

(演) 専門実技 I-1 (ハーブ)

客員教授 井上美江子

科目コード：IND101

対象コース／専門／学年：演奏家コース／ハーブ専門／1 年次

形態：実技	単位数：4 単位
概要	ハーブの演奏技術の確立。週 2 時間のレッスンを通して、基礎的なテクニックを強化するとともに、音楽的な表現力を学ぶ。違う様式のソロ作品を 1～3 曲仕上げる。

到達目標 正確な読譜力、解釈力、音楽の表現力、創造力の向上。基礎練習を通して技術の向上を図りながら、様々な時代、様式の曲を勉強することにより、音楽全般の理解を深める。

授業計画 前期 15 回、各人 120 分の個人指導。各回の授業内容は、進度、個人の技量により変更することがある。また曲目は一例であり、変更することがある。

回数	内容	事前	事後	時間
第 1 回	ガイダンス、今学期の計画、目標などの確認 基礎練習、エチュード (ナーデルマン 18 のプレリユード)	課題曲の楽譜を入手、譜読みを始める	指摘された箇所を中心に反復練習	630 分
第 2 回	基礎練習、エチュード (ナーデルマン 18 のプレリユード) ソロ曲①ヘンデル：テーマとヴァリエーション 譜読み	指使いを入手して譜読みを始める	指摘された箇所を中心に反復練習	630 分
第 3 回	基礎練習、エチュード (ナーデルマン 18 のプレリユード) ソロ曲①ヘンデル：テーマとヴァリエーション 奏法を中心に	主にフィンガリング、奏法を中心に練習	指摘された箇所を中心に反復練習	630 分
第 4 回	基礎練習、エチュード (ナーデルマン 18 のプレリユード) ソロ曲①ヘンデル：テーマとヴァリエーション 音楽的な掘り下げ	特にダイナミクス、音色に注意して練習	指摘された箇所を中心に反復練習	630 分
第 5 回	基礎練習、エチュード (ナーデルマン 18 のプレリユード) ソロ曲①ヘンデル：テーマとヴァリエーション 全体のまとめ	音楽的な表現に注意しながらテンポでの演奏	指摘された箇所を中心に反復練習	630 分
第 6 回	基礎練習、エチュード (ナーデルマン 18 のプレリユード) ソロ曲②グリカ：ノクターン 譜読み	指使いを入手して譜読みを始める	指摘された箇所を中心に反復練習	630 分
第 7 回	基礎練習、エチュード (ナーデルマン 18 のプレリユード) ソロ曲②グリカ：ノクターン 法を中心に	主にフィンガリング、奏法を中心に練習	指摘された箇所を中心に反復練習	630 分
第 8 回	基礎練習、エチュード (ナーデルマン 18 のプレリユード) ソロ曲②グリカ：ノクターン 音楽的な掘り下げ	特にダイナミクス、音色に注意して練習	指摘された箇所を中心に反復練習	630 分
第 9 回	基礎練習、エチュード (ナーデルマン 18 のプレリユード) ソロ曲②グリカ：ノクターン 全体のまとめ	音楽的な表現に注意しながらテンポでの演奏	指摘された箇所を中心に反復練習	630 分
第 10 回	基礎練習、エチュード (ナーデルマン 18 のプレリユード) ソロ曲③ワトキンス：小組曲 譜読み	指使いを入手して譜読みを始める	指摘された箇所を中心に反復練習	630 分
第 11 回	基礎練習、エチュード (ナーデルマン 18 のプレリユード) ソロ曲③ワトキンス：小組曲 奏法を中心に	主にフィンガリング、音色に注意して練習	指摘された箇所を中心に反復練習	630 分
第 12 回	基礎練習、エチュード (ナーデルマン 18 のプレリユード) ソロ曲③ワトキンス：小組曲 音楽的な掘り下げ	特にダイナミクス、音色に注意して練習	指摘された箇所を中心に反復練習	630 分
第 13 回	基礎練習、エチュード (ナーデルマン 18 のプレリユード) ソロ曲③ワトキンス：小組曲 全体のまとめ	音楽的な表現に注意しながらテンポでの演奏	指摘された箇所を中心に反復練習	630 分
第 14 回	基礎練習、エチュード (ナーデルマン 18 のプレリユード) ソロ曲④ビエルネ：アムプロムブチュ・カプリス 譜読み	指使いを入手して譜読みを始める	指摘された箇所を中心に反復練習	630 分
第 15 回	基礎練習、エチュード (ナーデルマン 18 のプレリユード) ソロ曲④ビエルネ：アムプロムブチュ・カプリス 奏法を中心に	主にフィンガリング、奏法を中心に練習	指摘された箇所を中心に反復練習	630 分

フィードバック レッスン内でのコメント。

成績評価 実技試験に平常点 (レッスン受講態度等) を加味して総合的に評価する。

テキスト 各人の演奏曲目の楽譜

オフィスアワー 1008 室
月曜日 11:00～19:00 火曜日 13:00～19:00 金曜日 13:10～14:40
E-mail: miekoinoue19@ybb.ne.jp

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・目的発働能力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>				

(演) 専門実技 I-2 (ハーブ)

客員教授 井上美江子

科目コード：IND102

対象コース／専門／学年：演奏家コース／ハーブ専門／1 年次

形態：実技	単位数：4 単位
概要	ハーブの演奏技術の確立。前期に引き続き、テクニックの強化を図りながら、より高度な音楽表現が必要なソロ曲を2～3曲習得し、学年末の実技試験で成果を発表する。

到達目標	正確な読譜力、解釈力、音楽の表現力、創造力の向上。前期に引き続き、より深い音楽表現を取得する。学年末の実技試験に向け、時代や様式の違うソロ曲で、15～20 分のリサイタルプログラムを作る。
------	------------------------------------------------------------------------------------------------

授業計画 後期 15 回、各人 120 分の個人指導。各回の授業内容は、進度、個人の技量により変更することがある。また曲目は一例であり、変更することがある。

回数	内容	事前	事後	時間
第 1 回	基礎練習、エチュード (ナーデルマン 18 のプレリュード) ソロ曲④ピエルネ：アムプロムブチュ・カプリス 音楽的な掘り下げ	特にダイナミクス、音色に注意して練習	指摘された箇所を中心に反復練習	630 分
第 2 回	基礎練習、エチュード (ナーデルマン 18 のプレリュード) ソロ曲④ピエルネ：アムプロムブチュ・カプリス 全体のまとめ	音楽的な表現に注意しながらテンポでの演奏	指摘された箇所を中心に反復練習	630 分
第 3 回	試験曲のプログラムを計画、確認	これまでに練習した曲の復習	指摘された箇所を中心に反復練習	630 分
第 4 回	試験曲①音楽解釈、暗譜の確認	音楽解釈、暗譜を中心に練習	指摘された箇所を中心に反復練習	630 分
第 5 回	試験曲②音楽解釈、暗譜の確認	音楽解釈、暗譜を中心に練習	指摘された箇所を中心に反復練習	630 分
第 6 回	試験曲③音楽解釈、暗譜の確認	音楽解釈、暗譜を中心に練習	指摘された箇所を中心に反復練習	630 分
第 7 回	試験曲④音楽解釈、暗譜の確認	音楽解釈、暗譜を中心に練習	指摘された箇所を中心に反復練習	630 分
第 8 回	試験曲①全体の仕上げ	総合的な練習	指摘された箇所を中心に反復練習	630 分
第 9 回	試験曲②全体の仕上げ	総合的な練習	指摘された箇所を中心に反復練習	630 分
第 10 回	試験曲③全体の仕上げ	総合的な練習	指摘された箇所を中心に反復練習	630 分
第 11 回	試験曲④全体の仕上げ	総合的な練習	指摘された箇所を中心に反復練習	630 分
第 12 回	試験曲全体のプログラムの流れを確認	プログラム全体の練習	指摘された箇所を中心に反復練習	630 分
第 13 回	試験曲全体のプログラムの通し練習、弾き合い	プログラムを通しての練習	弾き合いの録音を聴いて反省、問題点を中心に練習	630 分
第 14 回	試験曲全体のプログラムのより深い音楽解釈	もう一度個々の曲の確認、練習	指摘された箇所を中心に反復練習	630 分
第 15 回	まとめと復習、来年度の計画と目標の確認	試験の演奏の反省、問題点を中心に復習	今年度に行った曲の復習、来年度の課題曲の譜面を入手、書き込み	630 分

フィードバック レッスン内でのコメント、実技試験終了時に口頭で講評する。

成績評価 実技試験に平常点(レッスン受講態度等)を加味して総合的に評価する。なお、実技試験に於いて C の評価を得た者は次年度演奏家コースに認定されない。実技試験に於いて 2 年連続 B- の評価を得た者は次年度演奏家コースに認定されない。(入試の成績が B- の者は 1 年次学年末専門実技試験の成績が B- であれば次年度演奏家コースに認定されない。)

テキスト 各人の演奏曲目の楽譜

オフィスアワー 1008 室
月曜日 11:00～19:00 火曜日 13:00～19:00 金曜日 13:10～14:40

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>				

(演) 専門実技Ⅱ-1 (ハーブ)

客員教授 井上美江子

科目コード：IND201

対象コース／専門／学年：演奏家コース／ハーブ専門／2 年次

形態：実技	単位数：4 単位
概要	ハーブ演奏技術の確立。週 2 時間のレッスンを通し、基礎的なテクニックを強化・確認するとともに、様々な時代や様式の曲を勉強することにより、音楽全般の理解も深める。前期では毎日の基礎練習、エチュードの実習をしながら、学年末の試験のプログラム前半のレパートリーとして主に古典やソナタを学習する。
到達目標	正確な読譜力、解釈力、音楽の表現力、創造力の向上を目標とする。グランジャンニー、サルツェード、ルニエ、トゥルニエなどハーピストの作品と、ハーピスト以外の作曲家の作品をバランスよく学習することが望ましい。

授業計画 前期 15 回、各人 120 分の個人指導。各回の授業内容は、進度、個人の技量により変更することがある。また曲目は一例であり、変更することがある。

回数	内容	事前	事後	時間
第 1 回	ガイダンス、今学期の計画、目標などの確認 基礎練習、エチュード (バッハ・グランジャンニー) 基礎練習、エチュード (ボクサ 50 のエチュード) ソロ曲	課題曲の楽譜を入手、譜読みを始める	指摘された箇所を中心に反復練習	630 分
第 2 回	基礎練習、エチュード (バッハ・グランジャンニー) ソロ曲①パシェッティ：ソナタ 譜読み	指使いを入手して譜読みを始める	指摘された箇所を中心に反復練習	630 分
第 3 回	基礎練習、エチュード (バッハ・グランジャンニー) ソロ曲①パシェッティ：ソナタ 奏法を中心に	主にフィンガリング、奏法を中心に練習	指摘された箇所を中心に反復練習	630 分
第 4 回	基礎練習、エチュード (バッハ・グランジャンニー) ソロ曲①パシェッティ：ソナタ 音楽的な掘り下げ	特にダイナミクス、音色に注意して練習	指摘された箇所を中心に反復練習	630 分
第 5 回	基礎練習、エチュード (バッハ・グランジャンニー) ソロ曲①パシェッティ：ソナタ 全体の仕上げ	音楽的な表現に注意しながらテンポでの演奏を目指す	指摘された箇所を中心に反復練習	630 分
第 6 回	基礎練習、エチュード (バッハ・グランジャンニー) ソロ曲②トゥルニエ：フェリー 譜読み	指使いを入手して譜読みを始める	指摘された箇所を中心に反復練習	630 分
第 7 回	基礎練習、エチュード (バッハ・グランジャンニー) ソロ曲②トゥルニエ：フェリー 奏法を中心に	主にフィンガリング、奏法を中心に練習	指摘された箇所を中心に反復練習	630 分
第 8 回	基礎練習、エチュード (バッハ・グランジャンニー) ソロ曲②トゥルニエ：フェリー 音楽的な掘り下げ	特にダイナミクス、音色に注意して練習	指摘された箇所を中心に反復練習	630 分
第 9 回	基礎練習、エチュード (バッハ・グランジャンニー) ソロ曲②トゥルニエ：フェリー 全体の仕上げ	音楽的な表現に注意しながらテンポでの演奏を目指す	指摘された箇所を中心に反復練習	630 分
第 10 回	基礎練習、エチュード (バッハ・グランジャンニー) ソロ曲③グランジャンニー：ファンタジー 譜読み	指使いを入手して譜読みを始める	指摘された箇所を中心に反復練習	630 分
第 11 回	基礎練習、エチュード (バッハ・グランジャンニー) ソロ曲③グランジャンニー：ファンタジー 奏法を中心に	主にフィンガリング、奏法を中心に練習	指摘された箇所を中心に反復練習	630 分
第 12 回	基礎練習、エチュード (バッハ・グランジャンニー) ソロ曲③グランジャンニー：ファンタジー 音楽的な掘り下げ	特にダイナミクス、音色に注意して練習	指摘された箇所を中心に反復練習	630 分
第 13 回	基礎練習、エチュード (バッハ・グランジャンニー) ソロ曲③グランジャンニー：ファンタジー 全体の仕上げ	音楽的な表現に注意しながらテンポでの演奏を目指す	指摘された箇所を中心に反復練習	630 分
第 14 回	基礎練習、エチュード (バッハ・グランジャンニー) ソロ曲④ロータ：サラバンドとトッカータ 譜読み	指使いを入手して譜読みを始める	指摘された箇所を中心に反復練習	630 分
第 15 回	基礎練習、エチュード (バッハ・グランジャンニー) ソロ曲④ロータ：サラバンドとトッカータ 奏法を中心に	主にフィンガリング、奏法を中心に練習	指摘された箇所を中心に反復練習	630 分

フィードバック レッスン内でのコメント、実技試験終了後に口頭で講評する。

成績評価 実技試験に平常点を加味して総合的に評価。
なお、実技試験評価は複数教員（弦楽器実技担当教員）による。

テキスト 各人の演奏曲目の楽譜

オフィスアワー 1008 室
月曜日 11：00～19：00 火曜日 13：00～19：00 金曜日 13：10～14：40

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>

(演) 専門実技Ⅱ-2 (ハーブ)

客員教授 井上美江子

科目コード：IND202

対象コース／専門／学年：演奏家コース／ハーブ専門／2 年次

形態：実技	単位数：4 単位
概要	ハーブ演奏技術の確立。週 2 時間のレッスンを通し、基礎的なテクニックを強化・確認するとともに、様々な時代や様式の曲を勉強することにより、音楽全般の理解も深める。毎日の基礎練習、エチュードの実習をしながら、学年末の試験に向け時代や様式の異なるソロ曲で 20～30 分のリサイタルプログラムを作る。
到達目標	正確な読譜力、解釈力、音楽の表現力、創造力の向上を目標とする。グランジヤニー、サルツェード、ルニエ、トゥルニエなどハーピストの作品と、ハーピスト以外の作曲家の作品をバランスよく学習することが望ましい。

授業計画 後期 15 回、各人 120 分の個人指導。各回の授業内容は、進度、個人の技量により変更することがある。また曲目は一例であり、変更することがある。

回数	内容	事前	事後	時間
第 1 回	基礎練習、エチュード (バッハ・グランジヤニー) ソロ曲④ロータ：サラバンドとトッカータ 音楽的な掘り下げ	特にダイナミクス、音色に注意して練習	指摘された箇所を中心に反復練習	630 分
第 2 回	基礎練習、エチュード (バッハ・グランジヤニー) ソロ曲④ロータ：サラバンドとトッカータ 全体の仕上げ	音楽的な表現に注意しながらテンポでの演奏	指摘された箇所を中心に反復練習	630 分
第 3 回	試験曲のプログラムを計画、確認	これまでに練習した曲の復習	指摘された箇所を中心に反復練習	630 分
第 4 回	試験曲①音楽解釈、暗譜の確認	音楽解釈、暗譜を中心に練習	指摘された箇所を中心に反復練習	630 分
第 5 回	試験曲②音楽解釈、暗譜の確認	音楽解釈、暗譜を中心に練習	指摘された箇所を中心に反復練習	630 分
第 6 回	試験曲③音楽解釈、暗譜の確認	音楽解釈、暗譜を中心に練習	指摘された箇所を中心に反復練習	630 分
第 7 回	試験曲④音楽解釈、暗譜の確認	音楽解釈、暗譜を中心に練習	指摘された箇所を中心に反復練習	630 分
第 8 回	試験曲①全体の仕上げ	総合的な練習	指摘された箇所を中心に反復練習	630 分
第 9 回	試験曲②全体の仕上げ	総合的な練習	指摘された箇所を中心に反復練習	630 分
第 10 回	試験曲③全体の仕上げ	総合的な練習	指摘された箇所を中心に反復練習	630 分
第 11 回	試験曲④全体の仕上げ	総合的な練習	指摘された箇所を中心に反復練習	630 分
第 12 回	試験曲全体のプログラムの流れを確認	プログラム全体の練習	指摘された箇所を中心に反復練習	630 分
第 13 回	試験曲全体のプログラムのより深い音楽解釈	もう一度個々の曲の確認、練習	指摘された箇所を中心に反復練習	630 分
第 14 回	試験曲全体のプログラムの通し練習、弾き合い	プログラムを通しての練習	弾き合いの録音を聴いて反省、問題点を中心に練習	630 分
第 15 回	まとめと復習、来年度の計画と目標の確認	試験の演奏の反省、問題点を中心に復習	今年度に行った曲の復習、来年度の課題曲の譜面を入手、書き込み	630 分

フィードバック レッスン内でのコメント、実技試験終了後に口頭で講評する。

成績評価 実技試験に平常点(レッスン受講態度等)を加味して総合的に評価する。なお、実技試験に於いて C の評価を得た者は次年度演奏家コースに認定されない。実技試験に於いて 2 年連続 B- の評価を得た者は次年度演奏家コースに認定されない。

テキスト 各人の演奏曲目の楽譜

オフィスアワー 1008 室
月曜日 11:00～19:00 火曜日 13:00～19:00 金曜日 13:10～14:40

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>

(演) 専門実技Ⅲ (ハープ)

客員教授 井上美江子

科目コード：IND301/IND302

対象コース/専門/学年：演奏家コース/ハープ専門/3 年次

形態：実技

単位数：8 単位

概要 ハープ演奏技術の確立。週 2 時間のレッスンを通し、基礎的なテクニックを強化・確認するとともに、様々な時代や様式の曲を勉強することにより、音楽全般の理解も深める。毎日の基礎練習、エチュードの実習をしながら、学年末の試験に向け時代や様式の異なるソロ曲で 35~45 分のリサイタルプログラムを作る。

到達目標 正確な読譜力、解釈力、音楽の表現力、創造力の向上を目標とする。グランジャンー、サルツェード、ルニエ、トゥルニエなどハーピストの作品と、ハーピスト以外の作曲家の作品をバランスよく学習することが望ましい。余裕のある学生については、協奏曲の学習も望まれる。

授業計画 年間 30 回、各人 120 分の個人指導。各回の授業内容は、進度、個人の技量により変更することがある。また曲目は一例であり、変更することがある。

第 1 回	ガイダンス 基礎練習、エチュード (ボクサ 50 のエチュード)	事前 課題曲の楽譜を入手して譜読みを始める 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	630 分 630 分
第 2 回	基礎練習、エチュード (ボクサ 50 のエチュード) ソロ曲①ルニエ：コンテンプレーション 譜読み	事前 指使いを入手して譜読みを始める 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	630 分 630 分
第 3 回	基礎練習、エチュード (ボクサ 50 のエチュード) ソロ曲①ルニエ：コンテンプレーション 奏法を中心に	事前 主にフィンガリング、奏法を中心に練習 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	630 分 630 分
第 4 回	基礎練習、エチュード (ボクサ 50 のエチュード) ソロ曲①ルニエ：コンテンプレーション 音楽的な掘り下げ	事前 特にダイナミクス、音色に注意して練習 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	630 分 630 分
第 5 回	基礎練習、エチュード (ボクサ 50 のエチュード) ソロ曲①ルニエ：コンテンプレーション 全体の仕上げ	事前 音楽的な表現に注意しながらテンポでの演奏 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	630 分 630 分
第 6 回	基礎練習、エチュード (ボクサ 50 のエチュード) ソロ曲②ウーディ：ソナタ 譜読み	事前 指使いを入手して譜読みを始める 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	630 分 630 分
第 7 回	基礎練習、エチュード (ボクサ 50 のエチュード) ソロ曲②ウーディ：ソナタ 奏法を中心に	事前 主にフィンガリング、奏法を中心に練習 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	630 分 630 分
第 8 回	基礎練習、エチュード (ボクサ 50 のエチュード) ソロ曲②ウーディ：ソナタ 音楽的な掘り下げ	事前 特にダイナミクス、音色に注意して練習 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	630 分 630 分
第 9 回	基礎練習、エチュード (ボクサ 50 のエチュード) ソロ曲②ウーディ：ソナタ 全体の仕上げ	事前 音楽的な表現に注意しながらテンポでの演奏 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	630 分 630 分
第 10 回	基礎練習、エチュード (ボクサ 50 のエチュード) ソロ曲③シュポア：ファンタジー 譜読み	事前 指使いを入手して譜読みを始める 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	630 分 630 分
第 11 回	基礎練習、エチュード (ボクサ 50 のエチュード) ソロ曲③シュポア：ファンタジー 奏法を中心に	事前 主にフィンガリング、奏法を中心に練習 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	630 分 630 分
第 12 回	基礎練習、エチュード (ボクサ 50 のエチュード) ソロ曲③シュポア：ファンタジー 音楽的な掘り下げ	事前 特にダイナミクス、音色に注意して練習 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	630 分 630 分
第 13 回	基礎練習、エチュード (ボクサ 50 のエチュード) ソロ曲③シュポア：ファンタジー 全体の仕上げ	事前 音楽的な表現に注意しながらテンポでの演奏 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	630 分 630 分
第 14 回	基礎練習、エチュード (ボクサ 50 のエチュード) ソロ曲④ヘンデル：ハープ協奏曲 譜読み	事前 指使いを入手して譜読みを始める 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	630 分 630 分
第 15 回	基礎練習、エチュード (ボクサ 50 のエチュード) ソロ曲④ヘンデル：ハープ協奏曲 奏法を中心に	事前 主にフィンガリング、奏法を中心に練習 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	630 分 630 分
第 16 回	基礎練習、エチュード (ボクサ 50 のエチュード) ソロ曲④ヘンデル：ハープ協奏曲 音楽的な掘り下げ	事前 特にダイナミクス、音色に注意して練習 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	630 分 630 分
第 17 回	基礎練習、エチュード (ボクサ 50 のエチュード) ソロ曲④ヘンデル：ハープ協奏曲 全体の仕上げ	事前 音楽的な表現に注意しながらテンポでの演奏 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	630 分 630 分
第 18 回	課題曲のプログラムを計画、確認	事前 これまでに練習した曲の復習 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	630 分 630 分
第 19 回	試験曲①音楽解釈、暗譜の確認	事前 音楽解釈、暗譜を中心に練習 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	630 分 630 分
第 20 回	試験曲②音楽解釈、暗譜の確認	事前 音楽解釈、暗譜を中心に練習 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	630 分 630 分
第 21 回	試験曲③音楽解釈、暗譜の確認	事前 音楽解釈、暗譜を中心に練習 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	630 分 630 分
第 22 回	試験曲④音楽解釈、暗譜の確認	事前 音楽解釈、暗譜を中心に練習 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	630 分 630 分
第 23 回	試験曲①全体の仕上げ	事前 総合的な練習 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	630 分 630 分
第 24 回	試験曲②全体の仕上げ	事前 総合的な練習 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	630 分 630 分
第 25 回	試験曲③全体の仕上げ	事前 総合的な練習 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	630 分 630 分
第 26 回	試験曲④全体の仕上げ	事前 総合的な練習 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	630 分 630 分
第 27 回	試験曲プログラム全体の流れを確認	事前 プログラム全体の練習 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	630 分 630 分
第 28 回	試験曲全体のプログラムのより深い音楽解釈	事前 もう一度個々の曲の確認、練習 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	630 分 630 分
第 29 回	試験曲全体の通し練習、弾き合い	事前 プログラムを通しての練習 事後 弾き合いの録音を聴いて反省、問題点を中心に練習	630 分 630 分
第 30 回	まとめと復習、来年度の計画と目標の確認	事前 試験の演奏の反省、問題点を中心に復習 事後 今年度に行った曲の復習、来年度の課題曲の譜面を入手、書き込み	630 分 630 分

フィードバック レッスン内でのコメント、実技試験終了後に口頭で講評する。

成績評価 実技試験に平常点 (レッスン受講態度等) を加味して総合的に評価する。なお、実技試験に於いて C の評価を得た者は次年度演奏家コースに認定されない。実技試験に於いて 2 年連続 B- の評価を得た者は次年度演奏家コースに認定されない。

テキスト 各人の演奏曲目の楽譜

オフィスアワー 1008 室
月曜日 11:00~19:00 火曜日 13:00~19:00 金曜日 13:10~14:40

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発能力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>

(演) 専門実技Ⅳ (ハーブ)

客員教授 井上美江子

科目コード：IND403/IND404

対象コース/専門/学年：演奏家コース/ハーブ専門/4年次

形態：実技	単位数：8単位
概要	ハーブ演奏技術の確立。週2時間のレッスンを通し、基礎的なテクニックを強化・確認するとともに、様々な時代や様式の曲を勉強することにより、音楽全般の理解も深める。毎日の基礎練習、エチュードの実習をしながら、学年末の卒業試験に向け時代や様式の異なるソロ曲で50～60分のリサイタルプログラムと、協奏曲を少なくとも1曲学ぶ。
到達目標	正確な読譜力、解釈力、音楽の表現力、創造力の向上を目標とする。リサイタルプログラムは時代や様式の異なるもの、ハーピストの作品とそれ以外、など多岐に富んだものを作り、卒業後も長く演奏していけるレパートリーの確立を目指す。協奏曲の演奏では、実際のオーケストラとの共演を視野に入れながら、アンサンブルの技術の向上も図る。
授業計画	年間30回、各人120分の個人指導。各回の授業内容は、進度、個人の技量により変更することがある。また曲目は一例であり、変更することがある。
第1回	ガイダンス 基礎練習、エチュード (ボクサ50) ソロ曲①P.アルバース：セレナーデ 譜読み 事前 課題曲の楽譜を購入し譜読みを始める 事後 指摘された箇所を中心に反復練習 630分
第2回	基礎練習、エチュード (ボクサ50) ソロ曲①P.アルバース：セレナーデ 奏法を中心に 事前 主にフィンガリング、奏法を中心に練習 事後 指摘された箇所を中心に反復練習 630分
第3回	基礎練習、エチュード (ボクサ50) ソロ曲①P.アルバース：セレナーデ 音楽的な掘り下げ 事前 特にダイナミクス、音色、リズムに注意して練習 事後 指摘された箇所を中心に反復練習 630分
第4回	基礎練習、エチュード (ボクサ50) ソロ曲①P.アルバース：セレナーデ 全体的な仕上げ 事前 音楽的な表現に注意しながらテンポでの演奏を目指す 事後 指摘された箇所を中心に反復練習 630分
第5回	基礎練習、エチュード (ボクサ50) ソロ曲②プロコフィエフ：プレリュード 譜読み 事前 指使いを入手して譜読みを始める 事後 指摘された箇所を中心に反復練習 630分
第6回	基礎練習、エチュード (ボクサ50) ソロ曲②プロコフィエフ：プレリュード 奏法を中心に 事前 主にフィンガリング、奏法を中心に練習 事後 指摘された箇所を中心に反復練習 630分
第7回	基礎練習、エチュード (ボクサ50) ソロ曲②プロコフィエフ：プレリュード 音楽的な掘り下げ 事前 特にダイナミクス、音色、リズムに注意して練習 事後 指摘された箇所を中心に反復練習 630分
第8回	基礎練習、エチュード (ボクサ50) ソロ曲②プロコフィエフ：プレリュード 全体的な仕上げ 事前 音楽的な表現に注意しながらテンポでの演奏を目指す 事後 指摘された箇所を中心に反復練習 630分
第9回	基礎練習、エチュード (ボクサ50) ソロ曲③C.P.E.バッハ：ソナタ 譜読み 事前 指使いを入手して譜読みを始める 事後 指摘された箇所を中心に反復練習 630分
第10回	基礎練習、エチュード (ボクサ50) ソロ曲③C.P.E.バッハ：ソナタ 奏法を中心に 事前 主にフィンガリング、奏法を中心に練習 事後 指摘された箇所を中心に反復練習 630分
第11回	基礎練習、エチュード (ディズイ) ソロ曲③C.P.E.バッハ：ソナタ 音楽的な掘り下げ 事前 特にダイナミクス、音色、リズムに注意して練習 事後 指摘された箇所を中心に反復練習 630分
第12回	基礎練習、エチュード (ディズイ) ソロ曲③C.P.E.バッハ：ソナタ 全体的な仕上げ 事前 音楽的な表現に注意しながらテンポでの演奏を目指す 事後 指摘された箇所を中心に反復練習 630分
第13回	基礎練習、エチュード (ディズイ) ソロ曲④フォーレ：アムブロムブチュ 譜読み 事前 指使いを入手して譜読みを始める 事後 指摘された箇所を中心に反復練習 630分
第14回	基礎練習、エチュード (ディズイ) ソロ曲④フォーレ：アムブロムブチュ 奏法を中心に 事前 主にフィンガリング、奏法を中心に練習 事後 指摘された箇所を中心に反復練習 630分
第15回	基礎練習、エチュード (ディズイ) ソロ曲④フォーレ：アムブロムブチュ 音楽的な掘り下げ 事前 特にダイナミクス、音色、リズムに注意して練習 事後 指摘された箇所を中心に反復練習 630分
第16回	基礎練習、エチュード (ディズイ) ソロ曲④フォーレ：アムブロムブチュ 全体的な仕上げ 事前 音楽的な表現に注意しながらテンポでの演奏を目指す 事後 指摘された箇所を中心に反復練習 630分
第17回	基礎練習、エチュード (ディズイ) ソロ曲⑤ビエルネ：コンチェルトシュトゥック 譜読み 事前 指使いを入手して譜読みを始める 事後 指摘された箇所を中心に反復練習 630分
第18回	基礎練習、エチュード (ディズイ) ソロ曲⑤ビエルネ：コンチェルトシュトゥック 奏法を中心に 事前 主にフィンガリング、奏法を中心に練習 事後 指摘された箇所を中心に反復練習 630分
第19回	基礎練習、エチュード (ディズイ) ソロ曲⑤ビエルネ：コンチェルトシュトゥック 音楽的な掘り下げ 事前 特にダイナミクス、音色、リズムに注意して練習 事後 指摘された箇所を中心に反復練習 630分
第20回	基礎練習、エチュード (ディズイ) ソロ曲⑤ビエルネ：コンチェルトシュトゥック 全体的な仕上げ 事前 音楽的な表現に注意しながらテンポでの演奏を目指す 事後 指摘された箇所を中心に反復練習 630分
第21回	卒業試験曲 音楽解釈、暗譜の確認 事前 音楽解釈、暗譜を中心に練習 事後 指摘された箇所を中心に反復練習 630分
第22回	卒業試験曲 全体の仕上げ 事前 総合的な練習 事後 指摘された箇所を中心に反復練習 630分
第23回	卒業試験曲 全体の流れを確認 事前 プログラム全体の練習 事後 指摘された箇所を中心に反復練習 630分
第24回	協奏曲の伴奏合わせ 事前 伴奏者とのリハーサル 事後 指摘された箇所を中心に反復練習 630分
第25回	卒業試験曲全体の通し練習、弾き合い 事前 プログラムを通しての練習 事後 指摘された箇所を中心に反復練習 630分
第26回	ホールでのリハーサル 事前 問題点を中心に練習 事後 指摘された箇所を中心に反復練習 630分
第27回	卒業後に演奏できるレパートリーの確立・4年間で学習したソロ曲の復習 事前 4年間に演奏したソロ曲をリストアップして整理する 事後 指摘された箇所を中心に反復練習 630分
第28回	卒業後に演奏できるレパートリーの確立・4年間で学習したソロ曲の仕上げ 事前 レパートリーの確立 事後 指摘された箇所を中心に反復練習 630分
第29回	卒業後に演奏できるレパートリーの確立・BGMとしても使えるレパートリー 事前 いつでも演奏できるレパートリーを確立すべく練習 事後 指摘された箇所を中心に反復練習 630分
第30回	まとめと復習、卒業後の計画 事前 将来の計画、新人演奏会へ向けての練習 事後 さらに努力 630分

フィードバック レッスン内でのコメント、実技試験終了後に口頭で講評する。

成績評価 実技試験に平常点(レッスン受講態度等)を加味して総合的に評価する。

テキスト 各人の演奏曲目の楽譜

オフィスアワー 1008室
月曜日 11:00～19:00 火曜日 13:00～19:00 金曜日 13:10～14:40

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力														意欲・経験・多様性		
知識・技能・理解			知識・技能の活用													
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲	
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	

(演) 専門実技 I-1 (管楽器)

管・打楽器部会主任 特任教授 三上明子

科目コード：IND101

対象コース／専門／学年：演奏家コース／管楽器専門／1 年次

形態：実技

単位数：4 単位

概要 奏法の基本を認識・確認し、体得する。奏法(原因)と表現(結果)の関わりを楽曲を通じて認識し、演奏に生かす訓練をする。

到達目標 ①良い姿勢・呼吸法を身に付ける ②正しい読譜力の確立 ③演奏技術の向上 ④多くのレパートリーをこなす の4点。
実際の楽曲に当たっては、様式感および形式を理解することを目標とする。なお、リードを使用する楽器については、リードの製作指導も行う。

授業計画	事前	事後	630 分
第1回 レッソンの目標と進め方	入学までの学修を確認し、学修計画案をたてる	学修計画を確認し、楽譜等今後必要な準備をする	630 分
第2回 基礎訓練的な練習①呼吸法	基礎訓練的な練習の準備をする	問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	630 分
第3回 基礎訓練的な練習②正しい構え方	引き続き、問題箇所の是正に取り組む	問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	630 分
第4回 曲①様式を中心に	曲①の譜読みと準備に取り組む	曲①の様式についてさらに理解する	630 分
第5回 曲①形式、和声を中心に	曲①形式、和声について予習する	曲①形式、和声についてさらに理解する	630 分
第6回 曲①奏法を中心に	曲①奏法の予習	曲①奏法の復習	630 分
第7回 曲①表現の掘り下げ	曲①表現に取り組む	曲①の表現をさらに身に付ける	630 分
第8回 曲①仕上げ	曲①仕上げを目指す	曲①全般に確認する	630 分
第9回 曲②様式を中心に	曲②の譜読みと準備に取り組む	曲②の様式についてさらに理解する	630 分
第10回 曲②形式、和声を中心に	曲②形式、和声について予習する	曲②形式、和声についてさらに理解する	630 分
第11回 曲②奏法を中心に	曲②奏法の予習	曲②奏法の復習	630 分
第12回 曲②表現の掘り下げ	曲②表現に取り組む	曲②の表現をさらに身に付ける	630 分
第13回 曲②仕上げ	曲②仕上げを目指す	曲②全般に確認する	630 分
第14回 演奏発表	曲①曲②をまとめて演奏できるよう準備する	問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	630 分
第15回 前期のまとめ	前期の問題点についてふりかえる	前期の問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	630 分

フィードバック 各教員から学生へのフィードバックは、必要に応じて常に行われる。

成績評価 実技試験に平常点(レッスン受講態度等)を加味して総合的に評価する。

テキスト 担当教員の指示による

オフィスアワー 授業後、教員の指示を受けること。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経歴・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>								

(演) 専門実技 I-2 (管楽器)

管・打楽器部会主任 特任教授 三上明子

科目コード: IND102

対象コース/専門/学年: 演奏家コース/管楽器専門/1 年次

形態: 実技

単位数: 4 単位

概要 より高度な楽曲を数多くこなして、演奏家にふさわしい表現力と実力を身に付ける。

到達目標 (演)専門実技 I-1(管楽器)の到達目標を継続し、さらに深い理解を得ると共に、より難易度の高い楽曲も演奏してゆく。

授業計画

Table with 3 columns: Lesson Number, Lesson Content, and Score. It lists 15 lessons from '後期レッスンの進め方の確認' to '一年のまとめ'.

フィードバック 各教員から学生へのフィードバックは、必要に応じて常に行われる。また、実技試験後には講評をする。

成績評価 実技試験に平常点(レッスン受講態度等)を加味して総合的に評価する。なお、実技試験に於いて C の評価を得た者は次年度演奏家コースに認定されない。実技試験に於いて 2 年連続 B- の評価を得た者は次年度演奏家コースに認定されない。(入試の成績が B- の者は 1 年次学年末専門実技試験の成績が担当教員の指示による)

テキスト

オフィスアワー 授業後、教員の指示を受けること。

備考

学位授与の方針との関連

Table showing the correlation between course learning outcomes and degree requirements. It includes columns for '知識・技能・理解', '知識・技能の活用', and '意欲・経験・多様性'.

(演) 専門実技Ⅱ-1 (管楽器)

管・打楽器部会主任 特任教授 三上明子

科目コード: IND201

対象コース/専門/学年: 器楽コース/管楽器専門/2 年次

形態: 実技	単位数: 4 単位
概要	奏法の基本を認識・確認し、体得する。奏法 (原因) 表現 (結果) の関わりを楽曲を通じて認識し、演奏に生かす訓練をする。

到達目標 ①良い姿勢・呼吸法を身に付ける ②正しい読譜力の確立 の2点。なお、リードを使用する楽器については、リードの製作指導も行う。

授業計画		
第1回	レッスンの目標と進め方	事前 前年度までの学修を確認し、学修計画案をたてる。 事後 学修計画を確認し、楽譜等今後必要な準備をする。 630 分
第2回	基礎訓練的な練習①呼吸法	事前 基礎訓練的な練習の準備をする 事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する 630 分
第3回	基礎訓練的な練習②正しい構え方	事前 引き続き、問題箇所の是正に取り組む 事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する 630 分
第4回	曲①様式を中心に	事前 曲①の譜読みと準備に取り組む 事後 曲①の様式についてさらに理解する 630 分
第5回	曲①形式、和声を中心に	事前 曲①形式、和声について予習する 事後 曲①形式、和声についてさらに理解する 630 分
第6回	曲①奏法を中心に	事前 曲①奏法の予習 事後 曲①奏法の復習 630 分
第7回	曲①表現の掘り下げ	事前 曲①表現に取り組む 事後 曲①の表現をさらに身に付ける 630 分
第8回	曲①仕上げ	事前 曲①仕上げを目指す 事後 曲①全般的に確認する 630 分
第9回	曲②様式を中心に	事前 曲②の譜読みと準備に取り組む 事後 曲②の様式についてさらに理解する 630 分
第10回	曲②形式、和声を中心に	事前 曲②形式、和声について予習する 事後 曲②形式、和声についてさらに理解する 630 分
第11回	曲②奏法を中心に	事前 曲②奏法の予習 事後 曲②奏法の復習 630 分
第12回	曲②表現の掘り下げ	事前 曲②表現に取り組む 事後 曲②の表現をさらに身に付ける 630 分
第13回	曲②仕上げ	事前 曲②仕上げを目指す 事後 曲②全般的に確認する 630 分
第14回	演奏発表	事前 曲①曲②をまとめて演奏できるよう準備する 事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する 630 分
第15回	前期のまとめ	事前 前期の問題点についてふりかえる 事後 前期の問題箇所を確認し、是正にむけて練習する 630 分

フィードバック 各教員から学生へのフィードバックは、必要に応じて常に行われる。また、実技試験後には講評をする。

成績評価 実技試験に平常点 (レッスン受講態度等) を加味して総合的に評価する。

テキスト 担当教員の指示による

オフィスアワー 授業後、教員の指示を受けること。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経歴・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>								

(演) 専門実技Ⅱ-2 (管楽器)

管・打楽器部会主任 特任教授 三上明子

科目コード: IND202

対象コース/専門/学年: 器楽コース/管楽器専門/2年次

形態: 実技

単位数: 4単位

概要 高度な楽曲を数多くこなして、演奏家にふさわしい表現力と実力を身に付ける。

到達目標 ①演奏技術の向上 ②多くのレパートリーをこなす の2点。実際の楽曲に当たっては、様式感および形式を理解することを目標とする。

授業計画

Table with 3 columns: Lesson Number, Lesson Content, and Score. It details 15 lessons from '後期レッスンの進め方の確認' to '一年のまとめ', including '事前' and '事後' activities and their respective scores (630分).

フィードバック 各教員から学生へのフィードバックは、必要に応じて常に行われる。また、実技試験後には講評をする。

成績評価 実技試験に平常点(レッスン受講態度等)を加味して総合的に評価する。なお、実技試験に於いてCの評価を得た者は次年度演奏家コースに認定されない。実技試験に於いて2年連続B-の評価を得た者は次年度演奏家コースに認定されない。なお、実技試験評価は複数教員による。

テキスト 担当教員の指示による

オフィスアワー 授業後、教員の指示を受けること。

備考

学位授与の方針との関連

Table mapping learning outcomes to degree requirements. Columns include '知識・技能・理解', '知識・技能の活用', and '意欲・経験・多様性'. Rows show specific skills like '音楽実技スキル' and '音楽基礎スキル' with checkboxes indicating their contribution to degree requirements.

(演) 専門実技Ⅲ (管楽器)

管・打楽器部会主任 特任教授 三上 明子

科目コード：IND301/IND302

対象コース/専門/学年：演奏家コース/管楽器専門/3 年次

形態：実技	単位数：8 単位
概要	奏法の基本を認識・確認し、体得する。奏法（原因）表現（結果）の関わりを楽曲を通じて認識し、演奏に生かす訓練をする。高度な楽曲を数多くこなして、演奏家にふさわしい表現力と実力を身に付ける。

到達目標 ①良い姿勢・呼吸法を身に付ける ②正しい読譜力の確立 ③演奏技術の向上 ④多くのレパートリーをこなす の4点。実際の楽曲に当たっては、様式感および形式を理解することを目標とする。なお、リードを使用する楽器については、リードの製作指導も行う。

授業計画		
第1回	レッスンの目標と進め方	事前 前年度までの学修を確認し、学修計画案をたてる。 事後 学修計画を確認し、楽譜等今後必要な準備をする。 630 分
第2回	基礎訓練的な練習①呼吸法	事前 基礎訓練的な練習の準備をする 事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する 630 分
第3回	基礎訓練的な練習②正しい構え方	事前 引き続き、問題個所の是正に取り組む 事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する 630 分
第4回	曲①様式を中心に	事前 曲①の譜読みと準備に取り組む 事後 曲①の様式についてさらに理解する 630 分
第5回	曲①形式、和声を中心に	事前 曲①形式、和声について予習する 事後 曲①形式、和声についてさらに理解する 630 分
第6回	曲①奏法を中心に	事前 曲①奏法の予習 事後 曲①奏法の復習 630 分
第7回	曲①表現の掘り下げ	事前 曲①表現に取り組む 事後 曲①の表現をさらに身に付ける 630 分
第8回	曲①仕上げ	事前 曲①仕上げを目指す 事後 曲①全般的に確認する 630 分
第9回	曲②様式を中心に	事前 曲②の譜読みと準備に取り組む 事後 曲②の様式についてさらに理解する 630 分
第10回	曲②形式、和声を中心に	事前 曲②形式、和声について予習する 事後 曲②形式、和声についてさらに理解する 630 分
第11回	曲②奏法を中心に	事前 曲②奏法の予習 事後 曲②奏法の復習 630 分
第12回	曲②表現の掘り下げ	事前 曲②表現に取り組む 事後 曲②の表現をさらに身に付ける 630 分
第13回	曲②仕上げ	事前 曲②仕上げを目指す 事後 曲②全般的に確認する 630 分
第14回	演奏発表	事前 曲①曲②をまとめて演奏できるよう準備する 事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する 630 分
第15回	前期のまとめ	事前 前期の問題点についてふりかえる 事後 前期の問題箇所を確認し、是正にむけて練習する 630 分
第16回	後期レッスンの進め方の確認	事前 後期の学修計画案をたてる。 事後 学修計画を確認し、楽譜等今後必要な準備をする 630 分
第17回	基礎訓練的な練習③アンブシュアについて	事前 基礎訓練的な練習の準備をする 事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する 630 分
第18回	基礎訓練的な練習④基礎奏法の総合	事前 引き続き、問題個所の是正に取り組む 事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する 630 分
第19回	曲③様式を中心に	事前 曲③の譜読みと準備に取り組む 事後 曲③の様式についてさらに理解する 630 分
第20回	曲③奏法・表現を中心に	事前 曲③の奏法・表現について予習する 事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する 630 分
第21回	学年末試験に向けての確認	事前 学年末試験の内容を理解する 事後 学年末試験の試験曲の楽譜を準備する 630 分
第22回	試験曲①様式を中心に	事前 試験曲①の譜読みと準備に取り組む 事後 試験曲①の様式についてさらに理解する 630 分
第23回	試験曲①奏法・表現を中心に	事前 試験曲①の奏法・表現について予習する 事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する 630 分
第24回	試験曲②様式を中心に	事前 試験曲②の譜読みと準備に取り組む 事後 試験曲②の様式についてさらに理解する 630 分
第25回	試験曲②奏法・表現を中心に	事前 試験曲②の奏法・表現について予習する 事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する 630 分
第26回	試験曲③様式を中心に	事前 試験曲③の譜読みと準備に取り組む 事後 試験曲③の様式についてさらに理解する 630 分
第27回	試験曲③奏法・表現を中心に	事前 試験曲③の奏法・表現について予習する 事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する 630 分
第28回	試験に向けての準備①	事前 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する 事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する 630 分
第29回	試験に向けての準備②仕上げ	事前 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する 事後 問題箇所を確の取り組みの問題点を確認する 630 分
第30回	一年のまとめ	事前 一年間の取り組みの問題点を確認する 事後 来年度についての課題に取り組む 630 分

フィードバック 各教員から学生へのフィードバックは、必要に応じて常に行われる。また、実技試験後には講評をする。

成績評価 実技試験に平常点（レッスン受講態度等）を加味して総合的に評価する。なお、実技試験に於いて C の評価を得た者は次年度演奏家コースに認定されない。実技試験に於いて 2 年連続 B- の評価を得た者は次年度演奏家コースに認定されない。なお、実技試験評価は複数教員による。

テキスト 担当教員の指示による。

オフィスアワー 授業後、教員の指示を受けること。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>								

(演) 専門実技Ⅳ (管楽器)

管・打楽器部会主任 特任教授 三上 明子

科目コード：IND403/IND404

対象コース/専門/学年：演奏家コース/管楽器専門/4 年次

形態：実技 単位数：8 単位

概要 奏法の基本を認識・確認し、体得する。奏法（原因）表現（結果）の関わりを楽曲を通じて認識し、演奏に生かす訓練をする。高度な楽曲を数多くこなして、演奏家にふさわしい表現力と実力を身に付ける。

到達目標 ①良い姿勢・呼吸法を身に付ける ②正しい読譜力の確立 ③演奏技術の向上 ④多くのレパートリーをこなす の4点。実際の楽曲に当たっては、様式感および形式を理解することを目標とする。なお、リードを使用する楽器については、リードの製作指導も行う。

授業計画 table with columns for lesson number, topic, and pre/post activities. Includes lessons 1 through 30 covering topics like breathing techniques, reading scores, and performance practice.

フィードバック 各教員から学生へのフィードバックは、必要に応じて常に行われる。また、実技試験後には講評をする。

成績評価 実技試験に平常点（レッスン受講態度等）を加味して総合的に評価する。なお、実技試験評価は複数教員による。

テキスト 担当教員の指示による。

オフィスアワー 授業後、教員の指示を受けること。

備考

学位授与の方針との関連

Table showing the relationship between learning outcomes and degree requirements. Columns include knowledge/skills, application of knowledge/skills, and various competencies like communication and social responsibility.

(演) 専門実技 I-1 (打楽器)

客員教授 岡田全弘

科目コード：IND101

対象コース/専門/学年：演奏家コース/打楽器専門/1 年次

形態：実技

単位数：4 単位

概要 小太鼓による打楽器の基本奏法を再確認しながらマリンバのソロ曲も学ぶ。

到達目標 小太鼓において1つ打ちと2つ打ち、そしてロールが演奏できる。
マリンバにおいて音階が演奏でき、伴奏付きの作品が演奏できる。

授業計画 前期15回、各人120分の個人指導。
各人の進度に合わせて授業を進める。

第1回	小太鼓を使って基本奏法を確認する。1つ打ちと2つ打ちの違いについて。伴奏付きの課題曲を決める。	事前 学生各々が過去に学んだ小太鼓の課題を練習しておく。 事後 基本奏法を復習し、決めた課題曲の楽譜を購入する。	630分 630分
第2回	基本奏法を学ぶための練習曲を演奏する。決められた課題曲の譜読みをする。リズムにおいて拍の重さについて解説する。	事前 基本奏法の1つ打ちと2つ打ちを練習しておく。 事後 拍の重さを変えて実際にリズムを叩いてみる。	630分 630分
第3回	マリンバを使って音階を確認する。2本のマレットの動かし方を確認する。マリンバの伴奏付きの課題曲を決める。	事前 マリンバのマレットを用意しておく。 事後 決めた課題曲の楽譜を購入する。	630分 630分
第4回	音階を3連符のパターンで演奏する。ゆっくりした速さで確実に音板を鳴らす。伴奏付きの課題曲を譜読みする。	事前 音階は全調できるように練習する。 事後 メトロノームを使って復習する。	630分 630分
第5回	小太鼓を使っての基本奏法、ロールを解説する。練習曲と課題曲のリズムをどのように演奏すべきか解説する。	事前 2つ打ちとロールの関係を確認しながら練習しておく。 事後 ささまざまな表情のロールを研究しておく。	630分 630分
第6回	小太鼓の課題曲を伴奏者と演奏する。互いのどこを注意して聞くべきかを解説する。	事前 この回までに伴奏者と合わせておく。 事後 練習方法一通りではなく発展させておく。	630分 630分
第7回	マリンバを使って2本のマレットを駆使する練習曲を演奏する。マレットの動かし方を解説する。	事前 マリンバに慣れておく。音階練習とメトロノームを用いて練習曲を練習しておく。 事後 練習曲と課題曲をさらいこんでおく。	630分 630分
第8回	マリンバにおいてロールでメロディを弾く。ロールでの弾き方の解説。	事前 曲を暗譜できるように練習しておく。 事後 ロールの数や腕の移動について復習しておく。	630分 630分
第9回	小太鼓の基本奏法がすべて含まれた練習曲を演奏。拍の重さについて解説する。	事前 練習曲を練習しておく。 事後 各リズムの特徴と拍の重さを感じながら復習する。	630分 630分
第10回	小太鼓の基本奏法と同時に楽器の扱いやチューニングについて解説。	事前 自分の耳であらかじめ楽器を調整しておく。 事後 楽器の清掃と練習曲をさらう。	630分 630分
第11回	マリンバの練習曲、音階を演奏。	事前 マリンバの音階練習をしておく。 事後 反復練習。	630分 630分
第12回	フレーズやリズムの演奏法を解説。	事前 課題曲の作者や曲について調べておく。 事後 指摘された箇所を意識し練習しておく。	630分 630分
第13回	バランスを解説。学年末試験の選定について検討する。	事前 フレーズの取り方を確認しておく。 事後 基本奏法を確認しておく。	630分 630分
第14回	課題曲の技術的な部分を取り出して演奏。練習の仕方を解説。	事前 曲の構造を調べておく。 事後 できないところを練習方法を検討してさらしておく。	630分 630分
第15回	前期のまとめ	事前 演奏を録音して研究しておく。 事後 自分なりの課題をまとめておく。	630分 630分

フィードバック 授業内で解説したことについて学生が次回のレッスンまでにどのような練習方法を用意するのかを問いアドバイスを行う。

成績評価 実技試験に平常点(レッスン受講態度等)を加味して総合的に評価する。

テキスト (参照資料)
M.Goldenberg:Modernschool/A.Cirone:Portraits for Rhythm
M.Peters:Advanced Snare Drum Studies/J.Delecluse:Douze Etudes
N.Woud:The Timpani Challenge/N.Woud:Musical Studies for Pedal timpani
P.Creston:Concertino/W.Kraft:French Suite/F.Dupin:Courtes Piece Album
D.Milhaud:Concerto/北爪道夫：サイド・バイ・サイド

オフィスアワー 授業後教室にて

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>									

(演) 専門実技 I-2 (打楽器)

客員教授 岡田全弘

科目コード: IND102

対象コース/専門/学年: 演奏家コース/打楽器専門/1 年次

形態: 実技

単位数: 4 単位

概要 小太鼓による打楽器の基本奏法を再確認しながらマルチパーカッションの作品も学ぶ。

到達目標 小太鼓の様々な種類に応じた楽器の調整が自分で行える。
マルチパーカッション作品の楽譜作りとセッティングを自分で完成させることができる。

授業計画 後期 15 回、各人 120 分の個人指導。
各人の進度に合わせて授業を進める。

第 1 回	マリンバの課題曲を伴奏者と演奏。 伴奏者のどこに注意して演奏すべきか解説。	事前 課題曲を伴奏者と合わせておく。 事後 伴奏者との練習方法を考える。	630 分 630 分
第 2 回	マリンバの音階を復習し、短調も演奏する。 マレットの運び方を解説する。	事前 音階をメトロノームを使って練習しておく。 事後 打ち方と運び方に注意して練習する。	630 分 630 分
第 3 回	小太鼓のさまざまな種類があることを学ぶ。 楽器の調整について解説。	事前 厚みの違う小太鼓を用意し自分なりに調整しておく。 事後 最も効果的なチューニングを実施しておく。	630 分 630 分
第 4 回	小太鼓の基本奏法の 1 つ打ちを分解練習する。 具体的な楽譜を提示して解説する。	事前 基本奏法に立ち返り予習しておく。 事後 4 分音符が 8 0 で練習する。	630 分 630 分
第 5 回	マリンバの音階を演奏。 伴奏付きの課題曲を演奏。 バランスや表現を解説。	事前 メトロノームを使って音階を練習しておく。 事後 練習方法を発展させる。	630 分 630 分
第 6 回	学年末試験の曲を決める。	事前 手順など確認しておく。 事後 試験曲の楽譜を購入する。	630 分 630 分
第 7 回	マリンバの 4 本マレットを学ぶ。持ち方とコントロールの仕方について解説。	事前 マリンバの音階を練習しておく。 事後 4 本をアルペジオで練習しておく。	630 分 630 分
第 8 回	試験曲の譜読み。フレーズやリズムの演奏法を解説。	事前 後期試験曲の作曲者や曲について調べておく。 事後 伴奏者と合わせをしておく。	630 分 630 分
第 9 回	小太鼓の 1 つ打ち分解練習を演奏。 マリンバの音階、練習曲を演奏。	事前 基本奏法を再確認しておく。 事後 メトロノームを使って練習する。	630 分 630 分
第 10 回	小太鼓の 2 つ打ちとロールを演奏。 マリンバの音階、4 本マレットの練習曲を演奏。	事前 練習曲を復習する。 事後 基本奏法をよく練習しておく。	630 分 630 分
第 11 回	小太鼓の基本奏法を演奏。マリンバの基本奏法を演奏。	事前 小太鼓、マリンバの基本奏法を練習。 事後 基本奏法を確認し、試験曲を練習しておく。	630 分 630 分
第 12 回	楽器の清掃、扱い方を解説。 セッティングの仕方を解説。	事前 使う楽器を選び、セッティングを考える。 事後 試験曲の反復練習。	630 分 630 分
第 13 回	試験曲を伴奏者と演奏。 バランスを解説。	事前 フレーズの取り方を確認しておく。 事後 手順の確認。	630 分 630 分
第 14 回	試験曲の技術的な部分を取り出して演奏。 練習の仕方を解説。	事前 伴奏者と練習しておく。 事後 できないところを練習方法を検討してさらしておく。	630 分 630 分
第 15 回	試験曲の仕上げ。試験会場の響きを加味して演奏の仕方を検討する。	事前 演奏を録音して研究しておく。 事後 伴奏者と最終確認しておく。	630 分 630 分

フィードバック 授業内で解説したことについて学生が次回のレッスンまでにどのような練習方法を用意するのかを問いアドバイスを行う。

成績評価 実技試験に平常点(レッスン受講態度等)を加味して総合的に評価する。なお、実技試験に於いて C の評価を得た者は次年度演奏家コースに認定されない。実技試験に於いて 2 年連続 B- の評価を得た者は次年度演奏家コースに認定されない。(入試の成績が B- の者は 1 年次学年末専門実技試験の成績が B- であれば次年度演奏家コースに認定されない。)

テキスト (参照資料)
M.Goldenberg:Modernschool/A.Cirone:Portraits for Rhythm
M.Peters:Advanced Snare Drum Studies/J.Delecluse:Douze Etudes
N.Woud:The Timpani Challenge/N.Woud:Musical Studies for Pedal timpani
P.Creston:Concertino/W.Kraft:French Suite/F.Dupin:Courtes Piece Album
D.Milhaud:Concerto/北爪道夫:サイド・バイ・サイド

オフィスアワー 授業後教室にて

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・目的発働能力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>								

(演) 専門実技Ⅱ-1 (打楽器)

客員教授 岡田全弘

科目コード: IND201

対象コース/専門/学年: 演奏家コース/打楽器専門/2 年次

形態: 実技

単位数: 4 単位

概要 (演) 専門実技Ⅰを踏まえてマリンバの基本奏法を再確認しながらソロ作品を学ぶ。

到達目標 2本のマレットを操る際の軌跡と腕の使い方の関係を会得する。同時に4本マレットの扱い方との違いを会得する。

授業計画 前期15回、各人120分の個人指導。各人の進度に合わせて授業を進める。

Table with 3 columns: Lesson Number, Content, and Score. It lists 15 lessons covering topics like Marimba rhythm, snare drum techniques, and marimba exercises with associated scores.

フィードバック 授業内で解説した内容について学生が次回のレッスンまでにどのような練習をするべきか問いただす。

成績評価 実技試験に平常点(レッスン受講態度など)を加味して総合的に評価する。なお実技試験に於いてCの評価を得た者は次年度演奏家コースに認定されない。

- テキスト (参照資料) M.Goldenberg:Modernschool/A.Cirone:Portraits for Rhythm M.Peters:Advanced Snare Drum Studies/J.Delecluse:Douze Etudes N.Woud:The Timpani Challenge/N.Woud:Musical Studies for Pedal timpani P.Creston:Concertino/Michael Cals:Quatre Inventions/A.Jolivet:Concerto D.Milhaud:Concerto for Marimba and Vibraphone/北爪道夫:サイド・パイ・サイド

オフィスアワー 授業後教室にて

備考

学位授与の方針との関連

Table mapping learning outcomes to degree requirements. Columns include '知識・技能・理解', '知識・技能の活用', and '意欲・経験・多様性'. Checkmarks indicate which requirements are met.

(演) 専門実技Ⅱ-2 (打楽器)

客員教授 岡田全弘

科目コード: IND202

対象コース/専門/学年: 演奏家コース/打楽器専門/2 年次

形態: 実技

単位数: 4 単位

概要 (演) 専門実技Ⅰを踏まえて小太鼓による打楽器の基本奏法を再確認しながらマルチパーカッションの作品を学ぶ。

到達目標 異なる楽器を同時に演奏する場合の手の動きの違いを研究する。

授業計画 前期15回、各人120分の個人指導。各人の進度に合わせて授業を進める。

Table with 3 columns: Lesson Number, Lesson Content, and Score. It details 15 lessons covering topics like drumming techniques, multi-percussion repertoire, and practical application.

フィードバック 授業内で解説した内容について学生が次回のレッスンまでにどのような練習をするべきか問いアドバイスを行う。

成績評価 実技試験に平常点(レッスン受講態度など)を加味して総合的に評価する。なお、実技試験に於いてCの評価を得た者は次年度演奏家コースに認定されない。実技試験に於いて2年連続B-の評価を得た者は次年度演奏家コースに認定されない。(入試の成績がB-の者は1年次学年末専門実技試験の成績がB-であれば次年度演奏家コースに認定されない。)

テキスト (参照資料) M.Goldenberg:Modernschool/A.Cirone:Portraits for Rhythm M.Peters:Advanced Snare Drum Studies/J.Delecluse:Douze Etudes N.Woud:The Timpani Challenge/N.Woud:Musical Studies for Pedal timpani P.Creston:Concertino/Michael Cals:Quatre Inventions/A.Jolivet:Concerto D.Milhaud:Concerto for Marimba and Vibraphone/北爪道夫:サイド・パイ・サイド

オフィスアワー 授業後教室にて

備考

学位授与の方針との関連

Table showing the correlation between course learning outcomes and degree requirements. It includes columns for '知識・技能・理解', '知識・技能の活用', and '意欲・経験・多様性'.

(演) 専門実技Ⅲ (打楽器)

客員教授 岡田全弘

科目コード: IND301/IND302

対象コース/専門/学年: 演奏家コース/打楽器専門/3 年次

形態: 実技 単位数: 8 単位

概要 (演) 専門実技Ⅰ、Ⅱを踏まえて小太鼓とマリimbaによる打楽器の基本奏法を再確認しながら、ティンパニ、マルチパーカッションの作品を学ぶ。

到達目標 ティンパニはオーケストラやウィンドアンサンブルの中で演奏することを基本的に学ばなくてはならないが、ここではソロでどのように聴かせるのかを学ぶ。さまざまな鍵盤打楽器も扱い、楽器によって演奏のタッチを変えることを学ぶ。

授業計画 年間30回、各人120分の個人指導。各人の進度に合わせて授業を進める。

Table with 3 columns: Lesson Number, Lesson Content, and Pre/Post tasks. It lists 30 lessons covering basic techniques, practice pieces, and exam preparation for snare drum and timpani.

フィードバック 授業内で解説したことについて学生が次回のレッスンまでにどのような練習方法を用意するのかを問いアドバイスを行う。

成績評価 実技試験に平常点(レッスン受講態度等)を加味して総合的に評価する。なお、実技試験に於いて C の評価を得た者は次年度演奏家コースに認定されない。実技試験に於いて 2 年連続 B- の評価を得た者は次年度演奏家コースに認定されない。

テキスト (参照資料) M.Goldenberg:Modernschool/A.Cirone:Portraits for Rhythm M.Peters:Advanced Snare Drum Studies/J.Delecluse:Douze Etudes N.Woud:The Timpani Challenge/N.Woud:Musical Studies for Pedal timpani P.Creston:Concertino/Michael Cals:Quatre Inventions/A.Jolivet:Concerto D.Milhaud:Concerto for Marimba and Vibraphone/北爪道夫:サイド・バイ・サイド

オフィスアワー 授業後教室にて

備考

学位授与の方針との関連

Table showing the relationship between course learning outcomes and degree requirements. It includes columns for knowledge/skills and various competencies like critical thinking and communication.

(演) 専門実技Ⅳ (打楽器)

客員教授 岡田全弘

科目コード: IND403/IND404

対象コース/専門/学年: 演奏家コース/打楽器専門/4 年次

形態: 実技 単位数: 8 単位

概要 (演) 専門実技Ⅰ～Ⅲを踏まえて小太鼓とマリimbaによる打楽器の基本奏法を再確認しながら、あらゆる打楽器を扱った作品やソロ曲を研究する。

到達目標 常に打楽器の基本奏法に立ち返りながら学ぶ。1 曲だけではなくソロを何曲か続けて演奏する場合の注意点を知る。プログラムの構成について演奏以外の必要不可欠な事項について学ぶ。

授業計画 年間30回、各人120分の個人指導。各人の進度に合わせて授業を進める。

Table with 3 columns: Lesson Number, Lesson Content, and Score. Contains 30 rows of lesson details.

フィードバック 授業内で解説したことについて学生が次回のレッスンまでにどのような練習方法を用意するのかを問いアドバイスを行う。

成績評価 実技試験に平常点(レッスン受講態度等)を加味して総合的に評価する。

テキスト (参照資料) M.Goldenberg:Modernschool/A.Cirone:Portraits for Rhythm M.Peters:Advanced Snare Drum Studies/J.Delecluse:Douze Etudes N.Woud:The Timpani Challenge/N.Woud:Musical Studies for Pedal timpani A.Koppel:Concerto for Marimba/W.Thaerichen:Konzert fuer Pauken Michael Cals:Quatre Inventions/A.Jolivet:Concerto D.Milhaud:Concerto for Marimba and Vibraphone/F.Dupin:Myriades

オフィスアワー 授業後教室にて

備考

学位授与の方針との関連

Table showing the relationship between course objectives and degree requirements. Columns include '知識・技能・理解', '知識・技能の活用', and '意欲・経験・多様性'.

(演) 専門実技 I-1 (オルガン・古楽)

教授 小林英之

科目コード: IND101

対象コース/専門/学年: 演奏家コース/オルガン、チェンバロ、ヴィオラ・ダ・ガンバ、リュート、リコーダー専門/1 年次

形態: 実技

単位数: 4 単位

概要 履修する作品の演奏を通して、演奏技術を学ぶ。

到達目標 各学生の能力、進度に応じ、演奏家コース規定による演奏会用プログラムを設定し、読譜力、楽曲解釈、演奏技術を習得する。(この授業計画は目標であって、課題の難易度や取り組みの進捗状況に応じ、個々の課題に取り組む時間に増減があるものとする。)

授業計画 前期 15 回、各人 120 分の個人指導。

第 1 回	ガイダンス。今年度の目標を立て、それに応じた演奏会用プログラムの設定。	事前 既習曲の一覧を用意する。 事後 楽譜を揃える。一種類の現代譜のみならず、オリジナルに近いものも可能な限り手に入れる。	330 分 330 分
第 2 回	作成した演奏会用プログラムの前半の準備 1 (技術的な課題)	事前 作品の構造を理解し、練習に役立てる。 事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。	330 分 330 分
第 3 回	作成した演奏会用プログラムの前半の準備 2 (より高度な技術的課題)	事前 うまくいかないところの奏法 (指使い等) を変えてみる。 事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。	330 分 330 分
第 4 回	作成した演奏会用プログラムの前半の準備 3 (表現力)	事前 該当作品の生まれた背景を調べる (時代) 事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。	330 分 330 分
第 5 回	作成した演奏会用プログラムの前半の準備 4 (より高度な表現力を目指す)	事前 該当作品の生まれた背景を調べる (作曲家) 事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。	330 分 330 分
第 6 回	作成した演奏会用プログラムの前半の準備 5 (総合)	事前 全体の起承転結を考える。 事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。	330 分 330 分
第 7 回	作成した演奏会用プログラムの前半を通して演奏する。	事前 緊張したときの自分を想定する。 事後 演奏の結果を基に、今後の練習法を含む演奏への取り組み方を考える。	330 分 330 分
第 8 回	作成した演奏会用プログラムの前半の仕上げ 1 (技術的な課題)	事前 習熟し、滞りなく弾けるようにする。 事後 レッソンの結果を反映できるよう練習を積む。	330 分 330 分
第 9 回	作成した演奏会用プログラムの前半の仕上げ 2 (より高度な技術的課題)	事前 習熟し、滞りなく弾けるようにする。 事後 レッソンの結果を反映できるよう練習を積む。	330 分 330 分
第 10 回	作成した演奏会用プログラムの前半の仕上げ 3 (表現力)	事前 習熟し、滞りなく弾けるようにする。 事後 レッソンの結果を反映できるよう練習を積む。	330 分 330 分
第 11 回	作成した演奏会用プログラムの前半の仕上げ 4 (より高度な表現力を目指す)	事前 習熟し、滞りなく弾けるようにする。 事後 レッソンの結果を反映できるよう練習を積む。	330 分 330 分
第 12 回	作成した演奏会用プログラムの前半の仕上げ 5 (総合)	事前 習熟し、滞りなく弾けるようにする。 事後 レッソンの結果を反映できるよう練習を積む。	330 分 330 分
第 13 回	作成した演奏会用プログラムの前半を演奏会形式で演奏する 1 (より高度な技術的課題)	事前 習熟し、滞りなく弾けるようにし、録音の準備をする。 事後 録音したものを参考に改善点を見つけ、その結果を反映できるよう練習を積む。	330 分 330 分
第 14 回	作成した演奏会用プログラムの前半を演奏会形式で演奏する 2 (より高度な表現力を目指す)	事前 習熟し、滞りなく弾けるようにする。 事後 前期で習得した作品を、いつでも演奏会で演奏できるような状態に保つ練習方法を考える。	330 分 330 分
第 15 回	第 14 回の結果を受けて、必要に応じ演奏会プログラムを見直す。	事前 習熟し、滞りなく弾けるようにする。 事後 楽譜を揃える。一種類の現代譜のみならず、オリジナルに近いものも可能な限り手に入れる。	330 分 330 分

フィードバック レッスン時間ごとの課題の達成度についてのコメントと、実技試験終了後の講評。

成績評価 実技試験に平常点 (レッスン受講態度等) を加味して総合的に評価する。

テキスト その都度指定し、市販されていないものについては入手方法を指導する。

オフィスアワー 各教員の出校日、各教員のレッスン室。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>								

(演) 専門実技 I-2 (オルガン・古楽)

教授 小林英之

科目コード：IND102

対象コース/専門/学年：演奏家コース/オルガン、チェンバロ、ヴィオラ・ダ・ガンバ、リュート、リコーダー専門/1 年次

形態：実技

単位数：4 単位

概要 履修する作品の演奏を通して、演奏技術を学ぶ。

到達目標 各学生の能力、進度に応じ、演奏家コース規定による演奏会用プログラムを設定し、読譜力、楽曲解釈、演奏技術を習得する。(この授業計画は目標であって、課題の難易度や取り組みの進捗状況に応じ、個々の課題に取り組む時間に増減があるものとする。)

授業計画 後期 15 回、各人 120 分の個人指導。

第 1 回	作成した演奏会用プログラムの後半の準備 1 (技術的な課題)	事前 作品の構造を理解し、練習に役立てる。 事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。	330 分 330 分
第 2 回	作成した演奏会用プログラムの後半の準備 2 (より高度な技術的課題)	事前 うまくいかないところの奏法(指使い等)を変えてみる。 事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。	330 分 330 分
第 3 回	作成した演奏会用プログラムの後半の準備 3 (表現力)	事前 該当作品の生まれた背景を調べる(時代) 事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。	330 分 330 分
第 4 回	作成した演奏会用プログラムの後半の準備 4 (より高度な表現力を目指す)	事前 該当作品の生まれた背景を調べる(作曲家) 事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。	330 分 330 分
第 5 回	作成した演奏会用プログラムの後半の準備 5 (総合)	事前 全体の起承転結を考える。 事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。	330 分 330 分
第 6 回	作成した演奏会用プログラムの後半を通して演奏する。	事前 緊張したときの自分を想定する。 事後 演奏の結果を基に、今後の練習法を含む演奏への取り組み方を考える。	330 分 330 分
第 7 回	作成した演奏会用プログラムの後半の仕上げ 1 (技術的な課題)	事前 習熟し、滞りなく弾けるようにする。 事後 レッソンの結果を反映できるよう練習を積む。	330 分 330 分
第 8 回	作成した演奏会用プログラムの後半の仕上げ 2 (より高度な技術的課題)	事前 習熟し、滞りなく弾けるようにする。 事後 レッソンの結果を反映できるよう練習を積む。	330 分 330 分
第 9 回	作成した演奏会用プログラムの後半の仕上げ 3 (表現力)	事前 習熟し、滞りなく弾けるようにする。 事後 レッソンの結果を反映できるよう練習を積む。	330 分 330 分
第 10 回	作成した演奏会用プログラムの後半の仕上げ 4 (より高度な表現力を目指す)	事前 習熟し、滞りなく弾けるようにする。 事後 レッソンの結果を反映できるよう練習を積む。	330 分 330 分
第 11 回	作成した演奏会用プログラムの後半の仕上げ 5 (総合)	事前 習熟し、滞りなく弾けるようにする。 事後 レッソンの結果を反映できるよう練習を積む。	330 分 330 分
第 12 回	作成した演奏会用プログラムの後半を演奏会形式で演奏する。	事前 習熟し、滞りなく弾けるようにし、録音の準備をする。 事後 録音したものを参考に改善点を見つけ、その結果を反映できるよう練習を積む。	330 分 330 分
第 13 回	作成した演奏会用プログラム全体を演奏会形式で演奏する 1 (より高度な技術的課題)	事前 全体の力配分を考える。 事後 録音したものを参考に改善点を見つけ、その結果を反映できるよう練習を積む。	330 分 330 分
第 14 回	作成した演奏会用プログラム全体を演奏会形式で演奏する 2 (より高度な表現力を目指す)	事前 習熟し、滞りなく弾けるようにする。 事後 再度録音したものを参考に改善点を見つけ、自分の理想に近づくよう練習を積む。	330 分 330 分
第 15 回	試験に臨む心構え	事前 習熟し、滞りなく弾けるようにする。 事後 楽器に触れている時間以外の使い方を考える。	330 分 330 分

フィードバック レッスン時間ごとの課題の達成度についてのコメントと、実技試験終了後の講評。

成績評価 実技試験に平常点(レッスン受講態度等)を加味して総合的に評価する。なお、実技試験に於いて C の評価を得た者は次年度演奏家コースに認定されない。実技試験に於いて 2 年連続 B- の評価を得た者は次年度演奏家コースに認定されない。(入試の成績が B- の者は 1 年次学年末専門実技試験の成績が B- であれば次年度演奏家コースに認定されない。)

テキスト その都度指定し、市販されていないものについては入手方法を指導する。

オフィスアワー 各教員の出校日、各教員のレッスン室。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発働能力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>								

(演) 専門実技Ⅱ-1 (オルガン・古楽)

教授 小林英之

科目コード: IND201

対象コース/専門/学年: 演奏家コース/オルガン、チェンバロ、ヴィオラ・ダ・ガンバ、リュート、リコーダー専門/2 年次

形態: 実技

単位数 4 単位

概要 履修する作品の演奏を通して、さらに高度な演奏技術を学ぶ。

到達目標 各学生の能力、進度に応じ、演奏家コース規定による演奏会用プログラムを設定し、読譜力、楽曲解釈、演奏技術を習得する。
(演) 専門実技Ⅰを踏まえ、異なる時代、様式の音楽を取り入れたプログラムを作成する。

授業計画 この授業計画は目標であって、課題の難易度や取り組みの進捗状況に応じ、個々の課題に取り組む時間に増減があるものとする。
前期 15 回、各人 120 分の個人指導。

第 1 回	ガイダンス。今期の目標を立て、それに定じた演奏会用プログラムの設定。	事前 既習曲の一覧を用意する。 事後 楽譜を揃える。一種類の現代譜のみならず、オリジナルに近いものも可能な限り手に入れる。	630 分 630 分
第 2 回	作成した演奏会用プログラムの準備 1 (技術的な課題)	事前 作品の構造を理解し、練習に役立てる。 事後 習熟し、滞りなく演奏できるようにする。	630 分 630 分
第 3 回	作成した演奏会用プログラムの準備 2 (より高度な技術的課題)	事前 うまくいかないところの奏法 (指使い等) を変えてみる。 事後 習熟し、滞りなく演奏できるようにする。	630 分 630 分
第 4 回	作成した演奏会用プログラムの準備 3 (表現力)	事前 該当作品の生まれた背景を調べる (時代) 事後 習熟し、滞りなく演奏できるようにする。	630 分 630 分
第 5 回	作成した演奏会用プログラムの準備 4 (より高度な表現力を目指す)	事前 該当作品の生まれた背景を調べる (作曲家) 事後 習熟し、滞りなく演奏できるようにする。	630 分 630 分
第 6 回	作成した演奏会用プログラムの準備 5 (総合)	事前 全体の起承転結を考える。 事後 習熟し、滞りなく演奏できるようにする。	630 分 630 分
第 7 回	作成した演奏会用プログラムを通して演奏する。	事前 緊張したときの自分を想定する。 事後 演奏の結果を基に、今後の練習法を含む演奏への取り組み方を考える。	630 分 630 分
第 8 回	作成した演奏会用プログラムの仕上げ 1 (技術的な課題)	事前 習熟し、滞りなく演奏できるようにする。 事後 レッソンの結果を反映できるよう練習を積む。	630 分 630 分
第 9 回	作成した演奏会用プログラムの仕上げ 2 (より高度な技術的課題)	事前 習熟し、滞りなく演奏できるようにする。 事後 レッソンの結果を反映できるよう練習を積む。	630 分 630 分
第 10 回	作成した演奏会用プログラムの仕上げ 3 (表現力)	事前 習熟し、滞りなく演奏できるようにする。 事後 レッソンの結果を反映できるよう練習を積む。	630 分 630 分
第 11 回	作成した演奏会用プログラムの仕上げ 4 (より高度な表現力を目指す)	事前 習熟し、滞りなく演奏できるようにする。 事後 レッソンの結果を反映できるよう練習を積む。	630 分 630 分
第 12 回	作成した演奏会用プログラムの仕上げ 5 (総合)	事前 習熟し、滞りなく演奏できるようにする。 事後 レッソンの結果を反映できるよう練習を積む。	630 分 630 分
第 13 回	作成した演奏会用プログラムを演奏会形式で演奏する 1 (技術的な課題)	事前 習熟し、滞りなく演奏できるようにし、録音の準備をする。 事後 録音したものを参考に改善点を見つけ、その結果を反映できるよう練習を積む。	630 分 630 分
第 14 回	作成した演奏会用プログラムを演奏会形式で演奏する 2 (表現力)	事前 習熟し、滞りなく演奏できるようにする。 事後 前期で習得した作品を、いつでも演奏会で演奏できるように状態に保つ練習方法を考える。	630 分 630 分
第 15 回	第 14 回の結果を受けて、必要に応じ演奏会用プログラムを見直す。	事前 習熟し、滞りなく演奏できるようにする。 事後 楽譜を揃える。一種類の現代譜のみならず、オリジナルに近いものも可能な限り手に入れる。	630 分 630 分

フィードバック レッスン時間ごとの課題の達成度についてのコメントと、実技試験終了後の講評。

成績評価 実技試験に平常点 (レッスン受講態度等) を加味して総合的に評価する。なお、実技試験に於いて C の評価を得た者は次年度演奏家コースに認定されない。実技試験に於いて 2 年連続 B- の評価を得た者は次年度演奏家コースに認定されない。

テキスト その都度指定し、市販されていないものについては入手方法を指導する。

オフィスアワー 各教員の出校日、各教員のレッスン室。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>								

(演) 専門実技Ⅱ-2 (オルガン・古楽)

教授 小林英之

科目コード: IND202

対象コース/専門/学年: 演奏家コース/オルガン、チェンバロ、ヴィオラ・ダ・ガンバ、リュート、リコーダー専門/2 年次

形態: 実技

単位数 4 単位

概要 履修する作品の演奏を通して、さらに高度な演奏技術を学ぶ。

到達目標 各学生の能力、進度に応じ、演奏家コース規定による演奏会用プログラムを設定し、読譜力、楽曲解釈、演奏技術を習得する。
(演) 専門実技 II-1 を踏まえ、異なる時代、様式の音楽を取り入れたプログラムを作成する。

授業計画 この授業計画は目標であって、課題の難易度や取り組みの進捗状況に応じ、個々の課題に取り組む時間に増減があるものとする。
後期 15 回、各人 120 分の個人指導。

第 1 回	ガイダンス。今期の目標を立て、それに定じた演奏会用プログラムの設定。	事前 既習曲の一覧を用意する。 事後 楽譜を揃える。一種類の現代譜のみならず、オリジナルに近いものも可能な限り手に入れる。	630 分 630 分
第 2 回	作成した演奏会用プログラムの準備 1 (技術的な課題)	事前 作品の構造を理解し、練習に役立てる。 事後 習熟し、滞りなく演奏できるようにする。	630 分 630 分
第 3 回	作成した演奏会用プログラムの準備 2 (より高度な技術的課題)	事前 うまくいかないところの奏法 (指使い等) を変えてみる。 事後 習熟し、滞りなく演奏できるようにする。	630 分 630 分
第 4 回	作成した演奏会用プログラムの準備 3 (表現力)	事前 該当作品の生まれた背景を調べる (時代) 事後 習熟し、滞りなく演奏できるようにする。	630 分 630 分
第 5 回	作成した演奏会用プログラムの準備 4 (より高度な表現力を目指す)	事前 該当作品の生まれた背景を調べる (作曲家) 事後 習熟し、滞りなく演奏できるようにする。	630 分 630 分
第 6 回	作成した演奏会用プログラムの準備 5 (総合)	事前 全体の起承転結を考える。 事後 習熟し、滞りなく演奏できるようにする。	630 分 630 分
第 7 回	作成した演奏会用プログラムを通して演奏する。	事前 緊張したときの自分を想定する。 事後 演奏の結果を基に、今後の練習法を含む演奏への取り組み方を考える。	630 分 630 分
第 8 回	作成した演奏会用プログラムの仕上げ 1 (技術的な課題)	事前 習熟し、滞りなく演奏できるようにする。 事後 レッソンの結果を反映できるよう練習を積む。	630 分 630 分
第 9 回	作成した演奏会用プログラムの仕上げ 2 (より高度な技術的課題)	事前 習熟し、滞りなく演奏できるようにする。 事後 レッソンの結果を反映できるよう練習を積む。	630 分 630 分
第 10 回	作成した演奏会用プログラムの仕上げ 3 (表現力)	事前 習熟し、滞りなく演奏できるようにする。 事後 レッソンの結果を反映できるよう練習を積む。	630 分 630 分
第 11 回	作成した演奏会用プログラムの仕上げ 4 (より高度な表現力を目指す)	事前 習熟し、滞りなく演奏できるようにする。 事後 レッソンの結果を反映できるよう練習を積む。	630 分 630 分
第 12 回	作成した演奏会用プログラムの仕上げ 5 (総合)	事前 習熟し、滞りなく演奏できるようにする。 事後 レッソンの結果を反映できるよう練習を積む。	630 分 630 分
第 13 回	作成した演奏会用プログラムを演奏会形式で演奏する 1 (技術的な課題)	事前 習熟し、滞りなく演奏できるようにし、録音の準備をする。 事後 録音したものを参考に改善点を見つけ、その結果を反映できるよう練習を積む。	630 分 630 分
第 14 回	作成した演奏会用プログラムを演奏会形式で演奏する 2 (表現力)	事前 習熟し、滞りなく演奏できるようにする。 事後 前期で習得した作品を、いつでも演奏会で演奏できるように状態に保つ練習方法を考える。	630 分 630 分
第 15 回	第 14 回の結果を受けて、必要に応じ演奏会用プログラムを見直す。	事前 習熟し、滞りなく演奏できるようにする。 事後 楽譜を揃える。一種類の現代譜のみならず、オリジナルに近いものも可能な限り手に入れる。	630 分 630 分

フィードバック レッスン時間ごとの課題の達成度についてのコメントと、実技試験終了後の講評。

成績評価 実技試験に平常点 (レッスン受講態度等) を加味して総合的に評価する。なお、実技試験に於いて C の評価を得た者は次年度演奏家コースに認定されない。実技試験に於いて 2 年連続 B- の評価を得た者は次年度演奏家コースに認定されない。

テキスト その都度指定し、市販されていないものについては入手方法を指導する。

オフィスアワー 各教員の出校日、各教員のレッスン室。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>								

(演) 専門実技Ⅲ (オルガン・古楽)

教授 小林英之

科目コード: IND301/IND302

対象コース/専門/学年: 演奏家コース/オルガン、チェンバロ、ヴィオラ・ダ・ガンバ、リュート、リコーダー専門/3 年次

形態: 実技 単位数: 8 単位

概要 履修する作品の演奏を通して、演奏技術と表現の関連を学ぶ。

到達目標 各学生の能力、進度に応じ、演奏家コース規定による演奏会用プログラムを設定し、読譜力、楽曲解釈、演奏技術を習得する。
(演) 専門実技 I、II で学んだ作品より、さらに高度な技術、音楽性を要するプログラムを作成する。(この授業計画は目標であって、課題の難易度や取り組みの進捗状況に応じ、個々の課題に取り組む時間に増減があるものとする。)

授業計画 年間 30 回、各人 120 分の個人指導。

第 1 回	ガイダンス。今年度の目標を立て、それに応じた演奏会用プログラムの設定。	事前 既習曲の一覧を用意する。 事後 楽譜を揃える。一種類の現代譜のみならず、オリジナルに近いものも可能な限り手に入れる。	330 分 330 分
第 2 回	作成した演奏会用プログラムの前半の準備 1 (技術的な課題)	事前 作品の構造を理解し、練習に役立てる。 事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。	330 分 330 分
第 3 回	作成した演奏会用プログラムの前半の準備 2 (より高度な技術的課題)	事前 うまくいかないところの奏法 (指使い等) を変えてみる。 事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。	330 分 330 分
第 4 回	作成した演奏会用プログラムの前半の準備 3 (表現力)	事前 該当作品の生まれた背景を調べる (時代) 事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。	330 分 330 分
第 5 回	作成した演奏会用プログラムの前半の準備 4 (より高度な表現力を目指す)	事前 該当作品の生まれた背景を調べる (作曲家) 事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。	330 分 330 分
第 6 回	作成した演奏会用プログラムの前半の準備 5 (総合)	事前 全体の起承転結を考える。 事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。	330 分 330 分
第 7 回	作成した演奏会用プログラムの前半を通して演奏する。	事前 緊張したときの自分を想定する。 事後 演奏の結果を基に、今後の練習法を含む演奏への取り組み方を考える。	330 分 330 分
第 8 回	作成した演奏会用プログラムの前半の仕上げ 1 (技術的な課題)	事前 習熟し、滞りなく弾けるようにする。 事後 レッソンの結果を反映できるよう練習を積む。	330 分 330 分
第 9 回	作成した演奏会用プログラムの前半の仕上げ 2 (より高度な技術的課題)	事前 習熟し、滞りなく弾けるようにする。 事後 レッソンの結果を反映できるよう練習を積む。	330 分 330 分
第 10 回	作成した演奏会用プログラムの前半の仕上げ 3 (表現力)	事前 習熟し、滞りなく弾けるようにする。 事後 レッソンの結果を反映できるよう練習を積む。	330 分 330 分
第 11 回	作成した演奏会用プログラムの前半の仕上げ 4 (より高度な表現力を目指す)	事前 習熟し、滞りなく弾けるようにする。 事後 レッソンの結果を反映できるよう練習を積む。	330 分 330 分
第 12 回	作成した演奏会用プログラムの前半の仕上げ 5 (総合)	事前 習熟し、滞りなく弾けるようにする。 事後 レッソンの結果を反映できるよう練習を積む。	330 分 330 分
第 13 回	作成した演奏会用プログラムの前半を演奏会形式で演奏する 1 (技術的な課題)	事前 習熟し、滞りなく弾けるようにし、録音の準備をする。 事後 録音したものを参考に改善点を見つけ、その結果を反映できるよう練習を積む。	330 分 330 分
第 14 回	作成した演奏会用プログラムの前半を演奏会形式で演奏する 2 (表現力)	事前 習熟し、滞りなく弾けるようにする。 事後 前期で習得した作品を、いつでも演奏会で演奏できるような状態に保つ練習方法を考える。	330 分 330 分
第 15 回	第 14 回の結果を受けて、必要に応じ演奏会プログラムを見直す。	事前 習熟し、滞りなく弾けるようにする。 事後 楽譜を揃える。一種類の現代譜のみならず、オリジナルに近いものも可能な限り手に入れる。	330 分 330 分
第 16 回	作成した演奏会用プログラムの後半の準備 1 (技術的な課題)	事前 作品の構造を理解し、練習に役立てる。 事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。	330 分 330 分
第 17 回	作成した演奏会用プログラムの後半の準備 2 (より高度な技術的課題)	事前 うまくいかないところの奏法 (指使い等) を変えてみる。 事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。	330 分 330 分
第 18 回	作成した演奏会用プログラムの後半の準備 3 (表現力)	事前 該当作品の生まれた背景を調べる (時代) 事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。	330 分 330 分
第 19 回	作成した演奏会用プログラムの後半の準備 4 (より高度な表現力を目指す)	事前 該当作品の生まれた背景を調べる (作曲家) 事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。	330 分 330 分
第 20 回	作成した演奏会用プログラムの後半の準備 5 (総合)	事前 全体の起承転結を考える。 事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。	330 分 330 分
第 21 回	作成した演奏会用プログラムの後半を通して演奏する。	事前 緊張したときの自分を想定する。 事後 演奏の結果を基に、今後の練習法を含む演奏への取り組み方を考える。	330 分 330 分
第 22 回	作成した演奏会用プログラムの後半の仕上げ 1 (技術的な課題)	事前 習熟し、滞りなく弾けるようにする。 事後 レッソンの結果を反映できるよう練習を積む。	330 分 330 分
第 23 回	作成した演奏会用プログラムの後半の仕上げ 2 (より高度な技術的課題)	事前 習熟し、滞りなく弾けるようにする。 事後 レッソンの結果を反映できるよう練習を積む。	330 分 330 分
第 24 回	作成した演奏会用プログラムの後半の仕上げ 3 (表現力)	事前 習熟し、滞りなく弾けるようにする。 事後 レッソンの結果を反映できるよう練習を積む。	330 分 330 分
第 25 回	作成した演奏会用プログラムの後半の仕上げ 4 (より高度な表現力を目指す)	事前 習熟し、滞りなく弾けるようにする。 事後 レッソンの結果を反映できるよう練習を積む。	330 分 330 分
第 26 回	作成した演奏会用プログラムの後半の仕上げ 5 (総合)	事前 習熟し、滞りなく弾けるようにする。 事後 レッソンの結果を反映できるよう練習を積む。	330 分 330 分
第 27 回	作成した演奏会用プログラムの後半を演奏会形式で演奏する。	事前 習熟し、滞りなく弾けるようにし、録音の準備をする。 事後 録音したものを参考に改善点を見つけ、その結果を反映できるよう練習を積む。	330 分 330 分
第 28 回	作成した演奏会用プログラム全体を演奏会形式で演奏する 1 (技術的な課題)	事前 全体の力配分を考える。 事後 録音したものを参考に改善点を見つけ、その結果を反映できるよう練習を積む。	330 分 330 分
第 29 回	作成した演奏会用プログラム全体を演奏会形式で演奏する 2 (表現力)	事前 習熟し、滞りなく弾けるようにする。 事後 再度録音したものを参考に改善点を見つけ、自分の理想に近づくよう練習を積む。	330 分 330 分
第 30 回	試験に臨む心構え	事前 習熟し、滞りなく弾けるようにする。 事後 楽器に触れている時間以外の使い方を考える。	330 分 330 分

フィードバック レッスン時間ごとの課題の達成度についてのコメントと、実技試験終了後の講評。

成績評価 実技試験に平常点 (レッスン受講態度等) を加味して総合的に評価する。なお、実技試験に於いて C の評価を得た者は次年度演奏家コースに認定されない。実技試験に於いて 2 年連続 B- の評価を得た者は次年度演奏家コースに認定されない。

テキスト その都度指定し、市販されていないものについては入手方法を指導する。

オフィスアワー 各教員の出校日、各教員のレッスン室。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解				知識・技能の活用						意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発能力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

(演) 専門実技Ⅳ (オルガン・古楽)

教授 小林英之

科目コード：IND403/IND404

対象コース/専門/学年：演奏家コース/古楽オルガン、チェンバロ、ヴィオラ・ダ・ガンバ、リュート、リコーダー専門/4年次

形態：実技

単位数：8単位

概要 履修する作品の演奏を通して、演奏技術と表現の関連を学ぶ。

到達目標 各学生の能力、進度に応じ、演奏家コース規定による演奏会用プログラムを設定し、読譜力、楽曲解釈、演奏技術を習得する。
(演) 専門実技Ⅰ～Ⅲで学んだ作品より、さらに高度な演奏技術、音楽性を要する作品を軸に、一般聴衆にも魅力的な卒業試験プログラムを組む。(この授業計画は目標であって、課題の難易度や取り組みの進捗状況に応じ、個々の課題に取り組む時間に増減があるものとする。)

授業計画 年間 30 回、各人 120 分の個人指導。

第 1 回	ガイダンス。今年度の目標を立て、それに応じた卒業演奏会用プログラムの設定。	事前 既習曲の一覧を用意する。 事後 楽譜を揃える。一種類の現代譜のみならず、オリジナルに近いものも可能な限り手に入れる。	330 分 330 分
第 2 回	作成した演奏会用プログラムの前半の準備 1 (技術的な課題)	事前 作品の構造を理解し、練習に役立てる。 事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。	330 分 330 分
第 3 回	作成した演奏会用プログラムの前半の準備 2 (より高度な技術的課題)	事前 うまくいかないところの奏法 (指使い等) を変えてみる。 事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。	330 分 330 分
第 4 回	作成した演奏会用プログラムの前半の準備 3 (表現力)	事前 該当作品の生まれた背景を調べる (時代) 事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。	330 分 330 分
第 5 回	作成した演奏会用プログラムの前半の準備 4 (より高度な表現力を目指す)	事前 該当作品の生まれた背景を調べる (作曲家) 事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。	330 分 330 分
第 6 回	作成した演奏会用プログラムの前半の準備 5 (総合)	事前 全体の起承転結を考える。 事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。	330 分 330 分
第 7 回	作成した演奏会用プログラムの前半を通して演奏する。	事前 緊張したときの自分を想定する。 事後 演奏の結果を基に、今後の練習法を含む演奏への取り組み方を考える。	330 分 330 分
第 8 回	作成した演奏会用プログラムの前半の仕上げ 1 (技術的な課題)	事前 習熟し、滞りなく弾けるようにする。 事後 レッソンの結果を反映できるよう練習を積む。	330 分 330 分
第 9 回	作成した演奏会用プログラムの前半の仕上げ 2 (表現力)	事前 習熟し、滞りなく弾けるようにする。 事後 レッソンの結果を反映できるよう練習を積む。	330 分 330 分
第 10 回	作成した演奏会用プログラムの前半の仕上げ 3 (より高度な表現力を目指す)	事前 習熟し、滞りなく弾けるようにする。 事後 レッソンの結果を反映できるよう練習を積む。	330 分 330 分
第 11 回	作成した演奏会用プログラムの前半の仕上げ 4 (総合)	事前 習熟し、滞りなく弾けるようにする。 事後 レッソンの結果を反映できるよう練習を積む。	330 分 330 分
第 12 回	作成した演奏会用プログラムの前半を演奏会形式で演奏する 1 (技術的な課題)	事前 習熟し、滞りなく弾けるようにし、録音の準備をする。 事後 録音したものを参考に改善点を見つけ、その結果を反映できるよう練習を積む。	330 分 330 分
第 13 回	作成した演奏会用プログラムの前半を演奏会形式で演奏する 2 (表現力)	事前 習熟し、滞りなく弾けるようにする。 事後 前期で習得した作品を、いつでも演奏会で演奏できるような状態に保つ練習方法を考える。	330 分 330 分
第 14 回	第 13 回の結果を受けて、必要に応じ演奏会用プログラムを見直す。	事前 習熟し、滞りなく弾けるようにする。 事後 楽譜を揃える。一種類の現代譜のみならず、オリジナルに近いものも可能な限り手に入れる。	330 分 330 分
第 15 回	作成した演奏会用プログラムの後半の準備 1 (技術的な課題)	事前 作品の構造を理解し、練習に役立てる。 事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。	330 分 330 分
第 16 回	作成した演奏会用プログラムの後半の準備 2 (表現力)	事前 うまくいかないところの奏法 (指使い等) を変えてみる。 事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。	330 分 330 分
第 17 回	作成した演奏会用プログラムの後半の準備 3 (より高度な表現力を目指す)	事前 該当作品の生まれた背景を調べる (時代、作曲家) 事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。	330 分 330 分
第 18 回	作成した演奏会用プログラムの後半の準備 4 (総合)	事前 全体の起承転結を考える。 事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。	330 分 330 分
第 19 回	作成した演奏会用プログラムの後半を通して演奏する。	事前 緊張したときの自分を想定する。 事後 演奏の結果を基に、今後の練習法を含む演奏への取り組み方を考える。	330 分 330 分
第 20 回	作成した演奏会用プログラムの後半の仕上げ 1 (技術的な課題)	事前 習熟し、滞りなく弾けるようにする。 事後 レッソンの結果を反映できるよう練習を積む。	330 分 330 分
第 21 回	作成した演奏会用プログラムの後半の仕上げ 2 (表現力)	事前 習熟し、滞りなく弾けるようにする。 事後 レッソンの結果を反映できるよう練習を積む。	330 分 330 分
第 22 回	作成した演奏会用プログラムの後半の仕上げ 3 (より高度な表現力を目指す)	事前 習熟し、滞りなく弾けるようにする。 事後 レッソンの結果を反映できるよう練習を積む。	330 分 330 分
第 23 回	作成した演奏会用プログラムの後半の仕上げ 4	事前 習熟し、滞りなく弾けるようにする。 事後 レッソンの結果を反映できるよう練習を積む。	330 分 330 分
第 24 回	作成した演奏会用プログラムの後半を演奏会形式で演奏する。	事前 習熟し、滞りなく弾けるようにし、録音の準備をする。 事後 録音したものを参考に改善点を見つけ、その結果を反映できるよう練習を積む。	330 分 330 分
第 25 回	作成した演奏会用プログラム全体を演奏会形式で演奏する 1 (技術的な課題)	事前 全体の力配分を考える。 事後 録音したものを参考に改善点を見つけ、その結果を反映できるよう練習を積む。	330 分 330 分
第 26 回	作成した演奏会用プログラム全体を演奏会形式で演奏する 2 (表現力)	事前 習熟し、滞りなく弾けるようにする。 事後 再度録音したものを参考に改善点を見つけ、自分の理想に近づくよう練習を積む。	330 分 330 分
第 27 回	作成した演奏会用プログラム全体を演奏会形式で演奏する。試験に臨む心構え	事前 習熟し、滞りなく弾けるようにする。 事後 楽器に触れている時間以外の使い方を考える。	330 分 330 分
第 28 回	試験結果を踏まえ、今後の方向について	事前 興味のある作曲家、時代の作品一覧を作成。 事後 アドヴァイスをもとに、作品一覧から演奏会用プログラムを作成。	330 分 330 分
第 29 回	定期的なレッスンがなくなったときの練習方法について	事前 作成したプログラムをもとに練習方法、勉強方法を模索する。 事後 アドヴァイスをもとに計画を練り直す。	330 分 330 分
第 30 回	練習の時間計画の立て方	事前 練習計画の作成。 事後 演奏会用プログラムの完成。	330 分 330 分

フィードバック レッスン時間ごとの課題の達成度についてのコメントと、実技試験終了後の講評。

成績評価 実技試験に平常点 (レッスン受講態度等) を加味して総合的に評価する。なお、実技試験に於いて C の評価を得た者は次年度演奏家コースに認定されない。実技試験に於いて 2 年連続 B- の評価を得た者は次年度演奏家コースに認定されない。

テキスト その都度指定し、市販されていないものについては入手方法を指導する。

オフィスアワー 各教員の出校日、各教員のレッスン室。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発働力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				

(演) 専門実技 I-1 (声楽)

声楽コース部会主任 教授 吉田伸昭

科目コード: IND101

対象コース/専門/学年: 演奏家コース/声楽専門/1 年次

形態: 実技

単位数: 4 単位

概要 個人レッスンの形態で声楽の技術、音楽を学ぶ
課題に対しての事前、事後の各自の学習が重要となる

到達目標 ① 声楽的発声を深く研究し習得する。
② 個々の進捗にあった題材で、演奏技術、表現力のさらなる向上を目指す

授業計画 前期 15 回×複数教員(2 名分)で計 30 回、週 120 分の個人指導。
実技演習においては、個々の学生の声の特性を見極め、それぞれの特性に即した題材を注意深く選択してレッスンをする。
なお、あくまでも学生各自の学習の進捗や特性を踏まえつつ、複数の担当教員が話し合いながら、最適な指導プログラムを随時適用する。

Table with 4 columns: Lesson Number, Content, Pre/Post Lesson Description, and Score. Contains 15 rows of lesson details.

フィードバック 試験後に個人面談の形で前期を振り返り、成果や次へ課題を話し合う

成績評価 演奏試験、評価は複数の審査員の採点による

テキスト 曲目は個々の状況に合わせて、適宜選択する

オフィスアワー 各教員の出校日、各教員のレッスン室

備考

学位授与の方針との関連

Table mapping learning outcomes to degree requirements. Columns include Knowledge/Skills/Understanding, Knowledge/Skills/Ability, and Intent/Experience/Diversity.

(演) 専門実技 I-2 (声楽)

声楽コース部会主任 教授 吉田伸昭

科目コード：IND102

対象コース/専門/学年：演奏家コース/声楽専門/1年次

形態：実技

単位数：4単位

概要 個人レッスンの形態で声楽の技術、音楽を学ぶ
課題に対しての事前、事後の各自の学習が重要となる

到達目標 ① 声楽的発声を深く研究し習得する。
② 個々の進捗にあった題材で、演奏技術、表現力のさらなる向上を目指す。
③ 個々の楽曲につき演奏の完成度を常に求め高める。

授業計画 年間 15 回×複数教員(2名分)で年間 30 回。週 120 分の個人指導。
実技演習においては、個々の学生の声の特性を見極め、それぞれの特性に即した題材を注意深く選択してレッスンをする。
なお、あくまでも学生各自の学習の進捗や特性を踏まえつつ、複数の担当教員が話し合いながら、最適な指導プログラムを随時適用する。

第1回	前期成果の確認と後期の学習計画を立てる	事前 前期の学修を確認し学習計画を練る 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	630分 630分
第2回	エチュード・歌曲 問題点の認識と解決	事前 次回のレッスン予定のエチュード、歌曲の練習を重ねる 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	630分 630分
第3回	異なる時代、異なる言語による作品の比較研究① (以下2年次生はドイツ歌曲、3年次生は日本歌曲を含む)	事前 次回のレッスン予定の楽曲の練習を重ねる 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	630分 630分
第4回	異なる時代、異なる言語による作品の比較研究② (オペラにおける声の 카테고리 確認を含む)	事前 自分の声に合うオペラのレパートリーを考える 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	630分 630分
第5回	アリア、あるいは歌曲 楽譜を読み込む① 言語、和声感、様式感を中心に	事前 次回のレッスン予定のアリア、あるいは歌曲の練習を重ねる (言葉の意味を調べる) 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	630分 630分
第6回	アリア、あるいは歌曲 楽譜を読み込む② 表現の発展	事前 次回のレッスン予定のアリア、あるいは歌曲の練習を重ねる 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	630分 630分
第7回	各々の声の 카테고리 を踏まえ、複数の課題楽曲を選択する	事前 次回のレッスン予定のアリア、あるいは歌曲の練習を重ねる (言語のディクシオンに留意する) 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	630分 630分
第8回	選択した楽曲につき正確な読譜と詩の解釈を進める	事前 次回のレッスン予定のアリア、あるいは歌曲の練習を重ねる (言語のディクシオンに留意する) 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	630分 630分
第9回	上記に基づき演奏の深化をはかる	事前 次回のレッスン予定のアリア、あるいは歌曲の練習を重ねる (音楽的な表現に留意する) 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	630分 630分
第10回	問題点の認識と解決をはかる	事前 次回のレッスン予定のアリア、あるいは歌曲の練習を重ねる (音楽的な表現に留意する) 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	630分 630分
第11回	ピアノ伴奏を伴い楽曲の研究を深める	事前 事前にピアニストと伴奏合わせをする 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	630分 630分
第12回	暗譜を確かなものとする	事前 伴奏合わせを重ねる 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	630分 630分
第13回	暗譜の上、楽曲の演奏内容を深める	事前 伴奏合わせを重ねる 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	630分 630分
第14回	暗譜の上、演奏の完成度を高める	事前 伴奏合わせを重ね、暗譜の確認、表現の確立をはかる 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	630分 630分
第15回	後期のまとめ	事前 伴奏合わせを重ね、暗譜の確認、表現の確立をはかる 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	630分 630分

フィードバック 試験後に個人面談の形で後期を振り返り、成果や次年度への課題を話し合う

成績評価 演奏試験、評価は複数の審査員の採点による

テキスト 曲目は個々の状況に合わせて、適宜選択する

オフィスアワー 各教員の出校日、各教員のレッスン室

備考

学位授与の方針との関連

知識・技能・理解		知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

(演) 専門実技Ⅱ-1 (声楽)

声楽コース部会主任 教授 吉田伸昭

科目コード：IND201

対象コース/専門/学年：演奏家コース/声楽専門/2 年次

形態：実技

単位数：4 単位

概要 個人レッスンの形態で声楽の技術、音楽を学び、声楽家としてのレパートリーの拡大を目指す。課題に対しての事前、事後の各自の学習が重要となる。

到達目標 声楽的発声を深く研究し習得する。
個々の進捗にあった題材で、演奏技術、表現力のさらなる向上を目指す。
個々の楽曲につき演奏の完成度を常に求め高める。

授業計画		15 回×複数教員(2 名分)で 30 回。週 120 分の個人指導。 実技演習においては、個々の学生の声の特性を見極め、それぞれの特性に即した題材を注意深く選択してレッスンをする。 なお、あくまでも学生各自の学習の進捗や特性を踏まえつつ、複数の担当教員が話し合いながら、最適な指導プログラムを随時適用する。		
第 1 回	ガイダンス 各自の学習計画を立てる	事前	1 年次での学修を確認し学習計画を練る	630 分
		事後	学習計画を確認し、楽譜等の準備をする	630 分
第 2 回	エチュード・歌曲 発声の基礎練習① 呼吸法、発声法を中心に	事前	発声練習を重ね、次回のレッスン予定のエチュード、歌曲の譜読みをする	630 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	630 分
第 3 回	エチュード・歌曲 発声の基礎練習② 母音の純化、子音の明確化を中心に	事前	次回のレッスン予定のエチュード、歌曲の練習を重ねる	630 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	630 分
第 4 回	エチュード・歌曲 基礎的問題点の解決	事前	次回のレッスン予定のエチュード、歌曲の練習を重ねる	630 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	630 分
第 5 回	歌曲 楽譜を読み込む① 言語、和声感、様式感を中心に	事前	次回のレッスン予定の歌曲の練習を重ねる (言葉の意味を調べる)	630 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	630 分
第 6 回	歌曲 楽譜を読み込む② 表現の発展	事前	次回のレッスン予定の歌曲の練習を重ねる	630 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	630 分
第 7 回	声域・カテゴリーの確立 歌曲、オペラアリア	事前	次回のレッスン予定の歌曲の練習を重ねる	630 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	630 分
第 8 回	レパートリーの拡大 歌曲、オペラアリア	事前	次回のレッスン予定の楽曲の練習を重ねる (言語のディクショに留意する)	630 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	630 分
第 9 回	レパートリーの確立 歌曲、オペラアリア	事前	次回のレッスン予定の楽曲の練習を重ねる (言語のディクショに留意する)	630 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	630 分
第 10 回	選択した複数の楽曲につき正確な読譜と詩の解釈を進める	事前	次回のレッスン予定の楽曲の練習を重ねる (言語のディクショに留意する)	630 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	630 分
第 11 回	上記に基づき演奏の深化をはかる	事前	次回のレッスン予定の楽曲の練習を重ねる (音楽的な表現に留意する)	630 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	630 分
第 12 回	問題点の認識と解決をはかる	事前	次回のレッスン予定の楽曲の練習を重ねる (音楽的な表現に留意する)	630 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	630 分
第 13 回	ピアノ伴奏を伴い楽曲の研究を深める	事前	事前にピアニストと伴奏合わせをする	630 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	630 分
第 14 回	暗譜の上、表現の発展、演奏の質の向上をはかる	事前	伴奏合わせを重ねる	630 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	630 分
第 15 回	まとめ	事前	伴奏合わせを重ね、暗譜の確認、表現の確立をはかる	630 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	630 分

フィードバック 試験後に個人面談の形で振り返り、成果や次学年への課題を話し合う。

成績評価 演奏試験。評価は複数の審査員の採点による。

テキスト 曲目は個々の状況に合わせて、適宜選択する。

オフィスアワー 各教員の出校日、各教員のレッスン室

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

(演) 専門実技Ⅱ-2 (声楽)

声楽コース部会主任 教授 吉田伸昭

科目コード：IND202

対象コース/専門/学年：演奏家コース/声楽専門/2年次

形態：実技 単位数：4単位

概要 個人レッスンの形態で声楽の技術、音楽を学び、声楽家としてのレパートリーの拡大を目指す。
課題に対しての事前、事後の各自の学習が重要となる。

到達目標 声楽的発声を深く研究し習得する。
個々の進捗にあった題材で、演奏技術、表現力のさらなる向上を目指す。
個々の楽曲につき演奏の完成度を常に求め高める。
上記に加え、2年次後期はドイツ歌曲を含む題材をもって、演奏解釈、表現を習得する。

授業計画 15回×複数教員(2名分)で30回。週120分の個人指導。
実技演習においては、個々の学生の声の特性を見極め、それぞれの特性に即した題材を注意深く選択してレッスンをする。
なお、あくまでも学生各自の学習の進捗や特性を踏まえつつ、複数の担当教員が話し合いながら、最適な指導プログラムを随時適用する。

第1回	前期成果の確認と後期の学習計画を立てる	事前 前期の学修を確認し学習計画を練る 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	630分 630分
第2回	エチュード・歌曲 問題点の認識と解決	事前 次回のレッスン予定のエチュード、歌曲の練習を重ねる 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	630分 630分
第3回	異なる時代、異なる言語による作品の比較研究① (以下2年次生はドイツ歌曲、3年次生は日本歌曲を含む)	事前 次回のレッスン予定の楽曲の練習を重ねる 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	630分 630分
第4回	異なる時代、異なる言語による作品の比較研究② (オペラにおける声のカテゴリー確認を含む)	事前 自分の声に合うオペラのレパートリーを考える 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	630分 630分
第5回	アリア、あるいは歌曲 楽譜を読み込む① 言語、和声感、様式感を中心に	事前 次回のレッスン予定のアリア、あるいは歌曲の練習を重ねる (言葉の意味を調べる) 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	630分 630分
第6回	アリア、あるいは歌曲 楽譜を読み込む② 表現の発展	事前 次回のレッスン予定のアリア、あるいは歌曲の練習を重ねる 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	630分 630分
第7回	各々の声のカテゴリーを踏まえ、複数の課題楽曲を選択する	事前 次回のレッスン予定のアリア、あるいは歌曲の練習を重ねる (言語のディクッションに留意する) 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	630分 630分
第8回	選択した楽曲につき正確な読譜と詩の解釈を進める	事前 次回のレッスン予定のアリア、あるいは歌曲の練習を重ねる (言語のディクッションに留意する) 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	630分 630分
第9回	上記に基づき演奏の深化をはかる	事前 次回のレッスン予定のアリア、あるいは歌曲の練習を重ねる (音楽的な表現に留意する) 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	630分 630分
第10回	問題点の認識と解決をはかる	事前 次回のレッスン予定のアリア、あるいは歌曲の練習を重ねる (音楽的な表現に留意する) 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	630分 630分
第11回	ピアノ伴奏を伴い楽曲の研究を深める	事前 事前にピアニストと伴奏合わせをする 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	630分 630分
第12回	暗譜を確かなものとする	事前 伴奏合わせを重ねる 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	630分 630分
第13回	暗譜の上、楽曲の演奏内容を深める	事前 伴奏合わせを重ねる 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	630分 630分
第14回	暗譜の上、演奏の完成度を高める	事前 伴奏合わせを重ね、暗譜の確認、表現の確立をはかる 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	630分 630分
第15回	まとめ	事前 伴奏合わせを重ね、暗譜の確認、表現の確立をはかる 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	630分 630分

フィードバック 試験後に個人面談の形で振り返り、成果や次学年への課題を話し合う。

成績評価 演奏試験。評価は複数の審査員の採点による。

テキスト 曲目は個々の状況に合わせて、適宜選択する。

オフィスアワー 各教員の出校日、各教員のレッスン室

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

(演) 専門実技Ⅲ (声楽)

声楽コース部会主任 教授 吉田伸昭

科目コード: IND301/IND302

対象コース/専門/学年: 演奏家コース/声楽専門/3 年次

形態: 実技

単位数: 8 単位

概要 個人レッスンの形態で声楽の技術、音楽を学び、声楽家としてのレパートリーの拡大を目指す課題に対しての事前、事後の各自の学習が重要となる

- 到達目標 ① 声楽的発声を深く研究し習得する。
② 個々の進捗にあった題材で、演奏技術、表現力のさらなる向上を目指す。
③ 上記に加え、3 年次後期は日本歌曲を含む題材をもって、演奏解釈、表現を習得する。
④ 個々の楽曲につき演奏の完成度を常に求めさらに高める。

授業計画 table with columns: 回数, 内容, 事前, 事後, 単位数. Rows 1-30 detailing lesson topics like 'ガイダンス', 'エチュード・歌曲', '暗譜の上、表現の発展' and their respective pre/post activities and credit values.

フィードバック 試験後に個人面談の形で振り返り、成果や次学年への課題を話し合う

成績評価 演奏試験、評価は複数の審査員の採点による

テキスト 曲目は個々の状況に合わせて、適宜選択する。

オフィスアワー 各教員の出校日、各教員のレッスン室

備考

学位授与の方針との関連

Table showing the relationship between the course and degree requirements, with columns for '知識・技能・理解', '知識・技能の活用', and '意欲・経験・多様性'.

(演) 専門実技Ⅳ (声楽)

声楽コース部会主任 教授 吉田伸昭

科目コード: IND401/IND402

対象コース/専門/学年: 演奏家コース/声楽専門/4年次

形態: 実技

単位数 8単位

概要 個人レッスンの形態で声楽の技術、音楽を学び、声楽家としてのレパートリーの拡大を目指す課題に対しての事前、事後の各自の学習が重要となる

- 到達目標 ① 声楽的発声を深く研究し習得する。
② 個々の進捗にあった題材で、演奏技術、表現力のさらなる向上を目指す。
③ 個々の楽曲につき演奏の完成度を常に求め高める。

授業計画 table with columns: 回数, 内容, 事前, 事後, 単位数. Rows 1-30 detailing lesson topics like 'ガイダンス', 'エチュード・歌曲', '暗譜の上、表現の発展', etc.

フィードバック 試験後に個人面談の形で振り返り、成果や卒業後の音楽との関わり方等話し合う

成績評価 演奏試験、評価は複数の審査員の採点による

テキスト 曲目は個々の状況に合わせて、適宜選択する。

オフィスアワー 各教員の出校日、各教員のレッスン室

備考

学位授与の方針との関連

Table mapping learning outcomes to degree requirements. Columns include '知識・技能・理解', '知識・技能の活用', '意欲・経験・多様性'. Includes checkboxes for each category.

ピアノ・アンサンブル I

准教授 星子知美

科目コード：ENS101

対象コース/専門/学年：器楽・演奏家コース/ピアノ専門/1 年次

形態：演習

単位数：2 単位

概要 室内楽の最小単位である連弾を通して、他者と呼吸を合わせてひとつの音楽をつくり上げるプロセスと、古典からロマン派、近現代の作品に幅広く触れて、アンサンブルの基本を学ぶ。

到達目標 呼吸の合わせ方、バランスの取り方、合わせの練習方法や連弾のレパートリーを通して室内楽の楽しみを導き、連弾の演奏知識を身につける。アンサンブルの基本的な技術を養い、感性を磨くことを目標とする。

授業計画

【AL】

回数	内容	事前	事後	時間
第 1 回	ガイダンス 授業の進め方、連弾の練習のポイントについて	必要な楽譜を用意し、これまでの経験を含めて連弾とその作品について調べ学習する	担当する曲目の読譜を始める	135 分
第 2 回	ディアベルリ 小ソナタと軍隊ロンド 作品 150 より	読譜と練習、共演者と連弾の合わせをして準備する	指摘のあった箇所を直し、反復練習をして復習をする	135 分
第 3 回	モーツァルト 4 手のためのソナタ ニ長調 K. 381 (123a) 第 3 楽章	読譜と練習、共演者と連弾の合わせをして準備する	指摘のあった箇所を直し、反復練習をして復習をする	135 分
第 4 回	ベートーヴェン 行進曲 作品 45-1	読譜と練習、共演者と連弾の合わせをして準備する	指摘のあった箇所を直し、反復練習をして復習をする	135 分
第 5 回	シューベルト 軍隊行進曲 D733 第 1 番	読譜と練習、共演者と連弾の合わせをして準備する	指摘のあった箇所を直し、反復練習をして復習をする	135 分
第 6 回	ブラームス ハンガリー舞曲 第 5 番	読譜と練習、共演者と連弾の合わせをして準備する	指摘のあった箇所を直し、反復練習をして復習をする	135 分
第 7 回	ドヴォルザーク スラヴ舞曲 第 1 集 作品 46 第 7 番	読譜と練習、共演者と連弾の合わせをして準備する	指摘のあった箇所を直し、反復練習をして復習をする	135 分
第 8 回	ライネッケ ばら 作品 286 より	読譜と練習、共演者と連弾の合わせをして準備する	指摘のあった箇所を直し、反復練習をして復習をする	135 分
第 9 回	モシュコフスキー スペイン舞曲 第 1 番	読譜と練習、共演者と連弾の合わせをして準備する	指摘のあった箇所を直し、反復練習をして復習をする	135 分
第 10 回	フォーレ ミ・ア・ウ 「ドリー 作品 56」より	読譜と練習、共演者と連弾の合わせをして準備する	指摘のあった箇所を直し、反復練習をして復習をする	135 分
第 11 回	フォーレ ドリーの庭 「ドリー 作品 56」より	読譜と練習、共演者と連弾の合わせをして準備する	指摘のあった箇所を直し、反復練習をして復習をする	135 分
第 12 回	ドビュッシー 行列 「小組曲」より	読譜と練習、共演者と連弾の合わせをして準備する	指摘のあった箇所を直し、反復練習をして復習をする	135 分
第 13 回	ドビュッシー メヌエット 「小組曲」より	読譜と練習、共演者と連弾の合わせをして準備する	指摘のあった箇所を直し、反復練習をして復習をする	135 分
第 14 回	三善晃 プレリユード 「ピアノ連弾組曲 音の手帳」より	読譜と練習、共演者と連弾の合わせをして準備する	指摘のあった箇所を直し、反復練習をして復習をする	135 分
第 15 回	まとめ 演奏の発表	これまでの授業内容をまとめ、連弾の合わせと練習をして復習をする	演奏の発表を振り返り、問題のある箇所を復習し、2 年次のアンサンブルに備える	135 分

フィードバック 授業での課題と演奏の発表について、コメント及び解説等により学修成果をフィードバックする。

成績評価 課題への取り組み 50%、授業への積極的な取り組み 50%

テキスト ディアベルリ ピアノ連弾曲集 4 小ソナタと軍隊ロンド (全音楽譜出版社)
デュオ・メイト 2、デュオ・メイト 4 (カワイ出版)

オフィスアワー 授業終了後教室にて

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>						

ピアノ・アンサンブルⅡ

教授 山崎紫乃

科目コード：ENS201

対象コース/専門/学年： 器楽・演奏家コース/ピアノ専門/2 年次

形態：演習

単位数：2 単位

概要 受講生同士パートナーを組み、連弾及び 2 台ピアノの作品を通じてアンサンブルを体験し学ぶ授業である。なるべく多くの演奏機会が持てるような課題曲構成となっている。

到達目標 アンサンブルにおいて大切な、バランス、呼吸の合わせ方、練習の仕方などを、連弾および 2 台ピアノを通じて学び、体験する。4 手のバランスの取り方で、様々に音色が変化することを聴き取り、楽曲の理解力とともに、それぞれの役割分担を考え、共演者とともに一つの音楽を作り上げていくプロセスを学ぶことを目標とする。

授業計画

回数	曲名	事前	事後	時間
第 1 回	Jean Françaix: ルノワールによる 15 の子供の肖像画 No.1~No.7	個人のパートを練習した上で、パートナーと共に合わせておく	授業の復習を行い、パートナーと共に合わせ、確認する	190 分 90 分
第 2 回	Jean Françaix: ルノワールによる 15 の子供の肖像画 No.8~No.14	個人のパートを練習した上で、パートナーと共に合わせておく	授業の復習を行い、パートナーと共に合わせ、確認する	190 分 90 分
第 3 回	①W.A.Mozart: ドイツ舞曲 K.600 および K.605 ②F. Schubert: 4 つのレントラー D.814	個人のパートを練習した上で、パートナーと共に合わせておく	授業の復習を行い、パートナーと共に合わせ、確認する	190 分 90 分
第 4 回	L.van Beethoven: ソナタ Op.6 L.van Beethoven: 行進曲 Op.45-2 および Op.45-3 導入	個人のパート練習をした上で、パートナーと共に合わせておく	授業で指摘された部分を復習して、パートナーと共に次回の授業までに修正しておく	170 分 110 分
第 5 回	L.van Beethoven: ソナタ Op.6 L.van Beethoven: 行進曲 Op.45-2 および Op.45-3 まとめ	前回の授業で指摘された部分が改善出来ているか、パートナーと共に合わせながら確認しておく	授業の復習を行い、パートナーと共に合わせ、確認する	160 分 120 分
第 6 回	C.M.von Weber: 6 つの小品 Op.3 導入	個人パートを練習した上で、パートナーと共に合わせておく	授業で指摘された部分を復習して、パートナーと共に次回の授業までに修正しておく	170 分 110 分
第 7 回	C.M.von Weber: 6 つの小品 Op.3 まとめ	前回の授業で指摘された部分が改善出来ているか、パートナーと共に合わせながら確認しておく	授業の復習を行い、パートナーと共に合わせ、確認する	160 分 120 分
第 8 回	R.Schumann: 12 の練習曲 Op.85 導入	個人のパートを練習した上で、パートナーと共に合わせておく	授業で指摘された部分を復習して、パートナーと共に次回の授業までに修正しておく	170 分 110 分
第 9 回	R.Schumann: 12 の練習曲 Op.85 まとめ	前回の授業で指摘された部分が改善出来ているか、パートナーと共に合わせながら確認しておく	授業の復習を行い、パートナーと共に合わせ、確認する	160 分 120 分
第 10 回	R.Schumann=C. Debussy :カノン形式による 6 つの練習曲 (2 台ピアノ) 導入	個人のパートを練習した上で、パートナーと共に合わせておく	授業で指摘された部分を復習して、パートナーと共に次回の授業までに修正しておく	170 分 110 分
第 11 回	R.Schumann=C. Debussy :カノン形式による 6 つの練習曲 (2 台ピアノ) まとめ	前回の授業で指摘された部分が改善出来ているか、パートナーと共に合わせながら確認しておく	授業の復習を行い、パートナーと共に合わせ、確認する	160 分 120 分
第 12 回	Reinhold Glière: 6 つの小品 (2 台ピアノ)	個人のパートを練習した上で、パートナーと共に合わせておく	授業の復習を行い、パートナーと共に合わせ、確認する	190 分 90 分
第 13 回	J.Brahms: ワルツ Op.39 導入	個人のパートを練習した上で、パートナーと共に合わせておく	授業で指摘された部分を復習して、パートナーと共に次回の授業までに修正しておく	170 分 110 分
第 14 回	J.Brahms: ワルツ Op.39 まとめ	前回の授業で指摘された部分が改善出来ているか、パートナーと共に合わせながら確認しておく	授業の復習を行い、パートナーと共に合わせ、確認する	160 分 120 分
第 15 回	発表会	授業で取り上げた曲の中から 1 曲を選び、パートナーと共に準備する	発表会での演奏を振り返りパートナーと共に、改善点を話し合う	220 分 60 分

フィードバック 各自練習してきた課題曲を授業内で演奏し、それに対して教員より課題及び学修成果について個々にアドバイスを行う。

成績評価 課題への取り組み方(50%)、授業態度(50%)

テキスト 授業曲目や組み合わせについては、後期授業開始前 (9 月初旬) に掲示する。

オフィスアワー E メールにて相談の上、対応する。 sun.138@mail.uenogakuen.ac.jp

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

ピアノ・アンサンブルⅢ

ピアノ部会主任 教授 山崎紫乃

科目コード：ENS301

対象コース／専門／学年：器楽コース／ピアノ専門／3年次

形態：演習

単位数：2単位

概要 主に協奏曲作品を取り上げ、ピアノにおけるアンサンブルの世界の幅を広げる。

到達目標 アンサンブルにおいてピアノという楽器は音楽的に対等の立場、もしくは伴奏として支える立場をとることが大半であるが、他楽器との共演の中でもピアノ協奏曲においてはソリストとしての音楽表現、奏法、演奏の牽引力等が必要である。ソリストとしての演奏法、室内楽作品と協奏曲作品の演奏法、表現法、音や響きなどの相違点を明確に学ぶと共に、オーケストラパートをピアノで伴奏することも学び、楽器の可能性について更に追求し、幅広い演奏法を身につけることを目標とする。

授業計画 15回の個人授業を行い、10月にコンチェルト試験を実施する。

回数	課題の設定	事前	事後	110分
第1回	課題の設定	協奏曲について調べる。	課題曲の中から選曲、読譜。	170分
第2回	正確な読譜	音、リズム、拍子を性格に読譜。	指使い、手のフォームを正しく反復練習。	170分
第3回	技術的問題への取り組み	丁寧に反復練習。	苦手な音型、楽句の徹底練習。	170分
第4回	リズム、拍子の確認	反復練習。	楽譜に忠実に正確なリズムを意識して練習。	170分
第5回	オーケストラパートの読譜	オーケストラパートの読譜。	両パートを総合して音楽をイメージする。	170分
第6回	楽曲分析	和声進行など整理し、構造を理解する。	作品の全体像を把握し、演奏のイメージを持つ。	170分
第7回	演奏技術の向上	反復練習。	問題点を自覚し効果的な反復練習。	170分
第8回	表現法	作品の全体像を把握し、表現の可能性を追求。	作品に相応しい表現の追求。	170分
第9回	作品の総合的視点	オーケストラパートおよびピアノソロパートの確認。	全体の構造を把握し、バランスを考慮して練習。	170分
第10回	両パートの共演	パートナーとの練習。	音楽の流れ、構造、音量のバランスを確認しながら反復練習。	170分
第11回	両パートの共演(立体的な演奏)	それぞれのパートの役割を意識して練習。	掘りの深い表現の追求。	170分
第12回	音色、響き	各パートに相応しい音色、響きの追求。	ピアノスティックな表現の追求。オーケストラ楽器の音色の研究。	170分
第13回	テンポの設定	ソリストの表現、音楽の流れを明確に。	表現、バランスを整理し、相応しいテンポの確立。	170分
第14回	仕上げ	両パートを理解し表現、技術の徹底。	表現力と演奏技術の鍛錬。	170分
第15回	成果の発表	全体像を意識し、最終調整。	両パートの役割、表現を自己分析、評価。	170分

フィードバック 演奏試験を行い、その後担当教員、審査員のコメントを聞くことができる。

成績評価 演奏試験を受ける。評価は複数の審査員の採点による。

テキスト 課題曲を掲示する。

オフィスアワー 授業終了後教室にて。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・他理解	生涯学習意欲
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

ピアノ伴奏法 A

※教育職員免許状取得に関わる科目

※教職課程を履修する者は「和楽器研究：箏／日本の伝統的な歌唱研究：箏歌」の履修も含む

准教授 星子知美

科目コード：ENS306／ENS307

対象コース／専門／学年： 器楽コース／ピアノ専門／3 年次生

形態：演習

単位数：4 単位

概要 ピアノはピアノ奏者にとって重要な分野にも拘らず、脇役のように扱われがちである。しかし、近年では伴奏者の存在価値とその評価は非常に高まり、伴奏者の技量が演奏会の成否を左右するといっても過言ではない。この講義では主に声楽曲を通して、詩の解釈と理解に基づいた演奏表現と技法を追求する。ピアノという楽器の歴史と演奏様式の推移も重要な研究のポイントとなる。

到達目標 声楽曲の伴奏を学ぶことで、自身のピアノソロの演奏や他の楽器の伴奏にもつながる音楽知識と技術を身につけ、感性を磨くことを目標とする。実際の声楽との合わせを通して、より実践的な力を養う。

授業計画

【AL】

第 1 回	オリエンテーション 学修計画の説明・“伴奏”について考える	事前 これまでの経験を含めて、“伴奏”について考えをまとめておく 事後 “伴奏”のポイントをまとめ、理解を深める	135 分 135 分
第 2 回	“ピアノを歌わせる” シューマン「ユーゲントアルバム」より	事前 ピアノという楽器の歴史を調べ、課題曲の譜読みをする 事後 右手を歌えるようにし、更に両手のバランスが取れるように反復練習をする	180 分 90 分
第 3 回	“ピアノを歌わせる” シューマン「子供の情景」より	事前 第 2 回を基に両手のバランスに気をつけながら、課題曲の譜読みをする 事後 第 2 回・第 3 回の課題を完成させる	135 分 135 分
第 4 回	日本歌曲（滝廉太郎の作品：荒城の月、花）	事前 日本歌曲の歴史を調べ、課題曲の譜読みをする 事後 指摘のあった箇所を直し、反復練習をする	180 分 90 分
第 5 回	日本歌曲（山田耕筰の作品：中国地方の子守唄、からたちの花など）	事前 歌詞の意味を理解しながら、課題曲の譜読みをする 事後 指摘のあった箇所を直し、反復練習をする	180 分 90 分
第 6 回	日本歌曲（椰子の実、浜辺の歌、城ヶ島の雨など）	事前 歌詞の意味を理解しながら、課題曲の譜読みをする 事後 指摘のあった箇所を直し、反復練習をする	180 分 90 分
第 7 回	日本歌曲（北秋の、沙羅、行々子）	事前 歌詞の意味を理解しながら、課題曲の譜読みをする 事後 日本歌曲の歴史を復習し、第 4 回～第 7 回の課題を完成させる	180 分 90 分
第 8 回	イタリア古典歌曲（アマリッリ、いとしい女よなど）	事前 イタリア語の歌詞の意味を調べ、課題曲を準備する 事後 歌詞の読み方を復習し、指摘のあった箇所の反復練習をする	180 分 90 分
第 9 回	イタリア古典歌曲（もはや私の心には感じない（うつろの心）など）	事前 イタリア歌曲の歴史を調べ、課題曲を準備する 事後 指摘のあった箇所を直し、反復練習をする	180 分 90 分
第 10 回	イタリア古典歌曲（スカララッティの作品）	事前 歌詞の読み方と意味を調べ、課題曲を準備する 事後 指摘のあった箇所を直し、第 8 回～第 10 回の課題を完成させる	180 分 90 分
第 11 回	トスティの歌曲（4 月、夢など）	事前 作曲家について調べ、課題曲を準備する 事後 指摘のあった箇所を直し、反復練習をする	180 分 90 分
第 12 回	トスティの歌曲（セラナータなど）	事前 歌詞の読み方と意味を調べ、課題曲を準備する 事後 指摘のあった箇所の反復練習をし、トスティの課題曲を完成させる	180 分 90 分
第 13 回	ドイツ歌曲（モーツァルトの作品：すみれ、クローエになど）	事前 ドイツ歌曲の歴史を調べ、課題曲を準備する 事後 指摘のあった箇所を直し、反復練習をする	180 分 90 分
第 14 回	ドイツ歌曲（モーツァルトの作品：ルイーゼが不実な恋人の手紙を焼いた時など）	事前 歌詞の読み方と意味を調べ、課題曲を準備する 事後 歌詞の読み方を復習し、指摘のあった箇所の反復練習をする	180 分 90 分
第 15 回	ドイツ歌曲（シューベルトの作品：野ばら、鱒など）	事前 シューベルトの歌曲について調べ、課題曲を準備する 事後 指摘のあった箇所を直し、反復練習をする	180 分 90 分
第 16 回	ドイツ歌曲（シューベルトの作品：さすらい人、糸を紡ぐグレートヒェンなど）	事前 歌詞の読み方と意味を調べ、課題曲を準備する 事後 指摘のあった箇所を直し、反復練習をする	180 分 90 分
第 17 回	ドイツ歌曲（シューベルトの作品：「冬の旅」の概要）	事前 歌曲集「冬の旅」について調べ、課題曲を準備する 事後 指摘のあった箇所を直し、反復練習をする	180 分 90 分
第 18 回	ドイツ歌曲（シューマンの作品：「冬の旅」よりおやすみ、菩提樹、郵便馬車など）	事前 歌詞の読み方と意味を調べ、課題曲を準備する 事後 指摘のあった箇所を直し、第 15 回～第 18 回の課題を完成させる	180 分 90 分
第 19 回	ドイツ歌曲（シューマンの作品：献呈など）	事前 シューマンの歌曲について調べ、課題曲を準備する 事後 指摘のあった箇所を直し、反復練習をする	180 分 90 分
第 20 回	ドイツ歌曲（シューマンの作品：「女の愛と生涯」の概要）	事前 歌曲集「女の愛と生涯」について調べ、課題曲を準備する 事後 指摘のあった箇所を直し、反復練習をする	180 分 90 分
第 21 回	ドイツ歌曲（シューマンの作品：「女の愛と生涯」より第 1 曲～第 3 曲）	事前 歌詞の読み方と意味を調べ、課題曲を準備する 事後 歌詞の読み方を復習し、指摘のあった箇所の反復練習をする	180 分 90 分
第 22 回	ドイツ歌曲（シューマンの作品：「女の愛と生涯」より第 4 曲～第 6 曲）	事前 歌詞の読み方と意味を調べ、課題曲を準備する 事後 指摘のあった箇所の反復練習をする	180 分 90 分
第 23 回	ドイツ歌曲（シューマンの作品：「女の愛と生涯」より第 7 曲、第 8 曲）	事前 歌詞の読み方と意味を調べ、課題曲を準備する 事後 指摘のあった箇所を直し、「女の愛と生涯」を完成させる	180 分 90 分
第 24 回	ドイツ歌曲（ブラームスの作品）	事前 ブラームスの歌曲について調べ、課題曲を準備する 事後 指摘のあった箇所を直し、反復練習し、完成させる	180 分 90 分
第 25 回	ドイツ歌曲（R.シュトラウスの作品）	事前 R.シュトラウスについて調べ、課題曲を準備する 事後 指摘のあった箇所を直し、反復練習し、完成させる	180 分 90 分
第 26 回	ドイツ歌曲（ヴォルフの作品）	事前 ヴォルフとその歌曲について調べ、課題曲を準備する 事後 指摘のあった箇所を直し、反復練習し、完成させる	180 分 90 分
第 27 回	フランス歌曲（フォーレの作品）	事前 フランス歌曲について調べ、課題曲を準備する 事後 指摘のあった箇所を直し、反復練習し、完成させる	180 分 90 分
第 28 回	フルート作品及びヴァイオリンの作品	事前 課題曲の譜読みをする 事後 指摘のあった箇所を直し、反復練習し、完成させる	180 分 90 分
第 29 回	オペラのアリアより	事前 歌詞の読み方と意味を調べ、課題曲を準備する 事後 歌曲の伴奏との違いを復習し理解を深め、完成させる	180 分 90 分
第 30 回	演奏試験、伴奏法 A のまとめ	事前 課題曲・レポートを準備する 事後 理解不足だった箇所や演奏に問題のある箇所の復習をし、完成させる	250 分 20 分

フィードバック 授業での課題や演奏試験についてコメントにて、また、レポートについて添削や解説により学修成果をフィードバックする。

成績評価 演奏試験 50%、レポート 20%、授業への積極的な取り組み 30%。

テキスト 授業時に配布する履修予定に従い、課題を準備する。
その他、必要に応じてプリント等を配布する。

オフィスアワー 授業後教室にて

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力													意欲・経験・多様性				
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性							
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識		
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		

(演) ピアノ伴奏法 A

教授 吉田伸昭

科目コード：ENS306/ENS307

対象コース/専門/学年：演奏家コース/ピアノ専門/3 年次

形態：演習

単位数：4 単位

概要 グループレッスンの形態。それぞれの作曲者、楽曲に対しての知識、理解を深める。
発音練習し歌唱を実践した後、一人ずつピアノを演奏する

到達目標 芸術歌曲は歌とピアノが対等な関係で創り上げる芸術である。この講義を通じて芸術歌曲への興味と理解を深める。
詩の意味を理解して声楽作品に向かう習慣をつける。
歌手と共に呼吸すること、言葉をよく聴き、流れをつくることを学ぶ。

授業計画 (前期) R.シューマン作曲の「詩人の恋」を教材とする。ドイツ語の詩を音読し、詩とメロディーとの結びつきを理解した後、演奏する。
【AL】 (後期) 独、仏、伊、日、等様々な言語の歌曲作品から個々に選択する。原語による差異を感じ、フレージングに細心の注意を払って演奏する。

第 1 回	シューマンの歌曲の総合的な理解とドイツ語の発音練習	事前 シューマンについて予備知識を得、「詩人の恋」を視聴する 事後 ドイツ語の発音を練習	180 分 100 分
第 2 回	第 1 曲 素晴らしく美しい五月に	事前 第 1 曲の準備(ピアノ、詩、発音、歌唱) 事後 授業内容の確認と復習	180 分 100 分
第 3 回	第 2 曲 僕の涙から花が咲く 第 3 曲 パラ、ゆり、鳩	事前 第 2, 3 曲の準備(ピアノ、詩、発音、歌唱) 事後 授業内容の確認と復習	180 分 100 分
第 4 回	第 4 曲 君の瞳を見ると	事前 第 4 曲の準備(ピアノ、詩、発音、歌唱) 事後 授業内容の確認と復習	180 分 100 分
第 5 回	第 5 曲 僕の心を沈めよう	事前 第 5 曲の準備(ピアノ、詩、発音、歌唱) 事後 授業内容の確認と復習	180 分 100 分
第 6 回	第 6 曲 聖なるラインの流れ	事前 第 6 曲の準備(ピアノ、詩、発音、歌唱) 事後 授業内容の確認と復習	180 分 100 分
第 7 回	第 7 曲 恨むまい	事前 第 7 曲の準備(ピアノ、詩、発音、歌唱) 事後 授業内容の確認と復習	180 分 100 分
第 8 回	第 8 曲 小さい花たちが知っているなら	事前 第 8 曲の準備(ピアノ、詩、発音、歌唱) 事後 授業内容の確認と復習	180 分 100 分
第 9 回	第 9 曲 あれはフルートとヴァイオリンだ	事前 第 9 曲の準備(ピアノ、詩、発音、歌唱) 事後 授業内容の確認と復習	180 分 100 分
第 10 回	第 10 曲 かつて恋人の歌っていた歌を聴くと 第 11 曲 ひとりの若者がある娘を愛した	事前 第 10, 11 曲の準備(ピアノ、詩、発音、歌唱) 事後 授業内容の確認と復習	180 分 100 分
第 11 回	第 12 曲 光り輝く夏の朝	事前 第 12 曲の準備(ピアノ、詩、発音、歌唱) 事後 授業内容の確認と復習	180 分 100 分
第 12 回	第 13 曲 僕は夢の中で泣いた 第 14 曲 夜ごと、夢の中で	事前 第 13, 14 曲の準備(ピアノ、詩、発音、歌唱) 事後 授業内容の確認と復習	180 分 100 分
第 13 回	第 15 曲 古いおとぎ話から	事前 第 15 曲の準備(ピアノ、詩、発音、歌唱) 事後 授業内容の確認と復習	180 分 100 分
第 14 回	第 16 曲 古く忌まわしい歌	事前 第 16 曲の準備(ピアノ、詩、発音、歌唱) 事後 授業内容の確認と復習	180 分 100 分
第 15 回	全曲の仕上げと発表	事前 全曲演奏の準備 事後 演奏の録音を聴く	220 分 60 分
第 16 回	ドイツ歌曲① 詩の抑揚、意味、解釈を学び、それがどのように旋律や和声、リズムを形作っているかを考えながら、的確な表現をめざす。	事前 楽譜を用意し、詩や楽譜をよく読む。 事後 授業内容を確認し、よく練習して問題の解決をはかる。	100 分 180 分
第 17 回	ドイツ歌曲② 楽曲全体におけるピアノパートの意味をよく理解し、適正なテンポ、特に美しいフレージングに留意して、表現を深める。	事前 楽譜を読み込み、練習する。 事後 授業内容を確認し、よく練習して問題の解決をはかる。	140 分 140 分
第 18 回	ドイツ歌曲③ 前 2 回の授業を踏まえ、それぞれの曲を仕上げる。	事前 楽譜を読み込み、練習する。 事後 授業内容を確認し、よく練習して問題の解決をはかる。	140 分 140 分
第 19 回	フランス歌曲① 詩の抑揚、意味、解釈を学び、それがどのように旋律や和声、リズムを形作っているかを考えながら、的確な表現をめざす。	事前 楽譜を用意し、詩や楽譜をよく読む。 事後 授業内容を確認し、よく練習して問題の解決をはかる。	140 分 140 分
第 20 回	フランス歌曲② 楽曲全体におけるピアノパートの意味をよく理解し、適正なテンポ、特に美しいフレージングに留意して、表現を深める。	事前 楽譜を読み込み、練習する。 事後 授業内容を確認し、よく練習して問題の解決をはかる。	140 分 140 分
第 21 回	フランス歌曲③ 前 2 回の授業を踏まえ、それぞれの曲を仕上げる。	事前 楽譜を読み込み、練習する。 事後 授業内容を確認し、よく練習して問題の解決をはかる。	140 分 140 分
第 22 回	イタリア古典歌曲 声楽作品の原点に立ち戻り、自分でも歌いながら声による表現の特徴を考察する。	事前 副科で学んだ楽曲の中から選曲し練習しておく。 事後 授業内容を確認し、よく練習して問題の解決をはかる。	140 分 140 分
第 23 回	イタリア歌曲 ロッシーニ、ペッリーニ、ドニゼッティ、ヴェルディの歌曲作品を中心にイタリア声楽作品における表現様式の特徴を学ぶ。	事前 楽譜を用意し、詩や楽譜をよく読む。 事後 授業内容を確認し、よく練習して問題の解決をはかる。	140 分 140 分
第 24 回	イタリア近代歌曲① 近代という時代様式とともに、イタリア語独特の言い回しや歌いまわしを学ぶ。	事前 楽譜を用意し、詩や楽譜をよく読む。 事後 授業内容を確認し、よく練習して問題の解決をはかる。	140 分 140 分
第 25 回	イタリア近代歌曲② 前回の授業を踏まえ、それぞれの曲を仕上げる。	事前 楽譜を読み込み、練習する。 事後 授業内容を確認し、よく練習して問題の解決をはかる。	140 分 140 分
第 26 回	その他の言語の歌曲 英語やロシア語といった原語の作品の特徴を知り、その表現を学ぶ。	事前 さまざまな言語の歌曲を聴き、楽譜を用意する。 事後 授業内容を確認し、よく練習して問題の解決をはかる。	140 分 140 分
第 27 回	日本歌曲① 詩の特性、音楽の特性等、日本歌曲において特徴的な事柄を学び、その上で、的確な表現を索める。	事前 楽譜を用意し、詩や楽譜をよく読む。 事後 授業内容を確認し、よく練習して問題の解決をはかる。	140 分 140 分
第 28 回	日本歌曲② 前回の授業を踏まえ、日本歌曲の表現をさらに深める。	事前 楽譜を読み込み、練習する。 事後 授業内容を確認し、よく練習して問題の解決をはかる。	140 分 140 分
第 29 回	日本歌曲③ 前 2 回の授業を踏まえ、それぞれの曲を仕上げる。	事前 楽譜を読み込み、練習する。 事後 授業内容を確認し、よく練習して問題の解決をはかる。	140 分 140 分
第 30 回	まとめ 声楽作品におけるピアノパートの意味を再確認し、単なる伴奏にとどまらないパートナーとしてのピアノ演奏の可能性を考える。	事前 これまでの楽曲を復習しておく。 事後 後期の授業を踏まえ、何曲かの歌曲を仕上げておく。	140 分 140 分

フィードバック 最終講義時に歌曲の伴奏について全員で話し合う

成績評価 ※総合評価とする。演奏 50%、授業への積極的な取り組み 50%

テキスト (前期) シューマン 詩人の恋 高声用 (参考：シューマン歌曲集 1 (高声用) 1,700 円 (音楽譜出版社) に収録) コピー譜も可
(後期) 授業内に指示する

オフィスアワー E メール mozart-trazom@nifty.com および授業前後、教室にて

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

演奏法

客員教授 渡邊順生／客員教授 ミハイル・カンディンスキー

科目コード：IND405

対象コース／専門／学年： 器楽・演奏家コース／ピアノ専門／4 年次

形態：演習 単位数：2 単位

概要 【渡邊】
 バッハのクラヴィア作品の現代ピアノによる演奏のあり方について考察する。考察の中心は、クラヴィアのための協奏曲、組曲形式の作品群に置く。特に、バロック期に一般的であった楽曲の形式、各種の舞曲などの様式、テンポやリズム、アーティキュレーション、装飾音等をはじめとする演奏習慣に関する理解を深めることにより、それを個々の楽曲の演奏にどう生かすかを考える。

【カンディンスキー】
 前半（第 8 回～第 11 回）は、ロシアとポーランドの代表的作曲家から、同じ「前奏曲集」を取り上げ、国や作曲家のエッセンスを学び、比較検討する。後半（第 12 回～第 15 回）は、卒業演奏に向けた学生達の、リハーサルとレッスンの実践である。

到達目標 時代様式や作曲家固有のスタイルを学ぶことにより、より深く楽譜を読み取る力を養い、演奏につなげていくことを目標とする。

授業計画 日程は掲示にて確認すること。

第 1 回	【渡邊】 ピアノとチェンバロ・・・クリストフォリによるピアノの発明とスカルラッチェ、バッハの音楽	事前 鍵盤楽器の歴史を調べる。 事後 バロック楽器の構造と発音、響きを知る。	140 分 140 分
第 2 回	【渡邊】 楽譜の問題～【原典版】楽譜とは何か、【原典版】は如何にして作られるか～	事前 原典版について調べる。 事後 授業の内容を基に研究。	140 分 140 分
第 3 回	【渡邊】 バッハ作品における組曲の位置／フランス様式とイタリア様式／リュート様式とヴァイオリン様式／バッハの組曲に占めるクラヴィア組曲の位置と意義 その他	事前 組曲について調べる。 事後 授業の内容を基に研究。	140 分 140 分
第 4 回	【渡邊】 演奏法の実際（協奏曲形式による開始楽章《イギリス組曲のプレリュード》）	事前 イギリス組曲プレリュード読譜。 事後 授業の内容を基に演奏に反映。	140 分 140 分
第 5 回	【渡邊】 演奏法の実際（主要舞曲その 1=アルマンドとサラバンド）	事前 アルマンド、サラバンドの読譜、研究。 事後 授業の内容を基に演奏に反映。	140 分 140 分
第 6 回	【渡邊】 演奏法の実際（主要舞曲その 2=クーラントとジグ）	事前 クーラントとジグの読譜、研究。 事後 授業の内容を基に演奏に反映。	140 分 140 分
第 7 回	【渡邊】 演奏法の実際（主要舞曲その 3=ガヴオット、メヌエットなど）	事前 ガヴオット、メヌエットの読譜、研究。 事後 必要、効果的、無駄のない身体使い方、姿勢について探求する。	140 分 140 分
第 8 回	【カンディンスキー】 ラフマニノフ「前奏曲集」Op.3-2, Op.23 レクチャー ピアノ位置設定について	事前 読譜。譜面から読み取れるものは何か。イメージは浮かぶか。 事後 印象に残った楽曲を選び、弾いてみる。学んだことを試みる。	140 分 140 分
第 9 回	【カンディンスキー】 ラフマニノフ「前奏曲集」Op.32 レクチャー ロシアの自然風土、長いフレーズ、呼吸、ペダリングについて	事前 読譜。譜面から読み取れるものは何か。イメージは浮かぶか。 事後 印象に残った楽曲を選び、弾いてみる。学んだことを試みる。	140 分 140 分
第 10 回	【カンディンスキー】 ショパン「前奏曲集」Op.28 No.1～12 レクチャー 井と、異名同音、響き、タッチについて、エディションについて	事前 読譜。譜面から読み取れるものは何か。イメージは浮かぶか。 事後 印象に残った楽曲を選び、弾いてみる。学んだことを試みる。	140 分 140 分
第 11 回	【カンディンスキー】 ショパン「前奏曲集」Op.28 No.13～24 レクチャー ピアノ曲としての「前奏曲」全般まとめ、曲集としてのツィクルスについて	事前 読譜。譜面から読み取れるものは何か。イメージは浮かぶか。 事後 印象に残った楽曲を選び、弾いてみる。学んだことを試みる。	140 分 140 分
第 12 回	【カンディンスキー】 卒業演奏オープンリハーサル ワンポイントレッスン ピークコントロール法について	事前 練習 事後 自分はどのパターンがよいのか、持って行き方を考える。	140 分 140 分
第 13 回	【カンディンスキー】 卒業演奏オープンリハーサル ワンポイントレッスン 本番に強くなる練習法について	事前 練習、自己分析 事後 緊張の対処の仕方や気分転換法を自分なりに考える。	140 分 140 分
第 14 回	【カンディンスキー】 卒業演奏オープンリハーサル ワンポイントレッスン 潜在意識について	事前 練習、自己分析 事後 潜在意識を用いる小さなこつを言ったり、書いたりしてみる。	140 分 140 分
第 15 回	【カンディンスキー】 卒業演奏オープンリハーサル ワンポイントレッスン 調性・7つの音について	事前 練習、イメージトレーニング 事後 体調管理、復習	140 分 140 分

フィードバック 授業内でのレポートについて、他学生にも大変参考となるものを読み上げ、コメントする。
 個人レッスン時、レポート内容をふまえて対応できるものはする。

成績評価 発表 30% レポート 40% 授業態度、積極的な取組 30%

テキスト
 購入 なし
 用意 ラフマニノフ 前奏曲集
 ショパン 前奏曲集（任意のエディション。授業で比較検討する。）
 参照 ショパン 自筆譜
 「プロコフィエフ 短編集」（群像社）
 「潜在意識の力」 桑名一央（実務教育出版）

オフィスアワー 授業終了後教室にて。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・目的意識	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

弦楽合奏 I-1・II-1・III・IV

准教授 佐藤まどか／教授 緒方恵／准教授 櫻井茂／非常勤講師 須藤三千代

科目コード：ENS106／ENS206
ENS308／ENS405

対象コース／専門／学年： 器楽・演奏家コース／弦楽器（ハーブ以外）専門／1～4 年次

形態：実習

単位数：1 単位

概要 弦楽合奏においては、同族楽器のアンサンブルとしてのソノリティーに耳をひらくことが求められる。そのための基本的なアンサンブル力を培う。

到達目標 トウッティとしての音の合わせ方や、ボーイング、音色、ハーモニー等のアンサンブルの基礎力をつける。

授業計画 1 年次から 4 年次まで、同時に行う必修授業。弦楽合奏コンサートを開催。

【AL】

回数	内容	事前	事後	評価
第 1 回	弦楽合奏の目標と授業の進め方について	1 年次生は、弦楽合奏の作品を各時一曲ずつ選び、聴いておく。 2 年次生以上は、昨年度の反省を踏まえ、個人的に課題を見つけておく	学修計画を確認し、次回に必要な楽譜を準備する。	50 分 50 分
第 2 回	課題曲 I（バロック） 課題確認のため、全体通し練習	事前 課題曲 I（バロック）の音源を聴き、読譜をする。	事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する。	50 分 50 分
第 3 回	課題曲 I 分奏 各セクションごとに課題を踏まえて練習	事前 分奏の準備、ボーイング、強弱などを確認し、各セクションとのつながりを考える。	事後 分奏で変更したボーイングの箇所を確認し、個人的に自然に演奏できるよう、練習する。	50 分 50 分
第 4 回	課題曲 I 全体練習 様式感を学ぶ、ボーイングなどの確認	事前 作品の分析を個々に行っておく。	事後 バロック期の音のイメージを再確認し、次回の仕上げに向けて、練習する	50 分 50 分
第 5 回	課題曲 I 仕上げの練習	事前 全体の音楽のイメージがつかめるまで、練習する。	事後 課題曲 I の反省、および、次回課題曲 II（古典）の楽譜を準備する。	50 分 50 分
第 6 回	課題曲 II（古典） 課題確認のため、全体通し練習	事前 課題曲 II（古典）の音源を聴き、読譜をする。	事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する。	50 分 50 分
第 7 回	課題曲 II 分奏 各セクションごとに課題を踏まえて練習	事前 分奏の準備、ボーイング、強弱などを確認し、各セクションとのつながりを考える。	事後 分奏で変更したボーイングの箇所を確認し、個人的に自然に演奏できるよう、練習する。	50 分 50 分
第 8 回	課題曲 II 全体練習 様式感を学ぶ、ボーイングなどの確認	事前 作品の分析を個々に行っておく。	事後 古典期の音のイメージを再確認し、次回の仕上げに向けて、練習する	50 分 50 分
第 9 回	課題曲 II 仕上げの練習	事前 全体の音楽のイメージがつかめるまで、練習する。	事後 課題曲 II の反省、および、次回課題曲 III（古典）の楽譜を準備する。	50 分 50 分
第 10 回	課題曲 III（古典） 課題確認のため、全体通し練習	事前 課題曲 III（古典）の音源を聴き、読譜をする。同じ古典期でも作曲家によって、スタイルが異なることを感じる。	事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する。	50 分 50 分
第 11 回	課題曲 III 分奏 各セクションごとに課題を踏まえて練習	事前 分奏の準備、ボーイング、強弱などを確認し、各セクションとのつながりを考える。	事後 分奏で変更したボーイングの箇所を確認し、個人的に自然に演奏できるよう、練習する。	50 分 50 分
第 12 回	課題曲 III 全体練習 様式感を学ぶ、ボーイングなどの確認	事前 作品の分析を個々に行っておく。	事後 古典期の音のイメージを再確認し、次回の仕上げに向けて、練習する	50 分 50 分
第 13 回	課題曲 III 仕上げの練習	事前 全体の音楽のイメージがつかめるまで、練習する。	事後 課題曲 III の反省。	50 分 50 分
第 14 回	和声感や、ボーイングの付け方、奏法の選択など、アンサンブルをする上で、身につける必要のある基礎知識の確認	事前 アンサンブル法の文献を読み、アンサンブルを円滑に進めるためにどうすればよいか、個々に考えておく。	事後 アンサンブル法の再確認。および、次回課題曲（ロマン派）の楽譜を準備する。	50 分 50 分
第 15 回	課題曲 IV（ロマン派） 課題確認のため、全体通し練習	事前 課題曲 IV（ロマン派）の音源を聴き、読譜をする。	事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する。	50 分 50 分

フィードバック 演奏会後や授業内など、必要に応じて担当者よりコメントをフィードバックする。

成績評価 授業への積極性および実技における習熟度を評価の対象とし、複数の担当教員によって、総合的に評価する。

テキスト 授業内に指示する。

オフィスアワー 授業後教室にて、あるいはメールで対応する。
准教授 佐藤まどか (yq01122@docomo.ne.jp)
教授 緒方恵 (mogata@uenogakuen.ac.jp)
准教授 櫻井茂 (gewurztraminer-sakurai@docomo.ne.jp)
非常勤講師 須藤三千代 (vviolamichiyon@gmail.com)

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

弦楽合奏 I-2・II-2・III・IV

准教授 佐藤まどか／教授 緒方恵／准教授 櫻井茂／非常勤講師 須藤美千代

科目コード：ENS107／ENS207
ENS309／ENS406

対象コース／専門／学年： 器楽・演奏家コース／弦楽器（ハープ以外）専門／1～4 年次

形態：実習

単位数：1 単位

概要 弦楽合奏においては、同族楽器のアンサンブルとしてのソノリティーに耳をひらくことが求められる。そのための基本的なアンサンブル力を培う。

到達目標 トウッティとしての音の合わせ方や、ボーイング、音色、ハーモニー等のアンサンブルの基礎力をつける。

授業計画 1 年次から 4 年次まで、同時に行う必修授業。弦楽合奏コンサートを開催。

第 1 回	課題曲Ⅳ 分奏 各セッションごとに課題を踏まえて練習	事前 分奏の準備、ボーイング、強弱などを確認し、各セッションとのつながりを考える。 事後 分奏で変更したボーイングの箇所を確認し、個人的に自然に演奏できるよう、練習する。	50 分 50 分
第 2 回	課題曲Ⅳ 全体練習 様式感を学ぶ、ボーイングなどの確認	事前 作品の分析を個々に行っておく。 事後 ロマン派の音のイメージを再確認し、次回の仕上げに向けて、練習する	50 分 50 分
第 3 回	課題曲Ⅳ 仕上げの練習 1	事前 技術的に難易度が高い箇所を、個々に練習しておく。 事後 全体の音のイメージがつかめるまで、練習する。	50 分 50 分
第 4 回	課題曲Ⅳ 仕上げの練習 2	事前 個々の練習における完成度を上げておく。 事後 課題曲Ⅳの反省、および、次回課題曲Ⅴ（近現代）の楽譜を準備する。	50 分 50 分
第 5 回	課題曲Ⅴ（近・現代） 課題確認のため、全体通し練習	事前 課題曲Ⅴ（近現代）の音源を聴き、読譜をする。 事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する。	50 分 50 分
第 6 回	課題曲Ⅴ 分奏 各セッションごとに課題を踏まえて練習	事前 分奏の準備、ボーイング、強弱などを確認し、各セッションとのつながりを考える。 事後 分奏で変更したボーイングの箇所を確認し、個人的に自然に演奏できるよう、練習する。	50 分 50 分
第 7 回	課題曲Ⅴ 全体練習 様式感を学ぶ、ボーイングなどの確認	事前 作品の分析を個々に行っておく。 事後 古典期の音のイメージを再確認し、次回の仕上げに向けて、練習する	50 分 50 分
第 8 回	課題曲Ⅴ 仕上げの練習 1	事前 技術的に難易度が高い箇所を、個々に練習しておく。 事後 全体の音のイメージがつかめるまで、練習する。	50 分 50 分
第 9 回	課題曲Ⅴ 仕上げの練習 2	事前 個々の練習における完成度を上げておく。 事後 課題曲Ⅳの反省。	50 分 50 分
第 10 回	演奏会の準備練習 1	事前 課題曲Ⅰ、Ⅱの問題点を確認し、再度、練習しておく。 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	50 分 50 分
第 11 回	演奏会の準備練習 2	事前 課題曲Ⅲ、Ⅳの問題点を確認し、再度、練習しておく。 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	50 分 50 分
第 12 回	演奏会の準備練習 3	事前 課題曲Ⅴの問題点を確認し、再度、練習しておく。 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	50 分 50 分
第 13 回	演奏会に向けたリハーサルⅠ	事前 技術的に問題がある箇所を、個々に練習しておく。 事後 ホールの響きを意識して、演奏できるよう、音色をイメージしておく。	50 分 50 分
第 14 回	演奏会に向けたリハーサルⅡ	事前 アインザッツの確認、リレーションの確認を各自行っておく。 事後 立体的な表現につながるよう、曲のイメージを明確にしておく。	50 分 50 分
第 15 回	メモリアルホールでの演奏会	事前 ホールリハーサルに備え、並び方等、協力しながら準備する。 事後 演奏会の反省と来年度の課題を確認する。	50 分 50 分

フィードバック 演奏会後や授業内など、必要に応じて担当者よりコメントをフィードバックする。

成績評価 授業への積極性および実技における習熟度を評価の対象とし、複数の担当教員によって、総合的に評価する。

テキスト 授業内に指示する。

オフィスアワー 授業後教室にて、あるいはメールで対応する。
准教授 佐藤まどか (qyq01122@docomo.ne.jp)
教授 緒方恵 (mogata@uenogakuen.ac.jp)
准教授 櫻井茂 (gewurztraminer-sakurai@docomo.ne.jp)
非常勤講師 須藤美千代 (vviolamichiyon@gmail.com)

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

ハーブ・アンサンブル I-1・II-1・III・IV

客員教授 井上美江子

科目コード：ENS104/ENS204
ENS304/ENS403

対象コース/専門/学年： 器楽・演奏家コース/ハーブ専門/1~4 年次

形態：実習	単位数：1 単位
概要	複数の奏者によるアンサンブルの技術の習得。複数ハーブのアンサンブルと、他楽器との室内楽曲を、年間通じて 3~4 曲学習する。前期は主に、ハーブパートの練習。

到達目標 共演者との呼吸の合わせ方、タイミングやフレージングを学ぶことにより、より大きな音楽の作り方を習得する。

授業計画 年間を通し、複数ハーブのアンサンブル、他楽器とのアンサンブルをそれぞれ 2 曲程度ずつ学習し、11 月のコンサートで成果を発表する。曲目に関しては、学生の技量により変更する場合がある。

回数	内容	事前	事後	時間
第 1 回	ハーブ・メインテナンス① 調弦、弦の管理	モルナール教則本	自分の楽器を調弦、弦の管理	50 分
第 2 回	ハーブ・メインテナンス② 構造、簡単な修理、ペダルの扱い方	モルナール教則本	自分の楽器で確認	50 分
第 3 回	ハーブ・メインテナンス③ 楽器の移動の仕方、日々の手入れ、温湿度管理	モルナール教則本	クラスメートと協力して楽器を移動する。学校のハーブの手入れ	50 分
第 4 回	複数ハーブのアンサンブル 1, 2 年次 レスビーギ“シシリアーナ” 3, 4 年次 サルツェード“タンゴ、ルンバ”個人パート実習 譜読み	事前 課題曲のフィンガリングを入手して譜読み	事後 指摘のあった箇所の反復練習	50 分
第 5 回	複数ハーブのアンサンブル 1, 2 年次 レスビーギ“シシリアーナ” 3, 4 年次 サルツェード“タンゴ、ルンバ”個人パート実習 テンポでの演奏	事前 テンポでの演奏に向けて個人練習	事後 指摘のあった箇所の反復練習	50 分
第 6 回	複数ハーブのアンサンブル 1, 2 年次 レスビーギ“シシリアーナ” 3, 4 年次 サルツェード“タンゴ、ルンバ”アンサンブル実習 タイミングを主に	事前 共演者とのアンサンブルリハーサル	事後 指摘のあった箇所の反復練習	50 分
第 7 回	複数ハーブのアンサンブル 1, 2 年次 レスビーギ“シシリアーナ” 3, 4 年次 サルツェード“タンゴ、ルンバ”アンサンブル実習 音楽的な掘り下げ	事前 共演者とのアンサンブルリハーサル	事後 指摘のあった箇所の反復練習	50 分
第 8 回	複数ハーブのアンサンブル 1, 2 年次 プレス“ボルカ” 3, 4 年次 モルナール“シュトラウス・ワルツメドレー”個人パート練習 譜読み	事前 課題曲のフィンガリングを入手して譜読み	事後 指摘のあった箇所の反復練習	50 分
第 9 回	複数ハーブのアンサンブル 1, 2 年次 プレス“ボルカ” 3, 4 年次 モルナール“シュトラウス・ワルツメドレー”個人パート練習 テンポでの演奏	事前 テンポでの演奏に向けて個人練習	事後 指摘のあった箇所の反復練習	50 分
第 10 回	複数ハーブのアンサンブル 1, 2 年次 プレス“ボルカ” 3, 4 年次 モルナール“シュトラウス・ワルツメドレー”アンサンブル実習 タイミングを主に	事前 共演者とのアンサンブルリハーサル	事後 指摘のあった箇所の反復練習	50 分
第 11 回	複数ハーブのアンサンブル 1, 2 年次 プレス“ボルカ” 3, 4 年次 モルナール“シュトラウス・ワルツメドレー”アンサンブル実習 音楽的な掘り下げ	事前 共演者とのアンサンブルリハーサル	事後 指摘のあった箇所の反復練習	50 分
第 12 回	他楽器とのアンサンブル 1, 2 年次 ビゼー“アルルの女” 3, 4 年次 イベール“トリオ”個人パート実習 譜読み	事前 課題曲のフィンガリングを入手して譜読み	事後 指摘のあった箇所の反復練習	50 分
第 13 回	他楽器とのアンサンブル 1, 2 年次 ビゼー“アルルの女” 3, 4 年次 イベール“トリオ”個人パート実習 テンポでの演奏	事前 テンポでの演奏に向けて個人練習	事後 指摘のあった箇所の反復練習	50 分
第 14 回	他楽器とのアンサンブル 1, 2 年次 ビゼー“アルルの女” 3, 4 年次 イベール“トリオ”アンサンブル実習 タイミングを主に	事前 共演者とのアンサンブルリハーサル	事後 指摘のあった箇所の反復練習	50 分
第 15 回	他楽器とのアンサンブル 1, 2 年次 ビゼー“アルルの女” 3, 4 年次 イベール“トリオ”アンサンブル実習 音楽的な掘り下げ	事前 共演者とのアンサンブルリハーサル	事後 指摘のあった箇所の反復練習	50 分

フィードバック 授業内でのコメント。

成績評価 授業での取り組み、演奏会での演奏の評価

テキスト 個々の演奏曲目の楽譜（入手困難な物は、授業開始時に配布）

オフィスアワー 1008 室 月曜日 11:00~19:00 火曜日 13:00~19:00 金曜日 13:10~14:40
E-mail : miekoinoue19@ybb.ne.jp

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性							
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲	
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	

対象コース/専門/学年： 器楽・演奏家コース/ハーブ専門/1~4 年次

形態：実習 単位数：1 単位

概要 共演者とのアンサンブルでのレッスン形式の授業。履修者全員参加のマスタークラス方式で、他の学生の演奏を聴くことでも学習する。11 月の櫻樹祭のコンサートで成果を発表する。

到達目標 他楽器とのアンサンブルに於いては特に、様々な楽器の特徴を知り、その楽器にあったアンサンブルができるよう実習する。ひとつの音楽を力を合わせ複数で創っていく喜びを感じてほしい。

授業計画 年間を通し、複数ハーブのアンサンブル、他楽器とのアンサンブルをそれぞれ 2 曲程度ずつ学習し、11 月のコンサートで成果を発表する。曲目に関しては、学生の技量により変更する場合がある。

第 1 回	他楽器とのアンサンブル 1, 2 年次 メンデルスゾーン“歌の翼に” 3, 4 年次 ドビュッシー“トリオ” 個人パート実習 譜読み	事前 課題曲のフィンガリングを入手して譜読み 事後 指摘のあった箇所の反復練習	50 分 50 分
第 2 回	他楽器とのアンサンブル 1, 2 年次 メンデルスゾーン“歌の翼に” 3, 4 年次 ドビュッシー“トリオ” 個人パート実習 テンポでの演奏	事前 テンポでの演奏に向けて個人練習 事後 指摘のあった箇所の反復練習	50 分 50 分
第 3 回	他楽器とのアンサンブル 1, 2 年次 メンデルスゾーン“歌の翼に” 3, 4 年次 ドビュッシー“トリオ” アンサンブル実習 タイミングを主に	事前 共演者とのアンサンブルリハーサル 事後 指摘のあった箇所の反復練習	50 分 50 分
第 4 回	他楽器とのアンサンブル 1, 2 年次 メンデルスゾーン“歌の翼に” 3, 4 年次 ドビュッシー“トリオ” アンサンブル実習 音楽的な掘り下げ	事前 共演者とのアンサンブルリハーサル 事後 指摘のあった箇所の反復練習	50 分 50 分
第 5 回	櫻樹祭に於けるコンサートに向けての共演者を伴っての実習、レスピーギ、サルツェード	事前 共演者とのアンサンブルリハーサル 事後 指摘のあった箇所の反復練習	50 分 50 分
第 6 回	櫻樹祭に於けるコンサートに向けての共演者を伴っての実習 プレス、モルナール	事前 共演者とのアンサンブルリハーサル 事後 指摘のあった箇所の反復練習	50 分 50 分
第 7 回	櫻樹祭に於けるコンサートに向けての共演者を伴っての実習 ビゼー、イペール、	事前 共演者とのアンサンブルリハーサル 事後 指摘のあった箇所の反復練習	50 分 50 分
第 8 回	櫻樹祭に於けるコンサートに向けての共演者を伴っての実習 メンデルスゾーン、ドビュッシー	事前 共演者とのアンサンブルリハーサル 事後 指摘のあった箇所の反復練習	50 分 50 分
第 9 回	櫻樹祭に於けるコンサートの総合演習	事前 演奏会の計画、時間配分の計算、プログラム作成 事後 指摘のあった箇所の反復練習	50 分 50 分
第 10 回	演奏会の復習、反省点の確認	事前 演奏会の録音を聴く 事後 来年度に向けての心構え、準備を確認	50 分 50 分
第 11 回	複数ハーブのオーケストラパート実習 1, 2 年次 ヴェルディ“運命の力” 3, 4 年次 ベルリオーズ“幻想交響曲”譜読み	事前 フィンガリング、ペダル、ガイドを書き込み、マイパートを作る 事後 指摘のあった箇所の反復練習	50 分 50 分
第 12 回	複数ハーブのオーケストラパート実習 1, 2 年次 ヴェルディ“運命の力” 3, 4 年次 ベルリオーズ“幻想交響曲”ハーブパート分奏	事前 共演者とのアンサンブルリハーサル 事後 指摘のあった箇所の反復練習	50 分 50 分
第 13 回	複数ハーブのオーケストラパート実習 1, 2 年次 ヴェルディ“運命の力” 3, 4 年次 ベルリオーズ“幻想交響曲”ピアノ、あるいは音源による伴奏とともに演奏	事前 音源と一緒に練習 事後 指摘のあった箇所の反復練習	50 分 50 分
第 14 回	ピアノパートをハーブで演奏する際のテクニック 1, 2 年次 マスナー“タイスの瞑想曲” 3, 4 年次パッサ フルートソナタ	事前 フィンガリングを入手して譜読み、ピアノでの演奏を視聴 事後 指摘のあった箇所の反復練習	50 分 50 分
第 15 回	まとめと補充	事前 今年度に学習した曲の復習 事後 来年度の計画を立てる。楽譜の入手	50 分 50 分

フィードバック 授業内でのコメント、および演奏会終了後に口頭で講評する

成績評価 授業への取り組み、演奏会での演奏の評価

テキスト 個々の演奏曲目の楽譜（入手困難な物は、授業開始時に配布）

オフィスアワー 1008 室 月曜日 11:00~19:00 火曜日 13:00~19:00 金曜日 13:10~14:40
E-mail : miekoinoue19@ybb.ne.jp

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働性	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>

管楽合奏 I-1・II-1・III・IV(木管 A)

非常勤講師 安原三保子／非常勤助教 板谷宏美

科目コード：ENS108／ENS208
ENS310／ENS407

対象コース／専門／学年： 器楽コース／フルート・クラリネット専門／3～4年次／オーボエ専門／1～4年次、
演奏家コース／フルート・オーボエ・クラリネット専門／1～4年次

形態：実習 単位数：1単位

概要 それぞれの楽器の特徴を理解し、演奏に反映させる技術を養う。
合奏の中で、音楽の自発性と責任感を育てる。

到達目標 演奏する上での、奏法をまとめ合っていく感覚を身につける。
「木管五重奏」の形態に慣れつつ、編曲された作品での役割や表現を学ぶ。

授業計画

【AL】

第1回	ガイダンス 授業の目標と進め方の確認	事前 学修計画案をたてる。 事後 楽譜など必要な準備をする。	50分 50分
第2回	ダンツィ「木管五重奏曲」g-moll (確認)	事前 音源で曲を聞いておく。譜読みと準備にとりくむ。 事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する。	50分 50分
第3回	ダンツィ「木管五重奏曲」g-moll (表現の工夫)	事前 問題を克服し、表現に繋がるよう準備する。 事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する。	50分 50分
第4回	ダンツィ「木管五重奏曲」g-moll (仕上げの演奏)	事前 曲の全体像を把握し、説得力を持って演奏できるよう練習する。 事後 演奏の内容を総括し、復習する。	50分 50分
第5回	チャイコフスキー「くるみわり人形」編曲版 (確認)	事前 原曲の総譜と照合し、編曲を確認しておく。 事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する。	50分 50分
第6回	チャイコフスキー「くるみわり人形」編曲版 (確認・表現の工夫)	事前 問題を克服し、表現に繋がるよう準備する。 事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する。	50分 50分
第7回	チャイコフスキー「くるみわり人形」編曲版 (表現の工夫)	事前 問題を克服し、表現に繋がるよう準備する。 事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する。	50分 50分
第8回	チャイコフスキー「くるみわり人形」編曲版 (仕上げの演奏)	事前 曲の全体像を把握し、説得力を持って演奏できるよう練習する。 事後 演奏の内容を総括し、復習する。	50分 50分
第9回	ファルカシュ「木管五重奏曲」(確認、表現の工夫)	事前 音源で曲を聞いておく。譜読みと準備にとりくむ。 事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する。	50分 50分
第10回	ファルカシュ「木管五重奏曲」(表現の工夫、仕上げの演奏)	事前 曲の全体像を把握し、説得力を持って演奏できるよう練習する。 事後 演奏の内容を総括し、復習する。	50分 50分
第11回	ハイドン「ディヴェルティメント」(確認)	事前 音源で曲を聞いておく。譜読みと準備にとりくむ。 事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する。	50分 50分
第12回	ハイドン「ディヴェルティメント」(表現の工夫)	事前 問題を克服し、表現に繋がるよう準備する。 事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する。	50分 50分
第13回	ハイドン「ディヴェルティメント」(仕上げの演奏)	事前 曲の全体像を把握し、説得力を持って演奏できるよう練習する。 事後 演奏の内容を総括し、復習する。	50分 50分
第14回	ブーランク「ノヴェレッタ」	事前 譜読みと準備にとりくむ。 事後 説得力を持って演奏できるよう復習する。	50分 50分
第15回	ミヨー「ルネ王の暖炉」(確認)	事前 音源で曲を聞いておく。譜読みと準備にとりくむ。 事後 是正にむけて練習する。前期の総括。	50分 50分

フィードバック 授業中のアドバイス。演奏する側としてだけでなく、聞き手として、客観的・建設的に進めていく。

成績評価 授業などへのとりくみを見て評価。

テキスト 授業中に指示する。人数によって、いくつかのグループに分ける場合もある。

オフィスアワー 授業終了後、教室にて。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・他理解	生涯学習意欲
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

管楽合奏 I-2・II-2・III・IV(木管 A)

非常勤講師 安原三保子／非常勤助教 板谷宏美

科目コード：ENS109／ENS209
ENS311／ENS408

対象コース／専門／学年： 器楽コース／フルート・クラリネット専門／3～4年次／オーボエ専門／1～4年次、
演奏家コース／フルート・オーボエ・クラリネット専門／1～4年次

形態：実習 単位数：1単位

概要 それぞれの楽器の特徴を理解し、演奏に反映させる技術を養う。
合奏の中で、音楽の自発性と責任感を育てる。

到達目標 演奏する上での、奏法をまとめ合っていく感覚を身につける。
「木管五重奏」の形態に慣れつつ、編曲された作品での役割や表現を学ぶ。

授業計画

【AL】

第1回	ミヨー「ルネ王の暖炉」(表現の工夫)	事前 問題を克服し、表現に繋がるよう準備する。 事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する。	50分 50分
第2回	ミヨー「ルネ王の暖炉」(仕上げの演奏)	事前 曲の全体像を把握し、説得力を持って演奏できるよう練習する。 事後 演奏の内容を総括し、復習する。	50分 50分
第3回	ムソルグスキー「展覧会の絵」編曲版(確認)	事前 原曲の総譜と照合し、編曲を確認しておく。 事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する。	50分 50分
第4回	ムソルグスキー「展覧会の絵」編曲版(確認・表現の工夫)	事前 問題を克服し、表現に繋がるよう準備する。 事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する。	50分 50分
第5回	ムソルグスキー「展覧会の絵」編曲版(表現の工夫)	事前 問題を克服し、表現に繋がるよう準備する。 事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する。	50分 50分
第6回	ムソルグスキー「展覧会の絵」編曲版(仕上げの演奏)	事前 曲の全体像を把握し、説得力を持って演奏できるよう練習する。 事後 演奏の内容を総括し、復習する。	50分 50分
第7回	イベール「3つの断章」(確認・表現の工夫)	事前 音源で曲を聞いておく。譜読みと準備にとりくむ。 事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する。	50分 50分
第8回	イベール「3つの断章」(表現の工夫・仕上げの演奏)	事前 問題を克服し、表現に繋がるよう準備する。 事後 演奏の内容を総括し、復習する。	50分 50分
第9回	タファネル「木管五重奏曲」(確認)	事前 音源で曲を聞いておく。譜読みと準備にとりくむ。 事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する。	50分 50分
第10回	タファネル「木管五重奏曲」(表現の工夫)	事前 曲の全体像を把握し、説得力を持って演奏できるよう練習する。 事後 演奏の内容を総括し、復習する。	50分 50分
第11回	タファネル「木管五重奏曲」(仕上げの演奏)	事前 音源で曲を聞いておく。譜読みと準備にとりくむ。 事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する。	50分 50分
第12回	リゲティ「6つのバガテル」(確認)	事前 音源で曲を聞いておく。譜読みと準備にとりくむ。 事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する。	50分 50分
第13回	リゲティ「6つのバガテル」(表現の工夫)	事前 問題を克服し、表現に繋がるよう準備する。 事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する。	50分 50分
第14回	リゲティ「6つのバガテル」(確認)	事前 曲の全体像を把握し、説得力を持って演奏できるよう練習する。 事後 演奏の内容を総括し、復習する。	50分 50分
第15回	1年間のまとめ	事前 1年間のとりくみについて確認する。 事後 反省点をもとに、今後の課題を明確にする。	50分 50分

フィードバック 授業中のアドバイス。演奏する側としてだけでなく、聞き手として、客観的・建設的に進めていく。

成績評価 授業などへのとりくみを見て評価。

テキスト 授業中に指示する。人数によって、いくつかのグループに分ける場合もある。

オフィスアワー 授業終了後、教室にて。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発働能力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

管楽合奏 I-1・II-1・III・IV(木管B)

特任教授 三上明子

科目コード：ENS108／ENS208
ENS310／ENS407

対象コース／専門／学年： 器楽コース／フルート専門／1～2 年次、演奏家コース／フルート専門／1～4 年次

形態：実習

単位数：1 単位

概要 フルード合奏を学ぶ授業である。時代・様式の違う楽曲を取り上げる。

到達目標 フルード合奏を経験することによって、アンサンブルの基本を学ぶことを目標とする。授業のねらいは、①集団のなかで、個人レッスンとは違った観点から、基礎フルード奏法について学ぶ ②和声・テンポ・フレーズ感を身に付ける ③音楽の自発性と責任感を育てる④ピッコロ、アルトフルード、バスフルードを体験する の4点である。さらに、本番をこなせる実践力を養いたい。

授業計画		
【AL】		
第1回	授業の目標と進め方の確認	事前 学修計画案をたてる 事後 学修計画を確認し、楽譜等今後必要な準備をする 50分
第2回	基礎訓練的な練習①	事前 基礎訓練的な練習の準備をする 事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する 50分
第3回	基礎訓練的な練習② 問題箇所の見直し	事前 引き続き、問題個所の是正に取り組む 事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する 50分
第4回	合奏曲①確認	事前 合奏曲①、曲①の譜読みと準備に取り組む 事後 合奏曲①の問題箇所を確認し、是正にむけて練習する 50分
第5回	合奏曲①表現の工夫	事前 合奏曲①の表現に取り組む 事後 合奏曲①の表現を更に身に付ける 50分
第6回	合奏曲①仕上げの演奏	事前 合奏曲①の完成を目指す 事後 合奏曲①のまとめを行う 50分
第7回	合奏曲②確認	事前 合奏曲②、曲①の譜読みと準備に取り組む 事後 合奏曲②の問題箇所を確認し、是正にむけて練習する 50分
第8回	合奏曲②表現の工夫	事前 合奏曲②の表現に取り組む 事後 合奏曲②の表現を更に身に付ける 50分
第9回	合奏曲②仕上げの演奏	事前 合奏曲②の完成を目指す 事後 合奏曲②のまとめを行う 50分
第10回	合奏曲③確認	事前 合奏曲③曲①の譜読みと準備に取り組む 事後 合奏曲③の問題箇所を確認し、是正にむけて練習する 50分
第11回	合奏曲③表現の工夫	事前 合奏曲③の表現に取り組む 事後 合奏曲③の表現を更に身に付ける 50分
第12回	合奏曲③仕上げの演奏	事前 合奏曲③の完成を目指す 事後 合奏曲③のまとめを行う 50分
第13回	合奏曲④確認	事前 合奏曲④の譜読みと準備に取り組む 事後 合奏曲④の問題箇所を確認し、是正にむけて練習する 50分
第14回	合奏曲④表現の工夫	事前 合奏曲④の表現に取り組む 事後 合奏曲④の表現を更に身に付ける 50分
第15回	合奏曲④仕上げの演奏	事前 合奏曲④の完成を目指す 事後 合奏曲④のまとめを行う 50分

フィードバック 授業ノートを作成し、学生の記録と感想に 教員がコメントを返す。

成績評価 授業への取り組み等を見て評価

テキスト 授業中に指示する。(学年、人数によっていくつかのグループに分ける場合もある)

オフィスアワー 質問は、授業終了後、教室にて。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発働力	グローバルな視野	社会的責任・他理解	生涯学習意欲
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

管楽合奏 I-2・II-2・III・IV(木管B)

特任教授 三上明子

科目コード：ENS109/ENS209

ENS311/ENS408

対象コース/専門/学年： 器楽コース/フルート専門/1~2 年次、演奏家コース/フルート専門/1~4 年次

形態：実習

単位数：1 単位

概要 フルート合奏を学ぶ授業である。時代・様式の違う楽曲を取り上げる。

到達目標 フルート合奏を経験することによって、アンサンブルの基本を学ぶことを目標とする。授業のねらいは、①集団のなかで、個人レッスンとは違った観点から、基礎フルート奏法について学ぶ ②和声・テンポ・フレーズ感を身に付ける ③音楽の自発性と責任感を育てる ④ピッコロ、アルトフルート、バスフルートを体験するの4点である。さらに、本番をこなせる実践力を養いたい。

授業計画		
【AL】		
第1回	後期の目標と進め方の確認	事前 後期の学修計画案をたてる 事後 学修計画を確認し、楽譜等今後必要な準備をする 50分
第2回	基礎訓練的な練習③	事前 基礎訓練的な練習の準備をする 事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する 50分
第3回	基礎訓練的な練習④ 問題箇所の見直し	事前 引き続き、問題個所は是正に取り組む 事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する 50分
第4回	合奏曲⑤確認	事前 合奏曲⑤の譜読みと準備に取り組む 事後 合奏曲⑤の問題箇所を確認し、是正にむけて練習する 50分
第5回	合奏曲⑤表現の工夫	事前 合奏曲⑤の表現に取り組む 事後 合奏曲⑤の表現を更に身に付ける 50分
第6回	合奏曲⑤仕上げの演奏	事前 合奏曲⑤の完成を目指す 事後 合奏曲⑤のまとめを行う 50分
第7回	発表会①	事前 発表会①の準備をする 事後 発表会①のまとめを行う 50分
第8回	合奏曲⑥確認	事前 合奏曲⑥の譜読みと準備に取り組む 事後 合奏曲⑥の問題箇所を確認し、是正にむけて練習する 50分
第9回	合奏曲⑥表現の工夫	事前 合奏曲⑥の表現に取り組む 事後 合奏曲⑥の表現を更に身に付ける 50分
第10回	合奏曲⑥仕上げの演奏	事前 合奏曲⑥の完成を目指す 事後 合奏曲⑥のまとめを行う 50分
第11回	合奏曲⑦確認	事前 合奏曲⑦の譜読みと準備に取り組む 事後 合奏曲⑦の問題箇所を確認し、是正にむけて練習する 50分
第12回	合奏曲⑦表現の工夫	事前 合奏曲⑦の表現に取り組む 事後 合奏曲⑦の表現を更に身に付ける 50分
第13回	合奏曲⑦仕上げの演奏	事前 合奏曲⑦の完成を目指す 事後 合奏曲⑦のまとめを行う 50分
第14回	発表会②	事前 発表会②の準備をする 事後 発表会②のまとめを行う 50分
第15回	1年間のまとめ	事前 一年間の取り組みの問題点を確認する 事後 来年度についての課題に取り組む 50分

フィードバック 授業ノートを作成し、学生の記録と感想に 教員がコメントを返す。

成績評価 授業への取り組み等を見て評価

テキスト 授業中に指示する。(学年、人数によっていくつかのグループに分ける場合もある)

オフィスアワー 質問は、授業終了後、教室にて。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・他理解	生涯学習意欲
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

管楽合奏 I-1・II-1・III・IV(木管 C)

准教授 荒井伸一

科目コード：ENS108/ENS208
ENS310/ENS407

対象コース/専門/学年：器楽コース/クラリネット専門/1~2年次、演奏家コース/クラリネット専門/1~4年次

形態：実習 単位数：1単位
概要 見落とし、見過ごしがちなクラリネットの成り立ちにスポットを当て各人の奏法を見直していく。専門的な理論を会得し、机上の空論に陥らずに実践とからめていく。演奏の授業なので奏法の研究は避けられない。

到達目標 音楽の実践には何が必要なのか、という意識を個人個人が持てるようにする。演奏で最も重要なものの一つに「発音」がある。アンサンブルは複数人数で行うものなので、どの学生も第3者に対しテンポ、リズム、音楽の「在り方」を示唆できるようにする。

授業計画 年間を通じ、合奏の基礎能力を養っていく。まず、3和音を美しく響かせること、長調・短調の認識をしっかりと持つこと。自らの体内に存在するリズムと、作品の持っているリズムを同化させることも必要である。それらは個々の楽曲によって異なるため、あらゆる種類の音楽教材を学生に体験させる。第3者の音を聴くことは、また自己の奏法の確立を前提とする。基本的奏法の認識は、本実習でも扱っていく。

第1回	純正律の認識をもつ	事前 石塚真礼生他共著の「楽典」の純正律を通読する 事後 講義中の実演を実際に試してみる	50分 50分
第2回	管楽器の基本奏法とその実践	事前 第1回に説明した基本奏法を安定させておく 事後 講義中の内容を自らの奏法に照らし合わせてみる	50分 50分
第3回	リードの成り立ちとその製造過程の解説	事前 前回の中で取り扱ったアンブシュアについて再確認する 事後 授業中出てきた重要単語を覚える	60分 40分
第4回	音楽的根拠による奏法の確認	事前 第1~3回で行った事柄のまとめをレポート用紙に作る 事後 マテリアルと身体との関連付けを再認識する	60分 40分
第5回	マウスピース・リード・リガチュアの組み合わせと演奏実習	事前 第4回に配布した資料に目を通しておく 事後 授業では概論だったので個人の奏法に照らし合わせる	70分 30分
第6回	呼吸法と身体の働きを実践する	事前 各自呼吸に関することを調べておく 事後 いわゆる「からだで覚える」演習を行う	50分 50分
第7回	統一的奏法の研究	事前 第1~6回の総括を各自まとめておく 事後 一般概念を自らの奏法に適合させる	40分 60分
第8回	キュフナーの「教育的二重奏」	事前 配布した譜面の2つのパートに目を通しておく 事後 グループを作り、演奏実習をしておく	30分 70分
第9回	クローゼ「15の練習曲・第1番」を用いたアンサンブル実習	事前 2つのパートの譜読みを予めしておく 事後 困難な箇所を練習し直しておく	50分 50分
第10回	クローゼ「15の練習曲・第9番」を用いたアンサンブル実習	事前 2つのパートの譜面を練習しておく 事後 左記2曲をアンサンブル練習しておく	50分 50分
第11回	各種三和音の作成と音程感を養う	事前 三和音の種類について予め調べておく 事後 ピアノで様々な三和音を弾き耳の感覚を養う	35分 65分
第12回	ネリバル「9つの三重奏曲」による実習	事前 事前に配布した譜面の全パートを練習する 事後 授業から離れ、自発的に演奏実習をする	70分 30分
第13回	古典様式を知る〜モーツァルトの作品から	事前 配布した譜面を事前に練習しておく 事後 古典様式に於けるドラマを自らのイメージで作り上げる	40分 60分
第14回	古典様式の構成概論	事前 前回作ったイメージを授業内で発表する準備をする 事後 古典様式のまとめをレポートにて作成する	30分 70分
第15回	前期のまとめ	事前 マテリアルと身体、二重奏・三重奏の実践のまとめをしておく 事後 古典作品から一曲選び演奏をする	80分 20分

フィードバック 前期は主に教員からの教授に依るが、出来るだけ早いうちに自発的に音楽を実践できるようにすることが目標なので、ことあるごとに自発的なアンサンブルをさせてフィードバックする。

成績評価 クラリネットの基本知識の理解度は最も問われるところだ。また、少数単位である二重奏を自発的に行えるかどうかを評価する。

テキスト 授業進度によりその都度配布する。

オフィスアワー Eメールにて対応する。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>						

管楽合奏 I-2・II-2・III・IV(木管 C)

准教授 荒井伸一

科目コード：ENS109/ENS209
ENS311/ENS408

対象コース/専門/学年：器楽コース/クラリネット専門/1~2年次、演奏家コース/クラリネット専門/1~4年次

形態：実習

単位数：1単位

概要 指揮がつかない合奏は最大6名までと考え、この範囲で自発的アンサンブルを行えるよう指導していく。大切なことはどのパートを演奏しようとするか、一人一人が合奏の主役である、という認識だ。この「意識」が後々の他の楽器との合奏、ひいてはオーケストラにおけるアンサンブルにも重要となってくる。

到達目標 アンサンブル能力の会得に尽きる。管楽器に於ける最重要ポイントは発音だ。音楽に適したニュアンス、音程、音量などが実践出来、テンポを創り出せるような能力を身につけさせる。

授業計画 年間を通じ、合奏の基礎能力を養っていく。まず、3和音を美しく響かせること、長調・短調の認識をしっかりと持つこと。自らの体内に存在するリズムと、作品の持っているリズムを同化させることも必要である。それらは個々の楽曲によって異なるため、あらゆる種類の音楽教材を学生に体験させる。第3者の音を聴くことは、また自己の奏法の確立を前提とする。基本的奏法の認識は、本実習でも扱っていく。

第1回	バッハ＝コラール集による四声体演習	事前 ここからは四声体主流になるので配布した資料をピアノで弾く 事後 各声部を交代し、実習する	50分 50分
第2回	ジェイコブ/スケルツォ、パヴァーヌとゴバック	事前 全パートを通読しておく 事後 自発的にテンポを設定し、実習しておく	80分 20分
第3回	四重奏実習 トマジ/3つの喜遊曲	事前 全パートを通読しておく 事後 授業内では概要の組み立てをするので自発的に演奏する	20分 80分
第4回	四重奏演習 トンプソン/都市の情景	事前 「拍節の定義」を通読しておく 事後 スイング感覚を繰り返し学習の中で覚える	80分 20分
第5回	四重奏研究 デボルト/フランス組曲	事前 スコアを読んでおくこと 事後 困難な箇所を練習しておくこと	50分 50分
第6回	四重奏実習 ハイム/祝典組曲	事前 配布されたパートを予習しておくこと 事後 曲の性格を改めて浮き彫りにして演奏する	80分 20分
第7回	四重奏演習 ウォーターソン/大四重奏	事前 事前に楽譜に目を通しておく 事後 作品の持っている性格を自発的に表わすよう演奏する	80分 20分
第8回	四重奏演習 デボルト/イタリア組曲	事前 各曲のタイトルの邦訳と特徴を調べておく 事後 各曲の性格が表現できているか省みて演奏	20分 80分
第9回	四重奏研究 ウール/ディヴェルティメント 第1楽章	事前 ディナーミクスに注意して読譜する 事後 他のパートの音を聴いて演奏できているかどうか確認する	50分 50分
第10回	四重奏研究 ウール/ディヴェルティメント 第2・3楽章	事前 前もってハーモニー感覚を養っておく 事後 一つの作品を完成させる方向で演習する	50分 50分
第11回	四重奏実習 ダマーズ/4対4	事前 各曲の性格を予め把握しておく 事後 ウールとの作乐的差異を表現する	40分 60分
第12回	クラリネット・クワイヤー ネリベル/コラールとダンス	事前 細い動きを明確に表現できるようにしておく 事後 ネリベルの特徴を表せるように演習する	80分 20分
第13回	クラリネット・クワイヤー バルトーク/ルーマニア民族舞曲	事前 バルトークの作品を音源などによって触れておく 事後 各曲の特徴が現れるように演奏する	80分 20分
第14回	クラリネット・クワイヤー ラヴェル/古風なるメヌエット	事前 正確に演奏できるよう譜面に通じておく 事後 ラヴェルの透明な音質を表現できるよう演奏	50分 50分
第15回	クラリネット・クワイヤー ドビュッシー/アラバスク第2番	事前 原曲であるピアノの演奏を聴いておく 事後 演奏そのものを楽しめるような技術を習得する	20分 80分

フィードバック 編成が大きくなれば、人間関係も重要になってくる。後期からは学生同士でアンサンブルを組織、練習を積んでほしい。自発的な演奏は音楽における重要な要素だ。数回に一度の“本番のステージ”を踏ませる授業を行い、フィードバックする。

成績評価 合奏体に対する積極的取り組みの態度と実践が評価の対象だ。各パートに対する理解力と一人一人が作品を創り上げていっているかどうか問われる。

テキスト 授業進度によりその都度配布する。

オフィスアワー Eメールにて対応する。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				

管楽合奏 I-1・II-1・III・IV(木管 D)

教授 彦坂真一郎

科目コード：ENS108/ENS208
ENS310/ENS407

対象コース/専門/学年： 器楽・演奏家コース/サクソフォン専門/1~4 年次

形態：実習	単位数：1 単位
概要	サクソフォンにとってもっとも一般的な演奏形態である、ソプラノ、アルト、テナー、バリトンの四種類のサクソフォンを使用したサクソフォン四重奏曲を中心に学習してゆく。

到達目標 それぞれの楽器の奏法上の特質を理解し、実際の演奏に反映させる技術を養うと同時に、他者の音楽を聴きながら四重奏の中での自身の役割を認識し、自身の音楽を他者の音楽に同期させる能力を養うことを目標とする。

授業計画 履修学生各々の能力に応じた楽曲のグループに分かれ、各回のテーマに焦点をあてながら、楽曲の分析力、各要素の認識力、技術力を高めてゆく。

【AL】		
第 1 回	音楽とは何か (変化する要素について)	事前 変化する要素とは何か、自分なりに項目を挙げ考えておく 事後 各要素と音楽の関係を具体的に考察する 50 分
第 2 回	エントロピーと音楽の関係	事前 一般的にエントロピーとはどのようなことか予習しておく 50 分 事後 エントロピーと音楽との関連性について考察を深める 50 分
第 3 回	サクソフォンにおける室内楽の特徴	事前 室内楽におけるサクソフォンについて予習しておく 50 分 事後 実際の録音などを聴き実感する 50 分
第 4 回	奏法概論 1 アンブシュア (音を生み出す仕組み)	事前 アンブシュアとは何か、自分なりで考察する 30 分 事後 授業の内容を自分に応用する 70 分
第 5 回	奏法概論 2 タンギング (発音とは何か)	事前 タンギングとは何か自分なりに考察する 30 分 事後 タンギングと発音の関係を明確にする 70 分
第 6 回	奏法概論 3 音量のコントロール (響きと力)	事前 音量とは、響きとは何かを考察しておく 30 分 事後 音量、響き、力の関係性を明確にする 70 分
第 7 回	奏法概論 4 ヴィブラート (方法と用い方)	事前 ヴィブラートのかけ方を自分なりに説明できるようにしておく 30 分 事後 ヴィブラートのかけ方とその用い方を習得する 70 分
第 8 回	奏法概論 5 ブレス	事前 呼吸法について予習しておくこと 30 分 事後 腹式呼吸をできるように訓練すること 70 分
第 9 回	奏法概論 6 運指	事前 自分の指の使い方はどのようなになっているか観察しておくこと 30 分 事後 効率的に指を使う訓練をすること 70 分
第 10 回	奏法概論 7 チューニング	事前 チューニングは何のために行うのか、考察しておくこと 30 分 事後 チューニングの訓練をすること 70 分
第 11 回	奏法概論 8 集中力の認識とその移動について	事前 演奏に必要な集中力とはどのようなことか考察しておくこと 30 分 事後 効率的に集中力を移動させる訓練をすること 70 分
第 12 回	演奏に必要な道具の選び方 (マウスピース、リード、ストラップ等)	事前 自分の道具には何があるか確認しておくこと 50 分 事後 道具を選び、メンテナンスを行うこと 50 分
第 13 回	ソプラノ・サクソフォンの奏法について	事前 ソプラノ・サクソフォンを実際に吹いておくこと 50 分 事後 ソプラノ・サクソフォンを吹き、慣れること 50 分
第 14 回	アルト・サクソフォンの奏法について	事前 アルト・サクソフォンを実際に吹いておくこと 50 分 事後 アルト・サクソフォンを吹き、慣れること 50 分
第 15 回	テナー・サクソフォンの奏法について	事前 テナー・サクソフォンを実際に吹いておくこと 50 分 事後 テナー・サクソフォンを吹き、慣れること 50 分

フィードバック 各教員から学生へのフィードバックは、必要に応じて常に行われる。

成績評価 最終的に体得した能力 (50%) 普段の授業での取り組み方 (50%)

テキスト La veillée de l'ange gardien/Gabriel Pierre
Chanson de grand'maman/ Gabriel Pierre
Quatuor pour saxophones/F.M.Jeanjean
Andante et scherzo/Eugene Bozza
Quatuor pour saxophones/Alfred Desenclos
他、グループごとに適宜指示して行く。

オフィスアワー E-mail:hikohiko@gc4.so-net.ne.jp

備考 グループごとに必ず予習をして授業に臨むこと。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・他理解	生涯学習意欲
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

管楽合奏 I-2・II-2・III・IV(木管 D)

教授 彦坂真一郎

科目コード：ENS109/ENS209

ENS311/ENS408

対象コース/専門/学年： 器楽・演奏家コース/サクソフォン専門/1~4 年次

形態：実習

単位数：1 単位

概要 演奏会での演目を踏まえ、様々な編成での演奏法を学んで行く。特に履修者全員でのアンサンブルにも時間を使う。

到達目標 より多人数での演奏技術を学ぶ。また、コンサートで聴衆を納得させることができる演奏を目指す。

授業計画 履修学生各々の能力に応じた楽曲のグループに分かれ、各回のテーマに焦点をあてながら、楽曲の分析力、各要素の認識力、技術力を高めてゆく。

【AL】

第 1 回	バリトン・サクソフォンの奏法について	事前	バリトン・サクソフォンを実際に吹いておくこと	50 分
		事後	バリトン・サクソフォンを吹き、慣れること	50 分
第 2 回	ソプラニーノ・サクソフォンの奏法について	事前	ソプラニーノ・サクソフォンを実際に吹いておくこと	50 分
		事後	ソプラニーノ・サクソフォンを吹き、慣れること	50 分
第 3 回	バス・サクソフォンの奏法について	事前	バス・サクソフォンを実際に吹いておくこと	50 分
		事後	バス・サクソフォンを吹き、慣れること	50 分
第 4 回	音程の認識とコントロール	事前	音程とは何かを予習しておくこと	30 分
		事後	音程の聞き方とコントロールの仕方を訓練すること	70 分
第 5 回	演奏における基本的ルール 1 (音価の違いによる音量のコントロール)	事前	音価による表現の違いとは何を意味するか考えておくこと	30 分
		事後	エチュードなどを用い、具体的に表現してみる	70 分
第 6 回	演奏における基本的ルール 2 (音の高低の違いによる音量のコントロール)	事前	音の高低による表現の違いとは何を意味するか考えておくこと	30 分
		事後	エチュードなどを用い、具体的に表現してみる	70 分
第 7 回	主旋律と対旋律 (一般論と例外について)	事前	主旋律と対旋律について調べておくこと	30 分
		事後	実際に意識しながら実践すること	70 分
第 8 回	演奏における自我と無私の考察 (感覚の置換)	事前	演奏時における集中力とは何を指すか考えておくこと	30 分
		事後	授業をふまえ、集中力を動かす訓練をすること	70 分
第 9 回	演奏行為とは何か	事前	演奏行為とは何かを考えてくること	30 分
		事後	授業をふまえて実際に演奏をすること	70 分
第 10 回	バランスの認識とコントロール	事前	演奏表現におけるバランスとは何を指すか考えておくこと	30 分
		事後	授業をふまえて実際に演奏をすること	70 分
第 11 回	ラージ (多人数) アンサンブルの実践 1 (音程のコントロール)	事前	楽譜通りの音程で演奏できるように練習をしておくこと	30 分
		事後	授業をふまえて実際に演奏をすること	70 分
第 12 回	ラージアンサンブルの実践 2 (パートごとの特徴について)	事前	楽譜通りに演奏できるように各パートごとに練習をしておくこと	30 分
		事後	授業をふまえて実際に演奏をすること	70 分
第 13 回	ラージアンサンブルの実践 3 (バランスのコントロール)	事前	曲の場面ごとのバランスをイメージしておくこと	30 分
		事後	授業をふまえて実際に演奏をすること	70 分
第 14 回	コンサートのプログラミング	事前	過去のコンサートのプログラムを調べておくこと	30 分
		事後	実際にプログラムを考えること	70 分
第 15 回	サクソフォンの室内楽指導法	事前	自分なりに指導方法を考えておくこと	50 分
		事後	授業をふまえて実践してみる	50 分

フィードバック 各教員から学生へのフィードバックは、必要に応じて常に行われる。

成績評価 最終的に体得した能力 (50%) 普段の授業での取り組み方 (50%)

テキスト La veillée de l'ange gardien/Gabriel Pierne
Chanson de grand'maman/ Gabriel Pierne
Quatuor pour saxophones/F.M.Jeanjean
Andante et scherzo/Eugene Bozza
Quatuor pour saxophones/Alfred Desenclos
他、グループごとに適宜指示して行く。

オフィスアワー E-mail:hikohiko@gc4.so-net.ne.jp

備考 グループごとに必ず予習をして授業に臨むこと。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	ミニマソフォン技能	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・他理解	生涯学習意欲
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

管楽合奏 I-1・II-1・III・IV(金管)

非常勤講師 海保泉／非常勤講師 萩原顕彰

科目コード：ENS108／ENS208

ENS310／ENS407

対象コース／専門／学年：器楽・演奏家コース／金管楽器専門／1～4 年次

形態：実習

単位数：1 単位

概要 金管楽器専門生全員で行う、合奏能力の向上を目指す授業である。ソロでは出来ない和音のハーモニー、各々のパートの役割などを、実際の演奏を通して学習していく。

到達目標 合奏に於いて、美しいハーモニーを成立させるためには、純正律を理解し、それを実践出来るようになる必要がある。理論を踏まえた実際の演奏を通して、その美しいハーモニーを体感し、音程のとり方を身に付ける事を第一目標としながら、二重奏からオーケストラまで、多様なアンサンブルの場での合奏能力の向上を目指して授業を進める。

授業計画 第1～2回では純正律を知り、ハーモニーの基本を学ぶ。第3～10回では二重奏～四声コーラル集（Da oane Summa、コーラル名曲集、J.S.Bach:22のコーラル集）を教材にしてハーモニーの成立を実践し、音程感覚、バランス感覚を養う。第10回からは三重奏～九重奏の楽曲に取り組む予定。その他、オーケストラの中から、金管セクションとして知っておきたい部分、体験しておきたい部分を抜粋して取り上げ、オーケストラ、アンサンブル等での合奏の基本を演習していく。

第1回	オリエンテーション、コピー譜の製本法の学習、及び純正律ハーモニーの理解。	事前 自己紹介の内容を考えておく。 事後 配られた純正律表を学習しておく。Bachのコーラル譜を製本する。	20分 80分
第2回	ハーモニーの基本である長3度、短3度の合わせ方。Da oane Summa No.37を教材に、和音感覚を実習。	事前 純正律表で長3度、短3度のプラス、マイナスのセント値を理解しておく。 事後 No.37を学生同士で合わせる練習をしてみる。	50分 50分
第3回	J.S.Bach:22のコーラル集をNo.1からスタート。ハーモニー上のキーとなる音の見極めと、音程の取り方を学ぶ。	事前 コーラル集No.1のハーモニー上のキーとなる音をチェックしておくこと。 事後 No.1をパートを替えて他の学生ともハーモニーをトレーニングしてみる。	50分 50分
第4回	J.S.Bach:「22のコーラル集」、No.2,No.3。ハーモニーを演習。	事前 No.2,No.3を練習しておく。 事後 No.2,No.3をパートを替えてもハーモニーが成立するかを確かめる。	50分 50分
第5回	J.S.Bach:「22のコーラル集」、No.4,No.5。ハーモニーを演習。	事前 No.4,No.5の和音をチェックし、練習をしておく。 事後 No.4,No.5をパートを替えて練習をしてみる。	50分 50分
第6回	J.S.Bach:「22のコーラル集」、No.6,No.7。ハーモニーを演習。	事前 No.6,No.7の和音をチェックし、練習をしておく。 事後 No.6,No.7のパートを替えて、ハーモニーの成立を確認すること。	50分 50分
第7回	J.S.Bach:「22のコーラル集」、No.8,No.9。ハーモニーを演習。	事前 No.8,No.9の和音をチェックし、練習をしておく。 事後 No.8,No.9のパートを替えて、ハーモニーの成立を確認する。	50分 50分
第8回	J.S.Bach:「22のコーラル集」、No.10,No.11。ハーモニーを演習。	事前 No.10,No.11の和音をチェックし、練習をしておく。 事後 No.10,No.11のパートを替えて、ハーモニー練習をすること。	50分 50分
第9回	コーラル名曲集 inC 譜を教材とした移調読みの対応を学ぶ。	事前 B管、F管でも inC 譜が読めるように練習しておく。 事後 パートを替えても演奏が出来るかを確認する。	50分 50分
第10回	コーラル名曲集及び Bach:「22のコーラル集」、No.12。ハーモニー及び音楽の進行(起承転結)を学ぶ。	事前 ハーモニーと共に、音楽の成り立ちを考えておく。 事後 パートを替えてもやってみておくこと。	50分 50分
第11回	コーラル名曲集及び Bach:「22のコーラル集」、No.13。ハーモニー及び音楽進行を学ぶ。	事前 ハーモニーのチェックと音楽進行を考えておく。 事後 パートを替えてもやってみる。	50分 50分
第12回	コーラル名曲集及び Bach:「22のコーラル集」、No.14。ハーモニー及び和音に対する感性を学ぶ。	事前 移調読み、音楽進行など、トータルでの演奏練習をしておく。 事後 パートを替えてもやってみる。	50分 50分
第13回	R.シュトラウス:「ウィーン・フィルのためのファンファーレ」のパート決めと譜読み。	事前 音源を探して聴いておくこと。 事後 自分のパートをよく練習しておく。	50分 50分
第14回	R.シュトラウス:「ウィーン・フィルのためのファンファーレ」の練習。	事前 自分のパートの音楽的役割やハーモニー成立のために音程チェック。 事後 授業で注意されたことを基に、練習を重ねておく。	50分 50分
第15回	R.シュトラウス:「ウィーン・フィルのためのファンファーレ」の仕上げ。	事前 授業で曲が仕上がるように練習をしておくこと。 事後 仕上がった物と、一流演奏家の演奏を聴き比べてみる。	50分 50分

フィードバック 学んだ演奏知識が実際の演奏で機能できているか、その都度チェックしていく。

成績評価 授業への取り組みと、学修成果を見て判断する。

テキスト J. S. BACH 『22のコーラル集』 他

オフィスアワー 授業の前後に受け付ける。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	

管楽合奏 I-2・II-2・III・IV(金管)

非常勤講師 海保泉／非常勤講師 萩原顕彰

科目コード：ENS109／ENS209

ENS311／ENS408

対象コース／専門／学年：器楽・演奏家コース／金管楽器専門／1～4年次

形態：実習

単位数：1単位

概要 金管楽器専門生全員で行う、合奏能力の向上を目指す授業である。ソロでは出来ない和音のハーモニー、各々のパートの役割などを、実際の演奏を通して学習していく。

到達目標 合奏に於いて、美しいハーモニーを成立させるためには、純正律を理解し、それを実践出来るようになる必要がある。理論を踏まえた実際の演奏を通して、その美しいハーモニーを体感し、音程のとり方を身に付ける事を第一目標としながら、二重奏からオーケストラまで、多様なアンサンブルの場での合奏能力の向上を目指して授業を進める。

授業計画 第1～2回では純正律を知り、ハーモニーの基本を学ぶ。第3～10回では二重奏～四声コーラル等 (Da oane Zumma、コーラル名曲集、J.S.Bach:22のコーラル集)を教材にしてハーモニーの成立を実践し、音程感覚、バランス感覚を養う。第10回からは三重奏～十重奏の楽曲に取り組む予定。その他、オーケストラの中から、金管セクションとして知っておきたい部分、体験しておきたい部分を抜粋して取り上げ、オーケストラ、アンサンブル等での合奏の基本を演習していく。

第1回	G.ガブリエリ：カンツォン、コラル名曲集、Bach：「22のコーラル集」、No.15。	事前 練習しておく。 事後 反省点の練習をしておくこと。	50分 50分
第2回	G.ガブリエリ：カンツォン、Bach：「22のコーラル集」、No.16。 コラルの構成和音から色や感情を読み取る感性を磨く。	事前 練習をしておくこと。 事後 反省点の練習をすること。	50分 50分
第3回	シューベルト：「軍隊行進曲」。 曲から独特のウィーン情緒を感じ、それを音楽表現に結び付けられるように。	事前 ウィンナーワルツなどを聴いておく。 事後 反省点の練習。	50分 50分
第4回	J.シュトラウス：「ピチカート・ポルカ」の練習と仕上げ。	事前 ウィンナーワルツ、ポルカなどを聴いておく。 事後 演奏した物と、ウィーンフィルなどの演奏とを比較してみる。	50分 50分
第5回	J.シュトラウス：「アンネン・ポルカ」の練習と仕上げ。	事前 練習をしておくこと。 事後 ウィーン情緒とは何か...を考える。	50分 50分
第6回	P.デュカ：「ベリファンアール」のパート決めと練習。	事前 音源を聴いて、曲全体を把握しておくこと。 事後 仕上げのための練習をする。	50分 50分
第7回	P.デュカ：「ベリファンアール」の練習と仕上げ。	事前 自分のパートの練習を十分にすること。 事後 音源を聴いて、反省点を見つけ出しておく。	50分 50分
第8回	G.F.ヘンデル：「アリア」(金管五重奏曲)の譜読み。 Bach：22のコーラル、No.15。	事前 練習をしておくこと。 事後 難曲であるので、練習を重ねる。	50分 50分
第9回	G.F.ヘンデル：「アリア」、組分けをして、五重奏で練習。 Bach：「22のコーラル集」、No.16。	事前 更に練習を進めておく。 事後 エムバイア・プラスの演奏を聴いておく。	50分 50分
第10回	G.F.ヘンデル：「アリア」、Bach：「22のコーラル集」、No.17。 五重奏ごとの演奏発表。	事前 軽やかなタッチの演奏を目指して練習をする。 事後 反省点の練習をすること。	50分 50分
第11回	G.F.ヘンデル：「メサイア」より合唱曲、Bach：「22のコーラル集」、No.18。	事前 練習をしておくこと。オリジナル曲(合唱曲)を聴いておく。 事後 オリジナル曲を聴き直すこと。	50分 50分
第12回	シューベルト：「アヴェ・ヴェルム・コルプス」。 Bach：「22のコーラル集」、No.19。	事前 オリジナルの演奏を聴いておく。歌詞の意味を調べておく。 事後 曲の意味を表現できたか、改めてオリジナルを聴き直す。	50分 50分
第13回	クリスマス・キャロル集。 Bach：「22のコーラル集」、No.20。	事前 キャロル、コラル共に練習しておくこと。 事後 まだ分かっていない部分が無いかを考え、質問の準備をしておく。	50分 50分
第14回	Bach：「22のコーラル集」、No.21&No.22。 ハーモニーにおける音程の取り方の総まとめ。	事前 分かっていない所が有ったら、質問内容をまとめておく。 事後 純正律表を今一度見直し、授業の理解を確認する。	50分 50分
第15回	ペーパーテスト及び演奏テスト。	事前 試験に向けての準備をする。 事後 一年間を振り返り、反省点を基に、次年度への課題を明確にする。	50分 50分

フィードバック 学んだ演奏知識が実際の演奏で機能できているか、その都度チェックしていく。

成績評価 授業への取り組みと、学修成果を見て判断する。

テキスト J. S. BACH 『22のコーラル集』 他

オフィスアワー 授業の前後に受け付ける。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性							
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	

打楽器合奏 I-1・II-1・III・IV

客員教授 岡田全弘

科目コード：ENS110/ENS210
ENS312/ENS409

対象コース/専門/学年： 器楽・演奏家コース/打楽器専門/1~4年次

形態：実習	単位数：1単位
概要	適宜、編成の異なる室内楽の作品を演奏する。打楽器合奏 I および II においては、打楽器アンサンブルの初歩となる 4 人の作品を中心に行う。マリンバの室内楽にも取り組む。この間にオーケストラの打楽器パートを実習することもある。打楽器合奏 III では、打楽器合奏 I と II を踏まえてさらにステップアップした作品に挑戦する。打楽器合奏 IV では、III を踏まえて歴史上重要な作品を取り上げる。解釈や演奏法にアドヴァイスを与え時間をかけて取り組む。

到達目標 トリオやデュエットのような最少人数の作品から初めて、他のメンバーに演奏でタイミングやテンポを正しく伝える方法を会得する。

授業計画		
第 1 回	小太鼓によるデュエットの曲を演奏。	事前 Modern School for Snare Drum から練習曲をさらしておく。 事後 練習曲の構造を理解し復習する。 50 分
第 2 回	マリンバによるデュエットを演奏。	事前 Modern School for Xylophone and Marimba から Bach をさらしておく。 事後 練習曲の構造を理解し復習する。 50 分
第 3 回	デュエットの仕上げの演奏。	事前 本番のつもりで練習しておく。 事後 録音し聞き直す。 50 分
第 4 回	オーケストラの授業で取り上げられる作品の打楽器パートを演奏。	事前 同時に演奏するメロディがどの楽器なのか確認しておく。 事後 リズムの演奏法を確認しておく。 50 分
第 5 回	さまざまな打楽器を使うトリオ作品を演奏。 譜読み、フレーズの取り方を確認する。	事前 楽譜を準備しスコアを読み込んでおく。 事後 3 人での練習方法を検討する。 50 分
第 6 回	楽器のチューニングとセッティングを確認する。 手順の確認。	事前 チューニングキーなど用意する。 事後 3 人で練習方法を検討する。 50 分
第 7 回	テンポやダイナミックスの違いによるリズムや奏法の違いを解説。 トリオの仕上げの演奏。	事前 技術的に難しい部分を取り出しておく。 事後 手の動かし方について再検討する。 50 分
第 8 回	オーケストラ・スタディ。 授業で取り上げられる曲を主に演奏する。	事前 オーケストラの授業での問題点をはっきりさせておく。 事後 次の授業のシミュレーションをしておく。 50 分
第 9 回	打楽器のカルテットを演奏。	事前 楽譜に工夫ができないかを検討しておく。 事後 練習方法の検討をする。 50 分
第 10 回	カルテットの譜読み。 楽器の調整とセッティングを解説。	事前 楽器の調整、セッティングを考えておく。 事後 復習と 4 人での練習方法を検討する。 50 分
第 11 回	メロディラインを取り出して演奏。 ベースラインを取り出して演奏。構造を分解して理解を深める。	事前 構造を 4 人で理解しておく。 事後 4 人での練習方法を検討する。 50 分
第 12 回	オーケストラ・スタディ。 セッティングを決める。	事前 セッティングを考えておく。 事後 オーケストラの授業予定を確認しておく。 50 分
第 13 回	マリンバのカルテットの譜読み。	事前 楽譜の作成。 事後 4 人で意見交換をする。 50 分
第 14 回	個人練習と分奏について解説。	事前 メトロノームを使って練習する。 事後 練習方法を検討する。 50 分
第 15 回	バランスについて解説する。	事前 メロディラインの推移を確認しておく。 事後 テンポの出し方について確認。 50 分

フィードバック 授業の中で最低 2 種類の解釈による演奏をレコーディングする。事後やあとになって成果を復習し、重要事項を確認するために使う。

成績評価 平常点による。

テキスト (参照資料)
A.Cirone Four by Four
Per Andreasson Tinplay
Ruediger Pawassar Sculpture in Wood
P.Creston Ceremonial
A.Jolivet Ceremonial
F.Dupin Courtes pieces Album No.5
C.Chavez Toccata
Thomas Gauger Gainsborough
A.Jolivet Flute Concerto No.2

オフィスアワー 授業後教室にて

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

打楽器合奏 I-2・II-2・III・IV

客員教授 岡田全弘

科目コード：ENS111／ENS211
ENS313／ENS410

対象コース／専門／学年： 器楽・演奏家コース／打楽器専門／1～4 年次

形態：実習	単位数：1 単位
概要	適宜、編成の異なる室内楽の作品を演奏する。打楽器合奏 I および II においては、打楽器アンサンブルの初歩となる 4 人の作品を中心に行う。マリンバの室内楽にも取り組む。この間にオーケストラの打楽器パートを実習することもある。打楽器合奏 III では、打楽器合奏 I と II を踏まえてさらにステップアップした作品に挑戦する。打楽器合奏 IV では、III を踏まえて歴史上重要な作品を取り上げる。解釈や演奏法にアドバイスを与え時間をかけて取り組む。
到達目標	前期よりも大きな編成の作品に取組み、他のメンバーとどのように議論し、どのような練習を重ねて本番を迎えるのかを学ぶ。

授業計画		
第 1 回	マリンバのカルテットの仕上げの演奏。	事前 録音して研究しておく。 事後 セッティング表を書き反省点を出しておく。 50 分
第 2 回	オーケストラ・スタディ。 大太鼓とシンバルのバランスについて解説。	事前 楽器の選定をしておく。 50 分 事後 指揮者の見方について確認。 50 分
第 3 回	オーケストラ・スタディ。 その他の小物楽器について解説。	事前 セッティングを検討しておく。 50 分 事後 楽器の特性について確認しておく。 50 分
第 4 回	任意の編成のアンサンブル曲を譜読み。	事前 楽譜を作成しておく。 50 分 事後 ゆっくりでも同じテンポで演奏できるようにしておく。 50 分
第 5 回	技術的に難しい部分を取り出して演奏。	事前 メトロノームを使って練習する。 50 分 事後 練習方法を検討する。 50 分
第 6 回	任意の編成のアンサンブル曲の仕上げ。	事前 録音して研究しておく。 50 分 事後 反省点を出しておく。 50 分
第 7 回	オーケストラ・スタディ。 指揮の読み方について解説。	事前 作品をよく聞いておく。 50 分 事後 反応の仕方について再確認。 50 分
第 8 回	ティンパニの調整について解説。	事前 チューニングをしておく。 50 分 事後 他の楽器の動きを再確認。 50 分
第 9 回	デュエットの作品を演奏。	事前 曲の構造を理解しておく。 50 分 事後 ゆっくりでも同じテンポで演奏できるようにしておく。 50 分
第 10 回	別の組でデュエットの作品を演奏。	事前 構造とクライマックスの設定。 50 分 事後 メトロノームを使って練習する。 50 分
第 11 回	デュエットの作品の仕上げの演奏。	事前 録音して研究しておく。 50 分 事後 伝えたいところを明確にしておく。 50 分
第 12 回	別の組、デュエットの作品の仕上げの演奏	事前 録音して研究しておく。 50 分 事後 メロディラインの推移を確認しておく。 50 分
第 13 回	オーケストラ・スタディ。聞こえる音の出し方について解説。	事前 聞こえる音と聞こえない音について検討。 50 分 事後 アンサンブルの根幹について再検討。 50 分
第 14 回	ウィンドアンサンブルの曲を演奏。	事前 セッティングを検討しておく。 50 分 事後 バランスを再検討する。 50 分
第 15 回	任意の編成のアンサンブル曲を演奏。	事前 セッティングを検討しておく。 50 分 事後 反省点など整理。 50 分

フィードバック 授業の中で最低 2 種類の解釈による演奏をレコーディングする。事後やあとになって成果を復習し、重要事項を確認するために使う。

成績評価 平常点による。

テキスト (参照資料)
A.Cirone Four by Four
Per Andreasson Tinplay
Ruediger Pawassar Sculpture in Wood
P.Creston Ceremonial
A.Jolivet Ceremonial
F.Dupin Courtes pieces Album No.5
C.Chavez Toccata
Thomas Gauger Gainsborough
A.Jolivet Flute Concerto No.2

オフィスアワー 授業後教室にて

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

古楽合奏 I-1・II-1・III・IV

教授 小林英之／准教授 櫻井茂／非常勤講師 戸崎廣乃／

科目コード：ENS114／ENS214

非常勤講師 金子浩／非常勤講師 太田光子

ENS314／ENS411

対象コース／専門／学年：全コース／全専門／1～4年次

形態：実習	単位数 1単位
概要	ルネサンスからバロックまでの合奏曲演奏の研究。あわせて楽譜・文献の検索方法、専門用語の基礎知識を身につけ、より高度な演奏への基礎作りをする。また、基礎を培った上でヨーロッパ各国の合奏音楽をそれぞれの演奏習慣を踏まえて研究する。演奏における歴史的視点の重要性は今日一般的に認識されるものとなっている。この点から古楽器専門に限らず多くの学生の受講を期待している。
到達目標	ドイツ及びイタリアのルネサンスからバロックまでの合奏曲を、それぞれの楽曲の様式を踏まえて相応しい表現方法で演奏すること。

授業計画		
第1回	ドイツの音楽（課題の提示・検討）	事前 音楽史的知識を整理する。 事後 作曲者と時代背景について調べる。 50分
第2回	ドイツの音楽（課題の資料収集）	事前 他のジャンルの楽曲についても調べる。 事後 課題曲の特質について整理する。 50分
第3回	ドイツの音楽（個人練習）	事前 技術的な問題点を明確にする。 事後 技術的な課題を克服する。 50分
第4回	ドイツの音楽（合奏のための準備）	事前 課題曲の全体的な構造を整理する。 事後 他のパートを意識して演奏できるようにする。 50分
第5回	ドイツの音楽（合奏）	事前 課題曲を確実に演奏できるよう準備する。 事後 前半で問題のある箇所を練習する。 50分
第6回	ドイツの音楽（合奏の問題点を検討）	事前 個々の部分についての、異なる表現の可能性についても考える。 事後 全体的な流れを意識して演奏できるようにする。 50分
第7回	ドイツの音楽（仕上げ）	事前 技術的な問題点を整理し克服しておく。 事後 パート間の多重的な構造を意識しながら演奏できるようにする。 50分
第8回	イタリアの音楽（課題の提示・検討）	事前 音楽史的知識を整理する。 事後 作曲者と時代背景について調べる。 50分
第9回	イタリアの音楽（課題の資料収集）	事前 他のジャンルの楽曲についても調べる。 事後 課題曲の特質について整理する。 50分
第10回	イタリアの音楽（個人練習）	事前 技術的な問題点を明確にする。 事後 技術的な課題を克服する。 50分
第11回	イタリアの音楽（合奏のための準備）	事前 課題曲の全体的な構造を整理する。 事後 他のパートを意識して演奏できるようにする。 50分
第12回	イタリアの音楽（合奏）	事前 課題曲を確実に演奏できるよう準備する。 事後 後半で問題のある箇所を練習する。 50分
第13回	イタリアの音楽（合奏の問題点を検討）	事前 個々の部分についての、異なる表現の可能性についても考える。 事後 全体的な流れを意識して演奏できるようにする。 50分
第14回	イタリアの音楽（仕上げ）	事前 技術的な問題点を整理し克服しておく。 事後 パート間の多重的な構造を意識しながら演奏できるようにする。 50分
第15回	既習曲の発表（ドイツ、イタリア）	事前 演奏会に向けてどのような準備が必要かを考え、適切に準備する。 事後 リハーサルから演奏会までの一連の過程における反省点を整理する。 50分

フィードバック 実技指導の形をとるので、授業の中で随時フィードバックを行う。

成績評価 課題曲への技術的な準備 40%、授業への積極的な取り組み 40%、課題曲についての音楽史的理解 20%。

課題曲それぞれの様式の違いを適切に表現できるようになることを重視する。

テキスト 必要に応じて配布、紹介する。

オフィスアワー Eメール：shigusakurai@pop17.odn.ne.jp

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>					

古楽合奏 I-2・II-2・III・IV

教授 小林英之／准教授 櫻井茂／非常勤講師 戸崎廣乃／

科目コード：ENS115／ENS215

非常勤講師 金子浩／非常勤講師 太田光子

ENS315／ENS412

対象コース／専門／学年：全コース／全専門／1～4年次

形態：実習

単位数 1単位

概要 ルネサンスからバロックまでの合奏曲演奏の研究。あわせて楽譜・文献の検索方法、専門用語の基礎知識を身につけ、より高度な演奏への基礎作りをする。また、基礎を培った上でヨーロッパ各国の合奏音楽をそれぞれの演奏習慣を踏まえて研究する。演奏における歴史的視点の重要性は今日一般的に認識されるものとなっている。この点から古楽器専門に限らず多くの学生の受講を期待している。

到達目標 フランス及びイギリスのルネッサンスからバロックまでの合奏曲を、それぞれの楽曲の様式を踏まえて相応しい表現方法で演奏すること。

授業計画

第1回	フランスの音楽（課題の提示・検討）	事前 音楽史的知識を整理する。 事後 作曲者と時代背景について調べる。	50分 50分
第2回	フランスの音楽（課題の資料収集）	事前 他のジャンルの楽曲についても調べる。 事後 課題曲の特質について整理する。	50分 50分
第3回	フランスの音楽（個人練習）	事前 技術的な問題点を明確にする。 事後 技術的な課題を克服する。	50分 50分
第4回	フランスの音楽（合奏のための準備）	事前 課題曲の全体的な構造を整理する。 事後 他のパートを意識して演奏できるようにする。	50分 50分
第5回	フランスの音楽（合奏）	事前 課題曲を確実に演奏できるよう準備する。 事後 後半で問題のある箇所を練習する。	50分 50分
第6回	フランスの音楽（合奏の問題点を検討）	事前 個々の部分についての、異なる表現の可能性についても考える。 事後 全体的な流れを意識して演奏できるようにする。	50分 50分
第7回	フランスの音楽（仕上げ）	事前 技術的な問題点を整理し克服しておく。 事後 パート間の多重的な構造を意識しながら演奏できるようにする。	50分 50分
第8回	イギリスの音楽（課題の提示・検討）	事前 音楽史的知識を整理する。 事後 作曲者と時代背景について調べる。	50分 50分
第9回	イギリスの音楽（課題の資料収集）	事前 他のジャンルの楽曲についても調べる。 事後 課題曲の特質について整理する。	50分 50分
第10回	イギリスの音楽（個人練習）	事前 技術的な問題点を明確にする。 事後 技術的な課題を克服する。	50分 50分
第11回	イギリスの音楽（合奏のための準備）	事前 課題曲の全体的な構造を整理する。 事後 他のパートを意識して演奏できるようにする。	50分 50分
第12回	イギリスの音楽（合奏）	事前 課題曲を確実に演奏できるよう準備する。 事後 後半で問題のある箇所を練習する。	50分 50分
第13回	イギリスの音楽（合奏の問題点を検討）	事前 個々の部分についての、異なる表現の可能性についても考える。 事後 全体的な流れを意識して演奏できるようにする。	50分 50分
第14回	イギリスの音楽（仕上げ）	事前 技術的な問題点を整理し克服しておく。 事後 パート間の多重的な構造を意識しながら演奏できるようにする。	50分 50分
第15回	既習曲の発表（フランス、イギリス）	事前 演奏会に向けてどのような準備が必要かを考え、適切に準備する。 事後 リハーサルから演奏会までの一連の過程における反省点を整理する。	50分 50分

フィードバック 実技指導の形をとるので、授業の中で随時フィードバックを行う。

成績評価 課題曲への技術的な準備 40%、授業への積極的な取り組み 40%、課題曲についての音楽史的理解 20%。

課題曲それぞれの様式の違いを適切に表現できるようになることを重視する。

テキスト 必要に応じて配布、紹介する。

オフィスアワー Eメール：shigusakurai@pop17.odn.ne.jp

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>					

副科ピアノ I-1・II-1

ピアノ部会主任 教授 山崎紫乃

科目コード：IND106/IND205

対象コース/専門/学年：器楽・声楽・演奏家コース/ピアノ、ギター、古楽鍵盤楽器以外の全専門/1・2年次、GLAコース/音楽教育専門/1～3年次

形態：実技

単位数：1単位

概要 音楽を学ぶ者にとっての基礎能力を育成するために欠かせないピアノの学習を個人レッスンによって行う。グレード別に各自の能力に合わせて段階的に進めていく。

到達目標 運指や音階等の基本的な訓練を中心に、正しい読譜力を養うことを目標とする。

授業計画 GLAコース/音楽教育専門 前期15回 毎週30分の個人指導
上記以外の全コース/全専門 前期15回 毎週20分の個人指導

第1回	ガイダンス 学習計画を立てる	事前 過去の学習状況を踏まえ現状を自己分析。 事後 担当教員と協議の上グレードの設定。課題曲の選定。	80分 130分
第2回	基礎訓練	事前 基礎教材を使って反復練習。 事後 手指のフォームを意識して反復練習。	80分 130分
第3回	基礎技術の向上	事前 様々な音型を反復練習。 事後 両手を弾き分ける訓練。課題曲の読譜。	80分 130分
第4回	奏法	事前 様々な強弱、テンポで練習し指を鍛える。 事後 手指のフォームを正しくコントロールしながら反復練習。課題曲の読譜。	80分 130分
第5回	運指について	事前 課題曲の反復練習。 事後 より効率のよい運指について考え、試してみる。	80分 130分
第6回	運指の決定	事前 課題曲の反復練習。 事後 指使いを決定し、反復練習を行う。	80分 130分
第7回	正確な読譜（リズムと拍子）	事前 楽譜をよく見直す。 事後 生きたリズムと拍感を意識して反復練習を行う。	80分 130分
第8回	正確な読譜（強弱）	事前 強弱記号をよく見る。 事後 強弱記号が示す意味を考えて表現につなげる。	80分 130分
第9回	楽曲分析 楽曲 A	事前 作品の和声進行を意識して練習。 事後 構造、形式を把握する。	80分 130分
第10回	スムーズな演奏	事前 作品の構造を意識して各部の表情を大切に。 事後 強弱、テンポ正確に、暗譜。	80分 130分
第11回	音階練習	事前 片手の練習。両手の練習。 事後 指使いを徹底して反復練習。	80分 130分
第12回	音階練習(カデンツ)	事前 カデンツの定型を覚える。 事後 徹底的な反復練習。	80分 130分
第13回	音階練習(テンポアップ)	事前 両手で正確に反復練習。 事後 少しずつテンポアップ。拍子、テンポ正確に。	80分 130分
第14回	仕上げ	事前 指使い、強弱、リズムの確認。暗譜の確認。 事後 表情、構造を明確に反復練習。	80分 130分
第15回	前期 成果の発表	事前 技術、音の確認。 事後 自己評価。課題の自覚。	80分 130分

フィードバック 実技試験後、担当教員及び審査員のコメントを聞くことができる。

成績評価 実技試験により評価する。評価は複数の審査員の採点による。

テキスト 各自の進度に合わせたグレードを選択し、その課題を中心に目標を定めて演習を行う。（副科ピアノ課題曲表参照のこと）

オフィスアワー ※4月のレッスンガイダンス後の実技担当者発表掲示を参照のこと。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

副科ピアノ I-2・II-2

ピアノ部会主任 教授 山崎紫乃

科目コード：IND107/IND206

対象コース/専門/学年： 器楽・声楽・演奏家コース/ピアノ、ギター、古楽鍵盤楽器以外の全専門/1・2 年次、GLA コース/音楽教育専門/1~3 年次

形態：実技

単位数：1 単位

概要 ピアノの学習を個人レッスンにより行い、更なる向上を目指す。
グレード別に各自の能力に合わせて段階的に進めていく。

到達目標 基礎訓練と共に様々な練習方法を演奏向上に結びつける過程を学ぶことを目標とする。

授業計画 GLA コース/音楽教育専門 後期 15 回 毎週 30 分の個人指導
上記以外の全コース/全専門 後期 15 回 毎週 20 分の個人指導

回	課題	事前	事後	80 分	130 分
第 1 回	課題の設定	課題曲の設定。	読譜。	80 分	130 分
第 2 回	指使いの決定	楽譜を丁寧に読譜。反復練習。	正しい指使いの決定。反復練習。	80 分	130 分
第 3 回	楽曲分析 楽曲 B	作品の全体像を把握する。	和声、形式を分析し、構造を理解する。	80 分	130 分
第 4 回	演奏技術の鍛錬	構造を意識して各部の表情をつかむ。	表現に必要な奏法の伝授。反復練習。	80 分	130 分
第 5 回	様々な表現	イメージを明確にして行く。	奏法、テンポ設定、強弱の工夫。	80 分	130 分
第 6 回	分散和音(和声感、調性感)	音、指使いを正確に和声をよく聴きながら反復練習。	手首の使い方、手のフォームの習得し、和音としてとらえる練習。	80 分	130 分
第 7 回	練習方法の工夫 (リズム練習)	様々な音型を反復練習。	リズム練習による技術向上を目指して反復練習。	80 分	130 分
第 8 回	形式の整理	全体の構造をつかむ。	主題の扱い、調性、性格を整理する。	80 分	130 分
第 9 回	表現	構造を明確に整理する。	作品の性格、主題の性格、楽譜の指示を基に的確な表現を追求する。暗譜。	80 分	130 分
第 10 回	練習方法の工夫 (分析練習)	構成を理解する。	各声部に分けて練習、またはハーモニーごとにまとめて練習。	80 分	130 分
第 11 回	ポリフォニーの奏法	各声部丁寧に読譜。指使いの決定。	指のコントロールと耳を使って同時に弾き分ける。	80 分	130 分
第 12 回	ペダルの練習	イメージを明確しておく。	レガートペダル、アクセントペダル、音色のためのペダルを考える。	80 分	130 分
第 13 回	暗譜について	構成を理解する。	ハーモニー、楽曲分析と結びつけて整理する。	80 分	130 分
第 14 回	仕上げとまとめ	音楽理解、ピアノ演奏技術の方法を整理する。暗譜。	学習内容の復習と反復練習。暗譜。	80 分	130 分
第 15 回	後期 成果の発表	暗譜と技術の確認。	自己評価。	80 分	130 分

フィードバック 実技試験後、担当教員及び審査員のコメントを聞くことができる。

成績評価 実技試験により評価する。評価は複数の審査員の採点による。

テキスト 各自の進度に合わせたグレードを選択し、その課題を中心に目標を定めて演習を行う。(副科ピアノ課題曲表参照のこと)

オフィスアワー ※4 月のレッスンガイダンス後の実技担当者発表掲示を参照のこと。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

通奏低音奏法 I-1・II-1・III・IV

教授 小林英之

科目コード：IND103/IND203
IND303/IND406

対象コース/専門/学年： 器楽・演奏家コース/リコーダー専門/3 年次

形態：実技

単位数：1 単位

概要 バロック時代の作品の根底にある通奏低音を学ぶことにより、それぞれの専門楽器の作品の理解を深める。

到達目標 バロック時代の作品の土台となる通奏低音を理解し、実習を通じて実際の演奏に役立つ知識を身につける。20 分の個人レッスン。

授業計画 前期 15 回 各人 20 分の個人指導

第 1 回	通奏低音とは	事前	通奏低音が用いられた時代について調べておく。	80 分
		事後	主要な作曲家の楽譜を参照する。	80 分
第 2 回	通奏低音の記譜法を学ぶ	事前	様々な通奏低音の記譜法を調べておく。	80 分
		事後	時代ごとに整理する。	80 分
第 3 回	基本位置 1 (密集)	事前	事前に和声付けした解答を書いてくる。	80 分
		事後	手直したものを暗譜する。	80 分
第 4 回	基本位置 2 (開離)	事前	事前に和声付けした解答を書いてくる。	80 分
		事後	手直したものを暗譜する。	80 分
第 5 回	第一転回 1 (密集)	事前	事前に和声付けした解答を書いてくる。	80 分
		事後	手直したものを暗譜する。	80 分
第 6 回	第一転回 2 (オクターヴ)	事前	事前に和声付けした解答を書いてくる。	80 分
		事後	手直したものを暗譜する。	80 分
第 7 回	第一転回 3 (省略)	事前	事前に和声付けした解答を書いてくる。	80 分
		事後	手直したものを暗譜する。	80 分
第 8 回	第一転回 4 (連続して現れる第一転回)	事前	事前に和声付けした解答を書いてくる。	80 分
		事後	手直したものを暗譜する。	80 分
第 9 回	第二転回 1 (終止)	事前	事前に和声付けした解答を書いてくる。	80 分
		事後	手直したものを暗譜する。	80 分
第 10 回	第二転回 2 (刺繍和音)	事前	事前に和声付けした解答を書いてくる。	80 分
		事後	手直したものを暗譜する。	80 分
第 11 回	繋留 1 (最上声部に現れるもの)	事前	事前に和声付けした解答を書いてくる。	80 分
		事後	手直したものを暗譜する。	80 分
第 12 回	繋留 2 (内声に現れるもの)	事前	事前に和声付けした解答を書いてくる。	80 分
		事後	手直したものを暗譜する。	80 分
第 13 回	7 の和音基本位置 1 (5 度音を含むもの)	事前	事前に和声付けした解答を書いてくる。	80 分
		事後	手直したものを暗譜する。	80 分
第 14 回	7 の和音基本位置 2 (5 度音を省略できる場合)	事前	事前に和声付けした解答を書いてくる。	80 分
		事後	手直したものを暗譜する。	80 分
第 15 回	7 の和音第一転回 1	事前	事前に和声付けした解答を書いてくる。	80 分
		事後	手直したものを暗譜する。	80 分

フィードバック レッスン時間ごとの課題の達成度についてのコメント。

成績評価 鍵盤楽器、リュートの専門生は学年末に筆記と実技の試験を行う。その他は平常点。

テキスト 必要に応じて配布、紹介する。

オフィスアワー 古楽研究室

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・他理解	生涯学習意欲
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>									

通奏低音奏法 I-2・II-2・III・IV

教授 小林英之

科目コード：IND104/IND204
IND304/IND407

対象コース/専門/学年： 器楽・演奏家コース/リコーダー専門/3 年次

形態：実技

単位数：1 単位

概要 バロック時代の作品の根底にある通奏低音を学ぶことにより、それぞれの専門楽器の作品の理解を深める。

到達目標 バロック時代の作品の土台となる通奏低音を理解し、実習を通じて実際の演奏に役立つ知識を身につける。20 分の個人レッスン。

授業計画 後期 15 回 各人 20 分の個人指導

第 1 回	7 の和音第一転回 2 (第 7 音の扱い方)	事前 事前に和声付けした解答を書いてくる。 事後 手直したものを暗譜する。	80 分 80 分
第 2 回	7 の和音第二、三転回 1 (43 の和音)	事前 事前に和声付けした解答を書いてくる。 事後 手直したものを暗譜する。	80 分 80 分
第 3 回	7 の和音第二、三転回 2 (42 の和音)	事前 事前に和声付けした解答を書いてくる。 事後 手直したものを暗譜する。	80 分 80 分
第 4 回	長および短九度、減七 1	事前 事前に和声付けした解答を書いてくる。 事後 手直したものを暗譜する。	80 分 80 分
第 5 回	長および短九度、減七 2 (特殊な用法)	事前 事前に和声付けした解答を書いてくる。 事後 手直したものを暗譜する。	80 分 80 分
第 6 回	その他の半音階的和音 1 (ナボリの 6)	事前 事前に和声付けした解答を書いてくる。 事後 手直したものを暗譜する。	80 分 80 分
第 7 回	その他の半音階的和音 2 (その他)	事前 事前に和声付けした解答を書いてくる。 事後 手直したものを暗譜する。	80 分 80 分
第 8 回	二重繋留	事前 事前に和声付けした解答を書いてくる。 事後 手直したものを暗譜する。	80 分 80 分
第 9 回	実際の楽曲への応用 1	事前 事前に和声付けした解答を書いてくる。 事後 手直した解答を見ずに、通奏低音記号のみを見て演奏する。	80 分 80 分
第 10 回	実際の楽曲への応用 2 (配置を変えてみる)	事前 事前に和声付けした解答を書いてくる。 事後 手直した解答を見ずに、通奏低音記号のみを見て演奏する。	80 分 80 分
第 11 回	実際の楽曲への応用 3 (省略できる音を検討する)	事前 事前に和声付けした解答を書いてくる。 事後 手直した解答を見ずに、通奏低音記号のみを見て演奏する。	80 分 80 分
第 12 回	アンサンブルでの実践 1 (後期バロック)	事前 事前に和声付けした解答を書いてくる。 事後 手直した解答を見ずに、通奏低音記号のみを見て演奏する。	80 分 80 分
第 13 回	アンサンブルでの実践 2 (前期バロック)	事前 事前に和声付けした解答を書いてくる。 事後 手直した解答を見ずに、通奏低音記号のみを見て演奏する。	80 分 80 分
第 14 回	アンサンブルでの実践 3 (数字がついていない場合)	事前 事前に和声付けした解答を書いてくる。 事後 手直した解答を見ずに、通奏低音記号のみを見て演奏する。	80 分 80 分
第 15 回	アンサンブルでの実践 4 (総合的実践)	事前 事前に和声付けした解答を書いてくる。 事後 手直した解答を見ずに、通奏低音記号のみを見て演奏する。	80 分 80 分

フィードバック レッスン時間ごとの課題の達成度についてのコメント。

成績評価 鍵盤楽器、リュートの専門生は学年末に筆記と実技の試験を行う。その他は平常点。

テキスト 必要に応じて配布、紹介する。

オフィスアワー 古楽研究室

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・他理解	生涯学習意欲
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>									

合唱 I-1・II-1・III・IV

※教育職員免許状取得に関わる科目

非常勤講師 中村拓紀

科目コード：ENS116／ENS216

ENS316／ENS413

対象コース／専門／学年：全コース／全専門／全学年

形態：実習

単位数：1単位

概要 全履修生を合わせて学年や専門を超えたひとつの合唱団となり、演奏会に向けてリハーサルを重ねる実習形式の講義である。

到達目標 合唱という演奏形態ですばらしい音楽作りを目指す。すなわち、声を出すことによってハーモニーを作ることを学び、テキストが伴う場合はテキストへの理解を深め、楽曲の形式・様式を実現し、演奏を披露する機会に向けてどのようにリハーサルを重ね、準備していくかを知り、将来合唱指導をする時にも用いることができる指導テクニックを習得することを目標とする。

授業計画 全15回 90分×2コマ=180分
各パートのバランスを見て曲を決定するが、ルネサンス・バロック期から近・現代まで、ほとんどすべての声楽・合唱作品が選曲対象である。

第1回	ガイダンス／春の演奏会リハーサル 「声種分け」	事前 自分の声が混声合唱のどのパートが相応しく望ましいかを検討する 事後 選曲の意図を探る	0分 0分
第2回	春の演奏会リハーサル 「みんなで声を出すことは？」	事前 自分の声の基本的性質を調べる 事後 音が混ざることとはどういうことなのか思考する	0分 0分
第3回	春の演奏会リハーサル 「パートの役割、ハーモニーとは？」	事前 和声の基本を知っておく 事後 連結の重要性をおさらいする	0分 0分
第4回	春の演奏会リハーサル 「ピアニストの役割」	事前 すべての教材のピアノパート楽譜を眺める 事後 自分がピアニストだったらと想像する	0分 0分
第5回	春の演奏会リハーサル 「ホールで歌う・人前で演奏すること（基礎）」	事前 ホールで演奏することを想定する 事後 全体的に譜面を見直す	0分 0分
第6回	春の演奏会の反省 定期演奏会リハーサル	事前 演奏会を振り返る 事後 選曲の意図を探る	0分 0分
第7回	定期演奏会リハーサル 「音名唱と階名唱（基礎）」	事前 ハンドサインとは何かを調べる 事後 音名唱と階名唱の違いをおさらいする	0分 0分
第8回	定期演奏会リハーサル 「音名唱と階名唱（応用）」	事前 階名唱の利点を考える 事後 音名唱と階名唱の違いをおさらいする	0分 0分
第9回	定期演奏会リハーサル 「発声練習は音作り（基礎）」	事前 ハミングの仕組みを研究する 事後 口からの呼吸と鼻からの呼吸についておさらいする	0分 0分
第10回	定期演奏会リハーサル 「発声練習は音作り（応用）」	事前 音声の支えとは何かを考える 事後 やわらかい息を習得する	0分 0分
第11回	定期演奏会リハーサル 「一声（ユニゾン）が基本（基礎）」	事前 音律の基本を知っておく 事後 ペンタトニックや旋法を知っておく	0分 0分
第12回	定期演奏会リハーサル 「一声（ユニゾン）が基本（応用）」	事前 平均律とは何かを知っておく 事後 大全音と小全音を知っておく	0分 0分
第13回	定期演奏会リハーサル 「音楽のイントネーション（基礎）」	事前 イントネーションのない状態を想定する 事後 講義で取り上げたルールがほかにも当てはまるか調べ探す	0分 0分
第14回	定期演奏会リハーサル 「音楽のイントネーション（応用）」	事前 イントネーションのない状態を想定する 事後 テキスト・和音・旋律・リズムそれぞれのイントネーションを知る	0分 0分
第15回	定期演奏会リハーサル 「輪唱から合唱へ（基礎）」	事前 かえるのうたのカノンがなぜハモるのかを考える 事後 ポリフォニー作品を聴く	0分 0分

フィードバック 実習形式の講義のため、演奏前、演奏中、演奏後のいつ何時も教員の指導にて学修成果をフィードバックする機会を設ける。

成績評価 講義への取り組みによって評価。

テキスト 講義内に指示する。

オフィスアワー 講義の前後、または休憩中に教室にて対応する。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>				

合唱 I-2・II-2・III・IV

※教育職員免許状取得に関わる科目

非常勤講師 中村拓紀

科目コード：ENS117／ENS217

ENS317／ENS414

対象コース／専門／学年：全コース／全専門／全学年

形態：実習

単位数：1単位

概要 全履修生を合わせて学年や専門を超えたひとつの合唱団となり、演奏会に向けてリハーサルを重ねる実習形式の講義である。

到達目標 合唱という演奏形態ですばらしい音楽作りを目指す。すなわち、声を出すことによってハーモニーを作ることを学び、テキストが伴う場合はテキストへの理解を深め、楽曲の形式・様式を実現し、演奏を披露する機会に向けてどのようにリハーサルを重ね、準備していくかを知り、将来合唱指導をする時にも用いることができる指導テクニックを習得することを目標とする。

授業計画 全15回 90分×2コマ=180分
各パートのバランスを見て曲を決定するが、ルネサンス・バロック期から近・現代まで、ほとんどすべての声楽・合唱作品が選曲対象である。

第1回	定期演奏会リハーサル 「輪唱から合唱へ（応用）」	事前 ハンドサインの復習をする 事後 階名唱の利点を考える	0分 0分
第2回	定期演奏会リハーサル 「演奏会運営、マネジメント（基礎）」	事前 演奏会には演奏以外に何が必要か想定する 事後 演奏会には演奏者以外に誰が必要か想定する	0分 0分
第3回	定期演奏会リハーサル 「演奏会運営、マネジメント（応用）」	事前 演奏のために何をしたいか考える 事後 演奏のために何ができるか考える	0分 0分
第4回	定期演奏会リハーサル 「近年の合唱（趣味）の傾向」	事前 大型楽譜店で合唱楽譜の出版状況を見る 事後 自分の考えをまとめる	0分 0分
第5回	定期演奏会リハーサル 「近年の合唱（教育）の傾向」	事前 幼保・小中高で合唱がどのような役割化を考える 事後 自分の考えをまとめる	0分 0分
第6回	定期演奏会リハーサル 「近年の合唱（楽譜）の傾向」	事前 著作権・出版権について学ぶ 事後 10年後を見通す	0分 0分
第7回	定期演奏会リハーサル 「近年の合唱（IT化）の傾向」	事前 著作権・出版権について学ぶ 事後 10年後を見通す	0分 0分
第8回	定期演奏会リハーサル 「ホールで歌う・人前で演奏すること（応用）」	事前 ホールで演奏することを想定する 事後 全体的に譜面を見直す	0分 0分
第9回	定期演奏会リハーサル 「隊列の重要性（基礎）」	事前 空間を音で満たすためにどのような並び方がいいか考える 事後 講義で指摘された箇所を練習する	0分 0分
第10回	定期演奏会リハーサル 「隊列の重要性（応用）」	事前 オーディエンスが満足する並び方を考える 事後 講義で指摘された箇所を練習する	0分 0分
第11回	定期演奏会リハーサル 「選曲の重要性（基礎）」	事前 演奏会を振り返る 事後 選曲の意図を探る	0分 0分
第12回	定期演奏会リハーサル 「選曲の重要性（応用）」	事前 選曲を間違えどくなるかを考える 事後 演奏家視点の選曲の長所と短所を挙げる	0分 0分
第13回	定期演奏会の反省 「合唱指導テクニック・指導者（教師）の重要性（概論）」	事前 聴き手視点の選曲の長所と短所を挙げる 事後 全体のバランスを見る	0分 0分
第14回	「合唱指導テクニック・指導者（教師）の重要性（実践基礎）」	事前 指揮法が重要である理由を考える 事後 課題曲を練習する	0分 0分
第15回	「合唱指導テクニック・指導者（教師）の重要性（実践応用）」	事前 課題曲を練習する 事後 指導者が重要である理由を考える	0分 0分

フィードバック 実習形式の講義のため、演奏前、演奏中、演奏後のいつ何時も教員の指導にて学修成果をフィードバックする機会を設ける。

成績評価 講義への取り組みによって評価。

テキスト 講義内に指示する。

オフィスアワー 講義の前後、または休憩中に教室にて対応する。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>				

(演) 室内楽 I

准教授 安田正昭 / 准教授 佐藤まどか

科目コード: ENS118

対象コース/専門/学年: 演奏家コース/ピアノ・管弦打楽器専門(サクソフォン/ユーフォニウムを除く) / 1 年次

形態: 実習

単位数: 2 単位

概要 室内楽においては、器楽を学ぶ者にとって欠くことのできない、音楽的コミュニケーション力が求められる。この授業では、担当教員とのアンサンブルにより、室内楽の基礎を学び、実践的な演奏に必要なスキルを身につける。

到達目標 課題を通して、楽器間の音楽的な役割を認識し、それぞれのソノリティーの違いや呼吸感をふまえて、アンサンブルの基礎を身につけ、また、互いの音楽を尊重しつつ楽曲を作り上げてゆくためのアンサンブル力を身につける

授業計画 演奏家コースの室内楽は、原則として専門実技の担当教員以外の教員が担当し、学生とともに演奏しながら、作品に解釈や演奏技術等を教授する。なお、学生同士で室内楽を組み、前記いずれかの教員の指導を受けることもできる。この場合は、年次を超えて編成を組んでも構わない。

回	内容	事前	事後	評価
第 1 回	課題作品を定め、目標、進め方を確認する。(ガイダンス兼)		各担当教員のガイダンスによっては、課題作品候補を予め履修学生が検討してくる。	135 分
第 2 回	作品全体俯瞰し、ポイント、問題点を把握する。	事前	課題作品に関して。作曲者、時代背景、様式等に関して調べてくる。	135 分
第 3 回	各楽器間の微妙な間合い、ニュアンスのこつ、呼吸の取り方等を学ぶ。	事前	自分のパートの譜読みとスコアで作品全体の概観を把握する。	135 分
第 4 回	復習、定着	事後	スコアを通して全体の中の自分のパートの位置づけを認識する。	135 分
第 5 回	課題作品のアンサンブル上の問題を認識し、その作品の様式感を考察する。	事前	課題作品のスコアを通して、楽器間にどのような役割があるか認識する。	135 分
第 6 回	復習、定着	事後	授業で指摘されたことを復習する。	135 分
第 7 回	履修学生一人一人の感じる音楽を尊重しつつ、大きな音楽的な流れへ持っていくための技術を身につける。	事前	前回の授業で行われた内容を再度認識する。	135 分
第 8 回	復習、定着	事後	再度授業にて合奏した後に、どの程度定着していたかを考察する。	135 分
第 9 回	無意識に聞こえているというのではなく、相手の音を意識して聴き、アンサンブルをするという態度を涵養する。	事前	前回の授業で行われた内容を再度認識する。	135 分
第 10 回	復習、定着	事後	再度授業にて合奏した後に、どの程度定着していたかを考察する。	135 分
第 11 回	フレージングやバランス、タイミング等、室内楽演奏に必要な様々な技術を学ぶ。	事前	自分のパートからのみの視点を離れて、全体を俯瞰しながら練習する。	135 分
第 12 回	復習、定着	事後	授業で指摘されたことを復習する。	135 分
第 13 回	課題作品のアナリゼを通して、課題作品を再度深く理解し、演奏に反映させる。	事前	前回の授業で行われた内容を再度認識する。	135 分
第 14 回	演奏上の技術的困難、問題に囚われずにより高度な音楽的表現を目指す。	事後	再度授業にて合奏した後に、どの程度定着していたかを考察する。	135 分
第 15 回	総まとめ、発表	事前	作品の構造や形式を分析してくる。	135 分
		事後	授業で指摘されたことを復習する。	135 分
		事前	前回の授業で行われた内容を再度認識する。	135 分
		事後	再度授業にて合奏した後に、どの程度定着していたかを考察する。	135 分
		事前	アンサンブルの上での問題点、疑問点をピックアップし、考察してくる。	135 分
		事後	授業で指摘されたことを復習する。	135 分
		事前	前回の授業で行われた内容を再度認識する。	135 分
		事後	再度授業にて合奏した後に、どの程度定着していたかを考察する。	135 分
		事前	作品の構造や形式を分析してくる。	135 分
		事後	授業で指摘されたことを復習する。	135 分
		事前	楽器を離れて課題作品の音楽的な表現の特徴、ポイントを意識、認識した上で練習に臨む。	135 分
		事後	授業で指摘されたことを復習する。	135 分
		事前	前回の授業で行われた内容を再度認識する。	135 分
		事後	一年間の授業を通して、室内楽演奏上の各課題がどの程度まで定着したか等振り返る。	135 分

フィードバック 学年末の発表会、および授業内で必要に応じてコメントをフィードバックする。

成績評価 毎回のレッスンでの演奏、取り組み方により評価する。

テキスト 受講曲目については、各担当教員と履修者の話し合いのもと、決定する。また、能力、場合に応じて、勉強すべき曲の指示を与えることもある。

オフィスアワー 授業終了後

備考 年間 15 回 各 90 分のグループレッスン形式。
レッスン日程は、各担当教員とのオリエンテーションで決定され、掲示される。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

(演) 室内楽Ⅱ

特任教授 三上明子／客員教授 松崎裕

科目コード：ENS218

対象コース／専門／学年：演奏家コース／ピアノ・管弦打楽器専門（サクソフォン／ユーフォニウムを除く）／2年次

形態：実習

単位数：2単位

概要 演奏家の資質に欠かせない室内楽について学ぶ授業である。

到達目標 アンサンブルは、器楽を学ぶものの重要なアイテムである。担当教授を含むグループで一緒に演奏することにより、室内楽に必要なコミュニケーションを、身をもって体験し、修得していくことを目標とする。

授業計画 演奏家コースの室内楽は、原則として専門実技の担当教員以外の教員が担当し、学生とともに演奏しながら、作品に解釈や演奏技術等を教授する。なお、学生同士で室内楽を組み、前記いずれかの教員の指導を受けることもできる。この場合は、年次を超えて編成を組んでも構わない。

第1回	レッスンの目標と進め方	事前 学修計画案をたてる 事後 学修計画を確認し、楽譜等今後必要な準備をする	140分 140分
第2回	曲①奏法を中心に	事前 曲①の譜読みと準備に取り組む 事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	140分 140分
第3回	曲①様式を中心に	事前 曲①の様式について予習する 事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	140分 140分
第4回	曲②奏法を中心に	事前 曲②の譜読みと準備に取り組む 事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	140分 140分
第5回	曲②様式を中心に	事前 曲②の様式について予習する 事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	140分 140分
第6回	曲③奏法を中心に	事前 曲③の譜読みと準備に取り組む 事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	140分 140分
第7回	曲③様式を中心に	事前 曲③の様式について予習する 事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	140分 140分
第8回	曲④奏法を中心に	事前 曲④の譜読みと準備に取り組む 事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	140分 140分
第9回	曲④様式を中心に	事前 曲④の様式について予習する 事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	140分 140分
第10回	曲⑤奏法を中心に	事前 曲⑤の譜読みと準備に取り組む 事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	140分 140分
第11回	曲⑤様式を中心に	事前 曲⑤の様式について予習する 事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	140分 140分
第12回	曲⑥奏法を中心に	事前 曲⑥の譜読みと準備に取り組む 事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	140分 140分
第13回	曲⑥様式を中心に	事前 曲⑥の様式について予習する 事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	140分 140分
第14回	仕上げの演奏	事前 仕上げの演奏に向けて準備する 事後 問題箇所について確認する	140分 140分
第15回	一年のまとめ	事前 一年間の取り組みの問題点を確認する。 事後 次年度への取り組みを確認する	140分 140分

フィードバック レッスンごとに、次のレッスンまでのコメントを口頭で伝える。

成績評価 毎回のレッスンでの演奏、取り組み方により評価する。

テキスト 受講曲目については、各担当教員と履修者の話し合いのもと、決定する。また、能力、場合に応じて、勉強すべき曲の指示を与えることもある。

オフィスアワー 授業後、教員の指示を受けること。

備考 年間15回 各90分のグループレッスン形式。
レッスン日程は、各担当教授者とのオリエンテーションで決定され、掲示される。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				

(演) 室内楽Ⅲ

客員教授 ミハイル・カンディンスキー

科目コード：ENS218

対象コース/専門/学年：演奏家コース/ピアノ専門、管弦打楽器専門（サクソフォン、ユーフォニウムを除く）/3 年次

形態：実習

単位数：2 単位

概要 担当講師を含むグループで一緒に室内楽を演奏する、という実践形式で進められる授業である。

到達目標 室内楽では、共通の流れと方向性を根底に、互いに自由と制約をもって、聴き合い対話し、展開してゆく楽しみがある。そのためには、前提を整えなければならない。その上で、生きた音楽づくりを一瞬でも多く体感できるようにしたい。

授業計画 1 回の授業に 4～5 組。出番のない回も、人の演奏や対応を客観的に聴き、自己に反映させることが有意義である。

第 1 回	ガイダンス、曲目・順番決め（以下の参考曲目から楽章を選択。自由曲も可） 歌曲、オペラ、管弦楽曲の全体的な話、それらと室内楽曲との、親しいつながりについて		事前 参考曲目を一通り調べ、取り組む候補を考える 事後 練習開始	120 分 120 分
第 2 回	Rachmaninov 6 pieces op.11 piano 4 hands Saint-Saens Romance in D flat Major op.37 for flute and orchestra flute	【1 周目】	事前 学習計画を立てる 事後 問題箇所の確認	120 分 120 分
第 3 回	Schumann Andante and Variations op. 46 2 pianos 3 Romances op. 94 for oboe and piano oboe		事前 学習計画を立てる 事後 問題箇所の確認	120 分 120 分
第 4 回	Schumann 3 Pieces-fantasies for clarinet and piano op.73 clarinet Franck Violin Sonata violin		事前 学習計画を立てる 事後 問題箇所の確認	120 分 120 分
第 5 回	Rachmaninov Italian Polka, Arensky 12 pieces op.66 piano 4 hands Saint-Saens Oboe Sonata op.166 oboe	【2 周目】 第 1 回からの基本的奏法を確認後、より聴き合い呼応するアンサンブル感を高める。能力に応じて他楽章に進むこともある。	事前 学習計画を立てる 事後 問題箇所の確認	120 分 120 分
第 6 回	Rachmaninov Italian Polka (2nd edition) for piano 4 hands and trumpet Prokofiev Flute Sonata op.94 flute		事前 学習計画を立てる 事後 問題箇所の確認	120 分 120 分
第 7 回	Rachmaninov 6 pieces op.11 piano 4 hands Saint-Saens Romance in D flat Major op.37 for flute and orchestra flute		事前 自分と相手のパートをスコアから理解する 事後 アンサンブルの準備と実際を考察する	120 分 120 分
第 8 回	Schumann Andante and Variations op. 46 2 pianos 3 Romances op. 94 for oboe and piano oboe	【最終回】 本番の余裕を持ちながら、相手パートを理解することで全体における自分の役割を理解し、奏法を完成させてゆく。	事前 自分と相手のパートをスコアから理解する 事後 アンサンブルの準備と実際を考察する	120 分 120 分
第 9 回	Schumann 3 Pieces-fantasies for clarinet and piano op.73 clarinet Franck Violin Sonata violin		事前 自分と相手のパートをスコアから理解する 事後 アンサンブルの準備と実際を考察する	120 分 120 分
第 10 回	Rachmaninov Italian Polka, Arensky 12 pieces op.66 piano 4 hands Saint-Saens Oboe Sonata op.166 oboe		事前 自分と相手のパートをスコアから理解する 事後 アンサンブルの準備と実際を考察する	120 分 120 分
第 11 回	Rachmaninov 6 pieces op.11 piano 4 hands Saint-Saens Romance in D flat Major op.37 for flute and orchestra flute	【最終回】	事前 仕上げ 事後 反省	120 分 120 分
第 12 回	Schumann Andante and Variations op. 46 2 pianos 3 Romances op. 94 for oboe and piano oboe		事前 音作りについての研究 ①音色 事後 音作りについての研究 ①音色	120 分 120 分
第 13 回	Schumann 3 Pieces-fantasies for clarinet and piano op.73 clarinet Franck Violin Sonata violin		事前 音作りについての研究 ②バランス 事後 音作りについての研究 ②バランス	120 分 120 分
第 14 回	Rachmaninov Italian Polka, Arensky 12 pieces op.66 piano 4 hands Saint-Saens Oboe Sonata op.166 oboe	【最終回】	事前 音作りについての研究 ③音程 事後 音作りについての研究 ③音程	120 分 120 分
第 15 回	Rachmaninov Italian Polka (2nd edition) for piano 4 hands and trumpet Prokofiev Flute Sonata op.94 flute		事前 仕上げ 事後 協力して美しい響き、心の調和を目指す	120 分 120 分

フィードバック 授業内でのレポートについて、他学生に参考となるものを読み、コメントする。各レッスンにも反映。

成績評価 演奏 50% レポート 25% 授業態度・積極的な取組 25%

テキスト 購入 なし
用意 各曲楽譜
参照 「音楽のことば—作曲家が書き遺した文章—」海老澤敏 監修（哲学書房）
「ラフマニノフ歌曲歌詞対訳全集」伊東一郎 訳・注釈（恵雅堂出版）

オフィスアワー 授業終了後教室にて

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・目的意識	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

(演) 室内楽Ⅳ

教授 緒方恵/非常勤講師 佐藤裕子

科目コード: ENS415

対象コース/専門/学年: 演奏家コース/ピアノ・管弦打楽器専門(サクソフォン/ユーフォoniumを除く)/4年次

形態: 実習

単位数: 2単位

概要 授業はマスタークラス形式で行う。室内楽演奏に必要な諸要素の、更なるスキルアップを行い、客観的な耳を持って仕上げていくアプローチ法を学ぶ授業である。4年次は、異なる時代様式の作品を3曲取り上げる。担当教員と学生がともに演奏し、聴講する学生を交え、ディスカッションしながら進める。

到達目標 音楽で対話し、ともに音楽を作っていくことで、演奏する作品の完成度を上げることを目標とする。音楽が有機的であることを体感し、音一つ一つ、ひとりひとりの役割を意識し、柔軟な演奏を習得する。最終的には個々の技術や楽器の枠を超えて音楽そのものに向き合う姿勢を身につけてほしい。

授業計画 ピアノ、ピアノ以外の二つのグループに分かれ、それぞれの担当教員とともに演奏する形態で授業を行う。最終学年のため、古典派、ロマン派、近現代の異なる時代様式のソナタを演奏する。

【AL】		事前	事後	140分
第1回	授業の目標、進め方を確認する。課題曲の設定と演奏順を決定	①3年次までの学修を確認し、最終学年の課題を各自把握しておく。②能力分析	①年間の課題の楽譜を準備し、譜読みをしておく。②課題曲の読譜	140分
第2回	課題曲Ⅰ ①自らの音、共演者の音を聴き続けることを徹底する ②作品分析を行い、全体の中での個々の役割を確認する	①形式、和声、楽譜を見ながら分析し、実践に向けて練習する。②スコアをよく読む	①問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。②作品全体の構造を把握する。	140分
第3回	課題曲Ⅰ ①分析を行い、様式感からのアプローチを実践する ②「聴く」とはどのようなことを学ぶ	①様式感からテンポ感や音色のイメージを確認し、実践につなげられるよう練習。	①読譜の徹底 ②問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。③全パート全てを聴く。	140分
第4回	課題曲Ⅰ ①リハーサルを進め方を学ぶ ②音楽の呼吸—フレーズと拍節を確認しながら演奏	①アンサンブルにおける呼吸、アインザッツを意識しながら練習する。	①各パートのフレーズ、音楽全体のフレーズの確認。 ②問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	140分
第5回	課題曲Ⅰ 仕上げ 全楽章を通して—構成、音のバランス、音楽の全体像をポイントとする	①一つの音楽から立体的な表現につながるよう効果的に演奏できる工夫をする。	②作品全体像を確認。 ③課題曲Ⅰの反省と、次回の課題の確認。④音楽の呼吸、方向性を明確にする。	140分
第6回	課題曲Ⅱ ①分析を行い、様式感からのアプローチを実践する ②課題曲Ⅰとの比較。様式の違いによる表現の違いについて	①課題曲ⅠとⅡの様式感の違いを予習しておく。②古典、ロマン派作品を読譜	①問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。 ②構造、和声、旋律、ルーズ、表示記号などの相違点を比較研究する。	140分
第7回	課題曲Ⅱ 様式感の特徴から、音色、リズム、デュナーミクを考える	①様式感からテンポ感や音色のイメージを確認し、実践につなげられるよう練習しておく。	②作品の性格を読み取る。 ③問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	140分
第8回	課題曲Ⅱ 室内楽の魅力を感じながら、音色、響きの調和と強弱のバランスを追求する	①音色や音の比重バランス、音程などから美しい響きが生み出されることを、再確認する。 ②楽曲分析により響きのイメージを明確にしておく。	③リズム、拍子の様々な奏法を試し、演奏に与える違いを感じとる。 ④問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	140分
第9回	課題曲Ⅱ ①全楽章を通して—呼吸、音のバランスをポイントとする ②表現の可能性を探る	①共に演奏する、音楽を作るという意識を高く持ち、各自、練習しておく。	②全体構造や作品の性格、展開、イメージを明確にしておく。 ③問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	140分
第10回	課題曲Ⅱ 仕上げ 全楽章を通して—呼吸、音のバランスをポイントとする	①曲の全体像から、立体的な表現につながるよう、効果的に演奏できる工夫をする	②演奏のビジョンを明確にしておく。 ③課題曲Ⅱの反省と、次回の課題の確認。	140分
第11回	課題曲Ⅲ 課題曲Ⅰ、Ⅱとの比較において、アンサンブルを行う際の問題点を探る	①曲の全体像から、立体的な表現につながるよう、効果的に演奏できる工夫をする	②全パートで一つの音楽に成り得たか、自己評価。 ③課題曲Ⅲの楽譜を準備し、譜読みをしておく。	140分
第12回	課題曲Ⅲ 課題曲の分析を行い、様式感からのアプローチを実践する	①異なる楽器の発音体、タイミング、音色を再確認する。	④問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。 ⑤問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	140分
第13回	課題曲Ⅲ コンサートに向けてのリハーサルの仕方を学ぶ	①リハーサルの調整、発表までの計画を立てる。	⑥問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。 ⑦問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	140分
第14回	課題曲Ⅲ 仕上げ 全楽章を通して—構成、音のバランス、音楽の全体像をポイントとする	①共に演奏する、音楽を作るという意識を高く持ち、各自、練習しておく。	⑧アンサンブル上の問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。 ⑨問題点を確認し、良い演奏につながるよう、各自準備する。	140分
第15回	課題曲Ⅲ 演奏発表と反省	①問題点を確認し、今後の課題を確認する。	⑩演奏の反省と、今後の課題を確認する。	140分

フィードバック レッスン形式のため、課題準備に対し、授業内で教員がともに演奏しながらアドバイスをを行うことで、フィードバックする。

成績評価 課題曲についての分析と表現、およびアンサンブルへの積極的な取り組み姿勢で評価する。

テキスト 授業内で指示する。

オフィスアワー 授業終了後教室にて

備考 課題曲Ⅰ、Ⅱ、Ⅲは、異なる時代様式のソナタを演奏する。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・目的意識的発力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

音楽学概論-1

教授 上尾信也

科目コード: MUS107

対象コース/専門/学年: GLA コース/音楽学専門・文化創造マネジメント専門/1 年次、音楽教育/1~2 年次

形態: 講義

単位数: 2 単位

概要 音楽学の諸領域、周辺諸領域を学び、方法論を身につけることによって、音楽研究の基礎を身につける。

到達目標 音楽学・音楽教育の研究の実践の基礎となる文献を分析・発表することで、今後の指針を獲得する。

授業計画

【AL】

回数	授業内容	事前	事後	評価
第 1 回	音楽学とは—歴史的音楽学と体系的音楽学	音楽学を日本語の音楽事典で調べる	授業で扱った参考文献を調査する	80 分 200 分
第 2 回	音楽学の方法 1—研究方法、資料と文献、『新グローヴ世界音楽事典』と NGD 2nd edition	『新グローヴ世界音楽事典』をしてみる	NGD 2nd edition を見る	110 分 170 分
第 3 回	音楽学の方法 2—文献検索と図書館利用法	図書館での作曲家や音楽文献の検索をしてみる	図書館実習 (検索)	80 分 200 分
第 4 回	音楽学の方法 3—資料論、史料批判	検索した文献を調査	授業で扱った参考文献を調査する	110 分 170 分
第 5 回	音楽学の諸分野 1—音響学、聴覚生理学、聴覚心理学、音声生理学	参考資料を読んてくる	授業で扱った参考文献を調査する	80 分 200 分
第 6 回	音楽学の諸分野 2—音楽社会学、民俗音楽学/音楽民族学	参考資料を読んてくる	授業で扱った参考文献を調査する	80 分 200 分
第 7 回	音楽学の諸分野 3—新しい音楽学	参考資料を読んてくる	授業で扱った参考文献を調査する	80 分 200 分
第 8 回	記譜法—楽譜と音楽作品	参考資料 (上尾「楽譜」) を読んてくる	授業で扱った参考文献を調査する	80 分 200 分
第 9 回	図像学と楽器学	参考資料を読んてくる	授業で扱った参考文献を調査する	80 分 200 分
第 10 回	音楽理論—楽譜、記号、用語、演奏習慣、音組織	参考資料を読んてくる	参考資料で配布した音楽用語を覚える	80 分 200 分
第 11 回	楽曲分析の実際—ベートーヴェンのピアノソナタ、Op.79	ベートーヴェンとソナタ形式について調べる	ベートーヴェンの他のピアノソナタについても鑑賞分析する	80 分 200 分
第 12 回	音楽学の文献調査と文献紹介解題	今までの授業の中で関心のあったテーマを考える	テーマに即した文献を調べる	80 分 200 分
第 13 回	文献調査実習	関心のあるテーマについての文献を調査し選ぶ	選んだ文献を精読する	110 分 170 分
第 14 回	課題報告 1	課題報告の準備、レジュメ作成	課題報告レポート作成	110 分 170 分
第 15 回	課題報告 2	課題報告の準備、レジュメ作成	課題報告レポート作成	110 分 170 分

フィードバック コメントリーレポートの提出とそれによる次回授業での質疑

成績評価 毎回授業後のコメントリーレポート (45%) による習熟度と、期末の文献解題レポートの作製と発表 (55%) による収集力・分析力・説得力などを勘案する。

テキスト 参考文献: 第 2 回、第 3 回の授業の中で提示するほか、必要に応じて随時指示する。

オフィスアワー 授業終了後

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

音楽学概論-2

教授 上尾信也

科目コード: MUS108

対象コース/専門/学年: GLA コース/音楽学専門・文化創造マネジメント専門/1 年次、音楽教育/1~2 年次

形態: 講義

単位数: 2 単位

概要 音楽学の諸領域、周辺諸領域を学び、方法論を身につけることによって、音楽研究の基礎を身につける。

到達目標 本学図書館の貴重図書である初版楽譜と自筆譜などの比較によって史料分析の基礎を身につける。

授業計画

【AL】

回数	内容	事前	事後	時間
第1回	音楽学と楽曲分析	音楽学を日本語の音楽事典で調べる	授業で扱った参考文献を調査する	80分 200分
第2回	対象となる作品と作曲家—ベートーヴェンを例に	『新グローヴ世界音楽事典』をしてみる	NGD 2nd edition をしてみる	110分 170分
第3回	音楽作品の曲種と形式1 声楽—単旋律聖歌、ミサ曲、モテット	事前資料を読んでくる	授業で紹介した作品の鑑賞	110分 170分
第4回	音楽作品の曲種と形式2 声楽—カンタータ、オラトリオ、受難曲	事前資料を読んでくる	授業で紹介した作品の鑑賞	110分 170分
第5回	音楽作品の曲種と形式3 声楽（世俗）—歌曲、マドリガレ、オペラ	事前資料を読んでくる	授業で紹介した作品の鑑賞	110分 170分
第6回	音楽作品の曲種と形式4 器楽（室内楽） —フーガ、カンノン、前奏曲、変奏曲、性格的小品、標題音楽、ソナタ	事前資料を読んでくる	授業で紹介した作品の鑑賞	110分 170分
第7回	音楽作品の曲種と形式5 器楽（管弦楽）—協奏曲、序曲、組曲、舞曲、セレナード、交響曲	事前資料を読んでくる	授業で紹介した作品の鑑賞	110分 170分
第8回	音楽学の研究方法と研究テーマの設定—一次史料としての楽譜の分析	NGD ベートーヴェンの項目を読んでおく	ベートーヴェンのソナタの楽譜について調べる	140分 140分
第9回	研究方法の実践1—図書館貴重図書実習: 楽譜の種類	担当する楽曲を決める	課題に応じた調査と分析、比較と考察	80分 200分
第10回	研究方法の実践2—図書館貴重図書実習: 自筆譜と初版譜	課題に応じた調査と分析、比較と考察	課題に応じた調査と分析、比較と考察	140分 140分
第11回	研究方法の実践3—図書館貴重図書実習: 原典版と校訂譜	課題に応じた調査と分析、比較と考察	課題に応じた調査と分析、比較と考察	140分 140分
第12回	研究方法の実践4—図書館貴重図書実習: 再版、海賊版	課題に応じた調査と分析、比較と考察	課題に応じた調査と分析、比較と考察	140分 140分
第13回	研究方法の実践5—楽曲の分析と出版のコンテクスト	課題に応じた調査と分析、比較と考察	課題に応じた調査と分析、比較と考察	140分 140分
第14回	課題報告1	発表準備、レジュメ作成	発表レポート作成	140分 140分
第15回	課題報告2	発表準備、レジュメ作成	発表準備、レジュメ作成	140分 140分

フィードバック コメントリーレポートの提出とそれによる次回授業での質疑

成績評価 第7回までの授業内容についてのミニ試験（30%）と史料分析の作製と発表（70%）による収集力・分析力・説得力などを勘案する。

テキスト 参考文献: 第1、2回の授業の中で提示するほか、必要に応じて随時指示する。

オフィスアワー 授業終了後

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

音楽教育概論-1

短期大学部講師 林直美

科目コード：EDU101

対象コース/専門/学年： 器楽・声楽・演奏家コース/全専門/1~2年次、GLA コース/音楽学専門/1~2年次、GLA コース/音楽教育、文化創造マネジメント専門/1年次

形態：講義

単位数：2単位

概要 音楽教育に関する基礎的な事柄を総合的に学ぶ授業である。音楽が教育とどのような関連を持ちながら広まっていったのかを歴史的に概観する。特に現代社会において示唆を与える事柄や人物については、トピック的に事例を取り上げ理解を深める。

到達目標 音楽教育に関する基礎的な事柄について幅広い知識を身に付ける。アクティブラーニングを取り入れ、「教わる側」としての体験に基づき内容を理解し、それを「教える側」に立った時に役立てることができるよう意識することの大切さを認識する。

授業計画 下記のテーマに沿って講義を行う。また、授業内容によってディスカッションやプレゼンテーションを取り入れながら個別指導やグループ指導を行う。

【AL】			
第1回	オリエンテーション ー記憶に残る音楽教育ー	事前 これまでの音楽経験について各自振り返り、考えたことをまとめておく。 事後 中学校音楽家学習指導要領解説の全体を読んでおく。	100分 180分
第2回	音楽を学ぶということ	事前 授業で指示した資料を読んでおく。 事後 授業のノートや資料を見直し、学んだことを各自まとめる。	100分 180分
第3回	音楽によって身につく力とは	事前 授業で指示した資料を読んでおく。 事後 配布された資料と授業の内容から、各自が考える音楽によって身につく力についてまとめる。	100分 180分
第4回	西洋における音楽教育の変遷ー教育哲学者の考える音楽とは	事前 ロック、ルソー、ベスタロッチについて他の授業で学んだテキストやノートを描え、授業の備前参。 事後 授業で配布された資料とノートを用いて学んだ事柄をまとめる。	100分 180分
第5回	西洋における音楽教育の変遷ーフレーベル、ダルクローズ、シュタイナーー	事前 フレーベル、ダルクローズ、シュタイナーについて各自で調べ、課題に取り組む。 事後 授業で配布された資料とノートを用いて学んだ事柄をまとめる。	100分 180分
第6回	西洋における音楽教育の変遷ーコダーイ、オルフー	事前 コダーイ、オルフについて各自で調べ、課題に取り組む。 事後 授業内で提示された課題に取り組む。	100分 180分
第7回	日本における音楽教育の変遷ー伊沢修二とはー	事前 伊沢修二という人物について課題に基づき各自調べる。 事後 授業内で提示された課題に取り組む。	100分 180分
第8回	学校教育の展開と音楽	事前 明治から大正時代にかけて学校教育がどのように変遷したのかを各自で調べ、課題に取り組む。 事後 授業で配布された資料とノートを使い復習する。	100分 180分
第9回	文部省唱歌を考える	事前 「唱歌」がタイトルについて本を自分で探し、読んでくる（授業内で報告）。 事後 自分で選択した唱歌について、講義で示された課題に取り組む。	100分 180分
第10回	大正新教育と音楽	事前 大正新教育とは何かを各自調べておく。 事後 授業で配布された資料とノートを用いて学んだ事柄をまとめる。	100分 180分
第11回	戦前から戦後における音楽教育	事前 戦前、戦後の音楽授業について本やインターネットで調べる。 事後 授業で配布された資料を読み直し、問題点を整理する。	100分 180分
第12回	現代日本の音楽と教育をめぐる問題ー君が代ー	事前 授業内で提示された資料を読み込んでくる。 事後 授業で配布された資料を読み直し、問題点を整理する。	100分 180分
第13回	現代日本の音楽と教育をめぐる問題ーわらべうたー	事前 わらべうたを各自でできるだけ多く探しておく（授業内で報告）。 事後 グループディスカッションの成果を各自まとめ、問題点を整理する。	100分 180分
第14回	学校音楽の課題と方法ー教科内容の基本的視点ー	事前 授業内で提示された学校音楽の課題について各自調べておく。 事後 授業で配布された資料を読み直し、問題点を整理する。	100分 180分
第15回	まとめならびに補足	事前 これまでの授業のノートならびに配布された資料を見直ししておく。 事後 これまでの授業のノートならびに配布された資料をまとめる。	100分 180分

フィードバック 小テストや提出物について、コメントを付け学修成果をフィードバックする。

成績評価 授業への取り組み 40%、提出物 30%、小テスト 30%を目安に総合的に評価する。

テキスト プリントを適宜配布する。
参考書・参考資料
OECD 教育研究革新センター『アートの教育学ー革新型社会を拓く学びの技』明石書店、2016年
河口道朗『音楽教育の原理ー音楽学習過程の論理と思想』開成出版、2014年
『最新中等科音楽教育法（改訂版）』音楽之友社、2017年

オフィスアワー 授業終了後、教室にて対応する。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>

音楽教育概論-2

准教授 田中里佳

科目コード: EDU102

対象コース/専門/学年: 器楽・声楽・演奏家コース/全専門/1~2年次、GLAコース/音楽学専門/1~2年次、GLAコース/音楽教育、文化創造マネジメント専門/1年次

形態: 講義

単位数 2単位

概要 この講義では、多角的な視点からこれからの音楽教育を考えていく。主に音楽科授業とそれに関連するトピックを採り上げ、音楽教育の課題や意義を考える。その上で、これからの音楽教育とその授業を創造していくための知識や理解を深める。

到達目標 前期で学んだ知識と戦後の音楽教育の変遷をふまえ、現代の日本の学校における音楽教育の課題と意義を自分の言葉で述べるができるようになること、音楽教育に関する新しい考え方を活かして、これからの音楽教育を創造的に構想できることになること、これらを目指す。

授業計画 前半は、主に学校における音楽教育の実際と課題を考察し、後半は、音楽教育の新しい可能性を検討していく。下記のテーマに沿って、毎回、グループワークやディスカッションを行う。

【AL】

第1回	オリエンテーション 学習指導要領と音楽科教育の変遷	事前 前期の内容をふりかえっておく 事後 学習指導要領を再読する	180分 100分
第2回	音楽科授業における教科書の役割	事前 学習指導要領を把握しておく 事後 討論を通じて考えたことをまとめておく	180分 100分
第3回	音楽教育におけるリズムの可能性(1)アフタービート	事前 配布資料に目を通しておく 事後 グループワークを通じて考えたことをまとめておく	180分 100分
第4回	音楽教育におけるリズムの可能性(2)言葉とリズム	事前 配布資料に目を通しておく 事後 グループワークを通じて考えたことをまとめておく	180分 100分
第5回	音楽教育の課題(1)音楽科授業外の音楽教育	事前 配布資料に目を通しておく 事後 討論を通じて考えたことをまとめておく	180分 100分
第6回	音楽教育の課題(2)アウトリーチ	事前 配布資料に目を通しておく 事後 グループワークを通じて考えたことをまとめておく	180分 100分
第7回	音楽教育の課題(3)ジェンダー	事前 配布資料に目を通しておく 事後 討論を通じて考えたことをまとめておく	180分 100分
第8回	音楽教育の課題(4)生涯教育と音楽	事前 配布資料に目を通しておく 事後 討論を通じて考えたことをまとめておく	180分 100分
第9回	これまでの音楽教育の課題とこれからの音楽科が担う役割 レポート①	事前 これまでの講義を振り返り、音楽教育の課題について考えておく 事後 レポートを完成させる	180分 100分
第10回	サウンド・エデュケーション(1)イヤークリーニング	事前 配布資料に目を通しておく 事後 課題を完成させる	180分 100分
第11回	サウンド・エデュケーション(2)サウンド・スケープ	事前 配布資料に目を通しておく 事後 課題を完成させる	180分 100分
第12回	創造的音楽活動(1)音	事前 配布資料に目を通しておく 事後 課題を完成させる	180分 100分
第13回	創造的音楽活動(2)旋法	事前 配布資料に目を通しておく 事後 課題を完成させる	180分 100分
第14回	創造的音楽活動(3)音列	事前 配布資料に目を通しておく 事後 課題を完成させる	180分 100分
第15回	まとめ 新しい音楽教育の新たな可能性 レポート②	事前 これまでの講義を振り返り、音楽教育の新たな可能性について考えておく 事後 全体的内容を振り返り、レポートを完成させる	200分 80分

フィードバック 毎時間後にリフレクション・カードを配布する。そこで挙がった疑問や質問、新たな視点について、次回冒頭で取り上げたり、個別に対応したりして、フィードバックを図る。

成績評価 授業での取り組みとリフレクション・カード(40%)、レポート①(30%)、レポート②(30%)

テキスト
 ・『中学校学習指導要領 音楽編』
 ・『中学校学習指導要領解説 音楽編』
 講義の内容に応じて、適宜プリントを配布する。

オフィスアワー 授業終了後やメールで日程を相談した上で個別に対応する。
 sky_60000886@mail.uenogaku.ac.jp

備考 授業回数の3分の1以上の欠席がある場合は、単位を出すことはできない。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲	
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	

民族音楽学 1

※教育職員免許状取得に関わる科目

非常勤講師 丸山洋司

科目コード：MUS111

対象コース／専門／学年：全コース／全専門／1～3年次

形態：講義

単位数：2単位

概要 この授業では、世界の様々な音楽文化をとりあげて学び、個々の地域の特質と相互の影響関係について理解を深める。民族音楽学 1 では「アフリカ」「南アジア」「ヨーロッパ」「東南アジア」という四つの地域をとりあげ、それぞれの地域の音楽文化について、視聴覚資料を用いたり、楽器の実演を交えて解説する。

到達目標 異なる音楽文化間の共通性や相違性、影響関係について、個々の学生が具体的にイメージし、理解を深めることを目指す。またグループ発表を通して、各学生が主体的に考察テーマを発見し、それについて他の学生と議論しながら調査できるようになることを目標とする。

授業計画

【AL】

第1回	オリエンテーション アフリカ (1) 儀礼と音楽	事前 教科書の p.20～24 を読んで内容を理解する。 事後 授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	120分 160分
第2回	アフリカ (2) 太鼓の諸相	事前 教科書の p.24～28 を読んで内容を理解する。 事後 授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	120分 160分
第3回	アフリカ (3) 音楽構造の特徴と原理	事前 教科書の p.28～31 を読んで内容を理解する。 事後 授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	120分 160分
第4回	アフリカ (4) アフリカの楽器 アフリカ音楽の変貌	事前 教科書の p.31～36 を読んで内容を理解する。 事後 授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	120分 160分
第5回	南アジア (1) 言語・文化の多様性	事前 教科書の p.82～84 を読んで内容を理解する。 事後 授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	120分 160分
第6回	南アジア (2) 古典音楽と地方の伝統音楽	事前 教科書の p.84～86 を読んで内容を理解する。 事後 授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	120分 160分
第7回	南アジア (3) 古典音楽の理論と楽器	事前 教科書の p.86～90 を読んで内容を理解する。 事後 授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	120分 160分
第8回	南アジア (4) 古典舞踊とポピュラー音楽	事前 教科書の p.95～100 を読んで内容を理解する。 事後 授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	120分 160分
第9回	ヨーロッパ (1) ヨーロッパの伝統音楽	事前 教科書の p.42～46 を読んで内容を理解する。 事後 授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	120分 160分
第10回	ヨーロッパ (2) スコットランド・アイルランドの音楽文化	事前 教科書の p.47～50 を読んで内容を理解する。 事後 授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	120分 160分
第11回	ヨーロッパ (3) スコットランドの音楽様式	事前 教科書の p.51～55 を読んで内容を理解する。 事後 授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	120分 160分
第12回	東南アジア (1) 東南アジアの人形芝居と音楽	事前 教科書の p.102～104 を読んで内容を理解する。 事後 授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	120分 160分
第13回	東南アジア (2) 青銅器の音楽文化	事前 教科書の p.105～109 を読んで内容を理解する。 事後 授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	120分 160分
第14回	東南アジア (3) 竹の音楽文化	事前 教科書の p.110～112 を読んで内容を理解する。 事後 授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	120分 160分
第15回	総括 理解度確認テスト	事前 第1回～14回までの授業内容の復習 事後 理解が不十分だった箇所を復習する。	220分 60分

フィードバック ・小テストの答案の返却および解説により、学修成果をフィードバックする。
・授業でのグループ発表について、その授業内にコメントし、学修成果をフィードバックする。

成績評価 期末試験 60% プレゼンテーション 20% 小テスト 20%

テキスト ・柘植元一、塚田健一編『はじめての世界音楽』（音楽之友社、1999年）
・その他、参考文献については授業中に適宜紹介する。

オフィスアワー ・授業終了後教室にて、もしくはEメールにて相談の上、対応する。hiromaru886@hotmail.com

備考 ・視聴覚資料を多く使用するので出席が重要となる。
・楽器または音楽ジャンルに関するチーム・プレゼンテーションを課す予定。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・目的意識の発露力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>					

民族音楽学 2

※教育職員免許状取得に関わる科目

非常勤講師 丸山洋司

科目コード：MUS112

対象コース/専門/学年：全コース/全専門/1~3年次

形態：講義

単位数：2単位

概要 この授業では、世界の様々な音楽文化をとりあげて学び、個々の地域の特質と相互の影響関係について理解を深める。民族音楽学 2 では、「西アジア・中央アジア」「東アジア」「オセアニア」「アメリカ」という四つの地域をとりあげ、それぞれの地域の音楽文化について、視聴覚資料を用いたり、楽器の実演を交えて解説する。

到達目標 異なる音楽文化間の共通性や相違性、影響関係について、個々の学生が具体的にイメージし、理解を深めることを目指す。またグループ発表を通して、各学生が主体的に考察テーマを発見し、それについて他の学生と議論しながら調査できるようになることを目標とする。

授業計画

【AL】

第1回	西アジア・中央アジア (1) 民族文化的背景	事前	教科書の p.60~64 を読んで内容を理解する。	120分
		事後	授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	160分
第2回	西アジア・中央アジア (2) イスラームと音楽 音楽の概念	事前	教科書の p.65~69 を読んで内容を理解する。	120分
		事後	授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	160分
第3回	西アジア・中央アジア (3) 楽器	事前	教科書の p.69~73 を読んで内容を理解する。	120分
		事後	授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	160分
第4回	西アジア・中央アジア (4) 音楽理論 マカーム	事前	教科書の p.73~77 を読んで内容を理解する。	120分
		事後	授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	160分
第5回	東アジア (1) 中国大陸における六つの文化圏	事前	教科書の p.118~120 を読んで内容を理解する。	120分
		事後	授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	160分
第6回	東アジア (2) 音組織・リズム・楽器	事前	教科書の p.120~123 を読んで内容を理解する。	120分
		事後	授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	160分
第7回	東アジア (3) 中国の伝統劇	事前	教科書の p.123~129 を読んで内容を理解する。	120分
		事後	授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	160分
第8回	東アジア (4) モンゴル・チベット・朝鮮半島の音楽	事前	教科書の p.132~136 を読んで内容を理解する。	120分
		事後	授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	160分
第9回	オセアニア (1) オセアニア地域の概観 ミクロネシアの音楽芸能	事前	教科書の p.140~143 を読んで内容を理解する。	120分
		事後	授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	160分
第10回	オセアニア (2) メラネシア・ポリネシア・オーストラリアの音楽芸能	事前	教科書の p.143~146 を読んで内容を理解する。	120分
		事後	授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	160分
第11回	オセアニア (3) 社会と音楽芸能	事前	教科書の p.146~149 を読んで内容を理解する。	120分
		事後	授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	160分
第12回	アメリカ (1) アメリカ・インディアンとイヌイット	事前	教科書の p.160~163 を読んで内容を理解する。	120分
		事後	授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	160分
第13回	アメリカ (2) ヨーロッパ系住民の音楽	事前	教科書の p.163~167 を読んで内容を理解する。	120分
		事後	授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	160分
第14回	アメリカ (3) アフリカ系住民の音楽 ポピュラー音楽	事前	教科書の p.168~171 を読んで内容を理解する。	120分
		事後	授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	160分
第15回	総括 理解度確認テスト	事前	第1回~14回までの授業内容の復習	220分
		事後	理解が不十分だった箇所を復習する。	60分

フィードバック ・小テストの答案の返却および解説により、学修成果をフィードバックする。
・授業でのグループ発表について、その授業内にコメントし、学修成果をフィードバックする。

成績評価 期末試験 60% プレゼンテーション 20% 小テスト 20%

テキスト ・柘植元一、塚田健一編『はじめての世界音楽』（音楽之友社、1999年）
・その他、参考文献については授業中に適宜紹介する。

オフィスアワー ・授業終了後教室にて、もしくはEメールにて相談の上、対応する。hiromaru886@hotmail.com

備考 ・視聴覚資料を多く使用するので出席が重要となる。
・楽器または音楽ジャンルに関するチーム・プレゼンテーションを課す予定。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>					

文化創造概論-1

准教授 佐野直哉

科目コード：MGT101

対象コース/専門/学年：GLA コース/文化創造マネジメント専門/1 年次、器楽・声楽・演奏家コース/全専門/1 年次、GLA コース/音楽学・音楽教育専門/1~2 年次

形態：講義

単位数：2 単位

概要 アートマネジメントが影響を受ける外的要因と環境（政治・経済などの社会状況や音楽以外の文化・芸術との関連）を理解し、求められる思考力、目配りすべき領域の知識とスキルの基礎を身につける。具体的には文化政策の基本的な理論を押さえた上で、国、地方自治体、民間やNPOそれぞれの取り組みと背景を概観するのち、事例分析による具体的な展開とその意義・インパクトを考察していく。

到達目標 マーケティング的な発想とマネジメント能力を兼ね備えた芸術文化に貢献できる人材となるための基礎的知識と思考力を身につける。プレゼンテーション課題を通して、企画に関わる様々なステークホルダーの視点とチェックポイントを理解できるようになる。

授業計画

第1回	自己紹介とオリエンテーション(導入)	事前 事後	1年間の学びをイメージする	270分
第2回	芸術・文化政策の理論的基礎：なぜ芸術・文化に公的支援が必要なのか?① ボウモル・ボウエン「舞台芸術：芸術と経済のジレンマ」は何を意味するか	事前 事後	芸術・文化の公的支援にどのようなものがあるかリサーチする 授業内で取り扱った資料を読み込み、理解と整理をする	70分 200分
第3回	芸術・文化政策の理論的基礎：なぜ芸術・文化に公的支援が必要なのか?② 第2回授業の続き	事前 事後	芸術・文化の公的支援を必要としない事例とその理由を考える 授業内で取り扱った資料を読み込んでおく	70分 200分
第4回	文化芸術基本法と国・自治体の文化政策① 文化政策の考え方の変遷と取り組み	事前 事後	文化芸術基本法に目を通しておく 授業内で取り扱った資料を読み込み、理解と整理をする	70分 200分
第5回	文化芸術基本法と国・自治体の文化政策② 第4回授業の続き	事前 事後	第4回授業の復習と第1回課題の準備 授業内で取り扱った資料を読み込み、理解と整理をする。第1回課題の準備	130分 140分
第6回	文化芸術基本法と国・自治体の文化政策③ 第5回授業の続き	事前 事後	第5回授業の復習と第1回課題の準備 授業内で取り扱った資料を読み込み、理解と整理をする。第1回課題の準備	130分 140分
第7回	第1回課題：地方自治体の文化基本計画をテーマにした学生による事例分析 各学生のプレゼンテーションに対する講評とディスカッション	事前 事後	第1回課題の準備 授業中に受けたフィードバックを踏まえた振り返り	200分 70分
第8回	指定管理者制度の本質と意義、評価① ニューパブリックマネジメントの考え方、目的、本質を考察する	事前 事後	指定管理者制度について大まかにリサーチしておく 授業内で取り扱った資料を読み込み、理解と整理をしておく。	70分 200分
第9回	指定管理者制度の本質と意義、評価② 先進的な取り組み事例：大和市文化創造拠点シリウス	事前 事後	大和市文化創造拠点シリウスのホームページに目を通しておく 授業内で取り扱った資料を読み込み、理解と整理をする。	70分 200分
第10回	指定管理者制度の本質と意義、評価③ 先進的な取り組み事例：岐阜県可児市文化創造センター	事前 事後	岐阜県可児市文化創造センターのホームページに目を通しておく 授業内で取り扱った資料を読み込み、理解と整理をしておく	70分 200分
第11回	ソフトパワー：文化と外交、国家ブランディング① 80年代に提唱されたソフトパワーの概念の概観、その限界と課題	事前 事後	文化と外交に関する自分の意見をまとめておく 授業内で取り扱った資料を読み込み、理解と整理をしておく	70分 200分
第12回	ソフトパワー：文化と外交、国家ブランディング② 日本のクールジャパンや英国 GREAT キャンペーンなどの事例を検討	事前 事後	興味のある国のブランディングについてリサーチしておく 授業内で取り扱った資料を読み込み、理解と整理をしておく	70分 200分
第13回	海外の芸術・文化政策の比較と事例研究① アメリカ、イギリス、フランスと日本との比較	事前 事後	興味のある国の文化政策についてリサーチしておく 授業内で取り扱った資料を読み込み、理解と整理をする。第2回課題の準備	70分 200分
第14回	海外の芸術・文化政策の比較と事例研究② カルチュラル・オリンピアード（オリンピック文化プログラム）：ロンドン事例に	事前 事後	日本のオリンピック文化プログラムについて調べておく 授業内で取り扱った資料を読み込み、理解と整理をする。第2回課題の準備	70分 200分
第15回	第2回課題：公的文化施設と先進的な取り組みをテーマにした学生による事例分析 各学生のプレゼンテーションに対する講評とディスカッション	事前 事後	第2回課題の準備 前期を振り返る	200分 70分

フィードバック 課題プレゼンテーションの講評以外にも授業内の発表や発言などへのフィードバックを随時行う。

成績評価 プレゼンテーション課題の評価（80%）、授業中の発言内容と態度・積極性（20%）によって総合的に評価する。

テキスト 特にないが、適宜プリントなどで補足する。

参考図書として以下参照
中川真、フィルムアート社編集部（2011）『これからのアートマネジメント“ソーシャル・シェア”への道』.フィルムアート社.

オフィスアワー 月曜V駒 研究室にて（事前にEmailにて連絡が望ましい。ball-60000846@mail.uenogakuen.ac.jp）

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経歴・多様性							
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	プレゼンテーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	

文化創造概論-2

准教授 佐野直哉

科目コード：MGT102

対象コース／専門／学年：GLAコース／文化創造マネジメント専門／1 年次、器楽・声楽・演奏家コース／全専門／1 年次、GLAコース／音楽学・音楽教育専門／1～2 年次

形態：講義	単位数：2 単位
概要	アートマネジメントが影響を受ける外的要因と環境（政治・経済などの社会状況や音楽以外の文化・芸術との関連）を理解し、求められる思考力、目配りすべき領域の知識とスキルの基礎を身につける。後期では民間主体のアート NPO 活動にどのようなものがあるか、昨今盛り上がりを見せている芸術祭などを事例として取り上げる。またマーケティングやファンドレイジングの基礎理論も学ぶ。
到達目標	マーケティング的な発想とマネジメント能力を兼ね備えた芸術文化に貢献できる人材となるための基礎的知識と思考力を身につける。プレゼンテーション課題を通して、企画に関わる様々なステークホルダーの視点とチェックポイントを理解できるようになる。

回	内容	事前	事後	単位数
第 1 回	前期の振り返り 各自のプロデュース企画書作成のためのアイデア、想いを形にするために必要なこと	前期の振り返り点を整理しておく	プロデュース企画を自分なりに仕上げしておく	270 分
第 2 回	人と人をつなぐアート NPO 市民社会における芸術・文化の担い手の文化政策における役割と社会的位置付け	第 1 回授業の際に指示する	アートがどのように社会に関わるか、他の事例をリサーチする	70 分 200 分
第 3 回	第 2 回講義の続き 各自作成の企画書振り返り<社会との関わりからの視点から分析>	アートがどのように社会に関わるか、他の事例をリサーチする	授業をふりかえり、自分のプロデュース企画の見直し、書き直しをする	70 分 200 分
第 4 回	芸術祭の盛況と地域創生、ツーリズムの関わりと目的 事例研究：越後妻有大地の芸術祭	自分の身近にどのような芸術祭があるかリサーチする	自分がりサーチした芸術祭の目的と地域との関係性を考察する	70 分 200 分
第 5 回	芸術祭のマーケティング 事例研究：茨城県北芸術祭	自分のプロデュース企画のマーケティング計画を考へてみる	授業をふりかえり、自分のプロデュース企画の見直し、書き直しをする	70 分 200 分
第 6 回	芸術の運営：マーケティング① アートマーケティング戦略、特徴と限界、消費者行動について	自分のプロデュース企画のマーケティング計画を考へてみる	授業内で取り扱った資料を読み込み、理解と整理をする。第 1 回課題の準備	270 分
第 7 回	芸術の運営：マーケティング② プロモーション、プレスと SNS 展開について	自分のプロデュース企画のマーケティング計画を考へてみる	授業内で取り扱った資料を読み込み、理解と整理をする。第 1 回課題の準備	270 分
第 8 回	第 1 回課題：社会的課題と取り組みをテーマにした事例分析プレゼンテーション 各学生のプレゼンテーションに対する講評とディスカッション	第 1 回課題プレゼンテーションの準備	講評を踏まえた振り返りと改善点のまとめ	200 70 分
第 9 回	芸術の運営：ファンドレイジング① 公的支援以外の、クラウドファンディングなど民間からの資金調達の種類と方法	どのような資金がプロジェクトには必要かリサーチする	ファンドレイジングの事例をリサーチする	70 分 200 分
第 10 回	芸術の運営：ファンドレイジング② 事例研究：東京おもちゃ美術館	ファンドレイジングの事例をリサーチする	授業をふりかえり、自分のプロデュース企画の見直し、書き直しをする	70 分 200 分
第 11 回	芸術の運営：評価 評価の種類と目的、実施方法について	関心を持ったアートイベントの評価報告書を探し、概要を理解する	授業内で取り扱った資料を読み込み、理解と整理をする。第 2 回課題の準備	120 分 150 分
第 12 回	企画実現のためのリサーチ分析と戦略構築 顧客は誰か、市場規模、環境、競合分析	これまでの該当授業で学んだ事項からプロデュース企画を見直す	授業内で取り扱った資料を読み込み、理解と整理をする。第 2 回課題の準備	120 分 150 分
第 13 回	企画実現のためのマーケティング計画 これまで学んできたマーケティング理論を基に各自作成する	これまでの該当授業で学んだ事項からプロデュース企画を見直す	授業内で取り扱った資料を読み込み、理解と整理をする。第 2 回課題の準備	120 分 150 分
第 14 回	企画実現のためのファンドレイジング計画 これまで学んできたファンドレイジング方法論を基に各自作成する	これまでの該当授業で学んだ事項からプロデュース企画を見直す	授業内で取り扱った資料を読み込み、理解と整理をする。第 2 回課題の準備	120 分 150 分
第 15 回	第 2 回課題：プロデュース企画プレゼンテーション 各学生に対する講評とディスカッション	第 2 回課題の準備	講評を踏まえた振り返りと改善点のまとめ	240 分 30 分

フィードバック 課題プレゼンテーションの講評以外にも授業内の発表や発言などへのフィードバックを随時行う。

成績評価 プレゼンテーション課題の評価（80%）、授業中の発言内容と態度・積極性（20%）によって総合的に評価する。

テキスト 特にないが、適宜プリントなどで補足する。

参考図書として以下参照
中川真、フィルムアート社編集部（2011）『これからのアートマネジメント“ソーシャル・シェア”への道』.フィルムアート社.

オフィスアワー 月曜 V 駒 研究室にて（事前に Email にて連絡が望ましい。ball-60000846@mail.uenogakuen.ac.jp）

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性							
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>					

ビジネス経営概論-1

客員教授 山脇秀樹

科目コード：MGT103

対象コース/専門/学年：GLAコース/文化創造マネジメント専門/1年次、これ以外の全コース/全専門/1～2年次

形態：講義	単位数：2単位
概要	デザイン思考の概念を導入し、その手法をグループ・プロジェクト実習を通して習得する事を主目的とする。とくには、ビジネス機会の発見・創造をプロジェクトの到達目標とし、受講生には具体案をグループで協議・発表してもらう。伝統的な手法との違い、あるいは重複する領域の議論を通じて、デザイン思考は企業が直面する問題を解決できるのか、という課題も考察する。
到達目標	デザイン思考の手法を習得する。とくには、ビジネス機会の発見・創造をプロジェクトの到達目標とする。概論1ではトレンド分析、顧客のジャーニー・マッピングを習得する。

授業計画		
第1回	イントロダクション 目的設定、到着目標設定	事前 事後 デザイン思考に関する文献の調査を行う 280分
第2回	グループ編成 自己紹介、グループネーミング	事前 事後 グループメンバー間の連絡を確実にする 280分
第3回	チームエクササイズ1 タワービルディング	事前 事後 グループメンバー間の連絡を確実にする 280分
第4回	チームエクササイズ2 顧客観察	事前 事後 上野学園界隈のフィールドワークを行う 100分 180分
第5回	チームエクササイズ2 事業形態分析	事前 事後 上野学園界隈のフィールドワークを行う 280分
第6回	グループ別発表	事前 事後 パワーポイント発表の準備をする 280分
第7回	グループ別発表講評 デザイン思考の概念、グループプロジェクト課題発表	事前 事後 グループ別討議、プロジェクトの概要を決める 280分
第8回	デザイン思考の基礎概念 プロジェクト選択とトレンド分析、問題の認識	事前 事後 プロジェクトを選択する 100分 180分
第9回	プロジェクト演習 フィールドワークの企画	事前 事後 グループ別にフィールドワークを企画しその概要をまとめる 280分
第10回	フィールドワーク1 顧客観察、学外演習	事前 事後 取得したデータを纏め、パワーポイントでの発表準備 280分
第11回	フィールドワーク2 インタビュー、学外演習	事前 事後 取得したデータを纏め、パワーポイントでの発表準備 280分
第12回	フィールドワーク3 事業形態分析、学外演習	事前 事後 取得したデータを纏め、パワーポイントでの発表準備 280分
第13回	フィールドワーク4 収集したデータの分類	事前 事後 取得したデータを纏め、パワーポイントでの発表準備 280分
第14回	フィールドワーク5 データ分析、発表準備	事前 事後 取得したデータを纏め、パワーポイントでの発表準備 280分
第15回	グループ別発表 ペルソナの創造：概念	事前 事後 パワーポイントでの発表の準備をする 100分 180分

フィードバック 発表した内容については、その場でコメントする。

成績評価 平常点（受講態度、発言、発表、リーダーシップ）、プロジェクト最終レポートで総合的に評価。

テキスト 使用せず。必要に応じて印刷物を配布する。

オフィスアワー 授業後教室にて。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

ビジネス経営概論-2

客員教授 山脇秀樹

科目コード：MGT104

対象コース/専門/学年：GLAコース/文化創造マネジメント専門/1年次、これ以外の全コース/全専門/1~2年次

形態：講義	単位数：2単位
概要	デザイン思考の手法をグループ・プロジェクト実習を通して習得し、アイデアを事業化する作業を主目的とする。とくには、ビジネス機会の発見・創造をプロジェクトの到達目標とし、受講生は事業案、ビジネスコンセプト、並びにビジネスモデルをグループで協議・発表する。 ビジネス経営概論-1を履修した学生のみ履修可能。
到達目標	デザイン思考の手法を習得する。とくには、ビジネス機会の発見・創造、そしてコンセプトの作成をプロジェクトの到達目標とする。概論-2では概論-1で得られたデータを基に、ペルソナ作成、アイデア創出、ビジネスコンセプト作成、ビジネスモデル作成のための概念並びに手法を習得する。

授業計画		事前	事後	単位数
第1回	ペルソナの創造：演習 4人のペルソナの作成		パワーポイントでの発表の準備をする	280分
第2回	グループ別発表 ペルソナのプロフィールの発表		パワーポイントでの発表の準備をする グループ別に要点をまとめる	100分 180分
第3回	潜在的な顧客の分析と洞察 これまでのリサーチ成果（ペルソナ、ジャーニーマッピング）から洞察を導く		事前 事後 導かれた洞察を表にする	280分
第4回	アイデア創出1 ブレインストーミングの意味と方法		事前 事後 グループ別にブレインストームを続ける	280分
第5回	アイデア創出2 新事業機会のアイデアをブレインストームする		事前 事後 グループ別にブレインストームを続ける	140分 140分
第6回	アイデア創出3 各チーム5-10のアイデアを創出		事前 事後 グループ別にブレインストームを続ける パワーポイントでの発表の準備をする	100分 180分
第7回	グループ別発表 アイデアの発表、投票		事前 事後 得られたコメントに基づいて、コンセプトを考える	280分
第8回	新事業機会とコンセプト1 ビジネスコンセプトの概念		事前 事後 グループ別にコンセプトを討議する	140分 140分
第9回	新事業機会とコンセプト2 ビジネスコンセプト演習		事前 事後 グループ別にコンセプトを具体化する グループ別に3つの良いアイデアを選択する	140分 140分
第10回	新事業機会とコンセプト3 3つのアイデアを選択する		事前 事後 グループ別に3つの良いアイデアを選択する	100分 180分
第11回	新事業機会とコンセプト4 3つのアイデアのビジネスモデルを作成する		事前 事後 選択した3つのアイデアのビジネスモデルを作成する	280分
第12回	仮定の検証 ビジネスモデル作成に際して使用した仮定の明確化		事前 事後 仮定が現実的か否かを検証する これまでの成果物の要点を纏める	140分 140分
第13回	プロジェクト成果物作成に向けての作業1 内容作成		事前 事後 これまでの成果物の要点を纏める	280分
第14回	プロジェクト成果物作成に向けての作業2 データ作業		事前 事後 使用したデータの確認、図表を作成する パワーポイントでの発表の準備をする	140分 140分
第15回	グループ別最終発表		事前 事後 パワーポイントを使用し、グループ別に発表する	280分

フィードバック 発表した内容発表した内容について、その場でコメントする。

成績評価 平常点（受講態度、発言、発表、リーダーシップ）、プロジェクト最終レポートで総合的に評価。

テキスト 使用せず。必要に応じて印刷物を配布する。

オフィスアワー 授業後教室にて。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

特殊講義（西洋音楽史）-1

教授 上尾信也

科目コード：MUS201

対象コース/専門/学年：GLA コース/音楽学専門/2 年次、GLA コース/音楽教育専門・文化創造マネジメント専門/2~3 年次、器楽・声楽・演奏家コース/全専門/3~4 年次

形態：講義

単位数：2 単位

概要 「楽器と演奏」をテーマとして、図像資料や上野学園楽器展示室での実習、専門の先生方を招いての実演を活用しながら、音楽の道具である楽器の歴史をたどる。楽器が音楽作品に与えた影響、演奏者のありよう、さらには楽器が音楽史や社会に与えた影響なども考察していく。ここでは前近代を扱う。

到達目標 楽器そのものへの理解を得るとともに、楽器という非文献資料を用いる研究方法や、演奏という行為についても知識を習得することを目標とする。

授業計画

【AL】

回数	内容	事前	事後	時間
第1回	楽器から見た音楽の社会史—楽器と演奏者	自分の主科副科楽器について説明する準備	授業で示された参考文献を調査する	80分 200分
第2回	研究と資料—作品（楽譜）以外の音楽の資料 絵画資料から見た楽器	自分の主科副科楽器の描かれた絵画・図像を検索する	授業で示された参考文献を調査する	80分 200分
第3回	楽器の分類と楽器博物館—考古学と楽器学	国内外の楽器博物館のHPにアクセスし調べてみる	授業で示された参考文献を調査する、楽器分類表をつくる	140分 140分
第4回	古代の楽器—ユーラシアから地中海へ	『新グローヴ世界音楽大事典』などで「楽器」の項目を調べる	授業で示された参考文献を調査する	140分 140分
第5回	古代ギリシア・ローマの楽器—ユーラシアから地中海世界へ	『新グローヴ世界音楽大事典』などで「ギリシア」「ローマ」の項目を調べる	授業で示された参考文献を調査する、授業で扱った楽器について調べる	140分 140分
第6回	ヨーロッパ中世の楽器—地中海世界の伝播と伝来	『新グローヴ世界音楽大事典』などで「中世」「ルネサンス」の項目を調べる	授業で示された参考文献を調査する、授業で扱った楽器について調べ、音源を鑑賞する	110分 170分
第7回	中世のルネサンスへ—<栄光の門>と<カンティガス>	『新グローヴ世界音楽大事典』などで「弦楽器」の項目を調べる	授業で示された参考文献を調査する、授業で扱った楽器について調べ、音源を鑑賞する	110分 170分
第8回	ルネサンス・バロックの撥弦楽器の見学実習（予定）	ルネサンス・バロックの撥弦楽器所蔵カタログの予習	ルネサンス・バロックの撥弦楽器のレポートの作成①	80分 200分
第9回	ルネサンス・バロックの弦楽器1—ヴィオール族の歴史と音楽	『新グローヴ世界音楽大事典』などで「バロック」の項目を調べる	授業で扱った楽器について調べ、音源を鑑賞する	80分 200分
第10回	ヴィオール族の見学実習（予定）	ルネサンス・バロックの弦楽器1 ヴィオール族所蔵カタログの予習	ルネサンス・バロックの弦楽器1 ヴィオール族のレポートの作成②	80分 200分
第11回	パイプオルガンの歴史と構造1—レノヴァティオとしてのオルガン	『新グローヴ世界音楽大事典』などで「パイプオルガン/オルガン」の項目を調べる	授業で扱った音楽作品について調べ、音源を鑑賞する	80分 200分
第12回	パイプオルガンの実演実習(予定)	事前の資料を予読する	パイプオルガンのレポートの作成③	80分 200分
第13回	ヴィオール族と鍵盤楽器の実演実習（予定）	『新グローヴ世界音楽大事典』などで「ヴィオラ・ダ・ガンバ」「チェンバロ」の項目を調べる	ヴィオール族と鍵盤楽器の実演実習レポートの作成④	80分 200分
第14回	パイプオルガンの歴史と構造2—建造と復元	パイプオルガンのレポートの作成③	パイプオルガンのレポートの作成③	140分 140分
第15回	鍵盤楽器の歴史と音楽1—鍵（clavi）	ピアノの歴史について調べる	授業で扱った音楽作品について調べ、音源を鑑賞する	110分 170分

フィードバック 各レポートへのコメントと実習実演などにおける質疑応答

成績評価 7回のレポート（70%）と期末課題のレポート（30%）により評価します。

テキスト 随時、参考文献を指示します。

オフィスアワー 授業後

備考 楽器展示室での見学やゲストの先生方の実演などの実習、それに伴い講義テーマは予定日時が変更する場合があります。予めご了承ください。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発働能力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	

特殊講義（西洋音楽史）-2

教授 上尾信也

科目コード：MUS202

対象コース/専門/学年：GLA コース/音楽学専門/2 年次、GLA コース/音楽教育専門・文化創造マネジメント専門/2~3 年次、器楽・声楽・演奏家コース/全専門/3~4 年次

形態：講義

単位数：2 単位

概要 「楽器と演奏」をテーマとして、図像資料や上野学園楽器展示室での実習、専門の先生方を招いての実演を活用しながら、音楽の道具である楽器の歴史をたどる。楽器が音楽作品に与えた影響、演奏者のありよう、さらには楽器が音楽史や社会に与えた影響なども考察していく。ここでは近代以降を扱う。

到達目標 楽器そのものへの理解を得るとともに、楽器という非文献資料を用いる研究方法や、演奏という行為についても知識を習得することを目標とする。

授業計画

【AL】

第1回	鍵盤楽器の歴史と音楽 —チェンバロ、ピアノフォルテ、タンゲンテンフリュエーゲル	事前 『新グローヴ世界音楽大事典』などで「ピアノ」「ピアノフォルテ」「クラヴィコード」の項目を調べる 事後 授業で扱った音楽作品について調べ、音源を鑑賞する	110分 170分
第2回	鍵盤楽器の見学実習（予定）	事前 鍵盤楽器所蔵カタログの予習 事後 鍵盤楽器のレポートの作成⑤	80分 200分
第3回	管楽器の歴史と音楽1—楽器のルネサンス、プラスヘ	事前 管楽器の種類について調べる 事後 授業で扱った音楽作品について調べ、音源を鑑賞する	110分 170分
第4回	管楽器の歴史と音楽2—管楽器のレパートリー	事前 『新グローヴ世界音楽大事典』などで木管と金管のそれぞれの楽器の項目を読む 事後 授業で扱った音楽作品について調べ、音源を鑑賞する	140分 140分
第5回	管楽器の見学実習（予定）	事前 管楽器所蔵カタログの予習 事後 管楽器のレポートの作成⑥	80分 200分
第6回	弦楽器2—ヴァイオリン族の歴史、製作者、音楽	事前 『新グローヴ世界音楽大事典』などで「ヴァイオリン」の項目を読む 事後 授業で扱った音楽作品について調べ、音源を鑑賞する	80分 200分
第7回	弦楽器3—ヴィルトゥオーゾとオーケストラの誕生	事前 『新グローヴ世界音楽大事典』などで「オーケストラ」「ヴィルトゥオーゾ」の項目を読む 事後 授業で扱った音楽作品について調べ、音源を鑑賞する	110分 170分
第8回	ヴァイオリン族の見学実習（予定）	事前 弦楽器ヴァイオリンなどの所蔵カタログの予習 事後 ヴァイオリンのレポートの作成⑦	80分 200分
第9回	ヴァイオリン族の実演実習（予定）	事前 ヴァイオリンのレポートの作成⑦ 事後 ヴァイオリンのレポートの作成⑦	140分 140分
第10回	楽器の近代—ピアノのイノベーション	事前 『新グローヴ世界音楽大事典』などで「ピアノ」の項目を読む 事後 授業で扱った音楽作品について調べ、音源を鑑賞する	80分 200分
第11回	オーケストラのレパートリー	事前 『新グローヴ世界音楽大事典』などで「オーケストラ」の項目を読む 事後 授業で扱った音楽作品について調べ、音源を鑑賞する	80分 200分
第12回	楽器の拡大—楽器製作の流布	事前 アジアの音楽に関する参考文献を調査する 事後 授業で扱った楽器や音楽について調べ、音源を鑑賞する	110分 170分
第13回	20世紀の楽器の大衆化	事前 音楽や音楽家が主人公の映画作品を調べる 事後 授業で扱った映像作品について調べ、鑑賞する	30分 250分
第14回	映画・映像作品にみる「演奏」	事前 音楽や音楽家が主人公の映画作品を調べる 事後 授業で扱った映像作品について調べ、鑑賞する	30分 250分
第15回	まとめ	事前 期末課題レポートの作成 事後 期末課題レポートの作成	140分 140分

フィードバック 各レポートへのコメントと実習実演などにおける質疑応答

成績評価 7回のレポート（70%）と期末課題のレポート（30%）により評価します。

テキスト 随時、参考文献を指示します。

オフィスアワー 授業後

備考 楽器展示室での見学やゲストの先生方の実演などの実習、それに伴い講義テーマは予定日時が変更する場合があります。予めご了承ください。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>

特殊講義（日本音楽史）-1

講師 櫻井利佳

科目コード：MUS205

対象コース/専門/学年：GLAコース/全専門/2~3年次、器楽・声楽・演奏家コース/全専門/3~4年次生

形態：講義	単位数：2単位
概要	日本音楽史研究は、史料の搜索および研究が前提となるが、とりわけ古代については近年様々な史料が発掘され、それに伴い、古代東アジア世界における文物の交流の様相が次第に明らかになりつつある。日本にどのような音楽史料が存在し、どう活用し得るのか。これまでの研究史の問題点を踏まえ、最新の成果を実践的に検証する。受講生の適正に応じ講義内容を調整する。
到達目標	音楽史学方法論。日本にはどのような音楽史料があるのか、それぞれがどのような意味を持つのかについて、講義で得た知見を元に自身で設定した研究に応用できる。アジアの中の日本の位置を確認しながら、実証的音楽史研究について正しく認識し、講義で提示された問題点について考察を深めることが出来る。

授業計画		
【AL】		
第1回	史料による実証的日本音楽史—史料から何が分かるか（シラバスの確認）	事前 シラバスを熟読し、本科目の概要を把握する。質問事項をまとめておく。 事後 様々な史料形態とその特徴をまとめる。『古典音楽文献解題』を読む。 40分 240分
第2回	考古学史料—残るものと残らないもの（見学準備を含む）	事前 音楽関係の出土史料について国内外のものを搜索する。 事後 特に興味を抱いたモノについて調査を進める。 90分 190分
第3回	【AL】 実地見学—東京国立博物館の埴輪・銅鐸・鏡など（形状・意匠・素材・技巧） （グループワーク）	事前 見学調査の準備をする。 事後 調査結果をまとめ、特に注目すべき点について意見交換し、考察する。 120分 160分
第4回	コトの変遷—種類、機能、象徴性、技術等	事前 様々なコトの種類やその象徴的意味について事前調査をする。 事後 古典文学のコト、出土したコトの意匠、コトの多様性や変遷について考察する。 40分 240分
第5回	東アジアの中の日本—音楽大輸入時代—なぜ音楽が必要だったか	事前 古代中国の世界史的立場やその音楽について事前調査をする。 事後 遣唐使が伝えた音楽の源流について追跡調査を行い、その意義を考察する。 250分 30分
第6回	東大寺大仏開眼供養と正倉院宝物	事前 東大寺大仏および正倉院の歴史について事前調査をする。 事後 論点を絞り、大仏開眼供養および正倉院宝物の音楽史的意義を考察する。 90分 190分
第7回	【AL】 文献史料から国家公務員としての音楽家組織や編成を知る	事前 雅楽寮および楽所についての事前調査を行う。 事後 講義で扱った史料の再読し、史料の意義を考察する。 110分 170分
第8回	【AL】 文献史料としての楽譜を読む—日本音楽の記譜法と解説の歴史	事前 日本に現存する世界最古の楽譜が何か、またその信憑性を調べる。 事後 古楽譜解説の追跡調査を行い、その適否を検証する。 110分 170分
第9回	【AL】 文献史料としての『国家珍宝帳』を読む—至宝としての楽器の博物学的記述	事前 『東大寺献物帳』について事前調査を行う。 事後 奈良時代の楽器の多様性と現代雅楽の編成とを比較し、相違の理由を考察する。 80分 100分
第10回	【AL】 『国家珍宝帳』記載史料と現存楽器とを照合してみよう	事前 前回の調査結果を踏まえ、『国家珍宝帳』の記述の疑問点をまとめる。 事後 現存する正倉院宝物との対応関係について考察する。 230分 50分
第11回	【AL】 図像史料から分かること—『舞楽散楽図』の諸本調査（1）	事前 『舞楽散楽図』（通称「信西古楽図」）について事前調査を行う。 事後 何がどのような順に描かれていたかを整理し、次回に備える。 110分 170分
第12回	【AL】 日本の文献調査（史料批判）実体験—『舞楽散楽図』の諸本調査（2）	事前 個々の絵（ジャンル、楽器、演目など）についての調査を行う。 事後 音楽史研究における諸本調査の意義と重要性について考察する。 140分 140分
第13回	日本の権門と音楽	事前 ヨーロッパ及び日本の音楽の担い手と権力者との関係について事前調査する。 事後 権門の音楽上の業績と音楽史における意義について考察する。 190分 90分
第14回	【AL】 『梁塵秘抄』口伝集』断簡を調査する	事前 『梁塵秘抄』についての事前調査を行う。 事後 調査結果をまとめながら、文献史料調査の基本を定着させる。 140分 140分
第15回	前期総括—史料と日本音楽史	事前 これまでの講義における諸問題を整理する。 事後 日本音楽史における史料の意義について考察する。 130分 150分

フィードバック 各講義内の課題についての質疑応答や、課題の取り組みやその成果物に対し、添削・講評を付して返却し、相互に理解度を確認できるようにする。

成績評価 講義内の課題への取り組み姿勢（積極性、計画性、創造性、協調性、実行力等）30%、期末評価40%、成果物30%

テキスト 授業内プリント配布。
参照資料：日本音楽史研究所編『日本音楽史料叢刊1』ほか、適宜紹介。

オフィスアワー 水曜 12:40-14:10 上野学園大学 2F 日本音楽史研究所 Email:nok@uenogakuen.ac.jp

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>												

特殊講義（日本音楽史）-2

講師 櫻井利佳

科目コード：MUS206

対象コース/専門/学年：GLAコース/全専門/2～3年次、器楽・声楽・演奏家コース/全専門/3～4年次生

形態：講義

単位数：2単位

概要 日本音楽史研究は、史料の搜索および研究が前提となるが、とりわけ古代については近年様々な史料が発掘され、それに伴い、古代東アジア世界における文物の交流の様相が次第に明らかになりつつある。日本にどのような音楽史料が存在し、どう活用し得るのか。これまでの研究史の問題点を踏まえ、最新の成果を実践的に検証する。受講生の適正に応じ講義内容を調整する。

到達目標 音楽史学方法論。日本にはどのような音楽史料があるのか、それぞれがどのような意味を持つのかについて、講義で得た知見を元に自身で設定した研究に応用できる。アジアの中の日本の位置を確認しながら、実証的音楽史研究について正しく認識し、講義で提示された問題点について考察を深めることが出来る。

授業計画		
【AL】		
第1回	歴史的存在としての音楽家—なぜ日本の歴史的音楽家の名を知らないのか	事前 明治維新以前の日本の音楽家を調べる。 事後 自国の歴史的音楽家に対する自身の知識について考察する。 120分
第2回	【AL】日本の歴史的音楽家名鑑を作ろう（1）奈良時代編—遣唐使	事前 奈良時代にどのような音楽史料があるかを調べる。 60分 事後 調査結果をグループでまとめ、推敲する。 220分
第3回	【AL】日本の歴史的音楽家名鑑を作ろう（2）平安時代編—殿上と地下	事前 平安時代にどのような音楽史料があるかを調べる。 170分 事後 調査結果をグループでまとめ、推敲する。 110分
第4回	【AL】日本の歴史的音楽家名鑑を作ろう（3）鎌倉・南北朝時代編—一家	事前 鎌倉・南北朝時代にどのような音楽史料があるかを調べる。 70分 事後 調査結果をグループでまとめ、推敲する。 210分
第5回	【AL】日本の歴史的音楽家名鑑を作ろう（4）室町時代編—声明・猿楽・当道等	事前 室町時代にどのような音楽史料があるかを調べる。 90分 事後 調査結果をグループでまとめ、推敲する。 190分
第6回	【AL】日本の歴史的音楽家名鑑を作ろう（5）江戸時代編—箏・三味線・尺八等	事前 江戸時代にどのような音楽史料があるかを調べる。 130分 事後 調査結果をグループでまとめ、推敲する。 150分
第7回	【AL】世界最古の音楽家の出演料を調べよう—東大寺文書	事前 世界における古い音楽家の出演料を調べる。 120分 事後 古文書の音楽史的意義を考察する。 160分
第8回	【AL】世界の印刷文化と日本の印刷楽譜—文明四年版（声明集）調査	事前 世界における古い印刷技術や印刷楽譜を調べる。 70分 事後 上野学園大学日本音楽史研究所の音楽史的意義を考察する。 210分
第9回	【AL】実地見学—職人の聖地浅草を歩く—宮本卯之助商店見学	事前 浅草の音楽文化上の意義を調べる。 100分 事後 浅草に現存する、江戸以来の音楽文化の意義について考察する。 180分
第10回	【AL】楽器史料調査（1）世界唯一の現存楽器「羯鼓」調査	事前 唐楽における編成の変遷（打楽器）を調べる。 70分 事後 調査結果をまとめながら、楽器調査の基礎を定着させる。 210分
第11回	【AL】楽器史料調査（2）楽器の意匠とその意味を調べる	事前 唐楽における編成の変遷（管または絃楽器）を調べる。 100分 事後 調査結果をまとめながら、楽器調査の基礎を定着させる。 180分
第12回	【AL】文献史料としての文学—作品に描かれた音楽場面	事前 古典文学作品に描かれた音楽場面を調べる。 100分 事後 講義で読んだ場面の音楽史的意義を考察する。 180分
第13回	【AL】文献史料としての文学—作品に描かれた音楽家	事前 古典文学作品に描かれた音楽家を調べる。 80分 事後 講義で読んだ場面の音楽史的意義を考察する。 200分
第14回	【AL】文献史料としての文学—作品に描かれた楽器	事前 古典文学作品に描かれた楽器を調べる。 80分 事後 講義で読んだ場面の音楽史的意義を考察する。 200分
第15回	後総括—日本音楽史は歴史学・美術史・古典文学史とともにある	事前 これまでの講義で調査した様々な史料を振り返り、各々の観点を復習する。 120分 事後 日本の音楽史料の豊富さと多様性について考察する。 160分

フィードバック 各講義内の課題についての質疑応答や、課題の取り組みやその成果物に対し、添削・講評を付して返却し、相互に理解度を確認できるようにする。

成績評価 講義内の課題への取り組み姿勢（積極性、計画性、創造性、協調性、実行力等）30%、期末評価40%、成果物30%

テキスト 授業内プリント配布。
参照資料：日本音楽史研究所編『日本音楽史料叢刊1』ほか、適宜紹介。

オフィスアワー 水曜 12:40-14:10 上野学園大学 2F 日本音楽史研究所 Email:nok@uenogakuen.ac.jp

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性							
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲	
<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>													

特殊講義（音楽教育 A）-1

教授 山内雅子

科目コード：EDU201

対象コース/専門/学年：GLAコース/全専門/2～3年次、器楽・声楽・演奏家コース/全専門/3～4年次生

形態：講義

単位数：2単位

概要 学校における音楽授業の中心にある歌唱指導について、理論と実践の往還を図りながら、合唱曲、歌曲、ポップス、伝統的歌唱などの幅広い領域の歌唱曲の指導法を学ぶ。また、音楽授業の延長線上にある合唱コンクールや行事での歌唱指導、部活指導にも触れ、音楽科がもつ、生徒を変容させる力、学校を変える力についても学ぶ。

到達目標 本学を卒業した学生が、音楽教師として児童・生徒の前に立ち、実際に音楽授業を行う際に、理論的根拠と信念をもって適切な歌唱指導を行うことができる力を養うことを目標とする。新学習指導要領の歌唱領域について、実際の授業の場面を常に描きながら、理解を深める。

授業計画

[AL]

回	内容	事前	事後	単位数
第1回	学校における音楽教師の役割	学校における音楽教師の役割について、考えてくる。	講義で配布した資料を読む。	130分 140分
第2回	新学習指導要領の内容と授業での具現化	中学校学習指導要領解説「音楽編 P.1-p.34」を読む。	講義で配布した資料を読む。	130分 140分
第3回	歌唱の授業をつくる（1）－4月の授業・生徒との出会い－	改訂版『音楽科教育』p.134-p.146を読んでくる。	講義で配布した資料を読んでくる。	130分 140分
第4回	歌唱の授業をつくる（2）－歌唱共通教材・教材研究の方法－	歌唱共通教材から一曲を選び、教材研究をしてくる。	講義で学んだことを生かし、教材研究を生かした「教材観」を作成する。	130分 140分
第5回	歌唱の授業をつくる（3）－歌唱共通教材を用いた歌唱の授業の実際・演習と検討－	「教材観」をもとに、「題材の目標」を学習指導要領に則って作成する。	「題材観」「教材観」「生徒間」を完成させる。	130分 140分
第6回	合唱コンクールの取り組み－指導の実際と運営－	合唱コンクールの課題曲に適切であると考えられる曲1曲を選び、教材研究をしてくる。	授業で学んだことをレポートにまとめる。	130分 140分
第7回	箏を生かした日本の伝統的歌唱と指導の実際－今様－	《越天楽今様》の教材研究をしてくる。	講義で学んだ伝統的歌唱について、実際に歌って身につける。	130分 140分
第8回	日本の伝統的歌唱の実技指導の実際－民謡（1）唄の指導を中心に	『音楽科教育』p.157-p.160を読んでくる。	講義で学んだ伝統的歌唱について、実際に歌って身につける。	130分 140分
第9回	日本の伝統的歌唱の実技指導の実際－民謡（2）三味線伴奏を中心に	課題を出された民謡について、教材研究をしてくる。	口三味線で、民謡の伴奏が一曲演奏できるようにしてくる。	130分 140分
第10回	日本の伝統的歌唱の指導による児童・生徒の人間の・音楽的成長	配付資料を読んでくる	授業を通して発見したこと、考えたことをレポートにまとめる	130分 140分
第11回	日本の伝統的歌唱の指導が、児童・生徒を人間の・音楽的に成長させる根拠	なぜ、日本の伝統的歌唱が児童・生徒を音楽的にも人間的にも成長させるのか考えてくる。	音声生理学的根拠・音響学的根拠・心理学的根拠のいずれかを選び、レポートを作成する。	130分 140分
第12回	日本の伝音楽における「口唱歌」の意味と指導の実際	事前に配布した「口唱歌」に関する資料を読んでくる。	雅楽の筆筆の口唱歌を暗唱する。	130分 140分
第13回	ポップス系の歌唱教材を考える	NHK 全国学校音楽コンクールの中学校の課題曲を調べてくる。	自分が選んだポップス系の歌唱曲の教材性について、考察しレポートにまとめる。	130分 140分
第14回	とっておきの「歌唱教材」	これまでに自身が受けた音楽授業の中で、「とっておきの歌唱教材」を選び、その魅力をまとめる。	幼児教育から高等教育までの歌唱教材について考察し、レポートにまとめる。	130分 140分
第15回	音楽科は、学校を変える！	事前配布資料を読んでくる。	理想とする音楽科経営について、夢を語る。（レポート提出）	130分 140分

フィードバック 毎時間、具体的な歌唱教材を真ん中に置きながら、歌唱の授業の実際と理論を共に考えていく。その過程で、学生のアイデアや発想、気付きの価値づけを行うと共に、レポート等にコメントを入れて返却する。

成績評価 授業の取り組みの様子 予習・復習・課題を行い、主体的に学んでいる。（50％）模擬授業を積極的に行い、指導法の工夫をしている（20％）レポート課題の内容（30％）

テキスト 中学校学習指導要領解説 音楽編 平成29年 配布資料（随時）

オフィスアワー 授業開始前又は授業終了後 教室にて もしくはEメールにて相談の上、対応する。 masako.yamauchi@uenogakuen.ac.jp

備考 教職を履修している学生で、教員を目指している学生が履修することが望ましい。尚、中学・高等学校の音楽免許状で、小学校の音楽専科教員に配置される場合もあり、非常勤講師の任用も多いため、講義・演習は、小学校1年生から高等学校3年までの音楽授業に対応できる力を養うことを目指したい。授業の中では、理論に留まることなく、たくさん幅広い歌を歌いながら、指導法を考察していきたい。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解					知識・技能の活用					意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>								

特殊講義（音楽教育 A）-2

准教授 田中里佳

科目コード：EDU202

対象コース/専門/学年：GLA コース/全専門/2~3 年次、器楽・声楽・演奏家コース/全専門/3~4 年次生

形態：講義	単位数：2 単位
概要	学校における音楽科の学習について、義務教育 9 年間のカリキュラムの系統性と単元（題材）構成の考え方を把握する。例えば、表現領域から音楽づくり・創作などひとつの分野を採り上げ、小学校における学びを理解した上で、中学校・高等学校における学びへの理解を深め、単元（題材）構成に基づく授業デザインの実際を学ぶ。
到達目標	義務教育 9 年間の系統性を考慮して、単元（題材）構成を考え、授業をデザイン、実施することのできる基礎的な知識を養う。

授業計画 教科書掲載の教材を採り上げ、その教材の魅力や課題を検討し、表現（歌唱、器楽、創作）と鑑賞とを関連させた題材（単元）や授業を構想する。

第 1 回	オリエンテーション 義務教育 9 年間の音楽科教育について	事前 学習指導要領を再読しておく。 事後 学習指導要領を熟読する。	180 分 100 分
第 2 回	義務教育 9 年間の系統性と単元（題材）構成	事前 学習指導要領を再読するとともに、これまで受けた音楽教育を振り返っておく。 事後 討論を通じて考えたことをまとめておく。	100 分 180 分
第 3 回	小学校における音楽科の学び（1）低学年	事前 学習指導要領を再読しておく。小学校低学年の目標を把握しておく。 事後 グループワークを通じて考えたことをまとめておく。	180 分 100 分
第 4 回	小学校における音楽科の学び（2）中学年	事前 学習指導要領を再読しておく。小学校低学年と中学年の目標を把握しておく。 事後 グループワークを通じて考えたことをまとめておく。	100 分 180 分
第 5 回	小学校における音楽科の学び（3）中学年	事前 学習指導要領を再読しておく。小学校中学年の目標を把握しておく。 事後 グループワークを通じて考えたことをまとめておく。	180 分 100 分
第 6 回	小学校における音楽科の学び（4）高学年	事前 学習指導要領を再読しておく。小学校中学年と高学年の目標を把握しておく。 事後 グループワークを通じて考えたことをまとめておく。	100 分 180 分
第 7 回	小学校における音楽科の学び（5）高学年	事前 学習指導要領を再読しておく。小学校高学年の目標を把握しておく。 事後 グループワークを通じて考えたことをまとめておく。	180 分 100 分
第 8 回	小学校における音楽科の学びの特徴と中学校との系統性	事前 学習指導要領を再読し、小学校と中学校の系統性を把握しておく。 事後 討論を通じて考えたことをまとめておく。	100 分 180 分
第 9 回	中学校における音楽科の学びの検討（単元構成）	事前 教科書に掲載されている単元構成を把握しておく。 事後 単元と教材の関係をまとめておく。	180 分 100 分
第 10 回	中学校における音楽科の学びの検討（教材研究）	事前 採り上げたい単元を選定しておく。 事後 授業に必要なプリントを完成させる。	100 分 180 分
第 11 回	中学校における授業のデザイン（1）模擬授業と授業検討	事前 学習指導要領を再読し、中学校の目標を把握しておく。 事後 授業検討を通じて考えたことをまとめておく。	180 分 100 分
第 12 回	中学校における授業のデザイン（2）模擬授業と授業検討	事前 学習指導要領を再読し、中学校の目標を把握しておく。 事後 授業検討を通じて考えたことをまとめておく。	100 分 180 分
第 13 回	中学校における授業のデザイン（3）模擬授業と授業検討	事前 学習指導要領を再読し、中学校の目標を把握しておく。 事後 授業検討を通じて考えたことをまとめておく。	180 分 100 分
第 14 回	中学校における授業のデザイン（4）模擬授業と授業検討	事前 学習指導要領を再読し、中学校の目標を把握しておく。 事後 授業検討を通じて考えたことをまとめておく。	100 分 180 分
第 15 回	高等学校における授業のデザインまとめ	事前 義務教育 9 年間の音楽教育の目標を把握しておく。 事後 授業の内容を振り返り、小学校から高等学校 12 年間の学びの系統性をまとめる。	200 分 80 分

フィードバック 毎時間後にリフレクション・カードを配布する。そこで挙がった疑問や質問、新たな視点について、次回冒頭で取り上げたり、個別に対応したりして、フィードバックを図る。

成績評価 授業やグループワークにおける参加度と貢献度（授業内容をふまえた疑問や質問、意見等の発言：50%）、単元（題材）構想や授業デザイン（指導案略案・プリント作成などの模擬授業への取り組み、授業後の改善案提案：50%）

テキスト 中学校学習指導要領解説 音楽編 平成 29 年、「中学生の音楽 1」「中学生の音楽 2・3 上」「中学生の音楽 2・3 下」「中学生の音楽 2・3 下」「中学生の器楽」教育芸術社

オフィスアワー 疑問・質問は授業後に随時対応する。もしくは E メールにて相談の上、対応する。 sky_60000886@mail.uenogakuen.ac.jp

備考 教職を履修している学生で、教員を目指している学生が履修することが望ましい。尚、中学・高等学校の音楽免許状で、小学校の音楽専科教員に配置される場合もあり、非常勤講師の任用も多いため、講義・演習は、小学校 1 年生から高等学校 3 年までの音楽授業に対応できる力を養うことを目指したい。授業の中では、理論に留まることなく、たくさん幅広い歌を歌いながら、指導法を考察していきたい。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経歴・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>								

特殊講義（文化創造論）-1

非常勤講師 三ツ木紀英

科目コード：MGT201

対象コース/専門/学年：GLA コース/文化創造マネジメント専門/2 年次、GLA コース/音楽学・音楽教育専門/2~3 年次、器楽・声楽・演奏家コース/全専門/3 年次

形態：講義

単位数：2 単位

概要 この特殊講義は、人の「まなび」のプロセスに着目し、人の好奇心を触発し、創発するための手法を会得することを目的とする。具体的に、対話型鑑賞のワークショップ体験・企画実施を通して、理論と実践スキルを往還的に獲得する。アートが社会に対して果たせる役割について思考を深める。将来、様々なコミュニティのなかでアートを使った仕事に就きたい学生や、アクティブ・ラーニングに関心のある学生、アウトリーチ活動やワークショップ実践などに関心のある学生を主な対象とする。

到達目標 以下を到達目標とする。①音楽ワークショップにおける対話型鑑賞の意義を理解する ②美術で確立された対話型鑑賞の理論と手法をベースに、対話型音楽鑑賞のプログラムを体験・企画・実践しながら、鑑賞プログラムのデザインを理解する。③対話型のファシリテーションの体験と実践を通して、音楽ホールだけでなく、教員を目指している人や社会教育機関、一般企業に勤める上でも役立つ実践的なコミュニケーション・スキルを養う。グループワークに積極的に参加し、好奇心を持って新しい可能性を探究する授業態度が望ましい。

授業計画

回数	内容	事前	事後	分
第1回	芸術の価値を創造する-対話型美術鑑賞ワークショップを体験し、その意義・理論・背景を理解する		指定図書を読んで内容を理解する。ポートフォリオの記入	100分
第2回	鑑賞者について考える-鑑賞とは何かその意義について考える。鑑賞プログラムの組み立て方。	事前 課題図書を読んで内容を理解する	事後 ポートフォリオの記入	80分 20分
第3回	対話型音楽鑑賞の体験。音楽ホールにおける対話型鑑賞の可能性。(集中講義1日目)	事前 前週に提示された課題の準備(課題をもとに授業をすすめる)	事後 ポートフォリオの記入	80分 20分
第4回	対話型音楽鑑賞のファシリテーションを理解する(集中講義1日目)	事前 前週に提示された課題の準備(課題をもとに授業をすすめる)	事後 ポートフォリオの記入	80分 20分
第5回	作品選びと事前準備(集中講義1日目)	事前 前週に提示された課題の準備(課題をもとに授業をすすめる)	事後 ポートフォリオの記入	80分 20分
第6回	対話型鑑賞を実践する(集中講義2日目)	事前 前週に提示された課題の準備(課題をもとに授業をすすめる)	事後 ポートフォリオの記入	80分 20分
第7回	対話型鑑賞の実践をふりかえる-対話で生まれる言葉と音楽とのつながりを考える(集中講義2日目)	事前 前週に提示された課題の準備(課題をもとに授業をすすめる)	事後 ポートフォリオの記入	80分 20分
第8回	対話型鑑賞の曲選びを考える(集中講義2日目)	事前 前週に提示された課題の準備(課題をもとに授業をすすめる)	事後 ポートフォリオの記入	80分 20分
第9回	対話型鑑賞プランを発表	事前 前週に提示された課題の準備(課題をもとに授業をすすめる)	事後 ポートフォリオの記入	80分 20分
第10回	空間/場づくりを考える	事前 前週に提示された課題の準備(課題をもとに授業をすすめる)	事後 ポートフォリオの記入	80分 20分
第11回	対話型鑑賞プランを実践	事前 前週に提示された課題の準備(課題をもとに授業をすすめる)	事後 ポートフォリオの記入	80分 20分
第12回	プランを仕上げる	事前 前週に提示された課題の準備(課題をもとに授業をすすめる)	事後 ポートフォリオの記入	80分 20分
第13回	ワークショップ発表	事前 前週に提示された課題の準備(課題をもとに授業をすすめる)	事後 ポートフォリオの記入	80分 20分
第14回	発表を振り返る	事前 前週に提示された課題の準備(課題をもとに授業をすすめる)	事後 ポートフォリオの記入	80分 20分
第15回	まとめ発表	事前 前週に提示された課題の準備(課題をもとに授業をすすめる)	事後	180分 分

フィードバック 実践やディスカッションについて、その都度、口頭でフィードバックする。

成績評価 授業と課題とプレゼンテーションへの取り組み内容と理解度、最終まとめ発表を元に、総合的に評価する。参加の積極性も加味する。

テキスト 授業内で課題で出す場合は随時、指示する。以下、参考図書。
 荏宿俊文、佐伯胖、高木光太郎編(2012)『まなびを学ぶ』.東京大学出版社。
 中川真、三ツ木紀英、フィルムアート社編集部(2011)『これからのアートマネジメント“ソーシャル・シェア”への道』.フィルムアート社。
 中野民夫(2001)『ワークショップ-新しい学びと創造の場』.岩波新書。
 若尾裕(2014)『親のための新しい音楽の教科書』.サポテン書房。
 渡辺裕(2012)『聴衆の誕生-ポストモダン時代の音楽文化』.中公文庫。
 山口晃、三ツ木紀英、フィルムアート社編集部(2014)『現代アートの本当の見方-「見ること」が武器になる』.フィルムアート社。

オフィスアワー 授業後教室にて。または E-mail で対応 mitsukinorie@a05.itscom.net

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性							
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲	
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	

特殊講義（文化創造論）-2

准教授 佐野直哉

科目コード：MGT202

対象コース／専門／学年：GLAコース／文化創造マネジメント専門／2年次、GLAコース／音楽学・音楽教育専門／2～3年次、器楽・声楽・演奏家コース／全専門／3年次生

形態：講義・実習

単位数：2単位

概要 芸術ビジネスの市場は縮小し、余暇の過ごし方の多様化、競争の激化、若者の芸術離れなどが指摘されているが、本当にそうだろうか？世界には、効果的なマーケティング戦略によって観客数など劇的な増加を実現した団体がいくつも存在する。本講義ではアーツマーケティングに焦点を当てる。内外の成功事例とマーケティングの基礎理論を概観しながら、同時に学んだ内容や発想をグループ企画案に取り入れ、応用しながらブラッシュアップを図る。

到達目標 マーケティング的な発想とマネジメント能力を兼ね備えた芸術文化に貢献できる人材となるための基礎的知識と思考力を身につける。さらにアーツマーケティングのプロセスをより深く学び、各自の企画に応用できる知識とスキルを身につける

授業計画

【AL】

回数	内容	事前	事後	時間
第1回	オリエンテーション グループで学内または学外コンサート企画を考え、提案する。	事前 指定図書第1章を読んでおく	事後 270分	
第2回	第1章「芸術ビジネスの可能性」 経験経済の視点でこれまでの演奏会やアートイベントを捉え直す	事前 グループでコンサート企画を考え、プレゼンの準備をする	事後 200分	
第3回	第2章「現状と観客の特性をつかむ」 観客の分析に従った特徴あるマーケティングプログラムとは	事前 指定図書該当章を読んで、レジュメを作成する	事後 120分	
第4回	第3章「芸術鑑賞のメリットとは」 観客を遠ざける要因、社会的活動としての芸術鑑賞とつながりへの渴望	事前 日本における特徴あるプログラムの事例をリサーチする	事後 150分	
第5回	第4章「芸術マーケティングの計画を立てる」① 分析フレームワーク、分析と課題の明確化、マーケティングの3ステップ	事前 指定図書該当章を読んで、レジュメを作成する	事後 120分	
第6回	第4章「芸術マーケティングの計画を立てる」② 分析フレームワーク、分析と課題の明確化、マーケティングの3ステップ	事前 指定図書該当章を読んで、レジュメを作成する	事後 120分	
第7回	第5章「作品、会場、コミュニケーション」 4P から 4C へ	事前 指定図書該当章を読んで、レジュメを作成する	事後 120分	
第8回	第6章「芸術の値段」 コストと価値の分析	事前 指定図書該当章を読んで、レジュメを作成する	事後 120分	
第9回	第7章「市場調査の手法とプロセス」 顧客の意識と行動を理解する	事前 グループ企画内容におけるコストと価値を整理する	事後 150分	
第10回	第8章「インターネットと芸術ビジネス」 デジタルマーケティングの枠組みと意義、可能性	事前 指定図書該当章を読んで、レジュメを作成する	事後 120分	
第11回	第9章「芸術におけるブランドとは」 ブランドとミッションの関係性	事前 指定図書該当章を読んで、レジュメを作成する	事後 120分	
第12回	第10章「観客ロイヤルティを築く」 定期会員の是非と「価値ある顧客」の意味	事前 指定図書該当章を読んで、レジュメを作成する	事後 120分	
第13回	第11章「気まぐれな観客を重視する」 鑑賞頻度をあげるための戦略	事前 指定図書該当章を読んで、レジュメを作成する	事後 120分	
第14回	第12章「芸術鑑賞の経験を、もっと豊かに」 顧客経験価値とリレーションシップマネジメント	事前 指定図書該当章を読んで、レジュメを作成する	事後 120分	
第15回	総括および企画実施に向けた準備 最終レポートの準備	事前 これまでの振り返りを整理する	事後 150分	

フィードバック プレゼンテーション発表に対する講評、レジュメ作成に対するフィードバック

成績評価 レジュメ作成と発表 20%、プレゼン課題（第2回、第4回後、第6回後、第10回後）40%、最終レポート 40%

テキスト ジョアン・シェフ・バーンスタイン（山本章子訳）、『芸術の売り方 劇場を満員にするマーケティング』、英治出版（2007）

以下参考図書として適宜授業で使用する
山田真一、『アーツ・マーケティング入門 芸術市場に戦略をデザインする』、水曜社（2008）

オフィスアワー 月曜V駒 研究室にて（事前にEmailにて連絡が望ましい。ball-60000846@mail.uenogakuen.ac.jp）

備考 本授業では各回、持ち回りで学生にレジュメ作成と発表を課す。また各回学んだ内容をグループ企画に反映させ、プレゼン課題として発表することも課す。授業の積極的な準備と参加を求める。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	3次元デジタル技術	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・説得力	主体性・自発的発力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☑	☐	☐	☐	☑	☐	☑	☐	☑	☑	☑	☑	☑	☑	☐	☐

特殊講義（ビジネス経営論）-1

客員教授 原源郎（前期）／ゲストスピーカー 池田卓夫

科目コード：MGT203

対象コース／専門／学年：GLAコース／文化創造マネジメント専門／2年次、GLAコース／音楽学・音楽教育専門／2～3年次、器楽・声楽・演奏家コース／全専門／3年次生

形態：講義 単位数：2単位

概要 経営計画に基づく音楽ビジネス経営

到達目標 経営計画書の作成を通じて音楽ビジネス経営のスキルに役立てる

授業計画 経営計画書の作成に必要な個々の知識の修得
※日程により、講義順が変更になる場合がある。

回	内容	事前	事後	単位数
第1回	プロローグ、経営計画書は存続のツール	ビジネス経営の概論を予習	復習	135分
第2回	経営計画の作り方	事業経営は思想と技術	復習	135分
第3回	予備知識	決算書の用語知識を予習	復習	135分
第4回	経営の現状分析と問題点	売上高占有率を予習	復習	135分
第5回	目標損益計算書	利益計画について予習	復習	135分
第6回	経常利益計算・固定費用・営業外損益	各語意について予習	復習	135分
第7回	営業利益・必要粗利益	語意について予習	復習	135分
第8回	売上原価・利益計画	語意について予習	復習	135分
第9回	販売計画目標	事業形態とはなにか予習	復習	135分
第10回	バランスシート	損益計算書は何を表すか予習	復習	135分
第11回	資金計画書	資金繰りに関して予習	復習	135分
第12回	成功事例より学ぶ	成功事例の会社を考える	復習	135分
第13回	評価基準を作る	業績を伸ばすための社内基準とは	復習	135分
第14回	方針書	理念、基本方針、目標などについて考える	復習	135分
第15回	まとめ・経営計画の活用	長期に維持発展するためのビジネスとはなにか	復習	135分

フィードバック 授業中、学生のプレゼンに対して講評する。次回授業の際にレジュメ等で具体的なフィードバックを行う。

成績評価 授業態度 20%、ディスカッション参加 30%、レポート 50%などの総合評価
プレゼン能力、発想、講義への姿勢などの総合評価

テキスト (前期) 適時に支給または参考書を紹介

オフィスアワー 授業前後教室にて
Email: genroh@proarte.cojp

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>						

特殊講義（ビジネス経営論）-2

非常勤講師 長谷川修

科目コード：MGT204

対象コース/専門/学年：GLAコース/文化創造マネジメント専門/2年次、GLAコース/音楽学・音楽教育専門/2~3年次、器楽・声楽・演奏家コース/全専門/3年次生

形態：講義

単位数：2単位

概要 劇場における実践に基づくコンサート企画立案の哲学と経済のバランス

到達目標 コンサートの企画とその収支計画の立案

授業計画 企画制作に必要な哲学を学び、それを実現するための経済（収支）バランスを図ることを学ぶ

第1回	イントロダクション 特殊講義のねらいと到達へのプロセス展望	事前 コンサート企画立案の基本を考察する。 事後 企画意図を整理する。	135分 135分
第2回	具体的な研究テーマの設定① 2020年ベートーヴェン生誕250周年を睨んで	事前 ベートーヴェンの音楽史における位置づけを考察する。 事後 ベートーヴェンの作品受容の将来を予測する。	135分 135分
第3回	具体的な研究テーマの設定② 2020年ベートーヴェン生誕250周年を睨んで	事前 ベートーヴェンの具体的なコンサート企画立案の基本を考察する。 事後 ベートーヴェンの具体的なコンサート企画意図を整理する。	135分 135分
第4回	具体的な研究テーマの設定③ 2020年東京オリンピックを睨んで	事前 オリンピックと音楽芸術の関係性を考察する。 事後 オリンピックと音楽芸術の将来像を予測する。	135分 135分
第5回	具体的な研究テーマの設定④ 2020年東京オリンピックを睨んで	事前 これまでのオリンピック関連企画を検証する。 事後 これまでのオリンピック関連企画意図を整理する。	135分 135分
第6回	具体的な研究テーマの設定⑤ 2020年東京オリンピックを睨んで	事前 文化オリンピックの歴史を検証する。 事後 文化オリンピックの社会に与えてきた影響を整理する。	135分 135分
第7回	具体的な研究テーマの設定⑥ 2020年東京オリンピックを睨んで	事前 2020年東京オリンピックであるべき企画を検討する。 事後 2020年東京オリンピック以降の音楽の有り方を整理する。	135分 135分
第8回	実践① コンサート企画立案	事前 最近聴いたコンサートの芸術的意義を検証する。 事後 企画立案の哲学を考察する。	135分 135分
第9回	実践② コンサート企画立案のプレゼンテーション	事前 企画書の作成とプレゼンテーションを準備する。 事後 プレゼンテーションの振り返りをする。	135分 135分
第10回	実践③ コンサート企画立案のディスカッション	事前 他の学生のプレゼンテーションを評価・分析する。 事後 ディスカッションの課題を整理する。	135分 135分
第11回	実践④ コンサート企画立案の完成	事前 改めて企画書の課題を検証する。 事後 企画書を完成させるための諸問題を整理する。	135分 135分
第12回	実践⑤ 収支バランスの考え方	事前 収入と支出のバランスを図る課題を検証する。 事後 採算分岐点の考え方を整理する。	135分 135分
第13回	実践⑥ 収支項目の確認	事前 収入と支出の項目・細目を検証する。 事後 収支項目と公演成功に必要な施策を整理する。	135分 135分
第14回	実践⑦ 予算書を作る	事前 改めて予算書の課題を検証する。 事後 予算書を完成させるための諸問題を整理する。	135分 135分
第15回	実践⑧ まとめ、哲学と経済のバランス	事前 理想のコンサートの企画と収支のバランスを考察する。 事後 コンサートの企画運営に最も必要な哲学とは何か、研究する。	135分 135分

フィードバック 授業中、学生のプレゼンに対して講評する。次回授業の際にレジュメ等で具体的なフィードバックを行う。

成績評価 プレゼン能力、発想、講義への姿勢などの総合評価

テキスト 未定

オフィスアワー

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>														

演習（西洋音楽史）

教授 上尾信也

科目コード：MUS301/MUS302

対象コース/専門/学年：GLAコース/全専門/3年次、演奏家コース/全専門/3~4年次生

形態：演習

単位数：4単位

概要 音楽学の卒業論文を書くことを目指し、研究方法と論文作成の具体的演習を行う。本年度は、『西洋音楽史』の文献調査をテーマとして、上野学園図書館の一次史料、二次史料を踏査し、多角的な分析を試みる。過去の研究がどのような形で現在の「学」と実践をつくってきたか学び取る。

到達目標 テーマ設定、企画・構成、研究の方法、まとめ方・書き方について実習を行い、各自の卒業研究に結び付けていくことを目的とする。

授業計画

【AL】			
第1回	音楽史の成立	事前 上尾『音楽のヨーロッパ史』を読む 事後 授業でとりあげた参考文献や参考事項について調べる	110分 170分
第2回	音楽史の資料とは～史料と楽譜	事前 前回の参考文献の一つを読んでおく 事後 授業でとりあげた参考文献や参考事項について調べる	110分 170分
第3回	文献資料と非文献資料	事前 前回の参考文献の一つを読んでおく 事後 授業でとりあげた参考文献や参考事項について調べる	110分 170分
第4回	音楽の非文献資料としての楽器	事前 非文献資料の例を具体的に考える 事後 楽器について考察を進めてみる	110分 170分
第5回	音楽の非文献資料としての図像資料	事前 楽器の描かれた図像（絵画作品）の例を具体的に考えてみる 事後 図像学あるいは楽器学についての参考文献を調べてみる	110分 170分
第6回	音楽作品と資料としての楽譜	事前 楽譜・記譜法について『新グローヴ世界音楽事典』の該当項目を予習する。 事後 授業でとりあげた「記譜法」のレジュメを精読し、そのほかの文献について調べる	110分 170分
第7回	ベートーヴェンの初版譜について	事前 任意の音楽作品の楽譜についてあらかじめ用意しておく。 事後 授業で示された初版譜の成立について「BeethovenWV」を用いて調査する	110分 170分
第8回	一次史料と二次史料	事前 歴史資料についてあらかじめ百科事典や辞書より調べておく 事後 歴史学における一次史料と二次史料についての参考文献を調べる	110分 170分
第9回	ベートーヴェンの初版譜についての調査発表	事前 調査発表のための準備 事後 調査のまとめをレポート文書とする	110分 170分
第10回	「音楽史を作った」研究と文献	事前 音楽史について『新グローヴ世界音楽事典』の該当項目を予習する 事後 『新グローヴ世界音楽事典』とNGD 2版の異同を調べる	110分 170分
第11回	音楽史の文献と資料 (sources) ・『新グローヴ世界音楽事典』より	事前 『新グローヴ世界音楽事典』のsourcesの項目をあらかじめ目を通す 事後 『新グローヴ世界音楽事典』のsourcesの項目をまとめる	110分 170分
第12回	資料研究と様式研究	事前 19世紀の音楽史の流れを予習しておく 事後 19世紀の音楽史の動向を復習する	110分 170分
第13回	音楽史の時代区分	事前 音楽史の時代区分について音楽史書の異同を調べる 事後 音楽史書の書かれた時代と音楽史の時代区分の関連について、具体的な関係を調べる	110分 170分
第14回	音楽史の時代区分についての文献調査	事前 音楽史の時代区分と音楽史書の関係を分類する 事後 音楽史の時代区分と音楽史書の関係を分類する	170分 110分
第15回	音楽史の時代区分についての調査発表と報告	事前 音楽史の時代区分と音楽史書の関係を分類し、発表用にまとめる 事後 発表したものを報告書にまとめる	170分 110分
第16回	上野学園図書館の文献資料を探る	事前 図書館の分類項目（洋書）を調べる 事後 上野学園図書館の文献資料（音楽）がどのような分類か調べる	60分 220分
第17回	上野学園図書館の文献資料から「音楽学」「音楽史」関連の洋書	事前 実際にどのような音楽史関連の洋書があるか手に取ってみる 事後 欧米語による音楽書の内容について調査する	110分 170分
第18回	貴重図書の音楽書	事前 貴重図書目録を調査しあらかじめ作者と題目を理解する 事後 書誌項目をつくる	110分 170分
第19回	貴重図書の音楽書の書誌項目	事前 書誌項目をつくる 事後 書誌項目をつくる	140分 140分
第20回	貴重図書の音楽書の成立年代	事前 書誌項目をつくる 事後 成立年代ごとに分類する	140分 140分
第21回	19世紀の音楽書	事前 図書目録を調査しあらかじめ作者と題目を理解する 事後 書誌項目をつくる	110分 170分
第22回	19世紀の音楽書の書誌項目	事前 書誌項目をつくる 事後 書誌項目をつくる	140分 140分
第23回	19世紀の音楽書の成立年代	事前 書誌項目をつくる 事後 成立年代ごとに分類する	140分 140分
第24回	19世紀の音楽書の分類	事前 成立年代ごとに分類する 事後 成立年代ごとに分類する	140分 140分
第25回	20世紀前半の音楽書	事前 図書目録を調査しあらかじめ作者と題目を理解する 事後 書誌項目をつくる	110分 170分
第26回	20世紀前半の音楽書の書誌項目	事前 書誌項目をつくる 事後 書誌項目をつくる	140分 140分
第27回	20世紀全体の音楽書の成立年代	事前 書誌項目をつくる 事後 成立年代ごとに分類する	140分 140分
第28回	20世紀の音楽学と音楽書の傾向	事前 傾向を考えてみる 事後 傾向の要点をまとめて、自分にとっての関心や課題を考える	110分 170分
第29回	上野学園図書館の文献資料の調査から得られた課題	事前 課題報告の準備 事後 課題報告の準備	140分 140分
第30回	課題報告とまとめ	事前 課題報告の準備 事後 報告のレポート文書を作成	60分 220分

フィードバック 各発表による質疑応答や普段の質問事項の整理と検討

成績評価 受講状況（30%）と、研究発表とレポート（3回）をそれぞれ案分（20, 20, 30%）して評価する

テキスト 参考文献はその都度提示する

オフィスアワー 各授業後

備考 英、独、仏、伊、羅の辞書を使えること

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	

演習（音楽教育 A）

教授 山内雅子／准教授 田中里佳

科目コード：EDU301／EDU302

対象コース／専門／学年：GLA コース／全専門／3 年次、演奏家コース／全専門／3～4 年次生

形態：演習	単位数：4 単位
概要	<p>【前期】本授業は、卒業論文やレポートを執筆するための準備的役割を担うものである。論文とは何か、また、どのようにして書けば良いのかなど、論文ならびにレポート執筆に必要な基礎的な知識、スキルを習得していく。</p> <p>【後期】音楽教育の卒業論文を執筆するための基礎的なスキルを身に付ける。それぞれの学生が関心をもった分野について学生が自身が論文を検索し、レビューし発表する。質疑応答を通して、新たな課題を発見したり、更に課題を深く掘り下げ、それぞれの学生が卒業論文として取り組むテーマを絞り込んでいく。</p>
到達目標	<p>【前期】本授業では、いくつかの論文を読み、音楽に関する研究がどのように進められ、論文としてまとめられているのかを知る。そして、受講者それぞれの関心に即した論文のデザインおよび冒頭部の執筆、発表、議論を通して、卒業論文を執筆するための基礎的な能力を身に付けることを目指す。</p> <p>【後期】音楽教育研究について、研究領域や研究方法を理解し、論文執筆のスキルを身に付けると共に、卒業論文のテーマを決め、大まかな研究計画をたてることを到達目標とする。</p>
授業計画	<p>前期は、音楽に関するいくつかの論文を講読し、研究の目的に合った資料の集め方や分析の方法などについて学ぶ。後期は、前期で学んだことを踏まえて、受講者それぞれの関心に即した論文を書くことを想定し、各自研究の目的および方法を定め、「はじめに」や「研究の方法」の部分を書く。</p>
第 1 回	<p>オリエンテーション</p> <p>事前 シラバスを読んでおく。 60 分</p> <p>事後 テキストを購入し、目を通しておく。 220 分</p>
第 2 回	<p>論文を書くための問いの立て方</p> <p>事前 テキストの 1 章を読んでおく。 180 分</p> <p>事後 課題をまとめる。 100 分</p>
第 3 回	<p>論文を書くための段取り</p> <p>事前 テキストの 2 章を読んでおく。 180 分</p> <p>事後 課題をまとめる。 100 分</p>
第 4 回	<p>論文を書くときの考え方</p> <p>事前 テキストの 3 章を読んでおく。 180 分</p> <p>事後 課題をまとめる。 100 分</p>
第 5 回	<p>授業で取り上げる論文の選定～学会誌の目次と要旨を読む～</p> <p>事前 興味・関心のあるテーマを具体的に考えておく。 180 分</p> <p>事後 第 2 回から第 4 回までの内容をふりかえっておく。 100 分</p>
第 6 回	<p>論文①の紹介、解説、議論～歴史的方法、史料調査～</p> <p>事前 配布された論文を読み、わからないところを明確にしておく。発表者は配布用のレジメを作成する。 220 分</p> <p>事後 課題をまとめる。 60 分</p>
第 7 回	<p>論文②の紹介、解説、議論～歴史的方法、インタビュー～</p> <p>事前 配布された論文を読み、わからないところを明確にしておく。発表者は配布用のレジメを作成する。 180 分</p> <p>事後 課題をまとめる。 100 分</p>
第 8 回	<p>論文③の紹介、解説、議論～心理学的的方法、インタビュー～</p> <p>事前 配布された論文を読み、わからないところを明確にしておく。発表者は配布用のレジメを作成する。 180 分</p> <p>事後 課題をまとめる。 100 分</p>
第 9 回	<p>論文④の紹介、解説、議論～心理学的的方法、実験～</p> <p>事前 配布された論文を読み、わからないところを明確にしておく。発表者は配布用のレジメを作成する。 180 分</p> <p>事後 課題をまとめる。 100 分</p>
第 10 回	<p>論文⑤の紹介、解説、議論～心理学的的方法、観察～</p> <p>事前 配布された論文を読み、わからないところを明確にしておく。発表者は配布用のレジメを作成する。 180 分</p> <p>事後 課題をまとめる。 100 分</p>
第 11 回	<p>論文⑥の紹介、解説、議論～心理学的的方法、質問紙～</p> <p>事前 配布された論文を読み、わからないところを明確にしておく。発表者は配布用のレジメを作成する。 180 分</p> <p>事後 課題をまとめる。 100 分</p>
第 12 回	<p>論文⑦の紹介、解説、議論～音楽学的方法、音響分析～</p> <p>事前 配布された論文を読み、わからないところを明確にしておく。発表者は配布用のレジメを作成する。 180 分</p> <p>事後 課題をまとめる。 100 分</p>
第 13 回	<p>論文⑧の紹介、解説、議論～音楽学的方法、作品分析～</p> <p>事前 配布された論文を読み、わからないところを明確にしておく。発表者は配布用のレジメを作成する。 180 分</p> <p>事後 課題をまとめる。 100 分</p>
第 14 回	<p>論文⑨の紹介、解説、議論～多様な方法を用いた研究～</p> <p>事前 配布された論文を読み、わからないところを明確にしておく。発表者は配布用のレジメを作成する。 180 分</p> <p>事後 課題をまとめる。 100 分</p>
第 15 回	<p>前期のまとめ</p> <p>事前 これまで読んだ論文を振り返り、一番興味があったテーマを自覚しておく。 100 分</p> <p>事後 後期に扱いたいテーマについて考えておく。 180 分</p>
第 16 回	<p>前期の学修の振り返りと、後期の学修の進め方について</p> <p>事前 前期の学修を振り返り、関心をもった分野や研究方法をまとめる。 162 分</p> <p>事後 自分の論文主題設定に向けて、学修のスケジュールを把握し、学修計画を考える。 108 分</p>
第 17 回	<p>音楽教育研究の実践演習 学生 A 論文レビューと討論</p> <p>事前 発表学生は、自分で選んだ論文をレビューしてくる。他の学生は、図書館等で論文を検索する。 162 分</p> <p>事後 発表者による発表と討論を通して学んだことをまとめる。 108 分</p>
第 18 回	<p>音楽教育研究の実践演習 学生 B 論文レビューと討論</p> <p>事前 発表学生は、自分で選んだ論文をレビューしてくる。他の学生は、図書館等で論文を検索する。 162 分</p> <p>事後 発表者による発表と討論を通して学んだことをまとめる。 108 分</p>
第 19 回	<p>音楽教育研究の実践演習 学生 C 論文レビューと討論</p> <p>事前 発表学生は、自分で選んだ論文をレビューしてくる。他の学生は、図書館等で論文を検索する。 162 分</p> <p>事後 発表者による発表と討論を通して学んだことをまとめる。 108 分</p>
第 20 回	<p>音楽教育研究の実践演習 学生 D 論文レビューと討論</p> <p>事前 発表学生は、自分で選んだ論文をレビューしてくる。他の学生は、図書館等で論文を検索する。 162 分</p> <p>事後 発表者による発表と討論を通して学んだことをまとめる。 108 分</p>
第 21 回	<p>音楽教育研究の実践演習 学生 A 先行研究に使える論文をレビューし、討論する</p> <p>事前 発表学生は、自分で選んだ論文をレビューしてくる。他の学生は、図書館等で論文を検索する。 162 分</p> <p>事後 発表者による発表と討論を通して学んだことをまとめる。 108 分</p>
第 22 回	<p>音楽教育研究の実践演習 学生 B 先行研究に使える論文レビューと討論</p> <p>事前 発表学生は、自分で選んだ論文をレビューしてくる。他の学生は、図書館等で論文を検索する。 162 分</p> <p>事後 発表者による発表と討論を通して学んだことをまとめる。 108 分</p>
第 23 回	<p>音楽教育研究の実践演習 学生 C 先行研究に使える論文レビューと討論</p> <p>事前 発表学生は、自分で選んだ論文をレビューしてくる。他の学生は、図書館等で論文を検索する。 162 分</p> <p>事後 発表者による発表と討論を通して学んだことをまとめる。 108 分</p>
第 24 回	<p>音楽教育研究の実践演習 学生 D 先行研究に使える論文レビューと討論</p> <p>事前 発表学生は、自分で選んだ論文をレビューしてくる。他の学生は、図書館等で論文を検索する。 162 分</p> <p>事後 発表者による発表と討論を通して学んだことをまとめる。 108 分</p>
第 25 回	<p>研究主題の検討</p> <p>事前 これまでの学修を基に、各自の論文主題の方向について、案を考えてくる。 162 分</p> <p>事後 各自の提案と意見交換、指導内容をもとに、論文主題を再度考え、まとめる。 108 分</p>
第 26 回	<p>研究主題と研究方法の検討</p> <p>事前 論文主題の再提案と共に、研究方法について考え、まとめる。 162 分</p> <p>事後 各自の提案と意見交換、指導されたことを基に、論文主題と研究の方法を検討する。 108 分</p>
第 27 回	<p>指導担当教官の仮決定と今後の研究計画についての検討</p> <p>事前 修正した論文主題と研究方法を提案できるよう準備する。 162 分</p> <p>事後 各自の提案と意見交換、指導された内容を生かして修正すると共に、大まかな研究計画をたてる。 108 分</p>
第 28 回	<p>それぞれの研究主題・研究領域の先行研究の検索と精査</p> <p>事前 これまでの学修を基に研究主題、研究方法、研究計画を作成する。 162 分</p> <p>事後 指導教官（仮）の指導を受け、研究領域について先行研究の検索と精査を行う。 108 分</p>
第 29 回	<p>それぞれの研究主題設定の理由ならびに研究の目的について</p> <p>事前 研究主題設定の理由と研究の目的を書く。 162 分</p> <p>事後 研究主題設定の理由と研究の目的を修正する。 108 分</p>
第 30 回	<p>それぞれの研究の方法についての検討</p> <p>事前 研究の方法について書く。 162 分</p> <p>事後 2 月、3 月に進めておく課題を明確にし、取り組む。 108 分</p>

フィードバック 毎回の授業で小さな課題を与える。各課題は回収後にコメントをつけて返却し、濃やかなフィードバックを行う。

成績評価 授業への取り組み 50%、レポート 50%
 授業への取り組み：発表課題の準備が十分になされている。友人の発表に対して適切な質問・指摘ができています。
 レポート課題及び発表：資料を効果的に用いて、相手に伝わる内容になっているか。3 年次終了までに、自らの論文の主題が決定できている。

テキスト 【前期】戸田山和久『新版 論文の教室－レポートから卒論まで』（NHK ブックス No.1194）東京：NHK 出版、2012。
 適宜、参考とする論文プリントも配布する。
 【後期】・中学校学習指導要領解説 音楽編（平成 29 年） ・それぞれ、学生が選んだ論文をコピーし、持参する。

オフィスアワー 【山内】Eメールにて相談のうえ、対応する。 masako.yamauchi@uenogakuen.ac.jp
 【田中】疑問・質問は授業後に随時対応する。 もしくは Eメールにて相談のうえ、対応する。 sky_60000886@mail.uenogakuen.ac.jp

備考 受講者数などによって、授業の内容を変更することがあります。変更点は、事前に連絡します。
 本演習は、音楽教育に関する論文執筆のための講義と演習が中心となる。講義はゼミ形式で発表と討論と指導を核として行う。
 後期の 12 回以降は、音楽教育担当教員が複数で対応することもある。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力													意欲・経験・多様性			
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性							
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>								

演習（文化創造マネジメント）

准教授 佐野直哉

科目コード：MGT301/MGT302

対象コース/専門/学年：GLAコース/全専門/3年次、演奏家コース/全専門/3~4年次

形態：演習 単位数：4単位

概要 アートマネジメントの全般知識の修得と平行する実習体験によりフレキシブルなスキルと思考力、行動力をつける。
また同時に次年度の卒業論文やレポートを執筆するために、自らの実習体験を言語化し、論文のコンテクストに落とし込む基礎訓練を行うことを目的とする。

到達目標 文化創造マネジメントの研究領域や研究方法を理解し、関心のある研究領域の先行研究のリサーチや実践を基にした論文のデザインや、大まかな研究計画を立てることを到達目標とする。

授業計画

【AL】		
第1回	自己紹介とオリエンテーション(導入)	事前 過去2年間の学びと実習体験の棚卸ししておく 事後 アートを通して取り組みたい自分の問題意識をリストアップする 100分 170分
第2回	企画立案①：リサーチ<静岡県文化プログラムの事例から> アートと社会課題や地域、観光、ブランディングとの関わり、各自の問題意識の明確化	事前 アートがどのように社会に関わっているのか事例をリサーチする 事後 各自の問題意識に近い活動を行なっている事例をリサーチする 100分 170分
第3回	企画立案②：先行研究 各自の問題意識に関する先行研究のリサーチと発表	事前 先行研究論文や参考図書はどんなものがあるか図書館で検索する 事後 Google Scholar/CiNii等で先行研究を検索し、関心領域に近い論文を読んでみる 100分 170分
第4回	企画立案③：企画概要 第2・3回の授業を踏まえて各自企画概要のまとめ	事前 各自の問題意識を言語化する 事後 企画概要を小レポートとしてまとめ提出する 100分 170分
第5回	企画立案④：外部環境分析 同種の文化創造活動を取り上げ、競合分析	事前 各自の企画に近い文化創造活動をリサーチする 事後 競合分析のフレームワークを使い、各自の企画のポジショニングを考える 100分 170分
第6回	企画立案⑤：戦略 問題意識と目的の言語化、戦略と戦術づくり	事前 各自の企画の差別化ポイントを考え、整理する 事後 具体的な戦術プランを練る 100分 170分
第7回	企画立案⑥：評価 企画のアウトカムと評価方法、	事前 各自の企画の成功の姿を具体的に言語化してみる。ステークホルダー別に考える 事後 授業で扱った評価方法を各自の企画の評価にどのように取り入れられるか考える 100分 170分
第8回	企画立案⑦：実施運営体制づくり 運営組織づくりとプロジェクトマネジメント、タスクへの落とし込み	事前 各自企画の運営体制をドラフトしておく 事後 ガンツチャートを完成させる 100分 170分
第9回	マーケティング広報計画立案① プレスリリース作成、様々なメディアをどのように活用するか、誰に何を伝えるべきか	事前 各自企画のオリジナリティやアピールポイントを洗い出しする 事後 プレスリリースを完成させる。送り先リストをドラフトする。 100分 170分
第10回	マーケティング広報計画立案② チラシ、ポスターなどの宣伝ツール	事前 プレスリリースの提出準備。送り先リストをドラフトする。 事後 各自企画のチラシの構成を含めたブリーフを作成する。 100分 170分
第11回	ファンドレイジング計画立案① 資金調達の種類と活用方法、予算計画	事前 各自企画の予算案を作成する 事後 各自企画のファンドレイジング戦略を準備する 100分 170分
第12回	ファンドレイジング計画立案② 各自の企画に適した資金調達計画の作成	事前 各自企画のファンドレイジング戦略を準備する 事後 企画書のプレゼンテーション準備 100分 170分
第13回	企画書の完成 各自これまでの積み重ねを企画書としてまとめ、プレゼンテーションを行う	事前 企画書のプレゼンテーション準備 事後 完成企画書をレポートとしてまとめ、提出する 100分 170分
第14回	企画実践演習・フィールドワーク 各自演習時に進行状況を発表	事前 各自プロジェクトのガンツチャートをベースに実践やフィールドワークを行う 事後 各自プロジェクトのガンツチャートをベースに実践やフィールドワークを行う 100分 170分
第15回	企画実践演習・フィールドワーク 各自演習時に進行状況を発表	事前 各自プロジェクトのガンツチャートをベースに実践やフィールドワークを行う 事後 各自プロジェクトのガンツチャートをベースに実践やフィールドワークを行う 100分 170分
第16回	企画実践演習・フィールドワーク 各自演習時に進行状況を発表	事前 各自プロジェクトのガンツチャートをベースに実践やフィールドワークを行う 事後 各自プロジェクトのガンツチャートをベースに実践やフィールドワークを行う 100分 170分
第17回	企画実践演習・フィールドワーク 各自演習時に進行状況を発表	事前 各自プロジェクトのガンツチャートをベースに実践やフィールドワークを行う 事後 各自プロジェクトのガンツチャートをベースに実践やフィールドワークを行う 100分 170分
第18回	企画実践演習・フィールドワーク 各自演習時に進行状況を発表	事前 各自プロジェクトのガンツチャートをベースに実践やフィールドワークを行う 事後 各自プロジェクトのガンツチャートをベースに実践やフィールドワークを行う 100分 170分
第19回	企画実践演習・フィールドワーク 各自演習時に進行状況を発表	事前 各自プロジェクトのガンツチャートをベースに実践やフィールドワークを行う 事後 各自プロジェクトのガンツチャートをベースに実践やフィールドワークを行う 100分 170分
第20回	企画実践演習・フィールドワーク 各自演習時に進行状況を発表	事前 各自プロジェクトのガンツチャートをベースに実践やフィールドワークを行う 事後 各自プロジェクトのガンツチャートをベースに実践やフィールドワークを行う 100分 170分
第21回	企画実践演習・フィールドワーク 各自演習時に進行状況を発表	事前 各自プロジェクトのガンツチャートをベースに実践やフィールドワークを行う 事後 各自プロジェクトのガンツチャートをベースに実践やフィールドワークを行う 100分 170分
第22回	実践の振り返りと学びの整理、結果や集計したデータの分析を基にしたディスカッション	事前 実践からの学びを整理しておく 事後 講評やディスカッションを受けて改善点を整理する 100分 170分
第23回	論文を書くための問いの立て方	事前 テキストの第1章を読んでおく 事後 内容に従って実習結果を振り返り、整理する 100分 170分
第24回	論文を書くための段取り	事前 テキストの第2章を読んでおく 事後 内容に従って実習結果を振り返り、整理する 100分 170分
第25回	論文を書くときの考え方	事前 テキストの第3章を読んでおく 事後 内容に従って実習結果を振り返り、整理する 100分 170分
第26回	論文形式に沿った企画実践演習のまとめとプレゼンテーション、ディスカッション	事前 プレゼンテーション準備 事後 講評やディスカッションを受けて改善点を整理する 100分 170分
第27回	次年度研究計画を立てる：研究テーマの設定	事前 研究テーマを準備する 事後 研究テーマを精査、先行研究を検索し、参照する 100分 170分
第28回	次年度研究計画を立てる：先行研究のリサーチ	事前 研究テーマを精査、先行研究を検索し、参照する 事後 先行研究を整理する 100分 170分
第29回	次年度研究計画を立てる：仮説と研究方法、実証・実験	事前 仮説を準備する 事後 研究計画書のドラフトを準備する 100分 170分
第30回	年間の振り返り、総括と今後の論文執筆について	事前 研究計画書としてまとめ、提出準備する 事後 1年のまとめとしてスキルや思考の変化を確認する 200分 70分

フィードバック 事前・事後学修のアウトプットに対してコメントを行う。

成績評価 実習・実践の取り組みと結果 40%、課題提出（第4回、第10回、第13回、第30回授業後提出）40%、授業態度 20%

テキスト 戸山田和久、『新版 論文の教室-レポートから卒論まで』（NHKブックス No.1194）東京：NHK出版、2012
このほか必要に応じてプリントを配布する

オフィスアワー 月曜V駒 研究室にて（事前にEmailにて連絡が望ましい。ball-60000846@mail.uenogakuen.ac.jp）

備考 本演習は、文化創造マネジメントに関する論文執筆のための講義と演習・実習が中心となる。講義はゼミ形式で学生の発表とディスカッション、グループおよび個別指導を核とする。受講学生の積極性と行動力を必須とする。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力														意欲・経緯・多様性			
知識・技能・理解			知識・技能の活用														
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体的・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識		
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>									

形態：講義

単位数：1 単位

概要 映像を通して基本となる 8 つのモデルプレゼンテーションの構造を学び、特に GLA で必要な、自身の企画を的確に英語でプレゼンテーションが行える力を養成する。そのためにプレゼンテーションの構造をイメージ化し、プレゼンに必要な語彙や表現を身につける。適宜小テストを行う。
学生用動画はストリーミング再生により、PC、タブレット、スマートフォンで視聴可能。

到達目標

- 英語によって自分の考えや提案などを正確に聞き手に伝えられるようになる。
- プレゼンテーションの基本構造が理解した上で、話題と目的にあったタイプを的確に選べる。
- プレゼンテーションで用いる基本的な表現が身につく。
- プレゼンテーションの各タイプに用いられる表現を的確に選んで活用できる。

授業計画

第 1 回	オリエンテーション、授業概要と教材の解説、進め方	事前 教科書の目次を読み、内容をつかむ 事後 自己紹介プレゼンテーションの準備	30 分 70 分
第 2 回	Unit 1: Presentation Structure プレゼンテーションの構造	事前 Unit 1 を予習する。 事後 Find the Structure および Signal the Structure を復習する	90 分 180 分
第 3 回	Unit 2: Presentation Skills プレゼンテーションのスキル	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 Presentation Practice を練習する	90 分 180 分
第 4 回	Unit 3: Preparing for Your Presentation 情報収集と情報倫理	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 APA Style について復習する、参考文献リストを作成する	90 分 180 分
第 5 回	Unit 4: How to Arrange a Presentation Setting プレゼンテーション環境の準備	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 Creating Visual Aids 課題から実際に Power Point スライドを作成する	90 分 180 分
第 6 回	Unit 5 Type 1: Listing 列挙型プレゼンテーション	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 Mini Presentation を作成する	90 分 180 分
第 7 回	Unit 6 Type 2: Classification 分類型プレゼンテーション	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 Mini Presentation を作成する	90 分 180 分
第 8 回	Unit 7 Type 3: Process プロセス型プレゼンテーション	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 Mini Presentation を作成する	90 分 180 分
第 9 回	Unit 8 Type 4: Investigation 調査型プレゼンテーション	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 Model Presentation の内容を復習し、理解を深める	90 分 180 分
第 10 回	Unit 8 Type 4: Investigation 調査型プレゼンテーションの前半	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 Mini Presentation に向けて調査を実施し、作成する	90 分 180 分
第 11 回	Unit 8 Type 4: Investigation 調査型プレゼンテーションの後半	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 自分の Mini Presentation を振り返り、より期末プレゼン課題に備える	90 分 180 分
第 12 回	Unit 9 Review Unit: Giving Your Presentation 報告型プレゼンテーションの実践	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 プレゼン課題のトピックを決め、リサーチを実施する	90 分 180 分
第 13 回	Unit 9 Review Unit: Giving Your Presentation 報告型プレゼンテーションの実践	事前 プレゼン課題のドラフトを作成する 事後 プレゼン課題の最終スライドを作成する	90 分 180 分
第 14 回	Unit 9 Review Unit: Giving Your Presentation 報告型プレゼンテーションの実践	事前 プレゼン課題の練習と準備 事後 評価と振り返り	90 分 180 分
第 15 回	Review Test 英語能力テスト + プレゼンテーション予備日	事前 英語能力テストの準備をする 事後 理解不足の箇所を復習する	180 分 90 分

フィードバック 課題や講評を通して学修成果をフィードバックする。

成績評価 英語能力テスト 30%、プレゼンテーション課題 30%、小テスト 30%、授業態度 10%

テキスト Akira Morita, Shinichi Harada, Kazuma Kitamura, Sayaka Sugimoto, Bill Benfield 『動画で学ぶ英語プレゼンテーション～覚えておきたい 8 つのモデル～ Winning Presentations』(成美堂)
その他、必要に応じてプリントなどを配布する。

オフィスアワー 月曜 V 駒 研究室にて (事前に Email にて連絡が望ましい。ball-60000846@mail.uenogakuen.ac.jp)

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

英語コミュニケーション I-1②

非常勤講師 山内あゆ子

科目コード：ENG101

対象コース/専門/学年：全コース/全専門/1 年次

形態：講義	単位数：1 単位
概要	実用的な英語力と国際的な視野を持つ人材の養成を目指す。会話に必須の語彙、文法、興味深いトピックを取り上げて学ぶ。DVD を使用し、各 Unit でのトピックや表現を生きた英語で紹介し、使える英語の幅を広げる。
到達目標	実用的な英語力と国際的な視野を持つ。会話に必須の語彙、文法、興味深い最新のトピックを学ぶ。

授業計画		
第 1 回	Orientation Self-introduction	事前 教科書を確認する 事後 教科書を入手する 40 分 50 分
第 2 回	Unit 7 Celebrations Lesson A Parties 1-3 p.96-98	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 今日の授業内容を復習する 40 分 50 分
第 3 回	Unit 7 Lesson A 4-6 p.99-101	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 今日の授業内容を復習する 40 分 50 分
第 4 回	Unit 7 Lesson B Festivals and Holidays 1-3 p. 102-105	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 今日の授業内容を復習する 40 分 50 分
第 5 回	Unit 7 Lesson B 4-5 p. 106-107	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 今日の授業内容を復習する 40 分 50 分
第 6 回	Unit 8 Storytelling Lesson A What's the story about? 1-3 P. 108-112	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 今日の授業内容を復習する 40 分 50 分
第 7 回	Unit 8 Lesson A 4-6 p. 113-115	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 今日の授業内容を復習する 40 分 50 分
第 8 回	Unit 8 Lesson B 1-3 p.116-119	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 今日の授業内容を復習する 40 分 50 分
第 9 回	Unit 8 Lesson B 4-6 p. 120, 121	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 今日の授業内容を復習する 40 分 50 分
第 10 回	Unit 9 Work Lesson A Workplace Traits 1-3 p.122-126	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 今日の授業内容を復習する 40 分 50 分
第 11 回	Unit 9 Lesson A 4-6 p. 127-129	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 今日の授業内容を復習する 40 分 50 分
第 12 回	Unit 9 Lesson B 1-3 p.130-133	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 今日の授業内容を復習する 40 分 50 分
第 13 回	Unit 9 Lesson B 4-6 p. 134-135	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 今日の授業内容を復習する 40 分 50 分
第 14 回	Review Units 7-9 p. 136-139	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 Units 7-9 の内容を復習する 40 分 50 分
第 15 回	Review (Unit 7-9) 理解度確認テスト	事前 確認テストの準備をする 事後 理解不足の箇所を復習する 60 分 30 分

フィードバック 授業での課題やレポートについて、添削やコメントで学修成果をフィードバックする。

成績評価 授業態度、テスト、課題などに基づき総合的に行う。
【テスト 30%、課題 20%、授業態度 50%】

テキスト James R. Morgan, Nancy Douglas, "WORLDBLINK: Developing English Fluency" 2B Combo Split, Third Edition (Cengage Learning)

オフィスアワー 授業開始前もしくは終了後、あるいはアポイントメントによって対応する。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発働能力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

英語コミュニケーション I -2①

准教授 佐野直哉

科目コード：ENG102

対象コース/専門/学年：全コース/全専門/1 年次

形態：講義	単位数：1 単位
概要	前期に引き続き映像を通して基本となる 8 つのモデルプレゼンテーションの構造を学び、特に GLA で必要な、自身の企画を的確に英語でプレゼンテーションが行える力を養成する。そのためにプレゼンテーションの構造をイメージ化し、プレゼンに必要な語彙や表現を身につける。仕上げとして自分の企画の提案と説得のプレゼンテーションの実践を行う。適宜小テストを行う。

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> アカデミック、ビジネス両分野でのプレゼンテーションに対応できるようになる。 情報倫理も考慮したプレゼンテーションが行えるようになる。 プレゼンテーションとともにライティングの力を高めることができる。 自信を持ってプレゼンテーションを行えるようになる。
------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

回	内容	事前	事後	時間
第 1 回	前期の復習と振り返り、前期課題プレゼンの改善点	前期の振り返り	改善点を踏まえてアクションプランを作成する	30 分
第 2 回	Unit 10: Type 5: Persuasion 説得型プレゼンテーション	動画を見ながら教科書の該当箇所を予習する。	Mini Presentation を作成する	90 分 180 分
第 3 回	Unit 11: Type 6: Problem and Solution 問題解決型プレゼンテーション	教科書の該当箇所を予習する	Mini Presentation を作成する	90 分 180 分
第 4 回	Unit 12: Type 7: Cause and Effect 原因・結果型プレゼンテーション	教科書の該当箇所を予習する	Mini Presentation を作成する	90 分 180 分
第 5 回	Unit 13: Type 8: Comparison and Contrast 比較対照型プレゼンテーション	教科書の該当箇所を予習する	Mini Presentation を作成する	90 分 180 分
第 6 回	Unit 14 Giving Your Proposal Presentation 報告型プレゼンテーションの準備	教科書の該当箇所を予習する	Presentation のトピックをリサーチする	90 分 180 分
第 7 回	Unit 14 続き：提案を説得するための資料を収集	教科書の該当箇所を予習する	Presentation の第 1 稿を作成する	90 分 180 分
第 8 回	Unit 14 続き：原稿作成とチェック	教科書の該当箇所を予習する	Presentation のデータを収集し、参考文献リストを作成する	90 分 180 分
第 9 回	Unit 14 続き：データの整合性と実現性、最終原稿作成	教科書の該当箇所を予習する	Presentation の構成や内容の確認、本番に向けた練習	90 分 180 分
第 10 回	Unit 14 続き：評価項目と方法、フィードバック	教科書の該当箇所を予習する	評価の観点から自分の Presentation の手直しと本番に向けた練習	90 分 180 分
第 11 回	提案型プレゼンテーションのリハーサルと最終点検	教科書の該当箇所を予習する	リハーサル映像から自分の Presentation の見直しと本番に向けた練習	90 分 180 分
第 12 回	プレゼンテーションの実践	本番に向けた練習	評価と振り返り	90 分 180 分
第 13 回	プレゼンテーションの実践	本番に向けた練習	評価と振り返り	90 分 180 分
第 14 回	プレゼンテーションの合評と予備日	自分の Presentation の改善点の洗い出しと自己評価の実施	英語能力テストの準備をする	90 分 180 分
第 15 回	Review Test 英語能力テスト + 後期の振り返り	事前 英語能力テストの準備をする	事後 理解不足の箇所を復習する	180 分 90 分

フィードバック 課題や講評を通して学修成果をフィードバックする。

成績評価 英語能力テスト 30%、プレゼンテーション課題 30%、小テスト 30%、授業態度 10%

テキスト Akira Morita, Shinichi Harada, Kazuma Kitamura, Sayaka Sugimoto, Bill Benfield 『動画で学ぶ英語プレゼンテーション～覚えておきたい 8 つのモデル～ Winning Presentations』(成美堂)
その他、必要に応じてプリントなどを配布する。

オフィスアワー 月曜 V 駒 研究室にて (事前に Email にて連絡が望ましい。ball-60000846@mail.uenogakuen.ac.jp)

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・他理解	生涯学習意欲
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

英語コミュニケーション I -2②

非常勤講師 山内あゆ子

科目コード：ENG101

対象コース/専門/学年：全コース/全専門/1 年次

形態：講義	単位数：1 単位
概要	前期に続き、実用的な英語力と国際的な視野を持つ人材の養成を目指す。会話に必須の語彙、文法、興味深いトピックを取り上げて学ぶ。DVD を使用し、各 Unit でのトピックや表現を生きた英語で紹介し、使える英語の幅を広げる。
到達目標	実用的な英語力と国際的な視野を持つ。会話に必須の語彙、文法、興味深い最新のトピックを学ぶ。

授業計画		
第 1 回	Unit 10 Telephoning Lesson A Using the Telephone 1-3	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 今日の授業内容を復習する 40 分 50 分
第 2 回	Unit 10 Lesson A 4-6 p. 145-147	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 今日の授業内容を復習する 40 分 50 分
第 3 回	Unit 10 Lesson B Always Connected 1-3 p. 148-151	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 今日の授業内容を復習する 40 分 50 分
第 4 回	Unit 10 Lesson B 4-6 p. 152-153	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 今日の授業内容を復習する 40 分 50 分
第 5 回	Unit 11 Technology Lesson A Then and Now 1-3 p. 156-158	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 今日の授業内容を復習する 40 分 50 分
第 6 回	Unit 11 Lesson A 4-6 p. 159-161	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 今日の授業内容を復習する 40 分 50 分
第 7 回	Unit 11 Lesson B Making Life Better 1-3 p.162-165	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 今日の授業内容を復習する 40 分 50 分
第 8 回	Unit 11 Lesson B 4-6 p.166-167	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 今日の授業内容を復習する 40 分 50 分
第 9 回	Unit 12 Travel Lesson A 1-3 p. 168-172	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 今日の授業内容を復習する 40 分 50 分
第 10 回	Unit 12 Lesson A 4-6 p. 173-175	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 今日の授業内容を復習する 40 分 50 分
第 11 回	Unit 12 Lesson B Adventures in Traveling 1-3 p.176-179	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 今日の授業内容を復習する 40 分 50 分
第 12 回	Unit 12 Lesson B 4-6 p. 180-181	事前 教科書の該当箇所を予習する。 事後 今日の授業内容を復習する。 40 分 50 分
第 13 回	Review Unit 10-12 1-4 P. 182-184	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 今日の授業内容を復習する 40 分 50 分
第 14 回	Review Unit 10-12 5-6 p. 185	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 今日の授業内容を復習する 40 分 50 分
第 15 回	Review (Unit10-12) 理解度確認テスト	事前 確認テストの準備をする 事後 理解不足の箇所を復習する 60 分 30 分

フィードバック 授業での課題やレポートについて、添削やコメントで学修成果をフィードバックする。

成績評価 授業態度、テスト、課題などに基づき総合的に行う。
【テスト 30%、課題 20%、授業態度 50%】

テキスト James R. Morgan, Nancy Douglas, "WORLDBLINK: Developing English Fluency"2B Combo Split, Third Edition

オフィスアワー 授業開始前もしくは終了後、あるいはアポイントメントによって対応する。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

英語コミュニケーションⅡ-1

非常勤講師 山内あゆ子

科目コード：ENG201

対象コース/専門/学年：全コース/全専門/2 年次

形態：講義

単位数：2 単位

概要 「英語コミュニケーションⅠ」で培った基礎的な能力をもとに、最新版の TOEIC のテキストを用い、実践的な TOEIC 学習をするとともに、頻出会話や基礎的な文法事項をおさらいし、基礎英語力全体の向上を目指す。

到達目標 TOEIC スコア 650 点到達を目指しつつ、実社会で通用する世界共通語としての英語を身につける。

授業計画

回数	単元名	事前	事後	時間
第 1 回	Orientation Pre-test	p. 6 TOEIC テストの概要	Pre-test の復習。	40 分 50 分
第 2 回	Unit 1 提案-時制 1 P. 22-25	教科書の該当箇所を予習する	今回の授業内容を復習する	40 分 50 分
第 3 回	Unit 1 Training Point P. 26-29	教科書の該当箇所を予習する	今回の授業内容を復習する	40 分 50 分
第 4 回	Unit 2 確認-時制 2 P. 30-33	教科書の該当箇所を予習する	今回の授業内容を復習する	40 分 50 分
第 5 回	Unit 2 Training Point P. 34-37	教科書の該当箇所を予習する	今回の授業内容を復習する	40 分 50 分
第 6 回	Unit 3 会話を始める-助動詞 P. 38-41	教科書の該当箇所を予習する	今回の授業内容を復習する	40 分 50 分
第 7 回	Unit 3 Training Point P. 41-45	教科書の該当箇所を予習する	今回の授業内容を復習する	40 分 50 分
第 8 回	Unit 4 ニュース報道-フレーズリーディング p. 46-49	教科書の該当箇所を予習する	今回の授業内容を復習する	40 分 50 分
第 9 回	Unit 4 Training Point P. 50-55	教科書の該当箇所を予習する	今回の授業内容を復習する	40 分 50 分
第 10 回	Unit 5 義務-代名詞 p. 56-59	教科書の該当箇所を予習する	今回の授業内容を復習する	40 分 50 分
第 11 回	Unit 5 Training Point P. 60-63	教科書の該当箇所を予習する	今回の授業内容を復習する	40 分 50 分
第 12 回	Unit 6 理由-前置詞 P. 64-67	教科書の該当箇所を予習する	今回の授業内容を復習する	40 分 50 分
第 13 回	Unit 6 Training Point P. 68-71	教科書の該当箇所を予習する	今回の授業内容を復習する	40 分 50 分
第 14 回	Review (Unit 1-6 の内容)	ここまでの授業内容を復習する	理解不足の箇所を確認・復習する	40 分 50 分
第 15 回	ここまでの文法、単語および内容の Review/理解度確認テスト	確認テストの準備をする	理解不足の箇所を復習する	60 分 30 分

フィードバック 授業での課題について、添削やコメントで学修成果をフィードバックする。

成績評価 授業態度、各授業回の課題、テストなどに基づき総合的に行う。
【テスト 30%、課題 20%、授業態度 50%】

テキスト Masahiko Yamaguchi, Hiroko Matsuura, Michael Howard Maesaka, George W. Pifer: "THE TOEIC TEST TRAINER TARGET 650 Revised Edition" (Cengage Learning)

オフィスアワー 授業開始前もしくは終了後、あるいはアポイントメントによって対応する。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	

英語コミュニケーションⅡ-2

非常勤講師 山内あゆ子

科目コード：ENG202

対象コース/専門/学年：全コース/全専門/2年次

形態：講義	単位数：2単位
概要	「英語コミュニケーションⅠ」で培った基礎的な能力をもとに、最新版の TOEIC のテキストを用い、実践的な TOEIC 学習をするとともに、頻出会話や基礎的な文法事項をおさらいし、基礎英語力全体の向上を目指す。

到達目標	TOEIC スコア 650 点到達を目指しつつ、実社会で通用する世界共通語としての英語を身につける。
------	----------------------------------------------------

授業計画			
第1回	Unit 7 苦情-接続詞 P. 72-75	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 今回の授業内容を復習する	40分 50分
第2回	Unit 7 Training Point P. 76-79	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 今回の授業内容を復習する	40分 50分
第3回	Unit 8 交通情報-スキミング P. 80-83	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 今回の授業内容を復習する	40分 50分
第4回	Unit 8 Training Point P. 84-89	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 今回の授業内容を復習する	40分 50分
第5回	Unit 9 Yes/No で答える質問-関係詞 P. 90-93	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 今回の授業内容を復習する	40分 50分
第6回	Unit 3 Training Point P. 94-97	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 今回の授業内容を復習する	40分 50分
第7回	Unit 10 意見-分詞構文 P. 98-101	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 今回の授業内容を復習する	40分 50分
第8回	Unit 10 Training Point P. 102-105	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 今回の授業内容を復習する	40分 50分
第9回	Unit 11 意見の一致・不一致-仮定法 p. 106-109	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 今回の授業内容を復習する	40分 50分
第10回	Unit 11 Training Point P. 110-113	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 今回の授業内容を復習する	40分 50分
第11回	Unit 12 会議-スキミング p. 56-59	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 今回の授業内容を復習する	40分 50分
第12回	Unit 12 Training Point P. 118-123	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 今回の授業内容を復習する	40分 50分
第13回	Post-test P. 124-127	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 今回の授業内容を復習する	40分 50分
第14回	Post-test P. 128-135	事前 ここまでの授業内容を復習する 事後 理解不足の箇所を確認・復習する	40分 50分
第15回	Review (Unit 7-12 およびこれまでの内容) 理解度確認テスト	事前 確認テストの準備をする 事後 理解不足の箇所を復習する	60分 30分

フィードバック 授業での課題について、添削やコメントで学修成果をフィードバックする。

成績評価 授業態度、各授業回の課題、学期末試験などに基づき総合的に行う。
【テスト 30%、課題 20%、授業態度 50%】

テキスト Masahiko Yamaguchi, Hiroko Matsuura, Michael Howard Maesaka, George W. Pifer: “THE TOEIC TEST TRAINER TARGET 650 Revised Edition” (Cengage Learning)

オフィスアワー 授業開始前もしくは終了後、あるいはアポイントメントによって対応する。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	

ファシリテーター概論-1

客員教授 マイケル・スペンサー

科目コード：MGT105

対象コース/専門/学年：GLAコース/文化創造マネジメント専門/1年次、これ以外の全コース/全専門/1~4年次

形態：演習

単位数：2単位

概要 今、音楽と芸術には、伝統的な役割に加え、コミュニティ（地域・社会）と密接に繋がった、より幅の広い役割を担うことが求められています。その結果、音楽家にとって、コミュニティと効果的な繋がりを持つ、あるいは教育プログラムを行うなどといった新たなスキルが、必要必須となっています。本ファシリテーター概論では、ファシリテーションの概念や方法論、理論的原理と実践について、紹介します。ワークショップの手法や、昨今学校教育の中で求められるアクティブラーニングの効果的な手法など経験に基づいた、実践的な方法論も紹介します。

到達目標 この授業を履修することにより、既存の教育システムでは得ることのできない、コミュニティの文脈にあったスキルを身につける

授業計画 「21世紀のファシリテーター像」、「新しい音楽家のキャリア」について

第1回	新たな社会的背景	事前 事後	日本におけるファシリテーターの未来像・基調講演を読んでくる 各自で1日目の内容を振り返る	180分 100分
第2回	ワークショップとファシリテーター：その目的と方法論	事前 事後	日本におけるファシリテーターの未来像・基調講演を読んでくる 各自で1日目の内容を振り返る	180分 100分
第3回	東西の思考	事前 事後	日本におけるファシリテーターの未来像・基調講演を読んでくる 各自で1日目の内容を振り返る	180分 100分
第4回	質問の仕方と文化背景の違い	事前 事後	日本におけるファシリテーターの未来像・基調講演を読んでくる 各自で1日目の内容を振り返る	180分 100分
第5回	教育方法論	事前 事後	日本におけるファシリテーターの未来像・基調講演を読んでくる 各自で1日目の内容を振り返る	180分 100分
第6回	1-5の振り返り	事前 事後	日本におけるファシリテーターの未来像・基調講演を読んでくる 各自で1日目の内容を振り返る	180分 100分
第7回	音楽の要素	事前 事後	フォーラム報告書を読んでくる 各自で2日目の内容を振り返る	180分 100分
第8回	楽器の本質	事前 事後	フォーラム報告書を読んでくる 各自で2日目の内容を振り返る	180分 100分
第9回	楽器の本質—実践	事前 事後	フォーラム報告書を読んでくる 各自で2日目の内容を振り返る	180分 100分
第10回	即興演奏—基礎	事前 事後	フォーラム報告書を読んでくる 各自で2日目の内容を振り返る	180分 100分
第11回	即興演奏—実践	事前 事後	フォーラム報告書を読んでくる 各自で2日目の内容を振り返る	180分 100分
第12回	クラスを構築するために—基礎	事前 事後	フォーラム報告書を読んでくる 各自で2日目の内容を振り返る	180分 100分
第13回	クラスを構築するために—実施	事前 事後	公共施設とその社会における役割・基調講演を読んでくる 各自で3日目の内容を振り返る	180分 100分
第14回	楽器の本質と即興演奏とクラスを構築することを結びつける	事前 事後	公共施設とその社会における役割・基調講演を読んでくる 各自で3日目の内容を振り返る	180分 100分
第15回	グループワーク（共有の時間）	事前 事後	公共施設とその社会における役割・基調講演を読んでくる 各自で3日目の内容を振り返る	180分 100分

フィードバック 試験について答案を返却しその解説を行う。

成績評価 ディスカッションやミニワーク等の取組の積極性を評価する。また、講座最後に学びのキー・ポイントに関する簡単なレポートを提出させる。

テキスト

- <http://www.scribd.com/doc/144870174/フォーラム・上野学園・石橋メモリアルホール・日本におけるファシリテーターの未来像・基調講演>
- http://www.ishibashimemorial.com/stagedoor/upload-gallery/フォーラム報告書_final.pdf
- <http://www.scribd.com/doc/144878194/Public-venues-and-their-role-in-society-keynote>・公共施設とその社会における役割・基調講演
- シンポジウム「世界から見た日本の真髄」よりプレゼンテーション（2014年11月2日 同志社大学） <http://vimeo.com/118639588>
- マイケル・スペンサーFacebook <http://goo.gl/Us9X1J>

オフィスアワー 質問等については、随時メール<mspencer@uenogakuen.ac.jp>にて対応する。

備考 原則として集中講義中の全日程の出席を単位取得のための必須条件とする。あらかじめ、それが不可能な学生の受講は認めない。筆記用具を持参すること。また身体を使ったりすることもあるので、軽い運動に適した靴と服装が望ましい。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>											

ファシリテーター概論-2

客員教授 マイケル・スペンサー

科目コード : MGT106

対象コース/専門/学年 : GLA コース/文化創造マネジメント専門/1 年次、これ以外の全コース/全専門/1~4 年次

形態 : 演習

単位数 : 2 単位

概要 今、音楽と芸術には、伝統的な役割に加え、コミュニティ（地域・社会）と密接に繋がった、より幅の広い役割を担うことが求められています。その結果、音楽家にとって、コミュニティと効果的な繋がりを持つ、あるいは教育プログラムを行うなどといった新たなスキルが、必要必須となっています。本ファシリテーター概論では、ファシリテーションの概念や方法論、理論的原理と実践について、紹介します。ワークショップの手法や、昨今学校教育の中で求められるアクティブラーニングの効果的な手法など経験に基づいた、実践的な方法論も紹介します。

到達目標 この授業を履修することにより、既存の教育システムでは得ることのできない、コミュニティの文脈にあったスキルを身につける

授業計画 「21 世紀のファシリテーター像」、「新しい音楽家のキャリア」について

第 1 回	既存の楽曲を使って	事前 公共施設とその社会における役割・基調講演を読んでくる 事後 各自で 3 日目の内容を振り返る	180 分 100 分
第 2 回	ワークショップのデザイン①始まり	事前 公共施設とその社会における役割・基調講演を読んでくる 事後 各自で 3 日目の内容を振り返る	180 分 100 分
第 3 回	ワークショップのデザイン②展開	事前 公共施設とその社会における役割・基調講演を読んでくる 事後 各自で 3 日目の内容を振り返る	180 分 100 分
第 4 回	ワークショップのデザイン③結び	事前 シンポジウム「世界から見た日本の真髄」よりプレゼンテーションを見てくる 事後 各自で 4 日目の内容を振り返る	180 分 100 分
第 5 回	ワークショップの構造	事前 シンポジウム「世界から見た日本の真髄」よりプレゼンテーションを見てくる 事後 各自で 4 日目の内容を振り返る	180 分 100 分
第 6 回	ワークショップの背景、文脈	事前 シンポジウム「世界から見た日本の真髄」よりプレゼンテーションを見てくる 事後 各自で 4 日目の内容を振り返る	180 分 100 分
第 7 回	ワークショップの目的	事前 シンポジウム「世界から見た日本の真髄」よりプレゼンテーションを見てくる 事後 各自で 4 日目の内容を振り返る	180 分 100 分
第 8 回	ステークホルダーとは	事前 シンポジウム「世界から見た日本の真髄」よりプレゼンテーションを見てくる 事後 各自で 4 日目の内容を振り返る	180 分 100 分
第 9 回	ワークショップ創作①	事前 シンポジウム「世界から見た日本の真髄」よりプレゼンテーションを見てくる 事後 各自で 4 日目の内容を振り返る	180 分 100 分
第 10 回	ワークショップ創作②—アドヴァイスを交えて	事前 ワークショップ内容を各自考えてくる 事後 各自で集中講義の全内容を振り返る	180 分 100 分
第 11 回	ワークショップ創作③—アドヴァイスを元に発展させる	事前 ワークショップ内容を各自考えてくる 事後 各自で集中講義の全内容を振り返る	180 分 100 分
第 12 回	グループワーク（共有する）	事前 ワークショップ内容を各自考えてくる 事後 各自で集中講義の全内容を振り返る	180 分 100 分
第 13 回	ケーススタディー①—学校の教育	事前 ワークショップ内容を各自考えてくる 事後 各自で集中講義の全内容を振り返る	180 分 100 分
第 14 回	ケーススタディー②—コミュニティでの活動	事前 ワークショップ内容を各自考えてくる 事後 各自で集中講義の全内容を振り返る	180 分 100 分
第 15 回	違う種類のワークショップ	事前 ワークショップ内容を各自考えてくる 事後 各自で集中講義の全内容を振り返る	180 分 100 分

フィードバック 試験について答案を返却しその解説を行う。

成績評価 ディスカッションやミニワーク等の取組の積極性を評価する。また、講座最後に学びのキー・ポイントに関する簡単なレポートを提出させる。

テキスト

- <http://www.scribd.com/doc/144870174/>フォーラム・上野学園・石橋メモリアルホール・日本におけるファシリテーターの未来像・基調講演
- <http://www.ishibashimemorial.com/stagedoor/upload-gallery/>フォーラム報告書_final.pdf
- <http://www.scribd.com/doc/144878194/Public-venues-and-their-role-in-society-keynote>・公共施設とその社会における役割・基調講演
- シンポジウム「世界から見た日本の真髄」よりプレゼンテーション（2014 年 11 月 2 日 同志社大学） <http://vimeo.com/118639588>
- マイケル・スペンサー Facebook <http://goo.gl/Us9X1J>

オフィスアワー 質問等については、随時メール<m Spencer@uenogakuen.ac.jp>にて対応する。

備考 原則として集中講義中の全日程の出席を単位取得のための必須条件とする。あらかじめ、それが不可能な学生の受講は認めない。筆記用具を持参すること。また身体を使ったりすることもあるので、軽い運動に適した靴と服装が望ましい。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>											

マネジメント概論-1

※社会教育主事養成に関する科目

客員教授 水田堯

科目コード：MGT107

対象コース/専門/学年：GLA コース/文化創造マネジメント専門/1 年次、これ以外の全コース/全専門/1~4 年次

形態：講義 単位数：2 単位

概要 今日のマネジメントはグローバルで多岐にわたる。白紙から企画を創り出す音楽マネジメントには優れた企画力と行動力、それに音楽と社会の関わりをより深く知ることが重要である。
国際共同制作をキーワードに音楽ショーや放送ソフトの制作の舞台裏の実例を学びながら、国際的な感性と知識やノウハウを学んでいく。前期では、世界的に活躍する小澤征爾と、日本よりも世界で幅広く認められた作曲家 武満徹をフューチャーした番組制作の舞台裏を通してマネジメント（プロデュース）の一端を実例で示していく。

到達目標 世界の芸術やエンターテインメント界をリードする指揮者や作曲家、プロデューサーやアーティスト、それにデザイナーの活躍や、その舞台裏から学んだことをベースに、より開かれた知識と感性でマネジメント出来る力を身につけていく。

授業計画

【AL】

第1回	オリエンテーション。自己紹介。自分自身をアピール（マネジメント）する。企画力を養う（通年の課題）	事前 自分をアピールするための下準備 事後 授業で指摘された自己アピールについての復習と再トライ。企画を考える	100分 180分
第2回	企画と仕掛け人1 アマチュア合唱団の立ち上げから大コンサートまで	事前 新たな企画を下準備する。 事後 授業内容の整理	100分 180分
第3回	企画と仕掛け人2 アフガニスタンで戦う兵士たちの留守をあずかる妻たちを励ます企画	事前 アフガニスタンの現状を調べる 事後 仕掛け人の作業を整理	100分 180分
第4回	企画と仕掛け人3 女陛下の前の兵士の妻たちによる合唱～音楽が運ぶ戦場の夫へのメッセージ	事前 最高のステージ、ロイヤルアルバートホールについて調べる 事後 妻たちが作った歌詞が伝えたもの。仕掛け人の仕事を整理する	100分 180分
第5回	著作権 著作権とマネジメント	事前 著作権について下調べ 事後 著作権の実例を反復・整理する	100分 180分
第6回	小澤征爾のエディプス王1 国際共同制作・夢の企画と桁外れのバジェット	事前 ギリシャ悲劇「エディプス王」について調べる 事後 国際共同制作について学んだことの整理とオペラ「エディプス」について復習	100分 180分
第7回	小澤征爾のエディプス王2 ブロードウェイのライオンキングの演出家との出会い	事前 小澤征爾について調べる、ジュリー・テイモアについて調べる 事後 実際の現場について学んだことを整理	130分 150分
第8回	小澤征爾のエディプス王3 世界的なプロデューサーの現場とその実力	事前 世界的プロデューサーのピーター・ゲルプについて調べる 事後 ゲルプと実際の作業について学んだことの整理	130分 150分
第9回	武満徹創作の世界 企画のスタート	事前 武満徹について調べる 事後 世界的作曲家へのアプローチと出演交渉のドキュメントで学んだことを整理	100分 180分
第10回	武満徹創作の世界 カメラがその作曲の過程を追う。そして偉大な作曲家の死。	事前 武満徹の作品を多く聴く 事後 偉大な作曲家に関するドキュメント番組制作にあたってのマネジメントを整理する	100分 180分
第11回	タングルウッド音楽祭1 アメリカの音楽祭 音楽監督・小澤征爾の偉大さ	事前 アメリカの音楽祭について下調べ 事後 大自然の環境のなかでの音楽祭について学んだことを整理	100分 180分
第12回	タングルウッド音楽祭2 アメリカのTV制作現場	事前 マサチューセッツ州タングルウッドについてとタングルウッド音楽祭について調べる 事後 アメリカのTV制作現場について学んだことを整理	100分 180分
第13回	タングルウッド音楽祭3 タングルウッド・オン・パレード	事前 タングルウッド・オン・パレードについて調べる 事後 TV収録の映像を観た感想とその現場の厳しさについて学んだことを整理	100分 180分
第14回	タングルウッド音楽祭4 音楽祭の教育システム・TMC（世界の音楽学生のおこがれ）	事前 海外の著名な音楽祭での教育システムについて申込み資格等と調べる 事後 TMCについて学んだことの整理と自分が参加する場合のシミュレーション	100分 180分
第15回	思いつき企画「私の音楽祭企画」 理解度確認テスト	事前 企画提案の準備と理解度テストに向けて準備 事後 これまでの14回の授業の復習	230分 50分

フィードバック レポートや企画書についてアドバイスをしながらフィードバックする。

成績評価 授業態度 40%、企画レポート 60%
提出したレポートや企画案とそのプレゼンテーションによって採点する。

テキスト テキストは無し。
その都度必要に応じて資料を用意する。

オフィスアワー 質問は授業後、もしくは Email で対応
max.takashil4@gmail.com

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				

マネジメント概論-2

※社会教育主事養成に関する科目

客員教授 水田堯

科目コード：MGT108

対象コース/専門/学年：GLA コース/文化創造マネジメント専門/1 年次、これ以外の全コース/全専門/1~4 年次

形態：講義	単位数：2 単位
概要	マネジメント概論-2 では、海外ロケにおけるインターナショナルな共同制作の現場を紹介する。またジュリー・アンドリュースやナタリー・コール&キリ・テ・カナワのステージショーの制作現場を、企画から困難な出演交渉、チケット販売、リハーサルから本番までを追って、それぞれのドキュメントからプロデュース（マネジメント）についてその一端を学ぶ。
到達目標	前期で学んだスキルや感性をいっそう充実させる。

授業計画		
【AL】		
第 1 回	「私の音楽祭企画」の発表	事前 企画発表の準備 事後 他の学生の企画提案について整理まとめる 210 分 70 分
第 2 回	日本の西洋音楽の歩みを探る 1 「N響の 60 年」洋楽の輸入	事前 NHK交響楽団について下調べ 100 分 事後 江戸末期から始まった西洋音楽輸入の時代に活躍した人物について調べる 180 分
第 3 回	日本の西洋音楽の歩みを探る 2 「N響の 60 年」初期のオーケストラ運動をプロデュースした人たち	事前 前回の授業を受けて更にN響の歴史を調べる 100 分 事後 授業に登場した人物たちのその後について研究する 180 分
第 4 回	グラインドボーン・オペラ・シーズン 妻への愛が創り出した世界的音楽祭 英国でのTV制作現場	事前 英国の音楽祭「グラインド」について下調べ 100 分 事後 グラインドボーンをプロデュースした人物について学んだことを復習 180 分
第 5 回	ブラハの春音楽祭 革命が伝統ある音楽祭を変えた チェコでの国際共同制作とTV制作現場	事前 チェコのブラハについてその文化的な歴史を調べる 100 分 事後 社会体制が芸術に及ぼす影響について自分なりに考えや意見をまとめる 180 分
第 6 回	ジュリー・アンドリュース・ショー1 夢に向かって挑戦〜3つの壁	事前 ジュリー・アンドリュースについて調べる 100 分 事後 この大型企画を実行に移すことにおいて学んだことを復習する 180 分
第 7 回	ジュリー・アンドリュース・ショー2 ハリウッドとの共同制作の現場と問題点	事前 ジュリー・アンドリュースの映画史やミュージカル史に残した足跡を調べる 100 分 事後 ハリウッドとの共同制作について学んだことをまとめる 180 分
第 8 回	キリ・テ・カナワ&ナタリー・コール・ショー1 世界的オペラ歌手、キリ・テ・カナワへの出演交渉のドキュメント	事前 キリ・テ・カナワについて詳しく調べる 100 分 事後 アーティストの出演交渉の実際について学んだことをまとめる 180 分
第 9 回	キリ・テ・カナワ&ナタリー・コール・ショー2 世界的ジャズシンガー、ナタリー・コールへの出演交渉のドキュメント	事前 ナタリー・コールについて調べる 100 分 事後 企画からショー実現までを復習する 180 分
第 10 回	「私の音楽祭企画」 理解度確認テスト	事前 新しい音楽祭企画の準備 230 分 事後 理解度テストの復習と他の学生の企画についてまとめておく 50 分
第 11 回	PROMS 演奏会の在り方、楽しみ方「クラシックをもっと自由に」	事前 PROMSについてその歴史やその役割について調べる 100 分 事後 楽しむクラシックコンサートの企画について学んだことを整理する 180 分
第 12 回	挑戦！Nスベ「地球シンフォニー」1 企画の挫折、そして前進	事前 さまざまな音楽ドキュメンタリー番組を調べる 100 分 事後 地球的な規模の番組の企画について学んだことを復習 180 分
第 13 回	挑戦！Nスベ「地球シンフォニー」2 世界のオピニオン・リーダーたちへの出演交渉	事前 世界のオピニオン・リーダーたちについて調べる 100 分 事後 制作上の挫折について学んだことを整理する（挫折をのりこえる） 180 分
第 14 回	挑戦！Nスベ「地球シンフォニー」3 3時間の生放送 異例の 200 人体制	事前 多数の出演者について下調べ 70 分 事後 3時間のグローバルな番組について自分の感じたことをまとめ、これからの企画に生かす 210 分
第 15 回	「私の音楽祭企画」 理解度確認テスト	事前 企画提案の準備と理解度テストの準備 230 分 事後 テストの内容を確認する 50 分

フィードバック レポートや企画書についてアドバイスをしながらフィードバックする。

成績評価 授業態度 40%、企画レポート 60%
提出したレポートや企画案とそのプレゼンテーションによって採点する。

テキスト テキストは無し。
その都度必要に応じて資料を用意する。

オフィスアワー 質問は授業後、もしくは Email で対応
max.takashil4@gmail.com

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				

マネジメント実習-1

※社会教育主事養成に関する科目

客員教授 水田堯

科目コード：MGT205

対象コース/専門/学年：全コース/全専門/2~4年次

形態：実習 単位数：1単位
 概要 番組制作会社の現場の見学を通して企画から本番までの流れを実習する。それをもとに、コンサート企画にトライし、そのノウハウを学ぶ。

到達目標 番組制作のアシスタントとして活躍するための基礎を身につける。それによって、より確かで実現性のあるコンサート企画へのチャレンジ。

授業計画 上野学園 石橋メモリアルホールを中心に 1) ロビー業務の実習体験 2) ステージ周りの実習体験 3) レコーディングの実習体験 随時座学も行う。

【AL】

第1回	ガイダンス・授業計画の説明 自分自身がアクティブに参加する授業・社会との接点	事前 この授業で学びたいこと、実習したいことをまとめる 事後 学外授業にむけての準備（マナー、言葉使い、業務の邪魔をしないために等を考える	40分 60分
第2回	番組制作会社でのインターン・概要	事前 制作会社の挨拶等のマナー確認 事後 再作会社のスタッフから学んだことを整理	40分 60分
第3回	番組制作会社でのインターン・収録準備	事前 前のインターンで学んだことを復習する（メモ等から） 事後 学んだことの整理、メモの整理	40分 60分
第4回	番組制作会社でのインターン・ひきつづき収録準備	事前 収録作業へ向けての準備 事後 実習したことの整理、メモの整理	40分 60分
第5回	番組制作会社でのインターン・出演交渉と出演者との接し方	事前 出演者へのマナー、出演者のデータを調べる 事後 実習したことの整理、反省点の書き出し、解決策の模索	40分 60分
第6回	番組制作会社でのインターン・スタジオ図面作成	事前 スタジオ作業のノウハウを予習 事後 実習したことの整理と実際に自分で図面作成にトライ	40分 60分
第7回	番組制作会社でのインターン 本番前の最終チェック	事前 スタジオの機能について予習 事後 実習したことを整理 更に図面作成にトライ	40分 60分
第8回	番組制作会社でのインターン・本番収録とその前と後	事前 本番に向けての心構えの確認と服装や出演者への接し方等をチェック 事後 実習したことの整理 メモ作成	40分 60分
第9回	インターン体験のレポート作成	事前 レポート作成準備 事後 レポートに関する補足資料の整理	60分 40分
第10回	インターン体験レポートの発表とそれについての討論会	事前 レポート発表の準備 事後 他の学生のレポートから学んだことを整理	60分 40分
第11回	「私たちが主催するコンサート」コンサート企画 実施に向けての具体的な行動（会場探しとソーシャルメディアの利用について）	事前 具体的な行動への準備 事後 授業を受けて、さらに実施への準備	60分 40分
第12回	「私たちが主催するコンサート」コンサート企画 実施に向けての具体的な行動 集客（ソーシャルメディアの駆使）	事前 コンサート集客と広報の準備 事後 授業の服種とコンサート準備	60分 40分
第13回	「私たちが主催するコンサート」コンサート企画 実施（シミュレーション）	事前 コンサートの実施（シミュレーション）の準備 事後 コンサートの反省点の洗い出し	60分 40分
第14回	イベント立ち上げについて座談 サントリーホールでのイベント 企画から実施まで	事前 授業準備 事後 授業で学んだことの整理	40分 60分
第15回	「私たちが主催するコンサート」ほか実習の授業で学んだことと将来役に立たいことを討論 レポート作成（理解度を確認）	事前 レポート作成準備 事後 授業の復習	60分 40分

フィードバック それぞれの実習の後に、レポートを作成、それを発表し、質疑応答の後、アドバイスをフィードバックする。
制作現場の見学にくわえて、DVDによる様々な音楽ジャンルの放送ソフト（演歌、JPOP、ジャズ等のコンサート企画）の舞台裏についてもレポートを提出・発表の後、アドバイスによるフィードバックを行う。

成績評価 授業態度 20%、実習状況 60%、レポート 20%により総合的に評価する。

テキスト 必要に応じて持ち込み、資料としてメディアの視聴も行う。

オフィスアワー 質問は授業後、もしくはEメールで対応。
max.takashi14@gmail.com

備考 履修の条件：「マネジメント概論」の単位を修得済であること。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性							
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発働能力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>					

マネジメント実習-2

※社会教育主事養成に関する科目

客員教授 水田堯

科目コード：MGT206

対象コース/専門/学年：全コース/全専門/2~4年次

形態：実習 単位数：1単位
 概要 オークストラコンサートのリハーサルから本番までの作業を、学生だけで運営できるようになるための実習を行う。この実習をもとに、さらに具体的なコンサート企画と運営にチャレンジする。

到達目標 オークストラコンサートのステージングを学生だけで運営することを目標とする。また、この経験をもとに、コンサート企画を現実に近い具体的なものにする。

授業計画 上野学園 石橋メモリアルホールを中心に 1) ロビー業務の実習体験 2) ステージ周りの実習体験 3) レコーディングの実習体験 随時座学も行う。

【AL】

回数	内容	事前	事後	時間
第1回	ステージとバックステージ・オーケストラ演奏会 ステージの準備 譜面台と椅子の揃え方	事前	ステージ準備のための下調べ	40分
		事後	実習したことの整理 曲目について調べる	60分
第2回	ステージとバックステージ・オーケストラ演奏会 ステージ準備 楽器準備の扱い方	事前	曲目ごとに使用楽器を調べる	40分
		事後	実習したことの整理 メモ作成	60分
第3回	ステージとバックステージ・オーケストラ演奏会 ステージ準備 楽譜のパート別のチェック	事前	パート譜面のチェック	40分
		事後	実習したことの整理	60分
第4回	ステージとバックステージ・オーケストラ演奏会 リハ立ち会い 楽譜の最終チェック	事前	リハ前の最終チェック	40分
		事後	実習したことの整理	60分
第5回	ステージとバックステージ・オーケストラ演奏会 リハ立ち会い 指揮者やソリストに必要なケア	事前	リハ前の最終チェック 指揮者を中心に	40分
		事後	実習したんことの復習	60分
第6回	ステージとバックステージ・オーケストラ演奏会 リハ立ち会い 編成の確認	事前	リハ前の最終チェック 楽器編成を中心に	40分
		事後	実習したことの復習	60分
第7回	ステージとバックステージ・オーケストラ演奏会 リハ立ち会い 出演者の確認とスタンバイ バックステージでのケア	事前	出演者が最高の演奏を出来るように心のケアを行う準備	40分
		事後	実習したことの復習	60分
第8回	ステージとバックステージ・オーケストラ演奏会 本番立ち会い 受付等の外回り	事前	ホール入口、チケットの販売、会場案内等の外回りの準備	40分
		事後	実際に外回りを体験したことの整理	60分
第9回	ステージとバックステージ・オーケストラ演奏会 指揮者とソリストのフォロー タオルや飲み水	事前	本番直前の最終チェックと舞台関係者がしなければならないことのチェック	40分
		事後	本番を終えての反省と復習	60分
第10回	ステージとバックステージ・オーケストラ演奏会 撤収の立ち会い	事前	本番後の撤収でしなければならないことの事前チェック	40分
		事後	撤収における注意点の整理と復習	60分
第11回	オーケストラコンサートの実習で学んだことや新しい発想による改正点等のレポート作成	事前	レポート作成準備	40分
		事後	レポート発表のための準備、データの検証等	60分
第12回	レポートの発表 発表されたものに対する討論	事前	レポート発表の準備	40分
		事後	他の学生の発表と意見交換の復習	60分
第13回	「私たちが主催するコンサート」企画 意見の交換	事前	企画草案を練る	80分
		事後	企画検討会の復習	20分
第14回	「私たちが主催するコンサート」企画書作成（グループに分かれて）	事前	企画書作成の準備（企画草案の練り直し）	80分
		事後	授業の復習	20分
第15回	「私たちが主催するコンサート」シミュレーション	事前	コンサートのシミュレーションの準備	40分
		事後	授業の復習と具体的な曲目を考える	60分

フィードバック それぞれの実習の後に、レポートを作成、それを発表し、質疑応答の後、アドバイスをフィードバックする。制作現場の見学にくわえて、DVDによる様々な音楽ジャンルの放送ソフト（演歌、JPOP、ジャズ等のコンサート企画）の舞台裏についてもレポートを提出・発表の後、アドバイスによるフィードバックを行う。

成績評価 授業態度 20%、実習状況 60%、レポート 20%により総合的に評価する。

テキスト 必要に応じて持ち込み、資料としてメディアの視聴も行う。

オフィスアワー 質問は授業後、もしくはEメールで対応。
max.takash14@gmail.com

備考 履修の条件：「マネジメント概論」の単位を修得済であること。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性							
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発働力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>					

リコーダー合奏

非常勤講師 浅井愛

科目コード：ENS119

対象コース／専門／学年：GLAコース／音楽教育専門／2年次

形態：演習	単位数：2単位
概要	大小様々なリコーダー（ソプラノ、アルト、テナー、バス）を使用し、楽器の歴史や構造や特徴、奏法を知り、曲想を理解し、声部の役割や全体の響きを感じ取り表現を工夫しながら演奏する能力を身につける。 合奏を通じてリコーダーの音色や響きの美しさを味わい、仲間でアンサンブルをする楽しみ・喜びを感じ取る。
到達目標	リコーダー演奏に必要な知識や技術、表現力を身につける。曲想を理解し、声部の役割や全体の響きを感じ取り表現を工夫しながら演奏できる能力を身につける。

授業計画		
【AL】		
第1回	ガイダンス、リコーダーの歴史、楽器の種類を知ろう	事前 リコーダーの準備 テキストP.1内容を理解する。 135分 事後 P.1リコーダーの歴史、種類を理解する。 135分
第2回	リコーダーの基礎 リコーダーの仕組み、演奏姿勢と支え方、タンギング、運指、呼吸法、ピッチの取り方	事前 P.2-3を読み内容を理解する。 135分 事後 アルトリコーダー仕組みを理解、単音で実技練習。音階練習。 135分
第3回	アルトリコーダー サンマルティニ リコーダーソナタ 1楽章	事前 アルトリコーダーの運指確認 サンマルティニ 曲想理解、リコーダーソナタ実技練習 135分 事後 アルトリコーダーの運指確認 サンマルティニ 作品、アーティキュレーションの確認と実技練習 135分
第4回	ソプラノリコーダー ピガリア リコーダーソナタ 1楽章	事前 ソプラノリコーダー音階練習 サンマルティニ 曲想理解、実技練習 135分 事後 ソプラノリコーダー音階練習 サンマルティニ 作品、アーティキュレーションの確認と実技練習 135分
第5回	テナーリコーダー、バスリコーダー ロンドンデリー・エアー	事前 アルトリコーダー、バスリコーダーの運指確認 曲想理解、実技練習 135分 事後 テナーリコーダーの運指確認 作品、アーティキュレーションの確認と実技練習 135分
第6回	ルネサンスの舞曲 C.ジェルベーズ 【バヴァース&ガリアルド】	事前 C.ジェルベーズ 曲想の理解、臨時記号 運指確認 実技練習 135分 事後 C.ジェルベーズ 作品、アーティキュレーションの確認と実技練習 135分
第7回	ルネサンスの舞曲 ルネサンスリコーダーに触れてみよう C.ジェルベーズ 【バヴァース&ガリアルド】ルネサンスリコーダーを吹く	事前 C.ジェルベーズ 和声、想の理解、臨時記号 運指確認 実技練習 135分 事後 C.ジェルベーズ ルネサンスリコーダーの運指確認 アーティキュレーションの確認、実技練習 135分
第8回	バロックのリコーダー作品 G.F.ヘンデル 【リコーダーソナタハ長調 1楽章】チェンパロ通奏低音と一緒に	事前 G.F.ヘンデル 【リコーダーソナタ】通奏低音とは何か調べる。曲想の理解、実技練習 135分 事後 G.F.ヘンデル 【リコーダーソナタ】作品、アーティキュレーションの確認と実技練習 135分
第9回	バロックのリコーダー作品 まとめ G.F.ヘンデル 【リコーダーソナタハ長調 1楽章】チェンパロ通奏低音と一緒に	事前 G.F.ヘンデル 【リコーダーソナタ】曲想の理解、臨時記号 運指確認 実技練習 135分 事後 G.F.ヘンデル 【リコーダーソナタハ】作品、アーティキュレーションの確認と実技練習 135分
第10回	バロックのオルガン作品 J.S.バッハ 【小フーガ短調】	事前 フーガの形式を調べる J.S.バッハ 【小フーガ短】曲想の理解、臨時記号 運指確認 実技練習 135分 事後 J.S.バッハ 【小フーガ短調】作品、アーティキュレーションの確認と実技練習 135分
第11回	バロックのオルガン作品 まとめ J.S.バッハ 【小フーガ短調】	事前 和声の移り変わりを確認 曲想の理解、実技練習 135分 事後 J.S.バッハ 【小フーガ短調】作品、アーティキュレーションの確認と実技練習 135分
第12回	日本の現代リコーダー作品 中西覚 リコーダー4重奏曲【祭り】	事前 中西覚 【祭り】曲想の理解、臨時記号 運指確認 実技練習 135分 事後 中西覚 【祭り】作品、アーティキュレーションの確認と実技練習 135分
第13回	現代リコーダー作品 J.キャリャー 【Pets】より 第1楽章[Kittens]、第2楽章[Hamsters]	事前 [Kittens][Hamsters] 曲想の理解、運指確認 実技練習 135分 事後 [Kittens][Hamsters] 作品、アーティキュレーションの確認と実技練習 135分
第14回	現代リコーダー作品 キャリャー 【Pets】より 第3楽章[Gold fish]、第4楽章[Puppies]	事前 [Gold fish][Puppies] 曲想の理解、運指確認 実技練習 135分 事後 [Gold fish][Puppies] 作品、アーティキュレーションの確認と実技練習 135分
第15回	まとめ 復習 レポート提出の説明 ミニコンサート	事前 ミニコンサートへの準備、曲想の確認、実技練習 135分 事後 授業内容の確認、レポートの作成の資料集め等の説明、準備 135分

フィードバック 授業での課題・実技実践、レポートのコメントなどを通して、学修成果をフィードバックする。

成績評価 実技演習 60%、授業への積極的な取り組み 25%、レポート 15%

テキスト 授業第一回目の時に資料を配布する。
楽器：バロック式リコーダー（ソプラノ、アルト）を使用します。
ソプラノリコーダーはバロック式、もしくはイギリス式を使用する。ジャーマン式は使用しない。
第一回目の授業の時に、今現在持っているリコーダー（ソプラノ、アルト）を持ってきてください。

オフィスアワー 授業終了後教室にて対応

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用					意欲・経験・多様性								
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	

歌唱伴奏演習

教授 吉田伸昭

科目コード：EDU305

対象コース/専門/学年：GLA コース/音楽教育専門/2 年次, GLA コース/音楽学専門/3~4 年次, 器楽・声楽コース/全専門/3~4 年次, 演奏家コース/声楽専門/3~4 年次

形態：演習

単位数：2 単位

概要 教員採用試験、教育実習に必要な「実技（弾き歌いをしながら指導する）」、を实践的に学ぶ授業である。各教材を研究し実際に「弾き歌い、指導する」ことを授業内で行う。

到達目標 教員採用試験「実技」への実践的学習～共通教材全曲の弾き歌いを習得する。
教育実習への準備～実習で使用する歌唱作品の弾き歌いを習得する。

授業計画 履修者は下記の共通教材、及びそれぞれの教育実習教材につき、スムーズな弾き歌いを習得する。
また、各作品の詩の意味を深く知り、音楽的な特徴を研究する。
授業内では、それを指導する際の留意点についても言及する。

第1回	ガイダンス・基礎的発声練習と共通教材について	事前 教材を用意し、よく読んでおく 事後 発声練習や読譜し、伴奏練習をしておく	100 分 180 分
第2回	「赤とんぼ」「浜辺の歌」 声楽的発声の習得と伴奏練習を中心に	事前 発声練習や読譜し、伴奏練習をしておく 事後 問題点を確認し伴奏や歌唱の復習をする	100 分 180 分
第3回	「赤とんぼ」「浜辺の歌」 伴奏パートの習得と自然な日本語歌唱を目指す	事前 2 曲についてよく練習する 事後 授業内での問題点を確認し解決できるよう練習する	140 分 140 分
第4回	「赤とんぼ」「浜辺の歌」 詩の理解を深め、リズム・和声を把握しながらスムーズな弾き歌いをを目指す	事前 テキストや楽譜をよく読み、練習する 事後 スムーズな弾き歌いができるよう練習する	140 分 140 分
第5回	「夏の思い出」「この道」 伴奏パートの習得と自然な日本語歌唱を目指す	事前 2 曲についてよく練習する 事後 授業内での問題点を確認し解決できるよう練習する	140 分 140 分
第6回	「夏の思い出」「この道」 詩と音楽の関係に着目し、表現の可能性を広げる	事前 2 曲についてよく練習する 事後 授業内での問題点を確認し解決できるよう練習する	140 分 140 分
第7回	「夏の思い出」「この道」 音楽性を重視した弾き歌いをを目指す	事前 テキストや楽譜をよく読み、練習する 事後 スムーズな弾き歌いができるよう練習する	140 分 140 分
第8回	「翼をください」「世界に一つだけの花」 伴奏パートの習得とリズムに乗った日本語歌唱を目指す	事前 2 曲についてよく練習する 事後 授業内での問題点を確認し解決できるよう練習する	140 分 140 分
第9回	「翼をください」「世界に一つだけの花」 詩と音楽の関係に着目し、表現の可能性を広げる	事前 2 曲についてよく練習する 事後 授業内での問題点を確認し解決できるよう練習する	140 分 140 分
第10回	「翼をください」「世界に一つだけの花」 音楽性を重視した弾き歌いをを目指す	事前 テキストや楽譜をよく読み、練習する 事後 スムーズな弾き歌いができるよう練習する	140 分 140 分
第11回	「Caro mio ben」「野ばら」 歌唱と伴奏、奏法の技術向上を目指す	事前 歌唱、伴奏の練習をする 事後 授業内での問題点を確認し解決できるよう練習する	140 分 140 分
第12回	「Caro mio ben」「野ばら」 詩と音楽の流れに留意しながら美しい弾き歌いをを目指す	事前 弾き歌いを練習する 事後 スムーズで美しい弾き歌いができるよう練習する	140 分 140 分
第13回	これまでに修得した楽曲について、各自問題点を認識し、解決をはかる	事前 全曲を復習しておく 事後 授業内での問題点を認識し解決をはかる	140 分 140 分
第14回	全曲について 指導しながらの弾き歌いをを目指す	事前 全曲を復習しておく 事後 授業内での問題点を認識し解決をはかる	140 分 140 分
第15回	まとめ 全曲についてスムーズな弾き歌いを実践する	事前 全曲を復習しておく 事後 授業内での問題点を認識し解決をはかる	140 分 140 分

フィードバック 最終講義時に合評し、それぞれの課題や成果についてコメントする

成績評価 授業への取り組み 50% 実践と成果 50%

テキスト 授業内で紹介、指示する

オフィスアワー E メール mozart-trazom@nifty.com および授業前後

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性							
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	3文1つ(2)3種	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>					

音楽教職実習

教授 山内雅子／准教授 田中里佳／短期大学部教授 内田侑一／短期大学部講師 林直美 科目コード：EDU306／EDU307

対象コース／専門／学年：GLA コース／音楽教育専門／3 年次

形態：実習

単位数：0 単位

概要 教員採用試験に合格するための準備講座である。前期は、合格の鍵となる論文対策、面接対策の講義と演習を中心に実施し、一次試験合格の学生は、二次試験の模擬授業・歌唱・ピアノ初見視奏で、共通教材弾き語りなどの指導を行う。後期は、次年度受験生を対象に教職教養・専門教養を中心とした基礎的な学習を演習形式で行う。

到達目標 教員採用試験に合格し、教職を志す学生が一人でも多く教育現場で活躍できるようになることを目標とする。論文では、論文を書く際に押さえるべき内容を理解し、その書き方を身に付ける。面接では、適切な話し方や集団面接に臨む際の技能を身に付ける。その他、合格する専門実技の技能を身につけること、適切な模擬授業を行うポイントを理解すること、教職教養、専門教養で7割がとれる力を付けることも目標とする。

授業計画			【AL】		
第1回	ガイダンス 一人一人の受験先とこれまでの準備の状況を確認。それぞれの受験までの計画をたてる。これからの本講座の実施日程を調整する。	事前 志望する都道府県名、並びに当該都道府県の受験科目を明らかにして持参する。 事後 教職教養・専門教養の自主学習	60分	40分	
第2回	講義：前年度に実施された第1回～第3回の講義内容の復習→論文課題1 個別：教職教養・専門教養の自主学習進捗状況のチェック	事前 教職教養・専門教養の自主学習 事後 論文課題1の執筆	60分	40分	
第3回	講義：新旧の学習指導要領の変更点及びポイントについて 個別：論文課題の添削指導	事前 教職教養・専門教養の自主学習 事後 論文課題1の修正	60分	40分	
第4回	講義：論文の書き方 個別：論文課題の添削指導	事前 教職教養・専門教養の自主学習 事後 論文課題2の執筆	60分	40分	
第5回	講演：〇〇県が求める人材（外部講師）	事前 教職教養・専門教養の自主学習 事後 論文課題2の修正	60分	40分	
第6回	演習：論文指導	事前 教職教養・専門教養の自主学習 事後 論文課題3の執筆	60分	40分	
第7回	演習：論文指導	事前 教職教養・専門教養の自主学習 事後 論文課題3の修正	60分	40分	
第8回	演習：論文指導	事前 教職教養・専門教養の自主学習 事後 論文課題4の執筆	60分	40分	
第9回	講義と演習：面接対策と今後の論文対策について	事前 教職教養・専門教養の自主学習 事後 論文課題4の修正 本番を想定した論文執筆	60分	40分	
第10回	演習：面接試験対策・模擬面接（外部講師）	事前 教職教養・専門教養の自主学習 事後 本番を想定した論文執筆	60分	40分	
第11回	演習：面接試験対策・模擬面接	事前 教職教養・専門教養の自主学習 事後 本番を想定した論文執筆	60分	40分	
第12回	演習：面接試験対策・模擬面接他	事前 教職教養・専門教養の自主学習 事後 二次試験のための書類作成	60分	40分	
第13回	演習：模擬授業対策並びに実技対策	事前 二次試験のための書類作成 事後 実技の練習	60分	40分	
第14回	演習：ピアノ・声楽・弾き語り実技試験対策	事前 実技の練習 事後 実技の練習	60分	40分	
第15回	演習：ピアノ・声楽・弾き語り実技試験対策	事前 実技の練習 事後 実技の練習	60分	40分	
第16回	ガイダンス 一人一人の受験先とこれまでの準備の状況を確認。それぞれの受験までの計画をたてる。これからの本講座の実施日程を調整する。	事前 志望する都道府県名、並びに当該都道府県の受験科目を明らかにして持参する。 事後 教職教養・専門教養の自主学習	60分	40分	
第17回	講義：中央教育審議会答申を読み、現在の教育政策の動向を知る。 個別：教職教養・専門教養の個人カルテの作成	事前 教職教養・専門教養の自主学習 事後 講義内容と資料の内容を復習し、まとめる。	60分	40分	
第18回	講義：新旧の学習指導要領の変更点及びポイントについて 個別：論文課題の添削指導	事前 教職教養・専門教養の自主学習 事後 講義内容と資料の内容を復習し、まとめる。	60分	40分	
第19回	演習：専門教養 受験する県の今年度の問題を解く	事前 教職教養・専門教養の自主学習 事後 満点をとれるまで、繰り返し今年度の課題に撮り組む	60分	40分	
第20回	演習：専門教養 受験する県の昨年度の問題を解く	事前 教職教養・専門教養の自主学習 事後 満点をとれるまで、繰り返し今年度の課題に撮り組む	60分	40分	
第21回	演習：専門教養 受験する県の一昨年度の問題を解く	事前 教職教養・専門教養の自主学習 事後 満点をとれるまで、繰り返し今年度の課題に撮り組む	60分	40分	
第22回	演習：専門教養 弱い部分を強化する	事前 教職教養・専門教養の自主学習 事後 満点をとれるまで、繰り返し今年度の課題に撮り組む	60分	40分	
第23回	演習：教職教養 受験する県の今年度の問題を解く	事前 教職教養・専門教養の自主学習 事後 満点をとれるまで、繰り返し今年度の課題に撮り組む	60分	40分	
第24回	演習：受験する県の昨年度の問題を解く	事前 教職教養・専門教養の自主学習 事後 満点をとれるまで、繰り返し今年度の課題に撮り組む	60分	40分	
第25回	演習：受験する県の一昨年度の問題を解く	事前 教職教養・専門教養の自主学習 事後 満点をとれるまで、繰り返し今年度の課題に撮り組む	60分	40分	
第26回	演習：教職教養の弱い部分を強化する	事前 教職教養・専門教養の自主学習 事後 満点をとれるまで、繰り返し今年度の課題に撮り組む	60分	40分	
第27回	講義：論文・面接対策 何をどう準備したらよいか	事前 教職教養・専門教養の自主学習 事後 講義の内容をまとめ、自分なりの準備計画をたてる	60分	40分	
第28回	演習：論文の書き方	事前 教職教養・専門教養の自主学習 事後 論文課題の執筆	60分	40分	
第29回	演習：面接対策	事前 教職教養・専門教養の自主学習 事後 面接対策で学んだことをまとめ、今後の準備計画をたてる	60分	40分	
第30回	演習：実技試験対策	事前 共通教材の弾き語りを練習する 事後 指導されたことを生かして、共通教材の弾き語りを練習する。	60分	40分	

フィードバック 論文課題は、添削を行う。面接は、適切に助言すると共に、ビデオに撮って、本人の姿を画面に映しながら指導したりする。また、書類作成についても細やかな指導を行う。後期は、演習形式でその場でフィードバックを行い、自宅学習の課題を課す。

成績評価 教員採用試験に向けての取組み姿勢と共に、論文・面接・実技の評価も当該学生の受験科目に合わせて行う。

テキスト 随時教材プリント配布

オフィスアワー 論文指導は、メールにて随時受け付ける もしくは Eメールにて相談の上、対応する。 masako.yamauchi@uenogakuen.ac.jp

備考 本講座は、平成29年度に音楽教育が主催して行った「教員採用試験必勝講座」を教科として位置づけたものである。本気で教員を目指す学生が全員履修できるように、開講時間は、基本的には4年次の教職科目が設定されている6駒の後、または土曜日・夏期休業中等に行う。4月初回の授業で相談の上日時を設定する。音楽教育専門以外の教職履修者はこの科目を聴講することが出来る。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性							
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・目的意識の発力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲	
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>								

英語 I-1 (コミュニケーション・スキル) A

※教育職員免許状取得に関わる科目

准教授 佐野直哉

科目コード: ENG103

対象コース/専門/学年: 全コース/全専門/1年次

形態: 講義	単位数: 1 単位
概要	自分の意見を述べるために必要となる英語力・思考力・創造力を養う。各ユニットで扱うテーマは身近な日常生活における小さな問題から、大学生として知っておくべき社会問題まで、硬い話題、柔らかい話題幅広く、賛否や可否、意見を学習者に問う問題提起型の教材を使用し、スピーキング力を養う。
到達目標	学習者ひとりひとりが立場の異なる役割を担って、面と向かって相手を説得することをゴールとし、音声、内容、表現、文法という4つの側面から段階的にタスクを課す。また基礎的な文法の復習と、自らの意見を書いたり、グループでプレゼンテーションする活動を通して、循環的にインプットとアウトプットを行い、スピーキング力へ応用することを目指す。

回	単元	事前	事後	時間
第1回	Orientation オリエンテーション、授業概要と教材の解説、進め方	教科書を確認する	自己紹介の練習をする	40分 50分
第2回	Unit 1 Dogs or Cats? 相手に対して応答する表現/名詞句と動詞句 Step 1 and 2	教科書の該当箇所を予習する	自習用音声ファイルを使用し、該当箇所を復習する。	40分 50分
第3回	Unit 1 Dogs or Cats? 相手に対して応答する表現/名詞句と動詞句 Step 3 and further activities	Step 3 を予習する	Further activities の課題内容をさらにリサーチし、提出準備する	30分 60分
第4回	Unit 2 Dubbing or Subtitling? 聞き手の反応を促す表現/句と節 Step 1 and 2	教科書の該当箇所を予習する	自習用音声ファイルを使用し、該当箇所を復習する。	40分 50分
第5回	Unit 2 Dubbing or Subtitling? 聞き手の反応を促す表現/句と節 Step 3 and further activities	Step 3 を予習する	Further activities の課題内容をさらにリサーチし、提出準備する	30分 60分
第6回	Unit 3 Traveling on Your Own or in a Group Tour? 意見を考えるために時間を稼ぐ表現/接続詞 Step 1 and 2	教科書の該当箇所を予習する	自習用音声ファイルを使用し、該当箇所を復習する。	40分 50分
第7回	Unit 3 Traveling on Your Own or in a Group Tour? 意見を考えるために時間を稼ぐ表現/接続詞 Step 3 and further activities	Step 3 を予習する	Further activities の課題内容をさらにリサーチし、提出準備する	30分 60分
第8回	Unit 4 Paper Bags or Plastic Bags? 意見を整理して述べる表現/文型 SVO Step 1 and 2	教科書の該当箇所を予習する	自習用音声ファイルを使用し、該当箇所を復習する。	40分 50分
第9回	Unit 4 Paper Bags or Plastic Bags? 意見を整理して述べる表現/文型 SVO Step 3 and further activities	Step 3 を予習する	Further activities の課題内容をさらにリサーチし、提出準備する	30分 60分
第10回	Unit 5 Do We Need TV Broadcasting or Not? 例を示す表現/現在分詞と過去分詞 Step 1 and 2	教科書の該当箇所を予習する	自習用音声ファイルを使用し、該当箇所を復習する。	40分 50分
第11回	Unit 5 Do We Need TV Broadcasting or Not? 例を示す表現/現在分詞と過去分詞 Step 3 and further activities	Step 3 を予習する	Further activities の課題内容をさらにリサーチし、提出準備する	30分 60分
第12回	Unit 6 Age-based or Performance-based? 自分の意見を切り出すための表現/文型 SVOO と SVOC Step 1 and 2	教科書の該当箇所を予習する	自習用音声ファイルを使用し、該当箇所を復習する。	40分 50分
第13回	Unit 6 Age-based or Performance-based? 自分の意見を切り出すための表現/文型 SVOO と SVOC Step 3 and further activities	Step 3 を予習する	Further activities の課題内容をさらにリサーチし、提出準備する	30分 60分
第14回	Review Units 1-6	教科書の該当箇所を予習する	Units 1-6 の内容を復習する	40分 50分
第15回	Review (Unit 1-6) 理解度確認テスト	事前 確認テストの準備をする	事後 理解不足の箇所を復習する	30分 60分

フィードバック 授業での課題に対して添削やコメントを通じて学修成果をフィードバックする。

成績評価 試験および課題 50%、授業態度 50%

テキスト 飯野厚 / Heather Johnson Satoh / 藤井彰子 / 簗田由己子 / 中村洋一 / 大畑甲太 著『In My Opinion 話して伸ばす発信型英語演習』(金星堂)
※その他、必要に応じてプリントなどを配布する。

オフィスアワー 月曜 V 駒 研究室にて(事前に Email にて連絡が望ましい。ball-60000846@mail.uenogakuen.ac.jp)

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

英語 I-2 (コミュニケーション・スキル) A

※教育職員免許状取得に関わる科目

准教授 佐野直哉

科目コード: ENG104

対象コース/専門/学年: 全コース/全専門/1 年次

形態: 講義	単位数: 1 単位
概要	自分の意見を述べるために必要となる英語力・思考力・創造力を養う。各ユニットで扱うテーマは身近な日常生活における小さな問題から、大学生として知っておくべき社会問題まで、硬い話題、柔らかい話題幅広く、賛否や可否、意見を学習者に問う問題提起型の教材を使用し、スピーキング力を養う。
到達目標	学習者ひとりひとりが立場の異なる役割を担って、面と向かって相手を説得することをゴールとし、音声、内容、表現、文法という4つの側面から段階的にタスクを課す。また基礎的な文法の復習と、自らの意見を書いたり、グループでプレゼンテーションする活動を通して、循環的にインプットとアウトプットを行い、スピーキング力へ応用することを目指す。

回	単元	事前	事後	時間
第1回	Unit 7 Buying Music Online or Buying CDs? 同意を示す表現/不定詞 Step 1 and 2	教科書の該当箇所を予習する	自習用音声ファイルを使用し、該当箇所を復習する。	40分 50分
第2回	Unit 7 Buying Music Online or Buying CDs? 同意を示す表現/不定詞 Step 3 and further activities	事前 Step 3 を予習する	事後 Further activities の課題内容をさらにリサーチし、提出準備する	30分 60分
第3回	Unit 8 Living with Family or Living Alone? 反対を示す表現/比較級 Step 1 and 2	教科書の該当箇所を予習する	自習用音声ファイルを使用し、該当箇所を復習する。	40分 50分
第4回	Unit 8 Living with Family or Living Alone? 反対を示す表現/比較級 Step 3 and further activities	事前 Step 3 を予習する	事後 Further activities の課題内容をさらにリサーチし、提出準備する	30分 60分
第5回	Unit 9 Team Sports or Individual Sports? 反論するための表現/受動態 Step 1 and 2	教科書の該当箇所を予習する	自習用音声ファイルを使用し、該当箇所を復習する。	40分 50分
第6回	Unit 9 Team Sports or Individual Sports? 反論するための表現/受動態 Step 3 and further activities	事前 Step 3 を予習する	事後 Further activities の課題内容をさらにリサーチし、提出準備する	30分 60分
第7回	Unit 10 Online Shopping or In-store Shopping? 議論を深めるための表現/現在形と過去形 Step 1 and 2	事前 教科書の該当箇所を予習する	事後 自習用音声ファイルを使用し、該当箇所を復習する。	40分 50分
第8回	Unit 10 Online Shopping or In-store Shopping? 議論を深めるための表現/現在形と過去形 Step 3 and further activities	事前 Step 3 を予習する	事後 Further activities の課題内容をさらにリサーチし、提出準備する	30分 60分
第9回	Unit 11 Professional Training or Liberal Arts? 因果関係を述べる表現/現在進行形 Step 1 and 2	事前 教科書の該当箇所を予習する	事後 自習用音声ファイルを使用し、該当箇所を復習する。	40分 50分
第10回	Unit 11 Professional Training or Liberal Arts? 因果関係を述べる表現/現在進行形 Step 3 and further activities	事前 Step 3 を予習する	事後 Further activities の課題内容をさらにリサーチし、提出準備する	30分 60分
第11回	Unit 12 Self-driving Cars or Human-driven Cars? 誤解を解くための表現/現在完了形 Step 1 and 2	事前 教科書の該当箇所を予習する	事後 自習用音声ファイルを使用し、該当箇所を復習する。	40分 50分
第12回	Unit 12 Self-driving Cars or Human-driven Cars? 誤解を解くための表現/現在完了形 Step 3 and further activities	事前 Step 3 を予習する	事後 Further activities の課題内容をさらにリサーチし、提出準備する	30分 60分
第13回	Unit 13 Boxed Lunch or School Cafeteria? 相手が言ったことを確かめる表現/助動詞 Step 1 and 2	事前 教科書の該当箇所を予習する	事後 自習用音声ファイルを使用し、該当箇所を復習する。	40分 50分
第14回	Review Units 7-13	事前 教科書の該当箇所を予習する	事後 Units 7-13 の内容を復習する	30分 60分
第15回	Review (Unit 7-13) 理解度確認テスト	事前 確認テストの準備をする	事後 理解不足の箇所を復習する	30分 60分

フィードバック 授業での課題に対して添削やコメントを通じて学修成果をフィードバックする。

成績評価 試験および課題 50%、授業態度 50%

テキスト 飯野厚 / Heather Johnson Satoh / 藤井彰子 / 簗田由己子 / 中村洋一 / 大畑甲太 著『In My Opinion 話して伸ばす発信型英語演習』(金星堂)
※その他、必要に応じてプリントなどを配布する。

オフィスアワー 月曜 V 駒 研究室にて(事前に Email にて連絡が望ましい。ball-60000846@mail.uenogakuen.ac.jp)

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

英語 I-1 (コミュニケーション・スキル) B

※教育職員免許状取得に関わる科目

非常勤講師 山内あゆ子

科目コード: ENG103

対象コース/専門/学年: 全コース/全専門/1年次

形態: 講義	単位数: 1単位
概要	自分の意見を述べるために必要となる英語力・思考力・創造力を養う。各ユニットで扱うテーマは身近な日常生活における小さな問題から、大学生として知っておくべき社会問題まで、硬い話題、柔らかい話題幅広く、賛否や可否、意見を学習者に問う問題提起型の教材を使用し、スピーキング力を養う。
到達目標	学習者ひとりひとりが立場の異なる役割を担って、面と向かって相手を説得することをゴールとし、音声、内容、表現、文法という4つの側面から段階的にタスクを課す。また基礎的な文法の復習と、自らの意見を書いたり、グループでプレゼンテーションする活動を通して、循環的にインプットとアウトプットを行い、スピーキング力へ応用することを目指す。

回	単元	事前	事後	時間
第1回	Orientation オリエンテーション、授業概要と教材の解説、進め方	教科書を確認する	自己紹介の練習をする	40分 50分
第2回	Unit 1 Dogs or Cats? 相手に対して応答する表現/名詞句と動詞句 Step 1 and 2	教科書の該当箇所を予習する	自習用音声ファイルを使用し、該当箇所を復習する	40分 50分
第3回	Unit 1 Dogs or Cats? 相手に対して応答する表現/名詞句と動詞句 Step 3 and further activities	Step 3を予習する	Further activitiesの課題内容をさらにリサーチし、提出準備する	30分 60分
第4回	Unit 2 Dubbing or Subtitling? 聞き手の反応を促す表現/句と節 Step 1 and 2	教科書の該当箇所を予習する	自習用音声ファイルを使用し、該当箇所を復習する	40分 50分
第5回	Unit 2 Dubbing or Subtitling? 聞き手の反応を促す表現/句と節 Step 3 and further activities	Step 3を予習する	Further activitiesの課題内容をさらにリサーチし、提出準備する	30分 60分
第6回	Unit 3 Traveling on Your Own or in a Group Tour? 意見を考えるために時間を稼ぐ表現/接続詞 Step 1 and 2	教科書の該当箇所を予習する	自習用音声ファイルを使用し、該当箇所を復習する	40分 50分
第7回	Unit 3 Traveling on Your Own or in a Group Tour? 意見を考えるために時間を稼ぐ表現/接続詞 Step 3 and further activities	Step 3を予習する	Further activitiesの課題内容をさらにリサーチし、提出準備する	30分 60分
第8回	Unit 4 Paper Bags or Plastic Bags? 意見を整理して述べる表現/文型 SVO Step 1 and 2	教科書の該当箇所を予習する	自習用音声ファイルを使用し、該当箇所を復習する	40分 50分
第9回	Unit 4 Paper Bags or Plastic Bags? 意見を整理して述べる表現/文型 SVO Step 3 and further activities	Step 3を予習する	Further activitiesの課題内容をさらにリサーチし、提出準備する	30分 60分
第10回	Unit 5 Do We Need TV Broadcasting or Not? 例を示す表現/現在分詞と過去分詞 Step 1 and 2	教科書の該当箇所を予習する	自習用音声ファイルを使用し、該当箇所を復習する	40分 50分
第11回	Unit 5 Do We Need TV Broadcasting or Not? 例を示す表現/現在分詞と過去分詞 Step 3 and further activities	Step 3を予習する	Further activitiesの課題内容をさらにリサーチし、提出準備する	30分 60分
第12回	Unit 6 Age-based or Performance-based? 自分の意見を切り出すための表現/文型 SVOOとSVOC Step 1 and 2	教科書の該当箇所を予習する	自習用音声ファイルを使用し、該当箇所を復習する	40分 50分
第13回	Unit 6 Age-based or Performance-based? 自分の意見を切り出すための表現/文型 SVOOとSVOC Step 3 and further activities	Step 3を予習する	Further activitiesの課題内容をさらにリサーチし、提出準備する	30分 60分
第14回	Review Units 1-6	教科書の該当箇所を予習する	Units 1-6の内容を復習する	40分 50分
第15回	Review (Unit 1-6) 理解度確認テスト	事前 確認テストの準備をする	事後 理解不足の箇所を復習する	30分 60分

フィードバック 授業での課題に対して添削やコメントを通じて学修成果をフィードバックする。

成績評価 試験および課題 50%、授業態度 50%

テキスト 飯野厚 / Heather Johnson Satoh / 藤井彰子 / 飯田由己子 / 中村洋一 / 大畑甲太 著『In My Opinion 話して伸ばす発信型英語演習』(金星堂)
※その他、必要に応じてプリントなどを配布する。

オフィスアワー 授業開始前もしくは終了後に対応する。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

英語 I-2 (コミュニケーション・スキル) B

※教育職員免許状取得に関わる科目

非常勤講師 山内あゆ子

科目コード: ENG104

対象コース/専門/学年: 全コース/全専門/1 年次

形態: 講義	単位数: 1 単位
概要	自分の意見を述べるために必要となる英語力・思考力・創造力を養う。各ユニットで扱うテーマは身近な日常生活における小さな問題から、大学生として知っておくべき社会問題まで、硬い話題、柔らかい話題幅広く、賛否や可否、意見を学習者に問う問題提起型の教材を使用し、スピーキング力を養う。
到達目標	学習者ひとりひとりが立場の異なる役割を担って、面と向かって相手を説得することをゴールとし、音声、内容、表現、文法という 4 つの側面から段階的にタスクを課す。また基礎的な文法の復習と、自らの意見を書いたり、グループでプレゼンテーションする活動を通して、循環的にインプットとアウトプットを行い、スピーキング力へ応用することを目指す。

回	単元	事前	事後	時間
第 1 回	Unit 7 Buying Music Online or Buying CDs? 同意を示す表現/不定詞 Step 1 and 2	教科書の該当箇所を予習する	自習用音声ファイルを使用し、該当箇所を復習する	40 分 50 分
第 2 回	Unit 7 Buying Music Online or Buying CDs? 同意を示す表現/不定詞 Step 3 and further activities	事前 Step 3 を予習する	事後 Further activities の課題内容をさらにリサーチし、提出準備する	30 分 60 分
第 3 回	Unit 8 Living with Family or Living Alone? 反対を示す表現/比較級 Step 1 and 2	教科書の該当箇所を予習する	自習用音声ファイルを使用し、該当箇所を復習する	40 分 50 分
第 4 回	Unit 8 Living with Family or Living Alone? 反対を示す表現/比較級 Step 3 and further activities	事前 Step 3 を予習する	事後 Further activities の課題内容をさらにリサーチし、提出準備する	30 分 60 分
第 5 回	Unit 9 Team Sports or Individual Sports? 反論するための表現/受動態 Step 1 and 2	教科書の該当箇所を予習する	自習用音声ファイルを使用し、該当箇所を復習する。	40 分 50 分
第 6 回	Unit 9 Team Sports or Individual Sports? 反論するための表現/受動態 Step 3 and further activities	事前 Step 3 を予習する	事後 Further activities の課題内容をさらにリサーチし、提出準備する	30 分 60 分
第 7 回	Unit 10 Online Shopping or In-store Shopping? 議論を深めるための表現/現在形と過去形 Step 1 and 2	事前 教科書の該当箇所を予習する	事後 自習用音声ファイルを使用し、該当箇所を復習する。	40 分 50 分
第 8 回	Unit 10 Online Shopping or In-store Shopping? 議論を深めるための表現/現在形と過去形 Step 3 and further activities	事前 Step 3 を予習する	事後 Further activities の課題内容をさらにリサーチし、提出準備する	30 分 60 分
第 9 回	Unit 11 Professional Training or Liberal Arts? 因果関係を述べる表現/現在進行形 Step 1 and 2	事前 教科書の該当箇所を予習する	事後 自習用音声ファイルを使用し、該当箇所を復習する。	40 分 50 分
第 10 回	Unit 11 Professional Training or Liberal Arts? 因果関係を述べる表現/現在進行形 Step 3 and further activities	事前 Step 3 を予習する	事後 Further activities の課題内容をさらにリサーチし、提出準備する	30 分 60 分
第 11 回	Unit 12 Self-driving Cars or Human-driven Cars? 誤解を解くための表現/現在完了形 Step 1 and 2	事前 教科書の該当箇所を予習する	事後 自習用音声ファイルを使用し、該当箇所を復習する。	40 分 50 分
第 12 回	Unit 12 Self-driving Cars or Human-driven Cars? 誤解を解くための表現/現在完了形 Step 3 and further activities	事前 Step 3 を予習する	事後 Further activities の課題内容をさらにリサーチし、提出準備する	30 分 60 分
第 13 回	Unit 13 Boxed Lunch or School Cafeteria? 相手が言ったことを確かめる表現/助動詞 Step 1 and 2	事前 教科書の該当箇所を予習する	事後 自習用音声ファイルを使用し、該当箇所を復習する。	40 分 50 分
第 14 回	Review Units 7-13	事前 教科書の該当箇所を予習する	事後 Units 7-13 の内容を復習する	30 分 60 分
第 15 回	Review (Unit 7-13) 理解度確認テスト	事前 確認テストの準備をする	事後 理解不足の箇所を復習する	30 分 60 分

フィードバック 授業での課題に対して添削やコメントを通じて学修成果をフィードバックする。

成績評価 試験および課題 50%、授業態度 50%

テキスト 飯野厚 / Heather Johnson Satoh / 藤井彰子 / 簗田由己子 / 中村洋一 / 大畑甲太 著『In My Opinion 話して伸ばす発信型英語演習』(金星堂)
※その他、必要に応じてプリントなどを配布する。

オフィスアワー 授業開始前もしくは終了後に対応する。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

英語 I-1 (コミュニケーション・スキル) C

※教育職員免許状取得に関わる科目

非常勤講師 高橋百合子

科目コード: ENG103

対象コース/専門/学年: 全コース/全専門/1 年次

形態: 単位数: 1 単位

概要 自分の意見を述べるために必要となる英語力・思考力・創造力を養う。各ユニットで扱うテーマは身近な日常生活における小さな問題から、大学生として知っておくべき社会問題まで、硬い話題、柔らかい話題幅広く、賛否や可否、意見を学習者に問う問題提起型の教材を使用し、スピーキング力を養う。

到達目標 学習者ひとりひとりが立場の異なる役割を担って、面と向かって相手を説得することをゴールとし、音声、内容、表現、文法という4つの側面から段階的にタスクを課す。また基礎的な文法の復習と、自らの意見を書いたり、グループでプレゼンテーションする活動を通して、循環的にインプットとアウトプットを行い、スピーキング力へ応用することを目指す。

回	単元名	事前	事後	時間
第1回	Orientation オリエンテーション、授業概要と教材の解説、進め方	教科書を確認する	自己紹介の練習をする	40分 50分
第2回	Unit 1 Dogs or Cats? 相手に対して応答する表現/名詞句と動詞句 Step 1 and 2	教科書の該当箇所を予習する	自習用音声ファイルを使用し、該当箇所を復習する。	40分 50分
第3回	Unit 1 Dogs or Cats? 相手に対して応答する表現/名詞句と動詞句 Step 3 and further activities	Step 3 を予習する	Further activities の課題内容をさらにリサーチし、提出準備する	30分 60分
第4回	Unit 2 Dubbing or Subtitling? 聞き手の反応を促す表現/句と節 Step 1 and 2	教科書の該当箇所を予習する	自習用音声ファイルを使用し、該当箇所を復習する。	40分 50分
第5回	Unit 2 Dubbing or Subtitling? 聞き手の反応を促す表現/句と節 Step 3 and further activities	Step 3 を予習する	Further activities の課題内容をさらにリサーチし、提出準備する	30分 60分
第6回	Unit 3 Traveling on Your Own or in a Group Tour? 意見を考えるために時間を稼ぐ表現/接続詞 Step 1 and 2	教科書の該当箇所を予習する	自習用音声ファイルを使用し、該当箇所を復習する。	40分 50分
第7回	Unit 3 Traveling on Your Own or in a Group Tour? 意見を考えるために時間を稼ぐ表現/接続詞 Step 3 and further activities	Step 3 を予習する	Further activities の課題内容をさらにリサーチし、提出準備する	30分 60分
第8回	Unit 4 Paper Bags or Plastic Bags? 意見を整理して述べる表現/文型 SVO Step 1 and 2	教科書の該当箇所を予習する	自習用音声ファイルを使用し、該当箇所を復習する。	40分 50分
第9回	Unit 4 Paper Bags or Plastic Bags? 意見を整理して述べる表現/文型 SVO Step 3 and further activities	Step 3 を予習する	Further activities の課題内容をさらにリサーチし、提出準備する	30分 60分
第10回	Unit 5 Do We Need TV Broadcasting or Not? 例を示す表現/現在分詞と過去分詞 Step 1 and 2	教科書の該当箇所を予習する	自習用音声ファイルを使用し、該当箇所を復習する。	40分 50分
第11回	Unit 5 Do We Need TV Broadcasting or Not? 例を示す表現/現在分詞と過去分詞 Step 3 and further activities	Step 3 を予習する	Further activities の課題内容をさらにリサーチし、提出準備する	30分 60分
第12回	Unit 6 Age-based or Performance-based? 自分の意見を切り出すための表現/文型 SVOO と SVOC Step 1 and 2	教科書の該当箇所を予習する	自習用音声ファイルを使用し、該当箇所を復習する。	40分 50分
第13回	Unit 6 Age-based or Performance-based? 自分の意見を切り出すための表現/文型 SVOO と SVOC Step 3 and further activities	Step 3 を予習する	Further activities の課題内容をさらにリサーチし、提出準備する	30分 60分
第14回	Review Units 1-6	教科書の該当箇所を予習する	Units 1-6 の内容を復習する	40分 50分
第15回	Review (Unit 1-6) 理解度確認テスト	事前 確認テストの準備をする	事後 理解不足の箇所を復習する	30分 60分

フィードバック 授業での課題に対して添削やコメントを通じて学修成果をフィードバックする。

成績評価 試験および課題 50%、授業態度 50%

テキスト 飯野厚 / Heather Johnson Satoh / 藤井彰子 / 藪田由己子 / 中村洋一 / 大畑甲太 著『In My Opinion 話して伸ばす発信型英語演習』（金星堂）
※その他、必要に応じてプリントなどを配布する。

オフィスアワー 授業開始前もしくは終了後に対応する。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

英語 I-2 (コミュニケーション・スキル) C

※教育職員免許状取得に関わる科目

非常勤講師 高橋百合子

科目コード: ENG104

対象コース/専門/学年: 全コース/全専門/1 年次

形態: 講義	単位数: 1 単位
概要	自分の意見を述べるために必要となる英語力・思考力・創造力を養う。各ユニットで扱うテーマは身近な日常生活における小さな問題から、大学生として知っておくべき社会問題まで、硬い話題、柔らかい話題幅広く、賛否や可否、意見を学習者に問う問題提起型の教材を使用し、スピーキング力を養う。
到達目標	学習者ひとりひとりが立場の異なる役割を担って、面と向かって相手を説得することをゴールとし、音声、内容、表現、文法という4つの側面から段階的にタスクを課す。また基礎的な文法の復習と、自らの意見を書いたり、グループでプレゼンテーションする活動を通して、循環的にインプットとアウトプットを行い、スピーキング力へ応用することを目指す。

回	単元	事前	事後	時間
第1回	Unit 7 Buying Music Online or Buying CDs? 同意を示す表現/不定詞 Step 1 and 2	教科書の該当箇所を予習する	自習用音声ファイルを使用し、該当箇所を復習する。	40分 50分
第2回	Unit 7 Buying Music Online or Buying CDs? 同意を示す表現/不定詞 Step 3 and further activities	事前 Step 3 を予習する	事後 Further activities の課題内容をさらにリサーチし、提出準備する	30分 60分
第3回	Unit 8 Living with Family or Living Alone? 反対を示す表現/比較級 Step 1 and 2	教科書の該当箇所を予習する	自習用音声ファイルを使用し、該当箇所を復習する。	40分 50分
第4回	Unit 8 Living with Family or Living Alone? 反対を示す表現/比較級 Step 3 and further activities	事前 Step 3 を予習する	事後 Further activities の課題内容をさらにリサーチし、提出準備する	30分 60分
第5回	Unit 9 Team Sports or Individual Sports? 反論するための表現/受動態 Step 1 and 2	教科書の該当箇所を予習する	自習用音声ファイルを使用し、該当箇所を復習する。	40分 50分
第6回	Unit 9 Team Sports or Individual Sports? 反論するための表現/受動態 Step 3 and further activities	事前 Step 3 を予習する	事後 Further activities の課題内容をさらにリサーチし、提出準備する	30分 60分
第7回	Unit 10 Online Shopping or In-store Shopping? 議論を深めるための表現/現在形と過去形 Step 1 and 2	事前 教科書の該当箇所を予習する	事後 自習用音声ファイルを使用し、該当箇所を復習する。	40分 50分
第8回	Unit 10 Online Shopping or In-store Shopping? 議論を深めるための表現/現在形と過去形 Step 3 and further activities	事前 Step 3 を予習する	事後 Further activities の課題内容をさらにリサーチし、提出準備する	30分 60分
第9回	Unit 11 Professional Training or Liberal Arts? 因果関係を述べる表現/現在進行形 Step 1 and 2	事前 教科書の該当箇所を予習する	事後 自習用音声ファイルを使用し、該当箇所を復習する。	40分 50分
第10回	Unit 11 Professional Training or Liberal Arts? 因果関係を述べる表現/現在進行形 Step 3 and further activities	事前 Step 3 を予習する	事後 Further activities の課題内容をさらにリサーチし、提出準備する	30分 60分
第11回	Unit 12 Self-driving Cars or Human-driven Cars? 誤解を解くための表現/現在完了形 Step 1 and 2	事前 教科書の該当箇所を予習する	事後 自習用音声ファイルを使用し、該当箇所を復習する。	40分 50分
第12回	Unit 12 Self-driving Cars or Human-driven Cars? 誤解を解くための表現/現在完了形 Step 3 and further activities	事前 Step 3 を予習する	事後 Further activities の課題内容をさらにリサーチし、提出準備する	30分 60分
第13回	Unit 13 Boxed Lunch or School Cafeteria? 相手が言ったことを確かめる表現/助動詞 Step 1 and 2	事前 教科書の該当箇所を予習する	事後 自習用音声ファイルを使用し、該当箇所を復習する。	40分 50分
第14回	Review Units 7-13	事前 教科書の該当箇所を予習する	事後 Units 7-13 の内容を復習する	30分 60分
第15回	Review (Unit 7-13) 理解度確認テスト	事前 確認テストの準備をする	事後 理解不足の箇所を復習する	30分 60分

フィードバック 授業での課題に対して添削やコメントを通じて学修成果をフィードバックする。

成績評価 試験および課題 50%、授業態度 50%

テキスト 飯野厚 / Heather Johnson Satoh / 藤井彰子 / 簗田由己子 / 中村洋一 / 大畑甲太 著『In My Opinion 話して伸ばす発信型英語演習』(金星堂)
※その他、必要に応じてプリントなどを配布する。

オフィスアワー 授業開始前もしくは終了後に対応する。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				

英語 I-1 (総合) A

准教授 佐野直哉

科目コード: ENG105

対象コース/専門/学年: 全コース/全専門/1 年次

形態: 講義 単位数: 1 単位

概要 定評ある BBC ドキュメンタリーの映像 (video clips) 教材を通して総合的に英語を学ぶ授業である。授業では、ボキャブラリー、文法の解説に加え、リスニング力強化のための施策として、音声を中心して意味を考えながら聞く、単語の発音や音のつながり方のインプットや、聞こえてきた順に理解する練習、トピックの背景知識などバランスを考慮した内容で構成する。事前および事後の学習は必ず行うこと。毎回小テストを行う。

到達目標 映像教材の事前・授業・事後・小テストの学習サイクルの徹底によってリスニングのみならずボキャブラリー、英文読解力の向上、さらに英文法は、これまでの学習を項目別に復習することで、日常のコミュニケーションにも使える確かな英語の知識と運用力を身につけることを目標とする。後期で養成する英語力の基礎を固める。

回	Chapter	文型	事前	事後	単位数
第 1 回	Chapter 1 SV, SVC, SVO の文型 Hamburger History ハンバーガーの歴史		事前 I Warming Up と II Vocabulary の学習、Self-Study DVD を視聴しておく。 45 分 事後 Self-Study DVD で全文を理解できているか確認、Summary を全て書き取る、小テスト準備 45 分		
第 2 回	Chapter 2 SVOC の文型 Rings and Things ジュエリー		事前 I Warming Up と II Vocabulary の学習、Self-Study DVD を視聴しておく。 45 分 事後 Self-Study DVD で全文を理解できているか確認、Summary を全て書き取る、小テスト準備 45 分		
第 3 回	Chapter 3 一般動詞の現在形 Bringing up Baby 子育て		事前 I Warming Up と II Vocabulary の学習、Self-Study DVD を視聴しておく。 45 分 事後 Self-Study DVD で全文を理解できているか確認、Summary を全て書き取る、小テスト準備 45 分		
第 4 回	Chapter 4 過去形 The Bhutanese ブータンの人々		事前 I Warming Up と II Vocabulary の学習、Self-Study DVD を視聴しておく。 45 分 事後 Self-Study DVD で全文を理解できているか確認、Summary を全て書き取る、小テスト準備 45 分		
第 5 回	Chapter 5 進行形 Into the Wilderness 大自然へ		事前 I Warming Up と II Vocabulary の学習、Self-Study DVD を視聴しておく。 45 分 事後 Self-Study DVD で全文を理解できているか確認、Summary を全て書き取る、小テスト準備 45 分		
第 6 回	Chapter 6 人称代名詞・指示代名詞 Jade 翡翠 (ヒスイ)		事前 I Warming Up と II Vocabulary の学習、Self-Study DVD を視聴しておく。 45 分 事後 Self-Study DVD で全文を理解できているか確認、Summary を全て書き取る、小テスト準備 45 分		
第 7 回	Chapter 7 受動態 (受身形) The Mongols モンゴル人		事前 I Warming Up と II Vocabulary の学習、Self-Study DVD を視聴しておく。 45 分 事後 Self-Study DVD で全文を理解できているか確認、Summary を全て書き取る、小テスト準備 45 分		
第 8 回	Chapter 8 現在完了形 Diamonds ダイヤモンド		事前 I Warming Up と II Vocabulary の学習、Self-Study DVD を視聴しておく。 45 分 事後 Self-Study DVD で全文を理解できているか確認、Summary を全て書き取る、小テスト準備 45 分		
第 9 回	Chapter 9 助動詞 (can, could) Gorillas in Our Midst 真ん中のゴリラ		事前 I Warming Up と II Vocabulary の学習、Self-Study DVD を視聴しておく。 45 分 事後 Self-Study DVD で全文を理解できているか確認、Summary を全て書き取る、小テスト準備 45 分		
第 10 回	Chapter 10 助動詞 (must) A Father's Labor タツノオトシゴ		事前 I Warming Up と II Vocabulary の学習、Self-Study DVD を視聴しておく。 45 分 事後 Self-Study DVD で全文を理解できているか確認、Summary を全て書き取る、小テスト準備 45 分		
第 11 回	Chapter 11 比較級・最上級 Queues 行列		事前 I Warming Up と II Vocabulary の学習、Self-Study DVD を視聴しておく。 45 分 事後 Self-Study DVD で全文を理解できているか確認、Summary を全て書き取る、小テスト準備 45 分		
第 12 回	Chapter 12 -ing form (現在分詞・動名詞) Ahead of Fashion 流行の先頭に		事前 I Warming Up と II Vocabulary の学習、Self-Study DVD を視聴しておく。 45 分 事後 Self-Study DVD で全文を理解できているか確認、Summary を全て書き取る、小テスト準備 45 分		
第 13 回	Chapter 13 不定詞 Learning to See 見ることを学ぶ		事前 I Warming Up と II Vocabulary の学習、Self-Study DVD を視聴しておく。 45 分 事後 Self-Study DVD で全文を理解できているか確認、Summary を全て書き取る、小テスト準備 45 分		
第 14 回	Chapter 14 接続詞 Smallest 最小		事前 I Warming Up と II Vocabulary の学習、Self-Study DVD を視聴しておく。 45 分 事後 Self-Study DVD で全文を理解できているか確認、Summary を全て書き取る、小テスト準備 45 分		
第 15 回	これまでの振り返り、定期試験に向けてのポイント解説および準備		事前 全 14 回の Grammar 事項を復習し、不明点や不得意な項目を明らかにしておく 45 分 事後 授業で扱ったポイントを中心に全 14 回を復習し、定期試験の準備をする。 45 分		

フィードバック 授業内に適宜フィードバックを行う。

成績評価 定期試験 50%、小テスト 40%、授業態度 (積極性、予習・復習、宿題など) 10%

テキスト Akira Morita, Jeffrey Miller, Atsushi Chiba, Akihiko Sato, Nobuko Osada 著
『BBC ドキュメンタリーの世界へようこそ “Welcome to BBC on DVD”』(成美堂)
その他、必要に応じてプリントなどを配布する。

オフィスアワー 月曜 V 駒 研究室にて (事前に Email にて連絡が望ましい。ball-60000846@mail.uenogakuen.ac.jp)

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・他理解	生涯学習意欲
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

概要 ポップスのヒット曲を聞きながら英語特有の音声変化やリズムに慣れ親しみ、英語の総合的な力をバランス良く向上させる。また普段意味をあまり考えずに聴いていることが多い英語の歌の内容を正確に知ることによって、英語の歌のみならず、英語そのものへの興味や関心を高める。毎回小テストをおこなう。

到達目標 英語の歌の聞き取りには、様々な音声変化を理解することが必要である。本科目では、ヒット曲を聞きながら、脱落、連結、同化、弱化などの音声変化のポイントを体系的に習得する。また歌詞を活用した英文法、聞き取り、異文化トピックを扱った読解問題などの演習も行う。

回	曲名	Listening Point	Grammar	事前	事後	時間
第 1 回	Complicated (Avril Lavigne)	音の同化①	接続詞と前置詞の区別	Warm-up AB を解いておく、Let's Read の中のわからない単語を予め調べておく。	該当単元の歌詞を理解し、音読または歌うことで音声変化を体感する	45 分
第 2 回	S.O.S (ABBA)	音の連結①	仮定法	Warm-up AB を解いておく、Let's Read の中のわからない単語を予め調べておく。	該当単元の歌詞を理解し、音読または歌うことで音声変化を体感する	45 分
第 3 回	You Are not Alone (Michael Jackson)	音の脱落①	品詞	Warm-up AB を解いておく、Let's Read の中のわからない単語を予め調べておく。	該当単元の歌詞を理解し、音読または歌うことで音声変化を体感する	45 分
第 4 回	Don't Wanna Lose You (Gloria Estefan)	音の連結①	仮定法	Warm-up AB を解いておく、Let's Read の中のわからない単語を予め調べておく。	該当単元の歌詞を理解し、音読または歌うことで音声変化を体感する	45 分
第 5 回	How Crazy Are You? (Meja)	音の脱落②	分詞	Warm-up AB を解いておく、Let's Read の中のわからない単語を予め調べておく。	該当単元の歌詞を理解し、音読または歌うことで音声変化を体感する	45 分
第 6 回	Sunday Morning (Maroon 5)	ing の発音	形容詞・副詞	Warm-up AB を解いておく、Let's Read の中のわからない単語を予め調べておく。	該当単元の歌詞を理解し、音読または歌うことで音声変化を体感する	45 分
第 7 回	I Want It That Way (Backstreet Boys)	アメリカ英語の特徴①	知覚・使役動詞	Warm-up AB を解いておく、Let's Read の中のわからない単語を予め調べておく。	該当単元の歌詞を理解し、音読または歌うことで音声変化を体感する	45 分
第 8 回	Suddenly I See (KT Tunstall)	アメリカ英語の特徴②	動名詞	Warm-up AB を解いておく、Let's Read の中のわからない単語を予め調べておく。	該当単元の歌詞を理解し、音読または歌うことで音声変化を体感する	45 分
第 9 回	How Am U Supposed To Live Without You (Michael Bolton)	音の脱落③	受動態	Warm-up AB を解いておく、Let's Read の中のわからない単語を予め調べておく。	該当単元の歌詞を理解し、音読または歌うことで音声変化を体感する	45 分
第 10 回	Save The Best For Last (Vanessa Williams)	助動詞の発音①	完了形	Warm-up AB を解いておく、Let's Read の中のわからない単語を予め調べておく。	該当単元の歌詞を理解し、音読または歌うことで音声変化を体感する	45 分
第 11 回	Last Christmas (Wham!)	音の連結②	5 文型	Warm-up AB を解いておく、Let's Read の中のわからない単語を予め調べておく。	該当単元の歌詞を理解し、音読または歌うことで音声変化を体感する	45 分
第 12 回	Torn (Natalie Imbruglia)	助動詞の発音②	助動詞	Warm-up AB を解いておく、Let's Read の中のわからない単語を予め調べておく。	該当単元の歌詞を理解し、音読または歌うことで音声変化を体感する	45 分
第 13 回	La La (Swing Out Sister)	音の弱体化	関係代名詞	Warm-up AB を解いておく、Let's Read の中のわからない単語を予め調べておく。	該当単元の歌詞を理解し、音読または歌うことで音声変化を体感する	45 分
第 14 回	With You (Chris Brown)	助動詞の発音③	否定	Warm-up AB を解いておく、Let's Read の中のわからない単語を予め調べておく。	該当単元の歌詞を理解し、音読または歌うことで音声変化を体感する	45 分
第 15 回	これまでの振り返りと定期試験に向けての準備と解説			全 14 回の Grammar 事項を復習し、不明点や不得意な項目を明らかにしておく	授業で出されたポイントを中心に全 14 回を復習し、定期試験の準備をする。	45 分

フィードバック 授業内に適宜フィードバックを行う。

成績評価 定期試験 50%、小テスト 40%、授業態度 (積極性、予習・復習、宿題など) 10%

テキスト Teruhiko Kadoyama, Simon Capper 著 『ヒットソングで学ぶ総合英語 English with Pop Hits』(成美堂)

オフィスアワー 月曜 V 駒 研究室にて (事前に Email にて連絡が望ましい。ball-60000846@mail.uenogakuen.ac.jp)

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション能力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				

英語 I-1 (総合) B

非常勤講師 山内あゆ子

科目コード: ENG105

対象コース/専門/学年: 全コース/全専門/1 年次

形態: 講義	単位数: 1 単位
概要	TED Talksのコンテンツを使い、コミュニケーションを重視しつつ英語の四技能を伸ばす授業を行う。映像、リスニング、図やグラフでの補助情報、インタビュー内容を読む、内容をもとに情報を書いてまとめる、ペアワークなどによって、理解を深めながら授業を進める。
到達目標	生きたスピーチを視聴し、プレゼンテーションに触れることによって、コミュニケーション、協力、クリエイティビティ、批判的思考を養いつつ、自信を持って力強く英語を使うスキルを習得する。

授業計画		
第 1 回	Orientation 教科書の紹介 What is TED? Self-introduction	事前 英語で自己紹介できるようにしておく。 事後 教科書を準備する。 40 分 50 分
第 2 回	Unit 1 Passions 1A Do you like country music? / 1B What's your favorite?	事前 Unit 1 AB を予習する。 40 分 事後 Unit 1 AB を復習する。 50 分
第 3 回	Unit 1 1C Bluegrass for a new generations / 1D Bluegrass from New Jersey / 1E	事前 Unit 1 CDE を予習する。 40 分 事後 Unit 1 CDE を復習する。例にならって e-mail を書く。 50 分
第 4 回	Unit 2 Spending Habits 2A What do you like to buy? / 1B Do you ever shop online?	事前 Unit 2 AB を予習する。 40 分 事後 Unit 2 AB を復習する。 50 分
第 5 回	Unit 2 2C Buy nothing new / 2D Wearing nothing new / 2E Green shopping	事前 Unit 2 CDE を予習する。 40 分 事後 Unit 2 CDE を復習する。例にならって response を書く。 50 分
第 6 回	Unit 3 Career Paths 3A What do you do? / 3B What job would you like?	事前 Unit 3 AB を予習する。 40 分 事後 Unit 3AB を復習する。 50 分
第 7 回	Unit 3 3C A dancer's dream / 3D The joy of surging in ice-cold water / 3E Job descriptions	事前 Unit 2 CDE を予習する。 40 分 事後 Unit 2 CDE を復習する。例にならって My dream job を書く。 50 分
第 8 回	Presentation 1 p. 43-44	事前 P. 43, 44 を読んで presentation を準備する。 40 分 事後 自分の presentation を読み直して反省評価する。 50 分
第 9 回	Unit 4 Talents 4A What are you good at? / 4B What talents do you have?	事前 Unit 4AB を予習する。 40 分 事後 Unit 4AB を復習する。 50 分
第 10 回	Unit 4 4C Pro gaming: a dream career? / 4D The orchestra in my mouth / 4E The right job	事前 Unit 4 CDE を予習する。 40 分 事後 Unit 4 CDE を復習する。例にならって Paragraph を書く。 50 分
第 11 回	Unit 5 Technology 5A It's the latest thing. / 5B What does it do?	事前 Unit 5AB を予習する。 40 分 事後 Unit 5AB を復習する。 50 分
第 12 回	Unit 5 5C Flying like a bird / 5D Fly with the Jetman 5E/ Great idea!	事前 Unit 5CDE を予習する。 40 分 事後 Unit 5 CDE を復習する。例にならって short review を書く。 50 分
第 13 回	Unit 6 Challenges 6A It's a big challenge for me. / 6B How do you cope?	事前 Unit 5AB を予習する。 40 分 事後 Unit 5AB を復習する。 50 分
第 14 回	Unit 6 6C Living without fear 6D How I use sonar to navigate the world/ 6E	事前 Unit 6CDE を予習する。 40 分 事後 Unit 6CDE を復習する。例にならって paragraph を書く。 50 分
第 15 回	Unit 1-6 までの復習、まとめ、補足 理解度確認テスト	事前 Unit 1-6 までのこれまでやったことの復習を行なう。 60 分 事後 理解不足だった部分の復習をする 30 分

フィードバック 授業での課題について、添削やコメントで学修成果をフィードバックする。

成績評価 授業態度、小テスト、課題などに基つき総合的に行う。
【テスト 30%、課題 20%、授業態度 50%】

テキスト David Bohlke "Keynote 1 TED TALKS" (Cengage Learning)
その他、必要に応じてプリントなどを配布する。

オフィスアワー 授業開始前もしくは終了後、あるいはアポイントメントによって対応する。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性							
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲	
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	

英語 I-2 (総合) B

非常勤講師 山内あゆ子

科目コード: ENG106

対象コース/専門/学年: 全コース/全専門/1 年次

形態: 講義

単位数: 1 単位

概要 英語 I-1 (総合) Bに続き、TED Talksのコンテンツを使い、コミュニケーションを重視しつつ英語の四技能を伸ばす授業を行う。映像、リスニング、図やグラフでの補助情報、インタビュー内容を読む、内容をもとに情報を書いてまとめる、ペアワークなどによって、理解を深めながら授業を進める。

到達目標 生きたスピーチを視聴し、プレゼンテーションに触れることによって、コミュニケーション、協力、クリエイティビティ、批判的思考を養いつつ、自信を持って力強く英語を使うスキルを習得する。

授業計画

第 1 回	Presentation 2 P.75-76	事前 P. 75, 76 を読んで presentation を準備する。 事後 自分の presentation を読み直して反省評価する。	40 分 50 分
第 2 回	Unit 7 Confidence 7A He's kind of shy. / 7B He thinks he's too tall.	事前 Unit 7 AB を予習する。 事後 Unit 7 AB を復習する。	40 分 50 分
第 3 回	Unit 7 7C Pressure to be "perfect" / 7D Why thinking you're ugly is bad for you / 7E	事前 Unit 7 CDE を予習する。 事後 Unit 7 CDE を復習する。例にならって description を書く。	40 分 50 分
第 4 回	Unit 8 Wild Places 8A The natural world / 8B The deepest, longest, and most beautiful	事前 Unit 8 AB を予習する。 事後 Unit 8 AB を復習する。	40 分 50 分
第 5 回	Unit 8 8C An otherworldly place / 8D Unseen footage, untamed nature / 8E Our natural wonders	事前 Unit 8 CDE を予習する。 事後 Unit 8 CDE を復習する。例にならって place について書く。	40 分 50 分
第 6 回	Unit 9 Achievements 9A We did it! / 9B Exploring the world	事前 Unit 9 AB を予習する。 事後 Unit 9 AB を復習する。	40 分 50 分
第 7 回	Unit 9 9C Extreme survival / 9D Let's save the last pristine continent 9E Great achievements	事前 Unit 9 CDE を予習する。 事後 Unit 9 CDE を復習する。例にならって biography を書く。	40 分 50 分
第 8 回	Presentation 3 P. 107-108	事前 P. 107-108 を読んで presentation を準備する。 事後 自分の presentation を読み直して反省評価する。	40 分 50 分
第 9 回	Unit 10 Creative Cities 10A In the neighborhood / 10B Nice neighborhoods	事前 Unit 10 AB を予習する。 事後 Unit 10 AB を復習する。	40 分 50 分
第 10 回	Unit 10 10C Reshaping a city / 10D How to revive a neighborhood / 10E A better neighborhood	事前 Unit 10 CDE を予習する。 事後 Unit 10 CDE を復習する。例にならって suggestion を書く。	40 分 50 分
第 11 回	Unit 11 Picture Perfect 11A Snapshots / 11B What's your opinion?	事前 Unit 11 AB を予習する。 事後 Unit 11 AB を復習する。	40 分 50 分
第 12 回	Unit 11 11C Unreal images of nature / 11D Impossible photography / 11E Combining photos	事前 Unit 11 CDE を予習する。 事後 Unit 11 CDE を復習する。例にならって description を書く。	40 分 50 分
第 13 回	Unit 12 Healthy Habits 12A Staying healthy / 12B Healthy choices	事前 Unit 12 AB を予習する。 事後 Unit 12 AB を復習する。	40 分 50 分
第 14 回	Unit 12 12C A simple solution / 12D The simple power of handwashing / 12E Food hygiene	事前 Unit 12 CDE を予習する。 事後 Unit 12 CDE を復習する。例にならって tips を書く。	40 分 50 分
第 15 回	Unit 7-12 までの復習、まとめ、補足 理解度確認テスト	事前 Unit 7-12 までのこれまでやったことの復習を行なう。 事後 理解不足だった部分の復習をする	60 分 30 分

フィードバック 授業での課題について、添削やコメントで学修成果をフィードバックする。

成績評価 授業態度、テスト、課題などに基づき総合的に行う。
【テスト 30%、課題 20%、授業態度 50%】

テキスト David Bohlke "Keynote 1 TED TALKS" (Cengage Learning)
その他、必要に応じてプリントなどを配布する。

オフィスアワー 授業開始前もしくは終了後、あるいはアポイントメントによって対応する。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性							
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲	
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	

形態: 講義 単位数: 1 単位

概要 定評ある BBC ドキュメンタリーの映像 (video clips) 教材を通して総合的に英語を学ぶ授業である。授業では、ボキャブラリー、文法の解説に加え、リスニング力強化のための施策として、音声を中心して意味を考えながら聞く、単語の発音や音のつながり方のインプットや、聞こえてきた順に理解する練習、トピックの背景知識などバランスを考慮した内容で構成する。事前および事後の学習は必ず行うこと。毎回小テストを行う。

到達目標 映像教材の事前・授業・事後・小テストの学習サイクルの徹底によってリスニングのみならずボキャブラリー、英文読解力の向上、さらに英文法は、これまでの学習を項目別に復習することで、日常のコミュニケーションにも使える確かな英語の知識と運用力を身につけることを目標とする。後期で養成する英語力の基礎を固める。

回	Chapter	内容	事前	事後	単位数
第 1 回	Chapter 1 SV, SVC, SVO の文型 Hamburger History ハンバーガーの歴史		事前 I Warming Up と II Vocabulary の学習、Self-Study DVD を視聴しておく。	事後 Self-Study DVD で全文を理解できているか確認、Summary を全て書き取る、小テスト準備	45 分
第 2 回	Chapter 2 SVOC の文型 Rings and Things ジュエリー		事前 I Warming Up と II Vocabulary の学習、Self-Study DVD を視聴しておく。	事後 Self-Study DVD で全文を理解できているか確認、Summary を全て書き取る、小テスト準備	45 分
第 3 回	Chapter 3 一般動詞の現在形 Bringing up Baby 子育て		事前 I Warming Up と II Vocabulary の学習、Self-Study DVD を視聴しておく。	事後 Self-Study DVD で全文を理解できているか確認、Summary を全て書き取る、小テスト準備	45 分
第 4 回	Chapter 4 過去形 The Bhutanese ブータンの人々		事前 I Warming Up と II Vocabulary の学習、Self-Study DVD を視聴しておく。	事後 Self-Study DVD で全文を理解できているか確認、Summary を全て書き取る、小テスト準備	45 分
第 5 回	Chapter 5 進行形 Into the Wilderness 大自然へ		事前 I Warming Up と II Vocabulary の学習、Self-Study DVD を視聴しておく。	事後 Self-Study DVD で全文を理解できているか確認、Summary を全て書き取る、小テスト準備	45 分
第 6 回	Chapter 6 人称代名詞・指示代名詞 Jade 翡翠 (ヒスイ)		事前 I Warming Up と II Vocabulary の学習、Self-Study DVD を視聴しておく。	事後 Self-Study DVD で全文を理解できているか確認、Summary を全て書き取る、小テスト準備	45 分
第 7 回	Chapter 7 受動態 (受身形) The Mongols モンゴル人		事前 I Warming Up と II Vocabulary の学習、Self-Study DVD を視聴しておく。	事後 Self-Study DVD で全文を理解できているか確認、Summary を全て書き取る、小テスト準備	45 分
第 8 回	Chapter 8 現在完了形 Diamonds ダイヤモンド		事前 I Warming Up と II Vocabulary の学習、Self-Study DVD を視聴しておく。	事後 Self-Study DVD で全文を理解できているか確認、Summary を全て書き取る、小テスト準備	45 分
第 9 回	Chapter 9 助動詞 (can, could) Gorillas in Our Midst 真ん中のゴリラ		事前 I Warming Up と II Vocabulary の学習、Self-Study DVD を視聴しておく。	事後 Self-Study DVD で全文を理解できているか確認、Summary を全て書き取る、小テスト準備	45 分
第 10 回	Chapter 10 助動詞 (must) A Father's Labor タツノオトシゴ		事前 I Warming Up と II Vocabulary の学習、Self-Study DVD を視聴しておく。	事後 Self-Study DVD で全文を理解できているか確認、Summary を全て書き取る、小テスト準備	45 分
第 11 回	Chapter 11 比較級・最上級 Queues 行列		事前 I Warming Up と II Vocabulary の学習、Self-Study DVD を視聴しておく。	事後 Self-Study DVD で全文を理解できているか確認、Summary を全て書き取る、小テスト準備	45 分
第 12 回	Chapter 12 -ing form (現在分詞・動名詞) Ahead of Fashion 流行の先頭に		事前 I Warming Up と II Vocabulary の学習、Self-Study DVD を視聴しておく。	事後 Self-Study DVD で全文を理解できているか確認、Summary を全て書き取る、小テスト準備	45 分
第 13 回	Chapter 13 不定詞 Learning to See 見ることを学ぶ		事前 I Warming Up と II Vocabulary の学習、Self-Study DVD を視聴しておく。	事後 Self-Study DVD で全文を理解できているか確認、Summary を全て書き取る、小テスト準備	45 分
第 14 回	Chapter 14 接続詞 Smallest 最小		事前 I Warming Up と II Vocabulary の学習、Self-Study DVD を視聴しておく。	事後 Self-Study DVD で全文を理解できているか確認、Summary を全て書き取る、小テスト準備	45 分
第 15 回	これまでの振り返り、定期試験に向けてのポイント解説および準備		事前 全 14 回の Grammar 事項を復習し、不明点や不得意な項目を明らかにしておく	事後 授業で扱ったポイントを中心に全 14 回を復習し、定期試験の準備をする。	45 分

フィードバック 授業内に適宜フィードバックを行う。

成績評価 定期試験 50%、小テスト 40%、授業態度 (積極性、予習・復習、宿題など) 10%

テキスト Akira Morita, Jeffrey Miller, Atsushi Chiba, Akihiko Sato, Nobuko Osada 著
『BBC ドキュメンタリーの世界へようこそ “Welcome to BBC on DVD”』(成美堂)
その他、必要に応じてプリントなどを配布する。

オフィスアワー 月曜 V 駒 研究室にて (事前に Email にて連絡が望ましい。ball-60000846@mail.uenogakuen.ac.jp)

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・他理解	生涯学習意欲
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

概要 ポップスのヒット曲を聞きながら英語特有の音声変化やリズムに慣れ親しみ、英語の総合的な力をバランス良く向上させる。また普段意味をあまり考えずに聴いていることが多い英語の歌の内容を正確に知ることによって、英語の歌のみならず、英語そのものへの興味や関心を高める。毎回小テストをおこなう。

到達目標 英語の歌の聞き取りには、様々な音声変化を理解することが必要である。本科目では、ヒット曲を聞きながら、脱落、連結、同化、弱化などの音声変化のポイントを体系的に習得する。また歌詞を活用した英文法、聞き取り、異文化トピックを扱った読解問題などの演習も行う。

授業計画

第 1 回	Complicated (Avril Lavigne) Listening Point : 音の同化① Grammar : 接続詞と前置詞の区別	事前 Warm-up AB を解いておく、Let's Read 中のわからない単語を予め調べておく。 事後 該当単元の歌詞を理解し、音読または歌うことで音声変化を体感する	45 分 45 分
第 2 回	S.O.S (ABBA) Listening Point : 音の連結① Grammar : 仮定法	事前 Warm-up AB を解いておく、Let's Read 中のわからない単語を予め調べておく。 事後 該当単元の歌詞を理解し、音読または歌うことで音声変化を体感する	45 分 45 分
第 3 回	You Are not Alone (Michael Jackson) Listening Point : 音の脱落① Grammar : 品詞	事前 Warm-up AB を解いておく、Let's Read 中のわからない単語を予め調べておく。 事後 該当単元の歌詞を理解し、音読または歌うことで音声変化を体感する	45 分 45 分
第 4 回	Don't Wanna Lose You (Gloria Estefan) Listening Point : 音の連結① Grammar : 仮定法	事前 Warm-up AB を解いておく、Let's Read 中のわからない単語を予め調べておく。 事後 該当単元の歌詞を理解し、音読または歌うことで音声変化を体感する	45 分 45 分
第 5 回	How Crazy Are You? (Meja) Listening Point : 音の脱落② Grammar : 分詞	事前 Warm-up AB を解いておく、Let's Read 中のわからない単語を予め調べておく。 事後 該当単元の歌詞を理解し、音読または歌うことで音声変化を体感する	45 分 45 分
第 6 回	Sunday Morning (Maroon 5) Listening Point : ing の発音 Grammar : 形容詞・副詞	事前 Warm-up AB を解いておく、Let's Read 中のわからない単語を予め調べておく。 事後 該当単元の歌詞を理解し、音読または歌うことで音声変化を体感する	45 分 45 分
第 7 回	I Want It That Way (Backstreet Boys) Listening Point : アメリカ英語の特徴① Grammar : 知覚・使役動詞	事前 Warm-up AB を解いておく、Let's Read 中のわからない単語を予め調べておく。 事後 該当単元の歌詞を理解し、音読または歌うことで音声変化を体感する	45 分 45 分
第 8 回	Suddenly I See (KT Tunstall) Listening Point : アメリカ英語の特徴② Grammar : 動名詞	事前 Warm-up AB を解いておく、Let's Read 中のわからない単語を予め調べておく。 事後 該当単元の歌詞を理解し、音読または歌うことで音声変化を体感する	45 分 45 分
第 9 回	How Am U Supposed To Live Without You (Michael Bolton) Listening Point : 音の脱落③ Grammar : 受動態	事前 Warm-up AB を解いておく、Let's Read 中のわからない単語を予め調べておく。 事後 該当単元の歌詞を理解し、音読または歌うことで音声変化を体感する	45 分 45 分
第 10 回	Save The Best For Last (Vanessa Williams) Listening Point : 助動詞の発音① Grammar : 完了形	事前 Warm-up AB を解いておく、Let's Read 中のわからない単語を予め調べておく。 事後 該当単元の歌詞を理解し、音読または歌うことで音声変化を体感する	45 分 45 分
第 11 回	Last Christmas (Wham!) Listening Point : 音の連結② Grammar : 5 文型	事前 Warm-up AB を解いておく、Let's Read 中のわからない単語を予め調べておく。 事後 該当単元の歌詞を理解し、音読または歌うことで音声変化を体感する	45 分 45 分
第 12 回	Torn (Natalie Imbruglia) Listening Point : 助動詞の発音② Grammar : 助動詞	事前 Warm-up AB を解いておく、Let's Read 中のわからない単語を予め調べておく。 事後 該当単元の歌詞を理解し、音読または歌うことで音声変化を体感する	45 分 45 分
第 13 回	La La (Swing Out Sister) Listening Point : 音の弱体化 Grammar : 関係代名詞	事前 Warm-up AB を解いておく、Let's Read 中のわからない単語を予め調べておく。 事後 該当単元の歌詞を理解し、音読または歌うことで音声変化を体感する	45 分 45 分
第 14 回	With You (Chris Brown) Listening Point : 助動詞の発音③ Grammar : 否定	事前 Warm-up AB を解いておく、Let's Read 中のわからない単語を予め調べておく。 事後 該当単元の歌詞を理解し、音読または歌うことで音声変化を体感する	45 分 45 分
第 15 回	これまでの振り返りと定期試験に向けての準備と解説	事前 全 14 回の Grammar 事項を復習し、不明点や不得意な項目を明らかにしておく 事後 授業で出されたポイントを中心に全 14 回を復習し、定期試験の準備をする。	45 分 45 分

フィードバック 授業内に適宜フィードバックを行う。

成績評価 定期試験 50%、小テスト 40%、授業態度（積極性、予習・復習、宿題など）10%

テキスト Teruhiko Kadoyama, Simon Capper 著 『ヒットソングで学ぶ総合英語 English with Pop Hits』（成美堂）

オフィスアワー 月曜 V 駒 研究室にて（事前に Email にて連絡が望ましい。ball-60000846@mail.uenogakuen.ac.jp）

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				

ドイツ語 I-1a・b

非常勤講師 岩下久美子

科目コード：FOR101

対象コース／専門／学年：全コース／全専門／1～4 年次

形態：講義 単位数：2 単位

概要 音楽を学ぶ上で必ず出会うドイツ・オーストリアなどのドイツ語圏文化の一端に触れながら、ドイツ語の使い方の基本ルールを学ぶ。この授業は演習の性格を有し、履修者は基本毎回、発言の機会をもつ。

到達目標 読む・書く・聞く・話すという実践力を伸ばす土台となる確かな文法的知識を習得することを目標とする。

授業計画 基本的な授業計画は下記の通りであるが、学習状況に応じて前後することがある。事前・事後の学習時間は個人によって異なる（基準：各回 90 分）。

第 1 回	ドイツ語のアルファベット 綴りと発音前半	事前 教科書の該当箇所を一読する。 事後 アルファベットの発音、発音の規則を復習する。	30 分 60 分
第 2 回	綴りと発音後半	事前 教科書の該当箇所を一読する。 事後 発音の規則を復習する。	30 分 60 分
第 3 回	Lektion1 動詞の現在人称変化 人称代名詞(1)	事前 教科書の該当箇所の説明を一読する。 事後 練習問題のチェックをとおして当該時間に学んだ知識を確実にものにする。	30 分 60 分
第 4 回	Lektion1 重要動詞 sein の現在人称変化 文型(1)	事前 教科書の該当箇所の説明を一読する。 事後 練習問題のチェックをとおして当該時間に学んだ知識を確実にものにする。	30 分 60 分
第 5 回	Lektion1 読み物	事前 教科書の該当箇所を一読する。 事後 当該時間に学んだ知識を確実にものにする。単語を覚え語彙を増やす。	30 分 60 分
第 6 回	Lektion1 追加練習問題前半	事前 問題を予習する。 事後 問題のチェックをとおして不足している知識を補う。	30 分 60 分
第 7 回	Lektion1 追加練習問題後半	事前 問題後半を予習する。 事後 問題のチェックをとおして不足している知識を補う。	30 分 60 分
第 8 回	Lektion2 名詞の性 定冠詞・不定冠詞の格変化	事前 教科書の該当箇所の説明を一読する。 事後 練習問題のチェックをとおして当該時間に学んだ知識を確実にものにする。	30 分 60 分
第 9 回	Lektion2 重要動詞 haben の現在人称変化 注意すべき動詞の現在人称変化	事前 教科書の該当箇所の説明を一読する。 事後 練習問題のチェックをとおして当該時間に学んだ知識を確実にものにする。	30 分 60 分
第 10 回	Lektion2 文型(2) 読み物	事前 教科書の該当箇所を一読する。 事後 当該時間に学んだ知識を確実にものにする。単語を覚え語彙を増やす。	30 分 60 分
第 11 回	Lektion2 追加練習問題	事前 教科書の該当箇所の説明を一読する。 事後 問題のチェックをとおして不足している知識を補う。	30 分 60 分
第 12 回	Lektion3 名詞の複数形 定冠詞類	事前 教科書の該当箇所の説明を一読する。 事後 練習問題のチェックをとおして当該時間に学んだ知識を確実にものにする。	30 分 60 分
第 13 回	Lektion3 不定冠詞類	事前 教科書の該当箇所の説明を一読する。 事後 練習問題のチェックをとおして当該時間に学んだ知識を確実にものにする。	30 分 60 分
第 14 回	Lektion3 否定文	事前 教科書の該当箇所の説明を一読する。 事後 練習問題のチェックをとおして当該時間に学んだ知識を確実にものにする。	30 分 60 分
第 15 回	Lektion3 読み物	事前 教科書の該当箇所を一読する。 事後 当該時間に学んだ知識を確実にものにする。単語を覚え語彙を増やす。	30 分 60 分
第 16 回	Lektion3 追加練習問題	事前 問題を予習する。 事後 問題のチェックをとおして不足している知識を補う。	30 分 60 分
第 17 回	Lektion4 不規則動詞の現在人称変化	事前 教科書の該当箇所の説明を一読する。 事後 練習問題のチェックをとおして当該時間に学んだ知識を確実にものにする。	30 分 60 分
第 18 回	Lektion4 命令文	事前 教科書の該当箇所の説明を一読する。 事後 練習問題のチェックをとおして当該時間に学んだ知識を確実にものにする。	30 分 60 分
第 19 回	Lektion4 読み物	事前 教科書の該当箇所を一読する。 事後 当該時間に学んだ知識を確実にものにする。単語を覚え語彙を増やす。	30 分 60 分
第 20 回	Lektion4 追加練習問	事前 問題を予習する。 事後 問題のチェックをとおして不足している知識を補う。	30 分 60 分
第 21 回	Lektion5 人称代名詞(2) 2 格支配の前置詞 3 格支配の前置詞 4 格支配の前置詞	事前 教科書の該当箇所の説明を一読する。 事後 練習問題のチェックをとおして当該時間に学んだ知識を確実にものにする。	30 分 60 分
第 22 回	Lektion5 3・4 格支配の前置詞 並列接続詞	事前 教科書の該当箇所の説明を一読する。 事後 練習問題のチェックをとおして当該時間に学んだ知識を確実にものにする。	30 分 60 分
第 23 回	Lektion5 読み物	事前 教科書の該当箇所を一読する。 事後 当該時間に学んだ知識を確実にものにする。単語を覚え語彙を増やす。	30 分 60 分
第 24 回	Lektion5 追加練習問題	事前 問題を予習する。 事後 問題のチェックをとおして不足している知識を補う。	30 分 60 分
第 25 回	Lektion6 話法の助動詞	事前 教科書の該当箇所の説明を一読する。 事後 練習問題のチェックをとおして当該時間に学んだ知識を確実にものにする。	30 分 60 分
第 26 回	Lektion6 未来の助動詞	事前 教科書の該当箇所の説明を一読する。 事後 練習問題のチェックをとおして当該時間に学んだ知識を確実にものにする。	30 分 60 分
第 27 回	Lektion6 zu 不定詞	事前 教科書の該当箇所の説明を一読する。 事後 練習問題のチェックをとおして当該時間に学んだ知識を確実にものにする。	30 分 60 分
第 28 回	Lektion6 読み物	事前 教科書の該当箇所を一読する。 事後 当該時間に学んだ知識を確実にものにする。単語を覚え語彙を増やす。	30 分 60 分
第 29 回	Lektion6 追加練習問題	事前 問題を予習する。 事後 問題のチェックをとおして不足している知識を補う。	30 分 60 分
第 30 回	既習事項の復習	事前 総合的な力を形成すべく、不十分であった知識を補い、さらに確実にものにする。 事後	30 分 60 分

フィードバック 授業での課題や小テスト等についての解説などにより学習成果をフィードバックする。

成績評価 評価の基準となるのは主にゼミester末試験であるが、小テストの結果、提出物の提出状況、授業における平常点などを加味して総合的に評価する。試験 70%、提出物 5%、授業における平常点 25%

テキスト 神竹 道士他 著『プレーミエ ドイツ語総合読本』(白水社)

オフィスアワー 簡単な質問・相談等は授業終了後に、相当な時間を要する質問・相談等は個々に時間を打ち合わせた上で実施する。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

ドイツ語 I -2a・b

非常勤講師 岩下久美子

科目コード：FOR102

対象コース／専門／学年：全コース／全専門／1～4 年次

形態：講義

単位数：2 単位

概要 音楽を学ぶ上で必ず出あうドイツ・オーストリアなどのドイツ語圏文化の一端に触れながら、ドイツ語の使い方の基本ルールを学ぶ。この授業は演習の性格を有し、履修者は基本毎回、発言の機会をもつ。

到達目標 読む・書く・聞く・話すという実践力を伸ばす土台となる確かな文法的知識を習得することを目標とする。

授業計画 基本的な授業計画は下記の通りであるが、学習状況に応じて前後することがある。事前・事後の学習時間は個人によって異なる（基準：各回 90 分）。

回数	授業内容	事前	事後	時間
第 1 回	Lektion7 形容詞の用法・格変化 形容詞の名詞化 序数	教科書の該当箇所の説明を一読する。	練習問題のチェックをとおして当該時間に学んだ知識を確実にものにする。	30 分 60 分
第 2 回	Lektion7 読み物	教科書の該当箇所を一読する。	当該時間に学んだ知識を確実にものにする。単語を覚え語彙を増やす。	30 分 60 分
第 3 回	Lektion7 追加練習問題	問題を予習する。	問題のチェックをとおして不足している知識を補う。	30 分 60 分
第 4 回	Lektion8 形容詞・副詞の比較変化 比較表現 es の用法	教科書の該当事項の説明を一読する。	練習問題のチェックをとおして当該時間に学んだ知識を確実にものにする。	30 分 60 分
第 5 回	Lektion8 読み物	教科書の該当箇所を一読する。	当該時間に学んだ知識を確実にものにする。単語を覚え語彙を増やす。	30 分 60 分
第 6 回	Lektion8 追加練習問題	問題を予習する。	問題のチェックをとおして不足している知識を補う。	30 分 60 分
第 7 回	Lektion9 分離動詞と非分離動詞	教科書の該当箇所の説明を一読する。	練習問題のチェックをとおして当該時間に学んだ知識を確実にものにする。	30 分 60 分
第 8 回	Lektion9 動詞の 3 基本形 過去形	教科書の該当箇所の説明を一読する。	練習問題のチェックをとおして当該時間に学んだ知識を確実にものにする。	30 分 60 分
第 9 回	Lektion9 読み物	教科書の該当箇所を一読する。	当該時間に学んだ知識を確実にものにする。単語を覚え語彙を増やす。	30 分 60 分
第 10 回	Lektion9 追加練習問題	問題を予習する。	問題のチェックをとおして不足している知識を補う。	30 分 60 分
第 11 回	Lektion10 現在完了形	教科書の該当箇所の説明を一読する。	練習問題のチェックをとおして当該時間に学んだ知識を確実にものにする。	30 分 60 分
第 12 回	Lektion10 従属接続詞 相関接続詞	教科書の該当箇所の説明を一読する。	練習問題のチェックをとおして当該時間に学んだ知識を確実にものにする。	30 分 60 分
第 13 回	Lektion10 読み物	教科書の該当箇所を一読する。	当該時間に学んだ知識を確実にものにする。単語を覚え語彙を増やす。	30 分 60 分
第 14 回	Lektion10 追加練習問題	問題を予習する。	問題のチェックをとおして不足している知識を補う。	30 分 60 分
第 15 回	Lektion11 再帰代名詞 再帰動詞 分詞	教科書の該当箇所の説明を一読する。	練習問題のチェックをとおして当該時間に学んだ知識を確実にものにする。	30 分 60 分
第 16 回	Lektion11 読み物	教科書の該当箇所を一読する。	当該時間に学んだ知識を確実にものにする。単語を覚え語彙を増やす。	30 分 60 分
第 17 回	Lektion11 追加練習問題	問題を予習する。	問題のチェックをとおして不足している知識を補う。	30 分 60 分
第 18 回	Lektion12 定関係代名詞	教科書の該当箇所の説明を一読する。	練習問題のチェックをとおして当該時間に学んだ知識を確実にものにする。	30 分 60 分
第 19 回	Lektion12 指示代名詞 不定関係代名詞	教科書の該当箇所の説明を一読する。	練習問題のチェックをとおして当該時間に学んだ知識を確実にものにする。	30 分 60 分
第 20 回	Lektion12 読み物	教科書の該当箇所を一読する。	当該時間に学んだ知識を確実にものにする。単語を覚え語彙を増やす。	30 分 60 分
第 21 回	Lektion12 追加練習問題	問題を予習する。	問題のチェックをとおして不足している知識を補う。	30 分 60 分
第 22 回	Lektion13 動作受動文 受動文の時制	教科書の該当箇所の説明を一読する。	練習問題のチェックをとおして当該時間に学んだ知識を確実にものにする。	30 分 60 分
第 23 回	Lektion13 自動詞の受動文 状態受動 その他の受動表現	教科書の該当箇所の説明を一読する。	練習問題のチェックをとおして当該時間に学んだ知識を確実にものにする。	30 分 60 分
第 24 回	Lektion13 読み物	教科書の該当箇所を一読する。	当該時間に学んだ知識を確実にものにする。単語を覚え語彙を増やす。	30 分 60 分
第 25 回	Lektion13 追加練習問題	問題を予習する。	問題のチェックをとおして不足している知識を補う。	30 分 60 分
第 26 回	Lektion14 接続法 I 式とその用法	教科書の該当箇所の説明を一読する。	練習問題のチェックをとおして当該時間に学んだ知識を確実にものにする。	30 分 60 分
第 27 回	Lektion14 接続法 II 式とその用法	教科書の該当箇所の説明を一読する。	練習問題のチェックをとおして当該時間に学んだ知識を確実にものにする。	30 分 60 分
第 28 回	Lektion14 読み物	教科書の該当箇所を一読する。	当該時間に学んだ知識を確実にものにする。単語を覚え語彙を増やす。	30 分 60 分
第 29 回	Lektion14 追加練習問題	問題を予習する。	問題のチェックをとおして不足している知識を補う。	30 分 60 分
第 30 回	既習事項の復習	事前	事後 総合的な力を形成すべく、不十分であった知識を補い、さらに確実にものにする。	30 分 60 分

フィードバック 授業での課題や小テスト等についての解説などにより学習成果をフィードバックする。

成績評価 評価の基準となるのは主にゼミester末試験であるが、小テストの結果、提出物の提出状況、授業における平常点などを加味して総合的に評価する。試験 70%、提出物 5%、授業における平常点 25%

テキスト 神竹 道士他 著『プレーミエ ドイツ語総合読本』（白水社）

オフィスアワー 簡単な質問・相談等は授業終了後に、相当な時間を要する質問・相談等は個々に時間を打ち合わせた上で実施する。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

フランス語 I-1

非常勤講師 内藤俊人

科目コード：FOR103

対象コース/専門/学年：全コース/全専門/1~4年次

形態：講義

単位数：2単位

概要 この授業では、フランス語を初めて学ぶ者を対象に、フランス語の基礎全般を学習する。初心者がつまづきやすい項目には十分に時間をかけ、実践的なトレーニングを通じてフランス語の基礎をしっかりと身につける。フランス語を学ぶと同時に、フランスの文化や他のフランス語圏のさまざまな文化についての知識も深めていきたいと考えている。

到達目標 フランス語の初級文法と会話表現とを同時に学習できる教材を用い、発音する・聞き取る・読む・書くなど、フランス語のトータルな能力の習得をめざす。

授業計画

第1回	Leçon d'initiation：はじめに Alphabet とフランス語の音	事前 教科書 P6, 1~3 の音声聞く。 事後 P.7, 4~6 の答えを書く。	40分 50分
第2回	発音：母音と鼻母音について	事前 P.10 の音声聞く。 事後 あいさつと自己紹介の表現を練習する。	40分 50分
第3回	発音：子音について	事前 P.11, 6 および 7 の音声聞く。 事後 Alphabet とつりの発音を練習する。	40分 50分
第4回	Leçon 1：職業・国籍を言う 主語人称代名詞	事前 P.14, 1 および 2 の発音を練習する。 事後 P.15, 1 および 2 の答えを書く。	40分 50分
第5回	動詞 être 「～である」	事前 P.15, CD7 および CD8 の発音を練習する。 事後 P.15, 3 および 4 の答えを書く。	40分 50分
第6回	形容詞と名詞の性数変化	事前 P.15, Vocabulaire flashcards の発音を練習する。 事後 P.14 の文法事項を復習する。	40分 50分
第7回	否定形	事前 P.16, Dialogue の発音を練習する。 事後 P.17, À vous! の問題を解く。	40分 50分
第8回	Leçon 2：住んでいるところを言う 規則動詞の活用：-er 動詞	事前 P.18, 1 および 2 の発音を練習する。 事後 P.19, Vocabulaire flashcards の動詞を活用させる。	40分 50分
第9回	前置詞と国名	事前 P.19, Vocabulaire flashcards の国名を発音して覚える。 事後 P.19, 1 および 2 の答えを書く。	40分 50分
第10回	疑問形	事前 P.19, 4 の答えを書く。 事後 P.20, Dialogue の発音を練習し訳を書く。	40分 50分
第11回	数詞	事前 P.18, 1~19 の数詞の発音を練習する。 事後 P.21, À vous! の問題を解く。	40分 50分
第12回	Leçon 3：年齢を言う、家族について話す 動詞 avoir	事前 P.22, 1 および 2 の発音を練習する。 事後 P.23, 1 の答えを書く。	40分 50分
第13回	名詞の性と数、不定冠詞	事前 P.23, 2 の答えを書く。 事後 配布するプリントの問題を解く。	40分 50分
第14回	所有形容詞、疑問形容詞	事前 P.25, Vocabulaire poster の単語を発音して覚える。 事後 P.25, À vous! の問題を解く。	40分 50分
第15回	Leçon 4：自分の好みを言う 定冠詞	事前 P.26, 1 および 2 の発音を練習する。 事後 P.27, 1 および 2 の答えを書く。	40分 50分
第16回	動詞 aimer, adorer, détester, préférer	事前 P.27, 4 の答えを書く。 事後 P.27, Vocabulaire flashcards の単語を用いて自分の好みを言う。	40分 50分
第17回	形容詞の用法	事前 P.28, Dialogue の発音を練習し内容を理解する。 事後 P.29, À vous! の問題を解く。	40分 50分
第18回	Leçon 5：物について尋ねる・説明する 指示代名詞 ce, il y a 「～がある」	事前 P.34, 1 および 2 の発音を練習する。 事後 P.35, 1 の答えを書く。	40分 50分
第19回	前置詞 de の縮約	事前 P.35, 3 および 4 の答えを書く。 事後 配布するプリントの問題を解く。	40分 50分
第20回	定冠詞と不定冠詞の使い分け	事前 P.35, Vocabulaire flashcards の単語に冠詞をつけて発音する。 事後 P.37, À vous! の問題を解く。	40分 50分
第21回	Leçon 6：容姿や服装を尋ねる・説明する 指示形容詞	事前 P.38, 1 および 2 の発音を練習する。 事後 P.39, Vocabulaire flashcards の単語に指示形容詞をつけて発音する。	40分 50分
第22回	人称代名詞の強勢形	事前 P.39, 1 および 3 の答えを書く。 事後 P.40, Dialogue を読み訳を書く。	40分 50分
第23回	関係代名詞	事前 P.39, 4 の答えを書く。 事後 P.41, À vous! の問題を解く。	40分 50分
第24回	Leçon 7：場所や交通手段を尋ねる・説明する 動詞 aller, venir, prendre	事前 P.42, 1 および 2 の発音を練習する。 事後 P.43, 1 および 2 の答えを書く。	40分 50分
第25回	前置詞 à の縮約	事前 P.43, Vocabulaire flashcards の単語に前置詞 à をつけて発音する。 事後 配布するプリントの練習問題を解く。	40分 50分
第26回	中性代名詞 y	事前 P.44, Dialogue を読み内容を理解する。 事後 P.45, À vous! の問題を解き和訳する。	40分 50分
第27回	Leçon 8：天候について話す、時刻を言う 天候の表現	事前 P.46, 1 および 2 の発音を練習する。 事後 P.47, Vocabulaire flashcards の表現を練習する。	40分 50分
第28回	時刻の表現	事前 P.46, 時刻の表現を発音する。 事後 P.47, 1~4 の答えを書く。	40分 50分
第29回	曜日、月、季節	事前 P.47, 5 の答えを書く。 事後 P.49, À vous! の問題を解く。	40分 50分
第30回	前期のまとめと試験	事前 Leçon 1 から Leçon 8 までの復習を行う。 事後 理解が不十分だった部分について調べる。	40分 50分

フィードバック 答案および授業時に提出する課題を添削して返却する。

成績評価 成績の評価は、期末試験 40%、小テスト 30%、平常点 30%による。

テキスト Emmanuel Antier, Junko Mikami, Michel Sagaz. 'FLASH! Méthode de français' (駿河台出版社)

オフィスアワー 授業後教室にて。

備考 初回の授業で仏和辞典についての説明をする。また、教科書以外に日常会話の表現を整理して学習するために、適宜プリントを配布する。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

フランス語 I-2

非常勤講師 内藤俊人

科目コード：FOR104

対象コース/専門/学年：全コース/全専門/1~4年次

形態：講義 単位数：2単位

概要 この授業では、フランス語を初めて学ぶ者を対象に、フランス語の基礎全般を学習する。初心者がつまづきやすい項目には十分に時間をかけ、実践的なトレーニングを通じてフランス語の基礎をしっかりと身につける。フランス語を学ぶと同時に、フランスの文化や他のフランス語圏のさまざまな文化についての知識も深めていきたいと考えている。

到達目標 フランス語の初級文法と会話表現とを同時に学習できる教材を用い、発音する・聞き取る・読む・書くなど、フランス語のトータルな能力の習得をめざす。

回	内容	事前	事後	単位数
第1回	フランス語 I で学んだ知識の復習	P.32, 「第1部のまとめ」の答えを書く。	P.52, 「第2部のまとめ」の答えを書く。	40分 50分
第2回	Leçon 9：食について話す、値段を尋ねる 動詞 manger, boire 部分冠詞	P.54, 1 および 2 の発音を練習する。	manger と boire の活用を練習する。	40分 50分
第3回	中性代名詞 en	P.55, 1 の答えを書く。	P.55, Vocabulaire flashcards の単語に部分冠詞をつける。	40分 50分
第4回	Leçon 10：習慣について話す、日常の活動について話す 代名動詞の活用 動詞 être 「〜である」 代名動詞の用法	P.55, 2 および 4 の答えを書く。	P.57, À vous! の問題を解く。	40分 50分
第5回	不規則動詞 faire, écrire, dormir, lire	P.58, 1 および 2 の発音を練習する。	P.59, 1 および 3 の答えを書く。	40分 50分
第6回	Leçon 11：過去のことを話す（1） 近接過去 直接法複合過去（avoir + 過去分詞）	P.59, Vocabulaire flashcards の代名動詞を活用させる。	配布するプリントの問題を解く。	40分 50分
第7回	Leçon 11：過去のことを話す（2） 直接法複合過去（être + 過去分詞） 直接法複合過去（代名動詞の場合）	P.60, Dialogue を読み内容を理解する。	P.61, À vous! の問題を解く。	40分 50分
第8回	Leçon 12：過去の習慣について話す 直接法半過去	P.62, 1 および 2 の発音を練習する。	配布するプリントの問題を解く。	40分 50分
第9回	過去の時を表す表現	P.63, 1 および 2 の答えを書く。	配布するプリントの問題を解く。	40分 50分
第10回	Leçon 12：過去のことを話す（2） 直接法複合過去（être + 過去分詞） 直接法複合過去（代名動詞の場合）	P.64, Dialogue を読み内容を理解する。	配布するプリントの問題を解く。	40分 50分
第11回	Leçon 13：過去の習慣について話す 直接目的語となる人称代名詞	P.66, 1 および 2 の発音を練習する。	配布するプリントの問題を解く。	40分 50分
第12回	Leçon 13：過去の習慣について話す 直接目的語となる人称代名詞	P.67, 1 および 2 の答えを書く。	P.69, À vous! の問題を解く。	40分 50分
第13回	間接目的語となる人称代名詞	P.70, 1 および 2 の発音を練習する。	P.71, 1 および 2 の答えを書く。	40分 50分
第14回	Leçon 14：人を誘う、できること、しなければならないことを言う 不規則動詞 pouvoir, devoir, vouloir 命立法	P.71, 3 および 4 の答えを書く。	配布するプリントの問題を解く。	40分 50分
第15回	前置詞 pour の用法	P.72, Dialogue を読み内容を理解する。	配布するプリントの問題を解く。	40分 50分
第16回	Leçon 9 から Leçon 13 までのまとめ	P.74, Civilisation の答えを書く。	P.76, 「第3部のまとめ」の問題を解く。	40分 50分
第17回	Leçon 14：人を誘う、できること、しなければならないことを言う 不規則動詞 pouvoir, devoir, vouloir 命立法	P.78, 1 および 2 の発音を練習する。	pouvoir, devoir, vouloir の活用を練習する。	40分 50分
第18回	前置詞 pour の用法	P.79, 1 および 2 の答えを書く。	P.79, 5 および 6 の答えを書く。	40分 50分
第19回	Leçon 15：未来の出来事について話す、仮定を述べる（1） 近接未来 直接法単純未来	P.79, 3 の答えを書く。	P.81, À vous! の問題を解く。	40分 50分
第20回	条件・仮定の表現（1）	P.82, 1 および 2 の発音を練習する。	P.83, 6 の答えを書く。	40分 50分
第21回	Leçon 16：願望を述べる、仮定を述べる（2） 条件法現在 条件・仮定の表現（2）	P.83, 1 および 2 の答えを書く。	P.83, 3 および 4 の答えを書く。	40分 50分
第22回	条件・仮定の表現（1）	P.83, 5 の答えを書く。	P.85, À vous! の問題を解く。	40分 50分
第23回	Leçon 16：願望を述べる、仮定を述べる（2） 条件法現在 条件・仮定の表現（2）	P.86, 1~3 の発音を練習する。	P.87, 1 の答えを書く。	40分 50分
第24回	形容詞・副詞の比較級	P.87, 3 の答えを書く。	P.87, 5 および 6 の答えを書く。	40分 50分
第25回	形容詞・副詞の最上級	P.87, 4 の答えを書く。	配布するプリントの練習問題を解く。	40分 50分
第26回	Leçon 17：感情を表現する 接続法現在 接続法過去	P.88, Dialogue を読み内容を理解する。	P.89, À vous! の問題を解く。	40分 50分
第27回	現在分詞とジェロンディフと	P.92, Projets の問題を解く。	配布するプリントの練習問題を解く。	40分 50分
第28回	後期のまとめと試験	配布するプリントの解説を読む。	配布するプリントの練習問題を解く。	40分 50分
第29回	後期のまとめと試験	配布するプリントの解説を読む。	配布するプリントの練習問題を解く。	40分 50分
第30回	後期のまとめと試験	Leçon 9 から Leçon 17 までの復習を行う。	理解が不十分だった部分について調べる。	40分 50分

フィードバック 答案および授業時に提出する課題を添削して返却する。

成績評価 成績の評価は、期末試験 40%、小テスト 30%、平常点 30%による。

テキスト Emmanuel Antier, Junko Mikami, Michel Sagaz. 'FLASH! Méthode de français' (駿河台出版社)

オフィスアワー 授業後教室にて。

備考 日常会話の表現を整理して学習するために、適宜プリントを配布する。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

イタリア語 I-1

非常勤講師 吉澤早苗

科目コード：FOR105

対象コース／専門／学年：全コース／全専門／1～4 年次

形態：講義 単位数：2 単位

概要 イタリア語のもっとも基本的なしくみを学ぶ。イタリア語に初めて触れる学生が対象。
アルファベートと発音の練習からはじめ、初級文法の学習を中心としながら、挨拶や日常のコミュニケーションに必要な語彙や表現を身につけてゆく。語学を通じ、イタリアの社会や文化についても関心を広げたい。

到達目標 イタリア語のアルファベートと発音、名詞・冠詞・形容詞・動詞の用法を理解し、簡単な単語を使って基本的な挨拶や自己紹介ができるようになることが目標である。

授業計画 原則的に教科書にしたがって授業を進める。別途、教科書に即した単語集を配布予定。
履修生のレベルや授業の進み具合により、計画を変更する場合もある。

回数	内容	事前	事後	時間
第 1 回	オリエンテーション (授業概要、成績評価に関する説明ほか)	教科書に目を通す	教科書音声教材の準備 (ダウンロード)、聴	30 分 60 分
第 2 回	Lezione 0：挨拶とアルファベート (解説)	Lezione 0 の解説を読み、単語の意味と発音を確認	授業で解説された箇所のヒアリング練習、音読練習、ライティング練習	30 分 60 分
第 3 回	Lezione 0：挨拶とアルファベート (演習)	Lezione 0 の練習問題について単語の意味と発音を確認	授業で演習した箇所のヒアリング練習、音読練習、ライティング練習	30 分 60 分
第 4 回	Lezione 1：名詞と冠詞 (解説)	Lezione 1 の解説を読み、単語の意味と発音を確認	授業で解説された箇所の音読練習、ライティング練習	30 分 60 分
第 5 回	Lezione 1：名詞と冠詞 (演習)	Lezione 1 の練習問題、会話文について単語の意味と発音を確認	授業で演習した箇所のヒアリング練習、音読練習、ライティング練習	30 分 60 分
第 6 回	Lezione 2：動詞 essere (解説)	Lezione 2 の解説を読み、単語の意味と発音を確認	授業で解説された箇所の音読練習、ライティング練習	30 分 60 分
第 7 回	Lezione 2：動詞 essere (演習)	Lezione 2 の練習問題、会話文について単語の意味と発音を確認	授業で演習した箇所のヒアリング練習、音読練習、ライティング練習	30 分 60 分
第 8 回	Lezione 3：形容詞 (解説)	Lezione 3 の解説を読み、単語の意味と発音を確認	授業で解説された箇所の音読練習、ライティング練習	30 分 60 分
第 9 回	Lezione 3：形容詞 (演習)	Lezione 3 の練習問題、会話文について単語の意味と発音を確認	授業で演習した箇所のヒアリング練習、音読練習、ライティング練習	30 分 60 分
第 10 回	Lezione 4：動詞 avere (解説)	Lezione 4 の解説を読み、単語の意味と発音を確認	授業で解説された箇所の音読練習、ライティング練習	30 分 60 分
第 11 回	Lezione 4：動詞 avere (演習)	Lezione 4 の練習問題、会話文について単語の意味と発音を確認	授業で演習した箇所のヒアリング練習、音読練習、ライティング練習	30 分 60 分
第 12 回	Lezione 5：[-are] 動詞 - 規則活用 (解説)	Lezione 5 の解説を読み、単語の意味と発音を確認	授業で解説された箇所の音読練習、ライティング練習	30 分 60 分
第 13 回	Lezione 5：[-are] 動詞 - 規則活用 (演習)	Lezione 5 の練習問題、会話文について単語の意味と発音を確認	授業で演習した箇所のヒアリング練習、音読練習、ライティング練習	30 分 60 分
第 14 回	Lezione 6：[-are] 動詞 - 不規則活用 (解説)	Lezione 6 の解説を読み、単語の意味と発音を確認	授業で解説された箇所の音読練習、ライティング練習	30 分 60 分
第 15 回	Lezione 6：[-are] 動詞 - 不規則活用 (演習)	Lezione 6 の練習問題、会話文について単語の意味と発音を確認	授業で演習した箇所のヒアリング練習、音読練習、ライティング練習	30 分 60 分
第 16 回	Lezione 7：[-ere] 動詞 - 規則活用 (解説)	Lezione 7 の解説を読み、単語の意味と発音を確認	授業で解説された箇所の音読練習、ライティング練習	30 分 60 分
第 17 回	Lezione 7：[-ere] 動詞 - 規則活用 (演習)	Lezione 7 の練習問題、会話文について単語の意味と発音を確認	授業で演習した箇所のヒアリング練習、音読練習、ライティング練習	30 分 60 分
第 18 回	Lezione 8：[-ere] 動詞 - 不規則活用 (解説)	Lezione 8 の解説を読み、単語の意味と発音を確認	授業で解説された箇所の音読練習、ライティング練習	30 分 60 分
第 19 回	Lezione 8：[-ere] 動詞 - 不規則活用 (演習)	Lezione 8 の練習問題、会話文について単語の意味と発音を確認	授業で演習した箇所のヒアリング練習、音読練習、ライティング練習	30 分 60 分
第 20 回	Lezione 9：[-ire] 動詞 - 規則活用 (解説)	Lezione 9 の解説を読み、単語の意味と発音を確認	授業で解説された箇所の音読練習、ライティング練習	30 分 60 分
第 21 回	Lezione 9：[-ire] 動詞 - 規則活用 (演習)	Lezione 9 の練習問題、会話文について単語の意味と発音を確認	授業で演習した箇所のヒアリング練習、音読練習、ライティング練習	30 分 60 分
第 22 回	Lezione 10：[-ire] 動詞 - 不規則活用 (解説)	Lezione 10 の解説を読み、単語の意味と発音を確認	授業で解説された箇所の音読練習、ライティング練習	30 分 60 分
第 23 回	Lezione 10：[-ire] 動詞 - 不規則活用 (演習)	Lezione 10 の練習問題、会話文について単語の意味と発音を確認	授業で演習した箇所のヒアリング練習、音読練習、ライティング練習	30 分 60 分
第 24 回	Lezione 11：名詞と冠詞と形容詞の複数形 (解説)	Lezione 11 の解説を読み、単語の意味と発音を確認	授業で解説された箇所の音読練習、ライティング練習	30 分 60 分
第 25 回	Lezione 11：名詞と冠詞と形容詞の複数形 (演習)	Lezione 11 の練習問題、会話文について単語の意味と発音を確認	授業で演習した箇所のヒアリング練習、音読練習、ライティング練習	30 分 60 分
第 26 回	発展 11：20 以上の数	発展 11 の解説を読み、単語の意味と発音を確認	授業で解説された箇所の音読練習、ライティング練習	30 分 60 分
第 27 回	Lezione 12：時刻 (解説)	Lezione 12 の解説を読み、単語の意味と発音を確認	授業で解説された箇所の音読練習、ライティング練習	30 分 60 分
第 28 回	Lezione 12：時刻 (演習)	Lezione 12 の練習問題、会話文について単語の意味と発音を確認	授業で演習した箇所のヒアリング練習、音読練習、ライティング練習	30 分 60 分
第 29 回	発展 12：月・曜日・四季	発展 12 の解説を読み、単語の意味と発音を確認	授業で解説された箇所の音読練習、ライティング練習	30 分 60 分
第 30 回	Lezione 0-12、発展 11-12 のまとめ	Lezione 0-12、発展 11-12 の解説、練習問題、会話文の復習	事後 期末試験準備	30 分 60 分

フィードバック 授業中に行う小テストや期末試験については、試験後の解説などにより成果をフィードバックする。

成績評価 小テストや期末試験により、初級文法に関する理解度とその応用力をはかる。
成績評価配分 (目安)：授業への積極的な取り組みと小テスト 20%、期末試験 80%

テキスト マッテオ・カスターニャ、吉富文著 『イタリアーノ・イタリアーノ ― イタリア語はじめての一步 ―』 (朝日出版社)

オフィスアワー 授業の前夜

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力													意欲・経験・多様性			
知識・技能・理解			知識・技能の活用													
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発働力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	

イタリア語 I-2

非常勤講師 吉澤早苗

科目コード：FOR106

対象コース／専門／学年：全コース／全専門／1～4 年次

形態：講義

単位数：2 単位

概要 イタリア語のもっとも基本的なしくみを学ぶ。イタリア語 I-1 からの継続講義。動詞の用法を中心に初級文法の学習を進めながら、挨拶や日常のコミュニケーションに必要な語彙や表現を身につけてゆく。語学を通じ、イタリアの社会や文化についても関心を広げたい。

到達目標 過去や未来の時制を中心とする動詞の用法、また人称代名詞や形容詞についての理解を深めて語彙も増やし、日常のコミュニケーションに必要な表現の基本を身につけることが目標である。

授業計画 原則的に教科書にしたがって授業を進める。別途、教科書に即した単語集を配布予定。履修生のレベルや授業の進み具合により、計画を変更する場合もある。

第 1 回	Lezione 0- 5 の復習	事前 Lezione 0-5 の解説の復習 事後 Lezione 0-5 の練習問題と会話文の復習	30 分 60 分
第 2 回	Lezione 6-11 の復習	事前 Lezione 6-11 の解説の復習 事後 Lezione 6-11 の練習問題と会話文の復習	30 分 60 分
第 3 回	Lezione 13：補助動詞（解説）	事前 Lezione 13 の解説を読み、単語の意味と発音を確認 事後 授業で解説された箇所の音読練習、ライティング練習	30 分 60 分
第 4 回	Lezione 13：補助動詞（演習）	事前 Lezione 13 の練習問題、会話文について単語の意味と発音を確認 事後 授業で演習した箇所のヒアリング練習、音読練習、ライティング練習	30 分 60 分
第 5 回	Lezione 14：再帰動詞（解説）	事前 Lezione 14 の解説を読み、単語の意味と発音を確認 事後 授業で解説された箇所の音読練習、ライティング練習	30 分 60 分
第 6 回	Lezione 14：再帰動詞（演習）	事前 Lezione14 の練習問題、会話文について単語の意味と発音を確認 事後 授業で演習した箇所のヒアリング練習、音読練習、ライティング練習	30 分 60 分
第 7 回	Lezione 15：再帰動詞と代名動詞（解説）	事前 Lezione 15 の解説を読み、単語の意味と発音を確認 事後 授業で解説された箇所の音読練習、ライティング練習	30 分 60 分
第 8 回	Lezione 15：再帰動詞と代名動詞（演習）	事前 Lezione 15 の練習問題、会話文について単語の意味と発音を確認 事後 授業で演習した箇所のヒアリング練習、音読練習、ライティング練習	30 分 60 分
第 9 回	Lezione 16：近過去 - avere とともに使うとき（解説）	事前 Lezione16 の解説を読み、単語の意味と発音を確認 事後 授業で解説された箇所の音読練習、ライティング練習	30 分 60 分
第 10 回	Lezione 16：近過去 - avere とともに使うとき（演習）	事前 Lezione16 の練習問題、会話文について単語の意味と発音を確認 事後 授業で演習した箇所のヒアリング練習、音読練習、ライティング練習	30 分 60 分
第 11 回	Lezione 17：近過去 - essere とともに使うとき（解説）	事前 Lezione17 の解説を読み、単語の意味と発音を確認 事後 授業で解説された箇所の音読練習、ライティング練習	30 分 60 分
第 12 回	Lezione 17：近過去 - essere とともに使うとき（演習）	事前 Lezione17 の練習問題、会話文について単語の意味と発音を確認 事後 授業で演習した箇所のヒアリング練習、音読練習、ライティング練習	30 分 60 分
第 13 回	Lezione 19：半過去（解説）	事前 Lezione 19 の解説を読み、単語の意味と発音を確認 事後 授業で解説された箇所の音読練習、ライティング練習	30 分 60 分
第 14 回	Lezione 19：半過去（演習）	事前 Lezione 19 の練習問題、会話文について単語の意味と発音を確認 事後 授業で演習した箇所のヒアリング練習、音読練習、ライティング練習	30 分 60 分
第 15 回	Lezione 20：時制（解説）	事前 Lezione20 の解説を読み、単語の意味と発音を確認 事後 授業で解説された箇所の音読練習、ライティング練習	30 分 60 分
第 16 回	Lezione 20：時制（演習）	事前 Lezione 20 の練習問題、会話文について単語の意味と発音を確認 事後 授業で演習した箇所のヒアリング練習、音読練習、ライティング練習	30 分 60 分
第 17 回	Lezione 21：所有形容詞（解説）	事前 Lezione 21 の解説を読み、単語の意味と発音を確認 事後 授業で解説された箇所の音読練習、ライティング練習	30 分 60 分
第 18 回	Lezione 21：所有形容詞（演習）	事前 Lezione21 の練習問題、会話文について単語の意味と発音を確認 事後 授業で演習した箇所のヒアリング練習、音読練習、ライティング練習	30 分 60 分
第 19 回	Lezione 22：直接補語人称代名詞（解説）	事前 Lezione 22 の解説を読み、単語の意味と発音を確認 事後 授業で解説された箇所の音読練習、ライティング練習	30 分 60 分
第 20 回	Lezione 22：直接補語人称代名詞（演習）	事前 Lezione22 の練習問題、会話文について単語の意味と発音を確認 事後 授業で演習した箇所のヒアリング練習、音読練習、ライティング練習	30 分 60 分
第 21 回	Lezione 23：間接補語人称代名詞（解説）	事前 Lezione 23 の解説を読み、単語の意味と発音を確認 事後 授業で解説された箇所の音読練習、ライティング練習	30 分 60 分
第 22 回	Lezione 23：間接補語人称代名詞（演習）	事前 Lezione23 の練習問題、会話文について単語の意味と発音を確認 事後 授業で演習した箇所のヒアリング練習、音読練習、ライティング練習	30 分 60 分
第 23 回	Lezione 24：命令法（解説）	事前 Lezione 24 の解説を読み、単語の意味と発音を確認 事後 授業で解説された箇所の音読練習、ライティング練習	30 分 60 分
第 24 回	Lezione 24：命令法（演習）	事前 Lezione 24 の練習問題、会話文について単語の意味と発音を確認 事後 授業で演習した箇所のヒアリング練習、音読練習、ライティング練習	30 分 60 分
第 25 回	Lezione 27：未来形（解説）	事前 Lezione27 の解説を読み、単語の意味と発音を確認 事後 授業で解説された箇所の音読練習、ライティング練習	30 分 60 分
第 26 回	Lezione 27：未来形（演習）	事前 Lezione 27 の練習問題、会話文について単語の意味と発音を確認 事後 授業で演習した箇所のヒアリング練習、音読練習、ライティング練習	30 分 60 分
第 27 回	発展 9：前置詞	事前 発展 9 の解説を読み、単語の意味と発音を確認 事後 授業で解説された箇所の音読練習、ライティング練習	60 分 30 分
第 28 回	発展 13：疑問詞のまとめ	事前 発展 13 の解説を読み、解説および練習問題の単語の意味と発音を確認 事後 授業で解説された箇所の音読練習、ライティング練習	30 分 60 分
第 29 回	イタリアの社会・文化（副教材を使用）	事前 Lezione 13-27、発展 9、13 の復習 事後 当日配布の教材について、単語の意味や発音、文法事項を確認	60 分 30 分
第 30 回	Lezione 13-27、発展 9、13 のまとめ	事前 Lezione 13-27、発展 9、13 の復習 事後 期末試験準備	30 分 60 分

フィードバック 授業中に行う小テストや期末試験については、試験後の解説などにより成果をフィードバックする。

成績評価 小テストや期末試験により、初級文法に関する理解度とその応用力をはかる。
成績評価配分（目安）：授業への積極的な取り組みと小テスト 20%、期末試験 80%

テキスト マッテオ・カスターニャ、吉富文著 『イタリアーノ・イタリアーノ ― イタリア語ははじめの一步 ―』（朝日出版社）

オフィスアワー 授業の前後

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解				知識・技能の活用						意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・目的意識	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

英語Ⅱ-1A

非常勤講師 高橋百合子

科目コード：ENG203

対象コース／専門／学年：全コース／全専門／2年次

形態：講義	単位数：2単位
概要	日常生活やアカデミックな場面で頻繁に使われる基本的な言語表現の習得を目指す。「英語Ⅰ」で学んだことをもとに、リーディング能力やリスニング能力の向上だけでなく、ペア・グループワークを多く取り入れてスピーキング能力の向上をはかる。

到達目標 自信を持って英語でコミュニケーションができる。国際的な広い視野を持つ。

授業計画			
【AL】			
第1回	Orientation 自己紹介	事前 教科書を手し、Unit 1を予習する。 事後 英語での自己紹介の仕方を練習する。	140分 140分
第2回	Unit 1 Identity A: Faces of the World B: Are you Typical?	事前 p. 12-13を読む。 事後 Unit 1 ABの内容の復習。	140分 140分
第3回	Unit 1 Video: The Global Village A Class Survey	事前 p. 16の枠内を読み、vocabularyを調べる。p. 18のactivityの内容を理解する。 事後 Unit 1 Video, A Class Surveyの復習。	140分 140分
第4回	Unit 2 Sports A: Do You Plan Any Sports? B: Amazing Races	事前 p.20-21を読む。 事後 Unit 2 ABの内容の復習。	140分 140分
第5回	Unit 2 Video: Mongolian Horse Race A Hot Ticket	事前 p. 24の Before You Watch を読む。P. 26 A Hot Ticket のアイデアを考える。 事後 Unit 2の内容の復習。	140分 140分
第6回	The Big Picture 1 Review 1 / Short Test	事前 p. 27を読む。 事後 Review 1復習。	140分 140分
第7回	Unit 3 The Night A: Nightlife B: Early Bird or Night Owl?	事前 p. 31, 33, 34を読む。 事後 Unit 3 ABの内容の復習。	140分 140分
第8回	Unit 3 Video: Sleepwalking Expansion Activity: The Night Shift	事前 P. 36-38を読む。 事後 Unit 3の内容の復習。	140分 140分
第9回	Unit 4 Fashion A: Global Fashion B: Smart Clothes	事前 P. 40-42を読む。 事後 Unit 4 ABの内容の復習。	140分 140分
第10回	Unit 4 Video: Brass Rings Expansion Activity: A Fashion Show Survey	事前 p. 44-46を読む。 事後 Unit 4の内容の復習。	140分 140分
第11回	The Big Picture 2 Review 2 / Short Test	事前 p. 47を読む。 事後 Review 2復習。	140分 140分
第12回	Unit 5 Homes A: Four Similar Apartments B: Living Small	事前 p. 52-55を読む。 事後 Unit 5 ABの内容の復習。	140分 140分
第13回	Unit 5 Video: Eco-Friendly Home Expansion Activity: Present a Green Home	事前 p. 56-58を読む。 事後 Unit 5の内容の復習。	140分 140分
第14回	Unit 1-5 ここまでの復習、まとめ、補足	事前 ここまでの全体で理解不足のところが無い見直す。 事後 Unit 1-5までを復習。	140分 140分
第15回	Unit 1-5 復習に基づいたまとめ、補足 理解度確認テスト	事前 Unit 1-5までのこれまでやったことの復習を行なう。 事後 理解不足だった部分の復習をする。	140分 140分

フィードバック 授業での課題について、添削やコメントで学修成果をフィードバックする。

成績評価 授業態度、小テスト、課題、学期末試験などに基づき総合的に行う。

テキスト Nancy Douglas, Andrew Boon: INSPIRE 1 (Cengage Learning)
その他、必要に応じてプリントなどを配布する。

オフィスアワー 授業開始前もしくは終了後に対応する。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	授業スキル	プレゼンテーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

英語Ⅱ-2A

非常勤講師 高橋百合子

科目コード：ENG204

対象コース/専門/学年：全コース/全専門/2年次

形態：講義

単位数：2単位

概要 日常生活やアカデミックな場面で頻繁に使われる基本的な言語表現の習得を目指す。「英語Ⅰ」で学んだことをもとに、リーディング能力やリスニング能力の向上だけでなく、ペア・グループワークを多く取り入れてスピーキング能力の向上をはかる。

到達目標 自信を持って英語でコミュニケーションができる。国際的な広い視野を持つ。

授業計画

【AL】

第1回	定期試験の解説 前期授業のまとめ、後期授業のガイダンス	事前 前期に学習した内容を確認する。(文法事項、vocabulary など) 事後 後期に学習する内容を予習する。	140分 140分
第2回	Unit 6 Buying & Selling A: Dubai Shopping Tour B: The Psychology of Selling	事前 p. 61-63を読む。 事後 Unit6 ABの内容の復習。	140分 140分
第3回	Unit 6 Video: The Fez Souk Expansion Activity: Sell a Product	事前 P. 64-66を読む。 事後 Unit 6の内容の復習。	140分 140分
第4回	The Big Picture 3 Review 3	事前 P. 66のアイデアを考える。 事後 Review 3を復習。	140分 140分
第5回	Unit 7 Weather A: How's the Weather? / B: Sunshine and Happiness	事前 P. 72-74を読む。 事後 Unit 7 ABの内容の復習。	140分 140分
第6回	Unit 7 Video: Deadly Heatwave Expansion Activity: I Love My City All Year	事前 P. 76-77を読む。p. 78のアイデアを考える。 事後 Unit 7の内容の復習。	140分 140分
第7回	Unit 8 Mysteries A: Scary Monsters B: The WoW! Signal	事前 p. 80-83を読む。 事後 Unit 8 ABの内容の復習。	140分 140分
第8回	Unit 8 Video: What Killed the Dinosaurs? Expansion Activity: What's your theory?	事前 p. 50-51を読んで理解する。P. 86のアイデアを考える。 事後 Unit 8の内容の復習。	140分 140分
第9回	The Big Picture 4 Review 4	事前 p. 87を読む。 事後 Review 4を復習。	140分 140分
第10回	Unit 9 Education A: The Power of Learning B: Photo Camp	事前 p. 92-95を読む。 事後 Unit 9 ABの内容の復習。	140分 140分
第11回	Unit 9 Video: Learning Across Generations Expansion Activity: Student Tutors	事前 P.98を読んでアイデアを考える。 事後 Unit 9の内容の復習。	140分 140分
第12回	Unit 10 Water A: Your Drinking Water B: Our Hidden Water Uses	事前 p. 99-103を読む。 事後 Unit 10 ABの内容の復習。	140分 140分
第13回	Unit 10 Video: Amazing Water Expansion Activity: Your Personal Water Use	事前 p. 104-106を読む。P. 106のアイデアを考える。 事後 Unit 10の内容の復習。	140分 140分
第14回	The Big Picture 5 Review 5 : Unit 6-10 ここまでの復習、まとめ、補足	事前 P. 107のアイデアを考える。 事後 Review 5を復習。	140分 140分
第15回	Unit 6-10 復習に基づいたまとめ、補足 理解度確認テスト	事前 Unit 6-10の復習を行なう。 事後 理解不足だった部分の復習をする。	140分 140分

フィードバック 授業での課題について、添削やコメントで学修成果をフィードバックする。

成績評価 授業態度、小テスト、課題、学期末試験などに基づき総合的に行う。

テキスト Nancy Douglas, Andrew Boon: INSPIRE 1 (Cengage Learning)
その他、必要に応じてプリントなどを配布する。

オフィスアワー 授業開始前もしくは終了後に対応する。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	リスニング力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

英語Ⅱ-1B

非常勤講師 山内あゆ子

科目コード：ENG203

対象コース／専門／学年：全コース／全専門／2年次

形態：講義	単位数：2単位
概要	日常生活やアカデミックな場面で頻繁に使われる基本的な言語表現の習得を目指す。「英語Ⅰ」で学んだことをもとに、リーディング能力やリスニング能力の向上だけでなく、ペア・グループワークを多く取り入れてスピーキング能力の向上をはかる。

到達目標 自信を持って英語でコミュニケーションができる。国際的な広い視野を持つ。

授業計画			
【AL】			
第1回	Orientation 自己紹介	事前 教科書を手差し、Unit 1を予習する。 事後 英語での自己紹介の仕方を練習する。	140分 140分
第2回	Unit 1 Identity A: Faces of the World B: Are you Typical?	事前 p. 12-13を読む。 事後 Unit 1 ABの内容の復習。	140分 140分
第3回	Unit 1 Video: The Global Village A Class Survey	事前 p. 16の枠内を読み、vocabularyを調べる。p. 18のactivityの内容を理解する。 事後 Unit 1 Video, A Class Surveyの復習。	140分 140分
第4回	Unit 2 Sports A: Do You Plan Any Sports? B: Amazing Races	事前 p.20-21を読む。 事後 Unit 2 ABの内容の復習。	140分 140分
第5回	Unit 2 Video: Mongolian Horse Race A Hot Ticket	事前 p. 24の Before You Watch を読む。P. 26 A Hot Ticket のアイデアを考える。 事後 Unit 2の内容の復習。	140分 140分
第6回	The Big Picture 1 Review 1 / Short Test	事前 p. 27を読む。 事後 Review 1復習。	140分 140分
第7回	Unit 3 The Night A: Nightlife B: Early Bird or Night Owl?	事前 p. 31, 33, 34を読む。 事後 Unit 3 ABの内容の復習。	140分 140分
第8回	Unit 3 Video: Sleepwalking Expansion Activity: The Night Shift	事前 P. 36-38を読む。 事後 Unit 3の内容の復習。	140分 140分
第9回	Unit 4 Fashion A: Global Fashion B: Smart Clothes	事前 P. 40-42を読む。 事後 Unit 4 ABの内容の復習。	140分 140分
第10回	Unit 4 Video: Brass Rings Expansion Activity: A Fashion Show Survey	事前 p. 44-46を読む。 事後 Unit 4の内容の復習。	140分 140分
第11回	The Big Picture 2 Review 2 / Short Test	事前 p. 47を読む。 事後 Review 2復習。	140分 140分
第12回	Unit 5 Homes A: Four Similar Apartments B: Living Small	事前 p. 52-55を読む。 事後 Unit 5 ABの内容の復習。	140分 140分
第13回	Unit 5 Video: Eco-Friendly Home Expansion Activity: Present a Green Home	事前 p. 56-58を読む。 事後 Unit 5の内容の復習。	140分 140分
第14回	Unit 1-5 ここまでの復習、まとめ、補足	事前 ここまでの全体で理解不足のところが無い見直す。 事後 Unit 1-5までを復習。	140分 140分
第15回	Unit 1-5 復習に基づいたまとめ、補足 理解度確認テスト	事前 Unit 1-5までのこれまでやったことの復習を行なう。 事後 理解不足だった部分の復習をする	140分 140分

フィードバック 授業での課題について、添削やコメントで学修成果をフィードバックする。

成績評価 授業態度、小テスト、課題、学期末試験などに基づき総合的に行う。

テキスト Nancy Douglas, Andrew Boon: INSPIRE 1 (Cengage Learning)
その他、必要に応じてプリントなどを配布する。

オフィスアワー 授業開始前もしくは終了後、あるいはアポイントメントによって対応する。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	授業スキル	プレゼンテーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

英語Ⅱ-2B

非常勤講師 山内あゆ子

科目コード：ENG204

対象コース/専門/学年：全コース/全専門/2年次

形態：講義	単位数：2単位
概要	日常生活やアカデミックな場面で頻繁に使われる基本的な言語表現の習得を目指す。「英語Ⅰ」で学んだことをもとに、リーディング能力やリスニング能力の向上だけでなく、ペア・グループワークを多く取り入れてスピーキング能力の向上をはかる。
到達目標	自信を持って英語でコミュニケーションができる。国際的な広い視野を持つ。

授業計画			
【AL】			
第1回	定期試験の解説 前期授業のまとめ、後期授業のガイダンス	事前 前期に学習した内容を確認する。(文法事項、vocabulary など) 事後 後期に学習する内容を予習する。	140分 140分
第2回	Unit 6 Buying & Selling A: Dubai Shopping Tour B: The Psychology of Selling	事前 p. 61-63を読む。 事後 Unit6 ABの内容の復習。	140分 140分
第3回	Unit 6 Video: The Fez Souk Expansion Activity: Sell a Product	事前 P. 64-66を読む。 事後 Unit 6の内容の復習。	140分 140分
第4回	The Big Picture 3 Review 3	事前 P. 66のアイデアを考える。 事後 Review 3を復習。	140分 140分
第5回	Unit 7 Weather A: How's the Weather? / B: Sunshine and Happiness	事前 P. 72-74を読む。 事後 Unit 7 ABの内容の復習。	140分 140分
第6回	Unit 7 Video: Deadly Heatwave Expansion Activity: I Love My City All Year	事前 P. 76-77を読む。p. 78のアイデアを考える。 事後 Unit 7の内容の復習。	140分 140分
第7回	Unit 8 Mysteries A: Scary Monsters B: The WoW! Signal	事前 p. 80-83を読む。 事後 Unit 8 ABの内容の復習。	140分 140分
第8回	Unit 8 Video: What Killed the Dinosaurs? Expansion Activity: What's your theory?	事前 p. 50-51を読んで理解する。P. 86のアイデアを考える。 事後 Unit 8の内容の復習。	140分 140分
第9回	The Big Picture 4 Review 4	事前 p. 87を読む。 事後 Review 4を復習。	140分 140分
第10回	Unit 9 Education A: The Power of Learning B: Photo Camp	事前 p. 92-95を読む。 事後 Unit 9 ABの内容の復習。	140分 140分
第11回	Unit 9 Video: Learning Across Generations Expansion Activity: Student Tutors	事前 P.98を読んでアイデアを考える。 事後 Unit 9の内容の復習。	140分 140分
第12回	Unit 10 Water A: Your Drinking Water B: Our Hidden Water Uses	事前 p. 99-103を読む。 事後 Unit 10 ABの内容の復習。	140分 140分
第13回	Unit 10 Video: Amazing Water Expansion Activity: Your Personal Water Use	事前 p. 104-106を読む。P. 106のアイデアを考える。 事後 Unit 10の内容の復習。	140分 140分
第14回	The Big Picture 5 Review 5 : Unit 6-10 ここまでの復習、まとめ、補足	事前 P. 107のアイデアを考える。 事後 Review 5を復習。	140分 140分
第15回	Unit 6-10 復習に基づいたまとめ、補足 理解度確認テスト	事前 Unit 6-10の復習を行なう。 事後 理解不足だった部分の復習をする。	140分 140分

フィードバック 授業での課題について、添削やコメントで学修成果をフィードバックする。

成績評価 授業態度、小テスト、課題、学期末試験などに基づき総合的に行う。

テキスト Nancy Douglas, Andrew Boon: INSPIRE 1 (Cengage Learning)
その他、必要に応じてプリントなどを配布する。

オフィスアワー 授業開始前もしくは終了後、あるいはアポイントメントによって対応する。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	リスニング力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

ドイツ語Ⅱ-1

非常勤講師 岩下久美子

科目コード：FOR201

対象コース／専門／学年：全コース／全専門／2～4 年次

形態：講義	単位数：2 単位
概要	ドイツ語 I で習得した文法の知識をさらに確かなものとするため、既習の事項を確認しながら、練習問題や平易なドイツ語文の読解に取り組む。この授業は演習の性格を有し、履修者は基本毎回、発言の機会をもつ。
到達目標	授業に積極的に参加することをとおして、幅広いドイツ語知識を獲得し、総合的にドイツ語力を伸ばすことを目標とする。

授業計画 基本的な授業計画は下記の通りであるが、学習状況に応じて前後することがある。事前・事後の学習時間は個々人によって異なる（基準：各回 270 分）。

回数	授業内容	事前	事後	時間
第 1 回	Lektion1 文法ノート 文法チェック	教科書の該当箇所の説明を一読する。	不足している知識を補う。	120 分 150 分
第 2 回	Lektion1 テキスト前半を読む	教科書の該当箇所を一読する。	新たな知識を確認し、不足している知識を補う。単語を覚え語彙を増やす。	120 分 150 分
第 3 回	Lektion1 テキスト後半を読む	教科書の該当箇所を一読する。	新たな知識を確認し、不足している知識を補う。単語を覚え語彙を増やす。	120 分 150 分
第 4 回	Lektion1 問題	問題を予習する。	問題のチェックをとおして不足している知識を補う。	120 分 150 分
第 5 回	Lektion2 文法ノート 文法チェック	教科書の該当箇所の説明を一読する。	不足している知識を補う。	120 分 150 分
第 6 回	Lektion2 テキスト前半を読む	教科書の該当箇所を一読する。	新たな知識を確認し、不足している知識を補う。単語を覚え語彙を増やす。	120 分 150 分
第 7 回	Lektion2 テキスト後半を読む	教科書の該当箇所を一読する。	新たな知識を確認し、不足している知識を補う。単語を覚え語彙を増やす。	120 分 150 分
第 8 回	Lektion2 問題 文法メモ	問題を予習する。	問題のチェックをとおして不足している知識を補う。文法メモの内容を確認。	120 分 150 分
第 9 回	Lektion3 文法ノート 文法チェック	教科書の該当箇所の説明を一読する。	不足している知識を補う。	120 分 150 分
第 10 回	Lektion3 テキストを読む	教科書の該当箇所を一読する。	新たな知識を確認し、不足している知識を補う。単語を覚え語彙を増やす。	120 分 150 分
第 11 回	Lektion3 問題 文法メモ	問題を予習する。	問題のチェックをとおして不足している知識を補う。文法メモの内容を確認。	120 分 150 分
第 12 回	Lektion4 文法ノート 文法チェック	教科書の該当箇所の説明を一読する。	不足している知識を補う。	120 分 150 分
第 13 回	Lektion4 テキストを読む	教科書の該当箇所を一読する。	新たな知識を確認し、不足している知識を補う。単語を覚え語彙を増やす。	120 分 150 分
第 14 回	Lektion4 問題 文法メモ	問題を予習する。	問題のチェックをとおして不足している知識を補う。文法メモの内容を確認。	120 分 150 分
第 15 回	既習事項の復習	これまでに学んだ事項を整理する。	総合的な力を形成すべく、これまでに不足していた知識を補い、さらに確かなものとする。	120 分 150 分

フィードバック 授業での課題や小テスト等についての解説などにより学習成果をフィードバックする。

成績評価 評価の基準となるのは主に期末試験であるが、小テストの結果、提出物の提出状況、授業における平常点などを加味して総合的に評価する。試験 60%、提出物 5%、授業における平常点 35%

テキスト 荻原 耕平他 著『ドイツ語トライアングル やさしい中級テキスト9章』（同学社）

オフィスアワー 簡単な質問・相談等は授業終了後に、相当な時間を要する質問・相談等は個々に時間を打ち合わせた上で実施する。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

ドイツ語Ⅱ-2

非常勤講師 岩下久美子

科目コード：FOR202

対象コース／専門／学年：全コース／全専門／2～4年次

形態：講義

単位数：2単位

概要 ドイツ語Ⅰで習得した文法の知識をさらに確かなものとするため、既習の事項を確認しながら、練習問題や平易なドイツ語文の読解に取り組む。この授業は演習の性格を有し、履修者は基本毎回、発言の機会をもつ。

到達目標 授業に積極的に参加することをとおして、幅広いドイツ語知識を獲得し、総合的にドイツ語力を伸ばすことを目標とする。

授業計画 基本的な授業計画は下記の通りであるが、学習状況に応じて前後することがある。事前・事後の学習時間は個人によって異なる（基準：各回 270分）。

回数	内容	事前	事後	時間
第1回	Lektion5 文法ノート 文法チェック	教科書の該当箇所の説明を一読する。	不足している知識を補う。	120分 150分
第2回	Lektion5 テキストを読む	教科書の該当箇所を一読する。	新たな知識を確認し、不足している知識を補う。単語を覚え語彙を増やす。	120分 150分
第3回	Lektion5 問題 文法メモ	問題を予習する。	問題のチェックをとおして不足している知識を補う。文法メモの内容を確認。	120分 150分
第4回	Lektion6 文法ノート 文法チェック	教科書の該当箇所の説明を一読する。	不足している知識を補う。	120分 150分
第5回	Lektion6 テキストを読む	教科書の該当箇所を一読する。	新たな知識を確認し、不足している知識を補う。単語を覚え語彙を増やす。	120分 150分
第6回	Lektion6 問題 文法メモ	問題を予習する。	問題のチェックをとおして不足している知識を補う。文法メモの内容を確認。	120分 150分
第7回	Lektion7 文法ノート 文法チェック	教科書の該当箇所の説明を一読する。	不足している知識を補う。	120分 150分
第8回	Lektion7 テキストを読む	教科書の該当箇所を一読する。	新たな知識を確認し、不足している知識を補う。単語を覚え語彙を増やす。	120分 150分
第9回	Lektion7 問題 文法メモ	問題を予習する。	問題のチェックをとおして不足している知識を補う。文法メモの内容を確認。	120分 150分
第10回	Lektion8 文法ノート 文法チェック	教科書の該当箇所の説明を一読する。	不足している知識を補う。	120分 150分
第11回	Lektion8 テキストを読む	教科書の該当箇所を一読する。	新たな知識を確認し、不足している知識を補う。単語を覚え語彙を増やす。	120分 150分
第12回	Lektion8 問題 文法メモ	問題を予習する。	問題のチェックをとおして不足している知識を補う。文法メモの内容を確認。	120分 150分
第13回	Lektion9 文法ノート 文法チェック	教科書の該当箇所の説明を一読する。	不足している知識を補う。	120分 150分
第14回	Lektion9 テキストを読む	教科書の該当箇所を一読する。	新たな知識を確認し、不足している知識を補う。単語を覚え語彙を増やす。	120分 150分
第15回	Lektion9 問題 既習事項の復習	問題を予習する。	総合的な力を形成すべく、これまでに不足していた知識を補い、さらに確かなものとする。	120分 150分

フィードバック 授業での課題や小テスト等についての解説などにより学習成果をフィードバックする。

成績評価 評価の基準となるのは主に期末試験であるが、小テストの結果、提出物の提出状況、授業における平常点などを加味して総合的に評価する。試験 60%、提出物 5%、授業における平常点 35%

テキスト 荻原 耕平他 著『ドイツ語トライアングル やさしい中級テキスト9章』（同学社）

オフィスアワー 簡単な質問・相談等は授業終了後に、相当な時間を要する質問・相談等は個々に時間を打ち合わせた上で実施する。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

フランス語Ⅱ-1

非常勤講師 内藤俊人

科目コード：FOR203

対象コース/専門/学年：全コース/全専門/2～4年次

形態：講義	単位数：2単位
概要	フランスの日常生活を題材とする教材を用い、学生生活、仕事、買い物、食事、旅行、余暇など、さまざまな状況で用いられる表現を習得する。外国語の学習とは、自分と異なる文化に生きる人々のものの見方や考え方に触れることでもある。授業では、フランスだけではなく、広くフランス語圏のさまざまな文化を紹介したい。
到達目標	1年間学んできた文法とコミュニケーションのための基礎知識をさらに深めて、フランス語を正確に用いる能力を身につけることが目標である。日常用いられる自然な表現を、口頭練習、聞き取り練習、作文練習を通して習得し、フランス語によって自己を表現する力を身につける。

授業計画		事前	事後	130分
第1回	Leçon 1 自己紹介の表現	教科書 P. 5, Les mots de la classe と P. 6 の表現について調べる。	P. 7 の語彙を覚える。	140分
第2回	Leçon 1 数詞	P. 8, Modèle1 および Modèle2 の発音を練習する。	P. 14, CD を聞き答えを書く。	140分
第3回	Leçon 2 人物を描写する	P. 16, Modèle1～3 の意味を調べ和訳する。	P. 18, Activités1 および 2 の答えを書く。	140分
第4回	Leçon 2 住んでいる場所について話す	P. 19, Exercices1～4 の答えを書く。	P. 22, CD を聞き答えを書く。	140分
第5回	Leçon 3 仕事について話す	P. 24, Modèle1～3 の意味を調べ和訳する。	P. 26, Activités1 および 2 の答えを書く。	140分
第6回	Leçon 3 国籍について話す	P. 27, Exercices1～4 の答えを書く。	P. 30, CD を聞き答えを書く。	140分
第7回	Leçon 4 好きなものを言う	P. 32, Modèle1 について意味を調べ和訳する。	P. 34, Activités1 および 2 の答えを書く。	140分
第8回	Leçon 4 préférer の用法	P. 33, Modèle3 および Modèle4 について意味を調べ和訳する。	P. 38, CD を聞き答えを書く。	140分
第9回	Leçon 5 家族について話す	P. 40, Modèle1 について意味を調べ和訳する。	P. 42, Activités1 および 2 の答えを書く。	140分
第10回	Leçon 5 pourquoi, parce que の用法	P. 41, Modèle3 および P. 43, Exercices 7 の答えを書く。	P. 46, CD を聞き答えを書く。	140分
第11回	Leçon 6 物の位置を示す	P. 49, Modèle2 および Modèle3 の答えを書く。	P. 50, Activités4 の答えを書く。	140分
第12回	Leçon 6 フランスのペット事情	P. 54, Révisions1～3 の答えを書く。	P. 55 の文章を読み問いに答える。	140分
第13回	Leçon 7 色彩について話す	P. 57, Modèle4 および Modèle6 について意味を調べ答えを書く。	P. 59, Exercices1～4 の答えを書く。	140分
第14回	Leçon 7 服装について話す	P. 58, Activités3 および 4 の答えを書く。	P. 62, Récréation1～3 の答えを書く。	140分
第15回	前期のまとめと試験	Leçon 7 までの復習を行うこと。	理解が不十分だった部分についてもう一度学習すること。	140分

フィードバック 答案および授業時に提出する課題を添削して返却する。

成績評価 成績の評価は、期末試験50%と平常点50%による。

テキスト Vincent Durrenberger 'Méthode de français' (駿河台出版社)

オフィスアワー 授業後教室にて。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	リスニング力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

フランス語Ⅱ-2

非常勤講師 内藤俊人

科目コード：FOR204

対象コース/専門/学年：全コース/全専門/2～4年次

形態：講義	単位数：2単位
概要	フランスの日常生活を題材とする教材を用い、学生生活、仕事、買い物、食事、旅行、余暇など、さまざまな状況で用いられる表現を習得する。外国語の学習とは、自分と異なる文化に生きる人々のものの見方や考え方に触れることでもある。授業では、フランスだけではなく、広くフランス語圏のさまざまな文化を紹介したい。
到達目標	1年間学んできた文法とコミュニケーションのための基礎知識をさらに深めて、フランス語を正確に用いる能力を身につけることが目標である。日常用いられる自然な表現を、口頭練習、聞き取り練習、作文練習を通して習得し、フランス語によって自己を表現する力を身につける。

授業計画		
第1回	Leçon 8 物の位置関係を示す	事前 P. 65, Modèle2 の文章を読み答えを書く。 事後 P. 66, Activités1～3 の答えを書く。 130分 140分
第2回	Leçon 8 数量を尋ねる	事前 P. 67, Exercices3 および 5 の答えを書く。 事後 P. 70, Révisions1～3 の答えを書く。 130分 140分
第3回	Leçon 9 カフェで注文する	事前 P. 72, Modèle1 について意味を調べ答えを書く。 事後 P. 74, Activités1～4 の答えを書く。 130分 140分
第4回	Leçon 9 買い物をする	事前 P. 73, Modèle2 および Modèle3 について意味を調べ答えを書く。 事後 P. 78, CD を聞き答えを書く。 130分 140分
第5回	Leçon 10 食生活について話す	事前 P. 80, Modèle1 について意味を調べ和訳する。 事後 P. 82, Activités1 および 2 の答えを書く。 130分 140分
第6回	Leçon 10 統計について話す	事前 P. 81, Modèle2 について意味を調べ和訳する。 事後 P. 86, Révisions2～4 の答えを書く。 130分 140分
第7回	Leçon 11 国について話す	事前 P. 88, Modèle1～5 について単語の意味を調べ和訳する。 事後 P. 90, Activités1～3 の答えを書く。 130分 140分
第8回	Leçon 11 天候について話す	事前 P. 93, La ville rose について単語の意味を調べ和訳する。 事後 P. 95, On va plus loin1～3 の答えを書く。 130分 140分
第9回	Leçon 12 旅について話す	事前 P. 97, Modèle4 について意味を調べ和訳する。 事後 P. 98, Activités1～3 の答えを書く。 130分 140分
第10回	Leçon 12 道を尋ねる	事前 P. 102, CD を聞き答えを書く。 事後 P. 103, On va plus loin1 および 2 の答えを書く。 130分 140分
第11回	Leçon 13 時刻を言う	事前 P. 104, Modèle1 について CD を聞き答えを書く。 事後 P. 106, Activités1～4 の答えを書く。 130分 140分
第12回	Leçon 13 チケットを買う	事前 P. 105, Modèle2 について意味を調べ和訳する。 事後 P. 110, 空欄を埋めて問いに答える。 130分 140分
第13回	Leçon 14 日常生活を話す	事前 P. 113, Modèle1 および Modèle2 について単語の意味を調べ問いに答える。 事後 P. 114, Activités1 および 2 の答えを書く。 130分 140分
第14回	Leçon 14 過ごした1日を語る	事前 P. 122, Activités1 および 2 の答えを書く。 事後 P. 127, On va plus loin1 および 2 の答えを書く。 130分 140分
第15回	後期のまとめと試験	事前 Leçon 8 から Leçon14 までの復習を行うこと。 事後 理解が不十分だった部分についてもう一度学習すること。 130分 140分

フィードバック 答案および授業時に提出する課題を添削して返却する。

成績評価 成績の評価は、期末試験50%と平常点50%による。

テキスト Vincent Durrenberger 'Méthode de français' (駿河台出版社)

オフィスアワー 授業後教室にて。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	フランス語の活用	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

イタリア語Ⅱ-1

非常勤講師 吉澤早苗

科目コード：FOR205

対象コース／専門／学年：全コース／全専門／2～4 年次

形態：講義	単位数：2 単位
概要	イタリア語の中級文法を学ぶ。初級の学習を終えた学生を対象とする。 初級文法を復習・補足しながらさらに高度な事項へと進み、日常のさまざまな事柄をより詳細に表現し、深く理解するための語彙や表現を身につけてゆく。語学を通じイタリアの社会や文化についても関心を広げたい。
到達目標	初級文法をより完全なものにすること、受動態、最上級・比較級、関係詞といった中級文法を理解し、それを日常生活の中で応用するための語彙と表現力を身につけることが目標である。

授業計画	原則的に教科書にしたがって授業を進める。 履修生のレベルや授業の進み具合により、計画を変更する場合もある。		
第 1 回	オリエンテーション (授業概要、成績評価に関する説明ほか) 初級イタリア語の復習・補足 (アルファベット／発音、日常の表現)	事前 「アルファベット／発音、日常の表現」の解説を読み、単語の意味と発音を確認 事後 授業で解説された箇所のヒアリング練習、音読練習、ライティング練習	120 分 150 分
第 2 回	初級イタリア語の復習・補足 (Lezione 1: 名詞と冠詞、Lezione 2: 直説法現在 essere / avere、Lezione 3: 形容詞)	事前 Lezione 1-3 の解説を読み、単語の意味と発音を確認 事後 Lezione 1-3 の会話文と練習問題のヒアリング練習、音読練習、ライティング練習	120 分 150 分
第 3 回	初級イタリア語の復習・補足 (Lezione 4: 直説法現在・規則動詞、Lezione 5: 直説法現在・不規則動詞、Lezione 6: 人称代名詞)	事前 Lezione 4-6 の解説を読み、単語の意味と発音を確認 事後 Lezione 4-6 の会話文と練習問題のヒアリング練習、音読練習、ライティング練習	120 分 150 分
第 4 回	初級イタリア語の復習・補足 (Lezione 7: 再帰動詞)	事前 Lezione 7 の解説を読み、単語の意味と発音を確認 事後 Lezione 7 の会話文と練習問題のヒアリング練習、音読練習、ライティング練習	120 分 150 分
第 5 回	初級イタリア語の復習・補足 (Lezione 8: 命令法)	事前 Lezione 8 の解説を読み、単語の意味と発音を確認 事後 Lezione 8 の会話文と練習問題のヒアリング練習、音読練習、ライティング練習	120 分 150 分
第 6 回	初級イタリア語の復習・補足 (Lezione 9: 直説法近過去)	事前 Lezione 9 の解説を読み、単語の意味と発音を確認 事後 Lezione 9 の会話文と練習問題のヒアリング練習、音読練習、ライティング練習	120 分 150 分
第 7 回	初級イタリア語の復習・補足 (Lezione 10: 直説法半過去)	事前 Lezione 10 の解説を読み、単語の意味と発音を確認 事後 Lezione 10 の会話文と練習問題のヒアリング練習、音読練習、ライティング練習	120 分 150 分
第 8 回	初級イタリア語の復習・補足 (Lezione 11: 直説法未来)	事前 Lezione 11 の解説を読み、単語の意味と発音を確認 事後 Lezione 11 の会話文と練習問題のヒアリング練習、音読練習、ライティング練習	120 分 150 分
第 9 回	Lezione 12: 受動態 (解説)	事前 Lezione 12 の解説を読み、単語の意味と発音を確認 事後 授業で解説された箇所のヒアリング練習、音読練習、ライティング練習	120 分 150 分
第 10 回	Lezione 12: 受動態 (演習)	事前 Lezione 12 の会話文、練習問題について単語の意味と発音を確認 事後 授業で演習した箇所のヒアリング練習、音読練習、ライティング練習	120 分 150 分
第 11 回	Lezione 13: 比較級・最上級 (解説)	事前 Lezione 13 の解説を読み、単語の意味と発音を確認 事後 授業で解説された箇所のヒアリング練習、音読練習、ライティング練習	120 分 150 分
第 12 回	Lezione 13: 比較級・最上級 (演習)	事前 Lezione 13 の会話文、練習問題について単語の意味と発音を確認 事後 授業で演習した箇所のヒアリング練習、音読練習、ライティング練習	120 分 150 分
第 13 回	Lezione 14: 関係詞 (che) (解説)	事前 Lezione 14 (che) の解説を読み、単語の意味と発音を確認 事後 授業で解説された箇所のヒアリング練習、音読練習、ライティング練習	120 分 150 分
第 14 回	Lezione 14: 関係詞 (che) (演習)	事前 Lezione 14 (che) の会話文、練習問題について単語の意味と発音を確認 事後 授業で演習した箇所のヒアリング練習、音読練習、ライティング練習	120 分 150 分
第 15 回	Lezione 12-14 のまとめ	事前 Lezione 12-14 の復習 事後 期末試験準備	120 分 150 分

フィードバック 期末試験については、試験後の解説などにより成果をフィードバックする。

成績評価 期末試験により、中級文法に関する理解度とその応用力をはかる。
成績評価配分 (目安): 授業への積極的な取り組み 20%、期末試験 80%

テキスト 杉本裕之著 『基礎イタリア語講座』(朝日出版社)

オフィスアワー 授業の前後

備考 上記テキストの他、イタリア語の辞書を購入することが望ましい。辞書については初回の授業で紹介する。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲	
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	

イタリア語Ⅱ-2

非常勤講師 吉澤早苗

科目コード：FOR206

対象コース／専門／学年：全コース／全専門／2～4年次

形態：講義 単位数：2単位

概要 イタリア語の中級文法を学ぶ。イタリア語Ⅱ-1からの継続講義。
 イタリア語Ⅱ-1の学習内容をふまえた上でさらに高度な事項へと進み、日常のさまざまな事柄をより詳細に表現し、深く理解するための語彙や表現を身につけてゆく。語学を通じイタリアの社会や文化についても関心を広げたい。

到達目標 動詞の用法（ジェルンディオ、条件法、接続法）を中心とする中級文法を理解し、それを日常生活の中で応用するための語彙と表現力を身につけることが目標である。

授業計画 原則的に教科書にしたがって授業を進める。
 履修生のレベルや授業の進み具合により、計画を変更する場合もある。

第1回	Lezione 12-14の復習	事前 Lezione 12-14の解説の復習 事後 Lezione 12-14の会話文と練習問題の復習	120分 150分
第2回	Lezione 14：関係詞（cuiほか）（解説）	事前 Lezione 14（cuiほか）の解説を読み、単語の意味と発音を確認 事後 授業で解説された箇所のヒアリング練習、音読練習、ライティング練習	120分 150分
第3回	Lezione 14：関係詞（cuiほか）（演習）	事前 Lezione 14（cuiほか）の会話文、練習問題について単語の意味と発音を確認 事後 授業で演習した箇所のヒアリング練習、音読練習、ライティング練習	120分 150分
第4回	Lezione 15：ジェルンディオ（解説）	事前 Lezione 15の解説を読み、単語の意味と発音を確認 事後 授業で解説された箇所のヒアリング練習、音読練習、ライティング練習	120分 150分
第5回	Lezione 15：ジェルンディオ（演習）	事前 Lezione 15の会話文、練習問題について単語の意味と発音を確認 事後 授業で演習した箇所のヒアリング練習、音読練習、ライティング練習	120分 150分
第6回	Lezione 16：条件法（条件法現在）（解説）	事前 Lezione 16（条件法現在）の解説を読み、単語の意味と発音を確認 事後 授業で解説された箇所のヒアリング練習、音読練習、ライティング練習	120分 150分
第7回	Lezione 16：条件法（条件法現在）（演習）	事前 Lezione 16（条件法現在）の会話文、練習問題について単語の意味と発音を確認 事後 授業で演習した箇所のヒアリング練習、音読練習、ライティング練習	120分 150分
第8回	Lezione 16：条件法（条件法過去）（解説）	事前 Lezione 16（条件法過去）の解説を読み、単語の意味と発音を確認 事後 授業で解説された箇所のヒアリング練習、音読練習、ライティング練習	120分 150分
第9回	Lezione 16：条件法（条件法過去）（演習）	事前 Lezione 16（条件法過去）の会話文、練習問題について単語の意味と発音を確認 事後 授業で演習した箇所のヒアリング練習、音読練習、ライティング練習	120分 150分
第10回	Lezione 17：接続法（接続法現在）（解説）	事前 Lezione 17（接続法現在）の解説を読み、単語の意味と発音を確認 事後 授業で解説された箇所のヒアリング練習、音読練習、ライティング練習	120分 150分
第11回	Lezione 17：接続法（接続法現在）（演習）	事前 Lezione 17（接続法現在）の会話文、練習問題について単語の意味と発音を確認 事後 授業で演習した箇所のヒアリング練習、音読練習、ライティング練習	120分 150分
第12回	Lezione 17：接続法（接続法過去時制）（解説）	事前 Lezione 17（接続法過去時制）の解説を読み、単語の意味と発音を確認 事後 授業で解説された箇所のヒアリング練習、音読練習、ライティング練習	120分 150分
第13回	Lezione 17：接続法（接続法過去時制）（演習）	事前 Lezione 17（接続法過去時制）の会話文、練習問題について単語の意味と発音を確認 事後 授業で演習した箇所のヒアリング練習、音読練習、ライティング練習	120分 150分
第14回	Lezione 17：接続法（仮定文）（解説、演習）	事前 Lezione 17（仮定文）の解説を読み、解説および会話文、練習問題の単語の意味と発音を確認 事後 授業で解説された箇所および演習を行った箇所のヒアリング練習、音読練習、ライティング練習	120分 150分
第15回	Lezione 14-17のまとめ	事前 Lezione 14-17の復習 事後 期末試験準備	120分 150分

フィードバック 期末試験については、試験後の解説などにより成果をフィードバックする。

成績評価 期末試験により、中級文法に関する理解度とその応用力をはかる。
 成績評価配分（目安）：授業への積極的な取り組み 20%、期末試験 80%

テキスト 杉本裕之著 『基礎イタリア語講座』（朝日出版社）

オフィスアワー 授業の前後

備考 上記テキストの他、イタリア語の辞書を購入することが望ましい。辞書については初回の授業で紹介する。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性							
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲	
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	

哲学 1

非常勤講師 内藤俊人

科目コード：HUM104

対象コース／専門／学年：全コース／全専門／1～4 年次

形態：講義

単位数：2 単位

概要 古代ギリシャのソポクレスが描いた『オイディプス王』の物語とは、自分自身の真理へと到達しようとする哲学的探求の物語であり、西歐的な知の原型と言い得るものである。この授業では、オイディプス王の行為と語る言葉とを丹念に読み解きながら、そこに含まれるさまざまな哲学的問題を考察する。

到達目標 とりあげるのは、真理と主体、偶然性、異邦人の歓待、記憶、悪、無意識の欲望など今日に通じる哲学上の問題である。ギリシャ悲劇の中に示されるこれらの問題を、フーコー、デリダ、リクールをはじめとする現代フランス哲学の視点を交えて考察する。

授業計画

【AL】

第 1 回	はじめに：ストラヴィンスキーとロクターによる『オイディプス王』について	事前 事後	ストラヴィンスキー『オイディプス王』について調べておく。 『オイディプス王』の物語の内容を要約する。	130 分 140 分
第 2 回	真理を語ること：『オイディプス王』を読む	事前 事後	配布プリントのソポクレス『『オイディプス王』』抜粋を読んでおく。 教室で観る『オイディプス王』の舞台映像について感想をまとめる。	130 分 140 分
第 3 回	真理への到達と生の変容	事前 事後	配布プリントのソポクレス『『オイディプス王』』抜粋を読んでおく。 教室で観る『オイディプス王』の舞台映像について感想をまとめる。	130 分 140 分
第 4 回	芸術と生の変容	事前 事後	配布プリントのソポクレス『『オイディプス王』』抜粋を読んでおく。 教室で観る『オイディプス王』の舞台映像について感想をまとめる。	130 分 140 分
第 5 回	『オイディプス王』におけるテューケ（偶然・運命）	事前 事後	配布するプリント資料をもとに、偶然と運命という 2 つの言葉の色々な意味を考えてみる。 『オイディプス王』の中でテューケという語が用いられている箇所を整理する。	130 分 140 分
第 6 回	偶然性と運命の哲学史	事前 事後	配布プリントでさまざまな哲学者による偶然性をめぐる考察を読んでおく。 『オイディプス王』における真理とテューケの関係について整理する。	130 分 140 分
第 7 回	永遠帰郷と骰子の一振り	事前 事後	配布プリントのニーチェ『ツァラトゥストラ』抜粋を読んでおく。 ニーチェの永遠帰郷思想、運命愛の思想についてまとめる。	130 分 140 分
第 8 回	記憶と忘却	事前 事後	配布プリントのリクールの論文抜粋を読んでおく。 配布プリントのディディエ・ヌベルマン『受苦の時間の再モンタージュ』抜粋を読む。	130 分 140 分
第 9 回	悪について：裁きと赦し	事前 事後	配布プリントのアレント『人間の条件』抜粋を読んでおく。 教室で観るストロブ・ユイレ『アンティゴネ』の映像について感想をまとめる。	130 分 140 分
第 10 回	異邦人の歓待：『コロノスのオイディプス』を読む	事前 事後	配布プリントのソポクレス『コロノスのオイディプス』抜粋を読んでおく。 2 つのオイディプスの物語の違いについて考える。	130 分 140 分
第 11 回	異邦人のパラドックス：オイディプスの場合とソクラテスの場合	事前 事後	配布プリントのプラトン『ソクラテスの弁明』抜粋を読んでおく。 教室で観るベンギギ『移民の記憶』の映像について感想をまとめる。	130 分 140 分
第 12 回	デリダとレヴィナスの歓待論	事前 事後	配布プリントのクロソフスキー『ロベルトは今夜』抜粋を読んでおく。 配布プリントのデリダ『アデュー：エマニュエル・レヴィナスへ』抜粋を読む。	130 分 140 分
第 13 回	フロイトによる『オイディプス王』解釈	事前 事後	配布プリントのフロイト『夢判断』抜粋を読んでおく。 授業内容を整理し「エディプス・コンプレックス」についてさらに調べる。	130 分 140 分
第 14 回	『アンチ・オイディプス』について	事前 事後	配布プリントのドゥルーズのインタビュー抜粋を読んでおく。 教室で観るドゥルーズ『アベセダール』の「欲望」の項目について感想をまとめる。	130 分 140 分
第 15 回	まとめ	事前 事後	ここまでの学習内容の疑問点を整理する。 学期全体の学習内容を復習する。	130 分 140 分

フィードバック 授業時に提出する Reaction Paper にコメントを付して返却する。

成績評価 成績の評価は、平常点 40% と学期末に提出するレポート 60% による。

テキスト 教科書は特に用いないが、授業内容に応じてプリントを配布する。

参照資料：ソポクレス『オイディプス王』（岩波文庫）
『ギリシャ悲劇 II ソポクレス』（ちくま文庫）
DVD 『オイディプス王』（演出 蜷川幸雄、音楽 東儀秀樹、主演 野村萬斎）（ポニーキャニオン）

オフィスアワー 授業後教室にて。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性							
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	リスニング力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	

文学 I

非常勤講師 内藤俊人

科目コード：HUM301

対象コース/専門/学年：全コース/全専門/3~4 年次

形態：講義	単位数：2 単位
概要	バロックの時代から今日に至るフランス文学の変遷を考察する。文学を孤立した対象としてとらえるのではなく、さまざまなジャンルの芸術と結びつけて論じ、それぞれの時代の文化のあり方を検討する。絵画や版画資料、映像などを用いて出来る限り多角的に作品を理解できるように努める。
到達目標	バロック以降の代表的なフランス文学の作品を丹念に読み解きながら、そこに映し出されているヨーロッパの文化、社会、芸術の大きな流れを把握する。

授業計画		
第 1 回	バロックと古典主義	事前 ルネサンス以降のヨーロッパ文化史の大きな流れについて調べる。120 分 事後 バロックと古典主義の作品の特徴を講義内容にそってまとめる。150 分
第 2 回	ヴェルサイユの美学	事前 リュリとモリエールについて、ふたりの作品の概要を調べておく。120 分 事後 教室で観るモリエール『町人貴族』の舞台映像について感想をまとめる。150 分
第 3 回	古典主義時代の演劇	事前 ラシースの作品についてその概要を調べておく。120 分 事後 教室で観るラシース『フェードル』の舞台映像について感想をまとめる。150 分
第 4 回	ロマン主義における自然と視線	事前 配布するプリントを読んでおくこと。120 分 事後 古典主義とロマン主義という 2 つの時代の「自然」の捉え方の違いについてまとめる。150 分
第 5 回	『椿姫』について	事前 小説『椿姫』についてその概要を調べておくこと。120 分 事後 教室で観るオペラ『椿姫』の映像について感想をまとめる。150 分
第 6 回	オッペンバックの見たパリ	事前 19 世紀後半第二帝政期のパリの姿を写真や文献を通じ出来る限り調べる。120 分 事後 教室で観る『ボフマン物語』と『パリの生活』の舞台映像について感想をまとめる。150 分
第 7 回	ボードレールとマネ	事前 ボードレールとマネの作品についてその概要を調べておく。120 分 事後 配布するプリントのボードレールの詩について感想をまとめる。150 分
第 8 回	アリスとノンセンス	事前 ルイス・キャロルの作品についてその概要を調べておく。120 分 事後 ノンセンスの言語という点を中心に講義内容を整理する。150 分
第 9 回	ゾラと消費文化	事前 配布するプリントでゾラの小説作品の抜粋を読む。120 分 事後 ゾラの『ボスール・デ・ダム百貨店』（藤原書店）を中心に講義内容を整理する。150 分
第 10 回	19 世紀末のサロメ像	事前 オスカー・ワイルド『サロメ』（岩波文庫）を読むこと。120 分 事後 文学、美術、音楽にまたがるサロメのイメージについて調べる。150 分
第 11 回	ロビダの描く未来世界	事前 19 世紀末のパリの姿を、写真や文献を通じて調べておくこと。120 分 事後 ロビダの小説作品を中心に講義内容を整理する。150 分
第 12 回	コクトーとサティ	事前 ジャン・コクトーとエリック・サティの作品についてその概要を調べておく。120 分 事後 パレエ『バラード』について調べる。150 分
第 13 回	シュルレアリスムと映画	事前 アンドレ・ブルトンの作品についてその概要を調べておく。120 分 事後 教室で観る映画『ひとで』について感想をまとめる。150 分
第 14 回	戦争と文学	事前 サン＝テグジュペリの作品についてその概要を調べておく。120 分 事後 配布するサン＝テグジュペリの作品抜粋のプリントを読み、講義内容を整理する。150 分
第 15 回	「記憶」をめぐる言葉とイメージ	事前 マルグリット・デュラスの小説作品についてその概要を調べておく。120 分 事後 教室で観るデュラスの監督した映画作品について感想をまとめる。150 分

フィードバック 授業時に提出する Reaction Paper にコメントを付して返却する。

成績評価 成績の評価は、平常点 30%と学期末に提出するレポート 70%による。

テキスト 教科書は特に用いないが、必要に応じてプリントを配布する。

オフィスアワー 授業後教室にて。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	音楽理論的知識	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

美学 1

客員教授 牧野一泉

科目コード：HUM106

対象コース／専門／学年：全コース／全専門／1～4 年次

形態：講義

単位数：2 単位

概要 「芸術」は、最初から何の前提もなく存在しているわけではない。この「基礎美学」では、具体的な東西の芸術作品や芸術事象を手がかりにしながら、テーマに沿って表現者の立場から美学の基礎概念を考察する。音楽を専攻する君達にとって、レクチャーとやさしい演習をします。

到達目標 本年は桐板羽子板を、膠と卵によるテンペラ混合技法で「バラ」を描く。
また、水彩画を、ワトソン紙ボードに描き額装する。

授業計画 「基礎美学」

【AL】			事前	事後	110 分
第 1 回	ガイダンス 授業内容と概説	羽子板、卵テンペラ画、水彩画について	「美学」とはどのような学問か調べておく	「テンペラ画」について調べておく	170 分
第 2 回	表現と創造力	美術の用具について、演習にあたっての注意する事など 表現技法、主題とは何かなどを理解する 印石を彫る	美術の用具について、演習にあたっての注意する事など	造形美術の表現技法とは何かなどを確認する	140 分
第 3 回	色とかたち	スケッチの方法、彩色の方法、構図、構成とは何か 日本独自の扇形、絵巻物、黄金比などを理解する	構図、構成とは何か調べる	日本独自の扇形、絵巻物、黄金比などを確認する	140 分
第 4 回	水彩画、墨絵、パステル画をみて	顔料とバインダーの関係から、作品はうまれる	水彩画、墨絵、パステル画を画集で見ておくこと	顔料とはなにかを理解確認する	60 分
第 5 回	テンペラ画、フレスコ画、ビザンチン絵画を見て、ビザンチンの歴史を理解する	ロシアイコンについて 鶏卵の卵黄テンペラ画について	ビザンチン美術について調べる	材料素材が様式を作ることを確認する	220 分
第 6 回	演習 1	テンペラ画、桐板下地作り、板 8 ミリ厚を紙やすりで磨く。紙やすり 180 番にじみ止めを 2 回塗る下地膠塗り 乾燥させることの意味を理解する	羽子板とは何か調べる	板絵の特色について理解する	250 分
第 7 回	演習 2	テンペラ画 石膏塗り石膏塗りと削り、ポローニャ石膏をフルイで細かくし、膠液にひたす 泡立てないように何層にも塗る 乾燥させる	石膏素材とは何か調べる	素材の不自由さが、発想を養うことを理解確認する	30 分
第 8 回	演習 3	テンペラ画 「バラ」をスケッチする たくさん描いたスケッチから、きれいな形を選ぶ	「バラ」スケッチを描いておくこと	スケッチしながら、よい形を見つけ描けたか確認する	250 分
第 9 回	演習 4	テンペラ画 彩色 卵黄に食酢を入れて顔料を溶き、彩色する	卵黄の成分について調べる	絵具は溶けたか、形は写せたか確認する	30 分
第 10 回	演習 5	テンペラ画 彩色 重色、混色を学ぶ 卵黄を使って顔料を溶き彩色する	重色とは何か調べておく	色を重ねて塗ることはできたか確認する	250 分
第 11 回	演習 6	テンペラ画 彩色 混色を学ぶ 卵黄を使って顔料を溶き彩色する	混色とは何か調べておく	加法混色と顔料の関係は理解されたか確認する	30 分
第 12 回	演習 7	テンペラ画 彩色 卵黄を使って顔料を溶き彩色する	色が濁るとは何か調べる	作品の完成まで描けたか確認する	110 分
第 13 回	演習 8 と講評会	全体から部分へと仕上げていく 卵黄を使って顔料を溶き彩色する	作品を完成させて、講評会の準備をする	友人の作品を見ながら、苦心したこと、楽しかったことなど確認する	140 分
第 14 回	演習 1	水彩画 風景画を描く 水彩絵の具の種類と筆 構図とグラウンドラインについて理解する、そしてワトソン紙を知る	水彩画の作品を画集で見ておく	用具素材の特色は、理解されたか確認する	80 分
第 15 回	演習 2 と講評会	印を押して落款を入れる、額装する	彩色と講評	友人の作品を見ながら、講評会をする。苦心したこと、楽しかったことなど確認する	200 分

フィードバック 授業の演習課題は作品講評会において、レポートは解説添削により、それぞれ学修成果をフィードバックする。

成績評価 平常点 20%及びレポート作品 50%、授業への積極的な取り組み 30%を総合的に評価する。

テキスト 必要に応じて教員が資料を用意する。
＜参考図書＞『世界美術辞典』（1985 年 新潮社）／『哲学小辞典』（1979 年 岩波書店）

オフィスアワー 授業後、教室にて受け付ける

備考

- ・履修者の上限は 30 名
- ・演習用具は準備しなくてもよい
- ・実技の教材費として 1,000 円を徴収します

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力

知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲	
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	

歴史学 1

教授 上尾信也

科目コード：SOC101

対象コース／専門／学年：全コース／全専門／1～4 年次

形態：講義

単位数：2 単位

概要 「ヨーロッパの社会と生活」として、西洋中世を中心とした近年の社会史・文化史研究の成果を、自然と生活の共生・絆・コミュニケーションといったキーワードを通して俯瞰する。

到達目標 近代を経た現代のわれわれにとって、中世ヨーロッパとの差異や同一性、関連性、類似性を学ぶことは、今を生きるヒントを新たに発見できる機会でもあり、多面的な発想・思考力や分析力を身につける

授業計画

回	内容	事前	事後	時間
第 1 回	枠組み、研究方法、テーマー中世／ヨーロッパ／社会史と文化史	世界史年表を予習しておく	参考文献表の文献を調べ、何点かをまずは図書館などで手に取り読んでみる	80 分 200 分
第 2 回	史料にみる中世ヨーロッパー文献・非文献資料と中世像の変容	参考文献表の史料にかかわる文献を予読する	授業で示された参考文献を調査する	80 分 200 分
第 3 回	映画に描かれた中世ー表現としての映画と史実のリアリティ	歴史を扱った映画について調べる	授業で示された参考文献や映画（映像）について調査し、鑑賞する	80 分 200 分
第 4 回	自然との共生 1 森のヨーロッパー資源と共生	「森林ーアルピオンの森林史話」（『中世ヨーロッパを生きる』遠山茂樹）を予読する	授業で示された参考文献を調査する	110 分 170 分
第 5 回	自然との共生 2 水のヨーロッパーエネルギーから水運まで	「水車とエネルギー資源」（『中世ヨーロッパを生きる』堀越宏一）を予読する	授業で示された参考文献を調査する	110 分 170 分
第 6 回	人間と自然 1 災害を前にした人びとー教会と救済	「中世の災害と飢饉」（『中世ヨーロッパを生きる』甚野尚志）を予読する	授業で示された参考文献を調査する	110 分 170 分
第 7 回	人間と自然 2 訪れる死ー「死」の文化史	「〈老いと病〉を生きる」（『中世ヨーロッパを生きる』河原温）を予読する	授業で示された参考文献を調査する	110 分 170 分
第 8 回	衣食住 1 「衣」とトーナメントの文化史	「衣服の色と文様が語る中世フランスの感性」（『中世ヨーロッパを生きる』徳井淑子）を予読する	授業で示された参考文献を調査する	110 分 170 分
第 9 回	衣食住 2 「食」にみる中世とルネサンスー小麦と食器	「フォーク誕生の秘密」（『中世ヨーロッパを生きる』池上俊一）を予読する	授業で示された参考文献を調査する	110 分 170 分
第 10 回	衣食住 3 「住」ー城と城館、政・祭・生の舞台	「騎士の住む城、暖炉のある農家」（『中世ヨーロッパを生きる』堀越宏一）を予読する	授業で示された参考文献を調査する	110 分 170 分
第 11 回	家族の絆：母と子の絆ー子供という文化史	「母と子ども」（『中世ヨーロッパを生きる』高橋友子）を予読する	授業で示された参考文献を調査する	110 分 170 分
第 12 回	他者との絆：「兄弟」で結ばれた社会ー中世都市の同業者組合と信心	「職人兄弟団」（『中世ヨーロッパを生きる』佐久間弘展）を予読する	授業で示された参考文献を調査する	110 分 170 分
第 13 回	聴くコミュニケーションー音楽と楽師がつなぐもの	「楽師伝説ー人びとと音楽をつなぐもの」（『中世ヨーロッパを生きる』上尾信也）を予読する	授業で示された参考文献を調査する	110 分 170 分
第 14 回	読み書きのコミュニケーションーリテラシーと書物	「書簡とコミュニケーション」（『中世ヨーロッパを生きる』甚野尚志）を予読する	授業で示された参考文献を調査する	110 分 170 分
第 15 回	観るコミュニケーションー巡礼と遺産	「巡礼と観光ー（余暇社会学）序説」（『中世ヨーロッパを生きる』関哲行）を予読する	授業で示された参考文献を調査する	110 分 170 分

フィードバック コメントリーポートの提出とそれによる次回授業での質疑

成績評価 期末にレポートを課す（40%）ほか、毎回の授業後コメント提出と授業へ取り組む姿勢を平常点（60%）として加味する。

テキスト 以下の文献を参考文献として挙げるほか、毎回の授業レジュメなどに提示する。
甚野・堀越編『中世ヨーロッパを生きる』（東京：東京大学出版会 2004）

オフィスアワー 毎回授業後

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性							
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	プレゼンテーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	

歴史学 2

教授 上尾信也

科目コード：SOC102

対象コース／専門／学年：全コース／全専門／1～4年次

形態：講義

単位数：2単位

概要 「ヨーロッパの文化と芸術」として、世界史を俯瞰し、そこに生きた人々の社会と芸術文化について考察する。人々の残した遺産と芸術に焦点を当て、画像資料や映像資料も活用していく。

到達目標 芸術の表現者のみならず、歴史を知ることは、表現の発想や題材の発掘、それぞれの時代や社会にとって意義・意味のあった文化や芸術表現を学ぶことであり、そのための「知識と知恵」の習得を目的とする。

回	題名	事前	事後	単位数
第1回	歴史イメージの照射：映画・映像・絵画・音楽作品の中の歴史	歴史の概説書や芸術史の概説書を調べてみよう	授業で扱った参考文献を調べてみよう	140分
第2回	古代の神と人—ギリシアのポリスと演劇	上尾『音楽のヨーロッパ史』第1章を読むこと	参考書の他、ギリシアを扱った映画などを鑑賞してみよう	80分 200分
第3回	ローマの帝政と見世物（スペクタキュラ）	上尾『音楽のヨーロッパ史』第1章を読むこと	参考書の他、授業で触れた映画や参考映像などを鑑賞してみよう	80分 200分
第4回	映画の中の歴史像—「中世映画」と史実	上尾『音楽のヨーロッパ史』第2章、第3章を読むこと	授業で触れた映画や参考映像などを鑑賞してみよう	80分 200分
第5回	「王」の世紀—王権の象徴としての芸術、フランス絶対王政と《王は踊る》	上尾『音楽のヨーロッパ史』第5章を読むこと	授業で触れた映画を鑑賞してみよう	80分 200分
第6回	フランス革命—ナショナリズムと《ラ・マルセイエーズ》	上尾『音楽のヨーロッパ史』第6章を読むこと	参考書のほか、授業で触れた映像や音楽作品を鑑賞してみよう	80分 200分
第7回	革命を描く—絵画に見るナポレオンと革命神話	フランス革命とナポレオンについて調べてみよう	授業で扱った絵画作品を参考書とともに鑑賞してみよう	110分 170分
第8回	政治の現実と芸術—7月革命とドラクロワ『民衆を率いる自由の女神』	フランスの19世紀の歴史について調べてみよう	参考書のほか、授業で扱った絵画や音楽作品を鑑賞してみよう	80分 200分
第9回	近代の歴史主義とロマン主義—文学作品を原作とするオペラは歴史をどうとらえてきたか	オペラについて調べてみよう	授業で扱ったオペラを鑑賞してみよう	80分 200分
第10回	音楽が伝える20世紀の戦争と平和—（セントルイス・ブルース）	第1次と第2次世界大戦について調べてみよう	セントルイス・ブルースを聴いてみよう（1時間）	200分 80分
第11回	第二次世界大戦と音楽—ふたりの独裁者（ヒトラーとスターリン）とショスタコーヴィチ	ナチスとソ連の独裁について調べてみよう	ショスタコーヴィチの作品を鑑賞してみよう	110分 170分
第12回	建築家ガウディと20世紀—鐘の音が世界を救う	ガウディの作品について調べてみよう	建築についての参考文献を読んでみよう	140分 140分
第13回	ビートルズの残したもの—ブラハの春、ビロード革命、抵抗のシンボルとなった《ヘイ・ジュード》	ビートルズを聴いておくこと	冷戦についての参考文献や、授業で扱った映画を調べてみよう	110分 170分
第14回	芸術と社会の架け橋—（明日に架ける橋—賛美歌になった愛の歌）	サイモンとガーファンクル、ゴスペルの音楽を聴いておく	アメリカの公民権運動と南アフリカのアパルトヘイトに関する参考書を読み、映画などを鑑賞しよう	110分 170分
第15回	まとめに代えて（イマジン）	ジョン・レノンについて調べてみよう	戦争と映像の世紀といわれた20世紀についての参考映像などを鑑賞しよう	110分 170分

フィードバック コメントリーポートの提出とそれによる次回授業での質疑

成績評価 期末にレポートを課す（40%）ほか、毎回の授業後コメント提出と授業へ取り組み姿勢を平常点（60%）として加味する。

テキスト 以下の文献を参考文献として挙げるほか、毎回の授業レジュメなどに提示する。
上尾『音楽のヨーロッパ史』（講談社現代新書 2000）

オフィスアワー 毎回授業後

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性							
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	

法学（日本国憲法）

※教育職員免許状取得に関わる科目

非常勤講師 畑中綾子

科目コード：SOC105

対象コース／専門／学年： 全コース／全専門／1～4 年次

形態：講義

単位数：2 単位

概要 法学（日本国憲法）は、私たちの生活を支える社会の基本的な仕組みを学びます。法学で学ぶ内容は、誰かが考えてくれる速い存在の問題ではありません。これから社会に出ていくにあたり知っておくべき大切な事柄、身近な問題を多く含んでいます。法学を通じて社会を賢く生きていく人になりましょう。今後、教員免許の取得を考えている人は必須単位となります。必ず受講してください。

- 到達目標**
1. 法学（日本国憲法）の基本的な知識を身につけること
 2. 法学を通じて、社会を知ること
 3. ある問題に向き合ったときに、自分の考えを述べられる人になること

授業計画			
第 1 回	イントロダクション	事前 講義を通じて何を得たいか、自分なりの目標を考えておく 事後 講義要旨を読んで理解を深めておく。	60 分 210 分
第 2 回	法とは何か。法学とはなにか。	事前 次回取り上げる問題について自分なりの問題点を検討しておく。 事後 今回取り上げた問題について復習して理解を深める。	130 分 140 分
第 3 回	日本の裁判制度の仕組み	事前 次回取り上げる問題について自分なりの問題点を検討しておく。 事後 今回取り上げた問題について復習して理解を深める。	130 分 140 分
第 4 回	基本的人権の尊重・法の下での平等	事前 次回取り上げる問題について自分なりの問題点を検討しておく。 事後 今回取り上げた問題について復習して理解を深める。	130 分 140 分
第 5 回	国家の権力（立法・行政・司法の役割）	事前 次回取り上げる問題について自分なりの問題点を検討しておく。 事後 今回取り上げた問題について復習して理解を深める。	130 分 140 分
第 6 回	自由権（精神的自由、経済的自由）	事前 次回取り上げる問題について自分なりの問題点を検討しておく。 事後 今回取り上げた問題について復習して理解を深める。	130 分 140 分
第 7 回	社会権への移行（生存権の保障）	事前 次回取り上げる問題について自分なりの問題点を検討しておく。 事後 今回取り上げた問題について復習して理解を深める。	130 分 140 分
第 8 回	新たな権利（自己決定権の尊重）	事前 次回取り上げる問題について自分なりの問題点を検討しておく。 事後 今回取り上げた問題について復習して理解を深める。	130 分 140 分
第 9 回	法の適正手続き（刑事訴訟との関係）	事前 次回取り上げる問題について自分なりの問題点を検討しておく。 事後 今回取り上げた問題について復習して理解を深める。	130 分 140 分
第 10 回	法と市民の関わり（裁判員制度）	事前 次回取り上げる問題について自分なりの問題点を検討しておく。 事後 今回取り上げた問題について復習して理解を深める。	130 分 140 分
第 11 回	学校教育と法	事前 次回取り上げる問題について自分なりの問題点を検討しておく。 事後 今回取り上げた問題について復習して理解を深める。	130 分 140 分
第 12 回	消費者生活と法（消費者保護）	事前 次回取り上げる問題について自分なりの問題点を検討しておく。 事後 今回取り上げた問題について復習して理解を深める。	130 分 140 分
第 13 回	不法行為と損害賠償	事前 次回取り上げる問題について自分なりの問題点を検討しておく。 事後 今回取り上げた問題について復習して理解を深める。	130 分 140 分
第 14 回	家族と法	事前 次回取り上げる問題について自分なりの問題点を検討しておく。 事後 今回取り上げた問題について復習して理解を深める。	130 分 140 分
第 15 回	総括	事前 次回取り上げる問題について自分なりの問題点を検討しておく。 事後 今回取り上げた問題について復習して理解を深める。	130 分 140 分

フィードバック 授業内での課題や小レポートはもしくは授業内での解説をつけて学修成果をフィードバックする。

成績評価 平常点（授業態度、発言等）40%、授業内小レポート 20%、試験結果 40%を総合して評価します。

テキスト レジュメを使用します。

オフィスアワー 授業後に教室内で質問を受け付けます。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>					

社会学 1

※社会教育主事養成に関する科目

非常勤講師 上羅 廣

科目コード：SOC103

対象コース／専門／学年：全コース／全専門／1～4 年次

形態：講義

単位数：2 単位

概要 第一に社会学とはどのような学問かを特徴的に概観し、第二に他者とのつながりやそれによって生じる社会的行為のしくみや目標達成の方法などを学ぶ。第三に現代を戦後社会として概観し、自分の存在を再確認する。第四に現代社会を特徴づける情報化、国際化、グローバル化などを捉え理解する。第五に家族とその変容について概観し、その変化的側面にも目を向ける。最後に地域社会の変化とそこでの人のつながりについて理解する。

到達目標 個人と社会のつながりを基本として、その変化とその変化が生み出す問題点を理解することを目標とする。

授業計画 つながりの社会学

第 1 回	社会学の学問的性格～問題発見と解決のための学習	事前 高校の現代社会の教科書を読みなおしておく。 事後 一つの立場として社会学の学問的性格を理解しておく。	110 分 160 分
第 2 回	個人の存在と社会的行為の理解～人間理解の一つの方法	事前 「人間は一人で生きていけるか」、自分なりに考えをまとめてくる。 事後 他者との関係を取り結ぶことにより、人間は存在することを理解する。	110 分 160 分
第 3 回	他者との関係と行為	事前 自分には、どのような他者との関係があるのか、考えを整理してくる。 事後 行為が他者との関係のなかで成立することを理解する。	110 分 160 分
第 4 回	社会的行為と目標の達成	事前 自分が実現したいことについて、どうしたら達成できるか考えてくる。 事後 目標達成のしくみの基本を理解する。	110 分 160 分
第 5 回	現代社会の大きな流れの中で	事前 自分が生まれた時代はどのような時代であったか、調べてくる。 事後 戦後以来の時代から現代まで社会の動きを大きく理解する。	110 分 160 分
第 6 回	現代社会の諸相	事前 現代社会の社会問題について、どんな問題があるのか考えてくる。 事後 諸相として捉えた諸問題について理解する。	110 分 160 分
第 7 回	家族とイエ	事前 自分のルーツについて親や祖父母に話を聞く。 事後 日本のイエと家族について理解をする。	110 分 160 分
第 8 回	家族の構造と機能	事前 父親か母親の生まれた家族の構成を調べてくる。 事後 家族の基本的構造とその変化、基本的機能について具体的な家族で検証してみる。	110 分 160 分
第 9 回	家族機能の変化	事前 家族によって自分はどのようなことが守られているか、考え整理してくる。 事後 社会の変化とともに変わる家族の機能について理解する。	110 分 160 分
第 10 回	現代家族の特質	事前 親と子の関係、兄弟の関係など家族員間の関係の在り方について考え整理してくる。 事後 現代家族の特質が自分の家族ではどのように現れているか、考察してみる。	110 分 160 分
第 11 回	少子・高齢社会の問題	事前 少子化の流れを止めるためには何が必要か、考えてくる。 事後 少子・高齢化のひきおこす基本的問題について理解する。	110 分 160 分
第 12 回	単身世帯の増加と「無縁社会」	事前 単身世帯の増加が何によって引き起こされるか、考え整理してくる。 事後 構造的に生じる単身世帯の増加とそれによって引き起こされる社会問題について理解する。	110 分 160 分
第 13 回	地域社会の形成と変化	事前 自分の住む地域について調べてくる。 事後 地域社会の形成とその後の変化、そして現代の地域社会について理解する。	110 分 160 分
第 14 回	地域社会の人のつながり	事前 地域社会において関係する人々を思いつく限り列挙してくる。 事後 地域社会における人間関係と社会関係の変化と実態について理解する。	110 分 160 分
第 15 回	まとめ	事前 講義全体の中に、自分自身の存在をあてはめて、想像してみる。 事後 社会の一部しか見えていないが、講義全体を整理し理解する。	110 分 160 分

フィードバック 授業全体は大きく六つの部門に分かれているので、それぞれの最後の時間に小テストをおこない、結果を添削しコメントを付けて返却することによって学修成果のフィードバックをする。

成績評価 定期試験 60%、小テスト 15%、課題 15%、授業態度 10%

テキスト 使用せず。参考文献、『社会学辞典』など。

オフィスアワー Eメールにて随時。wellatti@msb.biglobe.ne.jp

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>

心理学 1

特任教授 星野悦子

科目コード：NAT101

対象コース／専門／学年：全コース／全専門／1～4年次

形態：講義	単位数：2単位
概要	心理学は二つの顔をもっている。一つは実生活と深く結びついている実用的な部分で「応用心理学」と言われる。もう一つは純粋に心について研究する側面で、一般心理学あるいは基礎心理学と言われる。「心理学1」では後者の基礎心理学部門を中心に講じる。感覚、知覚、認知、記憶、感情や動機づけなど、私たちの行動と意識について広く学習する。
到達目標	心理学は、心について科学的に理解しようとする経験科学のひとつである。そして、私たち自身あるいは他者の心や行動について理解するために有益な知見を提供してくれる。「心理学1」では基礎心理学の領域である心の諸機能を一通り学び、教養としての心理学の基礎知識を身につけ人間理解を深めることを目的とする。

回数	内容	事前	事後	単位数
第1回	オリエンテーション～心理学とはなにか	教科書はしがきを読む	授業ノートを見直しておく	140分
第2回	心理学の諸領域と研究方法	プリント1を読む	授業ノートを見直しておく	140分
第3回	感覚の一般特性	教科書第1章1節を読む	授業ノートを見直しておく	140分
第4回	知覚と認知～視知覚を中心に	教科書第1章2節を読む	授業ノートを見直しておく	140分
第5回	認知とは何か～認知心理学	プリント2を読む	授業ノートを見直しておく	140分
第6回	記憶(1)：記憶の構造とメカニズム	教科書第2章1、2節を読む	授業ノートを見直しておく	140分
第7回	記憶(2)：長期記憶と知識	教科書第2章3、4節を読む	授業ノートを見直しておく	140分
第8回	知能(1)：歴史と理論	教科書第7章1、2節を読む	授業ノートを見直しておく	140分
第9回	知能(2)：多重知能理論	教科書第7章3、4節を読む	授業ノートを見直しておく	140分
第10回	感情と動機(1)：感情の種類	教科書第5章1節1-2を読む	授業ノートを見直しておく	140分
第11回	感情と動機(2)：感情の伝達	教科書第5章1節3-4を読む	授業ノートを見直しておく	140分
第12回	感情と動機(3)：動機づけの種類	教科書第5章2節1-2を読む	授業ノートを見直しておく	140分
第13回	葛藤と欲求阻止、防衛機制	教科書第5章2節3を読む	授業ノートを見直しておく	140分
第14回	学習と思考	第3章前半を読む	授業ノートを見直しておく	140分
第15回	まとめ	プリント3を読む	試験の解答の正誤を振り返る	140分

フィードバック 授業での課題・ミニレポートなどについて添削・コメントで学修成果をフィードバックする。

成績評価 期末試験の成績と受講態度を総合しておこなう。試験成績 70%、受講態度 30%。

テキスト 相馬壽明（編著）「心理学 for you」八千代出版

オフィスアワー 授業後の教室にて、および指定曜日に研究室にて対応する。

備考 「音楽心理学」を今後履修予定の学生は受講しておくことが望ましい。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

音響理学 2

非常勤講師 小口恵司

科目コード：NAT105

対象コース／専門／学年：全コース／全専門／1～4 年次

形態：講義

単位数：2 単位

概要 音響学は音楽・物理学・医学・心理学・工学など様々な分野が関わる複合的な学問である。音響理学 2 では、音楽家や音楽に関わる方が活動の中で出会うには違くない音の諸知識のうち、ホール・劇場、好ましくない音(騒音)、響き、音響機器について学ぶ。

到達目標 演奏会や日々の練習で接する音環境のハード面を理解し、自分に適した音環境を作り出すための方針立てを行うことができる。

授業計画

第 1 回	履修準備 I 音の物理基礎	事前 音響理学 I テキストの音の基礎・楽器音響学を読み(復習し)、その概要をつかむ。 事後 理解不足事項を確認し、音響理学 I テキストの当該箇所を用いて理解度を高める。	180 分 90 分
第 2 回	履修準備 II 聴覚・聴覚心理基礎	事前 音響理学 I テキストの聴覚を読み(復習し)、その概要をつかむ。 事後 理解不足事項を確認し、音響理学 I テキストの当該箇所を用いて理解度を高める。	180 分 90 分
第 3 回	騒音 I 騒音とは	事前 自分にとって“騒音”と感じる音をピックアップする。 事後 騒音の定義と表示方法について復習する。	90 分 180 分
第 4 回	騒音 II 騒音を抑える：遮音・吸音	事前 自分にとって“騒音”と感じる音の低減方法を考え、まとめてみる。 事後 騒音を低減する方法を整理する。	90 分 180 分
第 5 回	騒音 III 騒音まとめ、ワークショップ	事前 これまでに得た知識を案に、自分にとって“騒音”と感じる音の低減方法を考え、まとめてみる。 事後 グループワークを通じて得た理解を基に、自分にとって“騒音”と感じる音の低減方法をまとめる。	120 分 150 分
第 6 回	室内音響 I 響きのしくみ	事前 響きとは何か、について考える。 事後 響きとは何か、響きの物理的な表現方法を整理する。	90 分 180 分
第 7 回	室内音響 II 響きを感じる	事前 聴衆として音楽を聴くのに理想的な響きを考え、文章にまとめてみる。 事後 響きをその心理的属性で分類し、それぞれの属性を文章にまとめる。	120 分 150 分
第 8 回	室内音響 III 室内音響まとめ、ワークショップ	事前 練習に適した響きについて考え、文章・スケッチ等にまとめてみる。 事後 グループワークを通じて得た理解を基に、自分の練習に適した響きの実現方法をまとめる。	120 分 150 分
第 9 回	ホールの話 I 歴史、分類、用語	事前 テキストの、芸術に関する年表とホール・劇場の歴史を読み、その概要をつかむ。 事後 ホール・劇場の、芸術表現を助ける仕掛けを整理し、文章にまとめてみる。	90 分 180 分
第 10 回	ホールの話 II コンサートホールとオペラハウス	事前 自分の好きなホール・劇場の響きの特徴を文章・スケッチ等にまとめてみる。 事後 ホール・劇場の響きの属性を分類・整理し、それを生み出すのに重要な建築要素をまとめる。	120 分 150 分
第 11 回	ホールの話 III ステージ音響	事前 自分の好きなステージの響きの特徴を文章・スケッチ等にまとめてみる。 事後 ステージの響きを生み出す要素を整理し、自分に適した演奏方法をまとめる。	120 分 150 分
第 12 回	ホールの話 IV ホール見学、まとめ	事前 石橋メモリアルホールの音響に関するレポートを読み、その概要をつかむ。 事後 石橋メモリアルホールの響きの成り立ちを整理し、自分に適した演奏方法・聴取方法をまとめる。	120 分 150 分
第 13 回	電気音響 I 舞台音響設備概説	事前 テキストの、舞台音響設備の機能・構成を読み、その概要をつかむ。 事後 自分が演奏会を行うことを想定した時に必要な舞台音響設備の機能・装置をまとめる。	90 分 180 分
第 14 回	電気音響 II 録音ワークショップ	事前 過去に行った自分の演奏の録音方法をまとめる。 事後 自分の演奏の録音方法を整理する。	90 分 180 分
第 15 回	音響理学 2 まとめ 理解度確認テスト、解説	事前 これまでの学習内容の復習を行う。 事後 理解不足事項を確認し、復習を行う。	180 分 90 分

フィードバック 講義の最後のまとめ。ワークショップの講評、理解度確認テストの解説を行い、学習成果をフィードバックする。

成績評価 理解度確認テスト 50%、レポート 25%、授業への積極的参加 25%

テキスト 小口恵司編著：音響理学 2（購買にて頒布）
参考図書：岩宮真一郎著“音楽の科学”（ナツメ社）
永田徳著“静けさよい音よい響き”（彰国社サイエンス）

オフィスアワー 授業終了後 30 分、講義室にて。
e-mail での質問も受け付ける アドレス：oguchi@nagata.co.jp

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>						

日本美術史

客員教授 牧野一泉

科目コード：HUM108

対象コース／専門／学年： 全コース／全専門／1～4 年次

形態：講義

単位数：2 単位

概要 日本美術の歴史的変遷と概観を、絵画を中心に考察する。
表現技法や素材を理解するために、初歩的な日本画演習を体験し、日本美術を概観する。
音楽を専攻する君達にとって、レクチャーとやさしい演習をします。

到達目標 本年は、「佐竹本三十六歌仙絵巻」の原寸大部分模写を計画している。裏打ち仮張り表具の実習も併せておこなう。
また、墨絵の小品、扇面色紙画も予定する。

授業計画		「日本美術の概観と演習」	
【AL】			
第1回	ガイダンス	授業内容と概説、模写とは何か「佐竹本三十六歌仙絵巻」について	事前 「佐竹本三十六歌仙絵巻」について 「模写」について調べること 事後 日本美術の特色と模写の意義を確認する
第2回	演習1	扇面色紙墨絵「果物」を描く 文房四宝について東洋画の用具と教材を知る 絵具種類、刷毛、筆、和紙と墨、硯をまなぶ、墨に色があることを見る 印石を彫る	事前 文房四宝について調べる 事後 扇面に構図して空間を確認する
第3回	演習2	扇面色紙墨絵「果物」を描く 濃淡、筆勢、構図などチェックする 実際に墨を使って簡単な絵を描く なぜ滲むのかを知る	事前 墨絵を数多く鑑賞する 事後 扇面に墨絵を描き、印を押して落款を入れ墨色を確認する
第4回	絵巻物と日本画の技法「佐竹本三十六歌仙絵巻」の技法と素材		事前 「佐竹本三十六歌仙絵巻」の成り立ちと技法を調べる 事後 多くの場面を詞書と併せて、見る。自分が模写する場面を選ぶ。
第5回	演習1	模写 「佐竹本三十六歌仙絵巻」を描く 骨描きの方法について学ぶ 実際に画面の上で面相筆を使いおこなう 上げ写し法	事前 和紙について調べておく 事後 上げ写し法は理解できたか確認する
第6回	演習2	模写 墨入れ 線描き 骨描きを、面相筆を使っておこなう 適宜、シャープペンシルも使う	事前 毛筆線の種類には何があるか調べる 事後 骨描きは抑揚があるか確認する
第7回	演習3	模写 墨入れ 線描き 濃淡、肥瘦線、緩急、鉄線描、を覚える	事前 骨描きが終わったら、ドーサ引きをして乾かす 事後 線と墨色は描けたか確認する
第8回	演習4	表具 裏打ち表具仮張り 裏打ち糊を共同でつくる（正麩糊）薄めて二人一組 になって作業、裏打ち紙に越前楮紙を使い、シナベニヤ板に仮張りする	事前 表具とは何か調べる 事後 協力して無事に作業が終わったか工程を確認する
第9回	演習5	模写 彩色地塗りをする ドーサを引いた後に、 胡粉、黄土絵具、植物染料などを混色して塗る 乾燥させ繰り返す	事前 絵具の組成を調べる 胡粉、黄土絵具など 事後 下地塗りができたか確認する
第10回	演習6	模写 彩色 植物染料のヤシヤブシを使う ヤシヤの実を煎じる まず、シワとシミを描く 順番に薄く塗り重ねながら仕上げる	事前 ヤシヤブシについて調べる 事後 むらなく塗れたか確認する
第11回	演習7	模写 彩色 水干絵の具を使う 中指を使い皿に強く擦って使う 混色して、色をさかす	事前 水干絵の具とは何か調べる 事後 水干絵の具を使うことはできたか確認する
第12回	演習8	模写 彩色 岩絵の具を溶く 絵具に粒子がある、天然岩石絵具を使う 色を重ねて塗る 基本的に混色しない	事前 岩絵の具とは何か調べる 事後 岩絵の具は使えたか確認する
第13回	演習9	模写 彩色 絵具を塗り重ねる 大和絵の二段構え技法 最後に、艶墨で髪の毛を描く	事前 大和絵彩色について調べる 事後 仕上げまで彩色できたか確認する
第14回	演習10	表具 仮張りから剥がす 周りを湿らせて、注意して仮張りから自分の作品を剥がす	事前 仮張り表具について調べる 事後 上手にシワなく剥がれたか確認する
第15回	講評会		事前 事後 友人の作品を見ながら、講評会をする。苦心したこと、楽しかったこと確認する

フィードバック 授業の演習課題は作品講評会において、レポートは解説添削により、それぞれ学修成果をフィードバックする。

成績評価 平常点 20%及びレポート作品 50%、授業への積極的な取り組み 30%を総合的に評価する。

テキスト 必要に応じて教員が資料を用意する。
<参考図書> 『世界美術辞典』（1985年 新潮社）／『神々と仏祭とマンダラ』（1983年 講談社）
／『茶と花と能 サロンの風流と芸能』（1982年 講談社）

オフィスアワー 授業後、教室にて受け付ける。

備考

- ・履修者のは上限 30 名
- ・演習用具は準備しなくてもよい
- ・実技の教材費として 1,000 円を徴収します

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性							
文化・社会・自然の	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発働力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲	
☑	☐	☐	☑	☐	☐	☐	☑	☐	☐	☑	☑	☑	☑	☐	☐	

ヨーロッパ芸術論

非常勤講師 内藤俊人

科目コード：HUM201

対象コース／専門／学年：全コース／全専門／2～4 年次

形態：講義

単位数：2 単位

概要 オペラとは、音楽の力によって築き上げられる演劇だと言われる。この授業では、まずオペラの原作である文学作品を詳細に読み解き、それを歴史的文脈の中で理解し、あわせてオペラ台本との相違点を明らかにする。原作としての文学作品、台本、オペラ作品。これら3者の比較考察から、オペラに示される音楽の力と文学固有の力を、それぞれ少しでも深く理解することができればと考えている。

到達目標 授業では、書かれたテキスト（原作と台本）を詳細に理解した上で、そのオペラ作品の上演映像をいくつか観る。そして、書かれたテキストが示す内容と実際の舞台上演との間に存在するずれと一致を確かめながら、演出をも含む舞台芸術としてオペラ作品を理解する。

授業計画 「オペラと文学」

第1回	オペラの歴史とオルペウスの物語	事前 主要なオペラ作品のつくられた時期とその作曲家について調べる。 事後 配布するプリントのオウィディウス『変身物語』抜粋を読み、講義内容を整理する。	120 分 150 分
第2回	モンテヴェルディの『オルフェオ』	事前 モンテヴェルディとその作品『オルフェオ』について調べる。 事後 『オルフェオ』にみられる「音楽の力」の3つの表現についてまとめる。	120 分 150 分
第3回	ポーマルシェとは誰か？	事前 ポーマルシェの戯曲『セビーリヤの理髪師』と『フィガロの結婚』のあらすじを調べる。 事後 教室で観る戯曲『フィガロの結婚』の舞台映像について感想をまとめる。	120 分 150 分
第4回	『フィガロの結婚』を読む（前半）	事前 ポーマルシェの戯曲『フィガロの結婚』第1幕と第2幕を読む。 事後 教室で観るモーツァルト『フィガロの結婚』の映像について感想をまとめる。	120 分 150 分
第5回	『フィガロの結婚』を読む（後半）	事前 ポーマルシェの戯曲『フィガロの結婚』第3幕～第5幕を読む。 事後 教室で観るモーツァルト『フィガロの結婚』の映像について感想をまとめる。	120 分 150 分
第6回	ドン・ファン神話の系譜	事前 配布するモリエール『ドン・ジュアン』抜粋を読み、ここに見られる2つの言語観を考察する。 事後 教室で観るモリエール『ドン・ジュアン』の舞台映像について感想をまとめる。	120 分 150 分
第7回	シャルロットからツェルリーナへ	事前 配布するプリントでモーツァルト『ドン・ジョヴァンニ』のオペラ台本抜粋を読む。 事後 教室で観るモーツァルト『ドン・ジョヴァンニ』の映像について感想をまとめる。	120 分 150 分
第8回	ラクロとモーツァルト	事前 ラクロ『危険な関係』とモーツァルト『コシ・ファン・トゥッテ』のあらすじを調べる。 事後 教室で観るモーツァルト『コシ・ファン・トゥッテ』の映像について感想をまとめる。	120 分 150 分
第9回	視覚の文化としての19世紀：バルザックとマイヤペーア	事前 バルザックの小説作品とマイヤペーアのオペラ作品についてその概要を調べておく。 事後 教室で観るマイヤペーア『悪魔のロベール』の映像について感想をまとめる。	120 分 150 分
第10回	小説の構造：マノン・カルメン・椿姫	事前 小説作品『マノン・レスコー』、『カルメン』、『椿姫』のあらすじを調べる。 事後 3つの小説に共通する語りと回想の構造という点を中心に講義内容をまとめる。	120 分 150 分
第11回	『椿姫』を読む（前半）	事前 配布するプリントでデュマ・フィスの小説『椿姫』抜粋を読む。 事後 教室で観るデュマ・フィスの戯曲『椿姫』の舞台映像について感想をまとめる。	120 分 150 分
第12回	『椿姫』を読む（後半）	事前 配布するプリントでオペラ作品の構成を理解しておく。 事後 教室で観るヴェルディ『ラ・トラヴィアータ』の映像について感想をまとめる。	120 分 150 分
第13回	サロメとオリエンタリズム	事前 ヨーロッパ美術の中に見られるさまざまなサロメのイメージを調べる。 事後 19世紀末になぜ「運命の女」としてのサロメのイメージがあらわれたのかを考える。	120 分 150 分
第14回	『サロメ』を読む	事前 オスカー・ワイルドの戯曲『サロメ』を読んでおく。 事後 配布するプリントでオスカー・ワイルド『サロメ』の舞台映像について感想をまとめる。	120 分 150 分
第15回	『ヘロディア』を読む	事前 配布するプリントでフローベール『ヘロディア』の抜粋を読んでおく。 事後 教室で観る R. シュトラウス『サロメ』の映像について感想をまとめる。	120 分 150 分

フィードバック 授業時に提出する Reaction Paper にコメントを付して返却する。

成績評価 成績の評価は、平常点 30%と学期末に提出するレポート 70%による。

テキスト 教科書は特に用いないが、講義の中で、参考文献を適宜指示する。

オフィスアワー 授業後教室にて。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

イギリス文化と芸術

教授 石橋明佳

科目コード: HUM202

対象コース/専門/学年: 全コース/全専門/2~4 年次

形態: 講義

単位数: 2 単位

概要 イギリス音楽の理解を深めるために、イギリスの文化や音楽以外の芸術に関する事柄を講義する。音源・映像資料（スライドと動画）を使いきるだけ幅広くイギリスについて解説すると共に、イギリス文化に関する英語表現を紹介する。

- 到達目標**
- ・イギリス文化に関する知識を習得する。
 - ・イギリス音楽の文化的・民族的背景に関する知識を習得する。
 - ・イギリス文化に関する英語表現を習得する。

授業計画

【AL】

回	内容	事前	事後	単位数
第1回	ガイダンス：授業の流れの詳細と受講に関する注意 イギリスの基本情報	テキスト全体に目を通しておく	テキスト第1章の課題を行うこと	150分 120分
第2回	イギリスの社会構造の特質	テキスト第2章を読み、その概要を掴むこと	テキスト第2章の課題を行うこと	80分 190分
第3回	イギリスの思想・文化の伝統と特質	テキスト第3章を読み、その概要を掴むこと	テキスト第3章の課題を行うこと	80分 190分
第4回	日本とイギリスの関係	テキスト第4章を読み、その概要を掴むこと	テキスト第4章の課題を行うこと	80分 190分
第5回	イギリスの文学1：児童文学	テキスト第5章を読み、その概要を掴むこと	テキスト第5章の課題を行うこと	80分 190分
第6回	イギリスの文学2：詩・小説	テキスト第6章を読み、その概要を掴むこと	テキスト第6章の課題を行うこと	80分 190分
第7回	イギリスの演劇	テキスト第7章を読み、その概要を掴むこと	テキスト第7章の課題を行うこと	80分 190分
第8回	イギリスの宗教	テキスト第8章を読み、その概要を掴むこと	テキスト第8章の課題を行うこと	80分 190分
第9回	イギリスの美術	テキスト第9章を読み、その概要を掴むこと	テキスト第9章の課題を行うこと	80分 190分
第10回	イギリスの音楽と文化的背景1：最初期	テキスト第10章を読み、その概要を掴むこと	テキスト第10章の課題を行うこと	80分 190分
第11回	イギリスの音楽と文化的背景2：中世〜ルネサンス	テキスト第11章を読み、その概要を掴むこと	テキスト第11章の課題を行うこと	80分 190分
第12回	イギリスの音楽と文化的背景3：バロック〜古典	テキスト第12章を読み、その概要を掴むこと	テキスト第12章の課題を行うこと	80分 190分
第13回	イギリスの音楽と文化的背景4：ロマン派〜現代	テキスト第13章を読み、その概要を掴むこと	テキスト第13章の課題を行うこと	80分 190分
第14回	イギリスの音楽と文化的背景5：民謡とポピュラー音楽	テキスト第14章を読み、その概要を掴むこと	テキスト第14章の課題を行うこと	80分 190分
第15回	まとめ	テキスト全体に目を通し、課題等やり残さないようにする	レポートのテーマを決定し、教員の許可を得て、情報収集を始める	150分 120分

フィードバック 課題やレポートは、添削やコメントで学修成果をフィードバックする。

成績評価 主に課題とレポートにより行うが、受講態度や授業外学習も評価の対象とする。レポートは全授業の中からテーマの一つを選ぶ。評価の配分は、授業に取り組む姿勢・質疑応答等で20%、授業外学習で35%、課題で45%とする。

テキスト プリント教材「イギリス文化と芸術」(約700円)

オフィスアワー 授業終了後教室にて、もしくはEメールにて相談の上、対応する sishibashi@uenogakuen.ac.jp

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発働力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				

ピアノ教育法

教授 小林英之／准教授 星子知美／准教授 干野宜大

科目コード：EDU403

対象コース／専門／学年： 器楽・演奏家コース／ピアノ専門／4 年次、GLA コース／音楽教育専門／2～4 年次

形態：実習

単位数：2 単位

概要 【星子】ピアノ学習者の年齢層、学習環境、目的などは年々多様化しており、指導にも柔軟性や工夫が必要となってきた。この授業では様々なケースについて留意点を整理し問題解決法を考案しながら、指導の可能性について考える。
 【小林】古楽についての知識や考え方を、ピアノ教育にどのように取り入れるか、実践を通じて考察する。
 【干野】自信を持って後進へのアドバイスの出来るように、楽譜の中の作曲家のメッセージを的確に読み取れるように考え研究していく。

到達目標 【星子】ピアノ教育についての知識を会得し、自ら考察して、実践的なピアノ指導の力を養う。
 【小林】ピアノ音楽の歴史的な成り立ちを理解した上で、教育に活かせるようにする。
 【干野】音楽やピアノへの親しみや喜びを後進に伝えるという事は、ピアノ教育導入時を含め大きな責任をとらなう。しっかりとした理由と音楽への理解を指導者が持っている事の大切さの認識と自覚を授業を通して養っていく。

授業計画

【AL】

第1回	【星子】ピアノ教育の留意点と導入・初心者の指導	事前 自分が受けてきたピアノ教育について様々な視点で考え、使用した教材を見直す 事後 指導者の役割、教育の目的について考える	135 分 135 分
第2回	【星子】読譜・技術訓練・奏法・表現と教材研究①幼児	事前 幼児の指導において着眼すべき点を考え、教材・課題を予習する 事後 授業前の自分の考えをふり返り、授業の内容を基に指導の方法をシミュレーションする	135 分 135 分
第3回	【星子】読譜・技術訓練・奏法・表現と教材研究②中級	事前 中級者の指導において着眼すべき点を考え、教材・課題を予習する 事後 授業前の自分の考えをふり返り、授業の内容を基に指導の方法をシミュレーションする	135 分 135 分
第4回	【星子】読譜・技術訓練・奏法・表現と教材研究③上級	事前 上級者の指導において着眼すべき点を考え、教材・課題を予習する 事後 授業前の自分の考えをふり返り、授業の内容を基に指導の方法をシミュレーションする	135 分 135 分
第5回	【星子】ピアノ教室開室と運営	事前 ピアノ教室開室と運営の方法と可能性を考えておく 事後 これまでの授業をふり返り、指導の可能性をまとめる	135 分 135 分
第6回	【小林】ピアノと古楽	事前 古楽とは？ 古楽的な考え方とは？ 事後 ピアノを教える際に「古楽的な考え方」の取り入れ方を考えてみる。	135 分 135 分
第7回	【小林】ピアノで演奏する古楽	事前 ピアノ発明以前の鍵盤楽器とそのレパートリーについて調べておく。 事後 バッハのチェンバロ用作品をピアノで演奏したものをいくつか聞き比べてみる。	135 分 135 分
第8回	【小林】通奏低音奏法とは（基礎）	事前 和声学の基礎を復習しておく。 事後 既習の和音記号を通奏低音の数字で置き換えてみる。	135 分 135 分
第9回	【小林】通奏低音奏法の実践	事前 与えられた課題の数字に従って、リアライズしたものを書いておく。 事後 授業中に学んだ知識を元に課題を修正する。	135 分 135 分
第10回	【小林】伴奏への応用	事前 通奏低音の数字をリアライズした市販の楽譜とオリジナルを比較する。 事後 学んだ知識を元に市販の楽譜を自分なりのものにカスタマイズする。	135 分 135 分
第11回	【干野】音楽との出会い：年齢に合わせたサポート方法を探る 奏法（力の伝達等）の指導法について	事前 講義後に授業で扱った楽曲、又は自分が勉強中の楽曲で実践する 事後 講義前に伝えた楽曲の楽譜を準備し、予習する	280 分 140 分
第12回	【干野】音楽上の文法(1) の理解	事前 講義内容の復習と演奏上でそれがどう反映するかを確認する 事後 前回の講義で理解した事を第三者にどのように伝えられるかをシミュレーションする	140 分 140 分
第13回	【干野】音楽上の文法(2) の指導法を考える	事前 講義前にシミュレーションした指導法が的確であったかどうかを考える 事後 講義前に伝えた楽曲の楽譜を用いて第3回までの内容を復習する	140 分 140 分
第14回	【干野】楽譜を読み解く：作曲家の意図、理由と方法を導く	事前 実践的なレッスンをシミュレーションし、アドバイスすべき内容をある程度決めておく 事後 全5回の講義の内容をまとめ、自らのピアノ実技に役立てていく	140 分 140 分

フィードバック 【星子】授業での課題とレポートについて、コメント及び解説等により学修成果をフィードバックする。
 【小林】授業内で書いたレポートに対し、コメントによりフィードバックする。
 【干野】レポート（全5回の講義を経て学んだ事について）を課し、コメントによりフィードバックする。

成績評価 ※小林教授、星子准教授、干野准教授による総合評価。
 授業への取り組み方、授業態度等による。

テキスト 【星子】随時授業内で発表
 【小林】必要に応じてプリントを配布する
 【干野】その都度例に取り上げる楽曲を発表

オフィスアワー 授業終了後教室にて

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>				

最新ピアノ指導者育成講義

准教授 安田正昭／客員教授 宮澤功行／客員教授 碓井俊樹／教授 小林英之

科目コード：EDU206

対象コース／専門／学年： 器楽・演奏家コース／ピアノ専門／2 年次

形態：講義

単位数：2 単位

概要 4人の教員がそれぞれの専門的立場からピアノ教育について独自の方法論を講義する。実習・レポートなどを通じて、現代に求められるピアノ教育者としてのあり方を考察し、同時にピアノ指導者としての基本を身につける。なお、担当教員が実際に実験的な演奏会として行ってきた中から学生諸君が世の中に出て活動を開始した際に、即役に立つものを観て聴いてもらう機会も設ける。

到達目標 「優れたピアノ演奏」のためのピアノ指導法はピアノという楽器以前の鍵盤楽器の時代から非常に重要視され、大切に継承されてきた。そのような伝統的スタイルを尊重しながら、これからの時代に求められる新しいピアノ指導法を多角的な角度から実際の方法を提案する最先端の指導法を目指す。

授業計画 4人の教員が分担して講義する。

【AL】			
第1回	【安田】名教師に学ぶⅠ（コルトー、フィッシャー、ギーゼキング その他）	事前 取り上げる3人のピアニストの名前を覚えておく 事後 授業内容を各自実践する	20分 80分
第2回	【安田】名教師に学ぶⅡ（安川加寿子、中山靖子 その他）	事前 大正、昭和の日本の音楽史を調べておく 事後 配布する資料などをよく理解する	30分 70分
第3回	【安田】フランスの音楽教育（エコールノルマル、コンセルヴァトワールの場合）	事前 フランス近代音楽について調べておく 事後 授業内容を各自実践する	30分 70分
第4回	【安田】初見アンサンブルを用いた実習	事前 初見視奏の練習をしておく 事後 取り上げた曲をさらに深める	30分 70分
第5回	【碓井】諸外国におけるピアノ指導法とメソッド活用	事前 日本も含めた各国のピアノ指導法とメソッドを調べる 事後 生徒自らの今後の勉強も含め、将来の指導のためにも情報を知る	135分 135分
第6回	【碓井】諸外国におけるピアノ事情と演奏法	事前 各国のピアノマーケットとピアノに対する意識を調べる 事後 情報に基づきピアノ演奏法と情報を自らに蓄積する	135分 135分
第7回	【碓井】諸外国におけるピアノ音楽教室運営	事前 各国のピアノ音楽教室の情報をインターネットでリサーチする 事後 膨大な音楽教室情報を処理し自らに役立てる	135分 135分
第8回	【碓井】国際音楽コンクールの活用とピアノ指導法	事前 多くの国際音楽コンクール情報をリサーチする 事後 今後の自らの勉強や将来のイメージを図る	135分 135分
第9回	【小林】ピアノのない時代（バッハ以前）の鍵盤音楽	事前 興味のある、バッハ以前の作曲家と作品を挙げておく。 事後 授業中、特に興味を持った作曲家と作品について調べる。	60分 90分
第10回	【小林】対位法による音楽	事前 対位法とは？ 事後 既習のピアノ作品から対位法的部分をチェックしてみる。	60分 90分
第11回	【小林】バッハの鍵盤音楽	事前 バッハの鍵盤作品をリストアップしておく。 事後 授業で取り上げた作品を異なる楽器の演奏で聞いてみる。	60分 90分
第12回	【小林】19世紀以降のオルガン音楽	事前 19、20世紀のオルガン音楽を知っている範囲で挙げておく。 事後 計4回の授業内容をまとめておく。	60分 90分
第13回	【宮澤】バロック音楽の演奏法と演奏解釈	事前 課題曲の譜読みをする 事後	280分
第14回	【宮澤】バロック時代の音楽修辞学	事前 事後 音楽修辞学を取り入れた指導法を考える	280分
第15回	【宮澤】ロマン派や近現代作品における試み	事前 課題曲の譜読みをする 事後 感覚を働かせて独自の表現手法を確立していく	140分 140分

フィードバック レポートについて講評をつけ、理解度への評価をフィードバックする。
今年度の各種ピアノコンクール課題曲の中から学生が選曲した曲について、実演つきのレッスンをを行い、アドバイスをすることでフィードバックを行う。

成績評価 平常の取り組み 10%、レポート 90%

テキスト

オフィスアワー 授業後に対応。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性							
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	

室内楽Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ

※注※器楽での履修に限る

准教授 池田雄彦／准教授 安田正昭／客員教授 森田格／准教授 櫻井茂
 ／非常勤講師 海保泉／非常勤講師 安原三保子

科目コード：ENS118／ENS218
 ENS318

対象コース／専門／学年：器楽・声楽コース／全専門／2～4年次 グローバル教養コース／全専門／2～4年次（但し賛助として参加する場合は、学年、コースを問わない）

形態：実習 単位数：2単位

概要 「室内楽」は、あらゆる合奏形態の核になるものであり、各楽器間のコミュニケーション、アンサンブルの基礎技術等をグループを組んで履修する学生が受け身でなく、能動的に習得していく授業である。

到達目標 器楽を専門とする学生または同等程度の器楽演奏の実力を有する他専門の学生を対象として、原則3以上のグループによって行う。各楽器間のコミュニケーションやアンサンブルの技術は様々な形態の合奏において基本になるものであり、そのエッセンスを学んでいく。作品解釈のコンセプト統一やアンサンブルの精度を磨くこと、パートごとのコミュニケーション等の室内楽の本質的なことが、授業以上に各グループ学生間の日頃の練習にかなりの部分が委ねられている。この室内楽授業では、一人ひとりが受け身でなく、主体的な態度で取り組むことが望まれる。

授業計画 4月22日(月)12:00～第1リハーサル室(10F1012)のガイダンスには、予めグループ(3人以上)を編成した上で、全員が参加すること。【備考】15回の授業を原則個人レッスンとして行い、前期、後期に各1回ある集中授業参加により、個人レッスン各3回分、計6回受講したことと見なす。よって集中授業参加の場合、残り9回の個人レッスン受講によって試験を受ける資格を得る。各回の授業内容に関しては受講グループによって異なるので、詳細はグループごとにガイダンスの際に計画していく。(前期集中授業 6/29(土)：後期集中授業 10/26(土) 単位認定演奏会 11/27(水))

第1回	A～F各グループ(6グループの履修を仮定)で 選んだ作品の全体俯瞰と目標設定をする。	事前 選んだ作品の時代背景、様式、作曲者に関して調べる。 事後 最初の授業(レッスン)で指摘されたポイントを復習	140分 140分
第2回	各作品、各楽章ごとの問題点諸々を抽出する。	事前 各グループ内で問題点を考察 事後 レッスンで指摘された問題点をピックアップして練習	140分 140分
第3回	第1楽章のアンサンブル上での技術的問題、表現の工夫等考察する。	事前 第1楽章のアンサンブル上の問題を練習する。 事後 アンサンブル上の技術課題に加えて、表現の工夫をする。	140分 140分
第4回	第2楽章のアンサンブル上での技術的問題、表現の工夫等考察する。	事前 第2楽章のアンサンブル上の問題を練習する。 事後 アンサンブル上の技術課題に加えて、表現の工夫をする。	140分 140分
第5回	前期集中授業(マスタークラス方式で公開演奏/A,Bグループ)	事前 A,Bグループ、公開演奏ということ踏まえ、アンサンブル技術の練磨、表現を研究する。 事後 公開演奏の反省(アンサンブル技術、表現共に)	140分 140分
第6回	前期集中授業(マスタークラス方式で公開演奏/C,Dグループ)	事前 C,Dグループ、公開演奏ということ踏まえ、アンサンブル技術の練磨、表現を研究する。 事後 公開演奏の反省(アンサンブル技術、表現共に)	140分 140分
第7回	前期集中授業(マスタークラス方式で公開演奏/E,Fグループ)	事前 D,Eグループ、公開演奏ということ踏まえ、アンサンブル技術の練磨、表現を研究する。 事後 公開演奏の反省(アンサンブル技術、表現共に)	140分 140分
第8回	第3楽章のアンサンブル上での技術的問題、表現の工夫等考察する	事前 第3楽章のアンサンブル上の問題を練習する。 事後 アンサンブル上の技術課題に加えて、表現の工夫をする。	140分 140分
第9回	第4楽章のアンサンブル上での技術的問題、表現の工夫等考察する。	事前 第4楽章のアンサンブル上の問題を練習する。 事後 アンサンブル上の技術課題に加えて、表現の工夫をする。	140分 140分
第10回	第1,2楽章の復習	事前 第3,4回の授業を踏まえて、より高度な表現を目指す。 事後 全楽章の中での第1,2楽章の位置づけを認識して諸問題を解決する。	140分 140分
第11回	第3,4楽章の復習	事前 第8,9回の授業を踏まえて、より高度な表現を目指す。 事後 全楽章の中での第3,4楽章の位置づけを認識して諸問題を解決する。	140分 140分
第12回	後期集中授業(マスタークラス方式で公開演奏/A,Bグループ)	事前 第5回集中授業で得られた課題を中心に問題解決をしていく。 事後 全楽章を通して、各楽章の性格付けを明確にし、技術・表現共に高いレベルを目指す。	140分 140分
第13回	後期集中授業(マスタークラス方式で公開演奏/C,Dグループ)	事前 第6回集中授業で得られた課題を中心に問題解決をしていく。 事後 全楽章を通して、各楽章の性格付けを明確にし、技術・表現共に高いレベルを目指す。	140分 140分
第14回	後期集中授業(マスタークラス方式で公開演奏/E,Fグループ)	事前 第7回集中授業で得られた課題を中心に問題解決をしていく。 事後 全楽章を通して、各楽章の性格付けを明確にし、技術・表現共に高いレベルを目指す。	140分 140分
第15回	全楽章仕上げ及びまとめ(単位認定演奏会)	事前 演奏会本番に向けた演奏内容の調整 事後 本番演奏後の課題(演奏内容、ステージの立ち居振る舞い他)の反省を行う。	140分 140分

フィードバック 各グループは、単位認定演奏会を通して、授業(レッスン)で課されたことを学修成果としてフィードバックされる。

成績評価 11月27日(水)の単位認定演奏会の演奏によって、履修者一人一人を評価する。

テキスト 受講曲目に関してパート譜はグループごとに準備し、スコアは授業開始までに担当教員分をコピーし、教務課に提出すること。受講曲目は、原則としてガイダンス又は授業開始前の相談で決めた作品で一年間演習する。やむを得ない事情で曲目を変更する場合、予め相談すること。相談なしでの変更は認めない。

オフィスアワー 授業終了後

備考 原則として、賛助も含めて学部学生によってグループを編成すること。ガイダンス以前のグループ編成、曲目等に関する相談は上記オフィスアワーにて行う。また曲目について確定していない場合、ガイダンスの間でも相談可能。なお、ガイダンスに不参加のグループは履修を認めない。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・目的意識	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

オーケストラ I-1・II-1・III・IV

非常勤講師 清水醒輝／准教授 池田雄彦 ほか

科目コード：ENS120／ENS219
ENS319／ENS416

対象コース／専門／学年： 器楽・演奏家コース／全専門／1～4 年次

形態：実習 単位数：1 単位

概要 管弦打楽器による最大の合奏形態が「オーケストラ」であり、古今東西、大作曲家たちが多種多様な作品を残している。オーケストラの授業を通して、様々な作品の時代様式、作曲技法、また、管弦打各楽器の奏法の技術、アンサンブルのエッセンス等、器楽演奏芸術の全てが学べると言っても過言ではない。

到達目標 アンサンブルにおいての個々の能力の向上、又全体としてはアンサンブルにおいての質の向上にアプローチする。学生には、オーケストラ現場でのより実践的なテクニックを各オーケストラ担当教員を通じて、学んで頂きたい。

授業計画 オーケストラ演奏技術の習得のみならず、作品への深い理解と知識を通して、常に創造的なイメージを持って、楽曲に取り組む。今年度は、ロッシェニ：オペラ「泥棒かささぎ」序曲、ファリャ：バレエ「三角帽子」から第2組曲、ヒンデミット：ウェーバーの主題による交響的変容、の作品を中心に演習し、授業の成果発表の場として3回の演奏会を予定している。なお新年度からはオーケストラスタディ（管打のみ）との連動プログラムを計画しており、以下の曲目を予定の授業計画の進捗状況を鑑み、並行して演習していく。

【AL】		事前	事後	50分
第1回	ガイダンス ヒンデミット全体譜読み	初回に音出しするヒンデミットの譜読み、作品に関する知識を習得しておく。	ガイダンス中のオーケストラ授業履修で心掛けること他、注意ポイントを再度確認、認識する。	50分
第2回	ロッシェニ全体譜読み／ファリャ（第2組曲）全体譜読み	ロッシェニ、ファリャの譜読み、作品に関する知識を習得しておく。	作品全体を俯瞰した今回の授業での問題点を認識、復習をする。	50分
第3回	ファリャ（第2組曲前半）／ヒンデミット（Ⅰ、Ⅱ）	前回、前々回大きく概観した作品の中、今回授業で取り上げる部分の技術課題の予習、練習をする。	授業での問題点、課題を復習する。	50分
第4回	ロッシェニ／ヒンデミット（Ⅲ、Ⅳ）	ロッシェニ、ヒンデミット（Ⅲ、Ⅳ）での技術課題の予習、練習をする。	授業での問題点、課題を復習する。	50分
第5回	分奏（ロッシェニ、ファリャ、ヒンデミットから抜粋して実施）	弦楽器と管打楽器に分れての授業に先立ち、各セクションの問題点、課題に応じた予習をする。	セクションごとの問題点、課題を復習する。	50分
第6回	ファリャ（第2組曲後半）／ヒンデミット（Ⅰ、Ⅱ）	ファリャ（第2組曲後半）とヒンデミット（Ⅰ、Ⅱ）の技術課題の予習、練習をする。	授業での問題点、課題を復習する。	50分
第7回	ロッシェニ／ヒンデミット（Ⅲ、Ⅳ）	ロッシェニ、ヒンデミット（Ⅲ、Ⅳ）の技術課題の予習、練習をする	授業での問題点、課題を復習する。	50分
第8回	ファリャ（第2組曲前半）／ヒンデミット（Ⅰ、Ⅱ）	ファリャ（第2組曲前半）、ヒンデミット（Ⅰ、Ⅱ）、アンサンブルの問題を考察、予習をする。	授業での問題点、課題を復習する。	50分
第9回	分奏（ロッシェニ、ファリャ、ヒンデミットから抜粋して実施）	弦楽器と管打楽器に分れての授業に先立ち、各セクションの問題点、課題に応じた予習をする	セクションごとの問題点、課題を復習する。	50分
第10回	ロッシェニ／ヒンデミット（Ⅲ、Ⅳ）	ロッシェニ、ヒンデミット（Ⅲ、Ⅳ）のアンサンブル上の問題を考察、予習をする。	授業での問題点、課題を復習する。	50分
第11回	ファリャ（第2組曲後半）／ヒンデミット（Ⅰ、Ⅱ）	ファリャ（第2組曲後半）、ヒンデミット（Ⅰ、Ⅱ）のアンサンブル上の問題を考察、予習をする。	授業での問題点、課題を復習する。	50分
第12回	ロッシェニ／ヒンデミット（Ⅲ、Ⅳ）	ロッシェニ、ヒンデミット（Ⅲ、Ⅳ）のアンサンブル上の問題を考察、予習をする。	授業での問題点、課題を復習する。	50分
第13回	分奏（ロッシェニ、ファリャ、ヒンデミットから抜粋して実施）	弦楽器と管打楽器に分れての授業に先立ち、各セクションの問題点、課題に応じた予習をする。	セクションごとの問題点、課題を復習する	50分
第14回	ファリャ（第2組曲前半）／ロッシェニ／ヒンデミット（Ⅰ、Ⅱ）	ファリャ、ロッシェニ、ヒンデミットの技術面以外の表現ニュアンス等を含めて考察、予習をする。	授業での問題点、課題を復習する。	50分
第15回	協奏曲（第1楽章）（曲目未定、7/1 オーディションにより確定）	本日から演習する協奏曲の譜読み、技術課題の認識、作品知識の習得をしておく。	授業での問題点、課題を復習する。	50分

フィードバック オーケストラ授業の場合、授業の成果として今年度3回の演奏会によって多種課題はフィードバックされる。

成績評価 平常点により評価する。

テキスト スコア（予め各自で用意しておくこと）
ロッシェニ：オペラ「泥棒かささぎ」序曲
ファリャ：バレエ「三角帽子」から第2組曲
ヒンデミット：ウェーバーの主題による交響的変容
（ファリャ、ヒンデミットは輸入版のみで、手に入りにくい場合、相談のこと。授業計画記載の連動プログラム曲目もスコアを用意しておくこと）

オフィスアワー 質問などは、授業ほか、終了時に対応する。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

オーケストラ I-2・II-2・III・IV

非常勤講師 清水醜輝／准教授 池田雄彦 ほか

科目コード：ENS121／ENS220
ENS320／ENS417

対象コース／専門／学年： 器楽・演奏家コース／全専門／1～4年次

形態：実習

単位数：1単位

概要 管弦打楽器による最大の合奏形態が「オーケストラ」であり、古今東西、大作曲家たちが多種多様な作品を残している。オーケストラの授業を通して、様々な作品の時代様式、作曲技法、また、管弦打各楽器の奏法の技術、アンサンブルのエッセンス等、器楽演奏芸術の全てが学べると言っても過言ではない。

到達目標 アンサンブルにおいての個々の能力の向上、又全体としてはアンサンブルにおいての質の向上にアプローチする。学生には、オーケストラ現場でのより実践的なテクニックを各オーケストラ担当教員を通じて、学んで頂きたい。

授業計画 オーケストラ演奏技術の習得のみならず、作品への深い理解と知識を通して、常に創造的なイメージを持って、楽曲に取り組む。今年度は、ロッシェニ：オペラ「泥棒かささぎ」序曲、ファリャ：バレエ「三角帽子」から第2組曲、ヒンデミット：ウェーバーの主題による交響的変容、の作品を中心に演習し、授業の成果発表の場として3回の演奏会を予定している。なお新年度からはオーケストラスタディ（管打のみ）との連動プログラムを計画しており、以下の曲目を予定の授業計画の進捗状況を鑑み、並行して演習していく。

連動プログラム（予定）

ベートーヴェン：交響曲第4番 変ロ長調 Op.60、ベルリオーズ：幻想交響曲 Op.14 から第2楽章、

スメタナ：交響詩「わが祖国」から「高い城」「モルダウ」、シューベルト：交響曲第7番 ロ短調 “未完成”

【AL】

第1回	ロッシェニ/ヒンデミット（Ⅲ、Ⅳ）／協奏曲（第2楽章）	事前	本日予定の演習曲の技術面以外の表現ニュアンス等を含めて考察、予習をする。	50分
		事後	授業での問題点、課題を復習する。	50分
第2回	ロッシェニ、ファリャ（第2組曲後半）／ヒンデミット（Ⅰ、Ⅱ）／協奏曲（第3楽章）	事前	本日予定の演習曲の技術面以外の表現ニュアンス等を含めて考察、予習をする。	50分
		事後	授業での問題点、課題を復習する。	50分
第3回	定期演奏会リハーサル （ロッシェニ/ファリャ/ヒンデミット/協奏曲）	事前	技術と表現の融合を目指し、セクション及び全体でのアンサンブルの問題を解決する（Ⅰ）	50分
		事後	演奏会本番に向けての課題を認識する（Ⅰ）	50分
第4回	定期演奏会リハーサル （ロッシェニ/ファリャ/ヒンデミット/協奏曲）	事前	技術と表現の融合を目指し、セクション及び全体でのアンサンブルの問題を解決する（Ⅱ）	50分
		事後	演奏会本番に向けての課題を認識する（Ⅱ）	50分
第5回	定期演奏会リハーサル （ロッシェニ/ファリャ/ヒンデミット/協奏曲）	事前	技術と表現の融合を目指し、セクション及び全体でのアンサンブルの問題を解決する（Ⅲ）	50分
		事後	演奏会本番に向けての課題を認識する（Ⅲ）	50分
第6回	定期演奏会リハーサル （ロッシェニ/ファリャ/ヒンデミット/協奏曲）	事前	技術と表現の融合を目指し、セクション及び全体でのアンサンブルの問題を解決する（Ⅳ）	50分
		事後	演奏会本番に向けての課題を認識する（Ⅳ）	50分
第7回	オーケストラ定期演奏会 （ロッシェニ/ファリャ/ヒンデミット/協奏曲）	事前	今までの練習してきたことのとまとめと問題ポイントを絞り、練習をする。	50分
		事後	授業と異なる公開演奏の際の諸問題を認識する（Ⅰ）	50分
第8回	音大オーケストラフェスティバル演奏会 （ファリャ/ヒンデミット）	事前	オーケストラ定期演奏会本番の課題、問題点を認識する。	50分
		事後	授業と異なる公開演奏の際の諸問題を認識する（Ⅱ）	50分
第9回	協奏曲演奏会曲目（Ⅰ～Ⅳ）全体譜読み （曲目未定、10/5 オーディションにより確定）	事前	各協奏曲作品についての知識を習得と譜読みをしておく。	50分
		事後	セクションごとの問題点、課題を復習する。	50分
第10回	協奏曲演奏会曲目前半（Ⅰ、Ⅱ） 合奏	事前	協奏曲プログラム前半曲の技術課題の認識と予習、練習をする。	50分
		事後	セクションごとの問題点、課題を復習する。	50分
第11回	協奏曲演奏会曲目後半（Ⅲ、Ⅳ） 合奏	事前	協奏曲プログラム後半曲の技術課題の認識と予習、練習をする。	50分
		事後	セクションごとの問題点、課題を復習する。	50分
第12回	協奏曲演奏会 前半（Ⅰ、Ⅱ） 分奏	事前	協奏曲前半作品の分奏授業に先立ち、各セクションの問題点、課題に応じた予習をする。	50分
		事後	セクションごとの問題点、課題を復習する。	50分
第13回	協奏曲演奏会 後半（Ⅲ、Ⅳ） 分奏	事前	協奏曲後半作品の分奏授業に先立ち、各セクションの問題点、課題に応じた予習をする。	50分
		事後	セクションごとの問題点、課題を復習する。	50分
第14回	協奏曲演奏会リハーサル（Ⅰ～Ⅳ）	事前	協奏曲におけるソロ楽器との、またオーケストラ内のアンサンブルの問題を考察、予習をする。	50分
		事後	授業での問題点、課題を復習する。	50分
第15回	協奏曲演奏会（Ⅰ～Ⅳ）	事前	今までの練習してきた協奏曲作品のまとめと問題ポイントを絞り、練習をする。	50分
		事後	演奏会本番時のリストとのアンサンブルの問題等を振り返り、問題点を認識する。	50分

フィードバック オーケストラ授業の場合、授業の成果として今年度3回の演奏会によって多種課題はフィードバックされる。

成績評価 平常点により評価する。

テキスト スコア（予め各自で用意しておくこと）
ロッシェニ：オペラ「泥棒かささぎ」序曲
ファリャ：バレエ「三角帽子」から第2組曲
ヒンデミット：ウェーバーの主題による交響的変容
（ファリャ、ヒンデミットは輸入版のみで、手に入りにくい場合、相談のこと。授業計画記載の連動プログラム曲目もスコアを用意しておくこと）

オフィスアワー 質問などは、授業ほか、終了時に対応する。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

ウィンド・アンサンブル I-1・II-1・III・IV

非常勤講師 齋藤勇二 ほか

科目コード：ENS122／ENS221
ENS321／ENS418

対象コース／専門／学年：全コース／全専門／1～4 年次

形態：実習

単位数 1 単位

概要 多人数での、また管楽器・打楽器での同属楽器の協調し易い合奏の中で、1 奏者としての役割を経験し、音の響きや音楽の内容をより広く経験し、個人の技量をも高めることに寄与する。

到達目標 年 2 回の公開演奏会に向け、授業時間をその練習に当て、担当教員の指導と履修生達の研鑽により演奏の向上をはかり、聴衆にその成果を問うことを目標とする。

授業計画 履修希望の学生は授業の性格上、遅刻や欠席が授業の進め方や全体の音楽作りに多大な迷惑をかける事を知った上で、自覚と心得を持って授業に取り組む事。無断欠席は絶対に認めない。履修学生は授業内容に沿った個人練習（予習、復習）の実践を必要不可欠とする。演奏会や発表会がある場合、その編成により出演者数を減らす事もある。その場合出席率などで考慮する。専門以外の学生も授業担当教員が認めた学生は履修できる。

第 1 回	リード「アレレヤ・ラウダムス・テ」	事前 課題曲の楽語を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50 分 50 分
第 2 回	グレンジャー「コロニアル・ソング」	事前 課題曲の楽語を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50 分 50 分
第 3 回	ミヨー「フランス組曲」	事前 課題曲の楽語を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50 分 50 分
第 4 回	モーツァルト「魔笛序曲」	事前 課題曲の楽語を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50 分 50 分
第 5 回	カバレフスキー「道化師組曲」	事前 課題曲の楽語を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50 分 50 分
第 6 回	チャイコフスキー「幻想序曲 ロミオとジュリエット」	事前 課題曲の楽語を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50 分 50 分
第 7 回	リード「アレレヤ・ラウダムス・テ」	事前 課題曲二回目になるのでさらに譜読みを徹底する事。 事後 指摘された箇所の反復練習。	50 分 50 分
第 8 回	グレンジャー「コロニアル・ソング」	事前 課題曲二回目になるのでさらに譜読みを徹底する事。 事後 指摘された箇所の反復練習。	50 分 50 分
第 9 回	ミヨー「フランス組曲」	事前 課題曲二回目になるのでさらに譜読みを徹底する事。 事後 指摘された箇所の反復練習。	50 分 50 分
第 10 回	モーツァルト「魔笛序曲」	事前 課題曲二回目になるのでさらに譜読みを徹底する事。 事後 指摘された箇所の反復練習。	50 分 50 分
第 11 回	カバレフスキー「道化師組曲」	事前 課題曲二回目になるのでさらに譜読みを徹底する事。 事後 指摘された箇所の反復練習。	50 分 50 分
第 12 回	チャイコフスキー「幻想序曲 ロミオとジュリエット」	事前 課題曲二回目になるのでさらに譜読みを徹底する事。 事後 指摘された箇所の反復練習。	50 分 50 分
第 13 回	リード「アレレヤ・ラウダムス・テ」／グレンジャー「コロニアル・ソング」	事前 公開演奏を想定した課題曲の徹底チェックを行う事。 事後 指摘された箇所のさらなる反復練習。	50 分 50 分
第 14 回	ミヨー「フランス組曲」／モーツァルト「魔笛序曲」	事前 公開演奏を想定した課題曲の徹底チェックを行う事。 事後 指摘された箇所のさらなる反復練習。	50 分 50 分
第 15 回	カバレフスキー「道化師組曲」／チャイコフスキー「幻想序曲 ロミオとジュリエット」	事前 公開演奏を想定した課題曲の徹底チェックを行う事。 事後 指摘された箇所のさらなる反復練習。	50 分 50 分

フィードバック 音程の取り方、和音の合わせ方の取得。また、独奏曲のように各奏者（履修生達）が模範となる音源を具体的には聴けない為、自ら音楽を考え自発的な演奏を心がけるすべの取得。

成績評価 授業態度

テキスト 授業内に指示する。

オフィスアワー 授業後直ぐに対応します。予約も可能。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力

知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲	
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>					

ウィンド・アンサンブル I-2・II-2・III・IV

非常勤講師 齋藤勇二 ほか

科目コード：ENS123／ENS222
ENS322／ENS419

対象コース／専門／学年：全コース／全専門／1～4年次

形態：実習

単位数 1単位

概要 多人数での、また管楽器・打楽器での同属楽器の協調し易い合奏の中で、1奏者としての役割を経験し、音の響きや音楽の内容をより広く経験し、個人の技量をも高めることに寄与する。

到達目標 年2回の公開演奏会に向け、授業時間をその練習に当て、担当教員の指導と履修生達の研鑽により演奏の向上をはかり、聴衆にその成果を問うことを目標とする。

授業計画 履修希望の学生は授業の性格上、遅刻や欠席が授業の進め方や全体の音楽作りに多大な迷惑をかける事を知った上で、自覚と心得を持って授業に取り組む事。無断欠席は絶対に認めない。履修学生は授業内容に沿った個人練習（予習、復習）の実践を必要不可欠とする。演奏会や発表会がある場合、その編成により出演者数を減らす事もある。その場合出席率などで考慮する。専門以外の学生も授業担当教員が認めた学生は履修できる。

第1回	ロースト「コンサートマーチ アルセナール」	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50分 50分
第2回	池上敏「冥と舞」	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50分 50分
第3回	T. スミス「フェスティバル・バリエーション」	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50分 50分
第4回	三宅康弘「プロペラ飛行機」	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50分 50分
第5回	管打楽器履修学生による「協奏曲」曲目未定	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50分 50分
第6回	ドビュッシー「交響詩 海」	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50分 50分
第7回	ロースト「コンサートマーチ アルセナール」	事前 課題曲二回目になるのでさらに譜読みを徹底する事。 事後 指摘された箇所の反復練習。	50分 50分
第8回	池上敏「冥と舞」	事前 課題曲二回目になるのでさらに譜読みを徹底する事。 事後 指摘された箇所の反復練習。	50分 50分
第9回	T. スミス「フェスティバル・バリエーション」	事前 課題曲二回目になるのでさらに譜読みを徹底する事。 事後 指摘された箇所の反復練習。	50分 50分
第10回	三宅康弘「プロペラ飛行機」	事前 課題曲二回目になるのでさらに譜読みを徹底する事。 事後 指摘された箇所の反復練習。	50分 50分
第11回	管打楽器履修学生による「協奏曲」曲目未定	事前 課題曲二回目になるのでさらに譜読みを徹底する事。 事後 指摘された箇所の反復練習。	50分 50分
第12回	ドビュッシー「交響詩 海」	事前 課題曲二回目になるのでさらに譜読みを徹底する事。 事後 指摘された箇所の反復練習。	50分 50分
第13回	ロースト「コンサートマーチ アルセナール」／池上敏「冥と舞」	事前 公開演奏を想定した課題曲の徹底チェックを行う事。 事後 指摘された箇所のさらなる反復練習。	50分 50分
第14回	T. スミス「フェスティバル・バリエーション」／三宅康弘「プロペラ飛行機」	事前 公開演奏を想定した課題曲の徹底チェックを行う事。 事後 指摘された箇所のさらなる反復練習。	50分 50分
第15回	管打楽器履修学生による「協奏曲」曲目未定／ドビュッシー「交響詩 海」	事前 公開演奏を想定した課題曲の徹底チェックを行う事。 事後 指摘された箇所のさらなる反復練習。	50分 50分

フィードバック 音程の取り方、和音の合わせ方の取得。また、独奏曲のように各奏者（履修生達）が規範となる音源を具体的には聴けない為、自ら音楽を考え自発的な演奏を心がけるための取得。

成績評価 授業態度

テキスト 授業内に指示する。

オフィスアワー 授業後直ぐに対応します。予約も可能。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性							
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲	
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>					

ピアノ伴奏法 B

※教育職員免許状取得に関わる科目

教職課程を履修する者は「和楽器研究：箏／日本の伝統的な歌唱研究：箏歌」の履修も含む

准教授 安田正昭

科目コード：ENS306

対象コース／専門／学年： 器楽・声楽・演奏家コース／ピアノ専門以外の器楽・声楽専門／3 年次、GLA コース／音楽教育専門／3～4 年次

形態：演習

単位数：2 単位

概要	伴奏法 B では、日頃、伴奏をしてもらう側からのアンサンブル追求となる。 自分自身が実際に伴奏する立場になって伴奏を経験することにより、楽曲の全体像を捉える能力を養い、楽曲の理解を深めることを目的とする。伴奏の役割を分析することで、優れた伴奏に求められる諸要素を考察する。また、簡単な楽曲による初見力の育成も図っていく。
到達目標	正しい和声感・リズム感を持って、幅広いスタイルに対応できる伴奏技術を身につける。特に、教育実習や音楽教育の現場で必要とされる適応力の習得を目標とする。

授業計画

回数	内容	事前	事後	時間
第 1 回	オリエンテーション 学習計画の説明	ピアノ演奏の準備 (音階、アルペジオなど)。	各自与えられた曲の譜読みを行う。	80 分 200 分
第 2 回	日本歌曲① (滝廉太郎：荒城の月、花) ② 日本歌曲の歴史と特色を学ぶ	歌曲①の詩を読んで響きをつかんでおく。	各自与えられた曲の譜読みを行う。	110 分 170 分
第 3 回	日本歌曲 (山田耕筰：待ちぼうけ、赤とんぼ、この道 等) 演奏手法の習得	与えられた曲のメロディーと詩の内容を覚える。	各自与えられた曲の譜読みを行う。	110 分 170 分
第 4 回	日本歌曲 (椰子の実、浜辺の歌、夏の思い出 等) 表現法及び詩の解釈の追求	与えられた曲の詩の内容を調べておく。	レッスン内容の反復練習。	110 分 170 分
第 5 回	日本歌曲 (椰子の実、浜辺の歌、夏の思い出 等) 演奏手法の習得	与えられた曲のメロディーを歌えるようにする。	強きながら歌う練習をする。	110 分 170 分
第 6 回	イタリア古典歌曲 (アマリッリ、虚ろな心、カーロ・ミオ・ベン) ルネサンス、バロック時代様式の特徴を学ぶ	各自与えられた曲の譜読みを行う。	レッスン内容の反復練習。	170 分 110 分
第 7 回	イタリア古典歌曲 (アマリッリ、虚ろな心、カーロ・ミオ・ベン) 楽曲の形式及び演奏法 (読譜力を伸ばす)	初見視奏の練習をしておく。	レッスン内容の反復練習。	110 分 170 分
第 8 回	イタリア古典歌曲 (アマリッリ、虚ろな心、カーロ・ミオ・ベン) 歌曲のテキスト内容の解釈	与えられた曲の詩を音読する。	レッスン内容の反復練習。	80 分 200 分
第 9 回	イタリア古典歌曲 (アマリッリ、虚ろな心、カーロ・ミオ・ベン) 表現の掘り下げ	与えられた曲のメロディーを歌う。	強きながら歌う練習をする。	80 分 200 分
第 10 回	ドイツ歌曲 (モーツァルト、ベートーヴェンの作品) 歌とピアノ伴奏によるドイツ・リートを学ぶ	与えられた曲の譜読みを行う。	レッスン内容の反復練習。	170 分 110 分
第 11 回	ドイツ歌曲 (モーツァルト、ベートーヴェンの作品) 古典派からロマン派へ様式研究	詩の内容を調べておく。	レッスン内容の反復練習。	80 分 200 分
第 12 回	フランス歌曲 (グノー、ビゼー、フォーレなどの作品) 歌曲のテキストから音楽表現へ	与えられた曲の譜読みを行う。	レッスン内容の反復練習。	170 分 110 分
第 13 回	フランス歌曲 (グノー、ビゼー、フォーレなどの作品) 歌とピアノの楽曲における役割分析	簡単なフランス語に慣れておく。	レッスン内容の反復練習。	80 分 200 分
第 14 回	フランス歌曲 (グノー、ビゼー、フォーレなどの作品) 演奏表現の追求	演奏として全体をまとめる。	レッスン内容をよく理解する。	170 分 110 分
第 15 回	伴奏法 (仕上げとまとめ)	これまでに学んだ曲の復習を行う。	実技試験の曲を決定、練習する。	110 分 170 分

フィードバック 実技試験の場で各自に講評し、フィードバックする。

成績評価 授業への取り組み、実技試験によって総合的に評価する。(取り組み 30%、試験 70%)

テキスト 配布する履修予定に従って与えられた課題を準備し、レッスン形式で実技指導を受ける。

オフィスアワー 講義終了後、研究室で受け付ける 金 10:20～10:50

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

声楽特殊演習Ⅰ（オペラ）

教授 吉田伸昭

科目コード：IND211/IND212

対象コース/専門/学年：声楽・演奏家コース/声楽専門/3~4 年次

形態：演習

単位数 4 単位

概要 それぞれの声に合ったオペラのシーンを選び、音楽稽古を重ねた後に実際に演技を伴いながら演唱する。

到達目標 オペラは身体表現を伴った歌唱芸術である。自己を開放し、感情を外へ向かってより大きく表現する必要がある。オペラを実習することは、歌曲、オラトリオ等の演奏における表現の幅を広げることにもつながる。オペラ実習を通して舞台での基礎的な演技、発語法、表現法を身に付ける。

授業計画 (前期) モーツァルトのオペラ 「フィガロの結婚」、「コジ・ファン・トゥッテ」、「ドン・ジョヴァンニ」
(後期) ロマン派のオペラ

回	内容	事前	事後	時間
第1回	試験会 声を聴き、それぞれに合ったオペラのシーンを決める	オペラのアリア、または歌曲を各自1曲準備する	楽譜の準備をする	80分 20分
第2回	立ち方、歩き方などオペラにおける基本的な動作を学ぶ	課題となったオペラについて知識を深め、音取りをする	課題の復習	80分 20分
第3回	作品研究(前期課題)	課題となったオペラについて知識を深め、音取りを確かなものにする	立ち方、歩き方などを確かめる	80分 20分
第4回	音取り、並びにディクシオン(前期課題)	言葉の意味を調べる	発音練習	80分 20分
第5回	音取り、並びにディクシオンの確認(前期課題)	音程を確かにし、発音の練習を重ねる	授業で指摘を受けた箇所改善	60分 40分
第6回	音楽稽古(前期課題)	音楽練習を重ねる	授業で指摘を受けた箇所改善	60分 40分
第7回	音楽稽古(前期課題) 音楽的な内容を深める	音楽練習を重ねる	授業で指摘を受けた箇所改善	60分 40分
第8回	音楽稽古(前期課題) 暗譜の確認	暗譜で歌えるように音楽練習を重ねる	授業で指摘を受けた箇所改善	60分 40分
第9回	粗立稽古(前期課題)	演技プランを練る	授業で指摘を受けた箇所改善	60分 40分
第10回	立稽古(前期課題)	立稽古を重ねる	授業で指摘を受けた箇所改善	60分 40分
第11回	立稽古(前期課題) 演技の内容を深める	立稽古を重ねる	授業で指摘を受けた箇所改善	60分 40分
第12回	立稽古(前期課題) 完成度を高める	立稽古を重ねる	授業で指摘を受けた箇所改善	60分 40分
第13回	通し稽古(前期課題)	立稽古を重ねる	授業で指摘を受けた箇所改善	60分 40分
第14回	総練習(前期課題)	立稽古を重ねる	授業で指摘を受けた箇所改善	60分 40分
第15回	試演会(前期課題)	立稽古を重ねる	録画を見て良かった点、問題点を確認する	60分 40分
第16回	作品研究(後期課題)	課題となったオペラについて知識を深め、音取りをする	課題の復習	80分 20分
第17回	音取り、並びにディクシオン(後期課題)	言葉の意味を調べる	発音練習	80分 20分
第18回	音取り、並びにディクシオンの確認(後期課題)	音程を確かにし、発音の練習を重ねる	授業で指摘を受けた箇所改善	60分 40分
第19回	音楽稽古(後期課題)	音楽練習を重ねる	授業で指摘を受けた箇所改善	60分 40分
第20回	音楽稽古(後期課題) 音楽的な内容を深める	音楽練習を重ねる	授業で指摘を受けた箇所改善	60分 40分
第21回	音楽稽古(後期課題) 暗譜の確認	音楽練習を重ねる	授業で指摘を受けた箇所改善	60分 40分
第22回	粗立稽古(後期課題)	演技プランを練る	授業で指摘を受けた箇所改善	60分 40分
第23回	立稽古(後期課題)	立稽古を重ねる	授業で指摘を受けた箇所改善	60分 40分
第24回	立稽古(後期課題) 演技の内容を深める	立稽古を重ねる	授業で指摘を受けた箇所改善	60分 40分
第25回	立稽古(後期課題) 完成度を高める	立稽古を重ねる	授業で指摘を受けた箇所改善	60分 40分
第26回	通し稽古(後期課題)	立稽古を重ねる	授業で指摘を受けた箇所改善	60分 40分
第27回	通し稽古の直し(後期課題)	立稽古を重ねる	授業で指摘を受けた箇所改善	60分 40分
第28回	総練習(後期課題)	立稽古を重ねる	授業で指摘を受けた箇所改善	60分 40分
第29回	総練習の直し(後期課題)	立稽古を重ねる	授業で指摘を受けた箇所改善	60分 40分
第30回	試演会(後期課題)	立稽古を重ねる	録画を見て良かった点、問題点を確認する	60分 40分

フィードバック 前期、後期でそれぞれ試演会を実施した後、お互いでコメントし合い次回への取り組みに活かす。

成績評価 試演会での演奏 60%、授業への積極的な取り組み 40%

テキスト 各々の声、キャラクターを考慮し、モーツァルト、ロッシーニ、ドニゼッティ、ペッリーニ、ヴェルディ、プッチーニ等のオペラのシーンを選び、指示する。必要に応じてコピーを配布する。

オフィスアワー Eメール mozart-trazom@nifty.com および授業前後、教室にて。

備考 インスペクターを決め、欠席、遅刻等の事前連絡を徹底する。また、当該学年の声楽専攻の学生だけでなく、他学年の声楽専攻の学生、オペラに興味のある他の専攻学生の聴講を歓迎する。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性							
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自立的な責任力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>							

声楽特殊演習Ⅱ（ドイツ歌曲・日本歌曲）-1

教授 吉田伸昭

科目コード：IND307

対象コース／専門／学年： 声楽コース／2～4 年次、演奏家コース／声楽専門／2～4 年次

形態：演習

単位数：2 単位

概要 課題曲やそれぞれが選んだドイツ歌曲をグループレッスンの形態で演習する。

到達目標 初めてドイツ歌曲に取り組む学生を考慮し、歌唱のためのドイツ語の発音を中心に学ぶ。
比較的歌いやすい作品を選び、ドイツ語の歌唱を実践する。
それぞれの作品、作曲家、詩人への理解を深める。

授業計画 モーツァルト、シューベルト、シューマン等の歌曲の中から各受講者の声に合った曲を選び、それぞれ3～5曲を目標に学習する。

第1回	試聴会、曲決め ドイツ語の発音法 シューベルトの歌曲 ① 作品研究と歌唱実践	事前 ドイツ歌曲(初心者にはイタリア語の作品でも良い)を1曲準備する 事後 ドイツ語の発音法の復習	200分 80分
第2回	シューベルトの歌曲 ② 発音に留意し、なめらかな歌唱を目指す	事前 課題曲について調べ、音取りをする 事後 授業で指摘を受けた点を改善する	200分 80分
第3回	シューベルトの歌曲 ③ 内容を深め仕上げる	事前 課題曲の発音練習を重ねながら歌唱練習を重ねる 事後 授業で指摘を受けた点を改善する	200分 80分
第4回	モーツァルトの歌曲 ① 作品研究と歌唱実践	事前 課題曲の詩の意味に合った表現を考えながら歌唱練習を重ねる 事後 授業で指摘を受けた点を改善する	200分 80分
第5回	モーツァルトの歌曲 ② 発音に留意し、なめらかな歌唱を目指す	事前 課題曲について調べ、音取りをする 事後 授業で指摘を受けた点を改善する	200分 80分
第6回	モーツァルトの歌曲 ③ 内容を深め仕上げる	事前 課題曲の発音練習を重ねながら歌唱練習を重ねる 事後 授業で指摘を受けた点を改善する	200分 80分
第7回	シューマン、ブラームス歌曲 ① 作品研究と歌唱実践	事前 課題曲の詩の意味に合った表現を考えながら歌唱練習を重ねる 事後 授業で指摘を受けた点を改善する	200分 80分
第8回	シューマン、ブラームス歌曲 ② 発音に留意し、なめらかな歌唱を目指す	事前 課題曲について調べ、音取りをする 事後 授業で指摘を受けた点を改善する	200分 80分
第9回	シューマン、ブラームス歌曲 ③ 内容を深め仕上げる	事前 課題曲の発音練習を重ねながら歌唱練習を重ねる 事後 授業で指摘を受けた点を改善する	200分 80分
第10回	各自選択曲 ① 作品研究と歌唱実践	事前 課題曲の詩の意味に合った表現を考えながら歌唱練習を重ねる 事後 授業で指摘を受けた点を改善する	200分 80分
第11回	各自選択曲 ② 発音に留意し、なめらかな歌唱を目指す	事前 選択曲について調べ、音取りをする 事後 授業で指摘を受けた点を改善する	200分 80分
第12回	各自選択曲 ③ 内容を深め仕上げる	事前 選択曲の発音練習を重ねながら歌唱練習を重ねる 事後 授業で指摘を受けた点を改善する	200分 80分
第13回	発表会のための練習	事前 発表する曲を選び、発音、詩の内容に留意しながら歌唱練習をする 事後 授業で指摘を受けた点を改善する	200分 80分
第14回	発表会(作品研究の発表、並びに演奏)	事前 発表者と合わせを重ね発表会の準備をする 事後 録音を聴き反省	200分 80分

フィードバック 発表会後に合評し、課題を見つけた後に繋げる。

成績評価 演奏 50%、授業への積極的な取り組み 50%

テキスト 授業内で紹介、指示する。

オフィスアワー Eメール mozart-trazom@nifty.com および授業前後

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性							
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>											

声楽特殊演習Ⅱ（ドイツ歌曲・日本歌曲）-2

非常勤講師 二見忍

科目コード：IND308

対象コース／専門／声楽コース／2～4年次、演奏家コース／声楽専門／2～4年次

学年
形態：演習

単位数：4単位

概要 美しくはっきりした日本語の発音と日本歌曲の情緒から表現法を身につけるべく初期の作品から勉強する。

到達目標 ①日本語唱法の特性を知り、自然な歌唱を習得する。特に詩と音楽との関係に着目しながら日本歌曲の歌唱法を考え修得する。
②歌曲の黎明期から時代を追って様々な作曲家の作品を取り上げ、その解釈と演奏法を知る。

授業計画 以下の作曲家の作品の中から、各受講生の声、キャラクターにあったものを選択し、自然で美しい日本語歌唱に留意しながら、個々の演奏レパートリーとなるよう掘り下げていく。

【AL】

回	ガイダンス・履修計画	事前	事後	60分
第1回	ガイダンス・履修計画	事前 履修計画をたてる	事後 履修計画を確認し、準備する。配布された譜面を整理する	180分
第2回	日本歌曲黎明期の作品 日本語歌唱の基礎を学ぶ	事前 読譜し、練習する	事後 授業内での問題点を確認し、解決をはかる	140分
第3回	瀧廉太郎の作品	事前 読譜し、練習する	事後 授業内での問題点を確認し、解決をはかる	140分
第4回	中山善平・山田耕作の作品比較研究	事前 読譜し、練習する	事後 授業内での問題点を確認し、解決をはかる。詩の扱いの違いに留意	140分
第5回	山田耕作② 有節歌曲の研究	事前 読譜し、練習する	事後 授業内での問題点を確認し、解決をはかる。くり返す旋律の扱いに留意	140分
第6回	山田耕作③ 通作作品の研究	事前 読譜し、練習する	事後 授業内での問題点を確認し、解決をはかる	140分
第7回	成田為三・大中寅二	事前 読譜し、練習する	事後 授業内での問題点を確認し、解決をはかる。旋律の美しさに留意	140分
第8回	石桁真礼生・越谷達之助	事前 読譜し、練習する	事後 授業内での問題点を確認し、解決をはかる	140分
第9回	中田喜直① 多くの作品群から選択して研究する	事前 読譜し、練習する	事後 授業内での問題点を確認し、解決をはかる	140分
第10回	中田喜直② 前週の作品の表現をさらに深める	事前 読譜し、練習する	事後 授業内での問題点を確認し、解決をはかる。伴奏部の表現に留意	140分
第11回	團伊玖磨	事前 読譜し、練習する	事後 授業内での問題点を確認し、解決をはかる	140分
第12回	木下牧子	事前 読譜し、練習する	事後 授業内での問題点を確認し、解決をはかる	140分
第13回	既習曲から選曲し発表の準備をする	事前 既習曲を確認し、練習する	事後 授業内での問題点を確認し、解決をはかる	140分
第14回	選択した楽曲を仕上げる	事前 練習する	事後 授業内での問題点を確認し、解決をはかる	140分
第15回	選択した楽曲を発表し、合評する	事前 再確認し、練習する	事後 授業内での問題点を確認し、解決をはかる	240分 40分

フィードバック 授業での演奏を通してやりとりや個々の意見をコメントペーパーに書いて提出することで学修成果をフィードバックする。

成績評価 演奏への取り組み、熱意 50%、授業への積極的な取り組み 50%

テキスト 授業内で紹介、指示する。

オフィスアワー 授業時間前後教室にて。

備考 ピアニストと組んで受講することを推奨する。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・目的発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>											

声楽アンサンブル

※教育職員免許状取得に関わる科目

講師 庄智子

科目コード：ENS124/ENS125

対象コース/専門/学年：声楽/演奏家コース/声楽専門/3年次

形態：実習

単位数：2単位

概要 重唱を通して融和し合う声の育成とアンサンブル能力の向上を目指し、実践的に学ぶ

到達目標 ①他声部をよく聴き、発声に留意して美しいハーモニーをつくる。
②音楽的な構造、時代様式、詩の内容をふまえ、その表現を研究し、深める。

授業計画 年間 30回

第1回	ガイダンス・学習計画をたてる	事前 楽譜を用意し、準備する 事後 計画を確認し、練習しておく	40分 60分
第2回	コールユーブンゲン第二巻から	事前 読譜し、練習する 事後 授業内での問題を確認し、解決を図る	50分 50分
第3回	イタリア 16~17世紀の作品 ラッソの作品を中心に	事前 読譜し、練習する 事後 授業内での問題を確認し、解決を図る	50分 50分
第4回	イタリア 16~17世紀の作品 バレストリーナの作品を中心に	事前 読譜し、練習する 事後 授業内での問題を確認し、解決を図る	50分 50分
第5回	イタリア 16~17世紀の作品 モンテヴェルディの作品を中心に	事前 読譜し、練習する 事後 授業内での問題を確認し、解決を図る	50分 50分
第6回	イギリス 16~17世紀の作品 タリス、パーダの作品を中心に	事前 読譜し、練習する 事後 授業内での問題を確認し、解決を図る	50分 50分
第7回	イギリス 16~17世紀の作品 ダウランドの作品を中心に	事前 読譜し、練習する 事後 授業内での問題を確認し、解決を図る	50分 50分
第8回	イタリア・バロック期の作品 ロッシ、ボンチーニ、アストルガ、他の作品	事前 読譜し、練習する 事後 授業内での問題を確認し、解決を図る	50分 50分
第9回	イタリア・バロック期の作品 ペルゴレージ、バイジェッロ、他の作品	事前 読譜し、練習する 事後 授業内での問題を確認し、解決を図る	50分 50分
第10回	ドイツ・バロック期の作品 バッハ、ヘンデルの作品を中心に	事前 読譜し、練習する 事後 授業内での問題を確認し、解決を図る	50分 50分
第11回	ドイツ・バロック期の作品 上記の作品について研究を深める	事前 分析し、練習する 事後 授業内での問題を確認し、解決を図る	50分 50分
第12回	前期に取り上げた作品の中からアンサンブルを組んで各自を選択し、発表の準備をする	事前 楽譜を再確認し、練習する 事後 授業内での問題を確認し、解決を図る	50分 50分
第13回	前週選択した作品の研究を進める 特にハーモニーの精度を高める	事前 楽譜を再確認し、練習する 事後 授業内での問題を確認し、解決を図る	50分 50分
第14回	上記の作品の研究を進める 表現を深める	事前 楽譜を再確認し、練習する 事後 授業内での問題を確認し、解決を図る	50分 50分
第15回	上記の作品を発表し、合評する	事前 楽譜を再確認し、練習する 事後 授業内での問題を確認し、解決を図る	60分 40分
第16回	古典派のアンサンブル作品 ハイドン、モーツァルトの作品を中心に	事前 読譜し、練習する 事後 授業内での問題を確認し、解決を図る	50分 50分
第17回	古典派のアンサンブル作品 その他の作品から	事前 読譜し、練習する 事後 授業内での問題を確認し、解決を図る	50分 50分
第18回	イタリア・ロマン派の作品 ロッシーニの作品から	事前 読譜し、練習する 事後 授業内での問題を確認し、解決を図る	50分 50分
第19回	イタリア・ロマン派の作品 その他の作品から	事前 読譜し、練習する 事後 授業内での問題を確認し、解決を図る	50分 50分
第20回	ミサ曲・オラトリオの中のアンサンブル	事前 読譜し、練習する 事後 授業内での問題を確認し、解決を図る	50分 50分
第21回	ドイツ・ロマン派の作品 メンデルスゾーンの作品を中心に	事前 読譜し、練習する 事後 授業内での問題を確認し、解決を図る	50分 50分
第22回	ドイツ・ロマン派の作品 シューマンの作品から	事前 読譜し、練習する 事後 授業内での問題を確認し、解決を図る	50分 50分
第23回	フランス近代作品 フォーレの作品から	事前 読譜し、練習する 事後 授業内での問題を確認し、解決を図る	50分 50分
第24回	フランス近代作品 ドヴェュシーの作品から	事前 読譜し、練習する 事後 授業内での問題を確認し、解決を図る	50分 50分
第25回	日本語のアンサンブル作品	事前 読譜し、練習する 事後 授業内での問題を確認し、解決を図る	50分 50分
第26回	日本語のアンサンブル作品	事前 読譜し、練習する 事後 授業内での問題を確認し、解決を図る	50分 50分
第27回	後期に取り上げた作品の中からアンサンブルを組んで各自を選択し、発表の準備をする	事前 楽譜を再確認し、練習する 事後 授業内での問題を確認し、解決を図る	50分 50分
第28回	前週選択した作品の研究を進める 特にハーモニーの精度を高める	事前 分析し、練習する 事後 授業内での問題を確認し、解決を図る	50分 50分
第29回	上記の作品の研究を進める 表現を深める	事前 分析し、練習する 事後 授業内での問題を確認し、解決を図る	50分 50分
第30回	上記の作品を発表し、合評する	事前 楽譜を再確認し、練習する 事後 授業内での問題を確認し、解決を図る	60分 40分

フィードバック

成績評価 平常の授業への取り組みと実際の演唱をみて行う。

テキスト

オフィスアワー 授業終了時、教室にて

備考 上記の枠組みの中で、履修生の声部構成やそれぞれの声の категория に即してその都度選曲し、授業をすすめていく。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性							
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲	
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	

副科器楽 I-1・II-1 (ピアノ)

ピアノ部会主任 教授 山崎紫乃

科目コード：IND108/IND207

対象コース/専門/学年：器楽・声楽・演奏家コース/ピアノ、ギター、古楽鍵盤楽器以外の全専門/1・2 年次、GLA コース/音楽教育専門/1~3 年次

形態：実技

単位数：1 単位

概要 音楽を学ぶ者にとっての基礎能力を育成するために欠かせないピアノの学習を個人レッスンによって行う。グレード別に各自の能力に合わせて段階的に進めていく。

到達目標 運指や音階等の基本的な訓練を中心に、正しい読譜力を養うことを目標とする。

授業計画 GLA コース/音楽教育専門 前期 15 回 毎週 30 分の個人指導
上記以外の全コース/全専門 前期 15 回 毎週 20 分の個人指導

回数	内容	事前	事後	80 分	130 分
第 1 回	ガイダンス 学習計画を立てる	過去の学習状況を踏まえ現状を自己分析。	担当教員と協議の上グレードの設定。課題曲の選定。	80 分	130 分
第 2 回	基礎訓練	基礎教材を使って反復練習。	手指のフォームを意識して反復練習。	80 分	130 分
第 3 回	基礎技術の向上	様々な音型を反復練習。	両手を弾き分ける訓練。課題曲の読譜。	80 分	130 分
第 4 回	奏法	様々な強弱、テンポで練習し指を鍛える。	手指のフォームを正しくコントロールしながら反復練習。課題曲の読譜。	80 分	130 分
第 5 回	運指について	課題曲の反復練習。	より効率のよい運指について考え、試してみる。	80 分	130 分
第 6 回	運指の決定	課題曲の反復練習。	指使いを決定し、反復練習を行う。	80 分	130 分
第 7 回	正確な読譜 (リズムと拍子)	楽譜をよく見直す。	生きたリズムと拍感を意識して反復練習を行う。	80 分	130 分
第 8 回	正確な読譜 (強弱)	強弱記号をよく見る。	強弱記号が示す意味を考えて表現につなげる。	80 分	130 分
第 9 回	楽曲分析 楽曲 A	作品の和声進行を意識して練習。	構造、形式を把握する。	80 分	130 分
第 10 回	スムーズな演奏	作品の構造を意識して各部の表情を大切に。	強弱、テンポ正確に、暗譜。	80 分	130 分
第 11 回	音階練習	片手の練習。両手の練習。	指使いを徹底して反復練習。	80 分	130 分
第 12 回	音階練習(カデンツ)	カデンツの定型を覚える。	徹底的な反復練習。	80 分	130 分
第 13 回	音階練習(テンポアップ)	両手で正確に反復練習。	少しずつテンポアップ。拍子、テンポ正確に。	80 分	130 分
第 14 回	仕上げ	指使い、強弱、リズムの確認。暗譜の確認。	表情、構造を明確に反復練習。	80 分	130 分
第 15 回	前期 成果の発表	技術、音の確認。	自己評価。課題の自覚。	80 分	130 分

フィードバック 実技試験後、担当教員及び審査員のコメントを聞くことができる。

成績評価 実技試験により評価する。評価は複数の審査員の採点による。

テキスト 各自の進度に合わせたグレードを選択し、その課題を中心に目標を定めて演習を行う。(副科ピアノ課題曲表参照のこと)

オフィスアワー ※4 月のレッスンガイダンス後の実技担当者発表掲示を参照のこと。

備考 平成 29 年度以降入学者は教職履修に必要な単位の他に選択科目「副科器楽」及び「副科声楽」を履修する場合、別途料金が発生する (1 単位 43,000 円)。支払い期日等については新学学期ガイダンス期間中に掲示する。
GLA コース文化創造マネジメント専門学生は入学年度に関わらず全ての実技が有料 (教職課程に係る副科実技も有料)

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

副科器楽 I-2・II-2 (ピアノ)

ピアノ部会主任 教授 山崎紫乃

科目コード：IND108/IND207

対象コース/専門/学年：器楽・声楽・演奏家コース/ピアノ、ギター、古楽鍵盤楽器以外の全専門/1・2 年次、GLA コース/音楽教育専門/1~3 年次

形態：実技

単位数：1 単位

概要 ピアノの学習を個人レッスンにより行い、更なる向上を目指す。
グレード別に各自の能力に合わせて段階的に進めていく。

到達目標 基礎訓練と共に様々な練習方法を演奏向上に結びつける過程を学ぶことを目標とする。

授業計画 GLA コース/音楽教育専門 後期 15 回 毎週 90 分の個人指導
上記以外の全コース/全専門 後期 15 回 毎週 20 分の個人指導

回数	課題	事前	事後	80 分	130 分
第 1 回	課題の設定	課題曲の設定。	読譜。	80 分	130 分
第 2 回	指使いの決定	楽譜を丁寧に読譜。反復練習。	正しい指使いの決定。反復練習。	80 分	130 分
第 3 回	楽曲分析 楽曲 B	作品の全体像を把握する。	和声、形式を分析し、構造を理解する。	80 分	130 分
第 4 回	演奏技術の鍛錬	構造を意識して各部の表情をつかむ。	表現に必要な奏法の伝授。反復練習。	80 分	130 分
第 5 回	様々な表現	イメージを明確にして行く。	奏法、テンポ設定、強弱の工夫。	80 分	130 分
第 6 回	分散和音(和声感、調性感)	音、指使いを正確に和声をよく聴きながら反復練習。	手首の使い方、手のフォームの習得し、和音としてとらえる練習。	80 分	130 分
第 7 回	練習方法の工夫 (リズム練習)	様々な音型を反復練習。	リズム練習による技術向上を目指して反復練習。	80 分	130 分
第 8 回	形式の整理	全体の構造をつかむ。	主題の扱い、調性、性格を整理する。	80 分	130 分
第 9 回	表現	構造を明確に整理する。	作品の性格、主題の性格、楽譜の指示を基に的確な表現を追求する。暗譜。	80 分	130 分
第 10 回	練習方法の工夫 (分析練習)	構成を理解する。	各声部に分けて練習、またはハーモニーごとにまとめて練習。	80 分	130 分
第 11 回	ポリフォニーの奏法	各声部丁寧に読譜。指使いの決定。	指のコントロールと耳を使って同時に弾き分ける。	80 分	130 分
第 12 回	ペダルの練習	イメージを明確しておく。	レガートペダル、アクセントペダル、音色のためのペダルを考える。	80 分	130 分
第 13 回	暗譜について	構造を理解する。	ハーモニー、楽曲分析と結びつけて整理する。	80 分	130 分
第 14 回	仕上げとまとめ	音楽理解、ピアノ演奏技術の方法を整理する。暗譜。	学習内容の復習と反復練習。暗譜。	80 分	130 分
第 15 回	後期 成果の発表	暗譜と技術の確認。	自己評価。	80 分	130 分

フィードバック 実技試験後、担当教員及び審査員のコメントを聞くことができる。

成績評価 実技試験により評価する。評価は複数の審査員の採点による。

テキスト 各自の進度に合わせたグレードを選択し、その課題を中心に目標を定めて演習を行う。(副科ピアノ課題曲表参照のこと)

オフィスアワー ※4 月のレッスンガイダンス後の実技担当者発表掲示を参照のこと。

備考 平成 29 年度以降入学者は教職履修に必要な単位の他に選択科目「副科器楽」及び「副科声楽」を履修する場合、別途料金が発生する (1 単位 43,000 円)。支払い期日等については新学学期ガイダンス期間中に掲示する。
GLA コース文化創造マネジメント専門学生は入学年度に関わらず全ての実技が有料 (教職課程に係る副科実技も有料)

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

副科器楽 I-1・II-1 (弦楽器)

弦楽部会主任 准教授 佐藤まどか

科目コード：IND108/IND207

対象コース/専門/学年：GLA コース/文化創造マネジメント専門のみ 1~4 年次、これ以外全コース・全専門/2~4 年次

形態：実技	単位数 1 単位
概要	弦楽器には多くの奏法がある。それらを学ぶことによって、今までに体験したことのない音世界に触れ、音楽的視野をひろげてゆく。

到達目標	専門外の楽器を学ぶことで、新たな音楽的な気づきをもってそれぞれの専攻にも活かしてゆく。
------	---------------------------------------------

授業計画	前期 15 回 毎週 20 分の個人指導
------	----------------------

回数	内容	事前	事後	105 分
第 1 回	ガイダンスと、レッスンの進め方の確認	履修楽器の音源を聴き、楽譜を見ておく。	学修計画を確認し、楽器、楽譜等、今後必要な準備をする。	105 分
第 2 回	履修楽器の発音体の仕組みを学ぶ	履修楽器の音を、まず出してみる。	履修楽器の仕組みを、文献などで再確認する。	105 分
第 3 回	履修楽器の奏法における特徴を学ぶ	楽器の各パーツの名前を調べておく。	音源を聴き、音の特徴を把握しておく。	105 分
第 4 回	自然な音を奏する	TVなどの動画で、美しい楽器を弾く姿勢を確認しておく。	問題個所を確認し、是正に向けて練習する。	105 分
第 5 回	音階の練習	音階を各自で練習しておく	良い音程を確認しながら、是正に向けて練習する。	105 分
第 6 回	課題曲 I の選定	演奏可能な作品を探してみる。	課題曲 I の楽譜を準備する。	105 分
第 7 回	音階、課題曲 I 技術的問題点の確認	課題曲 I の譜読み	問題個所を確認し、是正に向けて練習する。	105 分
第 8 回	音階、課題曲 I 表現における問題点の解決	課題曲 I の反復練習	問題個所を確認し、是正に向けて練習する。	105 分
第 9 回	音階、課題曲 I アンサンブルについて学ぶ	課題曲 I の音源を聴いておく。	問題個所を確認し、是正に向けて練習する。	105 分
第 10 回	音階、課題曲 I タイミングの取り方、呼吸の取り方を学ぶ	課題曲 I を、鏡を見ながら練習する。	問題個所を確認し、是正に向けて練習する。	105 分
第 11 回	音階、課題曲 I 音色の合わせ方、自身の演奏における問題点の確認	課題曲 I に対し、録音を取って練習する。	問題個所を確認し、是正に向けて練習する。	105 分
第 12 回	課題曲 I ピアノ合わせでのレッスン 仕上げ	音色の変化や表現のために、奏法上の問題点を洗い出し、練習しておく。	課題曲の反省と、次回の課題を確認する。	105 分
第 13 回	音階、課題曲 II 技術的問題点の確認	課題曲 II の譜読み	問題個所を確認し、是正に向けて練習する。	105 分
第 14 回	音階、課題曲 II 表現における問題点の解決	課題曲 II の反復練習	問題個所を確認し、是正に向けて練習する。	105 分
第 15 回	音階、課題曲 II アンサンブルについて学ぶ	課題曲 II の音源を聴いておく。	問題個所を確認し、是正に向けて練習する。	105 分

フィードバック	学年末に発表会を行う。ソロに加えてアンサンブルを行い、互いのスキルアップをはかる。
---------	-------------------------------------------

成績評価	平常の取り組み、習熟度によって行う。
------	--------------------

テキスト	個人の音楽的、技術的問題点を解決すべく課題曲を選定するため、曲目は、適宜、指導教員と相談の上、決定する。
------	------------------------------------------------------

オフィスアワー	各担当教員レッスン前後、レッスン室にて
---------	---------------------

備考	平成 29 年度以降入学者は教職履修に必要な単位の他に選択科目「副科器楽」及び「副科声楽」を履修する場合、別途料金が発生する (1 単位 43,000 円)。支払い期日等については新学期ガイダンス期間中に掲示する。 GLA コース文化創造マネジメント専門学生は入学年度に関わらず全ての実技が有料 (教職課程に係る副科実技も有料)
----	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

学位授与の方針との関連															
授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>								

副科器楽 I-2・II-2 (弦楽器)

弦楽部会主任 准教授 佐藤まどか

科目コード：IND109/IND208

対象コース/専門/学年：GLA コース/文化創造マネジメント専門のみ 1~4 年次、これ以外全コース・全専門/2~4 年次

形態：実技

単位数 1 単位

概要 弦楽器には多くの奏法がある。それらを学ぶことによって、今までに体験したことのない音世界に触れ、音楽的視野をひろげてゆく。

到達目標 専門外の楽器を学ぶことで、新たな音楽的な気づきをもってそれぞれの専攻にも活かしてゆく。

授業計画 後期 15 回 毎週 20 分の個人指導

第 1 回	音階、課題曲 II タイミングの取り方、呼吸の取り方を学ぶ	事前 課題曲 II を、鏡を見ながら練習する。 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	105 分 105 分
第 2 回	音階、課題曲 II 音色の合わせ方、自身の演奏における問題点の確認	事前 課題曲 II に対し、録音を取って練習する。 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	105 分 105 分
第 3 回	課題曲 II ピアノ合わせでのレッスン 仕上げ	事前 音色の変化や表現のために、奏法上の問題点を洗い出し、練習しておく。 事後 課題曲の反省と、次回の課題を確認する。	105 分 105 分
第 4 回	音階、課題曲 III 技術的問題点の確認	事前 課題曲 II の譜読み 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	105 分 105 分
第 5 回	音階、課題曲 III 表現における問題点の解決	事前 課題曲 II の反復練習。 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	105 分 105 分
第 6 回	音階、課題曲 III アンサンブルについて学ぶ	事前 課題曲 II の音源を聴いておく。 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	105 分 105 分
第 7 回	音階、課題曲 III タイミングの取り方、呼吸の取り方を学ぶ	事前 課題曲 II を、鏡を見ながら練習する。 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	105 分 105 分
第 8 回	音階、課題曲 III 音色の合わせ方、自身の演奏における問題点の確認	事前 課題曲 II に対し、録音を取って練習する。 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	105 分 105 分
第 9 回	課題曲 III ピアノ合わせでのレッスン 仕上げ	事前 音色の変化や表現のために、奏法上の問題点を洗い出し、練習しておく。 事後 課題曲の反省と、次回の課題を確認する。	105 分 105 分
第 10 回	発表会課題 技術的、表現における問題点の確認	事前 発表会課題に対し、譜読みを行う。 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	105 分 105 分
第 11 回	発表会課題 アンサンブルにおける問題点を解決する	事前 課題の音源を聴いておく。 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	105 分 105 分
第 12 回	発表会に向けての実習 複数のアンサンブルを体験する	事前 曲の全体像から、立体的な表現につながるよう、効果的に演奏できる工夫をする。 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	105 分 105 分
第 13 回	発表会に向けての実習 合奏	事前 共に演奏するものの音を聴きながら、演奏できるように、耳に集中して練習する。 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	105 分 105 分
第 14 回	発表会課題 ピアノ合わせでのレッスン	事前 ピアノとの合わせを行っておく。 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	105 分 105 分
第 15 回	発表会 と反省	事前 技術的な問題点を確認しながら、練習する。 事後 反省と、課題を確認し、更に、音楽の幅を広げる。	105 分 105 分

フィードバック 学年末に発表会を行う。ソロに加えてアンサンブルを行い、互いのスキルアップをはかる。

成績評価 平常の取り組み、習熟度によって行う。

テキスト 個人の音楽的、技術的問題点を解決すべく課題曲を選定するため、曲目は、適宜、指導教員と相談の上、決定する。

オフィスアワー 各担当教員レッスン前後、レッスン室にて

備考 平成 29 年度以降入学者は教職履修に必要な単位の他に選択科目「副科器楽」及び「副科声楽」を履修する場合、別途料金が発生する (1 単位 43,000 円)。支払い期日等については新学期ガイダンス期間中に掲示する。
GLA コース文化創造マネジメント専門学生は入学年度に関わらず全ての実技が有料 (教職課程に係る副科実技も有料)

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>								

副科器楽 I-1・II-1 (管打楽器)

管・打楽器部会主任 特任教授 三上明子

科目コード：IND108/IND207

対象コース/専門/学年：GLA コース/文化創造マネジメント専門のみ 1~4 年次、これ以外全コース・全専門/2~4 年次

形態：実技	単位数：1 単位
概要	専門外の楽器を習得することで、幅広く音楽を学ぶことを目標とする。初心者も含まれることから、各学生の能力、進度に応じ課題を設定する。

到達目標	楽器の扱い方、構え方、基本的な奏法を知り、楽曲を演奏してゆく。既にある程度の能力を持つものに関しては、さらに確実なものとしてゆく。
------	-------------------------------------------------------------------

授業計画	前期 15 回 毎週 20 分の個人指導
------	----------------------

回数	内容	事前	事後	105 分
第 1 回	レッスンの進め方、楽器の選び方について	学修計画案をたてる	学修計画を確認し、楽譜等今後必要な準備をする	105 分
第 2 回	楽器の取り扱い方および音の出し方	教員の指示による	問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	105 分
第 3 回	姿勢、呼吸法、音階を学ぶ①	引き続き問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	105 分
第 4 回	姿勢、呼吸法、音階を学ぶ②	引き続き問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	105 分
第 5 回	良い音を探求する	引き続き問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	105 分
第 6 回	練習曲①確認	練習曲①の譜読みと準備に取り組む	問題箇所を確認し、是正にむけて練習する。	105 分
第 7 回	練習曲①仕上げ	練習曲①の完成を目指す	練習曲①のまとめを行う	105 分
第 8 回	練習曲②確認	練習曲②の譜読みと準備に取り組む	問題箇所を確認し、是正にむけて練習する。	105 分
第 9 回	練習曲②仕上げ	練習曲②の完成を目指す	練習曲②のまとめを行う	105 分
第 10 回	練習曲③確認	練習曲③の譜読みと準備に取り組む	問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	105 分
第 11 回	練習曲③仕上げ	練習曲③の完成を目指す	練習曲③のまとめを行う	105 分
第 12 回	曲①確認	曲①の譜読みと準備に取り組む	問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	105 分
第 13 回	曲①仕上げ	曲①の完成を目指す	曲①のまとめを行う	105 分
第 14 回	曲②確認	曲②の譜読みと準備に取り組む	問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	105 分
第 15 回	曲②仕上げ	練習曲②の完成を目指す	練習曲②のまとめを行う	105 分

フィードバック	各教員から学生へのフィードバックは、必要に応じて常に行われる。
---------	---------------------------------

成績評価	平常の取り組み、習熟度によって行う。
------	--------------------

テキスト	個人の音楽的、技術的問題点を解決すべく課題曲を選定するため、曲目は、適宜、指導教員と相談の上、決定する。
------	------------------------------------------------------

オフィスアワー	各担当教員レッスン前後、レッスン室にて
---------	---------------------

備考	平成 29 年度以降入学者は教職履修に必要な単位の他に選択科目「副科器楽」及び「副科声楽」を履修する場合、別途料金が発生する (1 単位 43,000 円)。支払い期日等については新学期ガイダンス期間中に掲示する。 GLA コース文化創造マネジメント専門学生は入学年度に関わらず全ての実技が有料 (教職課程に係る副科実技も有料)
----	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用					意欲・経験・多様性							
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発働力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>								

副科器楽 I-2・II-2 (管打楽器)

管・打楽器部会主任 特任教授 三上明子

科目コード：IND109/IND208

対象コース/専門/学年：GLA コース/文化創造マネジメント専門のみ 1~4 年次、これ以外全コース・全専門/2~4 年次

形態：実技	単位数：1 単位
概要	専門外の楽器を習得することで、幅広く音楽を学ぶことを目標とするが、副科器楽 I-1・II-1(管楽器)で得たものをさらに確実なものとしてゆく。

到達目標	副科器楽 I-1・II-1(管楽器)で得たものを、より確実なものとしてゆく。
------	----------------------------------------

授業計画 後期 15 回 毎週 20 分の個人指導

回数	内容	事前	事後	105 分
第 1 回	後期のレッスンの進め方について	前期の取り組みの問題点を確認する	後期に向けての課題に取り組む	105 分
第 2 回	練習曲④確認	練習曲④の譜読みと準備に取り組む	問題所を確認し、是正にむけて練習する	105 分
第 3 回	練習曲④仕上げ	練習曲④の完成を目指す	練習曲④のまとめを行う	105 分
第 4 回	練習曲⑤確認	練習曲⑤の譜読みと準備に取り組む	問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	105 分
第 5 回	練習曲⑤仕上げ	練習曲⑤の完成を目指す	練習曲⑤のまとめを行う	105 分
第 6 回	曲③確認	曲③の譜読みと準備に取り組む	問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	105 分
第 7 回	曲③表現の工夫	曲③の表現に取り組む	曲③の表現を身に付ける	105 分
第 8 回	曲④確認	曲④の譜読みと準備に取り組む	問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	105 分
第 9 回	曲④表現の工夫	曲④の表現に取り組む	曲④のまとめを行う	105 分
第 10 回	発表会に向けて 曲①	発表会に向けて準備する	問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	105 分
第 11 回	発表会に向けて 曲②	引き続き問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	105 分
第 12 回	発表会に向けて 曲③	引き続き問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	105 分
第 13 回	発表会に向けて 曲④	引き続き問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	105 分
第 14 回	発表会に向けて 曲⑤	引き続き問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	105 分
第 15 回	一年のまとめ	一年間の取り組みの問題点を確認する。	来年度への取り組みについて考える	105 分

フィードバック 各教員から学生へのフィードバックは、必要に応じて常に行われる。

成績評価 平常の取り組み、習熟度によって行う。

テキスト 個人の音楽的、技術的問題点を解決すべく課題曲を選定するため、曲目は、適宜、指導教員と相談の上、決定する。

オフィスアワー 各担当教員レッスン前後、レッスン室にて

備考 平成 29 年度以降入学者は教職履修に必要な単位の他に選択科目「副科器楽」及び「副科声楽」を履修する場合、別途料金が発生する (1 単位 43,000 円)。支払い期日等については新学期ガイダンス期間中に掲示する。
GLA コース文化創造マネジメント専門学生は入学年度に関わらず全ての実技が有料 (教職課程に係る副科実技も有料)

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用					意欲・経歴・多様性							
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発働力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>								

副科器楽 I-1・II-1 (オルガン・古楽)

教授 小林英之

科目コード: IND108/IND207

対象コース/専門/学年: GLA コース/文化創造マネジメント専門のみ 1~4 年次、これ以外全コース・全専門/2~4 年次

形態: 実技

単位数: 1 単位

概要: オルガン作品の演奏を通じ、専門楽器での表現力を向上する。

到達目標 当学でオルガン・古楽部門に属し実際に学べる楽器 (オルガン、チェンバロ、フォルテピアノ、ヴィオラ・ダ・ガンバ、リュート、リコーダー、トラヴェルソ) や、当学の古楽器コレクションを通して、主に 17、18 世紀の作品の演奏法を研究し、専門の楽器、あるいは声楽の演奏に反映させる。

授業計画 GLA コース/文化創造マネジメント専門 前期 15 回 毎週 20 分の個人指導 (77 ショウ料金制)
上記以外の全コース/全専門 年間 15 回 隔週 20 分の個人指導

第 1 回	ガイダンス。個人の演奏技術の判定。個人の能力に応じて学習用作品を決定。	事前 学ぶ楽器について下調べ。 事後 学ぶ作品の楽譜探索。	80 分 80 分
第 2 回	作品 A に取り組む 1 (楽譜を解析し効率よい練習法を考える)	事前 譜読みをする。 事後 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。	80 分 80 分
第 3 回	作品 A に取り組む 2 (技術的な問題を解決する)	事前 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。 事後 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。	80 分 80 分
第 4 回	作品 A に取り組む 3 (表現力を加味する)	事前 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。 事後 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。	80 分 80 分
第 5 回	作品 A に取り組む 4 (総合)	事前 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。 事後 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。	80 分 80 分
第 6 回	作品 A に取り組む 5 (仕上げ、別課題の決定)。	事前 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。 事後 学ぶ作品の楽譜探索。	80 分 80 分
第 7 回	作品 B に取り組む 1 (楽譜を解析し効率よい練習法を考える)	事前 譜読みをする。 事後 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。	80 分 80 分
第 8 回	作品 B に取り組む 2 (技術的な問題を解決する)	事前 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。 事後 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。	80 分 80 分
第 9 回	作品 B に取り組む 3 (表現力を加味する)	事前 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。 事後 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。	80 分 80 分
第 10 回	作品 B に取り組む 4 (総合)	事前 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。 事後 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。	80 分 80 分
第 11 回	作品 B に取り組む 5 (仕上げ、別課題の決定)。	事前 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。 事後 学ぶ作品の楽譜探索。	80 分 80 分
第 12 回	作品 C に取り組む 1 (楽譜を解析し効率よい練習法を考える)	事前 譜読みをする。 事後 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。	80 分 80 分
第 13 回	作品 C に取り組む 2 (技術的な問題を解決する)	事前 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。 事後 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。	80 分 80 分
第 14 回	作品 C に取り組む 3 (表現力を加味する)	事前 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。 事後 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。	80 分 80 分
第 15 回	作品 C に取り組む 4 (総合、仕上げ、別課題の決定)。	事前 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。 事後 学ぶ作品の楽譜探索。	80 分 80 分

フィードバック レッスン時間ごとの課題の達成度についてのコメント。

成績評価 平常の取り組み、習熟度によって行う。

テキスト その都度指定し、市販されていないものについては入手方法を指導する。

オフィスアワー 各担当教員レッスン前後、レッスン室にて

備考 平成 29 年度以降入学者は教職履修に必要な単位の他に選択科目「副科器楽」及び「副科声楽」を履修する場合、別途料金が発生する (1 単位 43,000 円)。支払い期日等については新学期ガイダンス期間中に掲示する。
GLA コース文化創造マネジメント専門学生は入学年度に関わらず全ての実技が有料 (教職課程に係る副科実技も有料)

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>								

副科器楽 I-2・II-2 (オルガン・古楽)

教授 小林英之

科目コード: IND109/IND208

対象コース/専門/学年: GLA コース/文化創造マネジメント専門のみ 1~4 年次、これ以外全コース・全専門/2~4 年次

形態: 実技

単位数: 1 単位

概要: オルガン作品の演奏を通じ、専門楽器での表現力を向上する。

到達目標 当学でオルガン・古楽部門に属し実際に学べる楽器 (オルガン、チェンバロ、フォルテピアノ、ヴィオラ・ダ・ガンバ、リュート、リコーダー、トラヴェルソ) や、当学の古楽器コレクションを通して、主に 17、18 世紀の作品の演奏法を研究し、専門の楽器、あるいは声楽の演奏に反映させる。

授業計画 GLA コース/文化創造マネジメント専門 後期 15 回 毎週 20 分の個人指導 (77 ショウ料金制)
上記以外の全コース/全専門 年間 15 回 隔週 20 分の個人指導

第 1 回	作品 D に取り組む 1 (楽譜を解析し効率よい練習法を考える)	事前 譜読みをする。 事後 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。	80 分 80 分
第 2 回	作品 D に取り組む 2 (技術的な問題を解決する)	事前 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。 事後 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。	80 分 80 分
第 3 回	作品 D に取り組む 3 (表現力を加味する)	事前 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。 事後 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。	80 分 80 分
第 4 回	作品 D に取り組む 4 (総合)	事前 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。 事後 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。	80 分 80 分
第 5 回	作品 D に取り組む 5 (仕上げ)、別課題の決定。	事前 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。 事後 学ぶ作品の楽譜探索。	80 分 80 分
第 6 回	作品 E に取り組む 1 (楽譜を解析し効率よい練習法を考える)	事前 譜読みをする。 事後 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。	80 分 80 分
第 7 回	作品 E に取り組む 2 (技術的な問題を解決する)	事前 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。 事後 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。	80 分 80 分
第 8 回	作品 E に取り組む 3 (表現力を加味する)	事前 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。 事後 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。	80 分 80 分
第 9 回	作品 E に取り組む 4 (総合)	事前 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。 事後 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。	80 分 80 分
第 10 回	作品 E に取り組む 5 (仕上げ)。	事前 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。 事後 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。	80 分 80 分
第 11 回	学習した作品をすべて復習する 1 (A、B、C)	事前 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。 事後 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。	80 分 80 分
第 12 回	学習した作品をすべて復習する 2 (D、E)	事前 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。 事後 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。	80 分 80 分
第 13 回	学習した作品のストップの組み合わせを考える。	事前 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。 事後 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。	80 分 80 分
第 14 回	学習した作品をすべて演奏する。	事前 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。 事後 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。	80 分 80 分
第 15 回	発表会準備	事前 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。 事後 該当楽器で特に興味を持った点を深めてみる。	80 分 80 分

フィードバック レッスン時間ごとの課題の達成度についてのコメント。

成績評価 平常の取り組み、習熟度によって行う。

テキスト その都度指定し、市販されていないものについては入手方法を指導する。

オフィスアワー 各担当教員レッスン前後、レッスン室にて

備考 平成 29 年度以降入学者は教職履修に必要な単位の他に選択科目「副科器楽」及び「副科声楽」を履修する場合、別途料金が発生する (1 単位 43,000 円)。支払い期日等については新学学期ガイダンス期間中に掲示する。
GLA コース文化創造マネジメント専門学生は入学年度に関わらず全ての実技が有料 (教職課程に係る副科実技も有料)

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>								

副科声楽Ⅰ-1・Ⅱ-1

※教育職員免許状取得に関わる科目

声楽コース部会主任 教授 吉田伸昭

科目コード：IND110/IND209

対象コース/専門/学年： 器楽・演奏家コース/声楽専門以外/2~4 年次、GLA コース/音楽学・音楽教育専門/2~4 年次、GLA コース/文化創造マネジメント専門/1~4 年次

形態：実技 単位数：1 単位

概要 個人レッスンの形態で声楽の基本的な技術、音楽を学ぶ
課題に対しての事前、事後の各自の学習が重要となる

到達目標 ①声楽的発声の基本を確立する。
②伊、独、仏歌曲、オペラおよび共通教材を含む日本歌曲を中心的題材として、言語を伴った声楽の表現を学びながら、それぞれの専門実技に応用できるような確かな読譜力、解釈力、和声感、様式感を身につける。
③教科書に取り上げられている歌曲をピアノで伴奏しながら歌う。

授業計画 前期 15 回 毎週 20 分の個人指導
実技演習においては、個々の学生の特性を見極め、その進捗に則して課題を選択しレッスンをする。

第1回	ガイダンス 各自の学習計画を立てる	事前	これまでの声楽に関する学修を確認し学習計画を練る	105 分
		事後	学習計画を確認し、楽譜等の準備をする	105 分
第2回	エチュード・イタリア古典歌曲 発声の基礎練習① 呼吸法、発声法を中心に	事前	発声練習を重ね、次回のレッスン予定のエチュード、歌曲の譜読みをする	105 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	105 分
第3回	エチュード・イタリア古典歌曲 発声の基礎練習② 母音の純化、子音の明確化を中心に	事前	次回のレッスン予定のエチュード、歌曲の練習を重ねる	105 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	105 分
第4回	エチュード・イタリア古典歌曲 基礎的問題点の解決	事前	次回のレッスン予定のエチュード、歌曲の練習を重ねる	105 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	105 分
第5回	エチュード・イタリア古典歌曲 声域の拡大と歌唱技術の向上をはかる	事前	次回のレッスン予定のエチュード、歌曲の練習を重ねる	105 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	105 分
第6回	イタリア古典歌曲 楽譜を読み込む① 言語、和声感、様式感を中心に	事前	次回のレッスン予定のイタリア古典歌曲の練習を重ねる（言葉の意味に留意する）	105 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	105 分
第7回	イタリア古典歌曲 楽譜を読み込む② 表現の発展	事前	次回のレッスン予定のイタリア古典歌曲の練習を重ねる（イタリア語のディクシオンに留意する）	105 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	105 分
第8回	イタリア古典歌曲 声域・カテゴリーの確立	事前	次回のレッスン予定のイタリア古典歌曲の練習を重ねる（イタリア語のディクシオンに留意する）	105 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	105 分
第9回	各々の声のカテゴリーを踏まえ、複数の課題楽曲を選択する	事前	次回のレッスン予定の歌曲の練習を重ねる	105 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	105 分
第10回	選択した楽曲につき正確な読譜と詩の解釈を進める	事前	次回のレッスン予定の歌曲の練習を重ねる	105 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	105 分
第11回	上記に基づき演奏の深化をはかる	事前	次回のレッスン予定の歌曲の練習を重ねる（音楽的な表現に留意する）	105 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	105 分
第12回	問題点の認識と解決をはかる	事前	次回のレッスン予定の歌曲の練習を重ねる（音楽的な表現に留意する）	105 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	105 分
第13回	ピアノ伴奏を伴い楽曲の研究を深める	事前	事前にピアニストと伴奏合わせをする	105 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	105 分
第14回	ピアノ伴奏を伴い表現の発展、演奏の質の向上をはかる	事前	伴奏合わせを重ねる	105 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	105 分
第15回	前期のまとめ	事前	伴奏合わせを重ね、表現の確立をはかる	105 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	105 分

フィードバック 試験後に個人面談の形で振り返り、成果や次へ課題を話し合う

成績評価 学年末試験の成績による。

テキスト 授業計画欄を参照のこと。

オフィスアワー 各教員の在校時間内（ただしレッスン時間を除く）
各教員のレッスン室

備考 平成 29 年度以降入学者は教職履修に必要な単位の他に選択科目「副科器楽」及び「副科声楽」を履修する場合、別途料金が発生する（1 単位 43,000 円）。支払い期日等については新学期ガイダンス期間中に掲示する。
GLA コース文化創造マネジメント専門学生は入学年度に関わらず全ての実技が有料（教職課程に係る副科実技も有料）

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発働能力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲	
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>					

副科声楽 I -2・II-2

※教育職員免許状取得に関わる科目

声楽コース部会主任 教授 吉田伸昭

科目コード：IND111/IND210

対象コース/専門/学年： 器楽・演奏家コース/声楽専門以外/2~4年次、GLAコース/音楽学・音楽教育専門/2~4年次、GLAコース/文化創造マネジメント専門/1~4年次

形態：実技	単位数：1単位
概要	個人レッスンの形態で声楽の基本的な技術、音楽を学ぶ課題に対しての事前、事後の各自の学習が重要となる
到達目標	①声楽的発声の基本を確立する。 ②伊、独、仏歌曲、オペラおよび共通教材を含む日本歌曲を中心的題材として、言語を伴った声楽の表現を学びながら、それぞれの専門実技に応用できるような確かな読譜力、解釈力、和声感、様式感を身につける。 ③教科書に取り上げられている歌曲をピアノで伴奏しながら歌う。
授業計画	後期 15回 毎週 20分の個人指導 実技演習においては、個々の学生の特性を見極め、その進捗に則して課題を選択しレッスンをする。

回	内容	事前	事後	105分
第1回	前期成果の確認と後期の学習計画を立てる	前期の学修を確認し学習計画を練る	レッスンで指摘を受けた点の改善	105分
第2回	異なる時代、異なる言語による作品の比較研究 日本歌曲、ドイツ歌曲を中心に	事前	次回のレッスン予定の歌曲の練習を重ねる	105分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	105分
第3回	日本歌曲、ドイツ歌曲 楽譜を読み込む① 言語、和声感、様式感を中心に	事前	次回のレッスン予定の歌曲の練習を重ねる（言葉の意味、ディクシオンに留意する）	105分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	105分
第4回	日本歌曲、ドイツ歌曲 楽譜を読み込む② 表現の発展	事前	次回のレッスン予定の歌曲の練習を重ねる（音楽的な表現に留意する）	105分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	105分
第5回	オペラを知る 歌曲作品とオペラアリアとの比較研究	事前	次回のレッスン予定の楽曲の練習を重ねる	105分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	105分
第6回	オペラアリア（あるいはロマン派歌曲） 楽譜を読み込む① 言語、和声感、様式感を中心に	事前	次回のレッスン予定の楽曲の練習を重ねる（言葉の意味、ディクシオンに留意する）	105分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	105分
第7回	オペラアリア（あるいはロマン派歌曲） 楽譜を読み込む② 表現の発展	事前	次回のレッスン予定の楽曲の練習を重ねる（音楽的な表現に留意する）	105分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	105分
第8回	各々の声の CATEGORY を踏まえ、複数の課題楽曲を選択する（後期分）	事前	次回のレッスン予定の楽曲の練習を重ねる	105分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	105分
第9回	選択した楽曲につき正確な読譜と詩の解釈を進める（後期分）	事前	次回のレッスン予定の楽曲の練習を重ねる	105分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	105分
第10回	上記に基づき演奏の深化をはかる（後期分）	事前	次回のレッスン予定の楽曲の練習を重ねる	105分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	105分
第11回	ピアノ伴奏を伴い楽曲の研究を深める（後期分）	事前	事前にピアニストと伴奏合わせをする	105分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	105分
第12回	暗譜を確かなものとする（後期分）	事前	伴奏合わせを重ねる	105分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	105分
第13回	暗譜の上、楽曲の演奏内容を深める	事前	伴奏合わせを重ねる	105分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	105分
第14回	暗譜の上、演奏の完成度を高める	事前	伴奏合わせを重ね、暗譜の確認、表現の確立をはかる	105分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	105分
第15回	後期のまとめ	事前	伴奏合わせを重ね、暗譜の確認、表現の確立をはかる	105分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	105分

フィードバック 試験後に個人面談の形で振り返り、成果や次へ課題を話し合う

成績評価 学年末試験の成績による。

テキスト 授業計画欄を参照のこと。

オフィスアワー 各教員の在校時間内（ただしレッスン時間を除く）
各教員のレッスン室

備考 平成 29 年度以降入学者は教職履修に必要な単位の他に選択科目「副科器楽」及び「副科声楽」を履修する場合、別途料金が発生する（1 単位 43,000 円）。支払い期日等については新学学期ガイダンス期間中に掲示する。
GLA コース文化創造マネジメント専門学生は入学年度に関わらず全ての実技が有料（教職課程に係る副科実技も有料）

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				

生涯学習概論-1

※社会教育主事養成に関する科目

非常勤講師 上羅廣

科目コード：SOC106

対象コース/専門/学年：GLA コース/文化創造マネジメント専門/1 年次、GLA コース/音楽学・音楽教育専門/1~2 年次、器楽・声楽・演奏家コース/全専門/1~2 年次

形態：講義

単位数：2 単位

概要 生涯学習の意義を踏まえた上で、我が国社会教育の系譜を捉え、「生涯教育」の登場の背景とその理念について学び、生涯学習諸政策の動向、さくら生涯学習に特徴的なことをおさえる。前期最後には先進的生涯学習実践地として岩手県金ヶ崎町の事例を報告する。

到達目標 我が国社会教育の系譜を踏まえ、「生涯教育」が登場する背景、それが我が国で「生涯学習社会の実現に向けて」という政策になっていく過程について理解すること。また、生涯学習に関連する事項も学び理解すること。

授業計画 生涯学習、学校教育、社会教育の関係への理解

第 1 回	生涯学習概論のイントロダクション	事前 「生涯学習」という用語を調べてくる。 事後 本講義の性格と設置の意味について理解する。	40 分 60 分
第 2 回	生涯学習の意義～家庭教育・学校教育・社会教育との関連で	事前 家庭・学校・社会教育はどのような内容で行われているか考察し整理してくる。 事後 家庭教育、学校教育、社会教育の違いとその関連性について理解する。	40 分 60 分
第 3 回	社会教育から生涯学習 1～戦前の社会教育	事前 戦前の社会について調べてくる。 事後 戦前の社会教育の実態について理解する。	40 分 60 分
第 4 回	社会教育から生涯学習 2～戦後の社会教育の発端	事前 「戦後の教育改革」について調べてくる。 事後 戦後の社会教育の実態について理解する。	40 分 60 分
第 5 回	社会教育から生涯学習 3～社会教育法の成立と内容	事前 「社会教育法」について調べてくる。 事後 社会教育の制度的な進展について理解する。	40 分 60 分
第 6 回	生涯教育から生涯学習	事前 「生涯教育」について調べてくる。 事後 生涯教育から生涯学習へ移行する過程について理解する。	40 分 60 分
第 7 回	生涯学習社会の実現に向けて 1～生涯学習関連施策の動向	事前 「生涯学習関連施策」について調べてくる。 事後 重要な施策の動向について理解する。	40 分 60 分
第 8 回	生涯学習社会の実現に向けて 2～各教育機能相互の連携	事前 第 2 回講義を復習してくる。 事後 事例として、各教育機能がどのように相互に連携しているのか理解する。	40 分 60 分
第 9 回	生涯学習 1～学び方の多様性	事前 自分の学習の内容を場面とその学び方について考え整理してくる。 事後 自己学習から学級・教室などまで生涯学習における学び方について理解する。	40 分 60 分
第 10 回	生涯学習 2～学ぶ人の多様性	事前 どのような人がどのように学んでいるのか考察し整理してくる。 事後 胎児から高齢者まで学ぶ人について理解を深める。	40 分 60 分
第 11 回	生涯学習とリカレント教育	事前 「リカレント教育」について調べてくる。 事後 生涯学習においてリカレント教育が持つ意味を理解する。	40 分 60 分
第 12 回	生涯学習とまちづくり 1～生涯学習の特性	事前 自分の住んでいる市町の地域課題を調べてくる。 事後 生涯学習がまちづくりに結びつきやすい特性について理解する。	40 分 60 分
第 13 回	生涯学習とまちづくり 2～岩手県金ヶ崎町の事例 1	事前 岩手県金ヶ崎町について、簡単に調べてくる。 事後 この地において「生涯教育」を基盤に町づくりが展開していく実態を理解する。	40 分 60 分
第 14 回	生涯学習とまちづくり 3～岩手県金ヶ崎町の事例 2 続き	事前 金ヶ崎町のまちづくりの実態をインターネットで調べてくる。 事後 生涯学習とまちづくりの一つの事例として理解する。	40 分 60 分
第 15 回	小括～半年間のまとめ・ディスカッション	事前 第 1 回から 14 回までの講義の中での疑問点などを整理してくる。 事後 前半の講義に関して全体的に理解する。	40 分 60 分

フィードバック 前期は五部門に大きく分けられるので、それぞれの部門の最後に小テストをおこない、それを添削し、コメントを付けることによって、学修成果のフィードバックをする。

成績評価 定期試験 60%、小テスト 15%、授業態度 15%、課題 10%

テキスト テキストは使用しないが、参考文献として以下の文献などを挙げておく。
赤尾勝巳、『生涯学習の社会学』、玉川大学出版部、佐々木正治、『生涯学習社会の構築』、福村出版、前平泰志、『生涯学習概論』ミネルヴァ書房

オフィスアワー 随時 E メールにて。 wellatti@msb.biglobe.ne.jp

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>								

生涯学習概論-2

※社会教育主事養成に関する科目

非常勤講師 上羅廣

科目コード：SOC107

対象コース／専門／学GLAコース／文化創造マネジメント専門／1年次、GLAコース／音楽学・音楽教育専門／1～2年次、器楽・声楽・演奏家コース／全専門／1～2年次

形態：講義

単位数：2単位

概要 生涯学習時代の社会教育の意義を踏まえ、社会教育私設、社会教育の方法など基本的なことを学び理解する。また、生涯学習における学習課題や学習相談の意義、ボランティアなどについても学び理解する。最後に生涯スポーツの問題にも言及する。

到達目標 特に後期は生涯学習のなかで社会教育の意義や実践の内容などについて主に学ぶので、それを理解してほしい。

授業計画 生涯学習、学校教育、社会教育の関係への理解

第1回	生涯学習時代の社会教育の意義	事前 自分の住む町村における社会教育の事態について調べてくる。 事後 生涯学習時代における社会教育の意義について理解する。	110分 160分
第2回	生涯学習の振興と社会教育行政	事前 自分の住む市町で「生涯学習センター」や「生涯学習推進会議」などが設置されているか調べてくる。 事後 生涯学習の振興のために社会教育行政がどのような役割を果たしているか理解する。	110分 160分
第3回	社会教育施設1～公民館	事前 自分の住む市町の公民館でどのような学習が行われているか調べてくる。 事後 日本における公民館の成立とその意味について理解する。	110分 160分
第4回	社会教育施設2～図書館	事前 自分の住む市町における図書館の実態について調べてくる。 事後 独立館、併設館、指定管理者制度による民間企業経営図書館など総合的に図書館を理解する。	110分 160分
第5回	社会教育施設3～博物館	事前 自分の住む市町、もしくは身近な羽生憑かんについて調べてくる。 事後 博物館の種類も含め博物館を社会教育施設として理解する。	110分 160分
第6回	社会教育関連施設	事前 「社会教育関連施設」について調べてくる。 事後 社会教育関連施設について今民間、図書館、博物館を含めて理解する。	110分 160分
第7回	社会教育の方法・形態	事前 社会教育における学習の方法、形態について第1～8回を振り返り考察してくる。 事後 社会教育の方法と携帯について理解する。	110分 160分
第8回	社会教育指導者、社会教育委員、公民館運営審議会委員	事前 一つだけで良いので、調べてくる。 事後 社会教育における人の役割を全体の中で理解する。	110分 160分
第9回	生涯学習と個人、家庭、地域の学習課題	事前 学習課題とは何か、調べてくる。 事後 それぞれの学習課題の特徴について理解する。	110分 160分
第10回	学習情報の提供と学習相談の意義	事前 自分の住む市町で、学習情報の提供や学習相談がどのような形で実施されているか調べてくる。 事後 生涯学習における学習情報の提供と学習相談の現状について理解する。	110分 160分
第11回	生涯学習とボランティア	事前 「ボランティア」について調べてくる。 事後 生涯学習におけるボランティアについての理解を深める。	110分 160分
第12回	生涯スポーツとスポーツ基本法の成立	事前 「スポーツ基本法」、「スポーツ庁」について調べてくる。 事後 スポーツ政策の現状について理解する。	110分 160分
第13回	新たなスポーツの時代	事前 現在スポーツが、どのように行われているか、体験をもとに考察してくる。 事後 スポーツが高齢社会のなかで、新たな局面を迎えていることを理解する。	110分 160分
第14回	生涯学習の課題	事前 今後の生涯学習の課題について、自分なりに考察してみる。 事後 生涯学習の課題の現状について理解を深める。	110分 160分
第15回	まとめ	事前 全体の講義に関して、疑問点を整理してくる。 事後 疑問点の補足と全体のとりまとめについて、もう一度整理し理解する。	110分 160分

フィードバック それぞれの課題別の講義のタイミングを計り、五回程度の小テストを実施し、添削し、コメントを付け返却することによって、学修成果のフィードバックをする。

成績評価 定期試験60%、小テスト15%、学習態度15%、課題10%で評価する。

テキスト テキストは使用しないが、参考文献として福留強『社会教育委員必携-生涯学習と社会教育委員』、全日本社会教育連合会など。

オフィスアワー 随時 Eメールにて。 wellatti@msb.biglobe.ne.jp

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>											

ラテン語-1

教授 上尾信也

科目コード：REA107

対象コース／専門／学年：GLA コース／音楽学専門／1～3 年次

形態：講義	単位数：2 単位
概要	西洋の音楽文化を学ぶ者にとって基礎となるラテン語を、初級を復習しつつ中世ラテン語まで学ぶ。グレゴリオ聖歌を始めとして教会に関わる音楽のみならず、ラテン語を用いた音楽の叙述や音楽作品の研究の土台となるべく、中世ラテン語によるウルガタ版聖書なども講読し実践的な面も考慮し理解していく。大学でラテン語を履修していたことを必須とする。
到達目標	辞書を使いラテン語の大まかな意味が取れること。音楽作品に用いられるラテン語歌詞の発音ができること。ラテン語から派生したヨーロッパ系言語の語彙を把握し、西洋文化の「コイネ」（共通性）の意識を持てること。

授業計画			
【AL】			
第1回	ガイダンス、ラテン語とは：グレゴリオ聖歌から	事前 教会の典礼書を用いグレゴリオ聖歌を聞いてくる。 事後 教会の典礼書を用いグレゴリオ聖歌を歌ってみる	135 分 135 分
第2回	字母・発音・音節・アクセント	事前 第2回目の範囲を一読 事後 第2回目の復習	135 分 135 分
第3回	名詞と形容詞	事前 第3回目の範囲を一読 事後 第3回目の復習	135 分 135 分
第4回	動詞	事前 第4回目の範囲を一読 事後 第4回目の復習	135 分 135 分
第5回	代名詞	事前 第5回目の範囲を一読 事後 第5回目の復習	135 分 135 分
第6回	分詞・動名詞・動形容詞	事前 第6回目の範囲を一読 事後 第6回目の復習	135 分 135 分
第7回	代名詞2・その他	事前 第7回目の範囲を一読 事後 第7回目の復習	135 分 135 分
第8回	様々な構文	事前 第8回目の範囲を一読 事後 第8回目の復習	135 分 135 分
第9回	格のまとめ	事前 第9回目の範囲を一読 事後 第9回目の復習	135 分 135 分
第10回	トレーニング 名詞と形容詞 動詞	事前 第10回目の範囲を一読 事後 第10回目の復習	135 分 135 分
第11回	トレーニング 代名詞 分詞・動名詞・動形容詞	事前 第11回目の範囲を一読 事後 第11回目の復習	135 分 135 分
第12回	中世ラテン語とウルガタ版聖書	事前 第12回目の範囲を一読 事後 第12回目の復習	135 分 135 分
第13回	旧約聖書の「詩篇」と詩篇唱	事前 第13回目の範囲を一読 事後 第13回目の復習	135 分 135 分
第14回	聖務日課書とミサ典礼書とグレゴリオ聖歌	事前 第14回目の範囲を一読 事後 第14回目の復習	135 分 135 分
第15回	中世から現代までのミサ曲を比較してみる。	事前 事前に対象となるミサ曲を数曲用意する 事後 夏期課題に備える	135 分 135 分

フィードバック 随時行う小テストやコメントリーポートの回答を行いつつ疑問質問意見に答えていく

成績評価 小テスト（10%）、コメントリーポート（20%）、夏期課題（30%）、期末試験（40%）

テキスト 山下太郎『しっかり学ぶ初級ラテン語（Basic Language Learning Series）』（ペレ出版）
 山下太郎『しっかり身につくラテン語トレーニングブック（Basic Language Learning Series）』（ペレ出版）
 課題テキストや参考文献、辞書についてはその都度提示する。以下も参照する。
 松本悦治『ラテン語入門』（駿河台出版）
 有田潤『インデックス式ラテン文法表』（白水社）
 国原吉之助『中世ラテン語入門』（南江堂）

オフィスアワー 授業後

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性							
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	

ラテン語-2

教授 上尾信也

科目コード：REA108

対象コース／専門／学年：GLAコース／音楽学専門／1～3年次

形態：講義	単位数：2単位
概要	西洋の音楽文化を学ぶ者にとって基礎となるラテン語を、初級を復習しつつ中世ラテン語を学ぶ。教会に関わる音楽のみならず、ラテン語を用いた音楽の叙述や音楽作品の研究の土台となるべく、中世ラテン語によるウルガタ版聖書や歴史文献なども講読し実践的な面も考慮し理解していく。大学でラテン語を履修していたこと、ヨーロッパ古典語研究1の修得を必須とする。
到達目標	辞書を使いラテン語の大まかな意味が取れること。音楽作品に用いられるラテン語歌詞の発音ができること。ラテン語から派生したヨーロッパ系言語の語彙を把握し、西洋文化の「コイネ」(共通性)の意識を持てること。

授業計画		
【AL】		
第1回	ガイダンス、中世ラテン語と各国語	事前 欧米語でラテン語が語源の言葉を調べて来る 事後 「モットー」について調べてみる 135分
第2回	中世ラテン語の綴と音声、語彙、語形	事前 第2回目の範囲を一読 135分 事後 第2回目の復習 135分
第3回	中世ラテン語文法1 文法的な一致、格	事前 第3回目の範囲を一読 135分 事後 第3回目の復習 135分
第4回	前置詞、代名詞、形容詞・副詞	事前 第4回目の範囲を一読 135分 事後 第4回目の復習 135分
第5回	動詞	事前 第5回目の範囲を一読 135分 事後 第5回目の復習 135分
第6回	法	事前 第6回目の範囲を一読 135分 事後 第6回目の復習 135分
第7回	接続詞、従属文、関係文	事前 第7回目の範囲を一読 135分 事後 第7回目の復習 135分
第8回	『黄金伝説』を読む1 Jacobus a Voragine, Legenda Aurea より「クリストファロス」	事前 第8回目の範囲を一読 135分 事後 第8回目の復習 135分
第9回	『黄金伝説』を読む2 Jacobus a Voragine, Legenda Aurea より「ヒエロニムス」	事前 第9回目の範囲を一読 135分 事後 第9回目の復習 135分
第10回	ソールズベリーのジョンを読む1 Johannes Salesberiensis, Polycraticus	事前 第10回目の範囲を一読 135分 事後 第10回目の復習 135分
第11回	ソールズベリーのジョンを読む2 Johannes Salesberiensis, Polycraticus	事前 第11回目の範囲を一読 135分 事後 第11回目の復習 135分
第12回	アンドレアス・カペラス『愛について』を読む Andreas Cappelanus, De Amore	事前 第12回目の範囲を一読 135分 事後 第12回目の復習 135分
第13回	実践的研究の紹介1「楽器論」～中世ラテン語の理論書から「オルガン」とは何かを探る	事前 第13回目の範囲を一読 135分 事後 第13回目の復習 135分
第14回	実践的研究の紹介2「楽器論」～中世ラテン語の語彙が他の言語にどのようにで伝播しているかを調べる	事前 第14回目の範囲を一読 135分 事後 第14回目の復習 135分
第15回	まとめ、資料としての古典語(冬期課題の発表)	事前 冬期課題の研究 135分 事後 冬期課題の発表 135分

フィードバック 随時行う小テストやコメントリーポートの回答を行いつつ疑問質問意見に答えていく

成績評価 小テスト(10%)、コメントリーポート(20%)、冬期課題(30%)、期末試験(40%)

テキスト 山下太郎『しっかり学ぶ初級ラテン語(Basic Language Learning Series)』(ペレ出版)
 山下太郎『しっかり身につくラテン語トレーニングブック(Basic Language Learning Series)』(ペレ出版)
 課題テキストや参考文献、辞書についてはその都度提示する。以下も参照する。
 松本悦治『ラテン語入門』(駿河台出版)
 有田潤『インデックス式ラテン文法表』(白水社)
 国原吉之助『中世ラテン語入門』(南江堂)

オフィスアワー 授業後

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	

社会教育実習 1

非常勤講師 杉山幸代

科目コード：SOC301

対象コース／専門／学年：全コース／全専門／2～3年次

形態：実習

単位数 2単位

概要 本講座は、音楽や芸術が「社会」に対して何ができるのかを、「制作者」の目線で問い直すことを目的とする。例えば、音楽を生涯学習（社会教育）の文脈に置き換えたとき、音楽にはどのようなことができるのか。そのような場や仕組みをつくる人材にはどのような専門性やスキルが必要なのか。

到達目標 本講座では、文化創造論とマネジメント演習等での学びを具現させるための講座と位置づけ、自らが定めた問いに対する知見をインターンシップ等の現場実習から学び得ることを目標とする。文化施設や芸術団体、NPO 法人、または社会教育の現場に携わることにより、現場で求められるスキルと思考、リサーチ力を獲得する。
※社会教育実習 2 との同時履修は認めない。

授業計画

回数	内容	事前	事後	評価
第 1 回	合同オリエンテーション —音楽と社会をつなぐ仕事を考える		指定課題を読む	100分
第 2 回	レクチャー：これからの「学び」を考える —社会構成主義的学習観	事前 指定課題を読む	事後	100分
第 3 回	レクチャー：音楽と社会教育① —社会教育主事の役割	事前 指定課題を読む	事後	100分
第 4 回	レクチャー：音楽と社会教育② —社会教育主事の仕事	事前 指定課題を読む	事後	100分
第 5 回	レクチャー：音楽と社会教育③ —社会教育主事の現場	事前	事後 レポートを書き、提出する	100分
第 6 回	レクチャー：社会教育とアートマネジメント① —音楽を活用した様々な学びの場の事例から	事前 指定課題を読む	事後	100分
第 7 回	レクチャー：社会教育とアートマネジメント② —文化政策と文化資本	事前 指定課題を読む	事後	100分
第 8 回	レクチャー：実習に行くことの意味を考える —実習を豊かにするための準備とリサーチ	事前	事後 リサーチを行い、実習希望のフィールドを決める	100分
第 9 回	ワークショップ：実習先をリサーチする	事前	事後 実習先選定のためのリサーチを行い、実習計画書の記入する	70分 100分
第 10 回	実習前オリエンテーション① —プレゼンテーション、実習前の心構え、マナー	事前 プレゼンテーションの準備	事後	100分
第 11 回	実習前オリエンテーション② —履歴書の書き方、個別指導	事前 実習に必要な履歴書や応募書類を記入する	事後 応募書類の修正	70分 30分
第 12 回	現場実習 I —現場の概要を把握する①	事前 実習準備	事後 実習日誌の記入	80分 20分
第 13 回	現場実習 II —現場の概要を把握する②	事前 実習準備	事後 実習日誌の記入	80分 20分
第 14 回	現場実習 III —現場の概要を把握する③	事前 実習準備	事後 実習日誌の記入	80分 20分
第 15 回	現場実習 IV —現場における自分の役割に気づく①	事前 実習準備	事後 実習日誌の記入	80分 20分
第 16 回	現場実習 V —現場における自分の役割に気づく②	事前 実習準備	事後 実習日誌の記入	80分 20分
第 17 回	現場実習 VI —現場における自分の役割に気づく③	事前 実習準備	事後 実習日誌の記入	80分 20分
第 18 回	現場実習 VII —現場で求められているスキルとは何か①	事前 実習準備	事後 実習日誌の記入	80分 20分
第 19 回	現場実習 VIII —現場で求められているスキルとは何か②	事前 実習準備	事後 実習日誌の記入	80分 20分
第 20 回	現場実習 IX —現場で求められているスキルとは何か③	事前 実習準備	事後 実習日誌の記入	80分 20分
第 21 回	現場実習 X —現場における所作を体得①	事前 実習準備	事後 実習日誌の記入	80分 20分
第 22 回	現場実習 XI —現場における所作を体得②	事前 実習準備	事後 実習日誌の記入	80分 20分
第 23 回	現場実習 XII —現場における所作を体得③	事前 実習準備	事後 実習日誌の記入	80分 20分
第 24 回	現場実習 XIII —現場の課題を発見する①	事前 実習準備	事後 実習日誌の記入	80分 20分
第 25 回	現場実習 XIV —現場の課題を発見する②	事前 実習準備	事後 実習日誌の記入	80分 20分
第 26 回	現場実習 XV —現場の課題を発見する③	事前 実習準備	事後 実習日誌の記入	80分 20分
第 27 回	終了報告会① —実習の成果を共有し、ふりかえる	事前 報告会における発表の準備	事後	100分
第 28 回	終了報告会② —実習の成果を共有し、ふりかえる	事前 報告会における発表の準備	事後	100分
第 29 回	終了報告会③ —実習の成果を共有し、ふりかえる	事前 報告会における発表の準備	事後	100分
第 30 回	まとめ	事前	事後 最終プレゼンテーション資料を修正し、提出する	分

フィードバック 授業中のプレゼンテーションやコメント（発言、質問）については、授業内でフィードバックを行う。個別質問等については、授業後に随時対応する。また、実習準備に必要な応募書類等の添削はメールで随時対応する。

成績評価 対面授業中の取組姿勢、レポート、各プレゼンテーション、さらに実習計画書と報告書など各提出物を総合的に評価する。

テキスト 【課題図書】 中川真、フィルムアート社編集部（2011）.『これからのアートマネジメント“ソーシャル・シェア”への道』.フィルムアート社。ほか、授業中に随時指定する。

【参考図書】 平田オリザ（2001）.『芸術立国論』.集英社新書。/平田オリザ（2013）.『新しい広場をつくる——市民芸術概論綱要』.岩波書店。地域創造（2004）.『公立文化施設職員のための制作基礎知識』./苧宿俊文、佐伯胖、高木光太郎編（2012）『まなびを学ぶ』.東京大学出版社。など

オフィスアワー 随時 メールにて ysugiyama@uenogakuen.ac.jp

備考 原則として、第 1～11 回、第 27～30 回は集中講義とする。インターンシップやボランティア初心者でも受講可能。ただし、講師による実習先の斡旋は行わない（公募による実習先を履修生が各自探す）が、実習先は講師と相談の上、決定すること。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>							

社会教育実習 2

非常勤講師 杉山幸代

科目コード：SOC302

対象コース／専門／学年：全コース／全専門／3～4 年次

開講年限／形態：半期／実習

単位数 2 単位

概要	社会教育実習 1 よりも、さらに踏み込んだ実習を行うことを目的とする。社会と芸術を繋ぎ、音楽や芸術で「社会」に対して何ができるのかを、制作者の目線で問い直すと同時に、実践的な提案ができる人材になるための視座を得る。例えば、音楽を生涯学習（社会教育）の文脈に置き換えたとき、音楽にはどのようなことができるのか。そのような場や仕組みをつくる人材にはどのような専門性やスキルが必要なのか。
到達目標	本講座では、自らが定めた問いに対する知見をインターンシップ等の現場実習から学び得ることを目標とする。文化施設や芸術団体、NPO 法人、または社会教育の現場に携わることにより、現場で求められるスキルと思考、リサーチ力を獲得する。 ※社会教育実習 2 との同時履修は認めない。

授業計画

回数	内容	事前	事後	評価
第 1 回	合同オリエンテーション —音楽と社会をつなぐ仕事を考える		指定課題を読む	100 分
第 2 回	レクチャー：これからの「学び」を考える —社会構成主義的学習観	事前 指定課題を読む	事後	100 分
第 3 回	レクチャー：音楽と社会教育① —社会教育主事の役割	事前 指定課題を読む	事後	100 分
第 4 回	レクチャー：音楽と社会教育② —社会教育主事の仕事	事前 指定課題を読む	事後	100 分
第 5 回	レクチャー：音楽と社会教育③ —社会教育主事の現場	事前 事後	レポートを書き、提出する	100 分
第 6 回	レクチャー：社会教育とアートマネジメント① —音楽を活用した様々な学びの場の事例から	事前 指定課題を読む	事後	100 分
第 7 回	レクチャー：社会教育とアートマネジメント② —文化政策と文化資本	事前 指定課題を読む	事後	100 分
第 8 回	レクチャー：実習に行くことの意味を考える —実習を豊かにするための準備とリサーチ	事前 事後	リサーチを行い、実習希望のフィールドを決める	100 分
第 9 回	ワークショップ：実習先をリサーチする	事前 事後	実習先選定のためのリサーチを行い、実習計画書の記入する	70 分 100 分
第 10 回	実習前オリエンテーション① —プレゼンテーション、実習前の心構え、マナー	事前 事後	プレゼンテーションの準備	100 分
第 11 回	実習前オリエンテーション② —履歴書の書き方、個別指導	事前 事後	実習に必要な履歴書や応募書類を記入する 応募書類の修正	70 分 30 分
第 12 回	現場実習 I —現場の概要を把握する①	事前 事後	実習準備 実習日誌の記入	80 分 20 分
第 13 回	現場実習 II —現場の概要を把握する②	事前 事後	実習準備 実習日誌の記入	80 分 20 分
第 14 回	現場実習 III —現場の概要を把握する③	事前 事後	実習準備 実習日誌の記入	80 分 20 分
第 15 回	現場実習 IV —現場における自分の役割に気づく①	事前 事後	実習準備 実習日誌の記入	80 分 20 分
第 16 回	現場実習 V —現場における自分の役割に気づく②	事前 事後	実習準備 実習日誌の記入	80 分 20 分
第 17 回	現場実習 VI —現場における自分の役割に気づく③	事前 事後	実習準備 実習日誌の記入	80 分 20 分
第 18 回	現場実習 VII —現場で求められているスキルとは何か①	事前 事後	実習準備 実習日誌の記入	80 分 20 分
第 19 回	現場実習 VIII —現場で求められているスキルとは何か②	事前 事後	実習準備 実習日誌の記入	80 分 20 分
第 20 回	現場実習 IX —現場で求められているスキルとは何か③	事前 事後	実習準備 実習日誌の記入	80 分 20 分
第 21 回	現場実習 X —現場における所作を体得す①	事前 事後	実習準備 実習日誌の記入	80 分 20 分
第 22 回	現場実習 XI —現場における所作を体得す②	事前 事後	実習準備 実習日誌の記入	80 分 20 分
第 23 回	現場実習 XII —現場における所作を体得す③	事前 事後	実習準備 実習日誌の記入	80 分 20 分
第 24 回	現場実習 XIII —現場の課題を発見する①	事前 事後	実習準備 実習日誌の記入	80 分 20 分
第 25 回	現場実習 XIV —現場の課題を発見する②	事前 事後	実習準備 実習日誌の記入	80 分 20 分
第 26 回	現場実習 XV —現場の課題を発見する③	事前 事後	実習準備 実習日誌の記入	80 分 20 分
第 27 回	終了報告会① —実習の成果を共有し、ふりかえる	事前 事後	報告会における発表の準備	100 分
第 28 回	終了報告会② —実習の成果を共有し、ふりかえる	事前 事後	報告会における発表の準備	100 分
第 29 回	終了報告会③ —実習の成果を共有し、ふりかえる	事前 事後	報告会における発表の準備	100 分
第 30 回	まとめ	事前 事後	最終プレゼンテーション資料を修正し、提出する	100 分

フィードバック 授業中のプレゼンテーションやコメント（発言、質問）については、授業内でフィードバックを行う。個別質問等については、授業後に随時対応する。また、実習準備に必要な応募書類等の添削はメールで随時対応する。

成績評価 対面授業中の取組姿勢、レポート、各プレゼンテーション、さらに実習計画書と報告書など各提出物を総合的に評価する。

テキスト 【課題図書】 中川真、フィルムアート社編集部（2011）『これからのアートマネジメント “ソーシャル・シェア” への道』。フィルムアート社。ほか、授業中に随時指定する。

【参考図書】 平田オリザ（2001）『芸術立国論』。集英社新書。／平田オリザ（2013）『新しい広場をつくる——市民芸術概論綱要』。岩波書店。地域創造（2004）『公立文化施設職員のための制作基礎知識』。／苅宿俊文、佐伯胖、高木光太郎編（2012）『まなびを学ぶ』。東京大学出版社。など

オフィスアワー 随時 メールにて ysugiyama@uenogakuen.ac.jp

備考 原則として、第 1～11 回、第 27～30 回は集中講義とする。インターンシップやボランティア初心者でも受講可能。ただし、講師による実習先の斡旋は行わない（公募による実習先を履修生が各自探す）が、実習先は講師と相談の上、決定すること。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>							

古楽研究（鍵盤音楽史）-1

教授 小林英之

科目コード：MUS305

対象コース／専門／学年：GLAコース／音楽学・音楽教育専門／2～4年次、器楽・声楽・演奏家コース／全専門／3～4年次

形態：講義

単位数：2単位

概要 現存する最古の鍵盤作品からバッハまでの流れを追う。

到達目標 14～18世紀の鍵盤音楽史の概観。現存する最古のものから、J.S.バッハの頃までの鍵盤音楽を中心に「トッカータ（前奏曲）」「組曲」「オルガン・ミサ」「コラル編曲」など代表的な鍵盤楽器のための形式の変遷を追う。授業中には、関連するほかの古楽器を含め、本学所蔵の楽器に触れる機会を持つ。

回	授業内容	事前	事後	単位数
第1回	上野学園大学で学べる古楽器について（第1回）全般	「古楽」という考え方について調べておく。	新しく学んだ音楽用語について復習。	135分
第2回	上野学園大学で学べる古楽器について（第2回）チェンバロ	バロック時代以前の鍵盤楽器について調べておく。（撥弦楽器）	復習。興味を持った点を自分なりに深めてみる。	135分
第3回	上野学園大学で学べる古楽器について（第3回）クラヴィコード、フォルテピアノ	バロック時代以前の鍵盤楽器について調べておく。（撥弦楽器）	復習。興味を持った点を自分なりに深めてみる。	135分
第4回	上野学園大学で学べる古楽器について（第4回）オルガン（イタリア、フランス）	バロック時代以前の鍵盤楽器について調べておく。（気鳴楽器）	復習。興味を持った点を自分なりに深めてみる。	135分
第5回	上野学園大学で学べる古楽器について（第5回）オルガン（ドイツ、スペイン）	バロック時代以前の鍵盤楽器について調べておく。（気鳴楽器）	復習。興味を持った点を自分なりに深めてみる。	135分
第6回	上野学園大学で学べる古楽器について（第6回）リコーダー	バロック時代以前の鍵盤楽器について調べておく。（木管楽器）	復習。興味を持った点を自分なりに深めてみる。	135分
第7回	上野学園大学で学べる古楽器について（第7回）トラヴェルソ	バロック時代以前の鍵盤楽器について調べておく。（木管楽器）	復習。興味を持った点を自分なりに深めてみる。	135分
第8回	上野学園大学で学べる古楽器について（第8回）ガンバ	バロック時代以前の鍵盤楽器について調べておく。（弦楽器）	復習。興味を持った点を自分なりに深めてみる。	135分
第9回	上野学園大学で学べる古楽器について（第9回）リュート	バロック時代以前の鍵盤楽器について調べておく。（弦楽器）	復習。興味を持った点を自分なりに深めてみる。	135分
第10回	第9回までに学んだ楽器に触れる。試奏する。	第9回までの学習内容を復習しておく。	実際に触れた楽器について感じたことをまとめておく。	135分
第11回	鍵盤楽器用トッカータについて（第1回）トッカータとは？	トッカータという曲種について調べておく。	復習。興味を持った点を自分なりに深めてみる。	135分
第12回	鍵盤楽器用トッカータについて（第2回）イタリア、ヴェネツィア	ヴェネツィアはどこなところか？	復習。興味を持った点を自分なりに深めてみる。	135分
第13回	鍵盤楽器用トッカータについて（第3回）オランダ、スウェーデン	17世紀前後のオランダの状況について。	復習。興味を持った点を自分なりに深めてみる。	135分
第14回	鍵盤楽器用トッカータについて（第4回）イタリア、ナポリ	事前に配布テキストを読み、不明な点を挙げておく。	復習。興味を持った点を自分なりに深めてみる。	135分
第15回	鍵盤楽器用トッカータについて（第5回）イタリア、フレスコバルディ	事前に配布テキストを読み、不明な点を挙げておく。	復習。興味を持った点を自分なりに深めてみる。	135分

フィードバック 授業内容の区切りごとに課サレポートへのコメント。

成績評価 年度末に与えられる課題について作成したレポートに平常点を加味して評価する。

テキスト 必要に応じて配布、紹介、必要なものは購買で購入する。

オフィスアワー 授業終了後教室にて

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>									

古楽研究（鍵盤音楽史）-2

教授 小林英之

科目コード：MUS306

対象コース／専門／学年：GLAコース／音楽学・音楽教育専門／2～4年次、器楽・声楽・演奏家コース／全専門／3～4年次

形態：講義

単位数：2単位

概要 現存する最古の鍵盤作品からバッハまでの流れを追う。

到達目標 14～18世紀の鍵盤音楽史の概観。現存する最古のものから、J.S.バッハの頃までの鍵盤音楽を中心に「トッカータ（前奏曲）」「組曲」「オルガン・ミサ」「コラール編曲」など代表的な鍵盤楽器のための形式の変遷を追う。授業中には、関連するほかの古楽器を含め、本学所蔵の楽器に触れる機会を持つ。

授業計画

第1回	鍵盤楽器用トッカータについて（第6回）南ドイツ、フレスコバルディの継承	事前 事前に配布テキストを読み、不明な点を挙げておく。 事後 復習。興味を持った点を自分なりに深めてみる。	135分 135分
第2回	鍵盤楽器用トッカータについて（第7回）組曲との関連	事前 組曲と呼ばれる作品の、自分が知っているものを挙げておく。 事後 復習。興味を持った点を自分なりに深めてみる。	135分 135分
第3回	鍵盤楽器用トッカータについて（第8回）多楽章形式のトッカータ	事前 事前に配布テキストを読み、不明な点を挙げておく。 事後 復習。興味を持った点を自分なりに深めてみる。	135分 135分
第4回	鍵盤楽器用トッカータについて（第9回）北ドイツ、スウェーリンクの影響	事前 事前に配布テキストを読み、不明な点を挙げておく。 事後 復習。興味を持った点を自分なりに深めてみる。	135分 135分
第5回	鍵盤楽器用トッカータについて（第10回）北ドイツ、南ドイツの影響	事前 北ドイツと南ドイツの地域性の違いを調べておく。 事後 復習。興味を持った点を自分なりに深めてみる。	135分 135分
第6回	鍵盤楽器用トッカータについて（第11回）北ドイツ、多部分トッカータ	事前 前期に学んだ北ドイツのオルガンについて復習しておく。 事後 復習。興味を持った点を自分なりに深めてみる。	135分 135分
第7回	鍵盤楽器用トッカータについて（第12回）バッハ、北ドイツの影響を受けたトッカータ	事前 バッハが、いつ、どこで活躍していたか調べておく。 事後 復習。興味を持った点を自分なりに深めてみる。	135分 135分
第8回	鍵盤楽器用トッカータについて（第13回）バッハ、チェンバロ用トッカータ	事前 事前に配布テキストを読み、不明な点を挙げておく。 事後 復習。興味を持った点を自分なりに深めてみる。	135分 135分
第9回	鍵盤楽器用トッカータについて（第14回）バッハ、フーガと対をなすトッカータ	事前 事前に配布テキストを読み、不明な点を挙げておく。 事後 復習。興味を持った点を自分なりに深めてみる。	135分 135分
第10回	鍵盤楽器用トッカータについて（第15回）バッハ、組曲の中のトッカータ	事前 事前に配布テキストを読み、不明な点を挙げておく。 事後 復習。興味を持った点を自分なりに深めてみる。	135分 135分
第11回	組曲について（第1回）組曲とは？	事前 バロック時代の宮廷舞踊について、調べておく。 事後 復習。興味を持った点を自分なりに深めてみる。	135分 135分
第12回	組曲について（第2回）フロールバグー	事前 これまでに学んだフレスコバルディについて復習しておく。 事後 復習。興味を持った点を自分なりに深めてみる。	135分 135分
第13回	組曲について（第3回）ルイ・クープラン	事前 事前に配布テキストを読み、不明な点を挙げておく。 事後 復習。興味を持った点を自分なりに深めてみる。	135分 135分
第14回	コラール作品について	事前 コラールとは？ 事後 復習。興味を持った点を自分なりに深めてみる。	135分 135分
第15回	聖歌による作品について	事前 聖歌、ミサとは？ 事後 復習。興味を持った点を自分なりに深めてみる。	135分 135分

フィードバック 授業内容の区切りごとに課サレポートへのコメント。

成績評価 学期末に与えられる課題について作成したレポートに平常点を加味して評価する。

テキスト 必要に応じて配布、紹介、必要なものは購買で購入する。

オフィスアワー 授業終了後教室にて

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>									

古楽研究（古楽概説）-1

准教授 櫻井茂

科目コード：MUS307

対象コース／専門／学年： 器楽・演奏家コース／古楽器専門／2～4 年次、全コース／古楽器専門以外／3～4 年次

形態：講義	単位数：2 単位
概要	今日「古楽」という用語はすでに日常的なものとなったが「古乐的」「古楽器風」というように曖昧な、あるいは内容の無い使い方をされることもしばしばである。この授業では、演奏における歴史的認識の重要性と問題点について理解し、歴史的な演奏習慣について具体的に学んだ上で、それを自分自身の演奏に役立てる方法を探究する。
到達目標	「古楽」の持つ複雑さを自分の言葉で整理し、歴史的な演奏習慣について具体的な知識を身につける。さらに、その知識を自分自身の演奏に結びつける姿勢を養う。

授業計画

第1回	「古楽」が意味するもの	事前 「古楽」について自分なりの定義を考える 事後 「古楽」に関する記述を調べる	110分 170分
第2回	「古楽」と「古楽でないもの」	事前 演奏における「正しさ」について考える 事後 「古楽」がどのように捉えられてきたかを整理する	140分 140分
第3回	「古楽器」が意味するものⅠ 管楽器	事前 「古楽器」と呼ばれる楽器のうちどのような管楽器があるか調べる 事後 それぞれの楽器の特性を整理する	180分 100分
第4回	「古楽器」が意味するものⅡ 弦楽器	事前 「古楽器」と呼ばれる楽器のうちどのような弦楽器があるか調べる 事後 それぞれの楽器の特性を整理する	180分 100分
第5回	「古楽器」が意味するものⅢ 鍵盤楽器	事前 「古楽器」と呼ばれる楽器のうちどのような鍵盤楽器があるか調べる 事後 それぞれの楽器の特性を整理する	180分 100分
第6回	演奏実習 鍵盤楽器	事前 実習のための楽曲を選び演奏の準備をする 事後 演奏解釈上の視点について整理する	240分 40分
第7回	音律Ⅰ 音律の基礎	事前 音律について調べる 事後 音律に関する基礎的な事項を整理する	110分 170分
第8回	音律Ⅱ ピタゴラス音律	事前 ピタゴラス音律について調べる 事後 ピタゴラス音律の特性を整理する	180分 100分
第9回	音律Ⅲ 純正律	事前 純正律について調べる 事後 純正律の特性を整理する	180分 100分
第10回	音律Ⅳ 中全音律	事前 中全音律について調べる 事後 中全音律の特性を整理する	180分 100分
第11回	音律Ⅴ 不均等音律	事前 不均等音律について調べる 事後 不均等音律の特性を整理する	180分 100分
第12回	演奏実習 鍵盤楽器	事前 実習のための楽曲を選び演奏の準備をする 事後 演奏解釈上の視点について整理する	240分 40分
第13回	言葉と音楽	事前 言葉と音楽の関係に関する自分なりの具体例を考える 事後 言葉と音楽の関係を音楽史的視点から整理する	240分 40分
第14回	修辞学と音楽	事前 マドリガリズムについて調べる 事後 音楽修辞学について整理する	210分 70分
第15回	バッハのカンタータ	事前 バッハのカンタータを聞く 事後 音楽と社会の関わりについて整理する	220分 60分

フィードバック 授業での課題についてコメントで学修成果をフィードバックする。

成績評価 討論への参加姿勢 50 パーセント、演奏実習の内容 40 パーセント、課題 10%
歴史的情報に対する自分なりのアプローチを重視する。

テキスト アントニー・パートン編 角倉一郎訳『バロック音楽』 音楽の友社

オフィスアワー Eメール：shigusakurai@pop17.odn.ne.jp

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>					

古楽研究（古楽概説）-2

准教授 櫻井茂

科目コード：MUS308

対象コース／専門／学年： 器楽・演奏家コース／古楽器専門／2～4 年次、全コース／古楽器専門以外／3～4 年次

形態：講義	単位数：2 単位
概要	今日「古楽」という用語はすでに日常的なものとなったが「古楽的」「古楽器風」というように曖昧な、あるいは内容の無い使い方をされることもしばしばである。この授業では、演奏における歴史的認識の重要性と問題点について理解し、歴史的な演奏習慣について具体的に学んだ上で、それを自分自身の演奏に役立てる方法を探究する。
到達目標	「古楽」の持つ複雑さを自分の言葉で整理し、歴史的な演奏習慣について具体的な知識を身につける。さらに、その知識を自分自身の演奏に結びつける姿勢を養う。

授業計画		事前	事後	220 分
第 1 回	装飾法 I 装飾例の分析	ヘンデルのオペラアリアの演奏を聴き装飾例を調べる	装飾のパターンについて整理する	60 分
第 2 回	装飾法 II イタリア式装飾	17 世紀初期の作品の演奏を聴き装飾例を調べる	イタリア式装飾について整理する	60 分
第 3 回	装飾法 III フランス式装飾	18 世紀フランスの作品の演奏を聴き装飾例を調べる	フランス式装飾について整理する	60 分
第 4 回	装飾法 IV 16,17 世紀の文献検討	ディミニューションについて調べる	ディミニューションを実践してみる	140 分
第 5 回	装飾法 V 18 世紀音文献の検討	レオポルド・モーツァルトの「ヴァイオリン奏法」の中の装飾に関する項を読む	様々な装飾を実践してみる	180 分
第 6 回	装飾法 VI 装飾実習	簡単な装飾を考える	装飾によって音楽の方向性がどのように変わるか整理する	210 分
第 7 回	通奏低音 I カデンツの実習	通奏低音について調べる	実習した課題をもう一度実践してみる	100 分
第 8 回	通奏低音 II 簡単な楽曲の実習	リアリゼーションを考える	実習した課題をもう一度実践してみる	170 分
第 9 回	演奏実習 弦楽器	実習のための楽曲を選び演奏の準備をする	演奏解釈上の視点について整理する	240 分
第 10 回	様々な表現 テンポ・ルバート	いわゆる「古楽的な」演奏について自分のイメージをまとめる	歴史的情報に立脚した演奏表現について考える	110 分
第 11 回	様々な表現 ポルタメント、ヴィブラート	様式感について自分の考えを整理する	いわゆる「古楽的な」演奏について考え方を整理する	140 分
第 12 回	演奏実習 管楽器	実習のための楽曲を選び演奏の準備をする	演奏解釈上の視点について整理する	240 分
第 13 回	アーティキュレーションの諸相	アーティキュレーションについて調べる	演奏における様々なアーティキュレーションの処理について整理する	110 分
第 14 回	フレーズとアーティキュレーション	フレーズについて調べる	演奏におけるフレーズとアーティキュレーションの関係について整理する	170 分
第 15 回	音楽におけるヒエラルキーの概念	ヒエラルキーについて調べる	音楽におけるヒエラルキーについて整理する	170 分

フィードバック 授業での課題についてコメントで学修成果をフィードバックする。

成績評価 討論への参加姿勢 50 パーセント、演奏実習の内容 40 パーセント、課題 10%
歴史的情報に対する自分なりのアプローチを重視する。

テキスト アントニー・パートン編 角倉一郎訳『バロック音楽』 音楽の友社

オフィスアワー E メール：shigusakurai@pop17.odn.ne.jp

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				

ソルフェージュ：読譜と表現-1

非常勤講師 紅谷紀久子

科目コード：SLF205

対象コース／専門／学年： 器楽・声楽・GLA コース／全専門／2～4 年次

形態：実習

単位数：2 単位

概要 バロック時代の様々な舞曲を通して、それぞれの舞曲の音楽表現を考える。
舞曲ごとに、その舞曲の特徴的なステップを実際に体験し、楽譜上のリズムや拍、フレーズとステップがどのように関連しているのかわかり、その舞曲の表現方法を養う。

到達目標 身体表現を採り入れることで、演奏家・指導者としての必要な音楽表現のスキルを習得する。
授業で学んだことを理解し、実際の演奏に活かすための譜読力や表現力、音楽感覚を向上させることを目標とする。
グループを組み、ステップに合わせての演奏をし合うことで、生きた舞曲のリズムを習得する。

授業計画 ①舞曲のステップを実際に踏み、リズム表現、音楽表現をトレーニングする。
②身体表現から得たことを理解し、演奏に活かすために演奏発表する。

回数	内容	事前	事後	時間
第1回	ガイダンス 舞曲の概要と身体表現の基礎練習	様々な舞曲の特徴を考える。テキスト参照	基本動作を復習する。	90分 180分
第2回	身体表現の基礎練習 拍と呼吸	基本的動作を拍子に合わせて動けるよう心がける。	身体表現から得たことを自分の楽器で実践してみる。	120分 150分
第3回	身体表現を伴った譜読と表現の基礎1 メヌエットを踊る。メヌエットの基本ステップを学ぶ。	楽譜から、フレーズ・拍・リズムの表現方法を考える。	身体表現から得た表現のコツを自分の楽器で実践してみる。	120分 150分
第4回	身体表現を伴った譜読と表現の基礎2 メヌエットを踊る。メヌエットの復習。	学んだことを課題の楽譜の表現に活かす。	身体表現から得た表現のコツを自分の楽器で実践してみる。	120分 150分
第5回	身体表現を伴った譜読と表現の基礎3 メヌエット発表。	ステップの復習とステップに合わせての演奏表現を考える。	授業で学んだ表現を自分の演奏に活かせるように心がける。	150分 120分
第6回	身体表現を伴った譜読と表現の基礎4 プレを踊る。プレの基本ステップを学ぶ。	楽譜から、フレーズ・拍・リズムの表現方法を考える。	身体表現から得た表現のコツを自分の楽器で実践してみる。	120分 150分
第7回	身体表現を伴った譜読と表現の基礎5 プレを踊る。プレの復習。	学んだことを課題の楽譜の表現に活かす。	身体表現から得た表現のコツを自分の楽器で実践してみる。	120分 150分
第8回	身体表現を伴った譜読と表現の基礎6 プレ発表。	ステップの復習と、ステップに合わせての演奏表現を考える。	授業で学んだ表現を自分の演奏に活かせるように心がける。	150分 120分
第9回	身体表現を伴った譜読と表現の基礎7 ガヴォットを踊る。ガヴォットの基本ステップを学ぶ。	楽譜からフレーズ・拍・リズムの表現方法を考える。	身体表現から得た表現のコツを自分の楽器で実践してみる。	120分 150分
第10回	身体表現を伴った譜読と表現の基礎8 ガヴォットを踊る。ガヴォットの復習。	学んだことを課題の楽譜の表現に活かす。	身体表現から得た表現のコツを自分の楽器で実践してみる。	120分 150分
第11回	身体表現を伴った譜読と表現の基礎9 ガヴォット発表。	ステップの復習と、ステップに合わせての演奏表現を考える。	授業で学んだ表現を自分の演奏に活かせるように心がける。	150分 120分
第12回	身体表現を伴った譜読と表現の基礎10 サラバンドを踊る。サラバンドの基本ステップを学ぶ。	楽譜から、フレーズ・拍・リズムの表現方法を考える。	身体表現から得た表現のコツを自分の楽器で実践してみる。	120分 150分
第13回	身体表現を伴った譜読と表現の基礎11 サラバンドを踊る。サラバンドの復習。	学んだことを課題の楽譜の表現に活かす。	身体表現から得た表現のコツを自分の楽器で実践してみる。	120分 150分
第14回	身体表現を伴った譜読と表現の基礎12 サラバンド発表 レポート提出	ステップの復習と、ステップに合わせての演奏表現を考える。	授業で学んだ表現を自分の演奏に活かせるように心がける。	150分 120分
第15回	グループ発表	グループ発表の準備	授業で学んだ表現を自分の演奏に活かせるように心がける。	150分 120分

フィードバック レポートや発表を通して学習成果をフィードバックする。

成績評価 平常授業への取り組み 30% レポートと発表 30% グループ発表 40%

テキスト 浜中康子著『栄華のバロックダンス 舞踏譜に舞曲のルーツを求めて』（音楽之友社）
その他適宜プリントを配布する。

オフィスアワー 授業終了後 教室にて対応。

備考 動きやすい服装着用。バレエシューズ、室内履き（脱げない物）等、底が柔らかく滑らない履物を持参すること。ない場合は、裸足、くつ下でもよい。
運動靴や革靴など底が固い物、ハイヒールは不可。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

ソルフェージュ：読譜と表現-2

非常勤講師 紅谷紀久子

科目コード：SLF206

対象コース／専門／学年： 器楽・声楽・GLA コース／全専門／2～4 年次

形態：実習 単位数：2 単位

概要 バロック時代の様々な舞曲を通して、それぞれの舞曲の音楽表現を考える。
舞曲ごとに、その舞曲の特徴的なステップを実際に体験し、楽譜上のリズムや拍、フレーズとステップがどのように関連しているのかわかり、その舞曲の表現方法を養う。

到達目標 身体表現を採り入れることで、演奏家・指導者としての必要な音楽表現のスキルを習得する。
授業で学んだことを理解し、実際の演奏に活かすための読譜力や表現力、音楽感覚を向上させることを目標とする。
グループを組み、ステップに合わせての演奏をし合うことで、生きた舞曲のリズムを習得する。

授業計画 ①舞曲のステップを実際に踏み、リズム表現、音楽表現をトレーニングする。
②身体表現から得たことを理解し、演奏に活かすために演奏発表する。

回数	内容	事前	事後	時間
第1回	ガイダンス 舞曲の概要と身体表現の基礎練習	様々な舞曲の特徴を考える。テキスト参照	基本動作を復習する。	90分 180分
第2回	身体表現の基礎練習 拍と呼吸	基本的動作を拍子に合わせて動けるよう心がける。	身体表現から得たことを自分の楽器で実践してみる。	120分 150分
第3回	身体表現を伴った読譜と表現の基礎1 パスピエを踊る。パスピエの基本ステップを学ぶ。	楽譜から、フレーズ・拍・リズムの表現方法を考える。	身体表現から得た表現のコツを自分の楽器で実践してみる。	120分 150分
第4回	身体表現を伴った読譜と表現の基礎2 パスピエを踊る。パスピエの復習。	学んだことを課題の楽譜の表現に活かす。	身体表現から得た表現のコツを自分の楽器で実践してみる。	120分 150分
第5回	身体表現を伴った読譜と表現の基礎3 パスピエ発表	ステップの復習とステップに合わせての演奏表現を考える。	授業で学んだ表現を自分の演奏に活かせるように心がける。	150分 120分
第6回	身体表現を伴った読譜と表現の基礎4 リゴンを踊る。リゴンの基本ステップを学ぶ。	楽譜から、フレーズ・拍・リズムの表現方法を考える。	身体表現から得た表現のコツを自分の楽器で実践してみる。	120分 150分
第7回	身体表現を伴った読譜と表現の基礎5 リゴンを踊る。リゴンの復習。	学んだことを課題の楽譜の表現に活かす。	身体表現から得た表現のコツを自分の楽器で実践してみる。	120分 150分
第8回	身体表現を伴った読譜と表現の基礎6 リゴンを発表	ステップの復習と、ステップに合わせての演奏表現を考える。	授業で学んだ表現を自分の演奏に活かせるように心がける。	150分 120分
第9回	身体表現を伴った読譜と表現の基礎7 ジグを踊る。ジグの基本ステップを学ぶ。	楽譜からフレーズ・拍・リズムの表現方法を考える。	身体表現から得た表現のコツを自分の楽器で実践してみる。	120分 150分
第10回	身体表現を伴った読譜と表現の基礎8 ジグを踊る。ジグの復習。	学んだことを課題の楽譜の表現に活かす。	身体表現から得た表現のコツを自分の楽器で実践してみる。	120分 150分
第11回	身体表現を伴った読譜と表現の基礎9 ジグ発表	ステップの復習と、ステップに合わせての演奏表現を考える。	授業で学んだ表現を自分の演奏に活かせるように心がける。	150分 120分
第12回	身体表現を伴った読譜と表現の基礎10 クラントを踊る。クラントの基本ステップを学ぶ。	楽譜から、フレーズ・拍・リズムの表現方法を考える。	身体表現から得た表現のコツを自分の楽器で実践してみる。	120分 150分
第13回	身体表現を伴った読譜と表現の基礎11 クラントを踊る。クラントの復習。	学んだことを課題の楽譜の表現に活かす。	身体表現から得た表現のコツを自分の楽器で実践してみる。	120分 150分
第14回	身体表現を伴った読譜と表現の基礎12 クラント発表 レポート提出	ステップの復習と、ステップに合わせての演奏表現を考える。	授業で学んだ表現を自分の演奏に活かせるように心がける。	150分 120分
第15回	グループ発表	グループ発表の準備	授業で学んだ表現を自分の演奏に活かせるように心がける。	150分 120分

フィードバック レポートや発表を通して学習成果をフィードバックする。

成績評価 平常授業への取り組み 30% レポートと発表 30% グループ発表 40%

テキスト 浜中康子著『栄華のバロックダンス 舞踏譜に舞曲のルーツを求めて』（音楽之友社）
その他適宜プリントを配布する。

オフィスアワー 授業終了後 教室にて対応。

備考 動きやすい服装着用。バレエシューズ、室内履き（脱げない物）等、底が柔らかく滑らない履物を持参すること。ない場合は、裸足、くつ下でもよい。
運動靴や革靴など底が固い物、ハイヒールは不可。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

ソルフェージュ：鍵盤和声-1

講師 高島亜生

科目コード：SLF207

対象コース／専門／学年： 器楽・声楽・GLA コース／全専門／2～4 年次

形態：講義	単位数：1 単位
概要	一人一人ピアノを使って、実際の音楽現場で役立つように、メロディー伴奏付けや、モチーフ作曲や即興演奏、簡単な旋律の作曲と伴奏付け、弾き歌いなどの演習。和声感と演奏、即興、作曲などの壁を取り払い総合的な音楽能力を養う。

到達目標	様々な実習を通じて和声感覚を養うだけでなく、ピアノ弾き歌いや即興演奏など実技も行えるようソルフェージュ応用力も養う。 ①旋律と和声は切り離せないものである。②実際音楽的な耳を養う。③音楽的フレーズ感を身につける。④同じ旋律で様々な和声付けの可能性をあることを体験する。④音楽現場で実際に生かせる聴取力、アレンジ演奏ができるようにする。⑤ヤマハやカワイのグレード試験にも役立つ。これらを目標として学生の習熟度に合わせて一人一人ピアノを使用して実習する。
------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

回	内容	事前	事後	時間
第 1 回	オリエンテーション／力試し	和声進行、カデンツ、終止、近親調など音楽の基本理論を復習しておく。	実際の授業内容に応じて適宜指示。	30 分 60 分
第 2 回	旋律の伴奏付け基本編①／二部形式、カデンツ、終止、	第 1 回の力試しで苦手だった箇所の練習を取り組む。	授業の課題に取り組む。主に終わった課題をピアノで弾く。	30 分 60 分
第 3 回	旋律の伴奏付け基本編②／和声付け、コード付け、コードネーム	コードネームの読み方を未だ知らない学生は調べておく。	授業の課題に取り組む。主に終わった課題をピアノで弾く。	45 分 45 分
第 4 回	旋律の伴奏付け基本編③／和声の転回形の響きと伴奏アレンジへの活用	和声の転回形を復習しておく。	授業の課題に取り組む。主に終わった課題をピアノで弾く。	30 分 60 分
第 5 回	旋律の伴奏付け応用編④／三部形式、カデンツ、終止、	カデンツ 3 種類をピアノで弾いておく。二部と三部形式の違いを確認しておく。	授業の課題に取り組む。主に終わった課題をピアノで弾く。	30 分 60 分
第 6 回	旋律の伴奏付け応用編①／7 や 9 の和音のコード付け、変化和音や付加和音	各長・短音階の固有音上の 7、9 和音をピアノで弾いておく。	授業の課題に取り組む。主に終わった課題をピアノで弾く。	45 分 45 分
第 7 回	旋律の伴奏付け応用編② ／借用 D を使った経過和音を入れたコード付けと伴奏アレンジ	借用和音について復習	授業の課題に取り組む。主に終わった課題をピアノで弾く。	45 分 45 分
第 8 回	旋律の伴奏付け応用編③ ／借用 D を使った経過和音や転位音を使ったオブリガードを入れた伴奏アレンジ	第 7 回で完成した伴奏を元にオブリガード（対旋律）を作る。	授業の課題に取り組む。主に終わった課題をピアノで弾く。	50 分 40 分
第 9 回	メロディー弾き歌い①／ピアノ伴奏付	ピアノ初見読譜力を訓練しておく。	授業の課題に取り組む。主に終わった課題をピアノで弾く。	45 分 45 分
第 10 回	メロディー弾き歌い②／スコアリーディング	各種音部記号（ト音、ヘ音、ハ音）の読み方を復習しておく。	授業の課題に取り組む。主に終わった課題をピアノで弾く。	45 分 45 分
第 11 回	メロディー弾き歌い①／コードネーム付 中級編	コードネームの読み方を復習しておく。	授業の課題に取り組む。主に終わった課題をピアノで弾く。	45 分 45 分
第 12 回	メロディー弾き歌い②／コードネーム付 上級編	前回の続きの課題を実習する。	授業の課題に取り組む。主に終わった課題をピアノで弾く。	45 分 45 分
第 13 回	即興演奏／変奏 初級編	非和声音（転位音）の使い方を復習しておく。	授業の課題に取り組む。主に終わった課題をピアノで弾く。	45 分 45 分
第 14 回	即興演奏／変奏 中級編	前回の続きの課題を実習する。	授業の課題に取り組む。主に終わった課題をピアノで弾く。	45 分 45 分
第 15 回	即興演奏／変奏 上級編	前回の続きの課題を実習する。	授業の課題に取り組む。主に終わった課題をピアノで弾く。	45 分 45 分

フィードバック 授業内で実施する確認テストや一人一人実施する弾き歌い、伴奏付け等を聴いたり添削して改善点や今後の学習方法を、各自にコメントして伝える。

成績評価 定期試験 60%、宿題や課題 20%、授業への取り組み 20%

テキスト プリント楽譜（購買部）
五線紙とファイルを用意すること。
その他、使用する楽譜やテキストは必要に応じて指示する。適宜、プリントを配布する。

オフィスアワー 授業後教室にて、もしくはメールで受け付ける。E-mail : akopo.taka85@gmail.com

備考 履修の条件
ソルフェージュ I と和声法を履修済のこと。ピアノが中級程度は弾ける学生が対象。宿題や課題をすること。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用					意欲・経験・多様性							
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>							

ソルフェージュ：鍵盤和声-2

講師 高島亜生

科目コード：SLF207

対象コース／専門／学年： 器楽・声楽・GLA コース／全専門／2～4年次

形態：講義	単位数：1単位
概要	一人一人ピアノを使って、実際の音楽現場で役立つように、メロディー伴奏付けや、モチーフ作曲や即興演奏、簡単な旋律の作曲と伴奏付け、弾き歌いなどの演習。和声感と演奏、即興、作曲などの壁を取り払い総合的な音楽能力を養う。

到達目標	様々な実習を通じて和声感覚を養うだけでなく、ピアノ弾き歌いや即興演奏など実技も行えるようソルフェージュ応用力も養う。 ①旋律と和声は切り離せないものである。②実際音楽的な耳を養う。③音楽的フレーズ感を身につける。④同じ旋律で様々な和声付けの可能性を体験する。⑤音楽現場で実際に生かせる聴取力、アレンジ演奏ができるようにする。⑥ヤマハやカワイのグレード試験にも役立つ。これらを目標として学生の習熟度に合わせて一人一人ピアノを使用して実習する。
------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

回	内容	事前	事後	時間
第1回	前期まとめ／定期試験1（実技）	第1～15回の復習と定期試験1に向けて練習する。	定期試験1で苦手だった箇所を練習する。	80分 10分
第2回	コード付け伴奏による旋律とコードの聴音	今までの課題を演奏しながら、コードネームの移り変わりを意識して種類を耳で聞き取る。	コードの種類による響きの違いを耳で聞き取る練習をする。	50分 40分
第3回	コードネームの各種、ピアノによる聴取訓練	今までの課題を演奏しながら、コードネームの移り変わりを意識して種類を耳で聞き取る。	授業の課題に取り組む。主に終わった課題をピアノで弾く。	50分 40分
第4回	旋律の伴奏付け応用編④／移調伴奏 基本編	カデンツの3つの型を、全ての長調&短調で弾く。	授業の課題に取り組む。主に終わった課題をピアノで弾く。	60分 30分
第5回	旋律の伴奏付け応用編⑤／移調伴奏 実践編	前回の続きの課題を練習する。	授業の課題に取り組む。主に終わった課題をピアノで弾く。	50分 40分
第6回	与えられたコードの上に旋律を作曲して弾き歌いする／基本編	コードネームの復習と、二部形式で旋律を作曲する練習	授業の課題を練習する。	45分 45分
第7回	与えられたコードの上に旋律を作曲して弾き歌いする／実践編	前回の続きの課題を練習する。	授業の課題を練習する。	45分 45分
第8回	与えられたモチーフを使った即興演奏／初級編	モチーフの展開方法を研究しておく。	授業の課題に取り組む。	45分 45分
第9回	与えられたモチーフを使った即興演奏／中級編	前回の続きの課題を実習する。	授業の課題に取り組む。	45分 45分
第10回	与えられたモチーフを使った即興演奏／上級編	前回の続きの課題を実習する。	授業の課題に取り組む。	45分 45分
第11回	数字付き低音／ドイツ式	1年次の和声の教科書の「数字付き低音」を読んでおく。	授業の課題に取り組む。	45分 45分
第12回	数字付き低音／フランス式	前回の続きの課題を実習する。	授業の課題に取り組む。	45分 45分
第13回	数字付き通奏低音のバス課題／コラール実習 基本編	前回の続きの課題を実習する。	授業の課題に取り組む。	45分 45分
第14回	数字付き通奏低音のバス課題／コラール実習 実践編	前回の続きの課題を実習する。	授業の課題に取り組む。	45分 45分
第15回	後期まとめ／定期試験2（実技）	第1～15回の復習と定期試験2に向けて練習する。	定期試験2で苦手だった箇所の練習を取り組む。	80分 10分

フィードバック 授業内で実施する確認テストや一人一人実施する弾き歌い、伴奏付け等を聴いたり添削して改善点や今後の学習方法を、各自にコメントして伝える。

成績評価 定期試験 60%、宿題や課題 20%、授業への取り組み 20%

テキスト プリント楽譜（購買部）
五線紙とファイルを用意すること。
その他、使用する楽譜やテキストは必要に応じて指示する。適宜、プリントを配布する。

オフィスアワー 授業後教室にて、もしくはメールで受け付ける。E-mail：akopo.taka85@gmail.com

備考 履修の条件
ソルフェージュ I と和声法を履修済のこと。ピアノが中級程度は弾ける学生が対象。宿題や課題をすること。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>							

ソルフェージュ：聴音-1

非常勤講師 武澤陽介/非常勤講師 笹原絵美

科目コード：SLF105

対象コース/専門/学年：演奏家コース/全専門/1年次、器楽・声楽・GLAコース/全専門/2～4年次

形態：実習

単位数：1単位

概要 ソルフェージュにおける基礎科目である聴音の実習。
演奏家コースの全1年生・転コース生・編入生はこの科目を履修することが望ましい。また、器楽・声楽・GLAコースで、ソルフェージュ I-1、I-2の単位を取得した者、演奏家コースへの転向を目標としている学生は履修することができる。備考参照

到達目標 耳によって音楽を分析する能力、響きを感じ取る力を向上させることを目標とする。併せて、聴音を通して、さまざまな様式の音楽に触れる。また、正しい記譜法についても学ぶ。

授業計画 リズム聴音・音程聴音・単旋律聴音・複旋律聴音（2声・3声）・各種記憶聴音・和声聴音とその和音分析・耳による調性判定・演奏の間違い探し・CD聴音・聴音をした課題の歌唱…等。習熟度別2クラス編成（武澤と笹原が各クラスを交互に担当）。

第1回	スキップのリズム	事前 自分が演奏している曲の、ハーモニー・リズム・旋律の重なりを傾ける。 事後 できなかった部分の復習（写譜など）・書き取った曲を、歌ったり演奏したりする。	70分 20分
第2回	符点のリズム・シンコペーション	事前 自分が演奏している曲の、ハーモニー・リズム・旋律の重なりを傾ける。 事後 できなかった部分の復習（写譜など）・書き取った曲を、歌ったり演奏したりする。	70分 20分
第3回	4分休符	事前 自分が演奏している曲の、ハーモニー・リズム・旋律の重なりを傾ける。 事後 できなかった部分の復習（写譜など）・書き取った曲を、歌ったり演奏したりする。	70分 20分
第4回	8分の6拍子	事前 自分が演奏している曲の、ハーモニー・リズム・旋律の重なりを傾ける。 事後 できなかった部分の復習（写譜など）・書き取った曲を、歌ったり演奏したりする。	70分 20分
第5回	複合拍子	事前 自分が演奏している曲の、ハーモニー・リズム・旋律の重なりを傾ける。 事後 できなかった部分の復習（写譜など）・書き取った曲を、歌ったり演奏したりする。	70分 20分
第6回	タイ	事前 自分が演奏している曲の、ハーモニー・リズム・旋律の重なりを傾ける。 事後 できなかった部分の復習（写譜など）・書き取った曲を、歌ったり演奏したりする。	70分 20分
第7回	タイ 応用	事前 自分が演奏している曲の、ハーモニー・リズム・旋律の重なりを傾ける。 事後 できなかった部分の復習（写譜など）・書き取った曲を、歌ったり演奏したりする。	70分 20分
第8回	タイ 発展	事前 自分が演奏している曲の、ハーモニー・リズム・旋律の重なりを傾ける。 事後 できなかった部分の復習（写譜など）・書き取った曲を、歌ったり演奏したりする。	70分 20分
第9回	混合拍子	事前 自分が演奏している曲の、ハーモニー・リズム・旋律の重なりを傾ける。 事後 できなかった部分の復習（写譜など）・書き取った曲を、歌ったり演奏したりする。	70分 20分
第10回	長く伸ばす音 細かく動くリズム	事前 自分が演奏している曲の、ハーモニー・リズム・旋律の重なりを傾ける。 事後 できなかった部分の復習（写譜など）・書き取った曲を、歌ったり演奏したりする。	70分 20分
第11回	3連符	事前 自分が演奏している曲の、ハーモニー・リズム・旋律の重なりを傾ける。 事後 できなかった部分の復習（写譜など）・書き取った曲を、歌ったり演奏したりする。	70分 20分
第12回	8分休符	事前 自分が演奏している曲の、ハーモニー・リズム・旋律の重なりを傾ける。 事後 できなかった部分の復習（写譜など）・書き取った曲を、歌ったり演奏したりする。	70分 20分
第13回	ヘミオラ	事前 自分が演奏している曲の、ハーモニー・リズム・旋律の重なりを傾ける。 事後 できなかった部分の復習（写譜など）・書き取った曲を、歌ったり演奏したりする。	70分 20分
第14回	細かいシンコペーション	事前 自分が演奏している曲の、ハーモニー・リズム・旋律の重なりを傾ける。 事後 できなかった部分の復習（写譜など）・書き取った曲を、歌ったり演奏したりする。	70分 20分
第15回	まとめ	事前 自分が演奏している曲の、ハーモニー・リズム・旋律の重なりを傾ける。 事後 できなかった部分の復習（写譜など）・書き取った曲を、歌ったり演奏したりする。	70分 20分

フィードバック 授業で用いた課題の解説等により学修成果をフィードバックする。

成績評価 平常の取り組み 10%・試験 90%

テキスト 五線ノートを必ず持参すること。プリントを配布することもある。

オフィスアワー 武澤 授業後、またはEメールにて対応する。 ytakez21@gmail.com
笹原 授業後、またはEメールにて対応する。 sculpture.of.my.1010@gmail.com

備考 演奏家コース1年次生・転コース生・編入生は必ず履修することが望ましい。他コースの履修希望者は、登録する前に必ずメール（上記アドレス参照）により武澤に申し出ること。（学年、氏名、専門、1年次でのソルフェージュ I のクラス及び成績、受講希望理由を明記。）

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

ソルフェージュ：聴音-2

非常勤講師 武澤陽介 / 非常勤講師 笹原絵美

科目コード：SLF106

対象コース／専門／学年：演奏家コース／全専門／1 年次、器楽・声楽・GLA コース／全専門／2～4 年次

形態：実習

単位数：1 単位

概要 ソルフェージュにおける基礎科目である聴音の実習。
演奏家コースの全1年生・転コース生・編入生はこの科目を履修することが望ましい。また、器楽・声楽・GLA コースで、ソルフェージュ I-1、I-2 の単位を取得した者、演奏家コースへの転向を目標としている学生は履修することができる。備考参照

到達目標 耳によって音楽を分析する能力、響きを感じ取る力を向上させることを目標とする。併せて、聴音を通して、さまざまな様式の音楽に触れる。また、正しい記譜法についても学ぶ。

授業計画 リズム聴音・音程聴音・単旋律聴音・複旋律聴音（2声・3声）・各種記憶聴音・和声聴音とその和音分析・耳による調性判定・演奏の間違い探し・CD聴音・聴音をした課題の歌唱…等。習熟度別2クラス編成（武澤と笹原が各クラスを交互に担当）。

第1回	アウフタクトを持つ旋律	事前 自分が演奏している曲の、ハーモニー・リズム・旋律の重なりを耳を傾ける。 事後 できなかった部分の復習（写譜など）・書き取った曲を、歌ったり演奏したりする。	70分 20分
第2回	2分の3拍子	事前 自分が演奏している曲の、ハーモニー・リズム・旋律の重なりを耳を傾ける。 事後 できなかった部分の復習（写譜など）・書き取った曲を、歌ったり演奏したりする。	70分 20分
第3回	8分の6拍子	事前 自分が演奏している曲の、ハーモニー・リズム・旋律の重なりを耳を傾ける。 事後 できなかった部分の復習（写譜など）・書き取った曲を、歌ったり演奏したりする。	70分 20分
第4回	変拍子	事前 自分が演奏している曲の、ハーモニー・リズム・旋律の重なりを耳を傾ける。 事後 できなかった部分の復習（写譜など）・書き取った曲を、歌ったり演奏したりする。	70分 20分
第5回	アーティキュレーション	事前 自分が演奏している曲の、ハーモニー・リズム・旋律の重なりを耳を傾ける。 事後 できなかった部分の復習（写譜など）・書き取った曲を、歌ったり演奏したりする。	70分 20分
第6回	連符	事前 自分が演奏している曲の、ハーモニー・リズム・旋律の重なりを耳を傾ける。 事後 できなかった部分の復習（写譜など）・書き取った曲を、歌ったり演奏したりする。	70分 20分
第7回	16分音符	事前 自分が演奏している曲の、ハーモニー・リズム・旋律の重なりを耳を傾ける。 事後 できなかった部分の復習（写譜など）・書き取った曲を、歌ったり演奏したりする。	70分 20分
第8回	リステッテンボ	事前 自分が演奏している曲の、ハーモニー・リズム・旋律の重なりを耳を傾ける。 事後 できなかった部分の復習（写譜など）・書き取った曲を、歌ったり演奏したりする。	70分 20分
第9回	混合拍子	事前 自分が演奏している曲の、ハーモニー・リズム・旋律の重なりを耳を傾ける。 事後 できなかった部分の復習（写譜など）・書き取った曲を、歌ったり演奏したりする。	70分 20分
第10回	2分の2拍子	事前 自分が演奏している曲の、ハーモニー・リズム・旋律の重なりを耳を傾ける。 事後 できなかった部分の復習（写譜など）・書き取った曲を、歌ったり演奏したりする。	70分 20分
第11回	8分の9拍子	事前 自分が演奏している曲の、ハーモニー・リズム・旋律の重なりを耳を傾ける。 事後 できなかった部分の復習（写譜など）・書き取った曲を、歌ったり演奏したりする。	70分 20分
第12回	8分の12拍子	事前 自分が演奏している曲の、ハーモニー・リズム・旋律の重なりを耳を傾ける。 事後 できなかった部分の復習（写譜など）・書き取った曲を、歌ったり演奏したりする。	70分 20分
第13回	32分音符	事前 自分が演奏している曲の、ハーモニー・リズム・旋律の重なりを耳を傾ける。 事後 できなかった部分の復習（写譜など）・書き取った曲を、歌ったり演奏したりする。	70分 20分
第14回	さまざまなリズム	事前 自分が演奏している曲の、ハーモニー・リズム・旋律の重なりを耳を傾ける。 事後 できなかった部分の復習（写譜など）・書き取った曲を、歌ったり演奏したりする。	70分 20分
第15回	まとめ	事前 自分が演奏している曲の、ハーモニー・リズム・旋律の重なりを耳を傾ける。 事後 できなかった部分の復習（写譜など）・書き取った曲を、歌ったり演奏したりする。	70分 20分

フィードバック 授業で用いた課題の解説等により学修成果をフィードバックする。

成績評価 平常の取り組み 10%・試験 90%

テキスト 五線ノートを必ず持参すること。プリントを配布することもある。

オフィスアワー 武澤 授業後、または E メールにて対応する。 ytakez21@gmail.com
笹原 授業後、または E メールにて対応する。 sculpture.of.my.1010@gmail.com

備考 演奏家コース1年次生・転コース生・編入生は必ず履修することが望ましい。他コースの履修希望者は、登録する前に必ずメール（上記アドレス参照）により武澤に申し出ること。（学年、氏名、専門、1年次でのソルフェージュ I のクラス及び成績、受講希望理由を明記。）

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

(演) ソルフェージュⅡ-1A

非常勤講師 中島彩

科目コード：SLF203

対象コース/専門/学年：演奏家コース/全専門/2 年次

形態：実習

単位数：1 単位

概要 ソルフェージュを無味乾燥な技術や知識と思わずに、音楽を深く味わうための総合勉強と思ってほしい。多くの実作品から課題を取り、様々な曲に親しみながら基礎的な力をのばしていく。

到達目標 作曲家が楽譜に残したメッセージを注意深く読み取れるようになること。
そしてそのメッセージを具現化するための、総合的な音楽基礎能力を向上させること。

授業計画 ●初見（試奏、視唱） ●アンサンブル（連弾、室内楽） ●リズム読み ●クレ読み、スコアリーディング ●楽曲分析 ●伴奏、和声付け ●聴音などの課題を実習において適宜組み合わせる。前期は主にバッハを中心とした作品を取り上げる。

第1回	ガイダンス 基礎能力チェック			事前	今までのソルフェージュの勉強を振り返り、自分の得手不得手をおさえておく。	50 分
				事後	ソルフェージュの勉強の目的を理解し、その上で自分の足りない点を把握する。	40 分
第2回	総合演習 1 楽器紹介、西洋音楽の成り立ち～中世の音楽			事前	自分の専攻楽器について調べる。西洋音楽の成り立ち、中世について調べる。	50 分
				事後	西洋音楽がどのように生まれ発展していったかを復習する。	40 分
第3回	総合演習 2 ルネサンス、バロックの音楽			事前	ルネサンス、バロックとはどのような時代だったかを調べる。	50 分
				事後	ルネサンス、バロックの音楽に触れてみる。	40 分
第4回	総合演習 3 バッハ (1) ブランデンブルグ協奏曲第 1 番 (連弾) 他	協奏曲について		事前	連弾課題を練習し、スコア譜を読む。協奏曲について調べる。	50 分
				事後	音源を聴きながらスコア譜を読む。	40 分
第5回	総合演習 4 バッハ (2) ブランデンブルグ協奏曲第 2 番 (連弾) 他	ソナタについて		事前	連弾課題を練習し、スコア譜を読む。ソナタについて調べる。	50 分
				事後	音源を聴きながらスコア譜を読む。	40 分
第6回	総合演習 5 バッハ (3) ブランデンブルグ協奏曲第 3 番 (連弾) 他	カンタータについて		事前	連弾課題を練習し、スコア譜を読む。カンタータについて調べる。	50 分
				事後	音源を聴きながらスコア譜を読む。	40 分
第7回	総合演習 6 バッハ (4) ブランデンブルグ協奏曲第 4 番 (連弾) 他	カノンやフーガについて		事前	連弾課題を練習し、スコア譜を読む。カノンやフーガについて調べる。	50 分
				事後	音源を聴きながらスコア譜を読む。	40 分
第8回	総合演習 7 バッハ (5) ブランデンブルグ協奏曲第 5 番 (連弾) 他	インヴェンションより (分析)		事前	連弾課題を練習し、スコア譜を読む。インヴェンションより課題を分析する。	50 分
				事後	音源を聴きながらスコア譜を読む。分析した課題をあらためて弾いたり聴いたりしてみる。	40 分
第9回	総合演習 8 バッハ (6) ブランデンブルグ協奏曲第 6 番 (連弾) 他	シンフォニアより (分析)		事前	連弾課題を練習し、スコア譜を読む。シンフォニアより課題を分析する。	50 分
				事後	音源を聴きながらスコア譜を読む。分析した課題をあらためて弾いたり聴いたりしてみる。	40 分
第10回	総合演習 9 バッハ (7) 管弦楽組曲第 2 番 (連弾) ほかに 組曲について			事前	連弾課題を練習する。組曲について調べる。	50 分
				事後	さまざまな組曲に触れてみる。	40 分
第11回	総合演習 10 バッハ (8) 平均律クラヴィーア曲集第 1 巻より (分析)			事前	平均律クラヴィーア曲集第 1 巻より課題を分析する。	50 分
				事後	分析した課題をあらためて弾いたり聴いたりしてみる。	40 分
第12回	総合演習 11 バッハ (9) 平均律クラヴィーア曲集第 1 巻より (分析)			事前	平均律クラヴィーア曲集第 1 巻より課題を分析する。	50 分
				事後	分析した課題をあらためて弾いたり聴いたりしてみる。	40 分
第13回	総合演習 12 バッハ (10) 平均律クラヴィーア曲集第 2 巻より (分析)			事前	平均律クラヴィーア曲集第 2 巻より課題を分析する。	50 分
				事後	分析した課題をあらためて弾いたり聴いたりしてみる。	40 分
第14回	総合演習 13 バッハ (11) 平均律クラヴィーア曲集第 2 巻より (分析)			事前	平均律クラヴィーア曲集第 2 巻より課題を分析する。	50 分
				事後	分析した課題をあらためて弾いたり聴いたりしてみる。	40 分
第15回	総合演習 14 前期の復習			事前	授業内での不明点を確認してくる。	50 分
				事後	さまざまなフーガを自分なりに分析してみる	40 分

フィードバック 課題、レポート、試験については毎授業のコメントや添削で学習成果をフィードバックする。

成績評価 事前学習 40%、授業への積極的参加 40%、試験・レポート 20%

テキスト
 J.S.Bach 『ブランデンブルグ協奏曲 全曲』(オーケストラスコア、全音出版社)
 J.S.Bach 『ブランデンブルグ協奏曲第 1 巻：第 1 番～第 3 番』 (ピアノ連弾用 一台 4 手 マックス・レーガー編曲 ペータース社)
 J.S.Bach 『ブランデンブルグ協奏曲第 2 巻：第 4 番～第 6 番』 (ピアノ連弾用 一台 4 手 マックス・レーガー編曲 ペータース社)
 以上、購買部にて購入

J.S.Bach 『インヴェンションとシンフォニア』(ヘンレ社)
 J.S.Bach 『平均律クラヴィーア曲集第 1 巻』(ヘンレ社)
 J.S.Bach 『平均律クラヴィーア曲集第 2 巻』(ヘンレ社)
 ※自分のテキストをすでに持っている学生はそちらを使用すること。
 “参考図書” U.ミヒェルズ編、日本語版監修 角倉一朗 「図解音楽辞典」 dtv-Atlas zur Musik (白水社)

オフィスアワー 授業後教室にて

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

(演) ソルフェージュⅡ-2A

非常勤講師 川上啓太郎

科目コード：SLF204

対象コース/専門/学年：演奏家コース/全専門/2 年次

形態：実習

単位数：1 単位

概要 ソルフェージュを無味乾燥な技術や知識と思わずに、音楽を深く味わうための総合勉強と思ってほしい。多くの実作品から課題を取り、様々な曲に親しみながら基礎的な力をのばしていく。

到達目標 作曲家が楽譜に残したメッセージを注意深く読み取れるようになること。そしてそのメッセージを具現化するための、総合的な音楽基礎能力を向上させること。

授業計画 ●初見（試奏、視唱） ●アンサンブル（連弾、室内楽） ●リズム読み ●クレ読み、スコアリーディング ●楽曲分析 ●伴奏、和声付け ●聴音などの課題を実習において適宜組み合わせる。後期は主に古典派～近・現代の作品を取り上げる。

Table with 3 columns: Lesson Number, Content, and Score. It lists 15 lessons covering various musical exercises and analyses, such as Mozart's symphonies, Beethoven's piano sonatas, and Ravel's works.

フィードバック 課題、レポート、試験については毎授業のコメントや添削で学習成果をフィードバックする。

成績評価 事前学習 40%、授業への積極的参加 40%、試験・レポート 20%

テキスト W.A.Mozart 『交響曲第 38 番』『交響曲第 40 番』『交響曲第 41 番』（オーケストラスコア、全音出版社）
M.Ravel 『マ・メール・ロワ』（連弾 一台 4 手、デュラン社）
M.Ravel 『高雅で感傷的なワルツ』（ピアノソロ、デュラン社）
M.Ravel 『弦楽四重奏曲』（デュラン社）
M.Ravel 『ソナチネ』（ピアノソロ、デュラン社）

オフィスアワー 授業後教室にて

備考

学位授与の方針との関連

Table showing the relationship between course objectives and degree requirements. It includes columns for '知識・技能・理解', '知識・技能の活用', and '意欲・経歴・多様性'.

(演)ソルフェージュⅡ-1B

非常勤講師 山下百恵

科目コード：SLF203

対象コース/専門/学年：演奏家コース/全専門/2 年次

形態：実習 単位数：1 単位

概要 音楽家に必要な基礎能力の向上を図る。基礎訓練(クレ読み、リズム読み・リズム打ち、視唱、初見視奏、聴音)を中心に、実作品を扱った実践的なソルフェージュにも触れる。
ソルフェージュで身につけた力を、実際の楽曲解釈や自身の演奏表現につなげていく。

到達目標 ①楽譜に書かれていることを瞬時に読み取り、正確に表現できるようになる。②リズム、旋律の動き、ハーモニーなどから音楽のもつエネルギーを深く感じ取れるようになる。③実際に音を出す前に、楽譜を眺めて自分の中で音楽を想像し、組み立てられるようになる。④楽譜から読み取った音楽を自由に表現できるようになる。⑤聴こえた音楽を正確に理解し、書き取る。以上のことを目標とする。

授業計画 各授業で取り扱う調性をもつ楽曲の分析やスコアリーディングにも触れ、調性のもつ色合いや特徴、ニュアンスを感じ取れるようにする。

第1回	楽器紹介 視唱・聴音：ハ長調、同調性の楽曲を用いたクレ読み・リズム・視奏・CD聴音など	事前 自分の専攻楽器について発表できるようまとめておく。 事後 授業で扱った課題の復習。ピアノで弾いたり歌ったり専攻楽器で演奏してみる。	45分 45分
第2回	様々な楽器による聴音、初見視奏 視唱・聴音：イ長調、同調性の楽曲を用いたクレ読み・リズム・視奏・CD聴音など	事前 与えられた聴音課題を練習しておく。 事後 授業で扱った課題の復習。ピアノで弾いたり歌ったり専攻楽器で演奏してみる。	45分 45分
第3回	様々な楽器による聴音、初見視奏 視唱・聴音：ヘ長調、同調性の楽曲を用いたクレ読み・リズム・視奏・CD聴音など	事前 与えられた聴音課題を練習しておく。 事後 授業で扱った課題の復習。ピアノで弾いたり歌ったり専攻楽器で演奏してみる。	45分 45分
第4回	様々なリズム(2・4拍子) 視唱・聴音：ニ長調、同調性の楽曲を用いたクレ読み・リズム・視奏・CD聴音など	事前 これまでに演奏したり聴いたりした曲の中で2・4拍子の曲を思い出す。 事後 授業で扱った課題の復習。ピアノで弾いたり歌ったり専攻楽器で演奏してみる。	45分 45分
第5回	様々なリズム(3拍子) 視唱・聴音：ト長調、同調性の楽曲を用いたクレ読み・リズム・視奏・CD聴音など	事前 これまでに演奏したり聴いたりした曲の中で3拍子の曲を思い出す。 事後 授業で扱った課題の復習。ピアノで弾いたり歌ったり専攻楽器で演奏してみる。	45分 45分
第6回	様々なリズム(8分の6拍子) 視唱・聴音：ホ短調、同調性の楽曲を用いたクレ読み・リズム・視奏・CD聴音など	事前 これまでに演奏したり聴いたりした曲の中で8分の6拍子の曲を思い出す。 事後 授業で扱った課題の復習。ピアノで弾いたり歌ったり専攻楽器で演奏してみる。	45分 45分
第7回	様々なリズム(8分の6拍子以外の複合拍子) 視唱・聴音：変ロ長調、同調性の楽曲を用いたクレ読み・リズム・視奏・CD聴音など	事前 これまでに演奏したり聴いたりした曲の中で複合拍子の曲を思い出す。 事後 授業で扱った課題の復習。ピアノで弾いたり歌ったり専攻楽器で演奏してみる。	45分 45分
第8回	様々なリズム(混合拍子・変拍子) 視唱・聴音：ト長調、同調性の楽曲を用いたクレ読み・リズム・視奏・CD聴音など	事前 これまでに演奏したり聴いたりした曲の中で混合拍子・変拍子の曲を思い出す。 事後 授業で扱った課題の復習。ピアノで弾いたり歌ったり専攻楽器で演奏してみる。	45分 45分
第9回	小編成のスコアリーディング 視唱・聴音：ニ長調、同調性の楽曲を用いたクレ読み・リズム・視奏・CD聴音など	事前 様々な楽器の種類、形、音色、音域、移調楽器かどうか等について調べておく。 事後 授業で扱った課題の復習。ピアノで弾いたり歌ったり専攻楽器で演奏してみる。	45分 45分
第10回	多声部の初見アンサンブル(専攻楽器、視唱などによる)、複旋律聴音 視唱・聴音：ロ短調、同調性の楽曲を用いたクレ読み・リズム・視奏・CD聴音など	事前 様々な楽器の種類、形、音色、音域、移調楽器かどうか等について調べておく。 事後 授業で扱った課題の復習。ピアノで弾いたり歌ったり専攻楽器で演奏してみる。	45分 45分
第11回	大編成のスコアリーディング 視唱・聴音：変ホ長調、同調性の楽曲を用いたクレ読み・リズム・視奏・CD聴音など	事前 様々な楽器の種類、形、音色、音域、移調楽器かどうか等について調べておく。 事後 授業で扱った課題の復習。ピアノで弾いたり歌ったり専攻楽器で演奏してみる。	45分 45分
第12回	聴唱・聴奏 視唱・聴音：ハ短調、同調性の楽曲を用いたクレ読み・リズム・視奏・CD聴音など	事前 授業で扱った課題や自分の勉強している曲を、反復練習せずに覚えて演奏してみる。 事後 授業で扱った課題の復習。ピアノで弾いたり歌ったり専攻楽器で演奏してみる。	45分 45分
第13回	聴唱・聴奏 視唱・聴音：イ長調、同調性の楽曲を用いたクレ読み・リズム・視奏・CD聴音など	事前 授業で扱った課題や自分の勉強している曲を、反復練習せずに覚えて演奏してみる。 事後 授業で扱った課題の復習。ピアノで弾いたり歌ったり専攻楽器で演奏してみる。	45分 45分
第14回	様々な音部記号による視唱・視奏 視唱・聴音：嬰ヘ短調、同調性の楽曲を用いたクレ読み・リズム・視奏・CD聴音など	事前 クレ読みを復習しておく。 事後 授業で扱った課題の復習。ピアノで弾いたり歌ったり専攻楽器で演奏してみる。	45分 45分
第15回	まとめ	事前 今までのまとめをしておく。 事後 授業で扱った課題の復習。ピアノで弾いたり歌ったり専攻楽器で演奏してみる。	45分 45分

フィードバック 授業での課題や提出物に対し、コメントや添削で学修成果をフィードバックする。

成績評価 平常の取り組み 30%、試験 70%

テキスト プリントを配布する。
楽譜、専攻楽器を持参するよう指示することがある。
五線譜とプリントを整理するファイルを用意すること。

オフィスアワー 授業後教室にて対応。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性							
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバル視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>					

(演)ソルフェージュⅡ-2B

非常勤講師 山下百恵

科目コード：SLF204

対象コース/専門/学年：演奏家コース/全専門/2 年次

形態：実習	単位数：1 単位
概要	音楽家に必要な基礎能力の向上を図る。基礎訓練(クレ読み、リズム読み・リズム打ち、視唱、初見視奏、聴音)を中心に、実作品を扱った実践的なソルフェージュにも触れる。 ソルフェージュで身につけた力を、実際の楽曲解釈や自身の演奏表現につなげていく。

到達目標	①楽譜に書かれていることを瞬時に読み取り、正確に表現できるようになる。②リズム、旋律の動き、ハーモニーなどから音楽のもつエネルギーを深く感じ取れるようになる。③実際に音を出す前に、楽譜を眺めて自分の中で音楽を想像し、組み立てられるようになる。④楽譜から読み取った音楽を自由に表現できるようになる。⑤聴こえた音楽を正確に理解し、書き取る。以上のことを目標とする。
------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

授業計画	各授業で取り扱う調性をもつ楽曲の分析やスコアリーディングにも触れ、調性のもつ色合いや特徴、ニュアンスを感じ取れるようにする。
------	----------------------------------------------------------------

第1回	非和声音 視唱・聴音：変イ長調、同調性の楽曲を用いたクレ読み・リズム・視奏・CD聴音など	事前 非和声音について調べておく。 事後 自分の勉強している曲の非和声音を分析する。	45分 45分
第2回	コードネーム 視唱・聴音：ヘ短調、同調性の楽曲を用いたクレ読み・リズム・視奏・CD聴音など	事前 コードネームについて調べておく。 事後 授業で扱った課題の復習。ピアノで弾いたり歌ったり専攻楽器で演奏してみる。	45分 45分
第3回	伴奏つき視唱 視唱・聴音：ホ長調、同調性の楽曲を用いたクレ読み・リズム・視奏・CD聴音など	事前 コードネーム及び和声の復習をしておく。 事後 授業で扱った課題の復習。ピアノで弾いたり歌ったり専攻楽器で演奏してみる。	45分 45分
第4回	伴奏つき初見視奏 視唱・聴音：ロ長調、同調性の楽曲を用いたクレ読み・リズム・視奏・CD聴音など	事前 コードネーム及び和声の復習をしておく。 事後 授業で扱った課題の復習。ピアノで弾いたり歌ったり専攻楽器で演奏してみる。	45分 45分
第5回	伴奏つき・弾き歌い 視唱・聴音：変ニ長調、同調性の楽曲を用いたクレ読み・リズム・視奏・CD聴音など	事前 コードネーム及び和声の復習をしておく。 事後 授業で扱った課題の復習。ピアノで弾いたり歌ったり専攻楽器で演奏してみる。	45分 45分
第6回	即興演奏・即興アンサンブル 視唱・聴音：変ロ短調、同調性の楽曲を用いたクレ読み・リズム・視奏・CD聴音など	事前 即興演奏に使えるような様々な動機を考えておく。 事後 授業で扱った課題の復習。ピアノで弾いたり歌ったり専攻楽器で演奏してみる。	45分 45分
第7回	与えられた主題による即興演奏・変奏 視唱・聴音：ロ長調、同調性の楽曲を用いたクレ読み・リズム・視奏・CD聴音など	事前 今までに演奏してきた曲の中で変奏曲に目を通しておく。 事後 授業で扱った課題の復習。ピアノで弾いたり歌ったり専攻楽器で演奏してみる。	45分 45分
第8回	移調楽器のスコアリーディング 視唱・聴音：嬰ト短調、同調性の楽曲を用いたクレ読み・リズム・視奏・CD聴音など	事前 クレ読みを復習しておく。 事後 授業で扱った課題の復習。ピアノで弾いたり歌ったり専攻楽器で演奏してみる。	45分 45分
第9回	移調奏 視唱・聴音：変ト長調、同調性の楽曲を用いたクレ読み・リズム・視奏・CD聴音など	事前 クレ読みを復習しておく。 事後 授業で扱った課題の復習。ピアノで弾いたり歌ったり専攻楽器で演奏してみる。	45分 45分
第10回	平均律と純正律 視唱・聴音：変ホ短調、同調性の楽曲を用いたクレ読み・リズム・視奏・CD聴音など	事前 平均律と純正律について調べておく。 事後 授業で扱った課題の復習。ピアノで弾いたり歌ったり専攻楽器で演奏してみる。	45分 45分
第11回	教会旋法を用いた聴音 視唱・聴音：嬰ヘ長調、同調性の楽曲を用いたクレ読み・リズム・視奏・CD聴音など	事前 教会旋法、及びそれを用いた作品について調べておく。 事後 授業で扱った課題の復習。ピアノで弾いたり歌ったり専攻楽器で演奏してみる。	45分 45分
第12回	ルネサンス期の様式による聴音 視唱・聴音：嬰ニ短調、同調性の楽曲を用いたクレ読み・リズム・視奏・CD聴音など	事前 ルネサンス期の楽曲について調べ、音源を聴いておく。 事後 授業で扱った課題の復習。ピアノで弾いたり歌ったり専攻楽器で演奏してみる。	45分 45分
第13回	無調聴音 視唱・聴音：変ハ長調、変イ短調、同調性の楽曲を用いたクレ読み・リズム・視奏他	事前 無調で書かれた楽曲について調べ、音源を聴いておく。 事後 授業で扱った課題の復習。ピアノで弾いたり歌ったり専攻楽器で演奏してみる。	45分 45分
第14回	近代・現代の様式による聴音 視唱・聴音：嬰ハ長調、嬰イ短調、同調性の楽曲を用いたクレ読み・リズム・視奏他	事前 近代・現代の楽曲の特徴を調べ、音源を聴いておく。 事後 授業で扱った課題の復習。ピアノで弾いたり歌ったり専攻楽器で演奏してみる。	45分 45分
第15回	まとめ	事前 今までのまとめをしておく。 事後 授業で扱った課題の復習。ピアノで弾いたり歌ったり専攻楽器で演奏してみる。	45分 45分

フィードバック 授業での課題や提出物に対し、コメントや添削で学修成果をフィードバックする。

成績評価 平常の取り組み 30%、試験 70%

テキスト プリントを配布する。
楽譜、専攻楽器を持参するよう指示することがある。
五線譜とプリントを整理するファイルを用意すること。

オフィスアワー 授業後教室にて対応。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性							
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>					

(演) ソルフェージュⅢ

非常勤講師 井元透馬

科目コード：SLF209/SLF210

対象コース/専門/学年：演奏家コース/全専門/3 年次

形態：実習

単位数：2 単位

概要 楽譜から豊かな音楽を引き出す能力を身につけるために、読譜力・楽曲分析力を高め、和声感、リズム感を磨き、音楽を聴く力を養う。実作品の聴取、分析、演奏のほか、視唱、聴音等の基本的なソルフェージュ能力を高めるための訓練を行う。

到達目標 楽譜に記された音符・記号等から音楽を読み取り表現するために必要な知識及び技術を習得する。楽曲の視奏などを通し、様々な様式に応じた演奏法を身につける。

授業計画 下記の楽曲を視奏・視唱・聴音・分析など様々な分野の課題として用いる。なお本講義は実質的に実技であるため、参加学生の専攻や能力に応じて計画を変更する場合がある。その他、ソルフェージュの基礎的な訓練の課題も用意する。

第1回	導入	事前 過去に実習した課題を復習する。 事後 授業内で扱われた課題を反復練習する。	40 分 50 分
第2回	J.S.バッハ「無伴奏チェロ組曲第1番」前奏曲	事前 視唱(61番)リズム(1番)の練習をする。*宿題のプリントは授業内で配布する。 事後 授業内で実施した課題の完成度を上げるために反復練習をする。	40 分 50 分
第3回	J.S.バッハ「カンタータ第4番」コラール	事前 視唱(62番)リズム(2番)の練習をする。 事後 授業内で実施した課題の完成度を上げるために反復練習をする。	40 分 50 分
第4回	ベートーヴェン「弦楽四重奏曲第1番」第1楽章	事前 視唱(63番)リズム(3番)の練習をする。 事後 授業内で実施した課題の完成度を上げるために反復練習をする。	40 分 50 分
第5回	シューマン「子供の情景」より「トロイメライ」	事前 視唱(64番)リズム(4番)の練習をする。 事後 授業内で実施した課題の完成度を上げるために反復練習をする。	40 分 50 分
第6回	ショパン「プレリュード」作品28-4、28-7	事前 視唱(65番)リズム(5番)の練習をする。 事後 授業内で実施した課題の完成度を上げるために反復練習をする。	40 分 50 分
第7回	ビゼー「アルルの女第1組曲」第1曲	事前 視唱(66番)リズム(6番)の練習をする。 事後 授業内で実施した課題の完成度を上げるために反復練習をする。	40 分 50 分
第8回	ビゼー「アルルの女第1組曲」第3曲	事前 視唱(67番)リズム(7番)の練習をする。 事後 授業内で実施した課題の完成度を上げるために反復練習をする。	40 分 50 分
第9回	ミヨー「ルネ王の暖炉」第1曲	事前 視唱(68番)リズム(8番)の練習をする。 事後 授業内で実施した課題の完成度を上げるために反復練習をする。	40 分 50 分
第10回	シューマン「女の愛と生涯」第4曲(読譜)	事前 視唱(69番)リズム(9番)の練習をする。 事後 授業内で実施した課題の完成度を上げるために反復練習をする。	40 分 50 分
第11回	同上(分析・解釈)	事前 シューマン「女の愛と生涯」の歌詞の意味を把握し、歌詞と曲の関わりを考察する。 事後 授業内で実施した課題の完成度を上げるために反復練習をする。	40 分 50 分
第12回	ラヴェル「マ・メール・ロワ」第1曲・第4曲	事前 視唱(70番)リズム(10番)の練習をする。 事後 授業内で実施した課題の完成度を上げるために反復練習をする。	40 分 50 分
第13回	デュティユー「牧歌」	事前 視唱(71番)リズム(11番)の練習をする。 事後 授業内で実施した課題の完成度を上げるために反復練習をする。	40 分 50 分
第14回	J.S.バッハ「マタイ受難曲」コラール	事前 視唱(72番)リズム(12番)の練習をする。 事後 授業内で実施した課題の完成度を上げるために反復練習をする。	40 分 50 分
第15回	まとめ	事前 視唱(73番)リズム(13番)の練習をする。 事後 授業内で実施した課題の完成度を上げるために反復練習をする。	40 分 50 分
第16回	J.S.バッハ「カンタータ第140番」第1曲	事前 視唱(74番)リズム(14番)の練習をする。 事後 授業内で実施した課題の完成度を上げるために反復練習をする。	40 分 50 分
第17回	J.S.バッハ「カンタータ第140番」コラール	事前 視唱(75番)リズム(15番)の練習をする。 事後 授業内で実施した課題の完成度を上げるために反復練習をする。	40 分 50 分
第18回	モーツァルト「アヴェ・ヴェルム・コルプス」(合唱)	事前 視唱(76番)リズム(16番)の練習をする。 事後 授業内で実施した課題の完成度を上げるために反復練習をする。	40 分 50 分
第19回	同上(通奏低音)	事前 「アヴェ・ヴェルム・コルプス」の通奏低音のパートを弾く練習をする。 事後 授業内で実施した課題の完成度を上げるために反復練習をする。	40 分 50 分
第20回	マーラー「最後の7つの歌」より「美しさゆえに愛するのなら」(読譜)	事前 視唱(77番)リズム(17番)の練習をする。 事後 授業内で実施した課題の完成度を上げるために反復練習をする。	40 分 50 分
第21回	同上(分析・解釈)	事前 「美しさゆえに愛するのなら」の歌詞の意味を把握し、歌詞と曲の関わりを考察する。 事後 授業内で実施した課題の完成度を上げるために反復練習をする。	40 分 50 分
第22回	フランク「ヴァイオリン・ソナタ」第1楽章	事前 視唱(78番)リズム(18番)の練習をする。 事後 授業内で実施した課題の完成度を上げるために反復練習をする。	40 分 50 分
第23回	フランク「ヴァイオリン・ソナタ」第4楽章	事前 視唱(79番)リズム(19番)の練習をする。 事後 授業内で実施した課題の完成度を上げるために反復練習をする。	40 分 50 分
第24回	タイユフェール「ビュルレスク組曲」より「舟歌」	事前 視唱(80番)リズム(20番)の練習をする。 事後 授業内で実施した課題の完成度を上げるために反復練習をする。	40 分 50 分
第25回	ストラヴィンスキー「春の祭典」より「生け贄の踊り」(読譜)	事前 視唱(81番)リズム(21番)の練習をする。 事後 授業内で実施した課題の完成度を上げるために反復練習をする。	40 分 50 分
第26回	同上(分析・実習)	事前 「生け贄の踊り」のリズムを、指揮を振りながら読めるようになるよう練習する。 事後 授業内で実施した課題の完成度を上げるために反復練習をする。	40 分 50 分
第27回	メシアン「世の終わりのための四重奏曲」より「鳥たちの深淵」	事前 視唱(82番)リズム(22番)の練習をする。 事後 授業内で実施した課題の完成度を上げるために反復練習をする。	40 分 50 分
第28回	メシアン「世の終わりのための四重奏曲」より「間奏曲」	事前 視唱(83番)リズム(23番)の練習をする。 事後 授業内で実施した課題の完成度を上げるために反復練習をする。	40 分 50 分
第29回	メシアン「世の終わりのための四重奏曲」より「7つのトランペットのための狂乱の踊り」	事前 視唱(84番)リズム(24番)の練習をする。 事後 授業内で実施した課題の完成度を上げるために反復練習をする。	40 分 50 分
第30回	総まとめ	事前 リズム(25番)の練習をする。 事後 授業内で実施した課題の完成度を上げるために反復練習をする。	40 分 50 分

フィードバック 実施した課題の問題点の指摘等を通しフィードバックを行う。

成績評価 定期試験 80%、宿題の実施状況 10%、授業態度 10%

テキスト 適宜、プリントを配布する。
五線ノートを用意すること。

オフィスアワー 授業終了後、教室にて

備考 専門の楽器を用意するよう指示することがある。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自立的発力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲	
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	

(演)ソルフェージュⅣ

非常勤講師 林達也

科目コード：SLF211/SLF212

対象コース/専門/学年：演奏家コース/全専門/4年次

形態：実習

単位数：2単位

概要 演奏家を志す人達に必要な音楽的総合訓練を行う。
音楽実技と理論との2つの柱で、音楽的基本能力を充実させ、さらにより発展的な内容を実践していく。

到達目標 演奏家にとって必要とされる「音楽的総合能力」の開発を目指す。具体的には、聴覚形成、読譜力、楽曲への深い洞察力と分析力、リズムに対する鋭敏な感性、レパートリーの拡充と教養、主体的な表現力と解釈する能力など、演奏家として自立できる力を身につけていく。

授業計画		初見、スコアリーディング、作品の分析、アンサンブル、作曲家の様式と西洋音楽の歴史的社会的背景との結びつきを演奏を主としながら考察していく。また、即興の実践によって、演奏表現の内的確信を深め、内側からあふれ出て来るような音楽的テンペラメントを育んでいくことが目的である。	
第1回	授業のガイダンス ソルフェージュとは何か	事前 事後	今までのレパートリー作品をノートにまとめておく。 今後のレパートリー作品を考えておく。
第2回	ソルフェージュの基礎力の確認	事前 事後	以前に学んだソルフェージュ課題を実践しておく。 不十分な項目をそれぞれの専攻楽器で復習する。
第3回	バロック時代の様式による実践/ フォリアのテーマによる即興	事前 事後	バロック時代の「フォリア」について辞典などで調べておく。 フォリアの即興を変奏曲として演奏してみる。
第4回	バロック時代の様式による実践/ ヘンデルの作品を扱ったソルフェージュ	事前 事後	ヘンデルの作品を事前にCDなどで聴いておく。 装飾音の演奏法の復習をする。
第5回	バロック時代の様式による実践/ J.S.バッハの作品を扱ったソルフェージュ	事前 事後	J.S. バッハの作品を事前に練習しておく。 上手に演奏できなかった部分を再度練習する。
第6回	モーツァルト、バッハの作品を扱った初見、 スコアリーディングなど	事前 事後	モーツァルトと室内楽のスコアを読譜しておく。 与えられた課題を再度練習する。
第7回	ハイドンの作品を扱った初見、スコアリーディングなど	事前 事後	ハイドンの作品様式を事前に調べておく。 アンサンブルの上手に行かなかった部分を復習する。
第8回	ベートーヴェンの作品を扱った初見、スコアリーディングなど	事前 事後	ベートーヴェンの交響曲をあらかじめ聴いておく。 ダイナミクスや sf の箇所を演奏法の復習をする。
第9回	専攻楽器を使ったソルフェージュ、録音による様々な楽器の聴音	事前 事後	課題に出された作品をあらかじめ練習しておく。 聴き取れなかった部分を楽器で練習する。
第10回	アンサンブルと室内楽の録音による様々な楽器の聴音	事前 事後	アンサンブル用スコアを読譜しておく。 聴き取れなかった箇所を反復して聴く。
第11回	管弦楽曲の録音による様々な楽器の聴音	事前 事後	オーケストラの楽器をあらかじめ辞典で調べておく。 移調楽器の読譜の復習をする。
第12回	ロマン派の作品を扱ったソルフェージュ (1) メンデルスゾーン	事前 事後	メンデルスゾーンの無言歌を演奏しておく。 学んだ作品を再度歌って覚える。
第13回	ロマン派の作品を扱ったソルフェージュ (2) シューマン	事前 事後	シューマンの詩人の恋の録音を聴いておく。 上手に引けなかった部分を反復練習する。
第14回	ロマン派の作品を扱ったソルフェージュ (3) ショパン	事前 事後	ショパンのノクターンを1曲演奏しておく。 和声の変化に注意しながら復習する。
第15回	ロマン派の作品を扱ったソルフェージュ (4) ブラームス、など	事前 事後	ブラームスのヴァイオリンソナタ1曲を聴いておく。 指摘された箇所を再度反復練習する。
第16回	和音に関するソルフェージュ/通奏低音/ 和音感を育むためのソルフェージュ (1) 三和音	事前 事後	三和音の項の和声教本を見直しておく。 聴き取れなかった声部は、歌いながら他声部をピアノで弾く。
第17回	和音に関するソルフェージュ/通奏低音/ 和音感を育むためのソルフェージュ (2) 七の和音	事前 事後	七の和音の項の和声教本を見直しておく。 聴き取れなかった和音をくり返し反復してピアノで弾く。
第18回	和音に関するソルフェージュ/通奏低音/ 和音感を育むためのソルフェージュ (3) 九の和音	事前 事後	九の和音の項の和声教本を見直しておく。 9から8の掛留音の課題を復習する。
第19回	近代フランス音楽の初見、スコアリーディング、ソルフェージュ、アンサンブルなど (1) サン＝サーンス	事前 事後	サンサーンス作曲「動物の謝肉祭」の録音を聴いておく。 和声の変化に注意しながらもう一度弾いてみる。
第20回	近代フランス音楽の初見、スコアリーディング、ソルフェージュ、アンサンブルなど (2) フォーレ	事前 事後	フォーレ作曲「レクイエム」の録音を聴いておく。 フォーレの特殊な和声連結の箇所をピアノで弾いて復習する。
第21回	近代フランス音楽の初見、スコアリーディング、ソルフェージュ、アンサンブルなど (3) ドビュッシー	事前 事後	ドビュッシー作曲「牧神の午後の前奏曲」の楽譜を視ておく。 課題曲の演奏で誤りのあった部分を復習する。
第22回	近代フランス音楽の初見、スコアリーディング、ソルフェージュ、アンサンブルなど (4) ラヴェル	事前 事後	ラヴェル作曲「ボレロ」のスコアをあらかじめ読譜する。 主要旋律を専攻楽器で再度演奏してみる。
第23回	20世紀の音楽に関するソルフェージュの実践(1) スクリャービン	事前 事後	ポリリズムとクロスリズムについての楽譜を調べておく。 倍音列による和音の響きをピアノで弾き復習する。
第24回	20世紀の音楽に関するソルフェージュの実践(2) バルトーク	事前 事後	変拍子のリズムに課題を使って慣れておく。 バルトークの音楽語法をノートにまとめておく。
第25回	20世紀の音楽に関するソルフェージュの実践(3) ウェーベルン	事前 事後	音列技法について辞書などであらかじめ調べておく。 リズム課題で指摘された部分を再度楽器を用いて復習する。
第26回	20世紀の音楽に関するソルフェージュの実践(4) ベルク	事前 事後	ベルク作曲「抒情組曲」の録音をあらかじめ聴いておく。 細かい音群のリズム練習を課題を用いて復習する。
第27回	20世紀の音楽に関するソルフェージュの実践(5) メシアン	事前 事後	メシアンの音楽語法の特徴を辞典で調べておく。 移高の限られた旋法、付加リズムの多様な形態を覚える。
第28回	様々な即興の実践(1)クラシックの即興	事前 事後	旋律の作曲をし楽器で演奏できるようにしておく。 即興のアイディアをノートにまとめておく。
第29回	様々な即興の実践(2)自由即興	事前 事後	20世紀後半の現代音楽を録音などで聴いておく。 アンサンブルのインザッツ、ダイナミズムの共有を意識して復習する。
第30回	まとめ	事前 事後	前回に与えられた課題を復習しておく。 指摘された箇所を何回も反復練習する。

フィードバック 随時小テストを行い答案の返却及びその解説等により、学修成果をフィードバックする。

成績評価 期末試験(70%)と平常点(30%) (授業への取り組み方) による。

テキスト プリント。指示された楽譜を用意する。

オフィスアワー 水曜日 8:35~8:40 教室

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

管弦楽法-1

講師 高島亜生

科目コード：SLF215

対象コース/専門/学年：全コース/全専門/2~4年次

形態：講義・演習

単位数：2単位

概要 オーケストラで使用する楽器法についてとバロック、古典派、前期ロマン派の管弦楽曲のオーケストレーション分析。

到達目標 楽器法と管弦楽法の基礎を学び、西洋音楽史上著しく発展を遂げたオーケストラについての理解を深める。①管弦楽で用いる諸楽器についての知識。②スコアの読み方の習熟。③バロック期から近現代に至る管弦楽作品の分析・研究を行うことにより時代や様式の違いによる作曲家たちのオーケストレーションの違いなどへの理解を深める。④定期演奏会や協奏曲演奏会等の曲目をテーマにして実際の音楽解釈、演奏表現の向上に結びつけていく。⑤オーケストレーション演習。月V,VI駒のオーケストラ授業内で秋に昨年度履修生の学年末提出作品の優秀作品試演会を行う。全てCD,DVD等を使用してスコアリーディングや楽曲・和声分析を行う。

授業計画

第1回	オリエンテーション、ビデオ鑑賞/管弦楽編成・総譜(スコア)のしくみ	事前 必要テキストとスコアの購入や準備、配布プリントを入れるクリアファイルを用意	70分
		事後 実際の授業内容に応じて適宜指示。	200分
第2回	木管楽器について①(フルート属、オーボエ属、クラリネット属、ファゴット属)	事前 フルート、オーボエ、クラリネット、ファゴットの専門学生は楽器を出来れば持参して下さい(任意)。30分	30分
		事後 実際の授業内容に応じて適宜指示。	240分
第3回	移調楽器について(クラリネット属、ホルン属、サクソフォーン属)	事前 クラリネット、ホルン、サクソフォーンの専門学生は楽器を出来れば持参して下さい(任意)。30分	30分
		事後 実際の授業内容に応じて適宜指示。	240分
第4回	金管楽器について(ホルン属、トランペット属、トロンボーン属、チューバ属)	事前 ホルン、トランペット、トロンボーン、チューバの専門学生は楽器を出来れば持参して下さい(任意)。30分	30分
		事後 実際の授業内容に応じて適宜指示。	240分
第5回	打楽器について(ティンパニ、その他の打楽器)/編入楽器・ハーブ・鍵盤楽器・人声	事前 打楽器やハーブの学生はこまめに楽器を生で見たり触れたり音を聴いたり出来る機会を作る。	30分
		事後 実際の授業内容に応じて適宜指示。	240分
第6回	弦楽器について(ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバス) /(バロック後期)ピバルディ合奏協奏	事前 弦楽器の専門学生(ヴァイオリン・ヴィオラ・チェロ・コントラバスは除く)は楽器を持参して下さい(任意)。135分	135分
		事後 各楽器に付された叙事詩と独奏Vnと弦楽器群で演奏された音楽の効果の感想をメモする。	135分
第7回	時代様式による構造の諸型1(バロック前期) モンテヴェルディの歌劇「オルフェオ」	事前 モンテヴェルディについて、またルネサンスからバロックへの変遷期の時代背景を調べてくる。	60分
		事後 歌劇「オルフェオ」のDVDなどで全部観る。	210分
第8回	時代様式による構造の諸型2(バロック後期) J.S.BACH:ブランデンブルク協奏曲第3、5番 J.S.バッハが残した偉大な遺産	事前 J.S.BACHのブランデンブルク協奏曲全6曲の調性と編成を調べてくる。	120分
		事後 授業中に取り上げてない残りの第1,2,4,6番の任意のどれかをスコアリーディングしながら聴く。	150分
第9回	時代様式による構造の諸型3(古典派 前期) モーツァルト交響曲第41番ジュピター全楽章 抜粋 (古典派)モーツァルト三大交響曲	事前 モーツァルト交響曲第41番の総譜を準備。1楽章の形式や構成、転調、和音、終止等を調べておく。	120分
		事後 木管楽器群と弦楽器群の音の対比を意識しながら全楽章をスコアリーディングしながら音源を聴く。	150分
第10回	時代様式による構造の諸型4-①(古典派後期) ベートーヴェン:交響曲第5番ハ短調 1、2楽章	事前 ベートーヴェン交響曲第5番の総譜を準備。1,2楽章の形式や構成、転調、和音、終止等を調べておく。	150分
		事後 1,2楽章の提示部と再現部のオーケストレーションの違いをスコアで確認しながら音源を聴く	120分
第11回	時代様式による構造の諸型4-②(古典派後期) ベートーヴェン:交響曲第5番ハ短調 3、4楽章	事前 前回と同曲中の3,4楽章の形式や構成、転調、和音、終止等を調べておく。	150分
		事後 フィナーレ(4楽章)でのピッコロとコントラファゴットの役割をスコアで確認しながら音源を聴く。	120分
第12回	管弦楽法・時代様式による構造の諸型5(フランス近代) ラヴェル=ボレロ	事前 ラヴェル:ボレロのスコアを可能な限り準備する。	150分
		事後 管弦楽スコアを、楽器割充てや重ね方などを検証する。	120分
第13回	時代様式による構造の諸型6-①(前期ロマン派) ベルリオズの革命 幻想交響曲1~3楽章	事前 ベルリオズ幻想交響曲の総譜を可能な範囲で準備。1~3楽章をCD等の音源で聴いておく。	150分
		事後 実際の授業内容に応じて適宜指示。	120分
第14回	管弦楽法・時代様式による構造の諸型6-②(前期ロマン派) ベルリオズの革命 幻想交響曲4,5楽章	事前 前回と同曲中の4,5楽章をCD等の音源で聴いておく。	135分
		事後 実際の授業内容に応じて適宜指示。	135分
第15回	前期まとめ	事前 スコアリーディングの復習と移調楽器の読譜の復習	135分
		事後 1~15回のまとめ	135分

フィードバック 授業内で実施する確認テストや課題の添削により改善点や今後の学習方法を各自にコメントして伝える。

成績評価

前期定期試験 70%、宿題や課題 10%、授業への取り組み 20%
学年末提出作品は管弦楽作品を課題とし、優秀作品は次年度のオーケストラ授業の試演会(秋頃)で演奏予定。
昨年度の選抜作品試演会 9/9(月)4.5駒オーケストラ授業で実施予定ですので、必ず鑑賞すること。

テキスト

野本由起夫著『はじめてのオーケストラ・スコア』音楽之友社
ベートーヴェン交響曲第5番ハ短調 モーツァルト交響曲第41番ハ長調 総譜。
その他授業で扱うスコアやテキストは授業内で指示する。適宜、プリントを配布する。

《参考楽譜やテキスト》:ゴードン・ヤコブ著『管弦楽法』音楽之友社
Henri BUSSER 著・池内友次郎訳『楽器編成応用概論』全音楽譜出版社

オフィスアワー

授業後に教室にて、もしくはメールにて受け付ける。
E-mail: akopo.taka85@gmail.com

備考

日頃からスコアを見ながらCD鑑賞やリハーサル鑑賞などをして、オーケストラスコアに慣れること。
●重要事項:学年末提出作品を未提出の履修生には単位は与えない。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解				知識・技能の活用					意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・目的発覚能力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>

管弦楽法-2

講師 高島 亜生

科目コード：SLF216

対象コース/専門/学年：全コース/全専門/2~4 年次

形態：講義・演習

単位数：2 単位

概要 定期演奏会や協奏曲演奏会の曲目の分析を中心に現代の管弦楽曲を少し取り扱う。学年末提出作品のためのオーケストレーション実習の準備。

到達目標 楽器法と管弦楽法の基礎の復習と、西洋音楽史上著しく発展を遂げたオーケストラについての理解を深める。①管弦楽で用いる諸楽器について。②スコアの読み方の更なる習熟。③各国や時代による管弦楽作品の分析・研究を行うことにより様式の違いによる作曲家たちのオーケストレーションの違いなどへの理解を深める。④定期演奏会や協奏曲演奏会等の曲目をテーマにして実際の音楽解釈、演奏表現の向上に結びつけていく。⑤オーケストレーション演習。月 V,VI 駒のオーケストラ授業内で秋に昨年度履修生の学年末提出作品の優秀作品試演会を行う。全て CD, DVD 等を使用してスコアリーディングや楽曲・和声分析を行う。

授業計画

第 1 回	オーケストラスコアの復習	事前 第 1~15 回までを理解度確認テストに向けて復習しておく。 事後 実際の授業内容に応じて適宜指示。	230 分 40 分
第 2 回	定期演奏会の曲目スコア研究 3 (スペイン近代) ファリャ：バレエ組曲「三角帽子」序奏 第一組曲から 1.2.3 曲目	事前 ファリャ：バレエ組曲「三角帽子」の総譜を準備。第一組曲 1.2.3 曲目の音源をスコアを見て聞く。 事後 実際の授業内容に応じて適宜指示。	150 分 120 分
第 3 回	定期演奏会の曲目スコア研究 4 (スペイン近代) ファリャ：バレエ組曲「三角帽子」第二組曲 1 曲目	事前 前回と同曲中の 第二組曲 1 曲目の音源をスコアを見ながら聞く。 事後 実際の授業内容に応じて適宜指示。	150 分 120 分
第 4 回	定期演奏会の曲目スコア研究 5 (スペイン近代) ファリャ：バレエ組曲「三角帽子」第二組曲 2.3 曲目	事前 前回と同曲中の 第二組曲 2.3 曲目の音源をスコアを見ながら聞く。 事後 実際の授業内容に応じて適宜指示。	150 分 120 分
第 5 回	定期演奏会の曲目スコア研究 6 (スペイン近代) ファリャ：バレエ組曲「三角帽子」第二組曲 4 曲目	事前 前回と同曲中の 第二組曲 4 曲目の音源をスコアを見ながら聞く。 事後 実際の授業内容に応じて適宜指示。	150 分 120 分
第 6 回	定期演奏会の曲目スコア研究 7 (スペイン) ファリャ：バレエ組曲「三角帽子」まとめ	事前 楽曲分析の復習 事後 実際の授業内容に応じて適宜指示。	135 分 135 分
第 7 回	定期演奏会の曲目スコア研究 8 (近現代/多調性) ヒンデミット：ウェーバーの主題による交響的変容 楽曲分析	事前 ヒンデミット：ウェーバーの主題による交響的変容スコアを準備し音源を聴いておく。 事後 実際の授業内容に応じて適宜指示。	150 分 120 分
第 8 回	定期演奏会の曲目スコア研究 9 (近現代/多調性) ヒンデミット：ウェーバーの主題による交響的変容 管弦楽法分析	事前 前回と同曲中の復習。 事後 実際の授業内容に応じて適宜指示。	150 分 120 分
第 9 回	定期演奏会の曲目スコア研究 10 まとめ	事前 定期演奏会の曲目スコア研究の中で楽曲分析不足の部分を補う。 事後 オーケストラ履修生で自分の専門楽器で担当する曲目は念入りに勉強する。	150 分 120 分
第 10 回	管弦楽法・時代様式による構造の諸型 7 (後期ロマン派/ロシア) チャイコフスキー交響曲第 6 番 短調 (抜粋)	事前 チャイコフスキー交響曲第 6 番 短調「悲愴」を全曲聴いておく。可能ならスコアを準備する。 事後 チャイコフスキーのピアノリオなど室内楽作品やバレエ組曲「くるみ割り人形」などと聞き比べる。	150 分 120 分
第 11 回	管弦楽法・時代様式による構造の諸型 8 (フランス近代) ドビュッシー=牧神の午後への前奏曲	事前 ドビュッシー：牧神の午後への前奏曲のスコアを準備する。 事後 実際の授業内容に応じて適宜指示。	120 分 150 分
第 12 回	20 世紀初頭/原始主義・新古典主義・セリー：ストラヴィンスキー「春の祭典」 管弦楽法実技① (学年末提出作品創作準備) ※学年末提出作品の課題発表予定	事前 ストラヴィンスキーの作曲様式の変化を調べる。同時代の世界の作曲家について調べる。 事後 学年末提出作品の課題の中から原曲選曲、或いは任意で探しかオリジナル作曲するかを決める。	135 分 135 分
第 13 回	歌劇の管弦楽法：プッチーニの歌劇「トゥーランドット」 /管弦楽法実技② (学年末提出作品創作実習・テーマ構成) 歌劇の中の管弦楽と序曲について	事前 作曲家プッチーニについて調べる。他のオペラ作品や同時代のオペラ作曲家の様式も調べる。 事後 冬休み前に学年末提出作品の曲を決めて、編成、全体構成、製作計画を立てる。	135 分 135 分
第 14 回	協奏曲形式：モーツァルト→ラフマニノフまでのピアノ協奏曲の様式変換 管弦楽法実技③ (学年末提出作品創作実習・楽器配分&オーケストレーション楽譜製作)	事前 オーディションで決定した協奏曲演奏会の曲目中の 1 曲 (事前指示) のスコアを準備する。 事後 学年末提出作品楽譜製作を少しずつ進める。	120 分 150 分
第 15 回	近現代・未来/無調音楽・民族楽器の導入 管弦楽法実技④ (学年末提出作品創作実習・オーケストレーション楽譜製作つづき)	事前 学年末提出作品楽譜製作を少しずつ進めつつ、分からない箇所を挙げておく。 事後 学年末提出作品楽譜製作を少しずつ進めつつ、完成を目指す。	120 分 150 分

フィードバック 昨年度履修生の提出作品の 9/9 オケ試演会を全員聴き、その後の授業内の論評会を通してオーケストレーションの実際を学んでもらう。授業内での課題の添削を通して各自に具体的な指示を与える。

成績評価

学年末提出作品 (1 月末頃締め切り) 70%、宿題や課題 10%、授業への取り組み 20%
学年末提出作品は管弦楽作品を課題とし、優秀作品は次年度のオーケストラ授業の試演会 (秋頃) で演奏予定。
昨年度の選抜作品試演会 9/9 (月) 4.5 駒オーケストラ授業で実施予定ですので、必ず鑑賞すること。

テキスト

野本由起夫著『はじめてのオーケストラ・スコア』音楽之友社
ファリャ：バレエ組曲「三角帽子」第一、二組曲 ヒンデミット：ウェーバー主題による交響的変容 (定期演奏会曲目) 総譜。
その他プリント適宜配布。
また定期演奏会や協奏曲演奏会で取り上げる管弦楽曲等のスコアも授業時に持参することが望ましい (コピー楽譜でも可)。
その他授業で扱うスコアやテキストは授業内で指示する。適宜、プリントを配布する。

《参考楽譜やテキスト》：ゴードン・ヤコブ著『管弦楽法』音楽之友社、Henri BUSSEY 著・池内友次郎訳『楽器編成応用概論』全音楽譜出版社

オフィスアワー

授業後教室にて、もしくはメールにて受け付ける。
E-mail: akopo.taka85@gmail.com

備考

日頃からスコアを見ながら CD 鑑賞やリハーサル鑑賞などをして、オーケストラスコアに慣れること。
●重要事項：学年末提出作品を未提出の履修生には単位は与えない。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>

対位法-1

非常勤講師 井上渚

科目コード：SLF217

対象コース／専門／学年：全コース／全専門／2～4年次

形態：講義

単位数：2単位

概要 二声対位法の5つの種類の書法の学習と、Josquin DESPREZの"Missae Pange Lingua"の研究を並行して進める。
BACH、MOZART、FAUREの作品の一部を読み、ミサ曲の時代的な変遷を考察する。

到達目標 ルネサンス・バロック期の多声音楽の理解を深める。
ローマ・カトリック教会のミサの形態の知識を得る。宗教改革とプロテスタント教会の音楽との関係に対する理解を深める。

授業計画

第1回	ガイダンス 対位法学習に必要なとされる楽典の知識	事前 対位法について調べる 事後 対位法学習に必要な楽典の知識を復習する	100分 170分
第2回	対位法とは。対位法の種類。ミサ曲の構成 グレゴリオ聖歌"Pange lingua"	事前 ミサ曲について調べる。グレゴリオ聖歌について調べる。 事後 "Pange lingua"を歌う	100分 170分
第3回	2声対位法 第一類 全音符 (1) Josquin DESPREZ "Missae Pange lingua"より"Kyrie"	事前 Kyrieの歌詞の内容を調べる 事後 学習した箇所を聴きながら音源を聞く。歌う。	100分 170分
第4回	2声対位法 第一類 全音符 (2) Josquin DESPREZ "Missae Pange lingua"より"Gloria"	事前 Gloriaの歌詞の内容を調べる 事後 学習した箇所を聴きながら音源を聞く。歌う。	100分 170分
第5回	2声対位法 第二類 二分音符 (1) Wolfgang Amadeus MOZART "Missae" K.427より "Cum Sancto Spiritu"	事前 モーツァルトの宗教曲について調べる 事後 学習した箇所を聴きながら音源を聞く。歌う。	100分 170分
第6回	2声対位法 第二類 二分音符 (2) Josquin DESPREZ "Missae Pange lingua"より"Credo" (1)	事前 Credoの歌詞の内容を調べる。歌詞を音読する。 事後 学習した箇所を聴きながら音源を聞く。歌う。	100分 170分
第7回	2声対位法 第三類 四分音符 (1) (基礎) Josquin DESPREZ "Missae Pange lingua"より"Credo" (2)	事前 二声の対位法第一類 (全音符)の課題を実施する 事後 学習した箇所を聴きながら音源を聞く。歌う。	100分 170分
第8回	2声対位法 第三類 四分音符 (2) (応用) Josquin DESPREZ "Missae Pange lingua"より"Credo" (3)	事前 二声の対位法第二類 (二分音符)の課題を実施する 事後 学習した箇所を聴きながら音源を聞く。歌う。	100分 170分
第9回	2声対位法 第四類 移勢 (1) Johan-Sebastian BACH "短調ミサ曲" BWV232より"Crucifixus"	事前 バッハの宗教曲について調べる 事後 学習した箇所を聴きながら音源を聞く。歌う。	100分 170分
第10回	2声対位法 第四類 移勢 (2) Josquin DESPREZ "Missae Pange lingua"より"Sanctus" (1)	事前 Sanctusの歌詞の内容を調べる 事後 学習した箇所を聴きながら音源を聞く。歌う。	100分 170分
第11回	2声対位法 第五類 華麗 (1) Josquin DESPREZ "Missae Pange lingua"より"Sanctus" (2)	事前 二声の対位法第三類 (四分音符)の課題を実施する 事後 学習した箇所を聴きながら音源を聞く。歌う。	100分 170分
第12回	2声対位法 第五類 華麗 (2) Gabriel FAURE "Requiem"より"Sanctus"	事前 フォーレのレクイエムについて調べる 事後 学習した箇所を聴きながら音源を聞く。歌う。	100分 170分
第13回	2声のカノン (1) (基礎) Josquin DESPREZ "Missae Pange lingua"より"Agnus Dei" (1)	事前 Agnus Deiの歌詞の内容を調べる 事後 学習した箇所を聴きながら音源を聞く。歌う。	100分 170分
第14回	2声のカノン (2) (応用) Josquin DESPREZ "Missae Pange lingua"より"Agnus Dei" (2)	事前 二声の対位法第四類 (移勢)及び第五類 (華麗)の課題を実施する 事後 学習した箇所を聴きながら音源を聞く。歌う。	100分 170分
第15回	前期まとめ	事前 前期の学習事項を復習する 事後	270分

フィードバック 対位法、フーガの練習課題にコメントをつけ、学修成果をフィードバックする。

成績評価 試験 40%、課題 40%、授業態度 20%

テキスト 授業内で提示する
[参考文献]
山口博史『バリ音楽院の方式による厳格対位法』(音楽之友社)
山口博史『バリ音楽院の方式によるフーガ書法』(音楽之友社)
石田純雄『基礎と実習』(Obra Publication)

オフィスアワー 授業後教室にて対応

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経歴・多様性							
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲	
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	

対位法-2

非常勤講師 井上渚

科目コード：SLF218

対象コース/専門/学年：全コース/全専門/2~4年次

形態：講義

単位数：2単位

概要 フーガの基本的な形の初歩的な学習と、Johan-Sebastian BACH の”Weihnachtsoratorium”の研究を並行して進める。

到達目標 ルネサンス・バロック期の多声音楽の理解を深める。
ヨーロッパ文化における「クリスマス」に対する知識を深める。

授業計画

第1回	フーガ学習に必要な楽典の知識 Johan-Sebastian BACH “Das Wohltemperierte Klavier” 第一巻より no.16 BWV861 Fugue	事前 小節番号をふる 事後 楽譜を見ながら CD を聞く	110分 160分
第2回	フーガの構造・構成 Johan-Sebastian BACH “Das Wohltemperierte Klavier” 第一巻より no.16 BWV861 Fugue	事前 『クリスマス・オラトリオ』について調べる 事後 楽譜を見ながら CD を聞く	110分 160分
第3回	Dux (主唱) と Comes (答唱) Johan-Sebastian BACH “Das Wohltemperierte Klavier” 第一巻より no.16 BWV861 Fugue	事前 フーガの一声部を楽器で演奏する 事後 楽譜を見ながら CD を聞く	110分 160分
第4回	Comes (答唱) を書く Johan-Sebastian BACH« Weihnachtsoratorium » より no.1	事前 小節番号をふる 事後 楽譜を見ながら CD を聞く	110分 160分
第5回	対唱・対位句(contre sujet) Johan-Sebastian BACH« Weihnachtsoratorium » より no.2-10	事前 小節番号をふる, 歌詞の対訳を読む 事後 楽譜を見ながら CD を聞く no. 5 “Choral” を歌う。	110分 160分
第6回	四声の入り・conductus (結句) Johan-Sebastian BACH« Weihnachtsoratorium » より no.11-21	事前 小節番号をふる 事後 楽譜を見ながら CD を聞く no. 12, no. 17 “Choral” を歌う。	110分 160分
第7回	Episode(嬉遊部) Johan-Sebastian BACH« Weihnachtsoratorium » より no.22-26	事前 小節番号をふる 事後 楽譜を見ながら CD を聞く no. 23 “Choral” を歌う。	110分 160分
第8回	ストレッチ Johan-Sebastian BACH« Weihnachtsoratorium » より no.27-36	事前 小節番号をふる 事後 楽譜を見ながら CD を聞く no. 28, 33, 35 “Choral” を歌う。	110分 160分
第9回	Johan-Sebastian BACH« Weihnachtsoratorium » より no.37-42	事前 小節番号をふる 事後 楽譜を見ながら CD を聞く no. 42 “Choral” を歌う。	110分 160分
第10回	Johan-Sebastian BACH« Weihnachtsoratorium » より no.43-46	事前 小節番号をふる 事後 楽譜を見ながら CD を聞く no. 46 “Choral” を歌う。	110分 160分
第11回	Johan-Sebastian BACH« Weihnachtsoratorium » より no.47-53	事前 小節番号をふる 事後 楽譜を見ながら CD を聞く no. 53 “Choral” を歌う。	110分 160分
第12回	Johan-Sebastian BACH« Weihnachtsoratorium » より no.54-57	事前 小節番号をふる 事後 楽譜を見ながら CD を聞く	110分 160分
第13回	Johan-Sebastian BACH« Weihnachtsoratorium » より no.58-64	事前 小節番号をふる 事後 楽譜を見ながら CD を聞く no. 59, 64 “Choral” を歌う。	110分 160分
第14回	Johan-Sebastian BACH« Weihnachtsoratorium » まとめ	事前 楽譜を見ながら、可能であれば全曲通して CD を聞く。 事後	270分
第15回	後期試験 仕上げとまとめ	事前 後期の学習事項を復習する 事後	270分

フィードバック 対位法、フーガの練習課題にコメントをつけ、学修成果をフィードバックする。

成績評価 試験 40%、課題 40%、授業態度 20%

テキスト 授業内で提示する
[参考文献]
山口博史『バリ音楽院の方式による厳格対位法』(音楽之友社)
山口博史『バリ音楽院の方式によるフーガ書法』(音楽之友社)
石田純雄『基礎と実習』(Obra Publication)

オフィスアワー 授業後教室にて対応

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経歴・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

楽典：基礎

講師 高畠亜生

科目コード：SLF107

対象コース/専門/学年：器楽・声楽・GLAコース/全専門/1年次

形態：講義

単位数：2単位

概要 西洋音楽の楽譜を読んで演奏するための基礎知識を基礎から順序立てて学習する。楽典の履修を指名された学生は必修。楽典の基礎知識がある学生は履修しないこと。

到達目標 音楽理論（楽典）を全く学習したことがない学生、またはそれに近い学生を対象として、音楽の基礎理論のうち、楽譜を読むために特に必要と思われる項目を勉強する。

授業計画

第1回	音/記譜法の歴史/音名	事前 テキスト P16~18 を読んでおく。 事後 テキスト巻末問題集 P158 の I-4,5,7 問題を自分で解いて別冊解答で自己採点する。	70 分 200 分
第2回	音部記号/音符/休符	事前 各自専門楽器で勉強中の任意楽曲の一楽章の楽譜中にある音部記号や音符休符をじっくり眺める。 事後 テキスト巻末問題 P159 の I-8,13, II-1,3,4,6,8,10 の問題を自分で解いて別冊解答で自己採点する。	40 分 230 分
第3回	小節/拍子	事前 第2回の事前で眺めた楽譜中の拍子記号の変化や小節線の変化を探しておく。 事後 テキスト巻末問題 P163 の III-3,5,7,9,11 の問題を自分で解いて別冊解答で自己採点する。	60 分 210 分
第4回	音程・転回音程	事前 第2回の事前で眺めた楽譜中の剥離している声部を探してフレーズ中での役割や特徴を考える。 事後 テキスト巻末問題 P166 の IV-3,6,11,19 の問題を自分で解いて別冊解答で自己採点する。	70 分 200 分
第5回	長音階・短音階	事前 ハから一点ハ音の半音階の各12音をそれぞれ主音とする12個の長音階を自分の楽器で演奏する。 事後 テキスト巻末問題 P173 の V-2,3,5,8,9,11,17,20,21 の問題を自分で解いて別冊解答で自己採点する。	70 分 200 分
第6回	移調・移調楽器	事前 クラリネットやサクソ、トランペットやホルンなどの移調楽器の記譜音と実音の違いを確認する。 事後 テキスト P79 の例題1の問2をやる。巻末問題 P181 の VI-2,5,11 を解き別冊解答で自己採点する。	60 分 210 分
第7回	第1回~6回までのまとめ/理解度確認テスト	事前 第1回~6回までの事後でやり残した問題をやって、理解度確認テストに備える。 事後 第2回の事前で眺めた楽譜中の冒頭部分から16小節を綺麗に写譜しておく。(課題提出)	80 分 190 分
第8回	近親調/転調	事前 テキスト P71 の5度圏の円の12の長調と12の短調を覚えてくる。 事後 テキスト巻末問題 P184 の VII-1,4,9,10,15, VIII-4,5,6 の問題を自分で解いて別冊解答で自己採点する。	80 分 190 分
第9回	調判定/多調性・無調	事前 第2回の事前で眺めた楽譜中の転調箇所や関係調を探す。 事後 テキスト巻末問題 P189 の IX-2,6,9,13,21 を自分で解いて別冊解答で自己採点する。	110 分 160 分
第10回	教会旋法・5音音階(ペンタトニック)・半音階・ハンガリー音階・12音音階	事前 多調性や無調の楽曲を一曲探しておく。編成は自由。 事後 教会旋法や5音音階を使用した楽曲をノックや古典派、ロマン派やフランス近代等から一曲探す。	130 分 140 分
第11回	速度標語・強弱標語/曲想や奏法に関する標語と記号	事前 テキスト P101~113 の知らない標語を覚え、第2回事前で眺めた全楽章の楽譜の標語を調べてくる。 事後 テキスト巻末問題 P199 の X-2,5,7,8,10,14 を自分で解いて別冊解答で自己採点する。	130 分 140 分
第12回	装飾音と装飾記号/省略記号	事前 第2回事前で眺めた全楽章の装飾記号や省略記号を調べてくる。 事後 テキスト巻末問題 P205 の 18,20,22,24 を自分で解いて別冊解答で自己採点する。	130 分 140 分
第13回	3和音	事前 テキスト P133~136 を読んでおく。第2回事前で眺めた楽曲の一楽章の中にある3和音を探す。 事後 テキスト巻末問題 P208 の X 1 の 1,2,4,20,21 を自分で解いて別冊解答で自己採点する。	130 分 140 分
第14回	7の和音/数字付き低音	事前 テキスト P143~145 を読んでおく。第2回事前で眺めた楽曲の一楽章の中にある7の和音を探す。 事後 テキスト巻末問題 P212 の X 1 の 13,24,28 を自分で解いて別冊解答で自己採点する。	130 分 140 分
第15回	新しい音楽の記譜法/理解度確認テスト	事前 第8~14回までの事後でやり残した問題をやって、理解度確認テストに備える。 事後 テキストの第19章(P152~157)を読んでおく。	210 分 60 分

フィードバック 授業内で実施する確認テストや課題の添削により改善点や今後の学習方法を各自にコメントして伝える。

成績評価 定期試験 60%、宿題や課題 20%、授業への取り組み 20%

テキスト 野崎 哲著『新しい楽典』（音楽之友社）
五線紙を用意すること。
その他、使用する楽譜やテキストは必要に応じて指示する。適宜、プリントを配布する。

オフィスアワー 授業後教室にて、もしくはメールにて受け付ける。akopo.taka85@gmail.com

備考 楽典の学習が足りない学生は予習をしっかりしておくこと。宿題や課題をすること。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>						

楽典：発展

講師 高畠亜生

科目コード：SLF108

対象コース/専門/学年：器楽・声楽・GLAコース/全専門/2～4年次

形態：講義

単位数：2単位

概要 教員採用試験の楽典問題の傾向と対策（管弦楽スコアからの問題を解くための学習）、日本音楽や邦楽器についての出題等に対応できるように、日本伝統芸能や伝統音楽や邦楽器の演奏家や外部講師を招聘してワークショップを実施する可能性も有り。

到達目標 楽典：基礎、音楽史、ソルフェージュの基礎をしっかりと習得している学生対象。主に将来学校教育を希望ないしは検討する学生を対象に音楽教育現場の授業で必要とされる音楽理論知識や合唱・器楽合奏の編曲・作曲技術に必要な声域、楽器法、和楽器の調弦や奏法、オーケストラスコアに関する知識など、音楽教師として必要な知識を確実に身につけ、あらゆる問題に対応できるように学習してもらう。さらに教員採用試験（中学・高校/音楽）の過去問題にも取り組み実践する。

授業計画

第1回	楽典一傾向と対策①/拍子、リズム、音程、コードネーム、和音- (理論)	事前 楽典の基礎理論の復習 事後 実際の授業内容に応じて適宜指示。	170分 100分
第2回	楽典一傾向と対策①/拍子、リズム、音程、コードネーム、和音- (実践)	事前 授業で出された課題を解いておく。 事後 実際の授業内容に応じて適宜指示。	170分 100分
第3回	楽典一傾向と対策②/音階、関係調、移調楽器、略記法、楽語- (理論)	事前 各移調楽器について記音と実音の違いを調べておく。 事後 実際の授業内容に応じて適宜指示。	170分 100分
第4回	楽典一傾向と対策②/音階、関係調、移調楽器、略記法、楽語- (実践)	事前 授業で出された課題を解いておく。 事後 実際の授業内容に応じて適宜指示。	170分 100分
第5回	楽典一傾向と対策③/音楽用語、様式、形式、音楽書法、非和声音- (理論)	事前 西洋音楽史に基づく様式や形式、音楽理論や楽器法など幅広い音楽用語を調べておく。 事後 実際の授業内容に応じて適宜指示。	170分 100分
第6回	楽典一傾向と対策③/音楽用語、様式、形式、音楽書法、非和声音- (実践)	事前 授業で出された課題を解いておく。 事後 実際の授業内容に応じて適宜指示。	170分 100分
第7回	日本の伝統音楽と和楽器講座-ワークショップ①/日本の笛-篠笛・能管・尺八	事前 篠笛、能管、龍笛などの横笛のそれぞれの違い、尺八音楽などについて調べておく。 事後 実際に演奏してみた感想をメモする。	170分 100分
第8回	日本の伝統音楽と和楽器講座-ワークショップ②/日本の弦楽器と語り物 三味線・箏・琵琶	事前 三味線の種類や三味線音楽について、箏の種類と箏曲について調べておく。 事後 実際の授業内容に応じて適宜指示。	170分 100分
第9回	日本の伝統音楽-ワークショップ③/日本の伝統芸能 能楽講座	事前 琵琶の種類と語り物と歌い物の違いを調べておく。 事後 実際の授業内容に応じて適宜指示。	170分 100分
第10回	日本の伝統音楽④ /三味線音楽・箏曲・雅楽・能楽、歌舞伎、文楽、民謡、日本の音階 まとめ	事前 雅楽と能楽について調べておく。 事後 実際の授業内容に応じて適宜指示。	170分 100分
第11回	教員試験対策問題-実践① 楽典 オーケストラスコアからの出題	事前 授業で出された課題を解いておく。 事後 実際の授業内容に応じて適宜指示。	190分 80分
第12回	教員試験対策問題-実践② 日本の音楽と諸外国の音楽からの出題	事前 授業で出された課題を解いておく。 事後 実際の授業内容に応じて適宜指示。	190分 80分
第13回	器楽一傾向と対策①/リコーダーとギターの違いと奏法について	事前 リコーダーを準備して、吹きながら運指を思い出す。ギターについて調べておく。 事後 実際の授業内容に応じて適宜指示。	170分 100分
第14回	教員試験対策問題-実践③ /和楽器、移調楽器、オーケストラ楽器	事前 授業で出された課題を解いておく。 事後 実際の授業内容に応じて適宜指示。	190分 80分
第15回	まとめ/定期試験	事前 第1～14回までの復習と定期試験へ向けての学習 事後 試験期間中に正確に早くバランス良く問題を解く。テスト経験を踏まえて今後の取り組みを考える。	250分 20分

フィードバック 授業後の課題で実施するレポートや授業外自主研究課題の添削により改善点や学習方法、今後の取り組み方などを各自にコメントして伝える。

成績評価 定期試験 60%、宿題や課題 20%、授業への取り組み 20%

テキスト 適宜プリントを配布する。
その他、使用する楽譜や管弦楽スコア、テキストは必要に応じて指示する。

オフィスアワー 授業後教室にて、もしくはメールにて受け付ける。akopo.taka85@gmail.com

備考 楽典・基礎・和声法を履修済か同等の学習をすでにしている学生が対象。
楽典全般を復習しておくこと。宿題や課題をすること。2年生以上の学生が対象。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>

(演) 音楽理論上級 1

非常勤講師 井上渚

科目コード：SLF213/SLF214

対象コース/専門/学年：演奏家コース/全専門/3 年次

形態：講義 単位数：4 単位

概要 前期は、2 声厳格対位法を中心に学び、和声では、フランスの数字に親しむとともに、簡単な実施と分析を通してこれまでに学んだ和声の復習をする。また、楽曲形式の確認をする。後期は、3 声対位法の実習を中心に行い、フーガの学習をする。授業では、書くことが中心になるが、歌ったり弾いたり（事後学習も含めて）することも通じてよく「聴く」ことを重視する。

到達目標 音楽理論上級 1 では、対位法と和声法を学ぶ。課題の実施や分析を通して、音に対する感性を磨き、構成感、様式感を養うとともに、それを「演奏表現」や創作に活かせるようにすることを目標とする。

授業計画

第 1 回	フランス数字について	事前 総合和声の p.508-509 に目を通しておく。様々な曲を演奏するときに声部の重なりを耳を傾ける。 事後 ピアノを使ってフランスの数字の復習をする。曲を演奏をしながら、和音の種類にも留意する。	110 分 160 分
第 2 回	フランス数字和声課題 実施	事前 フランスの数字を確認する。 事後 様々な曲を演奏をしながら、和音の種類にも留意する。フランス数字を使った和声課題(シャラン)をしあげ弾いてみる。演奏をしつつ和音の種類にも留意する。	110 分 160 分
第 3 回	総合和声第 7 章 自由ソプラノ課題の実施	事前 フランスの数字を確認する。 事後 様々な曲を演奏をしながら、和音の種類にも留意する。転位音を含む自由ソプラノ課題を仕上げ、弾いてみる。演奏をしながら、転位音や和声進行にも留意する。	110 分 160 分
第 4 回	総合和声第 8 章 反復進行の実施	事前 実施した課題の見直し。 事後 演奏をしながら、反復進行の譜例を弾いてみる。反復進行の課題を実施し、弾いてみる。	110 分 160 分
第 5 回	総合和声第 8 章 厳格バス課題の実施	事前 実施した課題の見直し。 事後 様々な曲を演奏するときに声部の重なりを耳を傾ける。バッハの様式による厳格バス課題をしあげ、弾いてみる。	110 分 160 分
第 6 回	2 声 2 分音符対位法 定旋律をバスに和声...副 V の復習	事前 対位法のテキストの興味のある部分に目を通す。曲を演奏するときに声部の重なりを耳を傾ける。 事後 2 声 2 分音符対位法を実施し弾いてみる。副 V を含む譜例を弾いてみる。	110 分 160 分
第 7 回	2 声 2 分音符対位法 定旋律を上声部に和声...ドッペルドミナントの復習	事前 実施した課題の確認。 事後 様々な曲を演奏するときに声部の重なりを耳を傾ける。2 声 2 分音符対位法を実施し弾いてみる。ドッペルドミナントを含む譜例を弾いてみる。	110 分 160 分
第 8 回	2 声 4 分音符対位法 定旋律をバスに和声...増 6 の和音の復習	事前 実施した課題の確認。 事後 様々な曲を演奏するときに声部の重なりを耳を傾ける。2 声 4 分音符対位法を実施し弾いてみる。増 6 の和音を含む譜例を弾いてみる。	110 分 160 分
第 9 回	2 声 4 分音符対位法 定旋律を上声部に和声...ナボリの和音の復習	事前 実施した課題の確認。 事後 様々な曲を演奏するときに声部の重なりを耳を傾ける。2 声 4 分音符対位法を実施し弾いてみる。ナボリを含む譜例を弾いてみる。	110 分 160 分
第 10 回	2 声移勢対位法 定旋律をバスに和声...ドリアの和音の復習	事前 実施した課題の確認。 事後 様々な曲を演奏するときに声部の重なりを耳を傾ける。2 声移勢対位法を実施し弾いてみる。ドリアを含む譜例を弾いてみる。	110 分 160 分
第 11 回	2 声移勢対位法 定旋律を上声部に和声...上方転位和音の復習	事前 実施した課題の確認。 事後 様々な曲を演奏するときに声部の重なりを耳を傾ける。2 声移勢対位法を実施し弾いてみる。上方変位を含む譜例を弾いてみる。	110 分 160 分
第 12 回	2 声華麗対位法 定旋律をバスに和声...異名同音的転調の復習	事前 実施した課題の確認。 事後 様々な曲を演奏するときに声部の重なりを耳を傾ける。2 声華麗対位法を実施し弾いてみる。異名同音的転調を含む譜例を弾いてみる。	110 分 160 分
第 13 回	2 声華麗対位法 定旋律を上声部に和声...モーツァルトの和声	事前 実施した課題の確認。 事後 様々な曲を演奏するときに声部の重なりを耳を傾ける。2 声華麗対位法を実施し弾いてみる。モーツァルトの和声の譜例を弾いてみる。	110 分 160 分
第 14 回	2 声華麗対位法 短調の課題 夏休み課題の説明	事前 実施した課題の確認。 事後 様々な曲を演奏するときに声部の重なりを耳を傾ける。2 声華麗対位法を実施し弾いてみる。モーツァルトの様式による編曲。	110 分 160 分
第 15 回	モーツァルトの様式による課題 (夏休み課題) の演奏発表と解説	事前 夏休み課題 (モーツァルトの様式による二重奏) の演奏練習。 事後 2 声華麗対位法を実施し弾いてみる。様々な曲を演奏するときに声部の重なりを耳を傾ける。	110 分 160 分
第 16 回	2 声華麗対位法 復習	事前 2 声華麗対位法を実施し弾いてみる。 事後 様々な曲を演奏するときに声部の重なりを耳を傾ける。実施した課題の確認。	110 分 160 分
第 17 回	3 声 2 分音符対位法 定旋律をバスに置く 楽式...楽式についてのプリントの確認	事前 楽式についてのプリント確認。 事後 3 声 2 分音符対位法の実施し弾いてみる。様々な曲を演奏するときに声部の重なりを耳を傾ける。	110 分 160 分
第 18 回	3 声 2 分音符対位法 定旋律をソプラノに置く	事前 実施した 3 声 2 分音符対位法の確認。 事後 様々な曲を演奏するときに声部の重なりを耳を傾ける。3 声 2 分音符対位法の実施し弾いてみる。様々な曲を演奏するときに声部の重なりを耳を傾ける。	110 分 160 分
第 19 回	3 声混合対位法 定旋律をバスに置く	事前 実施した課題の確認。 事後 様々な曲を演奏するときに声部の重なりを耳を傾ける。3 声混合対位法を実施し弾いてみる。	110 分 160 分
第 20 回	3 声混合対位法 定旋律をソプラノに置く	事前 実施した課題の確認。 事後 様々な曲を演奏するときに声部の重なりを耳を傾ける。3 声混合対位法を実施し弾いてみる。	110 分 160 分
第 21 回	3 声混合対位法 定旋律を内声部に置く	事前 実施した課題の確認。 事後 様々な曲を演奏するときに声部の重なりを耳を傾ける。3 声混合対位法を実施し弾いてみる。	110 分 160 分
第 22 回	3 声華麗対位法 定旋律をバスに置く	事前 実施した課題の確認。 事後 様々な曲を演奏するときに声部の重なりを耳を傾ける。3 声華麗対位法を実施し弾いてみる。	110 分 160 分
第 23 回	3 声華麗対位法 定旋律をソプラノに置く	事前 実施した課題の確認。 事後 様々な曲を演奏するときに声部の重なりを耳を傾ける。3 声華麗対位法を実施し弾いてみる。	110 分 160 分
第 24 回	3 声華麗対位法 定旋律を内声部に置く	事前 実施した課題の確認。 事後 様々な曲を演奏するときに声部の重なりを耳を傾ける。3 声華麗対位法を実施し弾いてみる。	110 分 160 分
第 25 回	3 声華麗対位法 復習	事前 実施した課題の確認。 事後 様々な曲を演奏するときに声部の重なりを耳を傾ける。3 声華麗対位法を実施し弾いてみる。	110 分 160 分
第 26 回	3 声対位法のまとめ	事前 任意のフーガの主唱・答唱と対唱を弾いてみる。 事後 様々な曲を演奏するときに声部の重なりを耳を傾ける。3 声華麗対位法を実施し弾いてみる。	110 分 160 分
第 27 回	フーガの研究	事前 任意のフーガの調の移り変わりを調べる、または感じながら弾いてみる。 事後 任意のフーガの提示部・喜遊部を調べる、または感じながら弾いてみる。	110 分 160 分
第 28 回	フーガの分析 (J.S.バッハ 平均律クラヴィーア曲集より)	事前 任意のフーガの構成を調べる、または、構成を感じながら弾いてみる。 事後 任意のフーガの構成を調べる、または、構成を感じながら弾いてみる。	110 分 160 分
第 29 回	フーガの分析および答唱を書いてみる	事前 任意のフーガの答唱を調べたり、弾いたりする。構成を感じながら弾いてみる。 事後 任意のフーガの答唱を調べたり、弾いたりする。構成を感じながら弾いてみる。	110 分 160 分
第 30 回	フーガの分析および対唱を書いてみる	事前 任意のフーガの主唱・答唱と対唱を弾いてみる。構成を感じながら弾いてみる。 事後 自分で書いた、対唱を、主唱・答唱と併せて弾いてみる。任意のフーガの構成を感じながら弾く。	110 分 160 分

フィードバック 授業中に一人一人添削する。又確認テストなどで改善点を見だして、各自研究トレーニングをして総合的な楽曲分析力を身につける。音楽的感性と理論を結び付けて、実際の演奏に役立てる。

成績評価 宿題を含めた平常の課題実施の取組み 40%、及び前期試験と学年末試験 60%。

テキスト 《参考図書》
山口博史著、「バリ音楽院の方式による厳格対位法」(音楽之友社)
島岡譲(執筆責任)「総合和声」(音楽之友社)
池内友次郎氏『和声 理論と実習Ⅲ』(音楽之友社)
佐怒賀悦子著『演奏につなげる 和声・入門ワーク』(ヤマハミュージックメディア)
池内友次郎著『二声対位法』(音楽之友社)

オフィスアワー 授業後に対応

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	3次元7分野7技能	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的関与力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

(演)音楽理論上級 2

講師 高畠 亜生

科目コード：SLF401/SLF402

対象コース/専門/学年：演奏家コース/全専門/4 年次

形態：講義

単位数：4 単位

概要 1.自由ソプラノ課題の復習。2.厳格バス課題の復習。3.通奏低音の復習 4.移調伴奏（前期・後期） 5.実作品の楽曲分析（前期・後期） 6.大作曲家の和声様式 7.各時代様式の研究 8.二声三声対位法の復習 9.大作曲家の対位法 10.フーガの分析・実習 11.卒業試験楽曲の分析等テキスト、楽譜、プリント等を使い、以上を学生の習熟度に合わせて平行して進める。

到達目標 上級 2 では上級 1 を履修した学生を対象。四声体和声と対位法 (Fugue)、楽曲分析を中心にバロックから近代までの和声法の実践を歴史的発展を考慮しつつ学ぶ。又音楽形式や時代様式についても理解を深める。西洋音楽の時代様式による和声感を養い、音楽解釈の向上と豊かな演奏表現に結びつけるようにしていく。

回	内容	事前	事後	単位数
第 1 回	総合演習 1 和声実習 (自由ソプラノ課題 1) /と楽曲分析 (中世ルネッサンス)	総合和声 P185～自由ソプラノ課題の例題を参考に課題 47 の未実施課題をやる。	実際の授業内容に応じて適宜指示。	135 分
第 2 回	総合演習 2 和声実習 (自由ソプラノ課題 2) /と楽曲分析 (バロック) モンテヴェルディ	事前 第 1 回で指示された宿題をやる。	事後 実際の授業内容に応じて適宜指示。	170 分
第 3 回	総合演習 3 和声実習 (自由ソプラノ課題 3) と楽曲分析 (バロック) J.S.BACH コラール	事前 第 2 回で指示された宿題をやる。	事後 実際の授業内容に応じて適宜指示。	170 分
第 4 回	総合演習 4 和声実習 (自由ソプラノ課題シャラン 1) と楽曲分析 (バロック) J.S.BACH コラール	事前 第 3 回で与えられた自由ソプラノ課題の終止と和声付けと転位音判定をして還元後、実施する。	事後 実際の授業内容に応じて適宜指示。	170 分
第 5 回	総合演習 5 和声実習 (自由ソプラノ課題シャラン 2) と楽曲分析 (バロック) J.S.BACH フーガ (二声・三声)	事前 第 4 回で指示された宿題をやる。	事後 実際の授業内容に応じて適宜指示。	170 分
第 6 回	総合演習 6 和声実習 (自由ソプラノ課題シャラン 3) と楽曲分析 (バロック) J.S.BACH フーガ (四声)	事前 第 5 回で指示された宿題をやる。	事後 実際の授業内容に応じて適宜指示。	170 分
第 7 回	総合演習 7 和声実習 (厳格バス課題 1) と楽曲分析 (バロック) J.S.BACH 対位法	事前 総合和声 P223 厳格バス課題の例題を参考に終止と和声付け後、課題 58 の未実施課題をやる。	事後 実際の授業内容に応じて適宜指示。	170 分
第 8 回	総合演習 8 和声実習 (厳格バス課題 2) と楽曲分析 (古典派) モーツァルトの対位法 (ソナタ)	事前 第 7 回で指示された宿題をやる。	事後 実際の授業内容に応じて適宜指示。	170 分
第 9 回	総合演習 9 和声実習 (二つの主題をもつバス課題 1) と楽曲分析 (古典派) モーツァルトの対位法 (シンフォニー)	事前 第 8 回で配布されたプリントの例題を参考に終止と和声付け後、課題 58 の未実施課題をやる。	事後 実際の授業内容に応じて適宜指示。	170 分
第 10 回	総合演習 10 和声実習 (二つの主題をもつバス課題 2) と楽曲分析 (古典派) モーツァルトの対位法 (オペラ)	事前 第 9 回で指示された宿題をやる。	事後 実際の授業内容に応じて適宜指示。	170 分
第 11 回	総合演習 11 和声実習 (二つの主題をもつバス課題 3) と楽曲分析 (後期古典派) ベートーヴェン ソナタ	事前 第 10 回で指示された宿題をやる。	事後 実際の授業内容に応じて適宜指示。	170 分
第 12 回	総合演習 12 和声実習 (数字付き低音のバス課題) と楽曲分析 (後期古典派) ベートーヴェンの Fugue 弦楽四重奏	事前 第 11 回で配布されたプリントの例題を参考に終止や転調を考えた後、課題を実施する。	事後 実際の授業内容に応じて適宜指示。	170 分
第 13 回	総合演習 13 和声実習 (自由バス課題 1 シャラン) と楽曲分析 (後期古典派) ハイデン・ベートーヴェンの Fugue シンフォニー	事前 第 12 回で与えられた自由ソプラノ課題の終止と和声付けと転位音判定をして還元後、実施する。	事後 実際の授業内容に応じて適宜指示。	170 分
第 14 回	総合演習 14 和声実習 (自由バス課題 2) と楽曲分析 (後期古典派) ベートーヴェンの合唱付き管弦楽曲 ミサ曲	事前 第 13 回で与えられた自由ソプラノ課題の終止と和声付けと転位音判定をして還元後、実施する。	事後 実際の授業内容に応じて適宜指示。	170 分
第 15 回	総合演習 15 前期まとめ/定期試験	事前 第 1～14 回までの復習と定期試験の勉強。	事後 試験で出来なかった箇所を復習する。	170 分
第 16 回	総合演習 16 和声・対位法実習 (Fugue) と楽曲分析 (初期ロマン派) シューベルト	事前 上級 1 で学習した 2 声、三声対位法の復習をしておく。	事後 実際の授業内容に応じて適宜指示。	170 分
第 17 回	総合演習 17 和声・対位法実習 (Fugue) と楽曲分析 (盛期ロマン派) シューマン	事前 第 16 回で指示された宿題をやる。	事後 実際の授業内容に応じて適宜指示。	170 分
第 18 回	総合演習 18 和声・対位法実習 (Fugue) と楽曲分析 (盛期ロマン派) ショパン	事前 第 17 回で指示された宿題をやる。	事後 実際の授業内容に応じて適宜指示。	170 分
第 19 回	総合演習 19 和声・対位法実習 (Fugue) と楽曲分析 (盛期ロマン派) ワグナーのトリスタン和声	事前 第 18 回で指示された宿題をやる。	事後 実際の授業内容に応じて適宜指示。	170 分
第 20 回	総合演習 20 和声・対位法実習 (Fugue) と楽曲分析 (後期ロマン派) フランク	事前 第 19 回で指示された宿題をやる。	事後 実際の授業内容に応じて適宜指示。	170 分
第 21 回	総合演習 21 和声・対位法実習 (Fugue) と楽曲分析 (後期ロマン派) ブラームス	事前 第 20 回で指示された宿題をやる。	事後 実際の授業内容に応じて適宜指示。	170 分
第 22 回	総合演習 22 和声・対位法実習 (Fugue) と楽曲分析 (フランス近代) フォーレ	事前 第 21 回で指示された宿題をやる。	事後 実際の授業内容に応じて適宜指示。	170 分
第 23 回	総合演習 23 和声・対位法実習 (Fugue) と楽曲分析 (フランス近代) ドビュッシー	事前 第 22 回で指示された宿題をやる。	事後 実際の授業内容に応じて適宜指示。	170 分
第 24 回	総合演習 24 和声・対位法実習 (Fugue) と楽曲分析 (フランス近代) ラヴェル	事前 第 23 回で指示された宿題をやる。	事後 実際の授業内容に応じて適宜指示。	170 分
第 25 回	総合演習 25 和声・対位法実習 (Fugue) と楽曲分析 (ロシア・ロシア五人組) チャイコフスキー・ムソルグスキー他	事前 第 24 回で指示された宿題をやる。	事後 実際の授業内容に応じて適宜指示。	170 分
第 26 回	総合演習 26 和声・対位法実習 (Fugue) と楽曲分析 (近代ロシア) スクリャービン・プロコフィエフ	事前 第 25 回で指示された宿題をやる。	事後 実際の授業内容に応じて適宜指示。	170 分
第 27 回	総合演習 27 卒業試験の楽曲分析実習と楽曲分析 (イタリアオペラ近代) プッチーニ	事前 卒業試験の楽曲分析。	事後 実際の授業内容に応じて適宜指示。	250 分
第 28 回	総合演習 28 後期まとめ/定期試験	事前 第 16～27 回までの復習と定期試験の勉強。	事後 実際の授業内容に応じて適宜指示。	250 分
第 29 回	総合演習 29 楽曲分析 (20 世紀新ウィーン楽派) シェーンベルク・ウェーベルン・ベルク	事前 新ウィーン楽派と 12 音技法について調べてくる。	事後 実際の授業内容に応じて適宜指示。	170 分
第 30 回	総合演習 30 楽曲分析 (20 世紀) バルトーク・ストラヴィンスキー・メシアン	事前 バルトークの作曲法、メシアンの我音楽語法、ストラヴィンスキーの 101 の質問等書籍を読む。	事後 実際の授業内容に応じて適宜指示。	250 分

フィードバック 授業内で実施する確認テストや課題の添削により改善点や今後の学習方法を各自にコメントして伝える。

成績評価 定期試験の成績 60%、宿題や課題 20%、授業への取り組み 20%

テキスト 山口博史著『バリ音楽院の様式による対位法』音楽之友社{(演)音楽理論上級 1 のつづき)
島岡謙(執筆責任)『総合和声』音楽之友社
五線紙を用意すること。
その他、使用する楽譜やテキストは必要に応じて指示する。適宜、プリントを配布する。
《参考図書》池内友次郎『和声 理論と実習Ⅲ』音楽之友社、
野田暉行著『要約和声』E World Japan Publishing (Teruyuki Noda-Official Site より購入可)
野田暉行著『和声 100 課題集』(課題編・実施編) E World Japan Publishing
野田暉行著『Fugue』(CD 音源付) E World Japan Publishing

オフィスアワー 授業後教室にて、もしくはメールにて受け付ける。 akopo.taka85@gmail.com

備考 (演)音楽理論上級 1 で学習した内容を復習しておくこと。宿題や課題をすること。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>					

指揮法 a・b

※教育職員免許状取得に関わる科目

非常勤講師 大河内雅彦

科目コード：SLF301

コース/専門/学年： 全コース/全専門/3・4年次

形態：演習

単位数：2単位

概要	<ul style="list-style-type: none"> ・指揮の基本技法を習得する。 ・実際のクラス（15名程度）の2部合唱（ピアノ連弾による伴奏）を題材にして、指揮および指導の実習をする。 ・スコアを読むための予備知識を習得する。（ハ音記号、移調楽器の記譜について） ・クラスのメンバーで適切なアンサンブルが組める場合、そのアンサンブルを指揮してみる。
----	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・理論的なことを押さえつつも、指揮および指導を「実践する」。 ・実際に指揮を体験してみるにより、それに必要な「準備」、「心構え」、「リハーサルの方法論」などを、クラスメートとのディスカッション出来るようにする。 ・吹奏楽やオーケストラのスコアを読むための準備として、移調楽器の記譜についての知識を得ることに加え、数種類の「ハ音記号」を読むようにする。
------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

授業計画

回数	内容	事前	事後	時間
第1回	オリエンテーション 指揮の理論についての概要 移調楽器についての説明①	事前 移調楽器にどんな楽器があるかを調べてくる	事後 移調楽器について授業で話した内容について概要をつかむこと	120分
		事後	事後	150分
第2回	ハイ・ホー 譜読み 移調楽器についての説明②	事前 ハイ・ホー 譜読み	事後 ハイ・ホー 譜読み	120分
		事後	事後	150分
第3回	ハイ・ホー 仕上げ ハ音記号についての説明	事前 移調楽器について授業で話した内容の確認	事後 ハイ・ホー 譜読み	120分
		事後	事後	150分
第4回	チム・チム・チェリー 譜読み テノール記号の練習 p.1-3	事前 テノール記号の反復練習	事後 チム・チム・チェリー 譜読み	120分
		事後	事後	150分
第5回	チム・チム・チェリー 仕上げ テノール記号の練習 p.4-5	事前 テノール記号の反復練習	事後 チム・チム・チェリー 譜読み	120分
		事後	事後	150分
第6回	アンダー・ザ・シー 譜読み テノール記号の練習 p.6-7	事前 テノール記号の反復練習	事後 アンダー・ザ・シー 譜読み	120分
		事後	事後	150分
第7回	アンダー・ザ・シー 譜読み テノール記号の練習 p.8-10	事前 テノール記号の反復練習	事後 アンダー・ザ・シー 譜読み	120分
		事後	事後	150分
第8回	アンダー・ザ・シー 仕上げ メゾソプラノ記号の練習 p.13-14	事前 メゾソプラノ記号の反復練習	事後 アンダー・ザ・シー 譜読み	120分
		事後	事後	150分
第9回	ビビディ・バビディ・プー 譜読み メゾソプラノ記号の練習 p.15-16	事前 メゾソプラノ記号の反復練習	事後 ビビディ・バビディ・プー 譜読み	120分
		事後	事後	150分
第10回	ビビディ・バビディ・プー 仕上げ メゾソプラノ記号の練習 p.17-18	事前 メゾソプラノ記号の反復練習	事後 ビビディ・バビディ・プー 譜読み	120分
		事後	事後	150分
第11回	ホール・ニュー・ワールド 譜読み メゾソプラノ記号の練習 p.19-20	事前 メゾソプラノ記号の反復練習	事後 ホール・ニュー・ワールド 譜読み	120分
		事後	事後	150分
第12回	ホール・ニュー・ワールド 仕上げ アルト記号の練習 p.21-22	事前 アルト記号の反復練習	事後 ホール・ニュー・ワールド 譜読み	120分
		事後	事後	150分
第13回	小さな世界 譜読み アルト記号の練習 p.23-24	事前 アルト記号の反復練習	事後 小さな世界 譜読み	120分
		事後	事後	150分
第14回	小さな世界 仕上げ アルト記号の練習 p.25-26	事前 アルト記号の反復練習	事後 小さな世界 譜読み	120分
		事後	事後	150分
第15回	まとめ 3つのハ音記号の練習	事前 全ての曲 譜読み確認	事後 全ての曲 譜読み確認	120分
		事後	事後	120分

フィードバック 実技系の授業なので、各自が指揮をする際に丁寧に質問に答える。

成績評価 事前学習への取り組み（十分な譜読み）50% 授業への積極的な取り組み 50%

テキスト テキストは使用しない。その都度プリントを配布する。

オフィスアワー 授業終了後教室にて

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲	
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>							

作曲法 a・b

※教育職員免許状取得に関わる科目

講師 高島 亜生

科目コード：SLF302

対象コース／専門／学年：全コース／全専門／3・4年次

形態：講義

単位数：2単位

概要 メロディのコード付け、変奏曲、カノンの作曲、モチーフを使った作曲、歌曲の作曲、無調現代曲の作曲、特殊編成への編曲など

到達目標 将来、音楽活動や教育の現場で、様々なニーズに応じた作曲・編曲を求められることも少なくない。この授業では、創作の基本的な実技（モチーフの各形式による作曲や伴奏付け、コード付け、合奏&合唱曲の編曲・作曲など）や具体的な書法テクニックを演習させながら、出来るだけ多く自分で楽譜を書いたり、PCに打ち込み楽譜製作をしたりする。またそれらを実際に試演するなど実際の音にして音楽的体験をすることを目標とする。

授業計画 教室内で演奏不可の学生は音源をCD等で用意すること。

第1回	オリエンテーション/メロディーの伴奏付け（コード付け）	事前 終止形（カデンツ）、終止、和音進行、コードネーム、音楽基礎理論を復習しておく。 事後 実際の授業内容に応じて適宜指示。	120分 150分
第2回	オブリガート（対旋律）を作って編曲しよう	事前 伴奏付け（コード付け）の復習。リコーダーの音域確認。各声域（Sop.Alto.男声）の確認。 事後 授業の課題を仕上げる。	120分 150分
第3回	与えられたコードネームまたは和音進行の上に旋律を作曲しよう	事前 和音度や転位音（非和声音）の復習。伴奏に用いるギターについて調べておく。 事後 完成した楽譜をギターを弾ける友人を捜して弾いてもらい、歌ってみよう。	135分 135分
第4回	二部形式の曲（16小節）を作曲しよう（転調あり）	事前 形式についてと、近親転調について復習しておく。 事後 与えられたモチーフでいくつか二部形式で旋律を創作する練習をしましょう。	120分 150分
第5回	二部形式の曲を編曲しよう（伴奏付け、オブリガート）	事前 第4回で作った旋律のコード付けや終止を設定しておく。 事後 授業の課題を仕上げる。	135分 135分
第6回	ア・カペラの混声合唱曲に編曲しよう（カノン、コラール）	事前 中学、高校生の各声部の音域を調べておきましょう。 事後 授業の課題を仕上げる。	120分 150分
第7回	多声的な音楽の創作（3声のカノン）	事前 混声三部（Sop.Alto.男声）の声域の確認。対位法、声部書法について調べておく。 事後 授業の課題を仕上げる。	120分 150分
第8回	移調楽器（木・金管）を含んだアンサンブル（4重奏、特集編成など）を編曲しよう	事前 移調楽器（Cl.inB, inA, Hr.inF, Tp.inB, Alto Sax.inE♭）の記音と実音の関係を調べておく。 事後 授業の課題を仕上げる。	135分 135分
第9回	箏や三味線、篠笛、尺八、和太鼓など 邦楽器を含んだ楽曲創作をしよう1（講義・演習）	事前 箏や三味線の調法、篠笛、尺八の音域、和太鼓の唱奏など、和楽器の楽譜表記について調べておく。 事後 授業で課された演習の準備	150分 120分
第10回	箏や三味線、篠笛、尺八、和太鼓など 邦楽器を含んだ楽曲創作をしよう2（発表）	事前 各音域の実際の和楽器の音を確認してみよう。（講師の先生や和楽サークル学生に相談等） 事後 和楽器の新しい音色の可能性や奏法を発見してみよう。	150分 120分
第11回	三部形式の曲（24小節）を作曲しよう（転調あり）	事前 リート形式について各種、器楽形式の複合三部形式、ロンド形式、ソナタ形式について調べておく。 事後 授業の課題を仕上げる。	100分 170分
第12回	与えられた歌詞（オリジナル可）に旋律を作曲して部分的に合唱にしてみよう1（演習）	事前 様々な歌の歌詞のイントネーションを研究する。旋律の動きとリズムの関係や終止、構成や音域など。 事後 授業の課題を仕上げる。	135分 135分
第13回	与えられた歌詞（オリジナル可）に旋律を作曲して部分的に合唱にしてみよう2（発表）	事前 クラス全員で歌えるように、全員分の楽譜を準備しよう。 事後 自分の創作した歌の歌詞と旋律線が自然に合っていたか検討しましょう。	170分 100分
第14回	学校音楽の現場で用意できる楽器または日常雑貨で 独創楽器を作って創作・編曲してみよう	事前 学校現場で楽器になりそうなグッズを集めてこよう！一つの楽器で特殊奏法を探してみよう。 事後 授業の課題を仕上げる。	170分 100分
第15回	自由作曲（様式、形式、編成、演奏時間3分）の発表会	事前 発表会に備えて、パート楽譜準備、演奏者手配、リハーサル等、各自準備をする。 事後 発表会で他の学生の作品を聞いて、参考にするアイデアを得る。	250分 20分

フィードバック 課題や宿題を講師が添削して、次週返却するので、それをしっかり復習して自分のモノにして、次の課題でも生かしていく。最後の提出作品ではその積み重ねの総合力を出せるように、基礎的な作曲技術を身につけていく。

成績評価 学年末作品と試演発表会 60%、宿題や課題 20%、授業への取り組み 20%
学年末作品提出（編成、形式や様式は自由。3分程度の自由作曲（編曲可））楽譜提出（手書き、コピー、PCいずれも可）。最後の授業で作品発表会を実施する（履修人数により日程や時間調整の場合あり）。演奏は自作自演、また履修生以外に依頼可。教室内で演奏不可の学生は全員が聴ける音源をCD等で用意すること。
※スマホ等で音量が小さすぎ全員が聞くことができない機器は不可。未提出、発表会不参加の学生には単位は与えない。

テキスト PC室のフィナーレを使って楽譜打ち込みをする事があるのでメモリースティックと、五線紙を用意すること。
プリントをファイルする。
その他、使用する楽譜やテキストは必要に応じて指示する。適宜、プリントを配布する。
また演奏する場合に備え、専門楽器も各自持参することが望ましい。

オフィスアワー 授業後教室にて、もしくはメールで受け付ける。akopo.taka85@gmail.com

備考 日頃から移調やアレンジや作曲などに興味を持ち挑戦すること。
前期はできるだけ4年次生が優先して履修して下さい。1401PC教室使用には人数制限があるため、3年次生は前期を希望しても後期になる場合があります。1401.1402 必要に応じて使用教室が変わります。指示や掲示に従うこと。PCで楽譜製作のため、1401室を授業時以外で使用したい学生は担当講師まで相談すること。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発働力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>						

演奏者のための心理学

教授 石橋明佳

科目コード：NAT202

対象コース／専門／学年：演奏家コース／全専門／2～3 年次

形態：講義 単位数：2 単位

概要 奏でる音の一つ一つに美しい独自の世界を作り上げるために必要な技術・体力・経験をコントロールする「心」について学び、演奏スキルの向上を目指す。さらにクラシック音楽事業の分析やオーディエンスの心理理解、効果的な自分自身のプレゼンテーション法、チャンスを引き寄せる「仕事、時間、お金」のマネジメント等、演奏家として成功するために活用できる知識とスキルを心理学を通して習得する。

到達目標 演奏家として将来活動するために必要なメンタリティを持つことを目標とする。具体的には、①自分の性格や思考パターンがどのように生活や演奏に影響しているかを知る、②演奏・音楽が人に及ぼす力を知る、③心身の健康の為のリスクやストレス等のマネジメント法を身につける、④演奏活動に必要なコミュニケーション能力、セルフ・プレゼンテーション能力を身につける。

授業計画		
【AL】		
第1回	ガイダンス：授業の流れの詳細と受講に関する注意、自分の個性、思考・行動パターンについて考える	事前 テキストの「イントロダクション」と関連ページを読んで理解する 100分 事後 授業中に行った各心理テストの結果を分析し、自己認識を深める 170分
第2回	人間理解の方法、自己分析	事前 テキストの関連ページを読んで理解する 60分 事後 授業中に行った各心理テストの結果を分析し、自己認識を深める 210分
第3回	演奏家として知っておきたいストレスの仕組みと心の病	事前 テキストの関連ページを読んで理解する 100分 事後 自分の環境や性格とストレスの関連性を分析する 170分
第4回	演奏に悪影響を及ぼす思考・行動パターン ストレス・マネジメントと自分でできる心理療法	事前 テキストの関連ページを読んで理解する 80分 事後 自分の認知パターンを分析する 190分
第5回	睡眠と食事・睡眠から健康を考える 第1回～第4回のまとめ	事前 自分の生活をタイムテーブルにする 60分 事後 理解不足だった部分の復習をし、自分の生活や思考・行動傾向の改良すべき点を分析する 210分
第6回	音楽が脳に与える影響	事前 テキストの関連ページを読み、なぜ音楽は人間に必要なのかを考える 130分 事後 音楽を神経心理学的に解釈してみる 140分
第7回	想像力と記憶力の向上方法とイメージ・トレーニング	事前 テキストの関連ページを読んで理解する 80分 事後 授業で学んだメソッドを試してみる 190分
第8回	アガリの克服と良い演奏のためのメンタリティ	事前 自分が良い演奏ができない状況を検証する 110分 事後 自分に合った緊張緩和方法を考えてみる 160分
第9回	演奏家に必要なコミュニケーション：自己表現と対人関係スキル	事前 テキストの関連ページを読み、対人関係における自分を分析する 110分 事後 授業で学んだソーシャル・スキルの実践方法を検討する 160分
第10回	第6回～第9回のまとめ	事前 テキストの第3章～5章を再読する 140分 事後 理解不足だった部分の復習をする 130分
第11回	欧米および日本におけるクラシック音楽文化とコンサート事情	事前 テキストの関連ページを読み、クラシック音楽事業について調べる 110分 事後 今、オーディエンスは何を望んでいるかを考察する 160分
第12回	最近の音楽事業の動向と今後の演奏活動の在り方	事前 新聞広告やポスター等から、音楽の流行について分析する 130分 事後 自分の活躍できる場、ジャンルを想定する 140分
第13回	演奏家としてのプロモーションに効果的な営業資料の作り方	事前 テキストの関連ページを読み、プロフィールを作成する 200分 事後 プロフィールのリバイズ 70分
第14回	オーディエンスを招くコンサート企画、広告・広報	事前 テキストの関連ページを読み、自分のターゲット・マーケットを想定する 130分 事後 コンサートの企画案を作る 140分
第15回	効果的なチラシとプログラムの作り方	事前 フライヤーの収集、嗜好の傾向の分析 130分 事後 課題（フライヤー作成）に必要な資料・情報の収集 140分

フィードバック 授業での課題や宿題は、添削やコメントで学修成果をフィードバックする。最終課題である「フライヤー」はコメントで学修成果をフィードバックする。

成績評価 主に課題により行うが、受講態度や授業外学習も評価の対象とする。課題は自分のコンサートを想定して「フライヤー」を作成する。評価の配分は、授業に取り組む姿勢・質疑応答等で30%、授業外学習で20%、課題で50%とする。

テキスト プリント教材『演奏者のための心理学』（約700円）

オフィスアワー 授業終了後教室にて、もしくはEメールにて相談の上、対応する sishibashi@uenogakuen.ac.jp

備考 ・課題のためのPC操作に関して、必要な場合は別に指導する。
・当講義では各種の心理テストを使って、心の状態や演奏家としての心構えをチェックする。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

体育実技-1

※教育職員免許状取得に関わる科目

非常勤講師 荒金幸子

科目コード：PHY102

対象コース／専門／学年：全コース／全専門／1 年次

形態：実技

単位数：1 単位

概要 いろいろな運動を通して、楽しく体を動かすことができる具体的な内容・方法について学び進める時間である。

到達目標 生き生きとした生活を送るため、積極的にからだを動かす時間を持ち、一人ひとりに適した運動、安全かつ効果的にからだを動かすこと等を理解する。

授業計画 「健康づくりと運動文化を楽しむ」

第1回	手軽にできる体力・運動能力チェック	事前 初回の実技に向けてケガをしないからだの準備をする。 事後 疲労が感じられる部分をケアする。	10 分 90 分
第2回	からだを動かすことの楽しさを体験しよう	事前 軽くからだを動かし体調の確認をする。 事後 疲労が感じられる部分をケアする。	20 分 80 分
第3回	仲間とからだを動かすことの意味を探ろう	事前 軽くからだを動かし体調の確認をする。 事後 使った部分を中心に疲労を残さないように体操などを行う。	20 分 80 分
第4回	動いてみよう・動かしてみよう	事前 軽くからだを動かし体調の確認をする。 事後 使った部分を中心に疲労を残さないように体操などを行う。	20 分 80 分
第5回	からだほぐしの運動を楽しもう	事前 軽くからだを動かし体調の確認をする。 事後 からだほぐしの運動を取り入れる。	20 分 80 分
第6回	からだの動きを確認してみよう	事前 軽くからだを動かし体調の確認をする。 事後 からだの動きのバランスを確認する。	20 分 80 分
第7回	からだを器用に動かしてみよう	事前 巧緻性を高める体操とは何か調べる。 事後 からだを器用に動かす練習をする。	30 分 70 分
第8回	身体活動を見直そう	事前 からだを動かし体調の確認をする。 事後 いろいろな動きにチャレンジする。	20 分 80 分
第9回	身体活動を見直そう（応用編）	事前 からだを動かし体調の確認をする。 事後 複雑からだの動きにチャレンジをする。	20 分 80 分
第10回	バランスのとれた運動を体験しよう	事前 ストレッチを入れた準備運動・体操を行う。 事後 バランスのとれた運動をチャレンジする。	30 分 70 分
第11回	バランスのとれた運動を工夫してみよう	事前 ストレッチを入れた準備運動・体操を行う。 事後 バランスのとれた運動を実践する。	30 分 70 分
第12回	身近な用具を使って動いてみよう	事前 からだを動かし体調の確認をする。 事後 身近な用具をいかした運動を実践する。	20 分 80 分
第13回	身近な用具を使って動いてみよう（応用編）	事前 からだを動かし体調の確認をする。 事後 身近な用具をいかした運動を工夫する。	20 分 80 分
第14回	体力づくりのための運動を考えてみよう	事前 全身運動を取り入れた準備運動・体操を行う。 事後 有酸素運動を取り入れることを心がける。	20 分 80 分
第15回	まとめ	事前 全身運動を取り入れた準備運動・体操を行う。 事後 有酸素運動と筋力トレーニングを取り入れることを心がける。	20 分 80 分

フィードバック 授業での課題やレポートについて添削やコメントで学修成果をフィードバックする。

成績評価 実技 50%、態度 20%、提出物 30%とし総合的に判断する。

テキスト 必要に応じて、資料を配布する。

オフィスアワー 授業前後に教室にて。

- 備考
- ・集中での体育実技になる為、事前事後学習の詳細は授業内で説明を受けること。
 - ・必ず運動着、運動靴を着用すること。
 - ・運動制限のある学生は授業で申し出ること。
 - ・忘れ物をした場合、体調不良等で見学をしたい学生は授業開始前に連絡し指示を受けること。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・目的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>

体育実技-2

※教育職員免許状取得に関わる科目

非常勤講師 荒金幸子

科目コード：PHY103

対象コース／専門／学年：全コース／全専門／1 年次

形態：実技

単位数：1 単位

概要 健康な体づくりに必要な運動とは何か、仲間とともに工夫しながら学びつくりあげる時間である。

到達目標 生涯にわたって健康な体づくりと運動やスポーツに親しむ態度、能力を身につける。

授業計画 「健康づくりと運動文化を楽しむ」

第 1 回	運動用具の特徴をいかして動こう	事前 からだを動かし体調の確認をする。 事後 運動用具の使い方を見直し工夫する。	10 分 90 分
第 2 回	多様な動きを楽しもう	事前 からだを動かし体調の確認をする。 事後 自由に大きくすみずみまで動くことにチャレンジする。	10 分 90 分
第 3 回	ボールに慣れよう	事前 体調の確認とボール運動に必要な準備運動・体操を行う。 事後 使った部分を中心にケアする。	50 分 50 分
第 4 回	ボールを使って動いてみよう	事前 体調の確認とボール運動に必要な準備運動・体操を行う。 事後 みんなで楽しめるボールゲームを提案できるようにする。全身がリラックスできる体操を行う。	50 分 50 分
第 5 回	みんなで楽しめるボールゲームを考えよう	事前 ボールゲームに必要な準備運動・体操を行う。 事後 全身がリラックスできる体操を行う。	50 分 50 分
第 6 回	縄を使って動いてみよう (一人で)	事前 縄跳びに必要な準備運動・体操を行う。 事後 疲労が感じられる部分をケアする。	30 分 70 分
第 7 回	縄を使って動いてみよう (みんなで)	事前 自分に必要な準備運動・体操を行う。 事後 みんなで楽しめる跳び方を考える。使った部分を中心にケアする。	10 分 90 分
第 8 回	リズム縄跳びにチャレンジしてみよう	事前 自分に必要な準備運動・体操を行う。 事後 リズムに合わせて跳ぶようにする。疲労が感じられる部分をケアする。	30 分 70 分
第 9 回	リズム縄跳びを工夫してみよう	事前 自分に必要な準備運動・体操を行う。リズムに合わせて跳ぶ練習をする。 事後 リズムを楽しみながら跳べるようにする。使った部分を中心にケアする。	30 分 70 分
第 10 回	ニューススポーツを楽しもう (基本編)	事前 ニューススポーツとは何か、どんな種目があるか調べる。細かな部分準備運動・体操を取り入れる。 事後 ニューススポーツのルールを理解し応用できるようにする。使った部分を中心に整理運動を行う。	50 分 50 分
第 11 回	ニューススポーツを楽しもう (応用編)	事前 ニューススポーツのルールを確認する。使う主な部分の準備運動・体操を行う。 事後 ルールを変えて楽しめる方法を考える。疲労が感じられる部分をケアする。	50 分 50 分
第 12 回	ひと工夫した運動・ゲームを考えよう	事前 体調の確認と準備運動・体操を行う。 事後 楽しかった運動・ゲームをふりかえる。疲労が感じられる部分をケアする。	20 分 80 分
第 13 回	ひと工夫した運動会を企画しよう	事前 運動・ゲームに必要な準備運動・体操を取り入れ行う。 事後 楽しく競る内容と方法であるかを確認する。疲労が感じられる部分をケアする。	20 分 80 分
第 14 回	運動会を楽しもう	事前 運動会種目に合わせた準備運動・体操を行う。 事後 疲労が感じられる部分をケアする。	50 分 50 分
第 15 回	まとめ	事前 自分に必要な準備運動・体操を行う。 事後 自分に必要な整理運動・体操を行う。	50 分 50 分

フィードバック 授業での課題やレポートについて添削やコメントで学修成果をフィードバックする。

成績評価 実技 50%、態度 20%、提出物 30%とし総合的に判断する。

テキスト 必要に応じて、資料を配布する。

オフィスアワー 授業前後に教室にて。

- 備考
- ・集中での体育実技になる為、事前事後学習の詳細は授業内で説明を受けること。
 - ・必ず運動着、運動靴を着用すること。
 - ・運動制限のある学生は授業で申し出ること。
 - ・忘れ物をした場合、体調不良等で見学をしたい学生は授業開始前に連絡し指示を受けること。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性							
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発働能力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲	
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	

音楽療法概論

特任教授 星野悦子

科目コード：NAT108

対象コース／専門／学年：全コース／全専門／1～4年次

形態：講義	単位数：2単位
概要	音楽療法は、音楽の特性や機能を活用して、種々の音楽活動形態を意図的・計画的に用いることにより、心身の疾病・障害のある人々がその固有の健康上の問題に取り組むのを援助する。本講義では、音楽が子ども、成人、高齢者の心理・身体に与える影響を知り、その治療理論と方法を学ぶ。さらに、そのメカニズムがどこまで科学的に解明されたかについての最新知見を含めた全般を講じていく。
到達目標	音楽は人間の心と身体に様々な影響を与え、私たちの健康にポジティブな癒しの効果をもたらす媒体である。本講義では、音楽療法について、その歴史、治療理論、最新の研究成果までを広く概観し、その全体像を把握することを目的とする。

授業計画		
第1回	オリエンテーション～音楽療法の意味と定義	事前 教科書の「はじめに」を読む 事後 授業ノートを見直す 140分
第2回	音楽療法の対象と目的	事前 教科書第1章を読む 140分 事後 授業ノートを見直しておく 140分
第3回	音楽療法の歴史（1）～古代から中世まで～	事前 教科書第2章前半を読む 140分 事後 授業ノートを見直しておく 140分
第4回	音楽療法の歴史（2）～ルネサンスから近代まで～	事前 プリント1を読む 140分 事後 授業ノートを見直しておく 140分
第5回	音楽療法の歴史（3）～米国と日本における歴史～	事前 教科書第2章後半を読む 140分 事後 授業ノートを見直しておく 140分
第6回	音楽療法の原理～同質から異質へ～	事前 教科書第4章を読む 140分 事後 授業ノートを見直しておく 140分
第7回	音楽療法の治療理論（1）～医学モデル、精神分析モデル～	事前 プリント2を読む 140分 事後 授業ノートを見直しておく 140分
第8回	音楽療法の治療理論（2）～行動療法モデル、人間主義の心理学モデル～	事前 プリント3を読む 140分 事後 授業ノートを見直しておく 140分
第9回	音楽療法の実践紹介（1）～幼児、児童、思春期の領域～	事前 教科書第5章1～2節を読む 140分 事後 授業ノートを見直しておく 140分
第10回	音楽療法の実践紹介（2）～成人、高齢者の領域～	事前 教科書第5章3～4節を読む 140分 事後 授業ノートを見直しておく 140分
第11回	音楽と生理機能	事前 教科書第3章1節を読む 140分 事後 授業ノートを見直しておく 140分
第12回	音楽と心理機能・感情機能	事前 教科書第3章2節を読む 140分 事後 授業ノートを見直しておく 140分
第13回	現代人の生活と音楽療法	事前 教科書第6章を読む 140分 事後 授業ノートを見直しておく 140分
第14回	音楽療法士という職業	事前 教科書第7章を読む 140分 事後 授業ノートを見直しておく 140分
第15回	まとめ	事前 教科書全体を見直す 140分 事後 試験の解答をチェックしふりかえる 140分

フィードバック 授業での課題・ミニレポートなどについて添削・コメントで学修成果をフィードバックする。

成績評価 試験成績と受講態度とを総合しておこなう。試験成績 70%、受講態度 30%。

テキスト 村井靖児（著）『音楽療法の基礎』音楽之友社
その他、必要に応じてプリントを配布する。

オフィスアワー 授業終了後の教室にて、および指定曜日の研究室にて対応する。

備考 音楽の神アポロンの子が医神アスクレピオスであった。
音楽は始まりからすでに“癒し”的な出自をもつようである。音楽のもつ多様なパワーと治療的作用を学ぶ場になりたい。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性							
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・目的発働能力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲	
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>						

和楽器研究：箏／日本の伝統的な歌唱研究：箏歌

※「合唱Ⅰ」および「ピアノ伴奏法B」（ピアノ専門においては「ピアノ伴奏法A」）を履修のこと。

※教育職員免許状取得に関わる科目

客員教授 深海さとみ

科目コード：SCH305／SCH306

コース／専門／学年：全コース／全専門／3年次

形態：実技

単位数：伴奏法B（伴奏法A）、合唱の単位に含む

概要 テキスト『箏エチュード』を用いて、毎回準備運動から始め、呼吸・身体の使い方、構え、調弦などの基礎事項の習熟を目指しながら、特に音楽授業で教材として用いられている《さくらさくら》と《六段の調べ》の演奏を中心に知識と技能を身に付けていく。

到達目標 学習指導要領に示された和楽器を用いた授業実践を行うために必要な和楽器演奏の技能を、息や身体の使い方、唱歌を用いた具体的な指導法など、指導上のポイントを身に付けながら箏を用いた学習指導の技能を中心に身に付ける。

授業計画

第1回	上半身の力を抜き、箏を楽に弾くための準備運動。爪の選び方。構え方。	事前 『箏エチュード』を購入し、一通り目を通してくる 事後 『箏エチュード』 p.4～p.25 を熟読し、身体の使い方を復習する。	120分 130分
第2回	準備運動。構え方の演習。調弦を正確に素早くとる。	事前 『箏エチュード』 p.26～p.29 を読み、予習をしてくる。 事後 エア箏で、調弦の取り方を復習し、身に付けてくる。	120分 130分
第3回	準備運動。箏に馴れる。箏に向かう姿勢を身に付ける。《さくらさくら》の演奏。	事前 『箏エチュード』 p.30～p.31 を読んでくる。 事後 エア箏で、調弦と《さくらさくら》の演奏を復習する。	120分 130分
第4回	準備運動。箏に馴れる。呼吸と身体の使い方。親指で下降、人差し指・中指で上行。	事前 『箏エチュード』 p.32～p.41 を読み、予習をしてくる。 事後 エア箏で、調弦、人差し指、中指の使い方を呼吸と身体の使い方に気を付けて復習する。	120分 130分
第5回	準備運動。箏に馴れる。口唱歌と共に《さくらさくら》のバリエーションを学ぶ。	事前 『箏エチュード』 p.42～p.61 を読み、予習をしてくる。 事後 エア箏で、《さくらさくら》のバリエーションを唱歌（しようが）を歌いながら演奏してくる。	120分 130分
第6回	準備運動。《六段の調》初段の冒頭部分。息と身体を使って弾く。引き色、押し手。	事前 『箏エチュード』 p.62～73 を読み、予習をしてくる。 事後 《六段の調》の初段冒頭部分を、唱歌を歌いながらエア箏で弾いてくる。	120分 130分
第7回	準備運動。《六段の調》初段の演奏を通して、授業で生徒に気付かせたいポイントを学ぶ。	事前 『箏エチュード』 p.74～p.116 まで読み、予習をしてくる。 事後 《六段の調》の初段を、唱歌を歌いながらエア箏で演奏してくる。	120分 130分
第8回	発表会 《さくらさくら》《六段の調》初段のいづれかを選んで独奏する。	事前 《さくらさくら》または《六段の調》の初段を、暗譜でエア箏で唱歌を歌いながら弾けるようにする。 事後 『箏エチュード』をもう一度、読み直し、重要などところにアンダーラインを引く。	120分 130分

フィードバック 授業中に適宜、演奏技能や身体の使い方等について本人に直接指導する。また、発表会での演奏に対しても助言を行う。

成績評価 毎回の授業に向かう姿勢（40％） 発表会での演奏の内容（60％）

テキスト 『箏エチュード』 深海さとみ 邦楽ジャーナル
参考書・参考資料等 中学校学習指導要領解説書音楽編 中学校音楽教科書

オフィスアワー 授業の前後

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	

音楽科教育法 I

※教育職員免許状取得に関わる科目

短期大学部教授 内田有一

科目コード：SCH102

対象コース／専門／学年：全コース／全専門／2年次（H30年度以前入学生）・1年次（H31年度以降入学生）

形態：講義

単位数：2単位

概要 音楽科教育の理念や目的を理解し、今日的な学力観に基づいた授業を実践できるように、教材研究の方法、指導案作成の方法、指導案を具現化するための教育技術について学ぶ。それらを模擬授業で具現化し、批評したり、学生相互に批評することで授業を観る目を育てる。

到達目標 この科目では、音楽科の授業における実践力を獲得するために必要な知識、教育技術についてその基礎を習得する。

授業計画

第1回	音楽科教育の理念と目的（世界の音楽教育のとの比較を通して）	事前 教科書「中学校の音楽1」「中学校の音楽2・3上、下」の全てに目を通してくる。 事後 講義で配付する資料を読み、日本の音楽科教育の理念と目的を理解する。	160分 140分
第2回	中学習指導要領の変遷と学力観	事前 新中学校学習指導要領音楽編を読んでくる。 事後 新中学校学習指導要領解説音楽編をもう一度読み、理解を深める。	160分 140分
第3回	歌唱指導における主体的・対話的・深い学びの具体	事前 教科書「中学校の音楽1」「中学校の音楽2・3上、下」における歌唱教材を歌っておく。 事後 講義で配付した資料を基に歌唱指導における深い学びについて自己の考えをまとめる。	160分 140分
第4回	器楽指導における主体的・対話的・深い学びの具体	事前 教科書「中学校の器楽」におけるリコーダー曲を吹いておく。 事後 講義で配付した資料を基に器楽指導における深い学びについて自己の考えをまとめる。	160分 140分
第5回	鑑賞指導における主体的・対話的・深い学びの具体	事前 教科書「中学校の音楽1」「中学校の音楽2・3上、下」から一曲鑑賞教材を選び、聴いておく。 事後 講義で配付した資料を基に鑑賞指導における深い学びについて自己の考えをまとめる。	160分 140分
第6回	創作指導における主体的・対話的・深い学びの具体	事前 教科書「中学校の音楽1」「中学校の音楽2・3上、下」にある創作教材について理解しておく。 事後 講義で配付した資料を基に創作指導における深い学びについて自己の考えをまとめる。	160分 140分
第7回	評価規準と評価の具体	事前 第6回で配付する評価規準表を読み、音楽科の評価規準を把握しておく。 事後 講義における評価の具体について自己の考えをまとめる。	160分 140分
第8回	教材研究の方法	事前 混声合唱「夢の世界を」、鑑賞「交響曲第5番ハ短調1楽章」の教材性について考えておく。 事後 自己が選んだ教材について分析し、教材観、指導観をまとめる。	160分 140分
第9回	教材研究に基づく指導案作成の方法	事前 学生自身の教材分析から、指導の中心事項を整理しておく。 事後 講義内容を踏まえて指導案のアイデアを練り上げる。	160分 140分
第10回	指導案の作成実習及び批評	事前 指導案のアイデアから、具体的な柱立てをしておく。 事後 講義における指導案検討を踏まえ、指導案を練り上げる。	160分 140分
第11回	指導案を具現化するための教育技術	事前 講義で配付する「授業の10カ条」を読んでおく。 事後 自己の指導案と関連する教育技術についてまとめておく。	160分 140分
第12回	模擬授業とその批評	事前 発問、指示を具体的に考え練習する。 事後 授業批評に基づき、自己の指導を振り返る。	160分 140分
第13回	模擬授業と学生による相互批評	事前 振り返りを通して、指導案を練り上げる。 事後 相互批評を通して把握した課題についてまとめる。	160分 140分
第14回	優れた授業の条件	事前 事前に配付する指導案を読み、優れた点についてまとめておく。 事後 討論を通して優れた授業の条件について考察する。	160分 140分
第15回	振り返りと教育技術に関するまとめ	事前 優れた授業を支える教育技術について、講義資料を基に考えておく。 事後 指導案構成力及び教育技術の習得について今後の見直しをもつ。	160分 140分

フィードバック 小レポート、指導案の添削、批評を通して学修者にフィードバックを行う。

成績評価 レポート評価（70%）、模擬授業の評価（10%）、授業への取組（20%）

テキスト 『中学校学習指導要領解説音楽編』『中学校の音楽1』『中学校の音楽2・3上』『中学生の器楽』（教育芸術社）
参考書・参考資料 必要に応じて配付する。

オフィスアワー 授業開始前又は授業終了後 教室にて もしくはEメールにて相談の上、対応する。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経歴・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲	
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>					

音楽科教育法Ⅱ

※教育職員免許状取得に関わる科目

教授 山内雅子

科目コード：SCH204

対象コース／専門／学年： 全コース／全専門／2 年次

形態：講義

単位数：2 単位

概要 学習指導要領の内容に基づいて、中・高等学校の音楽の授業を適切に行うために必要な指導法を身に付け、実践的な力を養う。受講する全学生が模擬授業を行い、他の学生は、生徒役になり生徒の目線で模擬授業を評価する。領域は、学習指導要領に示される歌唱・器楽・鑑賞・創作の全領域を扱う。

到達目標 本講座を受講した学生が、中学校・高等学校（小学校の音楽専科教員も含む）の教員として、中・高等学校の音楽の授業を適切に行うために必要な理論的・実践的な力を育み、指導法を身に付けることを目標とする。

授業計画

【AL】

回数	授業の目的、内容、進め方、評価について	事前	事後	時間
第1回	授業の目的、内容、進め方、評価について 模擬授業の分担計画。	中学校学習指導要領解説 音楽編 P1-P8 を読む。	中学校学習指導要領解説 音楽編 p10-p.20 を読み、理解を深める。	160分 110分
第2回	師範授業 学習指導要領との関わり 主体的・対話的で深い学びのある授業について	中学校の音楽教科書を購入し、一通り目を通してくる。	中学校学習指導要領解説 音楽編 p.21-p.34 を読み、理解を深める。	160分 110分
第3回	歌唱の模擬授業とその検討 歌唱共通教材「浜辺の歌」	中学校学習指導要領解説 音楽編 P35-P42 を読む。	中学校学習指導要領解説 音楽編の「浜辺の歌」の指導に関連する箇所を読み、理解を深める。	160分 110分
第4回	歌唱の模擬授業とその検討 歌唱共通教材「花」	中学校学習指導要領解説 音楽編 P65-P71 を読む。	中学校学習指導要領解説 音楽編の「花」の指導に関連する箇所を読み、理解を深める。	160分 110分
第5回	歌唱の授業とその検討 歌唱共通教材「夏の思い出」	中学校学習指導要領解説 音楽編 P71-P81 を読む。	中学校学習指導要領解説 音楽編の「夏の思い出」の指導に関連する箇所を読み、理解を深める。	160分 110分
第6回	歌唱の授業とその検討 高等学校「Car mio ben」	中学校学習指導要領解説 音楽編 P90-P115 を読む。	高等学校学習指導要領解説 芸術編の「Car mio ben」の指導に関連する箇所を読み、理解を深める。	160分 110分
第7回	歌唱の授業とその検討 高等学校「Heiden roslein」シューベルト&ヴェルナー	高等学校学習指導要領解説 芸術編の指定された箇所を読む。(資料配布)	高等学校学習指導要領解説 芸術編の指定された箇所を読み、理解を深める。(資料配布)	160分 110分
第8回	鑑賞の授業とその検討 中学校「春 第一楽章」	中学校学習指導要領解説 音楽編 P.55-P.58 を読む。	中学校学習指導要領解説 音楽編の鑑賞の指導に関連する箇所を読み、理解を深める。	160分 110分
第9回	鑑賞の授業とその検討 中学校「魔王」	中学校学習指導要領解説 音楽編 P.59-P.62 を読む。	中学校学習指導要領解説 音楽編 P.59-P.62 をもう一度読み、理解を深める。	160分 110分
第10回	鑑賞と歌唱表現と三味線伴奏の模擬授業「ソーラン節」	中学校学習指導要領解説 音楽編 P.82-P.89 を読む。	中学校学習指導要領解説 音楽編 P.82-P.89 をもう一度読み、理解を深める。	160分 110分
第11回	鑑賞と歌唱表現と口唱歌の模擬授業「長唄・勸進帳」	中学校学習指導要領解説 音楽編 P.43-P.47 を読む。	中学校学習指導要領解説 音楽編 P.110-P.142 をもう一度読み、理解を深める。	160分 110分
第12回	鑑賞の模擬授業とその検討「ブルダバ（モルダウ）」	中学校学習指導要領解説 音楽編 P.82-P.87 を読む。	中学校学習指導要領解説 音楽編 P.82-P.87 をもう一度読み、理解を深める。	160分 110分
第13回	鑑賞の模擬授業とその検討「アジアの諸民族の音楽」	中学校学習指導要領解説 音楽編 P49-P54 を読む。	中学校学習指導要領解説 音楽編 p76-p.81 を読んで理解を深める。	160分 110分
第14回	創作の模擬授業とその検討「野菜の気持ち」を基に	中学校学習指導要領解説 音楽編 P35-P64 を読む。	中学校学習指導要領解説 音楽編 p76-p.81 を読み、理解を深める。	160分 110分
第15回	授業の振り返り まとめ	教員になったらぜひ取り組んでみたい教材について教材研究をしてくる。	模擬授業とその検討を基に、音楽科授業を行う上で大切なことをレポートにまとめる。(提出)	160分 110分

フィードバック 毎時間、参観者カード、授業者振り返りカードを提出し、コメントを記して返却すると共に、全員が共有すべき課題や、特質すべきポイントがあった場合は、授業内、或いは次時の模擬授業前に振り返る。

成績評価 レポートと授業の振り返りメモ（50%） 模擬授業の内容（30%） 最終レポート（20%）

テキスト 中学校学習指導要領解説 音楽編（平成29年）
中学生の音楽1（教育芸術社）
中学生の音楽2・3上（教育芸術社）
中学生の音楽2・3下（教育芸術社）
中学生の器楽（教育芸術社）
その他必要に応じてプリントを配布する

オフィスアワー 授業開始前又は授業終了後 教室にて もしくは E メールにて相談の上、対応する。 masako.yamauchi@uenogakuen.ac.jp

備考 模擬授業担当者に対して、本人が希望した場合は、事前に教材研究と授業の組み立て等について、別途時間を設けて指導する。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・目的意識の発現力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	

音楽科教育法Ⅲ

※教育職員免許状取得に関わる科目

教授 山内雅子

科目コード：SCH301

対象コース／専門／学年： 全コース／全専門／3 年次

形態：講義

単位数：2 単位

概要 この科目は、音楽科教育法ⅠならびにⅡで学んだ音楽科教育の理論と実践について、特に和楽器を用いた授業の内容を更に深め、発展的な授業を展開できる力を養う。40名の生徒を前に、どのような手立てをとり、どのように展開したら、適切に和楽器の技能を身に付け、日本の伝統音楽のよさを感じとらせる授業を行うことができるかを検討し、模擬授業を通して検証する。

到達目標 箏と三味線の調弦を短時間で的確に行うと共に、実際に箏・三味線・伝統的歌唱の授業を行うためのスキルを身に付けることを目標とする。

授業計画			【AL】		
第1回	オリエンテーション 箏の楽器の扱い方と授業準備について わらべうたのアンサンブル	事前 中学校学習指導要領解説音楽編 p.1-p16を読む。 事後 授業で学んだ内容をノートにわかりやすくまとめる。	160分	110分	
第2回	「さくらさくら」「六段の調べ」の授業を行うために必要な平調子の調弦法を理解。指導に必要な箏の基本的な奏法の理解。	事前 中学校学習指導要領解説音楽編 p.17-p.34を読む。 事後 授業で学んだ内容をノートにわかりやすくまとめる。	160分	110分	
第3回	箏の導入授業の指導法の検討。「さくらさくら」の授業の実際。	事前 中学校学習指導要領解説音楽編 p.35-p.64を読む。 事後 授業で学んだ内容をノートにわかりやすくまとめる。	160分	110分	
第4回	箏を用いた創作の授業について。5音階を生かした旋律の創作を中心に。	事前 中学校学習指導要領解説書音楽編 p.65-p.89を読む。 事後 授業で学んだ内容をノートにわかりやすくまとめる。	160分	110分	
第5回	箏を用いた創作の授業について。自由な発想で表現を工夫する授業の検討。	事前 中学校学習指導要領解説音楽編 p.90-p.117を読む。 事後 授業で学んだ内容をノートにわかりやすくまとめる。	160分	110分	
第6回	「六段の調べ」の鑑賞の授業に、箏の実技をどう取り入れるかの検討。	事前 中学校教科書「六段の調べ」の頁を読む。 事後 授業で学んだ内容をノートにわかりやすくまとめる。	160分	110分	
第7回	箏を用いた模擬授業。何を身に付け、何をを感じとらせるかを明確にした授業実践。	事前 これまでの配布物とノートの復習をし、授業メモを作成する。 事後 授業で学んだ内容をノートにわかりやすくまとめる。	160分	110分	
第8回	現代邦楽の授業の実際 「百花繚乱」の授業実践。	事前 現代邦楽をYouTube等で3曲以上聴いてくる。 事後 授業で学んだ内容をノートにわかりやすくまとめる。	160分	110分	
第9回	三味線の扱い方と授業準備について 三味線の調弦の理解。指導に必要な三味線の基本的な奏法の理解。	事前 中学校教科書の三味線の頁を読む。 事後 授業で学んだ内容をノートにわかりやすくまとめる。	160分	110分	
第10回	三味線の導入授業の指導法の検討。「こきりこ節」の授業の実際。	事前 「こきりこ節」の演奏をYouTubeで3種類以上、視聴し、教材研究をする。 事後 授業で学んだ内容をノートにわかりやすくまとめる。	160分	110分	
第11回	民謡「ソーラン節」の授業に必要な三味線の技能の習得。	事前 「ソーラン節」の演奏をYouTubeで3種類以上、視聴し、教材研究をする。 事後 授業で学んだ内容をノートにわかりやすくまとめる。	160分	110分	
第12回	長唄の授業の実際。口唱歌を用いた、長唄『勸進帳』寄せの合方の指導法。	事前 中学校教科書の長唄『勸進帳』の頁を読む。 事後 授業で学んだ内容をノートにわかりやすくまとめる。	160分	110分	
第13回	長唄の授業の実際。長唄『勸進帳』『これやこの～』の唄の伴奏の理解。	事前 長唄『勸進帳』の寄せの合方を、唱歌とエア三味線で演奏する。 事後 授業で学んだ内容をノートにわかりやすくまとめる。	160分	110分	
第14回	太棹三味線を知る。津軽三味線、文楽の義太夫三味線の理解と疑似体験。	事前 細竿・中竿・太棹三味線について、ネットや文献で調べる。 事後 授業で学んだ内容をノートにわかりやすくまとめる。	160分	110分	
第15回	まとめ（演奏発表）	事前 演奏発表に向けて準備 事後 授業で学んだ内容をノートにわかりやすくまとめる。	160分	110分	

フィードバック 教員になった時に実際に和楽器を用いた授業づくりのバイブルとなるよう、本授業用のファイルとノートを用意し、毎時間の授業で学んだ具体的な指導法や和楽器演奏のポイントを授業後ノートに整理して、わかりやすくまとめる。このノートは、定期的に回収し、助言や評価のコメントを指導者が記入する。

成績評価 演奏発表：日本の伝統音楽の授業を行うために必要な和楽器の指導法を理解し、指導に必要な和楽器演奏の実技を身に付けたか（50%）。まとめのノート：その日の授業で学んだことや考えたことを適切にまとめているか（30%）。 授業態度：楽器の準備や片付けを含め、主体的に参加しているか（20%）。

テキスト 中学校学習指導要領解説 音楽編 平成 29 年
中学生の音楽 1 (教育芸術社)
中学生の音楽 2・3 上 (教育芸術社)
中学生の音楽 2・3 下 (教育芸術社)
中学生の器楽 (教育芸術社)
その他必要に応じてプリントを配布する。

オフィスアワー 授業開始前又は授業終了後 教室にて もしくは E メールにて相談の上、対応する。 masako.yamauchi@uenogakuen.ac.jp

備考 中学校・高等学校の音楽授業で必修となっている和楽器の指導法を身に付けるために、毎回和楽器の実技を伴って学修を進める。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解				知識・技能の活用						意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>													

音楽科教育法Ⅳ

※教育職員免許状取得に関わる科目

短期大学部教授 内田有一

科目コード：SCH303

対象コース／専門／学年：全コース／全専門／3 年次生

形態：講義

単位数：2 単位

概要 創作（表現）、鑑賞の目的を理解し、教材研究の方法、指導案作成の方法、指導案を具現化するための教育技術について学ぶ。

到達目標 この科目では、受講者が音楽科教育法Ⅰ、Ⅱ、Ⅲで学んだことを踏まえ、創作（表現）と鑑賞に関する指導方法を習得する。

授業計画

第 1 回	創作学習の目的と方法	事前 新中学校学習指導要領解説音楽編の創作について読んでおく。 事後 講義で把握した創作学習の様々な方法についてまとめる。	160 分 110 分
第 2 回	古川のふしづくりと創作学習	事前 事前に配付された古川のふしづくりの資料を読んでおく。 事後 講義を通して音楽的能力の形成と創作学習について考察する。	160 分 110 分
第 3 回	指導要領アにおける創作指導の具体	事前 新学習指導要領における創作アの部分を読んでおく。 事後 講義を通して理解した、旋律創作指導方法について自己の考察を行う。	160 分 110 分
第 4 回	指導要領イにおける創作指導の具体	事前 新学習指導要領における創作イの部分を読んでおく。 事後 講義を通して理解した音楽の構造に基づく創作指導方法について自己の考察を行う。	160 分 110 分
第 5 回	創作学習の教材研究と指導案作成	事前 創作アに関する教材分析をしておく。 事後 講義における相互批評を基に指導案を練り上げる。	160 分 110 分
第 6 回	創作学習の模擬授業と批評、相互批評	事前 自己の指導案を具現化するための発問、指示を考える。 事後 批評を通して自己の模擬授業を振り返る。	160 分 110 分
第 7 回	優れた創作学習の条件	事前 事前に配付する資料を基に優れた創作授業の具体を理解しておく。 事後 講義を通して理解した優れた創作授業の原理をまとめる。	160 分 110 分
第 8 回	鑑賞学習の目的と方法	事前 新中学校学習指導要領解説音楽編の鑑賞について読んでおく。 事後 講義を通して理解した鑑賞の目的と方法についてまとめる。	160 分 110 分
第 9 回	音楽の諸要素の知覚・感受と批評	事前 事前に配付する批評文（生徒による）を読んでおく。 事後 自己が選択した楽曲を鑑賞し、批評文を書く。	160 分 110 分
第 10 回	音楽の構造に着目した鑑賞指導と評価の具体	事前 事前に指示する楽曲の構造を分析しておく。 事後 音楽の構造と曲想の視点から講義を通して理解した指導方法について考察をする。	160 分 110 分
第 11 回	楽曲の背景と関連した鑑賞指導と評価の具体	事前 事前に指示する楽曲の背景を調べておく。 事後 楽曲の背景と関連した視点から講義を通して理解した指導方法について考察をする。	160 分 110 分
第 12 回	生活や社会における音楽の意味に着目した鑑賞指導と評価の具体	事前 自己の生活にとって意味のある楽曲を選んでおく。 事後 自己が選んだ楽曲の生活や社会における意味を考える。	160 分 110 分
第 13 回	鑑賞の教材研究と指導案作成	事前 指定した教材から一つ選び、楽曲分析をしておく。 事後 講義の中で作成した指導案をもう一度寝入り上げる。	160 分 110 分
第 14 回	鑑賞の模擬授業と批評、相互批評	事前 指導案を基に模擬授業のための発問、指示を考える。 事後 批評を通して、自己の模擬授業の振り返りをする。	160 分 110 分
第 15 回	振り返りとまとめ	事前 自己の模擬授業の反省点をまとめておく。 事後 振り返りを通して、鑑賞における授業力の習得の見直しをもつ。	160 分 110 分

フィードバック 小レポート、模擬授業批評を通して学修者にフィードバックする。

成績評価 レポート評価（70%）、模擬授業の評価（10%）、授業への取組（20%）

テキスト 『中学校学習指導要領解説音楽編』『中学校の音楽 1』『中学校の音楽 2・3 上』（教育芸術社）
参考書・参考資料 必要に応じて配付する。

オフィスアワー 授業開始前又は授業終了後 教室にて もしくは E メールにて相談の上、対応する。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	授業スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲	
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>					

教育原理

※教育職員免許状取得に関する科目 ※社会教育主事育成に関する科目

准教授 田中里佳

科目コード：SCH104

対象コース／専門／学年：全コース／全専門／2 年次（平成 30 年度以前入学生）・1 年次（平成 31 年度以降入学生）

形態：講義 単位数：2 単位

概要 本授業は、教育の意味や目的、教育家の思想などについて幅広く学ぶものである。日頃正しいと信じている教育的立場や方法が、いかなる背景を伴って定着したものなのかを知った上で、改めてその妥当性や可能性、課題について考えていく。

到達目標 教育の目的や理念ならびに西欧を中心とした欧米の教育史や教育思想などに関する理解を通して、今後、これまでの教育や学校の捉えられ方を振り返りつつ、自分の立場や教育的理念をもって指導案の作成や授業の実践ができるようになるべく、基礎的な知識を身につける。

授業計画 本授業は教育の理念並びに教育に関する歴史および思想に関する基礎的な知識を習得するものである。教育とは何か、またその基盤となる理念や思想はどのようなものであり、また、それらが実際の教育にどのように結びついてきたのかを、歴史を振り返ることを通じて考察する。現在までの教育を支えてきた理念や思想を知り、現在の教育について考える活動を通して、人間にとっての教育の意味や目的を分析、考察する視点を養う。

第 1 回	オリエンテーション 教育に関する現代的な課題	事前 教育に関する新聞記事などを探し、読んでおく 事後 テーマに沿って課題を仕上げる	180 分 100 分
第 2 回	教育とは何か	事前 資料を読み、別の立場の意見を考えてみる 事後 テーマに沿って課題を仕上げる	140 分 140 分
第 3 回	教育の意味と目的、目標	事前 資料を読んでおく 事後 テーマに沿って課題を仕上げる	180 分 100 分
第 4 回	教育を成り立たせる要素（1）家庭や教員との関わりから	事前 資料を読んでおく 事後 テーマに沿って課題を仕上げる	180 分 100 分
第 5 回	教育を成り立たせる要素（2）代表的な教育家の思想との関わりから	事前 資料を読んでおく 事後 テーマに沿って課題を仕上げる	180 分 100 分
第 6 回	教育と学習の場	事前 資料を読んでおく 事後 テーマに沿って課題を仕上げる	180 分 100 分
第 7 回	自己表現と教育	事前 資料を読んでおく 事後 テーマに沿って課題を仕上げる	180 分 100 分
第 8 回	教育の制度	事前 資料を読んでおく 事後 テーマに沿って課題を仕上げる	180 分 100 分
第 9 回	西洋の教育思想と学校の歴史（1）前近代の状況	事前 第 8 回までの内容を振り返っておく 事後 テーマに沿って課題を仕上げる	140 分 140 分
第 10 回	西洋の教育思想と学校の歴史（2）教育的関心の誕生	事前 資料を読んでおく 事後 テーマに沿って課題を仕上げる	180 分 100 分
第 11 回	西洋の教育思想と学校の歴史（3）近代公教育の形成と新教育の展開	事前 資料を読んでおく 事後 テーマに沿って課題を仕上げる	180 分 100 分
第 12 回	日本の教育思想と学校の歴史（1）前近代の状況	事前 9 回から 11 回の内容を振り返っておく 事後 西洋の教育思想、学校の歴史との関連、違いを整理して理解しておく	180 分 100 分
第 13 回	日本の教育思想と学校の歴史（2）近代公教育の形成	事前 課題に沿ってレポートのテーマを考えておく 事後 授業内容を振り返り、レポートの執筆を始める	100 分 180 分
第 14 回	日本の教育思想と学校の歴史（3）大正新教育運動の展開	事前 前回の授業内容を振り返っておく 事後 レポートの執筆を進める	100 分 180 分
第 15 回	授業内容の振り返り、今日的課題の検討とまとめ、レポート提出	事前 レポートを仕上げておく 事後 他の授業で学ぶ内容との関連を意識して考える	180 分 100 分

フィードバック 毎時間後にリフレクション・カードを配布する。そこで挙がった疑問や質問、新たな視点について、次回冒頭で取り上げたり、個別に対応したりして、フィードバックを図る。

成績評価 授業への取り組み（疑問、質問、考えたことなどについて、積極的に発言したり、リフレクション・カードに記したりしているか：50%）、レポート（授業内容を理解しているか、独自の視点から論じているか：50%）

テキスト 参考図書：中学校学習指導要領（平成 29 年 3 月告示 文部科学省）
高等学校学習指導要領（平成 30 年 3 月告示 文部科学省）
山崎準二 編著（2018）『教育原論』学文社
プリントも適宜配布する。

オフィスアワー 質問、相談には授業後に教室で随時対応する。

備考 1 回目の講義にて、用いる参考図書や授業の進め方について説明するので、必ず出席すること。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>

教職概論

※教育職員免許状取得に関わる科目

教授 山内雅子

科目コード：SCH101

対象コース／専門／学年：全コース／全専門／2 年次（H30 年度以前入学生）・1 年次（H31 年度以降入学生）

形態：講義

単位数：2 単位

概要 教職の意義、教員の使命と役割、サービスの厳正、教員に与えられた研修制度、並びにチーム学校の意義、教員としての人権意識、いじめ問題の対応、安全指導、アレルギー対策、保護者対応等について、毎回具体的な実際の事例を通して考える。ディベート等も適宜取り入れることで、学生一人一人が自分の問題として、深く考え、理解を深めていくようにする。

到達目標 本講義を通して、教職に就くことを目指す学生が、教職の意義、教員の使命と役割、サービスの厳正等について学び、教育職員として学校現場で勤務する心構えをもつことを目標とする。また教員に与えられた様々な研修制度や、チーム学校の意義、職務内容について理解することを到達目標とする。

授業計画

【AL】

第 1 回	ガイダンス 授業の目的、内容、進め方について 教職の職業的特徴の理解	事前 新聞やネット情報から読みとれる現代の教師像について語ることができるようにする。 事後 現代の教員を取り巻く環境や課題点について、ディスカッションを基に自分の捉え方をまとめる。	162 分 108 分
第 2 回	現代社会における教育の重要性 教員の存在意識と公教育の目的	事前 公教育の目的について、自分の考えをまとめる。 事後 現代社会における教育の重要性について、ディスカッションと配付資料に、自分の考えを深めまとめる。	162 分 108 分
第 3 回	学習指導要領の変遷と新学習指導要領 今日の我が国の学校教育の意義	事前 学習指導要領解説音楽編 総説を読み、重要と考えたところにアンダーラインをひいてくる。 事後 教員採用試験の過去問題の中から、学習指導要領の変遷に関する問題を解く。	162 分 108 分
第 4 回	チームで解決する諸問題 「いじめ対策」講義と討論	事前 事前に配布されたいじめ問題についての資料を読み、課題問題に取り組む 事後 討論を通して考えたことをもとに、いじめ対策についてまとめる。	162 分 108 分
第 5 回	チームで解決する諸問題 「発達障害を有する児童・生徒への対応」 講義と討論	事前 事前に配布された発達障害についての資料を読み、課題問題に取り組む。 事後 討論をもとに、教員として必要な発達障害についての基礎知識と対応をまとめる。	162 分 108 分
第 6 回	チームで解決する諸問題 「学力向上」 講義と討論	事前 生徒の学力を向上させるためにはどうしたらよいか、考えてくる。 事後 音楽科の学力とは何かを考え、音楽教師として学力向上のためにどう取り組むかをまとめる。	162 分 108 分
第 7 回	保健安全指導 ー生活安全・交通安全・災害安全・保健ー	事前 事前に配布された「東京防災」の資料を読んでくる。 事後 学校教育における安全指導を整理する。	162 分 108 分
第 8 回	専門家との連携 教師のマネジメント力	事前 これまでの学校教育の中で、専門家と連携した学びを振り返り、簡単にまとめる。 事後 教師に求められるマネジメント力について、自分の考えをまとめる。	162 分 108 分
第 9 回	地域との連携 地域の中の学校として果たす役割	事前 中学校学習指導要領解説音楽編 p.101-p.102 を読んでくる。 事後 公教育として、地域の中の学校として果たす役割について講義をもとにまとめる。	162 分 108 分
第 10 回	教員の服務上・身分上の義務 教育法規に照らして事例を検証	事前 事前配布資料を読んでくる。 事後 教員の服務上・身分上の義務に関する教員採用試験問題を解く。	162 分 108 分
第 11 回	教員の職務の全体像と、教員として必要な基礎的な資質能力の理解	事前 教員の一日に関する資料を読み、感想を述べられるよう準備する。 事後 教員の職務と資質に関して、教員採用試験問題を解く。	162 分 108 分
第 12 回	学校教育において、音楽教師が求められること	事前 学校教育の中で、教科教育を越えた音楽教師としての役割を考え、メモする。 事後 講義を受けて、音楽科だからこそできる学校づくりの夢をレポートにまとめる。	162 分 108 分
第 13 回	教員研修の意義と制度上の位置付け、並びに専門職としての責任	事前 東京都教育委員会のホームページを開き、どのような教員研修があるのかを調べる。 事後 なぜ、教員の研修が重要であるのかを、ディスカッションを基に自分の考えをまとめる。	162 分 108 分
第 14 回	学修の振り返りと小論文	事前 これまでの返却された振り返りシートに目を通してくる。 事後 中学校学習指導要領解説音楽編 総説を再度読む。	162 分 108 分
第 15 回	生徒から、保護者から、地域から信頼される教師像 小論文の振り返りとまとめ	事前 事前に配布された教師像についての資料を読み、課題問題に取り組む 事後 最終レポート課題を執筆する。	162 分 108 分

フィードバック 基本的に、課題を提示し、討論を真ん中に置きながら進めていく過程で、学生の意見の価値づけを行う。また、最終レポートはコメントを書き入れ、学生に返却する。

成績評価 授業態度：前向きに授業に参加し、意見を述べている（10%）。小レポート：授業で学んだことについて、自分の考えを盛り込んで適切にまとめている（40%）。最終レポート：教員としての使命と役割、サービスの厳正、喫緊の課題等について、正しい知識と自分なりの考えをもっている（50%）。以上を総合的に判断する。

テキスト

- ・中学校学習指導要領解説 音楽編 平成 29 年度版
- ・毎回、作成したプリントを配布して行う。

オフィスアワー 授業開始前又は授業終了後 教室にて もしくは E メールにて相談の上、対応する。 masako.yamauchi@uenogakuen.ac.jp

備考 新規採用教員が研修する内容、また教員が毎年行う研修内容を中心に、今教育現場で重要課題となっている事項についての講義を行う。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>					

教育社会学

※教育職員免許状取得に関わる科目

短期大学部講師 林直美

科目コード：SCH207

対象コース／専門／学年：全コース／全専門／3年次

形態：講義 単位数：2単位

概要 社会状況の変化が学校教育にもたらす影響や課題に対応するための教育政策の動向を把握する。そして、現代公教育制度に関する基礎的知識や、課題を明らかにする。そして、学校と地域との連携の意義や地域との協働の仕方について理解する。最後に学校の管理下で起こる事件、事故及び災害について学校保健安全法に基づく、危機管理を含む学校安全の目的と具体的な取組を考察する。

到達目標 現代の学校教育に関する社会的、制度的又は経営的事項のいずれかについて、基礎的な知識を身に付ける。また、学校と地域との連携に関する理解及び学校安全への対応に関する基礎的知識を身に付ける。

授業計画 グループワークやディベートを適宜取り入れて授業をすすめる。学生の主体的な参加を期待する。

【AL】

第1回	オリエンテーションー学校教育における課題についてー	事前 事後	学校教育における課題として何があるか考えておく。 授業内で提示された課題について資料を用いて取り組む。	100分 180分
第2回	学校を巡る近年の様々な状況の変化	事前 事後	配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。 授業内で提示された課題について資料を用いて取り組む。	140分 140分
第3回	子供の生活の変化を踏まえた指導上の課題	事前 事後	配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。 授業内で提示された課題について資料を用いて取り組む。	140分 140分
第4回	近年の教育政策の動向	事前 事後	配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。 授業内で提示された課題について資料を用いて取り組む。	140分 140分
第5回	公教育の原理及び理念	事前 事後	配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。 授業内で提示された課題について資料を用いて取り組む。	140分 140分
第6回	公教育制度を構成している教育関係法規	事前 事後	配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。 授業内で提示された課題について資料を用いて取り組む。	140分 140分
第7回	教育制度を支える教育行政の理念と仕組み	事前 事後	配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。 授業内で提示された課題について資料を用いて取り組む。	140分 140分
第8回	公教育の目的を実現するための学校経営の望むべき姿	事前 事後	配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。 授業内で提示された課題について資料を用いて取り組む。	140分 140分
第9回	学校における教育活動の年間の流れと学校評価の基礎理論ーPDCAの重要性ー	事前 事後	配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。 授業内で提示された課題について資料を用いて取り組む。	140分 140分
第10回	学級経営の仕組みと効果的な方法	事前 事後	配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。 授業内で提示された課題について資料を用いて取り組む。	140分 140分
第11回	教職員や学校外の関係者・関係機関との連携・協働の在り方や重要性	事前 事後	配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。 授業内で提示された課題について資料を用いて取り組む。	140分 140分
第12回	地域との連携・協働による学校教育活動の意義及び方法	事前 事後	配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。 授業内で提示された課題について資料を用いて取り組む。	140分 140分
第13回	地域との連携を基とする開かれた学校づくりが進められてきた経緯	事前 事後	配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。 授業内で提示された課題について資料を用いて取り組む。	140分 140分
第14回	危機管理や事故対応を含む学校安全の必要性 ー学校の管理下で発生する事件・事故及び災害の実情を踏まえてー	事前 事後	配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。 授業内で提示された課題について資料を用いて取り組む。	140分 140分
第15回	生活安全・交通安全・災害安全の各療育や我が国の学校をとりまく新たな安全上の課題 ー安全管理及び安全教育の両面からの具体的な取組ー	事前 事後	配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。 授業で配布された資料や各自のノートを整理し、ポイントをまとめる。	100分 180分

フィードバック 授業での課題やレポートについて、添削やコメントで学修成果をフィードバックする。

成績評価 定期試験（70%）、提出物の状況（20%）、授業への姿勢（10%）を目安に総合的に評価する。

テキスト 特になし
参考書・参考資料等
南本長穂・山田浩之『入門・子ども社会学』（2015）ミネルヴァ書房
岩井八郎他著『現代教育社会学』（2010）有斐閣
近藤博之・岩井八郎『教育の社会学』（2015）放送大学教育振興会

オフィスアワー 授業終了後、教室にて対応する。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>

教育心理学

※教育職員免許状に関する科目 ※社会教育主事育成に関する科目

特任教授 星野悦子

科目コード：SCH201

対象コース／専門／学年： 全コース／全専門／2 年次

形態：講義

単位数：2 単位

概要 教育心理学とは、教育の諸問題について心理学的に研究し、その研究成果から得られた有益な知見や技術を、教育活動に提供する科学である。本授業では、現在の教育心理学が取り組んでいる主要な問題について、それを裏付けている心理学的知識の解説を施しながら学習と理解を深め、教育実践への手掛かりを提供する。教育に関係する専門的内容の理解をはかると共に、幼児・児童・生徒の発達および人の生涯発達の様相とそれに対応できる社会教育、および社会全般への関心と視野を広げる機会としたい。

到達目標 幼児・児童・生徒の心身発達の代表的な理論、ならびに学習理論を二つの大きな柱とし、他にも学びのスタイルや効果的学習法、学習意欲や人格・個性の発達に関する基礎知識も身につける。

授業計画

第1回	オリエンテーション～教育心理学とはなにか～	事前 教科書まえがきを読む 事後 授業ノートの復習	20 分 60 分
第2回	教育の新しい動向、および発達における素質と環境	事前 教科書第1章の前半を読む 事後 授業ノートの復習	40 分 60 分
第3回	発達の理論 (1) ピアジェの認知発達モデル	事前 プリント1と教科書第1章後半を読む 事後 授業ノートの復習	40 分 60 分
第4回	発達の理論 (2) エリクソンの心理社会的発達モデル	事前 教科書第2章の前半P.20までを読む 事後 授業ノートの復習	40 分 60 分
第5回	人間の発達の概要：乳児期、幼児期	事前 教科書第2章のp.24以降を読む 事後 授業ノートの復習	40 分 60 分
第6回	人間の発達の概要：児童期、青年期	事前 教科書第2章の全体を見直す 事後 授業ノートの復習	40 分 60 分
第7回	人間の発達の概要：成人期（前期・中期・後期）	事前 プリント2前半を読む 事後 授業ノートの復習	40 分 60 分
第8回	中学生、高校生の心理と指導	事前 プリント2後半を読む 事後 授業ノートの復習	40 分 60 分
第9回	学ぶということ (1) 学習の原理・理論	事前 教科書第3章の第1節を読む 事後 授業ノートの復習	40 分 60 分
第10回	学ぶということ (2) 連合学習理論～条件づけ～	事前 教科書第3章第2節を読む 事後 授業ノートの復習	40 分 60 分
第11回	学ぶということ (3) 認知的学習理論～知識を学ぶ～	事前 教科書第3章第3節を読む 事後 授業ノートの復習	40 分 60 分
第12回	学ぶ意欲～動機づけ理論とその教育への応用～	事前 教科書第3章前半を見直す。 事後 授業ノートの復習	40 分 60 分
第13回	学びのスタイル～学習の個人差～	事前 教科書第3章第4節を読む 事後 授業ノートの復習	40 分 60 分
第14回	効果的に学ぶために～様々な学習方法～	事前 教科書第3章第5節を読む 事後 授業ノートの復習	40 分 60 分
第15回	まとめ～授業全体の総括～	事前 教科書第4章前半を読む 事後 試験の振り返りと自分の解答の正否確認	60 分 40 分

フィードバック 授業での課題・ミニレポートなどについて添削・コメントで学修成果をフィードバックする。

成績評価 試験の成績と授業態度を総合しておこなう。定期試験 70%、授業態度 30%

テキスト 滝沢武久編著 『はじめての教育心理学』（八千代出版）
その他、必要に応じてプリントを配布する。

オフィスアワー 授業終了後、教室にて、および指定曜日に研究室にて対応する。

備考 人間の子どもの時期は他の動物に比べてとても長い。「学ぶため」に長い子ども期間を与えられているのだ。人間の発達過程と学習する心の仕組みを知り、生涯を通じた「学びを支える教育」について考えたい。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発働能力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>

特別支援教育

※教育職員免許状取得に関わる科目

短大講師 中山晶世

科目コード：SCH103

対象コース/専門/学年：全コース/全専門/1年

形態：講義 単位数：1単位

概要 特別支援を必要としている生徒が、特別支援教育の制度の中でどのように達成感を持ちながら学習活動に参加していくことが望ましいか、模擬授業を進めながら考える。

到達目標 発達障害の特性、また、障害でないが生活環境における困難(多様な言語・経済的基盤等)について基礎的な知識を身につけ、支援方法を理解する。

授業計画 発達障害等の知識を高めるとともに、特別支援教育への理解を深め、模擬授業を通して生徒たちが達成感のある学習ができるよう、積極的なディスカッションを展開し、理解を深める。

第1回	発達障害や軽度知的障害のある生徒の心身の発達及び心理的的特性の理解。10分間試験。	事前 テキスト第3章 p.59～76を読む。 事後 幼・小・中・高校における特別支援教育での生徒の心身の発達を書きだす。	140分 140分
第2回	視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱等を含む障害の特性の理解。10分間試験。	事前 テキスト第4章 p.91～125を読む。 事後 各障害の特性を書きだす。	140分 140分
第3回	特別の支援を必要としている障害のある生徒の学習上・生活上の困難についての知識を知る。10分間試験。	事前 テキスト第5章 p.127～148を読む。 事後 家庭との連携及び実施可能な支援について書きだす。	140分 140分
第4回	インクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育に関する制度の理念や仕組みを理解する。10分間試験。	事前 テキスト第1章 p.1～25を読む。 事後 共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システムの構築について書きだす。	140分 140分
第5回	他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解する。10分間試験。	事前 テキスト第1章 p.25～39を読む。 事後 実践活用事例を通してどのような関係機関との連携が必要か書きだす。	140分 140分
第6回	特別の支援を必要としている障害のある生徒が達成感を持ちながら学び、生きる力を身につけていくことができる学習とはどのような授業かディスカッションする。10分間レポート。	事前 テキスト第6章 p.151～170を読む。 事後 達成感のある授業をするために必要な教員のスキルを書きだす。	140分 140分
第7回	障害ではないが、生活環境に困難のある生徒が達成感を持てる学習活動を模擬授業の中で行ない、その体験を話しあう。10分間レポート。	事前 テキスト第7章 p.171～190を読む。 事後 生活環境に困難のある生徒に対する支援にはどのようなものがあるか書きだす。	140分 140分
第8回	前回行った模擬授業をさらに深く理解するために、架空の個別の教育的ニーズを設定し、模擬授業を行う。その体験を話しあう。10分間レポート。	事前 テキスト巻末の「文献」から一編を選び、読む。 事後 選んだ文献についてレポートを書き、提出。	140分 140分

フィードバック 毎回行う10分間試験及びレポートにコメントをつけ、学修成果をフィードバックする。

成績評価 10分間試験及びレポート 50% 授業態度 25% ディスカッションや模擬授業への発言・積極性 25%

テキスト 「特別支援教育総論」(川合紀宗、若松昭彦、牟田口辰己編著、北大路書房)

オフィスアワー 授業終了後教室にて、もしくはEメールにて対応する。akynkym@aioros.ocn.ne.jp

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性							
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	

教育課程総論

※教育職員免許状取得に関する科目

准教授 田中里佳

科目コード：SCH202

対象コース／専門／学年：全コース／全専門／2年次

形態：講義

単位数：2単位

概要 本授業では、教育課程の意義や内容、編成について幅広く学ぶ。学習指導要領を適宜参照しつつ、音楽科に引きつけて考えることで、理解を深めていく。

到達目標 教育課程の意義や内容、教育課程編成の方法を学び、学習指導要領に基づいた教育課程の編成、実施、評価に関する基礎的な知識の習得を通して、学校での各実践の位置づけや役割り、カリキュラム・マネジメントの重要性を理解する。

授業計画 音楽科カリキュラムとの関連から講義を行う。各回でテーマを設定し、教育課程とは何か、学習指導要領に基づいてどのように教育過程を編成し、授業の計画、実践を行っていくかなどについて学ぶ。各回の最後には、具体的な課題を設定し、リフレクション・カードや小レポートの執筆を通して個々に考えを深める時間を設ける。

第1回	オリエンテーション カリキュラムに関する現代的な課題	事前 カリキュラムや教育課程に関する新聞記事を探し、読んでおく 事後 討論したり考えたことについて、まとめておく	100分 180分
第2回	教育課程の意義ならびに教育課程編成の原理と目的	事前 資料を読み、疑問点を把握しておく 事後 討論したり考えたことについて、まとめておく	100分 180分
第3回	教育課程とカリキュラム	事前 「教育課程」「カリキュラム」という言葉の意味を調べておく 事後 討論したり考えたことについて、まとめておく	100分 180分
第4回	潜在的カリキュラム	事前 資料を読み、疑問点を把握しておく 事後 討論したり考えたことについて、まとめておく	100分 180分
第5回	教育課程編成の方針（1）学習指導要領改訂との関わりから	事前 学習指導要領解説を読んでおく 事後 授業内容をふまえて、学習指導要領解説を再読する	100分 180分
第6回	教育課程編成の方針（2）教育課程が社会に果たす機能・役割	事前 学習指導要領解説を読んでおく 事後 授業内容をふまえて、学習指導要領解説を再読する	100分 180分
第7回	教科の原理、内容	事前 学習指導要領解説を読んでおく 事後 授業内容をふまえて、学習指導要領解説を再読する	100分 180分
第8回	教科横断的な教育内容の選択や配列	事前 学習指導要領解説を読んでおく 事後 授業内容をふまえて、学習指導要領解説を再読する	100分 180分
第9回	児童生徒や地域の実態に基づいた教育課程や指導計画の検討	事前 課題について、自分なりの意見をまとめておく 事後 レポートに取り組む	100分 180分
第10回	評価（1）評価の原理	事前 学習指導要領解説を読んでおく 事後 授業内容をふまえて、学習指導要領解説を再読する	100分 180分
第11回	評価（2）評価の観点	事前 学習指導要領解説を読んでおく 事後 授業内容をふまえて、学習指導要領解説を再読する	100分 180分
第12回	評価（3）評価の方法	事前 学習指導要領解説を読んでおく 事後 授業内容をふまえて、学習指導要領解説を再読する	100分 180分
第13回	カリキュラム・マネジメント（1）意義と重要性	事前 学習指導要領解説を読んでおく 事後 授業内容をふまえて、学習指導要領解説を再読する	100分 180分
第14回	カリキュラム・マネジメント（2）評価との関連から	事前 学習指導要領解説を読んでおく 事後 授業内容をふまえて、学習指導要領解説を再読する	100分 180分
第15回	授業内容の振り返り、まとめ	事前 課題レポートに取り組む 事後 学習指導要領の変遷と現在の動向から、教育課程の位置付けや意義について考える	180分 100分

フィードバック 毎時間後にリフレクション・カードを配布する。そこで挙げた疑問や質問、新たな視点について、次回冒頭で取り上げたり、個別に対応したりして、フィードバックを図る。

成績評価 授業への取り組み（授業内容をふまえた疑問、質問、考えから積極的に発言しているか。十分に準備した上で発表できているか：50%）、レポート（テーマに基づき、授業での学習内容を踏まえながら独自の考えを示しているか：50%）

テキスト テキスト：中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）
高等学校学習指導要領（平成30年3月 文部科学省）
中学校学習指導要領解説 総則編（平成29年7月 文部科学省）
参考図書：柴田義松・山崎準二 編著（2019）『教育の方法と技術』学文社
その他、適宜授業で紹介する。

オフィスアワー 授業後、教室で随時質問、相談に応じる。

備考 1回目の講義にて、用いるテキストや参考図書、授業の進め方、提出課題について説明するので、必ず出席すること。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

道徳教育指導論

非常勤講師 辻野具成

科目コード：SCH304

対象コース／専門／学年：全コース／全専門／大学3年次

形態：講義

単位数：2単位

概要 自らの生き方を自ら見つめ、道徳的価値について納得できる生き方を、主体的な判断力や実践力を大切にする学びを実感させる。

到達目標 文部科学省は「特別の教科 道徳」を告示し、平成30年度より導入しました。道徳教育の真の充実として、授業者の指導力の改善・充実に向けた実践を定着させたいと考えております。具体的には、各学年年間35時間の授業を設定し、各時間では教科書を活用し、考え・議論する授業展開をもとに、生徒の成長を促すための評価が強く求められています。

教育実習で、生徒たちに喜んでもらえる授業展開（教材・発問・生徒への対応など）を前向きに取り組み、これを生かそうとする実践意欲を高める。

「不足が不足している」現代社会が抱える、人間関係の希薄化・言語及び集団体験活動の不足から、規範意識の低下や社会参画への欠如・情報機器の異常な普及など、相手や集団や社会を顧みない自己中心的な生き方が、いま道徳教育の喫緊の課題として、その改善・充実が強く求められています。

授業計画			
第1回	・オリエンテーション ・現代社会における道徳教育の課題（新学習指導要領が求める改訂のポイントの確認）	事前 小・中学校時代の道徳の時間を思い出す 事後 現代日本は生活しやすい国と考えられますか	120分 160分
第2回	現代社会に見る中・高校生の倫理的課題を探る	事前 連日報道される事件・犯罪を考える 事後 人間としての生き方として求められる課題	120分 160分
第3回	道徳教育の理念と課題：「道徳」とは何か	事前 人間は「共同体」の一員であることを自覚する 事後 望ましい人間としての在り方・生き方を追求	120分 160分
第4回	道徳性の形成要因と発達段階における課題	事前 「人間らしく生きる」とは何かを考える 事後 道徳的価値観の自覚・形成への意欲をもたせる	140分 140分
第5回	学校における道徳教育の目標とその内容	事前 「人間らしく・よりよく生きる」とは何か 事後 価値的・主体的・社会的に生きる自分を指す	120分 160分
第6回	「道徳の時間」の指導と教材の活用	事前 「道徳の時間」で活用した教材を思い出す 事後 「道徳の時間」の教材のねらいを理解する	140分 140分
第7回	「道徳の時間」の教材とその活用：知見教材	事前 教材の内容から何を育成するのかを考える 事後 教材の内容を考え、判断力の育成を目指す	120分 160分
第8回	「道徳の時間」の教材とその活用：感動教材	事前 教材の内容から何に感動を感じさせるのか 事後 教材の内容を考え、心情の育成を目指す	120分 160分
第9回	「道徳の時間」の教材とその活用：葛藤教材	事前 教材の内容から登場人物の価値の選択に迫る 事後 教材の内容を考え、実践意欲・態度を育成する	120分 160分
第10回	「道徳の時間」の教材（葛藤教材）の分析	事前 授業での展開をもとにねらいは何かを考える 事後 この教材からどの場面をねらいとするか	120分 160分
第11回	「道徳の時間」の教材（葛藤教材）の分析とねらい	事前 教材を通して人間としての生き方を考える 事後 教材を「起承転結」に分析、ねらいに迫る	120分 160分
第12回	「道徳の時間」における学習指導案の作成	事前 主人公の心の変化からきっかけを想像する 事後 ねらい・中心発問を基に指導案を作成する	120分 160分
第13回	「道徳の時間」における学習指導案の作成：提出	事前 「道徳の時間」の指導の展開を考える 事後 教材の分析・ねらい・発問例などを構成する	140分 140分
第14回	学校における道徳教育の指導計画と評価	事前 学校では「どんな生徒を育成するか」を考える 事後 知徳体の均衡のとれた生徒の育成を目指す	120分 160分
第15回	学校・家庭・地域社会の連携による道徳性の育成	事前 生徒の「社会化を育む場」の現象を理解する 事後 「道徳授業地区公開講座」の設定を考える	120分 160分

フィードバック 新学習指導要領が求める多面的・多角的な考えをもとに、道徳的価値について自覚を深めることができるようフィードバックをする

成績評価 筆記試験 70%・課題提出 15%・授業態度 15% として 総合的に評価する

テキスト 文部科学省『中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』（3階の売店にて販売いたします。全員が購入し、授業時には持参してください。）

オフィスアワー 質問等がある場合は、授業終了後に教室にて対応する

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

特別活動の指導法

※教育職員免許状取得に関わる科目

短期大学部教授 内田有一

科目コード：SCH207

対象コース／専門／学年：全コース／全専門／2 年次生

形態：講義

単位数：2 単位

概要 到達目標の内容について、様々な中学校の実践事例を検討しながら、講義と討論を通して考察する

到達目標 特別活動は、学級活動、生徒会活動、学校行事の三つの内容によって構成されており、特に学級活動は学級担任が指導する。また特別活動と関連した音楽科の指導にあつては学級担任との連携するマネジメントの能力も必要である。特別活動の教育的意義や内容と実践的な指導方法の学びを目標とする。

回	内容	事前	事後	単位数
第 1 回	特別活動の教育的意義及び家庭、地域、社会とのつながり	中学校学習指導要領解説 特別活動編を読み、目標を理解しておく。	講義を通して理解したことを考察し、まとめる。	160 分 110 分
第 2 回	特別活動の特質と内容 学級活動・生徒会活動・学校行事	中学校学習指導要領解説 特別活動編を読み、内容を理解しておく。	講義を通して理解したことを考察し、まとめる。	160 分 110 分
第 3 回	「学校や学級での生活づくり」のねらいと指導の具体	事前に配付する資料を読み、生活づくりの概念を理解しておく。	講義を通して理解したことを自己指導力の視点から考察し、まとめる。	160 分 110 分
第 4 回	「学業と進路」のねらいと指導の具体	事前に配付する資料を読み、進路指導の概念を理解しておく。	講義を通して理解したことをキャリア教育の視点から考察し、まとめる。	160 分 110 分
第 5 回	生徒会活動の内容と目標	中学校学習指導要領解説 特別活動編を読み、生徒会活動の概要を理解しておく。	講義を通して理解したことを人間形成の視点から考察し、まとめる。	160 分 110 分
第 6 回	学校行事の特質と種類及びその活動内容（儀式的行事、文化的行事、健康安全・体育的行事）	事前に配付する資料を読み、学校行事（儀式・文化・健康安全・体育）の具体を理解しておく。	講義を通して理解した学校行事の具体を人間形成の視点から考察し、まとめる。	160 分 110 分
第 7 回	学校行事の特質と種類及びその活動内容（旅行・集団宿泊行事、勤労生産・奉仕的行事）	事前に配付する資料を読み、学校行事（旅行・宿泊・勤労・奉仕）の具体を理解しておく。	講義を通して理解した学校行事の具体を人間形成の視点から考察し、まとめる。	160 分 110 分
第 8 回	学級活動の指導案作成	事前に配付する指導案を読み、概要を理解しておく。	講義における批評を生かし、指導案を練り上げる。	160 分 110 分
第 9 回	指導案による学級活動の模擬授業と批評	自己の指導案を具現化するための発問、指示を考える。	批評を生かし、模擬授業の振り返りをする。	160 分 110 分
第 10 回	行事計画書の作成と運営の具体	事前に配付する行事計画書を読み、概要を理解しておく。	自己の作成した行事計画を再度検討し、練り上げる。	160 分 110 分
第 11 回	クラス会議による人間関係の構築の具体	事前に配付するクラス会議の資料を読み、概要を理解しておく。	クラス会議の講義における体験を基に、その価値を考察する。	160 分 110 分
第 12 回	特別活動の評価の具体	事前に配付する評価の具体を読み、概要を理解しておく。	指示された課題をもとに評価について考察する。	160 分 110 分
第 13 回	音楽科と関連した特別活動の実践事例と指導方法	事前に配付する音楽科と関連した特別活動の具体を読み、概要を理解しておく。	指示された課題をもとに音楽科と特別活動の関連について考察する。	160 分 110 分
第 14 回	教育課程と関連した部活動の指導方法	事前に配付する教育課程と関連した部活動の具体を読み、概要を理解しておく。	指示された課題をもとに部活動について考察する。	160 分 110 分
第 15 回	学修の振り返り 理解度確認テスト	学修の振り返りをまとめておく。	振り返りを基に、今後の課題解決に向けた見通しをもつ。	160 分 110 分

フィードバック 討論、模擬授業への批評を通して学修者にフィードバックする。

成績評価 理解度確認テスト 70% 討論、模擬授業への態度 30%

テキスト 文部科学省『中学校学習指導要領解説 特別活動編』
参考書・参考資料 講義の際に配付する

オフィスアワー 授業開始前又は授業終了後 教室にて もしくは E メールにて相談の上、対応する。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経歴・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲	
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>											

教育方法論

※教育職員免許状取得に関する科目

准教授 田中里佳

科目コード：SCH205

対象コース／専門／学年：全コース／全専門／2年次

形態：講義 単位数：2単位

概要 本授業は、教育に携わる者が、それぞれの現場でいかなる方法を用いているのか、また、それが歴史的にどのように変化してきたのかを学ぶものである。方法について幅広く学びつつ、音楽とそれ以外の教科とで異なる部分や、音楽だからこそ可能な方法などについて、ディスカッションを通して考える。

到達目標 激動の最中にある今日の社会において、予測不能な未来を生き抜く子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な、教育の方法、技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身につける。また、今日教育現場で問題となっている様々な教育課題に対して、理論的根拠をもって解決していくための基礎力を、講義と演習を通して身につける。

授業計画 前半では、教育方法に関する思想や立場を学び、受講者それぞれが自分の受けてきた授業を振り返りながら、学習を深める手立てについて考えていく。そして、後半では、前半内容を踏まえて、効果的な授業がいかにして成立するのかを、教師の働きかけ、評価、教材、情報機器の活用などを視点に考える。

第1回	オリエンテーション 「良い授業」とはどのような授業か	事前 高校までに受けた授業で印象に残っている内容を思い出ししておく 事後 討論したり考えたことについて、まとめておく	100分 180分
第2回	西洋の教育方法の歴史	事前 「子ども中心の授業」について調べておく 事後 「子ども中心の授業」について、その特徴をまとめる	140分 140分
第3回	日本の教育方法の歴史	事前 資料に目を通し、内容を理解しておく 事後 日本の教育方法の歴史について、その特徴をまとめる	140分 140分
第4回	「教育技術」についての立場の違い	事前 資料に目を通し、内容を理解しておく 事後 教育技術について、重要な点をまとめる	140分 140分
第5回	授業を構成する要件とは	事前 資料に目を通し、内容を理解しておく 事後 授業を構成する要件について、重要な点をまとめる	140分 140分
第6回	授業分析の意味と方法	事前 資料に目を通し、内容を理解しておく 事後 授業分析について、具体的な方法をまとめる	140分 140分
第7回	ユニバーサルデザインの視点からの授業分析	事前 資料に目を通し、内容を理解しておく 事後 ユニバーサルデザインについて、重要な点をまとめる	140分 140分
第8回	授業をどうデザインするか①指導案の作成～話法、板書などの環境的工夫と子どもの学び～	事前 資料に目を通し、内容を理解しておく 事後 授業のデザインについて、具体的な場面を構想する	140分 140分
第9回	授業をどうデザインするか②指導案の作成～主体的・対話的で深い学びの支援～	事前 資料に目を通し、内容を理解しておく 事後 授業のデザインについて、具体的な場面を構想する	140分 140分
第10回	授業をどうデザインするか③指導案の作成～問題解決を促す技術～	事前 資料に目を通し、内容を理解しておく 事後 授業のデザインについて、具体的な場面を構想する	140分 140分
第11回	情報機器の活用に着目した教材づくりの発想～子供の発話からデジタル教科書まで～	事前 資料に目を通し、内容を理解しておく 事後 授業のデザインについて、具体的な場面を構想する	140分 140分
第12回	情報機器の活用と学習内容の定着	事前 資料に目を通し、内容を理解しておく 事後 授業のデザインについて、具体的な場面を構想する	140分 140分
第13回	「いま、ここ」だからできる授業を展開するための教材開発と教育技術	事前 資料に目を通し、内容を理解しておく 事後 レポートの執筆を進める	100分 180分
第14回	学習評価と教育技術	事前 資料に目を通し、内容を理解しておく 事後 レポートの執筆を進める	100分 180分
第15回	授業の振り返り、まとめ、レポート提出	事前 レポートを仕上げしておく 事後 授業で学んだ内容をふまえて、授業デザインとその方法について、考えを深める	200分 80分

フィードバック 毎時間後にリフレクション・カードを配布する。そこで挙がった疑問や質問、新たな視点について、次回冒頭で取り上げたり、個別に対応したりして、フィードバックを図る。

成績評価 受講態度（積極的な発言、グループワークでの協力的な姿勢：30%）、発表（十分な準備、資料や発表方法の工夫：30%）、レポート（授業内容の理解、独自の視点：40%）

テキスト テキスト：中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）
高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省）
中学校学習指導要領解説 総則編（平成29年7月 文部科学省）
適宜資料を配布する。
参考図書：柴田義松・山崎準二 編著（2019）『教育の方法と技術』学文社
学習指導要領（音楽、総則）

オフィスアワー 授業後に教室で対応する。

備考 1回目の講義にて、用いるテキストや参考図書、授業の進め方について説明するので、必ず出席すること。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発働能力	グローバルな視野	社会的責任・他理解	生涯学習意欲
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>

生徒指導論

※教育職員免許状取得に関わる科目

短期大学部教授 内田有一／短期大学部講師 林直美

科目コード：SCH302

対象コース／専門／学年：全コース／全専門／3年次

形態：講義	単位数：2単位
概要	生徒指導が生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら社会的資質や行動力を高めることを目指して教育活動全体を通じ行われる重要な教育活動であることを理解する。また、進路指導は生徒自らが将来の進路を選択・計画し、教員が指導・援助する教育活動であり、それを包含するキャリア教育は、一人一人の社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育むことを目的としていることを理解する。
到達目標	学校において他の教職員や関係機関と連携しながら組織的に生徒指導を進めていくために必要な知識・技能や素養を身に付ける。また、進路指導・キャリア教育の視点に立った授業改善や体験活動、評価改善の推進やガイダンスとカウンセリングの充実、それに向けた学校内外の組織的体制に必要な知識や素養を身に付ける。
授業計画	前半は生徒指導について、後半は進路指導・キャリア教育についてワークシートを用いた作業学習を取り入れながら、2名の教員によるオムニバス形式で授業をすすめる。

回数	内容	事前	事後	時間
第1回	教育課程における生徒指導・進路指導・キャリア教育の位置付け (担当：内田、林)	これまでの学校生活において生徒指導について印象に残っていることを思い出ししておく。	授業内で指示された課題を行う。	100分 180分
第2回	各教科・道徳教育・総合的な学習の時間・特別活動における生徒指導の意義や重要性 (担当：内田)	各教科・道徳教育・総合的な学習の時間・特別活動における生徒指導に何があるか考えておく。	授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140分 140分
第3回	集団指導・個別指導の方法原理 (担当：内田)	配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。	授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140分 140分
第4回	生徒指導体制と教育相談体制それぞれの基礎的な考え方 (担当：内田)	配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。	授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140分 140分
第5回	学級担任、教科担任その他の校務分掌上の立場や役割並びに学校の指導方針及び年間指導計画に基づいた組織的な取り組み (担当：内田)	配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。	授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140分 140分
第6回	基礎的な生活習慣の確立や規範意識の醸成等の日々の生徒指導の在り方ならびに児童及び生徒の自己の存在感が育まれるような場や機会の設定の在り方 (担当：内田)	配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。	授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140分 140分
第7回	校則・懲戒・体罰等の生徒指導に関する主な法令の内容 (担当：内田)	配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。	授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140分 140分
第8回	暴力行為・いじめ・不登校等の生徒指導上の課題の定義及び対応の視点 (担当：内田)	配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。	授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140分 140分
第9回	インターネットや性に関する課題、児童虐待への対応等の今日的な生徒指導上の課題や専門家や関係機関との連携の在り方 (担当：内田)	配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。	授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140分 140分
第10回	学校の教育活動全体を通じたキャリア教育の視点と指導の在り方 (担当：林)	これまでの学校生活でどのような進路指導・キャリア教育を受けてきたか思い出ししておく。	授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140分 140分
第11回	進路指導・キャリア教育における組織的な指導体制及び家庭や関係機関との連携の在り方 (担当：林)	配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。	授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140分 140分
第12回	職業に関する体験活動を核とし、キャリア教育の視点を持ったカリキュラム・マネジメントの意義 (担当：林)	配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。	授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140分 140分
第13回	全体指導を行うガイダンスの機能を生かした進路指導・キャリア教育の意義や留意点 (担当：林)	配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。	授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140分 140分
第14回	生涯を通じたキャリア形成の視点に立った自己評価の意義、ポートフォリオの活用の在り方 (担当：林)	配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。	授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140分 140分
第15回	キャリア・カウンセリングの基礎的な考え方と実践方法 (担当：林)	配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。	授業で配布された資料やノートを整理し、ポイントをまとめる。	180分 100分

フィードバック 授業での課題やレポートについて、添削やコメントで学修成果をフィードバックする。

成績評価 リアクションペーパー（40%）、レポート（40%）、授業への参加姿勢（20%）を目安として総合的に評価する。

テキスト 文部科学省『生徒指導提要』（2010）教育図書

参考書・参考資料等
林尚示、伊藤秀樹『生徒指導・進路指導—理論と方法（教師のための教育学シリーズ10）』（2016）学文社
文部科学省『中学校キャリア教育の手引き』（2011）教育出版

オフィスアワー 授業終了後、教室にて対応する。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

教育相談

※教育職員免許状取得に関わる科目

教授 石橋明佳

科目コード：SCH203

対象コース／専門／学年：全コース／全専門／1年次

形態：講義	単位数：2単位
概要	生徒を理解し、一人ひとりの個性に応じた支援ができるように、教育相談の目的と方法について理解を深め、基本的な相談スキルを実践的に学習する。主な問題行動への対応を学ぶと共に、適切に教育相談を実践するために、他者と信頼関係を構築する力と問題解決能力を養う。
到達目標	教育相談を実施するために必要な知識や技法、態度を身につける。具体的には①生徒が呈する心身の症状や問題行動の理解、②カウンセリング理論の理解と相談スキルの習得、③教育相談の実施方法の理解、④教師を目指す者として自分自身の課題に気づき、それを克服し自己成長を図ること、を目標とする。

回	内容	事前	事後	時間
第1回	ガイダンス：授業の流れの詳細と受講に関する注意 教育相談とは何か（定義・領域・種類、歴史の変遷、学校における教育相談の特質）	テキストの関連ページを読んで理解する	教育相談を行う教員に求められる基本的な意識を検討する	140分 130分
第2回	生徒の発達段階・発達課題を理解する	テキストの関連ページを読んで理解する	自分自身はどのような発達課題があったのか、現代との共通点・相違点を考察する	90分 180分
第3回	生徒の悩み①学習・進路・人間関係・性格等の悩みの特徴と問題解決方法の事例学習	テキストの関連ページを読んで理解する	自分の経験を振り返り、悩みや問題解決方法を分析する	90分 180分
第4回	生徒の悩み②性・家族・身体・経済等の悩みの特徴と問題解決方法の事例学習	テキストの関連ページを読んで理解する	インターネットなどを利用し、最新のデータを収集する	90分 180分
第5回	子供の自殺：危険シグナルの発見の仕方と対応	テキストの関連ページを読んで理解する	インターネットなどを利用し、最新のデータを収集する	60分 210分
第6回	問題行動（不登校、非行、暴力行為、いじめ）の理解と対応方法の事例学習	テキストの関連ページを読んで理解する	授業で扱った事例の対応方法について復習する。	90分 180分
第7回	生徒のストレスと心の病（精神障害の理解、対応の在り方の事例学習）	テキストの関連ページを読んで理解する	各障害の特徴と教員が気をつけるべき事を復習する	90分 180分
第8回	特別支援教育の歴史の変遷とインクルージョン教育の意義	テキストの関連ページを読んで理解する	インターネットなどを利用し、最新のデータを収集する	90分 180分
第9回	発達障害の理解と支援方法の事例学習（「音楽」指導例を含む）	テキストの関連ページを読んで理解する	各障害の特徴と教員が気をつけるべき事を復習する	90分 180分
第10回	教員が応用できるカウンセリング理論とカウンセリング・マインド	テキストの関連ページを読んで理解する	理解不足だった部分の復習をする	90分 180分
第11回	教員が応用できるカウンセリング技法の理解と習得	テキストの関連ページを読んで理解する	授業で学んだカウンセリング技法を日常会話等で試してみる。	90分 180分
第12回	教育相談の進め方（基本姿勢、展開方法、チェックポイント、保護者の相談）	テキストの関連ページを読んで理解する	授業で行ったケーススタディを復習し、実践にどのように繋げるか検討する	90分 180分
第13回	学校における教育相談活動体制づくりと外部関係諸機関との連携	テキストの関連ページを読んで理解する	授業で行ったケーススタディを復習し、実践にどのように繋げるか検討する	90分 180分
第14回	良い教員の特性、教員に必要な人間理解力とソーシャル・スキル	テキストの関連ページを読んで理解する	良い教員になるために今後何を学ぶべきかを検討する	90分 180分
第15回	まとめと講義内容の整理	テキスト及び自分のノートに目を通し、理解度を確認する	理解不足だった部分の復習をする	90分 180分

フィードバック 課題やレポートは、添削やコメントで学修成果をフィードバックする。

成績評価 レポート 40%、筆記試験 60%の評価配分を基準とし、受講態度（授業に取り組む姿勢・質疑応答等）を含めて総合的に評価する。

テキスト プリント教材『教育相談』（約 700 円）

オフィスアワー 授業終了後教室にて、もしくは E メールにて相談の上、対応する sishibashi@uenogakuen.ac.jp

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				

教育実習（事前事後指導 1 単位を含む）

※教育職員免許状取得に関わる科目

教授 山内雅子

科目コード：SCH401

対象コース／専門／学年：全コース／全専門／4 年次

形態：実習

単位数：5 単位

概要 教育実習で十分な成果があげられるよう、実習期間のシミュレーションを行い、留意点について理解する。また、各自が実習校で行う教材の学習指導案を作成し、その教材を用いて実習前に模擬授業を行う。
教育実習期間は集中して全力で取り組み、教科指導の実際や学級指導、生活指導、行事への取り組みなどを体験する。実習後は、経験を交流し学び合う中で、教職への理解を深める。

到達目標 教育実習に臨む心構え、留意事項、学習指導要領の内容や学習指導案の書き方などを実習前に理解する。教育実習を通して、教科指導、学級指導、特色ある教育活動並びにそれらを実施するための組織体制等を理解する。事後は、教育実習を通して得られた知識や経験を振り返り、教員免許取得までに更に修得することが必要な知識や技能等を理解する。

授業計画			【AL】		事前	事後	単位数
第 1 回	教育実習の概要と心得 学習指導案の作成について 移行期間についての理解 授業計画について		中学校学習指導要領解説 音楽編 p.1-p.34 を読んでくる。	160 分	中学校学習指導要領解説 音楽編 p.1-p.34 を再度読んで、理解を深める。	110 分	
第 2 回	学習指導案の作成（1）歌唱分野「夏の思い出」		中学校の音楽 2・3 上 「夏の思い出」の教材研究をする。	160 分	「夏の思い出」の学習指導案を完成させる。	110 分	
第 3 回	学習指導案の作成（2）鑑賞領域「四季」		中学校の音楽 1 「春」の教材研究をしてくる。	160 分	「春」の学習指導案を完成させる。	110 分	
第 4 回	模擬授業「夏の思い出」。模擬授業の検討。		中学校学習指導要領解説 音楽編「歌唱」について、読んでくる。	160 分	模擬授業をふり返り、学習指導案を修正するとともに、実戦で使える技や方法を記録する。	110 分	
第 5 回	模擬授業「四季」。模擬授業の検討。		中学校学習指導要領解説 音楽編「鑑賞」を読んでくる。	160 分	模擬授業をふり返り、学習指導案を修正するとともに、実戦で使える技や方法を記録する。	110 分	
第 6 回	模擬授業「Caro mio ben」。模擬授業の検討。		高等学校学習指導要領解説 芸術編 「歌唱」の領域を読んでくる。（事前プリント配布）	160 分	模擬授業をふり返り、実戦で使える技や方法を記録する。	110 分	
第 7 回	模擬授業「ボレロ」。模擬授業の検討。		中学校学習指導要領解説 音楽編「鑑賞」を読んでくる。	160 分	模擬授業をふり返り、実戦で使える技や方法を記録する。	110 分	
第 8 回	模擬授業「花の街」。模擬授業の検討。		中学校学習指導要領解説 音楽編「歌唱」について、読んでくる。	160 分	模擬授業をふり返り、実戦で使える技や方法を記録する。	110 分	
第 9 回	模擬授業「ブルダバ」。模擬授業の検討。		中学校学習指導要領解説 音楽編 「共通事項」について読んでくる。	160 分	模擬授業をふり返り、実戦で使える技や方法を記録する。解説 p.82-p.89 を熟読する。	110 分	
第 10 回	模擬授業「野菜の気持ち」。模擬授業の検討。		中学校学習指導要領解説 音楽編「創作」の領域を読む。	160 分	模擬授業をふり返り、実戦で使える技や方法を記録する。	110 分	
第 11 回	模擬授業「創作」。模擬授業の検討。		「創作」の授業のアイデアをメモしてくる。	160 分	中学校学習指導要領「共通事項」、内容の取扱いと指導上の配慮事項を読む。	110 分	
第 12 回	教育実習を振り返って 生徒から学んだこと、指導教官から学んだこと		教育実習で研究授業の取り組みの中で、心に残った出来事をまとめる。	160 分	研究授業の準備から本番までのうちの出来事を論文に採り入れて 800 字でまとめる。	110 分	
第 13 回	教育実習で学んだことを 小論文にまとめる。		教育実習全般を通して、最も心に残ったことや、学んだこと、考えたことをまとめる。	160 分	教育実習で学んだこと、考えたこと、心に残ったことを二事例挿入して、800 字でまとめる。	110 分	
第 14 回	教育実習の総括と教員採用試験に向けて		各自が受験する都道府県の教員採用試験の過去の論文課題を検索する。	160 分	教育実習のエピソードを 2 事例入れて、採用試験の論文課題を書き上げる。	110 分	
第 15 回	教育実習で扱った歌唱教材を指導法のポイントを振り返りながら、全員で歌う。		中学校学習指導要領解説「総説」を読む。	160 分	実習日誌の受け取り、全頁を読み直す。	110 分	

フィードバック 4 月に歌唱と鑑賞領域で書いた指導案は、提出した次の週に、指導を入れて返却する。模擬授業については、授業後ディスカッションし、全員でよきと課題について共有すると共に、指導者から適切に助言する。講義後半で行う論文については、コメントを入れて返却する。

成績評価 実習校からの評価（50％） 教育実習日誌の記録（30％） 小論文（10％） 模擬授業と授業に臨む姿勢（10％）を総合して評価する。

テキスト 『中学校の音楽』1 年、2・3 年上・下（教育芸術社）／『中学校の器楽』（教育芸術社）／『中学音楽 音楽のおくりもの』1 年、2・3 年上・下（教育出版）／『中学器楽 音楽のおくりもの』（教育出版）／『中学校学習指導要領解説音楽編』（平成 29 年、文部科学省）／『高等学校学習指導要領解説芸術編』（平成 29 年、文部科学省）※高等学校で実習を行う者は購入する。

オフィスアワー 授業開始前又は授業終了後 教室にて もしくは E メールにて相談の上、対応する。 masako.yamauchi@uenogakuen.ac.jp

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	

教職実践演習（中・高）

※教育職員免許状取得に関わる科目

教授 山内雅子／准教授 田中里佳／短期大学部教授 内田有一／短期大学部講師 林直美

科目コード：SCH402

対象コース／専門／学年：全コース／全専門／4年次

形態：講義	単位数：2単位
概要	4年間の教職の学びの集大成として、全ての教職・教科に関する科目の内容を有機的につなげ、教職に就く者としての意識や知識や技能を確かなものとするために、これまで受講した主に教職に関する科目の学修内容と教育実習・介護実習・支援員や学校ボランティアの経験をつなげ、討論を中心として理解を深めていく。
到達目標	全ての教職・教科に関する科目の内容を有機的につなげ、教職に就く者としての意識や知識や技能を確かなものとし、教育的愛情をもって生徒に接し、学修内容を生きた力として発揮できるようにすることを目標とする。
授業計画	オムニバス形式で行う

第1回	教職の意義 教育実習を通して感じた「教師という仕事」(山内)	事前 教育実習を通して感じた教師という仕事について、箇条書きにしておく。 事後 討論した内容で重要と思うことをノートにまとめる。	160分 110分
第2回	教員の職務と学校現場における課題(いじめ、SNS、不登校等への対応)(山内)	事前 教育実習で感じた学校現場における課題について、箇条書きにしておく。 事後 討論した内容で重要と思うことをノートにまとめる。	160分 110分
第3回	チーム学校の意義 求められる教師像(山内)	事前 教育実習で感じた「チーム学校」または「チームでの取り組み」について、箇条書きにまとめる。 事後 討論した内容で重要と思うことをノートにまとめる。	160分 110分
第4回	発達障害を有する生徒への対応とインクルーシブ教育システム(山内)	事前 介護実習を振り返り、実習を通して考えたこと、学んだことを箇条書きにしておく。 事後 討論した内容で重要と思うことをノートにまとめる。	160分 110分
第5回	教師としての人権意識(内田)	事前 事前に配布された人権についての資料を読む。 事後 討論した内容で重要と思うことをノートにまとめる。	160分 110分
第6回	生活指導・道徳の指導(内田)	事前 事前に配布された安全教育についての資料を読み、課題問題に取り組む。 事後 討論した内容で重要と思うことをノートにまとめる。	160分 110分
第7回	音楽科の教科指導(内田)	事前 中学校学習指導要領解説 音楽編の指定されたページを読んでくる。 事後 討論した内容で重要と思うことをノートにまとめる。	160分 110分
第8回	特別活動と音楽科 行事の音楽・部活指導他(内田)	事前 特別活動についての学びを振り返ると共に、部活指導を通して育てたい生徒像をメモする。 事後 討論した内容で重要と思うことをノートにまとめる。	160分 110分
第9回	命を守る教育 安全教育・アレルギー対応(内田)	事前 事前に配布された安全教育とアレルギー対応についての資料を読み、2年次の学修を振り返る。 事後 討論した内容で重要と思うことをノートにまとめる。	160分 110分
第10回	教育原理・知識と実践のつながり(田中)	事前 教育原理の学びを振り返る。 事後 討論した内容で重要と思うことをノートにまとめる。	160分 110分
第11回	教育課程の意義及び編成の方法(田中)	事前 教育課程総論の学びを振り返る。 事後 討論した内容で重要と思うことをノートにまとめる。	160分 110分
第12回	教育の方法及び技術に関して(田中)	事前 教育の方法についての学びを振り返る。 事後 討論した内容で重要と思うことをノートにまとめる。	160分 110分
第13回	教育に関する社会的・制度的課題(林)	事前 教育社会学の学びを振り返る。 事後 討論した内容で重要と思うことをノートにまとめる。	160分 110分
第14回	進路選択に資する各種の機会の提供(林)	事前 進路選択に関する学びを振り返る。 事後 討論した内容で重要と思うことをノートにまとめる。	160分 110分
第15回	生徒から、保護者から、地域から信頼される教師像 最終レポート課題について(山内)	事前 事前に配布された教師像についての資料を読み、課題問題に取り組む。 事後 最終レポート課題を執筆する。	160分 110分

フィードバック 毎回の課題に対して、講義の内容を振り返ると共に、それぞれが教育実習等の経験を踏まえて、自分の考えを述べ、交流する学修が中心となる。討論の中での意見を価値付けたり、適切な助言を行うことでフィードバックする。尚、最終講義でのレポート課題には、コメントを附記して返却する。

成績評価 授業態度：前向きに授業に参加し、意見を述べている(30%)。小テスト：教員としての使命と役割、サービスの厳正、喫緊の課題等について、正しい知識と自分なりの考えをもっている(20%)。最終レポート課題の内容(50%)

テキスト
 ・中学校学習指導要領解説 音楽編 平成29年度版
 ・毎回、作成したプリントを配布して行う。

オフィスアワー 授業開始前又は授業終了後 教室にて もしくはEメールにて相談の上、対応する。 masako.yamauchi@uenogakuen.ac.jp

備考 教職の総まとめの授業となるため、教職担当教員全員で担当する。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>						

学校体験活動

教授 山内雅子／准教授 田中里佳／短期大学部教授 内田有一

科目コード：SCH105

対象コース／専門／学年：全コース／全専門／1年次

形態：複数	単位数：2単位
概要	台東区の小中学校に音楽ボランティアとして出向き、音楽授業支援や各自の専門技能を生かした支援を行い、各学校の音楽主任の補助的な役割を担う。その活動を通して学んだことを記録し、担当教員とのやりとりを通して、学びを深める。

到達目標	児童・生徒との関わりや観察を通して、その実態や課題を把握すると共に、学級担任や教科担任の補助的な役割を担うことができる。また、学級担任及び教科担任の役割と職務内容を実地に即して理解する。
------	-----------------------------------------------------------------------------------------------

授業計画 事前指導→台東区小中学校における音楽ボランティア→中間指導→台東区小中学校における音楽ボランティア→事後指導

回数	内容	事前	事後	時間
第1回	ガイダンス ボランティア先の調整。音楽ボランティアの目的と内容と方法。	学校体験ガイダンス資料を読み、ボランティアに関する基礎的知識を理解しておく。	学校体験ガイダンス資料を読み、ボランティアに関する基礎的知識を理解しておく。	100分
第2回	学校が音楽ボランティアに期待することと、学生がボランティアを通して身に付けること。	学校教育の現場におけるボランティアの役割について事前に資料を読む。	ボランティアの役割について、自己の考えをまとめる。	140分
第3回	配置校へのボランティア 校長先生、音楽主任との面談。活動計画の作成。	ボランティアにおける自己の抱負を考えておく。	配置校における自己の活動計画書を作成する。	140分
第4回	配置校へのボランティア 中学校一年生 歌唱の授業支援	歌唱の指導支援について、支援案を作成する。	支援の振り返りを行い、次時への課題を把握する。	140分
第5回	配置校へのボランティア 中学校二年生 歌唱の授業支援	歌唱の指導支援について、支援案を作成する。	支援の振り返りを行い、次時への課題を把握する。	140分
第6回	配置校へのボランティア 中学校三年生 歌唱の授業支援	歌唱の指導支援について、支援案を作成する。	支援の振り返りを行い、次時への課題を把握する。	140分
第7回	配置校へのボランティア 中学校一年生 鑑賞の授業支援	鑑賞の指導支援について、支援案を作成する。	支援の振り返りを行い、次時への課題を把握する。	140分
第8回	配置校へのボランティア 中学校二年生 鑑賞の授業支援	鑑賞の指導支援について、支援案を作成する。	支援の振り返りを行い、次時への課題を把握する。	140分
第9回	ボランティアの実施状況、悩み、成果を報告し合い、学び合うと共に指導助言を受ける。	授業支援の振り返りを行い、自己の成長と課題についてまとめる。	課題解決に向けた方略をまとめる。	140分
第10回	配置校へのボランティア 中学校三年生 鑑賞の授業の支援	鑑賞の指導支援について、支援案を作成する。	支援の振り返りを行い、次時への課題を把握する。	140分
第11回	配置校へのボランティア 中学校 合唱際に向けての授業支援	合唱の指導支援について、支援案を作成する。	支援の振り返りを行い、次時への課題を把握する。	140分
第12回	配置校へのボランティア 中学校 合唱祭に向けての放課後練習の支援	学級練習の指導支援について、支援案を作成する。	支援の振り返りを行い、次時への課題を把握する。	140分
第13回	配置校へのボランティア 小学校六年生 音楽授業の支援	授業の指導支援について、支援案を作成する。	支援の振り返りを行い、次時への課題を把握する。	140分
第14回	配置校へのボランティア 小学校四年生 音楽授業の支援	授業の指導支援について、支援案を作成する。	支援の振り返りを行い、次時への課題を把握する。	140分
第15回	提出レポートを元に、教育現場の実態と教師の役割について討論し、理解を深める。	活動のまとめをレポートにまとめ、提出しておく。	教育実習に向けて、活動のまとめを行う。	180分

フィードバック 毎回、学校体験活動終了時において振り返りをもとに助言指導を行う。第9回に中間発表を行い、助言指導を行う。

成績評価 ボランティアの実施記録票の内容（30%）、ボランティア終了後のレポートの内容（50%）、実施状況観察（20%）

テキスト 中学校学習指導要領解説 音楽編（平成29年7月 文部科学省）
作成テキスト（山内雅子著、プリント教材）

オフィスアワー 授業終了後、配置校において行う。また担当教員のオフィスアワーにて対応する。

備考

学位授与の方針との関連															
授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>						

音楽授業観察実習

※教育職員免許状取得に関わる科目

教授 山内雅子／短期大学部教授 内田有一

科目コード：SCH106

対象コース／専門／学年：GLAコース／音楽教育専門／2～4年次、全コース／全専門／1年次

形態：実習

単位数：2単位

概要 特に優れた音楽授業実践で定評のある音楽教師の授業を参観し、お話しを伺う。参観と授業後の協議会を通して、その先生の音楽教育観や教師観を学び取ると共に、具体的な音楽科授業の構成や方法について知る。最寄駅で集合して、制服着用で訪問する。事後のレポートあり。

到達目標 この実習では、特に優れた音楽授業実践をしている音楽教師の授業参観と、授業後の協議会を通して、その先生の音楽教育観や教師観を学び取ると共に、具体的な音楽授業の構成や方法を知り、教師を目指す学生が目標とする音楽教師像を明確にもって、日々の学びを更に主体的に深めていくことができるようにすることを目標とする。

授業計画 本授業は、不定期集中講義として開講される。新年度に入ってから協力校との交渉で観察日時を決定するためである。

【AL】

第1回	優れた歌唱指導で定評のある教師の授業を参観する。	事前	ホームページでその学校の教育内容を把握する。	30分
		事後	授業観察を通して学んだことをレポートにまとめる。	240分
第2回	優れた歌唱指導で定評のある教師の授業の研究協議会に参加し、学ぶ。	事前	授業を通しての質問事項や、日常の教育活動等について質問事項をまとめる。	30分
		事後	授業観察と協議会を通して学んだことをレポートにまとめる。	240分
第3回	優れた歌唱指導で定評のある教師の授業参観、研究協議会をもとに、授業分析をする。	事前	参加校の音楽授業外での生徒と教師の関わりを観察して、見取ったことをまとめる。	30分
		事後	参観授業を、研究協議会参加、授業分析をもとに、自分の考えをレポートにまとめる。	240分
第4回	優れた鑑賞指導で定評のある教師の授業を参観する。	事前	ホームページでその学校の教育内容を把握する	30分
		事後	授業観察と交流を通して学んだことをレポートにまとめる。	240分
第5回	優れた鑑賞指導で定評のある教師の授業の研究協議会に参加し、学ぶ。	事前	授業を通しての質問事項や、日常の教育活動等について質問事項をまとめる。	30分
		事後	授業観察と協議会を通して学んだことをレポートにまとめる。	240分
第6回	優れた鑑賞指導で定評のある教師の授業参観、研究協議会をもとに、授業分析をする。	事前	参加校の音楽授業外での生徒と教師の関わりを観察して、見取ったことをまとめる。	30分
		事後	参観授業を、研究協議会参加、授業分析をもとに、自分の考えをレポートにまとめる。	240分
第7回	優れた創作指導で定評のある教師の授業を参観する。	事前	ホームページでその学校の教育内容を把握する	30分
		事後	授業観察と交流を通して学んだことをレポートにまとめる。	240分
第8回	優れた創作指導で定評のある教師の授業の研究協議会に参加し、学ぶ。	事前	授業を通しての質問事項や、日常の教育活動等について質問事項をまとめる。	30分
		事後	授業観察と協議会を通して学んだことをレポートにまとめる。	240分
第9回	優れた創作指導で定評のある教師の授業参観、研究協議会をもとに、授業分析をする。	事前	参加校の音楽授業外での生徒と教師の関わりを観察して、見取ったことをまとめる。	30分
		事後	参観授業を、研究協議会参加、授業分析をもとに、自分の考えをレポートにまとめる。	240分
第10回	優れた吹奏楽指導を行う教師の吹奏楽指導を参観する。	事前	ホームページでその学校の教育内容を把握する	30分
		事後	授業観察と交流を通して学んだことをレポートにまとめる。	240分
第11回	優れた吹奏楽指導を行う教師に部活経営の話聞き、学ぶ。	事前	授業を通しての質問事項や、日常の教育活動等について質問事項をまとめる。	30分
		事後	授業観察と協議会を通して学んだことをレポートにまとめる。	240分
第12回	優れた吹奏楽指導を行う教師の吹奏楽指導参観やその後に聞いた話をもとに、授業分析をする。	事前	参加校の音楽授業外での生徒と教師の関わりを観察して、見取ったことをまとめる。	30分
		事後	参観授業を、研究協議会参加、授業分析をもとに、自分の考えをレポートにまとめる。	240分
第13回	特別支援学校の音楽授業を参観する。	事前	ホームページでその学校の教育内容を把握する	30分
		事後	授業観察と交流を通して学んだことをレポートにまとめる。	240分
第14回	特別支援学校の音楽授業の研究協議会に参加し、学ぶ。	事前	授業を通しての質問事項や、日常の教育活動等について質問事項をまとめる。	30分
		事後	授業観察と協議会を通して学んだことをレポートにまとめる。	240分
第15回	特別支援学校の音楽授業参観、研究協議会をもとに、授業分析をする。	事前	参加校の音楽授業外での生徒と教師の関わりを観察して、見取ったことをまとめる。	30分
		事後	参観授業を、研究協議会参加、授業分析をもとに、自分の考えをレポートにまとめる。	240分

フィードバック 研究協議会での発言について講評すると共に、観察実習後のレポートにコメントを入れて返却する。

成績評価 参観態度（20%） 協議会での発言内容（50%） 事後レポート（30%）

テキスト 参観校の先生が音楽科経営案、学習指導案等を用意。

オフィスアワー 授業開始前又は授業終了後 教室にて もしくはEメールにて相談の上、対応する。 masako.yamauchi@uenogakuen.ac.jp

備考 なるべく学校公開日など、土曜日に参観できるよう配慮するが、やむを得ず平日の参観で他の授業と重なった場合は、公欠届けを提出するようにする。1回の参観を3駒分とする。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>					

上野学園大学 音楽専攻科

講義要旨

音楽文化研究-1

教授 上尾信也

科目コード : MUS503

対象コース/専門/学年 : 音楽学専攻

形態 : 演習

単位数 : 3 単位

概要 音楽学・音楽史での研鑽を通じて、各自選んだテーマで研究を行う。論文のかたちにとまとめ、口頭での要約発表を行うことを目標とする。

到達目標 文献調査と整理の基本的スキル、音楽に関わる外国語によるコミュニケーション、および自己の考えのプレゼンテーション能力を鍛錬する。

授業計画

【AL】

回	内容	事前	事後	時間
第1回	論文とは	過去の卒業論文の検索	IPACでの検索法を学ぶ	110分 170分
第2回	論文の意義・構成・書法	論文の書き方を用意する	論文の書き方に従って、参考文献表をつくる	110分 170分
第3回	研究の進め方1: テーマ	関心のあるテーマを箇条書きにする	それぞれのテーマについてのキーワードを考え、検索する	110分 170分
第4回	研究の進め方2: 仮説と証明	検索に当たった論文を読んでみる	授業で参考となった論文を書法の点から分析する	110分 170分
第5回	文献調査の実際1: 文献の性格	関心のある分野のキーワードを考える	様々なデータベースの文献検索を試みる	110分 170分
第6回	文献調査の実際2: 整理法	文献検索の結果を電子媒体に保存する	ワード、電子媒体の保存ファイルを作成する	110分 170分
第7回	非文献資料の活用	非文献資料とは何か調査する	非文献資料の実際を調査する	110分 170分
第8回	楽譜資料の扱い方: 楽譜の性格	『新グローヴ世界音楽大事典』などから「記譜法」「楽譜」の項目を読む	関心のある作品の楽譜を調査する(petrucci)	110分 170分
第9回	楽譜資料の扱い方: 楽譜の活用	Petrucciの検索結果を整理する	対象楽譜の性格を、作曲家の作品全集・目録より整理する	110分 170分
第10回	文献調査実習の方法と構成との関連	研究テーマを決める、研究の進め方を確認する、キーワードを整理する	研究テーマからどのような論理展開にするかを考える、何がポイントかを整理する	110分 170分
第11回	実習: 文献調査1: 日本語文献	先行研究を調査する(広い範囲で)	日本語文献の検索調査、整理	110分 170分
第12回	実習: 文献調査2: 外国語文献	日本語文献で参照引用されていた原文を調査する	外国語文献の検索調査、整理	110分 170分
第13回	実習: 文献調査3: インターネットの活用	必要不必要な文献、重要度を見定める	中間発表用のレジュメをつくってみる	110分 170分
第14回	中間報告1: レジュメ	中間発表用のレジュメの整理と制作、参考文献リスト	レジュメ以外の資料を整理	110分 170分
第15回	中間報告2: 口頭発表	口頭報告の準備	口頭報告の指摘の整理、再構築	80分 200分

フィードバック 各回の質疑応答

成績評価 受講状況と、研究発表、レポート

テキスト 参考文献はその都度提示する

オフィスアワー 授業終了後

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	プレゼンテーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	

音楽文化研究-2

教授 上尾信也

科目コード：MUS504

対象コース／専門／学年：音楽学専攻

形態：演習

単位数：3単位

概要 音楽学・音楽史での研鑽を通じて、各自選んだテーマで研究を行う。論文のかたちにもとめ、口頭での要約発表を行うことを目標とする。

到達目標 文献調査と整理の基本的スキル、音楽に関わる外国語によるコミュニケーション、および自己の考えのプレゼンテーション能力を鍛錬する。

授業計画

【AL】

第1回	論文とは	事前 過去の卒業論文の検索 事後 IPACでの検索法を学ぶ	110分 170分
第2回	新たな課題の提起：構成と文献整理	事前 文献の読み込み 事後 文献の読み込み	140分 140分
第3回	実習：構成と文献整理1：目次作成	事前 文献の読み込み 事後 文献の読み込みと整理	140分 140分
第4回	実習：構成と文献整理2：参考文献と引用文献	事前 文献の読み込みと整理 事後 文献の読み込みと整理	140分 140分
第5回	実習：構成と文献整理3：概要	事前 文献の読み込みと整理 事後 文献の読み込みと整理	140分 140分
第6回	実習：構成と文献整理4：各論	事前 文献の読み込みと整理 事後 文献の読み込みと整理	140分 140分
第7回	実習：構成と文献整理5：注	事前 文献の読み込みと整理 事後 文献の読み込みと整理	140分 140分
第8回	実習：論文作成1：ワードなどのツール活用	事前 文献の整理 事後 草稿作成	140分 140分
第9回	実習：論文作成2：ツールを用いた実習	事前 草稿作成 事後 草稿作成	140分 140分
第10回	実習：論文作成3：概要	事前 草稿作成 事後 草稿作成	140分 140分
第11回	実習：論文作成4：注記と参考・引用文献	事前 草稿作成 事後 原稿校正	140分 140分
第12回	実習：要旨作成と発表レジュメ	事前 原稿作成 事後 原稿完成	140分 140分
第13回	実習：校正と再考	事前 要旨作成 事後 資料整理	170分 110分
第14回	論文発表の方法	事前 発表用原稿の作成 事後 発表用原稿の校正	170分 110分
第15回	論文発表の実際	事前 準備 事後 発表後の訂正	200分 80分

フィードバック 各回の質疑応答

成績評価 受講状況と、研究発表、レポート

テキスト 参考文献はその都度提示する

オフィスアワー 授業終了後

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経歴・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	プレゼンテーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

楽曲・演奏研究-1 (器楽)

ピアノ部会主任 教授 山崎紫乃

科目コード: IND503

対象コース/専門/学年: 器楽専攻

形態: 演習

単位数: 2 単位

概要 音楽専攻科での研究テーマを決定し、それに基づく多角的な追求を行う講義である。主に楽曲分析や演奏技術について考える。

到達目標 理論的な部分での理解を深めることにより、演奏表現の向上に結びついていく過程を学び、演奏するというこの本質について考え、より内容の伴った表現へつなげていくことを目標とする。

授業計画

第1回	研究目標の設定	事前 自己の現状を分析し、得意分野または学習研究したい分野を考える。 事後 担当教官の意見を参考に研究目標を設定。	110 分 170 分
第2回	プログラムの検討	事前 目標を明確にする。 事後 担当教官との意見交換を基にプログラムを設定。	110 分 170 分
第3回	読譜の諸注意	事前 設定したプログラムの読譜。 事後 音読み、指使いの研究。	110 分 170 分
第4回	基礎的演奏技術	事前 指使いの設定。 事後 効果的な技術の反復練習。	110 分 170 分
第5回	形式の把握	事前 作品の構成を把握する。 事後 構成の整理をし、作品の内容や方向性について考察する。	110 分 170 分
第6回	楽曲分析	事前 和声進行の把握と形式のさらなる理解を深める。 事後 和声進行、フレーズ、形式を明確にし、作品の全体像をつかむ。	110 分 170 分
第7回	演奏技術の発展	事前 必要な演奏技術の反復練習。 事後 効果的な反復練習。	110 分 170 分
第8回	手指、腕、身体の使い方	事前 身体全体を意識して反復練習。 事後 作品表現に相応しい、効果的な身体の使い方の研究。	110 分 170 分
第9回	音量、音質、音色	事前 作品の持つ性格、内容を考え、音や響きのイメージネーションを深める。 事後 求められている音、響きを追求する。	110 分 170 分
第10回	作曲家について	事前 作曲家について調べる。 事後 作曲家がしたかった事は何か考察する。	110 分 170 分
第11回	時代背景	事前 作曲家の生きた時代について調べる。 事後 時代が作曲家に与えた影響を考察する。	110 分 170 分
第12回	文化的背景	事前 作曲家の生きた時代の様々な文化について調べる。 事後 作曲家が音楽において何をしたかったか考察する。	110 分 170 分
第13回	作品の内容、構成	事前 作曲家や時代の理解を基に具体的な作品理解を深める。 事後 作曲家の意図を考え、作品の表現について明確なビジョンを持つ。	110 分 170 分
第14回	テンポ感、リズムについて	事前 作品に相応しいテンポの設定、正しいリズムの習得。 事後 作品が表現されるために相応しいテンポやリズム感を徹底する。	110 分 170 分
第15回	仕上げとまとめ	事前 技術の反復練習、音色を追求。 事後 担当教官のアドバイスを基により相応しい奏法を追求する。	110 分 170 分

フィードバック 最後の《仕上げとまとめ》について、担当教員がコメントによりフィードバックする。

成績評価 平常点、授業への取り組みと修了演奏会における成果による。

テキスト 授業内で指示

オフィスアワー 各担当教員のオフィス・アワーによる。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・目的意識	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

楽曲・演奏研究-2（器楽）

ピアノ部会主任 教授 山崎紫乃

科目コード：IND504

対象コース／専門／学年：器楽専攻

形態：演習

単位数：2単位

概要 音楽専攻科での研究テーマに基づきプログラムを定め、更なる研究を推し進める。
主に表現方法や響きについて考える。

到達目標 研究により理解が深まることで、演奏の室が向上していくことを学び、それを音として結実させ、今後の演奏活動の礎になる部分を養うことを目標とする。

授業計画

第1回	奏法の工夫	事前 作品を総合的な視点を持って反復練習。 事後 現状を把握し、担当教員のアドバイスを参考に今後の学習計画を立てる。	110分 170分
第2回	表現の可能性	事前 作品の内容をより深く研究する。 事後 表現法の研究。	110分 170分
第3回	演奏技術の錬磨	事前 作品に相応しい技術を工夫する。 事後 担当教員のアドバイスを基に技術の見直しと反復練習。	110分 170分
第4回	ペダルの確認	事前 様式に合ったペダルの使い方が出来ているか確認する。 事後 効果的なペダリングの研究。	110分 170分
第5回	響き、音色の錬磨	事前 作品に相応しい音色や響きのイメージを明確にする。 事後 求められる響きが出ているか確認しながら練習。	110分 170分
第6回	様式の確認	事前 時代背景、文化的背景を復習して、作曲家ごとの様式を明確にする。 事後 様式に合った演奏を追求する。	110分 170分
第7回	表現の工夫	事前 様々な視点から作品の表現を追求する。 事後 技術、奏法、リズム、呼吸を確認。	110分 170分
第8回	表現の掘り下げ	事前 作品ごとの具体的なイメージを毎各にする。 事後 イメージが演奏に反映されているか確認しながら練習する。	110分 170分
第9回	バランス（音量、響き）	事前 作品の全体像を意識して音量や響きのバランスを聴く。 事後 担当教員のアドバイスを基に客観的な耳でバランスを調整する。	110分 170分
第10回	バランス（テンポ）	事前 作品に相応しいテンポ設定を追求する。 事後 担当教員のアドバイスを基にさらに表現に相応しいテンポの追求。	110分 170分
第11回	全体構成の確認	事前 作品のまとまりを確認しながら練習。 事後 担当教員のアドバイスを基に作品全体のバランスを整える。	110分 170分
第12回	音、響きの表情	事前 自分の演奏表現に必要な音を追求する。 事後 より魅力的かつバランスのとれた音の追求。	110分 170分
第13回	作曲家、作品について再確認	事前 総合的な視点で作品を見直す。 事後 形式、様式に相応しい演奏表現を徹底する。	110分 170分
第14回	演奏の諸要素について確認	事前 技術、表現を徹底する。 事後 担当教員のアドバイスを基に演奏表現の徹底。	110分 170分
第15回	仕上げまとめ	事前 総合的な学習を基に仕上げ練習。 事後 演奏表現における成果を確認。	110分 170分

フィードバック 最後の《仕上げとまとめ》について、担当教員からのコメントによりフィードバックする。

成績評価 平常点、授業への取り組みと修了演奏会における成果による。

テキスト 授業内で指示

オフィスアワー 各担当教員のオフィス・アワーによる。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

楽曲・演奏研究-1 (声楽)

声楽コース部会主任 教授 吉田伸昭

科目コード：IND503

対象コース/専門/学年：声楽専攻

形態：演習

単位数：2 単位

概要 個人レッスン(複数の場合はグループレッスン)
演奏と並行して作品の研究に努める。

到達目標 ①年間を通じてテーマを決め、それらの楽曲を深く解釈・研究する。
②またそれらを演奏するにあたって必要な技術を習得する。

授業計画 学生各自の学習の進捗や特性を踏まえつつ、複数の担当教員が話し合いながら、最適な指導プログラムを随時適用する

第1回	ガイダンス・各自の研究計画を立てる	事前 大学4年間での学修を確認し研究テーマを練る 事後 研究テーマを確認し、楽譜等の準備をする	140分 140分
第2回	レパートリーの拡大 歌曲	事前 次回のレッスン予定の歌曲の譜読みをする(言葉の意味を調べる) 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	140分 140分
第3回	レパートリーの確立 歌曲	事前 次回のレッスン予定の歌曲の練習を重ねる(作品研究) 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	140分 140分
第4回	レパートリーの拡大 オペラアリア	事前 次回のレッスン予定のオペラアリアの譜読みをする(言葉の意味を調べる) 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	140分 140分
第5回	レパートリーの確立 オペラアリア	事前 次回のレッスン予定のオペラアリアの譜読みをする(作品研究) 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	140分 140分
第6回	レパートリーの拡大 宗教曲	事前 次回のレッスン予定の宗教曲の譜読みをする(言葉の意味を調べる) 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	140分 140分
第7回	レパートリーの確立 宗教曲	事前 次回のレッスン予定の宗教曲の譜読みをする(作品研究) 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	140分 140分
第8回	前期試演会のプログラム作成	事前 次回のレッスン予定の楽曲の練習を重ねる (言語のディクッションに留意する) 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	140分 140分
第9回	前期試演会のプログラムの試演と確定	事前 次回のレッスン予定の楽曲の練習を重ねる (言語のディクッションに留意する) 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	140分 140分
第10回	選択した複数の楽曲につき正確な読譜と詩の解釈を進める	事前 次回のレッスン予定の楽曲の練習を重ねる 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	140分 140分
第11回	上記に基づき演奏の深化をはかる	事前 次回のレッスン予定の楽曲の練習を重ねる (音楽的な表現に留意する) 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	140分 140分
第12回	問題点の認識と解決をはかる	事前 次回のレッスン予定の楽曲の練習を重ねる (音楽的な表現に留意する) 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	140分 140分
第13回	ピアノ伴奏を伴い楽曲の研究を深める	事前 事前にピアニストと伴奏合わせをする 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	140分 140分
第14回	暗譜の上、表現の発展、演奏の質の向上をはかる	事前 伴奏合わせを重ねる 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	140分 140分
第15回	試演会とまとめ	事前 伴奏合わせを重ね、暗譜の確認、表現の確立をはかる 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	140分 140分

フィードバック 試演会後に、面談し前期を振り返り成果と課題について話し合う

成績評価 試演会 60% 取り組み 40%

テキスト 曲目は個々の状況に合わせて、適宜選択する

オフィスアワー 各教員の出校日、各教員のレッスン室

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>						

楽曲・演奏研究-2 (声楽)

声楽コース部会主任 教授 吉田伸昭

科目コード：IND504

対象コース/専門/学年：声楽専攻

形態：演習

単位数：2 単位

概要 個人レッスン(複数の場合はグループレッスン)
演奏と並行して作品の研究に努める。

到達目標 ①年間を通じてテーマを決め、それらの楽曲を深く解釈・研究する。
②またそれらを演奏するにあたって必要な技術を習得する。
③①の研究に則し、演奏の完成度を高める。

授業計画 学生各自の学習の進捗や特性を踏まえつつ、複数の担当教員が話し合いながら、最適な指導プログラムを随時適用する

第1回	前期成果の確認と後期の学習計画を立てる	事前 前期の学修を確認し学習計画を練る 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	140分 140分
第2回	異なる時代、異なる言語による作品の比較研究① バロックを中心に	事前 次回のレッスン予定の楽曲の練習を重ねる(作品について調べる) 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	140分 140分
第3回	異なる時代、異なる言語による作品の比較研究② 古典派を中心に	事前 次回のレッスン予定の楽曲の練習を重ねる(作品について調べる) 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	140分 140分
第4回	異なる時代、異なる言語による作品の比較研究③ ロマン派前期を中心に	事前 次回のレッスン予定の楽曲の練習を重ねる(作品について調べる) 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	140分 140分
第5回	異なる時代、異なる言語による作品の比較研究④ ロマン派後期を中心に	事前 次回のレッスン予定の楽曲の練習を重ねる(作品について調べる) 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	140分 140分
第6回	異なる時代、異なる言語による作品の比較研究⑤ 近・現代を中心に	事前 次回のレッスン予定の楽曲の練習を重ねる(作品について調べる) 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	140分 140分
第7回	各々の声のカテゴリを踏まえ、複数の課題楽曲を選択する	事前 次回のレッスン予定の楽曲の練習を重ねる(言葉のディクシオンに留意) 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	140分 140分
第8回	選択した楽曲につき正確な読譜と詩の解釈を進める	事前 次回のレッスン予定の楽曲の練習を重ねる(言葉のディクシオンに留意) 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	140分 140分
第9回	上記に基づき演奏と作品研究の深化をはかる	事前 次回のレッスン予定の aria、あるいは歌曲の練習を重ねる (音楽的な表現に留意する) 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	140分 140分
第10回	問題点の認識と解決をはかる	事前 次回のレッスン予定の aria、あるいは歌曲の練習を重ねる (音楽的な表現に留意する) 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	140分 140分
第11回	ピアノ伴奏を伴い楽曲の研究を深める	事前 事前にピアニストと伴奏合わせをする 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	140分 140分
第12回	暗譜を確かなものにする	事前 伴奏合わせを重ねる 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	140分 140分
第13回	暗譜の上、楽曲の演奏内容を深める	事前 伴奏合わせを重ねる 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	140分 140分
第14回	暗譜の上、演奏の完成度を高める	事前 伴奏合わせを重ね、暗譜の確認、表現の確立をはかる 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	140分 140分
第15回	試演会とまとめ	事前 伴奏合わせを重ね、暗譜の確認、表現の確立をはかる 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	140分 140分

フィードバック 試演会後に、面談し後期を振り返り成果と課題について話し合う

成績評価 試演会 60% 取り組み 40%

テキスト 曲目は個々の状況に合わせ、適宜選択する

オフィスアワー 各教員の出校日、各教員のレッスン室

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>						

ヨーロッパ古典語研究-1

※大学音楽学部「ラテン語-1」を履修のこと

教授 上尾信也

科目コード：REA501

対象コース/専門/学年：音楽学専攻

形態：講義	単位数：2単位
概要	西洋の音楽文化を学ぶ者にとって基礎となるラテン語を、初級を復習しつつ中世ラテン語まで学ぶ。グレゴリオ聖歌を始めとして教会に関わる音楽のみならず、ラテン語を用いた音楽の叙述や音楽作品の研究の土台となるべく、中世ラテン語によるウルガタ版聖書なども講読し実践的な面も考慮し理解していく。大学でラテン語を履修していたことを必須とする。

到達目標	辞書を使いラテン語の大きな意味が取れること。音楽作品に用いられるラテン語歌詞の発音ができること。ラテン語から派生したヨーロッパ系言語の語彙を把握し、西洋文化の「コイネ」(共通性)の意識を持てること。
------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------

授業計画			
【AL】			
第1回	ガイダンス、ラテン語とは:グレゴリオ聖歌から	事前 教会の典礼書を用いグレゴリオ聖歌を聞いてくる。 事後 教会の典礼書を用いグレゴリオ聖歌を歌ってみる	135分 135分
第2回	字母・発音・音節・アクセント	事前 第2回目の範囲を一読 事後 第2回目の復習	135分 135分
第3回	名詞と形容詞	事前 第3回目の範囲を一読 事後 第3回目の復習	135分 135分
第4回	動詞	事前 第4回目の範囲を一読 事後 第4回目の復習	135分 135分
第5回	代名詞	事前 第5回目の範囲を一読 事後 第5回目の復習	135分 135分
第6回	分詞・動名詞・動形容詞	事前 第6回目の範囲を一読 事後 第6回目の復習	135分 135分
第7回	代名詞2・その他	事前 第7回目の範囲を一読 事後 第7回目の復習	135分 135分
第8回	様々な構文	事前 第8回目の範囲を一読 事後 第8回目の復習	135分 135分
第9回	格のまとめ	事前 第9回目の範囲を一読 事後 第9回目の復習	135分 135分
第10回	トレーニング 名詞と形容詞 動詞	事前 第10回目の範囲を一読 事後 第10回目の復習	135分 135分
第11回	トレーニング 代名詞 分詞・動名詞・動形容詞	事前 第11回目の範囲を一読 事後 第11回目の復習	135分 135分
第12回	中世ラテン語とウルガタ版聖書	事前 第12回目の範囲を一読 事後 第12回目の復習	135分 135分
第13回	旧約聖書の「詩篇」と詩篇唱	事前 第13回目の範囲を一読 事後 第13回目の復習	135分 135分
第14回	聖務日課書とミサ典礼書とグレゴリオ聖歌	事前 第14回目の範囲を一読 事後 第14回目の復習	135分 135分
第15回	中世から現代までのミサ曲を比較してみる。	事前 事前に対象となるミサ曲を数曲用意する 事後 夏期課題に備える	135分 135分

フィードバック 随時行う小テストやコメントリーポートの回答を行いつつ疑問質問意見に答えていく

成績評価 小テスト (10%)、コメントリーポート (20%)、夏期課題 (30%)、期末試験 (40%)

テキスト 山下太郎『しっかり学ぶ初級ラテン語 (Basic Language Learning Series)』(ペレ出版)
 山下太郎『しっかり身につくラテン語トレーニングブック (Basic Language Learning Series)』(ペレ出版)
 課題テキストや参考文献、辞書についてはその都度提示する。以下も参照する。
 松本悦治『ラテン語入門』(駿河台出版)
 有田潤『インデックス式ラテン文法表』(白水社)
 国原吉之助『中世ラテン語入門』(南江堂)

オフィスアワー 授業後

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

ヨーロッパ古典語研究-2

※大学音楽学部「ラテン語-2」を履修のこと

教授 上尾信也

科目コード：REA502

対象コース/専門/学年：音楽学専攻

形態：講義	単位数：2単位
概要	西洋の音楽文化を学ぶ者にとって基礎となるラテン語を、初級を復習しつつ中世ラテン語を学ぶ。教会に関わる音楽のみならず、ラテン語を用いた音楽の叙述や音楽作品の研究の土台となるべく、中世ラテン語によるウルガタ版聖書や歴史文献なども講読し実践的な面も考慮し理解していく。大学でラテン語を履修していたこと、ヨーロッパ古典語研究1の修得を必須とする。

到達目標	辞書を使いラテン語の大まかな意味が取れること。音楽作品に用いられるラテン語歌詞の発音ができること。ラテン語から派生したヨーロッパ系言語の語彙を把握し、西洋文化の「コイネ」(共通性)の意識を持てること。
------	------------------------------------------------------------------------------------------------------

授業計画		
【AL】		
第1回	ガイダンス、中世ラテン語と各国語	事前 欧米語でラテン語が語源の言葉を調べて来る 事後 「モットー」について調べてみる
第2回	中世ラテン語の綴と音声、語彙、語形	事前 第2回目の範囲を一読 事後 第2回目の復習
第3回	中世ラテン語文法1 文法的な一致、格	事前 第3回目の範囲を一読 事後 第3回目の復習
第4回	前置詞、代名詞、形容詞・副詞	事前 第4回目の範囲を一読 事後 第4回目の復習
第5回	動詞	事前 第5回目の範囲を一読 事後 第5回目の復習
第6回	法	事前 第6回目の範囲を一読 事後 第6回目の復習
第7回	接続詞、従属文、関係文	事前 第7回目の範囲を一読 事後 第7回目の復習
第8回	『黄金伝説』を読む1 Jacobus a Voragine, Legenda Aurea より「クリストファロス」	事前 第8回目の範囲を一読 事後 第8回目の復習
第9回	『黄金伝説』を読む2 Jacobus a Voragine, Legenda Aurea より「ヒエロニムス」	事前 第9回目の範囲を一読 事後 第9回目の復習
第10回	ソールズベリーのジョンを読む1 Johannes Salesberiensis, Polycraticus	事前 第10回目の範囲を一読 事後 第10回目の復習
第11回	ソールズベリーのジョンを読む2 Johannes Salesberiensis, Polycraticus	事前 第11回目の範囲を一読 事後 第11回目の復習
第12回	アンドレアス・カペラス『愛について』を読む Andreas Cappelanus, De Amore	事前 第12回目の範囲を一読 事後 第12回目の復習
第13回	実践的研究の紹介1「楽器論」～中世ラテン語の理論書から「オルガン」とは何かを探る	事前 第13回目の範囲を一読 事後 第13回目の復習
第14回	実践的研究の紹介2「楽器論」～中世ラテン語の語彙が他の言語にどのようにで伝播しているかを探る	事前 第14回目の範囲を一読 事後 第14回目の復習
第15回	まとめ、資料としての古典語(冬期課題の発表)	事前 冬期課題の研究 事後 冬期課題の発表

フィードバック 随時行う小テストやコメントリーポートの回答を行いつつ疑問質問意見に答えていく

成績評価 小テスト(10%)、コメントリーポート(20%)、冬期課題(30%)、期末試験(40%)

テキスト 山下太郎『しっかり学ぶ初級ラテン語(Basic Language Learning Series)』(ペレ出版)
 山下太郎『しっかり身につくラテン語トレーニングブック(Basic Language Learning Series)』(ペレ出版)
 課題テキストや参考文献、辞書についてはその都度提示する。以下も参照する。
 松本悦治『ラテン語入門』(駿河台出版)
 有田潤『インデックス式ラテン文法表』(白水社)
 国原吉之助『中世ラテン語入門』(南江堂)

オフィスアワー 授業後

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

専門実技-1 (ピアノ)

ピアノ部会主任 教授 山崎紫乃

科目コード: IND501

対象コース/専門/学年: 器楽専攻/ピアノ専門

形態: 実技

単位数: 3 単位

概要 各自自由に選択したテーマに基づき、プログラムを決め、個人レッスンにより深く掘り下げた研究を積み重ねる。

到達目標 各自の目指す演奏を自発的に追究していく力を養い、鍛錬を積み重ねていく過程で自己の演奏に対する自覚と責任を持ち、より内容の深い演奏表現に結びつけることを目標とする。

授業計画 前期 15 回 各人 120 分の個人指導

第 1 回	学習計画と研究テーマの選択	事前 自己分析を通して研究テーマを検討。 事後 担当教員のアドバイスを基にテーマを設定する。	420 分 420 分
第 2 回	演奏作品の検討	事前 得意なもの、追求したい事などを目的を持って演奏作品を検討する。 事後 担当教員との協議を基に演奏プログラムを決定する。	420 分 420 分
第 3 回	作曲家の研究	事前 作曲家について多角的に調べる。 事後 作曲家の理解を深める。	420 分 420 分
第 4 回	歴史的背景について	事前 作曲家の生きた時代について多面的に調べる。 事後 歴史が作曲家に与えた影響など調べ、作品への理解と結びつけて考察する。	420 分 420 分
第 5 回	文化的背景について	事前 文化の推移、変容について調べる。 事後 作曲家の生きた時代の文化と、それがどのように反映されているかについて幅広く調べる。	420 分 420 分
第 6 回	作曲家の様式、作曲技法について	事前 文化的背景を基に、音楽的時代背景を調べる。 事後 作品の中にある音楽的特徴を基に、相応しい演奏法を考える。	420 分 420 分
第 7 回	他の作曲家、作曲技法との比較研究	事前 様々な作曲家について調べる。 事後 文化的背景、時代背景による作品の表現内容の違いについて理解を深める。	420 分 420 分
第 8 回	読譜の諸注意	事前 指使い、テンポ設定、フレージングを考える。 事後 担当教員のアドバイスを基に徹底研究。	420 分 420 分
第 9 回	技術的問題への取り組み	事前 作品における演奏技術の確認。 事後 問題のある技術について担当教員のアドバイスを基に反復練習。	420 分 420 分
第 10 回	楽曲分析	事前 和声進行、フレージングの確認。 事後 和声進行の把握を徹底し、フレーズや全体像をつかむ。	420 分 420 分
第 11 回	作品の構成と内容理解	事前 楽曲分析を基に全体像を把握する。 事後 作品の内容を確認し、全体像をより明確にする。	420 分 420 分
第 12 回	表現	事前 作品の内容に相応しい表現の研究。 事後 担当教員のアドバイスを基に表現法の研究。	420 分 420 分
第 13 回	表現の掘り下げ	事前 相応しい表現のための奏法を工夫する。 事後 表現できているか自己点検しながら練習。	420 分 420 分
第 14 回	奏法の確認	事前 演奏表現に相応しい奏法が自己点検。 事後 担当教員のアドバイスを基に、より相応しい奏法の探求。	420 分 420 分
第 15 回	研究のまとめと発表	事前 学習した事をまとめて反復練習。 事後 演奏における自己点検と課題の確認。	420 分 420 分

フィードバック 《研究のまとめと発表》後、担当教員よりコメントを聞くことができる。

成績評価 平常点および課題への取り組み方による。

テキスト 各自の定めたプログラムを中心に、その他担当教員の指示、指導による。

オフィスアワー レッスン終了後、各実技担当者レッスン室にて受け付ける。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・目的意識	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>						

専門実技-2 (ピアノ)

ピアノ部会主任 教授 山崎紫乃

科目コード：IND502

対象コース/専門/学年： 器楽専攻/ピアノ専門

形態：実技

単位数：3単位

概要 各自の定めたプログラムに基づき、個人レッスンにより、より専門的な研究を推し進め、音楽専攻科終了演奏会に向けて準備をする。

到達目標 テーマを深く掘り下げて研究していく中で、自己の目指す演奏について考え、自発的に追究し、自らの意思と責任を持った演奏表現に結実させていくことを目標とする。

授業計画 後期 15回 各人 120分の個人指導

第1回	研究テーマと演奏プログラムの再検討	事前 最終演奏発表に向けて、現状を分析した上で課題を確認する。 事後 担当教員との協議の上、決定。	420分
第2回	様式の再確認	事前 作品の様式について多面的に考察する。 事後 様式に沿った演奏が表現できているか確認する。	420分
第3回	作品の構成と内容理解の徹底	事前 作品を再研究しビジョンを明確にする。 事後 担当教員のアドバイスを基に作品とその表現法を明確にする。	420分
第4回	演奏技術の錬磨	事前 技術的な問題解決のための反復練習。 事後 作品の表現に相応しい技術の反復練習。	420分
第5回	音色、響きの追求	事前 作品の表現に相応しい音や響きを工夫する。 事後 効果的な身体の使い方や奏法を工夫し、音色や響きの探求。	420分
第6回	手指、腕、身体の使い方の確認と工夫	事前 効果的な身体の使い方の徹底。 事後 担当教員のアドバイスを基に更なる探求と徹底。	420分
第7回	奏法の工夫	事前 立体的かつ豊かな表現を目指してタッチの工夫。 事後 作品表現に相応しい奏法の探求と反復練習。	420分
第8回	ペダルの確認	事前 音楽の輪郭、響きを良く聴きながらペダルの技術を研究。 事後 音楽に相応しいペダルの決定と、徹底練習。	420分
第9回	表現の工夫	事前 作品の表現の探求。 事後 様式、形式を踏まえた相応しい表現の追求と徹底。	420分
第10回	表現の正確さ、自在さ	事前 自分の表現となるよう徹底した反復練習。 事後 相応しい表現を確信もって出来るよう徹底練習。	420分
第11回	全体バランスの調整	事前 よく聴きながら練習。 事後 担当教員のアドバイスを基に全体のバランスを調整する。	420分
第12回	暗譜の確認	事前 楽譜を再確認し音楽の全体像を明確にする。 事後 作品を正確に魅力的に再現できているか確認しながら反復練習。	420分
第13回	諸要素の見直し	事前 仕上げに向けて細部を確認しながら反復練習。 事後 細部を確認しながら調整と徹底練習。	420分
第14回	演奏への最終確認	事前 自在な演奏を目指し反復練習。 事後 演奏会をイメージしながら調整と練習。	420分
第15回	成果発表 (音楽専攻科修了演奏会)	事前 演奏会をイメージしながら演奏。 事後 作品表現の実践。	420分

フィードバック 音楽専攻科修了演奏会后、担当教員および審査員のコメントを聞くことができる。

成績評価 音楽専攻科修了演奏会に出演し、実技演奏試験の評価を受ける。

テキスト 各自の定めたプログラムを中心にその他担当教員の指示、指導による。

オフィスアワー レッスン終了後、各実技担当者レッスン室にて受け付ける。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・目的発働能力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>						

専門実技-1 (弦楽器)

弦楽部会主任 准教授 佐藤まどか

科目コード：IND501

対象コース／専門／学年： 器楽専攻／弦楽器専門

形態：実技 単位数：3 単位
 概要 音楽の解釈力や楽器を通しての表現力、演奏技術の向上をめざし、また幅広いレパートリーに対しての様式感、形式感を養う。

到達目標 パロックから現代までの音楽に対する様式感を有し、自らの力で解釈すること、そして、その表現が楽器を通して発揮できるスキルを身につける。

授業計画		前期 15 回 各人毎週 120 分の個人指導 実技演習全てにおいて、各人の進度に合わせて授業を進める。・読譜力と分析・解釈力 ・調性感、和声感、拍節感、フレーズ感、アーティキュレーション ・正しい運指 ・音質に見合った弦使い ・適切な弦のポジション ・他の楽曲も取り上げ、楽曲の解釈・演奏能力の拡大を図る。	
第 1 回	各個人の学習計画を立てる	事前 事後	これまでの学修を確認し、最終学年の学修計画案をたてる。 学修計画を確認し、楽譜等、今後必要な準備をする。 420 分 420 分
第 2 回	エチュード、曲 自然な音の探求	事前 事後	課題に対し、時代背景、様式感を、文献によって確認し、実践に向けて練習する。 420 分 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。 420 分
第 3 回	エチュード、曲 正確な読譜	事前 事後	課題に対し、和声、楽譜を見ながら分析し、実践に向けて練習する。 420 分 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。 420 分
第 4 回	エチュード、曲 奏法上の問題点の解決	事前 事後	音色の変化や表現のために、奏法上の問題点を洗い出し、練習しておく。 420 分 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。 420 分
第 5 回	エチュード、曲 形式、和声感	事前 事後	課題の形式について、文献を読み、把握しておく。 420 分 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。 420 分
第 6 回	エチュード、曲 様式感を学ぶ	事前 事後	曲の全体像から、立体的な表現につながるよう、効果的に演奏できる工夫をする。 420 分 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。 420 分
第 7 回	エチュード、曲 表現力、想像力の発展	事前 事後	ピアノとの合わせを行っておく。 420 分 アンサンブル上の問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。 420 分
第 8 回	エチュード、曲 仕上げ ピアノ伴奏とともに	事前 事後	暗譜の確認。ピアノとの合わせを行っておく。 420 分 課題曲 I の反省と、次回の課題を確認する。 420 分
第 9 回	課題曲 A バロック期 正確な読譜と、様式感について	事前 事後	試験課題の時代背景、様式感を、文献によって確認し、実践に向けて練習する。 420 分 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。 420 分
第 10 回	課題曲 A バロック期 形式、和声感を学ぶ	事前 事後	試験課題に対し、形式、和声、楽譜を見ながら分析し、実践に向けて練習する。 420 分 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。 420 分
第 11 回	課題曲 A バロック期 奏法上の問題点の解決	事前 事後	試験課題に対し、技術的な奏法上の問題点を練習する。 420 分 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。 420 分
第 12 回	課題曲 B 古典派 正確な読譜と、様式感について	事前 事後	音色の変化や表現のために、奏法上の問題点を洗い出し、練習しておく。 420 分 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。 420 分
第 13 回	課題曲 B 古典派 形式、和声感を学ぶ	事前 事後	無伴奏作品ならではの効果を把握しておく。 420 分 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。 420 分
第 14 回	課題曲 B 古典派 奏法上の問題点の解決	事前 事後	体感しながら演奏できるように、練習する。 420 分 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。 420 分
第 15 回	前期まとめ	事前 事後	暗譜の確認。 420 分 前期の反省と、次回の課題を確認する。 420 分

フィードバック 音楽専攻科修了演奏会後、あるいは必要に応じて、指導担当者および共演担当者よりコメントをフィードバックする。

成績評価 音楽専攻科修了演奏会に出演し、実技演奏試験の評価を受ける。

テキスト 個人の音楽的、技術的問題点を解決すべく課題曲を選定するため、曲目は、適宜、指導教員と相談の上、決定する。

オフィスアワー レッスン終了後、各担当教員レッスン室において

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	プレゼンテーション技能	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

専門実技-2 (弦楽器)

弦楽部会主任 准教授 佐藤まどか

科目コード：IND502

対象コース／専門／学年： 器楽専攻／弦楽器専門

形態：実技	単位数：3 単位
概要	音楽の解釈力や楽器を通しての表現力、演奏技術の向上をめざし、また幅広いレパートリーに対しての様式感、形式感を養う。

到達目標	バロックから現代までの音楽に対する様式感を有し、自らの力で解釈すること、そして、その表現が楽器を通して発揮できるスキルを身につける。
------	--------------------------------------------------------------------

授業計画		後期 15 回 各人毎週 120 分の個人指導 実技演習全てにおいて、各人の進度に合わせて授業を進める。・読譜力と分析・解釈力 ・調性感、和声感、拍節感、フレーズ感、アーティキュレーション ・正しい運指 ・音質に見合った弦使い ・適切な弦のポジション ・他の楽曲も取り上げ、楽曲の解釈・演奏能力の拡大を図る。	
第 1 回	課題曲 C ロマン派小品 正確な読譜と、様式感について	事前 前期までの学修を確認し、学修計画案をたてる。 事後 学修計画を確認し、楽譜等、後期に必要な準備をする。	420 分 420 分
第 2 回	課題曲 C ロマン派小品 形式、和声感を学ぶ	事前 課題に対し、時代背景、様式感を、文献によって確認し、実践に向けて練習する。 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分 420 分
第 3 回	課題曲 C ロマン派小品 奏法上の問題点の解決	事前 課題に対し、技術的に高度な奏法上の問題点を練習する。 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分 420 分
第 4 回	課題曲 D ロマン派コンチェルト 正確な読譜と、様式感について	事前 曲の全体像から、立体的な表現につながるよう、効果的に演奏できる工夫をする。 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分 420 分
第 5 回	課題曲 D ロマン派コンチェルト 形式、和声感を学ぶ	事前 集大成としての卒業試験課題曲を選曲するにあたり、各自の音楽的特徴、課題を把握する。 事後 課題曲の楽譜を準備し、譜読みをする。	420 分 420 分
第 6 回	課題曲 D ロマン派コンチェルト 奏法上の問題点の解決	事前 試験課題の時代背景、様式感を、文献によって確認し、実践に向けて練習する。 事後 後期試験の課題曲の楽譜を準備し、譜読みをする。	420 分 420 分
第 7 回	課題曲 E 近現代 正確な読譜と、様式感について	事前 試験課題に対し、形式、和声、楽譜を見ながら分析し、実践に向けて練習する。 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分 420 分
第 8 回	課題曲 E 近現代 形式、和声感を学ぶ	事前 音色の変化や表現のために、奏法上の問題点を洗い出し、練習しておく。 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分 420 分
第 9 回	課題曲 E 近現代 奏法上の問題点の解決	事前 聴衆、空間、残響などから、演奏する姿勢や、客観的な耳を養う。 事後 演奏が客観的に聴こえているか、確認しながら練習する。	420 分 420 分
第 10 回	リサイタルプログラム作成	事前 様式感からテンポ感や音色のイメージを確認し、実践につなげられるよう練習しておく。 事後 作曲者の意図から、音楽を深く読み込み、表現につながるよう練習する。	420 分 420 分
第 11 回	リサイタルプログラム 表現力を深める	事前 曲の全体像から、立体的な表現につながるよう、効果的に演奏できる工夫をする。 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分 420 分
第 12 回	リサイタルプログラム 効果的な演奏について学ぶ	事前 ピアノとの合わせを行っておく。 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分 420 分
第 13 回	リサイタルプログラム ベース配分を学ぶ	事前 ピアノとの合わせを行っておく。 事後 アンサンブル上の問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分 420 分
第 14 回	リサイタルプログラム アンサンブルの問題点を解決	事前 ピアノとの合わせを行っておく。 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分 420 分
第 15 回	仕上げ	事前 暗譜の確認。 事後 卒業演奏試験の反省、および今後の課題を確認する。	420 分 420 分

フィードバック	音楽専攻科修了演奏会后、あるいは必要に応じて、指導担当者および共演担当者よりコメントをフィードバックする。
---------	-------------------------------------------------------

成績評価	音楽専攻科修了演奏会に出演し、実技演奏試験の評価を受ける。
------	-------------------------------

テキスト	個人の音楽的、技術的問題点を解決すべく課題曲を選定するため、曲目は、適宜、指導教員と相談の上、決定する。
------	------------------------------------------------------

オフィスアワー	レッスン終了後、各担当教員レッスン室において
---------	------------------------

備考	
----	--

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用					意欲・経験・多様性								
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	

専門実技-1 (管打楽器)

管・打楽器部会主任 特任教授 三上明子

科目コード：IND501

対象コース/専門/学年： 器楽専攻/管打楽器専門

形態：実技

単位数：3 単位

概要 大学の4年間で培った実力に加えて、より深い探求を行うことをテーマとする。

到達目標 ①より高い演奏技術の習得 ②楽曲分析を演奏に活かす ③室内楽の経験を積む。

授業計画 前期 15 回 各人 120 分の個人指導

回	内容	事前	事後	420 分
第 1 回	レッスンの目標と進め方	入学までのまでの学修を確認し、学修計画案をたてる	学修計画を確認し、楽譜等今後必要な準備をする	420 分
第 2 回	基礎奏法の点検と発展①呼吸法について	基礎訓練的な練習の準備をする	問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	420 分
第 3 回	基礎奏法の点検と発展②正しい構え方	引き続き、問題箇所の是正に取り組む	問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	420 分
第 4 回	曲①様式を中心に	曲①の譜読みと準備に取り組む	曲①の様式についてさらに理解する	420 分
第 5 回	曲①形式、和声を中心に	曲①形式、和声について予習する	曲①形式、和声についてさらに理解する	420 分
第 6 回	曲①奏法を中心に	曲①奏法の予習	曲①奏法の復習	420 分
第 7 回	曲①表現の掘り下げ	曲①表現に取り組む	曲①の表現をさらに身に付ける	420 分
第 8 回	曲①仕上げ	曲①仕上げを目指す	曲①全般的に確認する	420 分
第 9 回	曲②様式を中心に	曲②の譜読みと準備に取り組む	曲②の様式についてさらに理解する	420 分
第 10 回	曲②形式、和声を中心に	曲②形式、和声について予習する	曲②形式、和声についてさらに理解する	420 分
第 11 回	曲②奏法を中心に	曲②奏法の予習	曲②奏法の復習	420 分
第 12 回	曲②表現の掘り下げ	曲②表現に取り組む	曲②の表現をさらに身に付ける	420 分
第 13 回	曲②仕上げ	曲②仕上げを目指す	曲②全般的に確認する	420 分
第 14 回	演奏発表	曲①曲②をまとめて演奏できるよう準備する	問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	420 分
第 15 回	前期のまとめ	前期の問題点についてふりかえる	前期の問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	420 分

フィードバック 各教員から学生へのフィードバックは、必要に応じて常に行われる。

成績評価 演奏技術や表現能力に平常点（レッスン受講態度等）を加味して総合的に評価する。

テキスト 担当教員の指示による。

オフィスアワー 授業後、担当教員の指示を受けること。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用					意欲・経歴・多様性							
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

専門実技-2 (管打楽器)

管・打楽器部会主任 特任教授 三上明子

科目コード：IND502

対象コース/専門/学年： 器楽専攻/管打楽器専門

形態：実技

単位数：3 単位

概要 専門実技-1 (管打楽器) で得た技術・表現力を、さらに高めてゆく。

到達目標 修了演奏において、専門実技-1 (管打楽器) で得た成果が披露できることを目標とする。

授業計画 後期 15 回 各人 120 分の個人指導

回数	内容	事前	事後	時間
第 1 回	後期レッスンの進め方の確認	後期の学修計画案をたてる。	学修計画を確認し、楽譜等今後必要な準備をする	420 分
第 2 回	基礎奏法の点検と発展③アンブシュア	基礎訓練的な練習の準備をする	問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	420 分
第 3 回	基礎奏法の点検と発展④基礎奏法	引き続き、問題個所の是正に取り組む	問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	420 分
第 4 回	修了演奏に向けての確認	修了演奏の内容を理解する	修了試験の試験曲の楽譜を準備する	420 分
第 5 回	修了演奏曲①奏法を中心に	修了試験曲①の譜読みと準備に取り組む	問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	420 分
第 6 回	修了演奏曲①様式を中心に	修了試験曲①の様式について予習する	問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	420 分
第 7 回	修了演奏曲②奏法を中心に	修了試験曲②の譜読みと準備に取り組む	問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	420 分
第 8 回	修了演奏曲②様式を中心に	修了試験曲②の様式について予習する	問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	420 分
第 9 回	修了演奏曲③奏法を中心に	修了試験曲③の譜読みと準備に取り組む	問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	420 分
第 10 回	修了演奏曲③様式を中心に	修了試験曲③の様式について予習する	問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	420 分
第 11 回	修了演奏曲④奏法を中心に	修了試験曲④の譜読みと準備に取り組む	問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	420 分
第 12 回	修了演奏曲④様式を中心に	修了試験曲④の様式について予習する	問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	420 分
第 13 回	修了演奏会に向けての準備	問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	420 分
第 14 回	修了演奏会に向けての確認	問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	420 分
第 15 回	一年のまとめ	一年間の取り組みの問題点を確認する	修了試験後の展望について考える	420 分

フィードバック 各教員から学生へのフィードバックは、必要に応じて常に行われる。また、修了演奏後には講評をする。

成績評価 音楽専攻科の修了演奏会に出演し、実技演奏試験の評価を受ける。

テキスト 担当教員の指示による。

オフィスアワー 授業後、担当教員の指示を受けること。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用					意欲・経歴・多様性							
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

専門実技-1 (オルガン・古楽)

教授 小林英之

科目コード : IND501

対象コース/専門/学年 : 器楽専攻/オルガン・古楽専門

形態 : 実技

単位数 : 3 単位

概要 履修する作品の演奏を通して、オルガンの様式との関連を学ぶ。

到達目標 各専門楽器で研究テーマを決め、それに応じた作品を中心にリサイタルプログラムを設定し、研究の成果を演奏に反映させる。(アンサンブルも含む) (この授業計画は目標であって、課題の難易度や取り組みの進捗状況に応じ、個々の課題に取り組む時間に増減があるものとする。)

授業計画 前期 15 回 各人 120 分の個人指導

第 1 回	ガイダンス。今年度の目標を立て、それに応じた演奏会用プログラムの設定。	事前 既習曲の一覧を用意する。 事後 楽譜を揃える。一種類の現代譜のみならず、オリジナルに近いものも可能な限り手に入れる。	210 分 210 分
第 2 回	作成した演奏会用プログラムの前半の準備 1 (技術的な課題)	事前 作品の構造を理解し、練習に役立てる。 事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。	210 分 210 分
第 3 回	作成した演奏会用プログラムの前半の準備 2 (より高度な技術的課題)	事前 うまくいかないところの奏法 (指使い等) を変えてみる。 事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。	210 分 210 分
第 4 回	作成した演奏会用プログラムの前半の準備 3 (表現力)	事前 該当作品の生まれた背景を調べる (時代) 事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。	210 分 210 分
第 5 回	作成した演奏会用プログラムの前半の準備 4 (より高度な表現力を目指す)	事前 該当作品の生まれた背景を調べる (作曲家) 事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。	210 分 210 分
第 6 回	作成した演奏会用プログラムの前半の準備 5 (総合)	事前 全体の起承転結を考える。 事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。	210 分 210 分
第 7 回	作成した演奏会用プログラムの前半を通して演奏する。	事前 緊張したときの自分を想定する。 事後 演奏の結果を基に、今後の練習法を含む演奏への取り組み方を考える。	210 分 210 分
第 8 回	作成した演奏会用プログラムの前半の仕上げ 1 (技術的な課題)	事前 習熟し、滞りなく弾けるようにする。 事後 レッソンの結果を反映できるよう練習を積む。	210 分 210 分
第 9 回	作成した演奏会用プログラムの前半の仕上げ 2 (より高度な技術的課題)	事前 習熟し、滞りなく弾けるようにする。 事後 レッソンの結果を反映できるよう練習を積む。	210 分 210 分
第 10 回	作成した演奏会用プログラムの前半の仕上げ 3 (表現力)	事前 習熟し、滞りなく弾けるようにする。 事後 レッソンの結果を反映できるよう練習を積む。	210 分 210 分
第 11 回	作成した演奏会用プログラムの前半の仕上げ 4 (より高度な表現力を目指す)	事前 習熟し、滞りなく弾けるようにする。 事後 レッソンの結果を反映できるよう練習を積む。	210 分 210 分
第 12 回	作成した演奏会用プログラムの前半の仕上げ 5 (総合)	事前 習熟し、滞りなく弾けるようにする。 事後 レッソンの結果を反映できるよう練習を積む。	210 分 210 分
第 13 回	作成した演奏会用プログラムの前半を演奏会形式で演奏する 1 (技術的な課題)	事前 習熟し、滞りなく弾けるようにし、録音の準備をする。 事後 録音したものを参考に改善点を見つけ、その結果を反映できるよう練習を積む。	210 分 210 分
第 14 回	作成した演奏会用プログラムの前半を演奏会形式で演奏する 2 (表現力)	事前 習熟し、滞りなく弾けるようにする。 事後 前期で習得した作品を、いつでも演奏会で演奏できるような状態に保つ練習方法を考える。	210 分 210 分
第 15 回	第 14 回の結果を受けて、必要に応じ演奏会用プログラムを見直す。	事前 習熟し、滞りなく弾けるようにする。 事後 楽譜を揃える。一種類の現代譜のみならず、オリジナルに近いものも可能な限り手に入れる。	210 分 210 分

フィードバック レッスン時間ごとの課題の達成度についてのコメントと、実技試験終了後の講評。

成績評価 音楽専攻科修了演奏会に出演し、実技演奏試験の評価を受ける。

テキスト その都度指定し、市販されていないものについては入手方法を指導する。

オフィスアワー 各教員の出校日、各教員のレッスン室。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

専門実技-2 (オルガン・古楽)

教授 小林英之

科目コード: IND502

対象コース/専門/学年: 器楽専攻/オルガン・古楽専門

形態: 実技

単位数: 3 単位

概要 履修する作品の演奏を通して、オルガンの様式との関連を学ぶ。

到達目標 各専門楽器で研究テーマを決め、それに応じた作品を中心にリサイタルプログラムを設定し、研究の成果を演奏に反映させる。(アンサンブルも含む) (この授業計画は目標であって、課題の難易度や取り組みの進捗状況に応じ、個々の課題に取り組む時間に増減があるものとする。)

授業計画 後期 15 回 各人 120 分の個人指導

回数	内容	事前	事後	時間
第 1 回	作成した演奏会用プログラムの後半の準備 1 (技術的な課題)	作品の構造を理解し、練習に役立てる。	習熟し、滞りなく弾けるようにする。	210 分
第 2 回	作成した演奏会用プログラムの後半の準備 2 (より高度な技術的課題)	うまくいかないところの奏法 (指使い等) を変えてみる。	習熟し、滞りなく弾けるようにする。	210 分
第 3 回	作成した演奏会用プログラムの後半の準備 3 (表現力)	該当作品の生まれた背景を調べる (時代)	習熟し、滞りなく弾けるようにする。	210 分
第 4 回	作成した演奏会用プログラムの後半の準備 4 (より高度な表現力を目指す)	該当作品の生まれた背景を調べる (作曲家)	習熟し、滞りなく弾けるようにする。	210 分
第 5 回	作成した演奏会用プログラムの後半の準備 5 (総合)	全体の起承転結を考える。	習熟し、滞りなく弾けるようにする。	210 分
第 6 回	作成した演奏会用プログラムの後半を通して演奏する。	緊張したときの自分を想定する。	演奏の結果を基に、今後の練習法を含む演奏への取り組み方を考える。	210 分
第 7 回	作成した演奏会用プログラムの後半の仕上げ 1 (技術的な課題)	習熟し、滞りなく弾けるようにする。	レッスンの結果を反映できるよう練習を積む。	210 分
第 8 回	作成した演奏会用プログラムの後半の仕上げ 2 (より高度な技術的課題)	習熟し、滞りなく弾けるようにする。	レッスンの結果を反映できるよう練習を積む。	210 分
第 9 回	作成した演奏会用プログラムの後半の仕上げ 3 (表現力)	習熟し、滞りなく弾けるようにする。	レッスンの結果を反映できるよう練習を積む。	210 分
第 10 回	作成した演奏会用プログラムの後半の仕上げ 4 (より高度な表現力を目指す)	習熟し、滞りなく弾けるようにする。	レッスンの結果を反映できるよう練習を積む。	210 分
第 11 回	作成した演奏会用プログラムの後半の仕上げ 5 (総合)	習熟し、滞りなく弾けるようにする。	レッスンの結果を反映できるよう練習を積む。	210 分
第 12 回	作成した演奏会用プログラムの後半を演奏会形式で演奏する。	習熟し、滞りなく弾けるようにし、録音の準備をする。	録音したものを参考に改善点を見つけ、その結果を反映できるよう練習を積む。	210 分
第 13 回	作成した演奏会用プログラム全体を演奏会形式で演奏する 1 (技術的な課題)	全体の力配分を考える。	習熟し、滞りなく弾けるようにし、その結果を反映できるよう練習を積む。	210 分
第 14 回	作成した演奏会用プログラム全体を演奏会形式で演奏する 2 (表現力)	習熟し、滞りなく弾けるようにする。	再度録音したものを参考に改善点を見つけ、自分の理想に近づくよう練習を積む。	210 分
第 15 回	試験に臨む心構え	習熟し、滞りなく弾けるようにする。	楽器に触れている時間以外の使い方を考える。	210 分

フィードバック レッスン時間ごとの課題の達成度についてのコメントと、実技試験終了後の講評。

成績評価 音楽専攻科修了演奏会に出演し、実技演奏試験の評価を受ける。

テキスト その都度指定し、市販されていないものについては入手方法を指導する。

オフィスアワー 各教員の出校日、各教員のレッスン室。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

専門実技-1 (声楽)

声楽コース部会主任 教授 吉田伸昭

科目コード：IND501

対象コース/専門/学年：声楽専攻

形態：実技

単位数：3単位

概要 個人レッスンの形態で声楽の技術、音楽を学ぶ
各々の研究課題に対しての事前、事後の学習が重要となる

到達目標 ①より高度な声楽的発声を研究し習得する。
②演奏技術、表現力のさらなる向上を目指す。
③個々の声のカテゴリーに合ったレパートリーの拡大をはかる。

授業計画 15回×複数教授(2名分)で半期30回。週120分の個人指導。
なお、あくまでも学生各自の学習の進捗や特性を踏まえつつ、複数の担当教員が話し合いながら、最適な指導プログラムを随時適用する

第1回	ガイダンス 前期の学習計画を立てる	事前 事後	大学4年間での学修を確認し学習計画を練る 学習計画を確認し、楽譜等の準備をする	420分 420分
第2回	エチュード・歌曲 呼吸法、発声法を中心に 発声のテクニックを高める①	事前 事後	発声練習を重ね、次回のレッスン予定のエチュード、歌曲の譜読みをする レッスンで指摘を受けた点の改善	420分 420分
第3回	エチュード・歌曲 母音の響きに留意 発声のテクニックを高める②	事前 事後	次回のレッスン予定のエチュード、歌曲の練習を重ねる レッスンで指摘を受けた点の改善	420分 420分
第4回	エチュード・歌曲 速いパッセージを練習 発声のテクニックを高める③	事前 事後	次回のレッスン予定のエチュード、歌曲の練習を重ねる レッスンで指摘を受けた点の改善	420分 420分
第5回	歌曲 言葉(ディクッション)を中心とした楽譜を読み込み	事前 事後	次回のレッスン予定の楽曲の練習を重ねる (言語のディクッションに留意する) レッスンで指摘を受けた点の改善	420分 420分
第6回	歌曲 和声感、様式感を中心とした楽譜を読み込み	事前 事後	次回のレッスン予定の楽曲の練習を重ねる (音楽的な表現に留意する) レッスンで指摘を受けた点の改善	420分 420分
第7回	レパートリーの拡大 外国歌曲を中心に	事前 事後	次回のレッスン予定の楽曲の練習を重ねる レッスンで指摘を受けた点の改善	420分 420分
第8回	レパートリーの確立 外国歌曲を中心に	事前 事後	次回のレッスン予定の楽曲の練習を重ねる レッスンで指摘を受けた点の改善	420分 420分
第9回	レパートリーの拡大 オペラアリアを中心に	事前 事後	次回のレッスン予定の楽曲の練習を重ねる レッスンで指摘を受けた点の改善	420分 420分
第10回	レパートリーの確立 オペラアリアを中心に	事前 事後	次回のレッスン予定の楽曲の練習を重ねる レッスンで指摘を受けた点の改善	420分 420分
第11回	選んだ楽曲の理解を深め演奏の深化をはかる	事前 事後	次回のレッスン予定の楽曲の練習を重ねる (音楽的な表現に留意する) レッスンで指摘を受けた点の改善	420分 420分
第12回	問題点を認識し解決をはかる	事前 事後	次回のレッスン予定の楽曲の練習を重ねる (音楽的な表現に留意する) レッスンで指摘を受けた点の改善	420分 420分
第13回	ピアノ伴奏を伴い楽曲の研究を深める	事前 事後	事前にピアノリストと伴奏合わせをする レッスンで指摘を受けた点の改善	420分 420分
第14回	表現を深め演奏の質の向上を目指す	事前 事後	伴奏合わせを重ねる レッスンで指摘を受けた点の改善	420分 420分
第15回	前期のまとめとして暗譜で演奏する	事前 事後	伴奏合わせを重ね、暗譜の確認、表現の確立をはかる レッスンで指摘を受けた点の改善	420分 420分

フィードバック 試験後に個人面談の形で前期を振り返り、成果や次へ課題を話し合う

成績評価 試演会での演奏を評価する

テキスト 曲目は個々の状況に合わせて、適宜選択する

オフィスアワー 教員の出校日、各教員のレッスン室

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・目的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>										

専門実技-2 (声楽)

声楽コース部会主任 教授 吉田伸昭

科目コード：IND502

対象コース/専門/学年：声楽専攻

形態：実技

単位数：3単位

概要 個人レッスンの形態で声楽の技術、音楽を学ぶ
各々の研究課題に対しての事前、事後の学習が重要となる

到達目標 ①より高度な声楽的発声を研究し習得する。
②演奏技術、表現力のさらなる向上を目指し確立を目指す。
③個々の声のカテゴリーに合ったレパートリーの確立をはかる。

授業計画 15回×複数教授(2名分)で半期30回。週120分の個人指導。
なお、あくまでも学生各自の学習の進捗や特性を踏まえつつ、複数の担当教員が話し合いながら、最適な指導プログラムを随時適用する

回数	内容	事前	事後	時間
第1回	後期の学習計画を立てる	前期の学修を確認し学習計画を練る	レッスンで指摘を受けた点の改善	420分
第2回	レパートリーの拡大 日本歌曲を中心に	事前 次回のレッスン予定の楽曲の練習を重ねる	事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	420分
第3回	レパートリーの確立 日本歌曲を中心に	事前 次回のレッスン予定の楽曲の練習を重ねる	事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	420分
第4回	レパートリーの拡大 ミサ曲、オラトリオを中心に	事前 次回のレッスン予定の楽曲の練習を重ねる	事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	420分
第5回	レパートリーの確立 ミサ曲、オラトリオを中心に	事前 次回のレッスン予定の楽曲の練習を重ねる	事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	420分
第6回	選んだ楽曲の理解を深め演奏の深化をはかる	事前 次回のレッスン予定の楽曲の練習を重ねる (音楽的な表現に留意する)	事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	420分
第7回	問題点を認識し解決をはかる	事前 次回のレッスン予定の楽曲の練習を重ねる (音楽的な表現に留意する)	事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	420分
第8回	修了演奏会のプログラムを考える	事前 次回のレッスン予定の楽曲の練習を重ねる	事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	420分
第9回	仮のプログラムを試演	事前 次回のレッスン予定の楽曲の練習を重ねる	事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	420分
第10回	問題点を認識し解決をはかり、プログラムを修正し完成させる	事前 次回のレッスン予定の楽曲の練習を重ねる	事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	420分
第11回	ピアノ伴奏を伴い楽曲の研究を深める	事前 事前にピアニストと伴奏合わせをする	事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	420分
第12回	暗譜の上、ピアノ伴奏を伴い楽曲の研究を深める	事前 伴奏合わせを重ね、暗譜の確認、表現の確立をはかる	事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	420分
第13回	暗譜の上、演奏の完成度を高める	事前 伴奏合わせを重ね、暗譜の確認、表現の確立をはかる	事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	420分
第14回	修了演奏会を想定し試演	事前 伴奏合わせを重ね、暗譜の確認、表現の確立をはかる	事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	420分
第15回	問題点を認識し解決をはかる	事前 伴奏合わせを重ね、暗譜の確認、表現の確立をはかる	事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	420分

フィードバック 音楽専攻科修了演奏会後に個人面談をし、成果や課題や今後の音楽との関わり方等を話し合う

成績評価 音楽専攻科修了演奏会に出演し、実技演奏試験の評価を受ける

テキスト 曲目は個々の状況に合わせて、適宜選択する

オフィスアワー 各教員の出校日、各教員のレッスン室

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>								

合奏-1

学部長 特任教授 柳澤美枝子

科目コード：ENS501

対象コース/専門/学年：器楽専攻

形態：実技

単位数：2 単位

概要 原則として、3名（A,B,C）の担当教員が、10回ずつ個人指導を行う。

到達目標 アンサンブルを通して自分の専門以外の楽器について理解を深め、曲を作り上げる過程を互いに共有することにより、アンサンブル能力を高めることを目標とする。

授業計画

第1回	各担当教員 A、それぞれにガイダンスを行う (授業の目標、進め方を確認する)	事前 楽譜等を用意し、準備する 事後 授業内容の確認	100 分 180 分
第2回	各担当教員 B、それぞれにガイダンスを行う (授業の目標、進め方を確認する)	事前 楽譜等を用意し、準備する 事後 授業内容の確認	100 分 180 分
第3回	各担当教員 C、それぞれにガイダンスを行う (授業の目標、進め方を確認する)	事前 楽譜等を用意し、準備する 事後 授業内容の確認	100 分 180 分
第4回	課題曲 I A—音合わせにより作品の概略をつかむ	事前 読譜および練習 事後 授業での問題点を確認し解決をはかる	140 分 140 分
第5回	課題曲 II B—音合わせにより作品の概略をつかむ	事前 読譜および練習 事後 授業での問題点を確認し解決をはかる	140 分 140 分
第6回	課題曲 III C—音合わせにより作品の概略をつかむ	事前 読譜および練習 事後 授業での問題点を確認し解決をはかる	140 分 140 分
第7回	課題曲 I A—読譜と作品理解の基本を確認する	事前 分析および練習 事後 授業での問題点を確認し解決をはかる	140 分 140 分
第8回	課題曲 II B—読譜と作品理解の基本を確認する	事前 分析および練習 事後 授業での問題点を確認し解決をはかる	140 分 140 分
第9回	課題曲 III C—読譜と作品理解の基本を確認する	事前 分析および練習 事後 授業での問題点を確認し解決をはかる	140 分 140 分
第10回	課題曲 I A—作品の様式感を互いに共有する	事前 分析および練習 事後 授業での問題点を確認し解決をはかる	140 分 140 分
第11回	課題曲 II B—作品の様式感を互いに共有する	事前 分析および練習 事後 授業での問題点を確認し解決をはかる	140 分 140 分
第12回	課題曲 III C—作品の様式感を互いに共有する	事前 分析および練習 事後 授業での問題点を確認し解決をはかる	140 分 140 分
第13回	課題曲 I A—間、呼吸、音程、リズムなどのアンサンブル技術を掘り下げる	事前 分析および練習 事後 授業での問題点を確認し解決をはかる	140 分 140 分
第14回	課題曲 II B—間、呼吸、音程、リズムなどのアンサンブル技術を掘り下げる	事前 分析および練習 事後 授業での問題点を確認し解決をはかる	140 分 140 分
第15回	課題曲 III C—間、呼吸、音程、リズムなどのアンサンブル技術を掘り下げる	事前 分析および練習 事後 授業での問題点を確認し解決をはかる	140 分 140 分

フィードバック 専攻科修了演奏会後に、担当教員や審査員より講評を行う。

成績評価 専攻科修了演奏会での演奏、平常の取組みを総合して評価する。

テキスト 適宜、授業内に各担当教員から指示する。

オフィスアワー 各担当教員レッスン後、各担当教員のレッスン室にて受け付ける。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

合奏-2

学部長 特任教授 柳澤美枝子

科目コード：ENS502

対象コース/専門/学年：器楽専攻

形態：実技

単位数：2 単位

概要 原則として、3名（A,B,C）の担当教員が、10回ずつ個人指導を行う。

到達目標 アンサンブルを通して自分の専門以外の楽器について理解を深め、曲を作り上げる過程を互いに共有することにより、アンサンブル能力を高めることを目標とする。

授業計画

第1回	課題曲 I A—フレーズ、バランス、タイミングなどを体得する	事前 分析および練習 事後 授業での問題点を確認し解決をはかる	100 分 180 分
第2回	課題曲 II B—フレーズ、バランス、タイミングなどを体得する	事前 分析および練習 事後 授業での問題点を確認し解決をはかる	100 分 180 分
第3回	課題曲 III C—フレーズ、バランス、タイミングなどを体得する	事前 分析および練習 事後 授業での問題点を確認し解決をはかる	100 分 180 分
第4回	課題曲 I A—楽曲分析に基づく作品の性格を表現に反映させる	事前 分析および練習 事後 授業での問題点を確認し解決をはかる	140 分 140 分
第5回	課題曲 II B—楽曲分析に基づく作品の性格を表現に反映させる	事前 分析および練習 事後 授業での問題点を確認し解決をはかる	140 分 140 分
第6回	課題曲 III C—楽曲分析に基づく作品の性格を表現に反映させる	事前 分析および練習 事後 授業での問題点を確認し解決をはかる	140 分 140 分
第7回	課題曲 I A—楽曲を大局的にとらえ、さらにテンポの自在な変化を伴った構成を作り上げる	事前 分析および練習 事後 授業での問題点を確認し解決をはかる	140 分 140 分
第8回	課題曲 II B—楽曲を大局的にとらえ、さらにテンポの自在な変化を伴った構成を作り上げる	事前 分析および練習 事後 授業での問題点を確認し解決をはかる	140 分 140 分
第9回	課題曲 III C—楽曲を大局的にとらえ、さらにテンポの自在な変化を伴った構成を作り上げる	事前 分析および練習 事後 授業での問題点を確認し解決をはかる	140 分 140 分
第10回	修了演奏会のための確認（前半）	事前 分析および練習 事後 授業での問題点を確認し解決をはかる	140 分 140 分
第11回	修了演奏会のための確認（後半）	事前 分析および練習 事後 授業での問題点を確認し解決をはかる	140 分 140 分
第12回	修了演奏会のための仕上げ ベース配分等に配慮して	事前 分析および練習 事後 授業での問題点を確認し解決をはかる	140 分 140 分
第13回	修了演奏会のためのリハーサル（前半）	事前 分析および練習 事後 授業での問題点を確認し解決をはかる	140 分 140 分
第14回	修了演奏会のためのリハーサル（後半）	事前 分析および練習 事後 授業での問題点を確認し解決をはかる	140 分 140 分
第15回	修了演奏会のためのリハーサル まとめ	事前 分析および練習 事後 授業での問題点を確認し解決をはかる	140 分 140 分

フィードバック 専攻科修了演奏会后に、担当教員や審査員より講評を行う。

成績評価 専攻科修了演奏会での演奏、平常の取組みを総合して評価する。

テキスト 適宜、授業内に各担当教員から指示する。

オフィスアワー 各担当教員レッスン後、各担当教員のレッスン室にて受け付ける。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

楽曲・演奏研究報告書-1

教授 上尾信也

科目コード：MUS505

対象コース／専門／学年：器楽・声楽専攻

形態：演習

単位数：2単位

概要 音楽専攻科の器楽または声楽専攻生は、楽曲・演奏研究を行うが、その報告書を作成するのが本講義の目標である。楽曲・演奏研究は、自分の専門楽器についてあるいは専門レパートリーを含めたテーマを対象とする。音楽学・音楽史での研鑽を通じて、各自選んだテーマで研究を行う。

到達目標 論文のかたちにとまとめることを目標とする。文献調査と整理の基本的スキル、音楽に関わる外国語によるコミュニケーション、および自己の考えのプレゼンテーション能力を鍛錬する。

授業計画

【AL】

回数	内容	事前	事後	単位数
第1回	論文とは	過去の卒業論文の検索	IPACでの検索法を学ぶ	110分 170分
第2回	論文の意義・構成・書法	論文の書き方を用意する	論文の書き方に従って、参考文献表をつくる	110分 170分
第3回	研究の進め方1：テーマ	関心のあるテーマを箇条書きにする	それぞれのテーマについてのキーワードを考え、検索する	110分 170分
第4回	研究の進め方2：仮説と証明	検索に当たった論文を読んでみる	授業で参考となった論文を書法の点から分析する	110分 170分
第5回	文献調査の実際1：文献の性格	関心のある分野のキーワードを考える	様々なデータベースの文献検索を試みる	110分 170分
第6回	文献調査の実際2：整理法	文献検索の結果を電子媒体に保存する	ワード、電子媒体の保存ファイルを作成する	110分 170分
第7回	非文献資料の活用	非文献資料とは何か調査する	非文献資料の実際を調査する	110分 170分
第8回	楽譜資料の扱い方：楽譜の性格	『新グローヴ世界音楽大事典』などから「記譜法」「楽譜」の項目を読む	関心のある作品の楽譜を調査する(petrucci)	110分 170分
第9回	楽譜資料の扱い方：楽譜の活用	Petrucciの検索結果を整理する	対象楽譜の性格を、作曲家の作品全集・目録より整理する	110分 170分
第10回	文献調査実習の方法と構成との関連	研究テーマを決める、研究の進め方を確認する、キーワードを整理する	研究テーマからどのような論理展開にするかを考える、何がポイントかを整理する	110分 170分
第11回	実習：文献調査1：日本語文献	先行研究を調査する(広い範囲で)	日本語文献の検索調査、整理	110分 170分
第12回	実習：文献調査2：外国語文献	日本語文献で参照引用されていた原文を調査する	外国語文献の検索調査、整理	110分 170分
第13回	実習：文献調査3：インターネットの活用	必要不必要な文献、重要度を見定める	中間発表用のレジュメをつくらせてみる	110分 170分
第14回	中間報告1：レジュメ	中間発表用のレジュメの整理と制作、参考文献リスト	レジュメ以外の資料を整理	110分 170分
第15回	中間報告2：口頭発表	口頭報告の準備	口頭報告の指摘の整理、再構築	80分 200分

フィードバック 毎回の質疑応答

成績評価 受講状況と、研究発表、レポート

テキスト 参考文献はその都度提示する。

オフィスアワー 授業後

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経歴・多様性							
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	プレゼンテーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	

楽曲・演奏研究報告書-2

教授 上尾信也

科目コード : MUS506

対象コース/専門/学年 : 器楽・声楽専攻

形態 : 演習

単位数 : 2 単位

概要 音楽専攻科の器楽または声楽専攻生は、楽曲・演奏研究を行うが、その報告書を作成するのが本講義の目標である。楽曲・演奏研究は、自分の専門楽器についてあるいは専門レパートリーを含めたテーマを対象とする。音楽学・音楽史での研鑽を通じて、各自選んだテーマで研究を行う。

到達目標 論文のかたちにとまとめることを目標とする。文献調査と整理の基本的スキル、音楽に関わる外国語によるコミュニケーション、および自己の考えのプレゼンテーション能力を鍛錬する。

授業計画

【AL】

回数	内容	事前	事後	単位数
第1回	新たな課題の提起：構成と文献整理	文献の読み込み	文献の読み込み	140分
第2回	実習：構成と文献整理1：目次作成	文献の読み込み	文献の読み込みと整理	140分
第3回	実習：構成と文献整理2：参考文献と引用文献	文献の読み込みと整理	文献の読み込みと整理	140分
第4回	実習：構成と文献整理3：概要	文献の読み込みと整理	文献の読み込みと整理	140分
第5回	実習：構成と文献整理4：各論	文献の読み込みと整理	文献の読み込みと整理	140分
第6回	実習：構成と文献整理5：注	文献の読み込みと整理	文献の読み込みと整理	140分
第7回	実習：論文作成1：ワードなどのツール活用	文献の整理	草稿作成	140分
第8回	実習：論文作成2：ツールを用いた実習	草稿作成	草稿作成	140分
第9回	実習：論文作成3：概要	草稿作成	草稿作成	140分
第10回	実習：論文作成4：注記と参考・引用文献	草稿作成	原稿校正	140分
第11回	実習：要旨作成と発表レジュメ	原稿作成	原稿完成	140分
第12回	実習：校正と再考	要旨作成	資料整理	170分
第13回	論文発表の方法	発表用原稿の作成	発表用原稿の校正	170分
第14回	論文発表の実際	準備	発表後の訂正	200分 80分
第15回	まとめ	論文の自己評価	問題点	140分 140分

フィードバック 毎回の質疑応答

成績評価 受講状況と、研究発表、レポート

テキスト 参考文献はその都度提示する。

オフィスアワー 授業後

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	プレゼンテーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

重唱-1

教授 吉田伸昭

科目コード：ENS503

対象コース／専門／学年： 声楽専攻

形態：演習

単位数：2 単位

概要 個人レッスン(複数の場合はグループレッスン)
アンサンブルする共演者(歌手、ピアニスト、他の楽器)を伴い、様々な時代の重唱を学び、発表する。

到達目標 ①他声部をよく聴き、発声に留意して美しいハーモニーをつくる。
②音楽的な構造、詩の内容、また、役のキャラクター等をふまえ、それにふさわしい表現を身につける。
③楽器とのアンサンブル作品を取り上げ、他楽器と織り成す表現を身につける。

授業計画 バロック時代：イタリア古典、バッハ、ヘンデル等の作品／ドイツロマン派：メンデルスゾーン、シューマン、他の重唱曲やアンサンブル曲

第1回	ガイダンス 履修計画をたてる	事前 楽譜等を用意し、計画をたてる 事後 履修計画を確認し、具体的学習計画をたてる	140分 140分
第2回	バロック期の作品を中心に読譜し、レパートリーを構築する	事前 読譜と予備練習 事後 授業内での問題点を確認し、解決をはかる	140分 140分
第3回	前週の作品を掘り下げて研究し、表現を深めて仕上げる	事前 練習 事後 授業内での問題点を確認し、解決をはかる	140分 140分
第4回	古典派の作品を中心に読譜し、レパートリーを構築する	事前 読譜と予備練習 事後 授業内での問題点を確認し、解決をはかる	140分 140分
第5回	前週の作品を掘り下げて研究し、表現を深めて仕上げる	事前 練習 事後 授業内での問題点を確認し、解決をはかる	140分 140分
第6回	ドイツ・ロマン派の作品を中心に読譜し、レパートリーを構築する	事前 読譜、詩の解釈と予備練習 事後 授業内での問題点を確認し、解決をはかる	140分 140分
第7回	前週の作品を掘り下げて研究し、表現を深める	事前 練習 事後 授業内での問題点を確認し、解決をはかる	140分 140分
第8回	楽器とのアンサンブル作品に取り組む	事前 読譜、詩の解釈と予備練習 事後 授業内での問題点を確認し、解決をはかる	140分 140分
第9回	前週の作品を掘り下げて研究し、表現を深める	事前 練習 事後 授業内での問題点を確認し、解決をはかる	140分 140分
第10回	イタリア・ロマン派の作品を中心に読譜し、レパートリーを構築する	事前 読譜、詩の解釈と予備練習 事後 授業内での問題点を確認し、解決をはかる	140分 140分
第11回	前週の作品を掘り下げて研究し、表現を深める	事前 練習 事後 授業内での問題点を確認し、解決をはかる	140分 140分
第12回	フランス近代の作品を中心に読譜し、レパートリーを構築する	事前 読譜、詩の解釈と予備練習 事後 授業内での問題点を確認し、解決をはかる	140分 140分
第13回	前週の作品を掘り下げて研究し、表現を深める	事前 練習 事後 授業内での問題点を確認し、解決をはかる	140分 140分
第14回	オペラの中のアンサンブル曲を取り上げ研究する	事前 読譜と予備練習 事後 授業内での問題点を確認し、解決をはかる	140分 140分
第15回	前週の楽曲の表現を深める	事前 練習 事後 授業内での問題点を確認し、解決をはかる	140分 140分

フィードバック 前期試演会を実施した後、成果と課題を話し合う

成績評価 試演会 60% 取り組み 40%

テキスト 各自用意

オフィスアワー 授業終了後、教員レッスン室にて受け付ける。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

重唱-2

教授 吉田伸昭

科目コード: ENS504

対象コース/専門/学年: 声楽専攻

形態: 演習

単位数: 2 単位

概要 個人レッスン(複数の場合はグループレッスン)
アンサンブルする共演者(歌手、ピアニスト、他の楽器)を伴い、様々な時代の重唱を学び、発表する。

到達目標 ①他声部をよく聴き、発声に留意して美しいハーモニーをつくる。
②音楽的な構造、詩の内容、また、役のキャラクター等をふまえ、それにふさわしい表現を身につける。
③楽器とのアンサンブル作品を取り上げ、他楽器と織り成す表現を身につける。

授業計画 フランス近代: フォーレ、ドビュッシー、他の重唱曲/イタリアロマン派およびオペラの中の重唱曲/後期はとくに修了演奏会に取り上げる楽曲を検討し、演奏会に向けてその楽曲を深く掘り下げて研究し、演奏の完成度を追及する。

第1回	ミサ曲やオラトリオの中のアンサンブル作品をとりあげ、レパートリーを構築する	事前 読譜と予備練習 事後 授業内での問題点を確認し、解決をはかる	140分 140分
第2回	前週の楽曲の表現を深める	事前 練習 事後 授業内での問題点を確認し、解決をはかる	140分 140分
第3回	修了演奏会で取り上げる作品の候補を複数曲選択する	事前 既習曲確認と練習 事後 授業内での問題点を確認し、解決をはかる	140分 140分
第4回	前週選択した作品を掘り下げて研究する	事前 練習 事後 授業内での問題点を確認し、解決をはかる	140分 140分
第5回	前週の作品の完成度を高める	事前 練習 事後 授業内での問題点を確認し、解決をはかる	140分 140分
第6回	選択した複数の候補曲から修了演奏会でとりあげる曲を決める	事前 練習 事後 授業内での問題点を確認し、解決をはかる	140分 140分
第7回	演奏曲を再度分析し表現を研究する① 特に詩からのアプローチ	事前 読譜、詩の解釈と予備練習 事後 授業内での問題点を確認し、解決をはかる	140分 140分
第8回	演奏曲を再度分析し表現を研究する② 特に各声部や伴奏からのアプローチ	事前 読譜と予備練習 事後 授業内での問題点を確認し、解決をはかる	140分 140分
第9回	前2週の研究を踏まえ、演奏の深化をはかる	事前 読譜と予備練習 事後 授業内での問題点を確認し、解決をはかる	140分 140分
第10回	修了演奏会のための確認	事前 練習 事後 授業内での問題点を確認し、解決をはかる	140分 140分
第11回	修了演奏会のための問題解決	事前 練習 事後 授業内での問題点を確認し、解決をはかる	140分 140分
第12回	リハーサル① ホールでの響きを中心に	事前 練習 事後 授業内での問題点を確認し、解決をはかる	140分 140分
第13回	リハーサル② 全体の流れを中心に	事前 練習 事後 授業内での問題点を確認し、解決をはかる	140分 140分
第14回	リハーサル③ 仕上げ	事前 練習 事後 授業内での問題点を確認し、解決をはかる	140分 140分
第15回	まとめ	事前 練習 事後 授業内での問題点を確認し、解決をはかる	140分 140分

フィードバック 音楽専攻科修了演奏会を実施した後、成果と課題を話し合う

成績評価 音楽専攻科修了演奏会を評価する

テキスト 各自用意

オフィスアワー 授業終了後、教員レッスン室にて受け付ける。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

音楽教育-1

※大学音楽学部「演習（音楽教育A）」を履修のこと

教授 山内雅子／准教授 田中里佳

科目コード：EDU501

対象コース／専門／学年： 音楽学・器楽・声楽専攻

形態：演習

単位数：2単位

概要 本授業は、卒業論文やレポートを執筆するための準備的役割を担うものである。論文とは何か、また、どのようにして書けば良いのかなど、論文ならびにレポート執筆に必要なとなる基礎的な知識、スキルを習得していく。

到達目標 本授業では、いくつかの論文を読み、音楽に関する研究がどのように進められ、論文としてまとめられているのかを知る。そして、受講者それぞれの関心に即した論文のデザインおよび冒頭部の執筆、発表、議論を通して、卒業論文を執筆するための基礎的な能力を身につけることを目指す。

授業計画 前期は、音楽に関するいくつかの論文を講読し、研究の目的に合った資料の集め方や分析の方法などについて学ぶ。

【AL】

回数	内容	事前	事後	時間
第1回	オリエンテーション	シラバスを読んでおく。	テキストを購入し、目を通しておく。	60分 220分
第2回	論文を書くための問の立て方	テキストの1章を読んでおく	プリントを仕上げる	180分 100分
第3回	論文を書くための段取り	テキストの2章を読んでおく	プリントを仕上げる	180分 100分
第4回	論文を書くときの考え方	テキストの3章を読んでおく	プリントを仕上げる	180分 100分
第5回	授業で取り上げる論文の選定～学会誌の目次と要旨を読む～	論文でテーマにしたいことを考えておく	第2回から第4回までの内容をふりかえっておく	180分 100分
第6回	論文①の紹介、解説、議論～歴史的方法、史資料調査～	配布された論文を読み、わからないところを明確にしておく。発表者は配布用のレジメを作成する。	プリントを仕上げる	220分 60分
第7回	論文②の紹介、解説、議論～歴史的方法、インタビュー～	配布された論文を読み、わからないところを明確にしておく。発表者は配布用のレジメを作成する。	プリントを仕上げる	180分 100分
第8回	論文③の紹介、解説、議論～心理的方法、インタビュー～	配布された論文を読み、わからないところを明確にしておく。発表者は配布用のレジメを作成する。	プリントを仕上げる	180分 100分
第9回	論文④の紹介、解説、議論～心理的方法、実験～	配布された論文を読み、わからないところを明確にしておく。発表者は配布用のレジメを作成する。	プリントを仕上げる	180分 100分
第10回	論文⑤の紹介、解説、議論～心理的方法、観察～	配布された論文を読み、わからないところを明確にしておく。発表者は配布用のレジメを作成する。	プリントを仕上げる	180分 100分
第11回	論文⑥の紹介、解説、議論～心理的方法、質問紙～	配布された論文を読み、わからないところを明確にしておく。発表者は配布用のレジメを作成する。	プリントを仕上げる	180分 100分
第12回	論文⑦の紹介、解説、議論～音楽学的方法、音響分析～	配布された論文を読み、わからないところを明確にしておく。発表者は配布用のレジメを作成する。	プリントを仕上げる	180分 100分
第13回	論文⑧の紹介、解説、議論～音楽学的方法、作品分析～	配布された論文を読み、わからないところを明確にしておく。発表者は配布用のレジメを作成する。	プリントを仕上げる	180分 100分
第14回	論文⑨の紹介、解説、議論～多様な方法を用いた研究～	配布された論文を読み、わからないところを明確にしておく。発表者は配布用のレジメを作成する。	プリントを仕上げる	180分 100分
第15回	前期のまとめ	これまでに読んだ論文を振り返り、一番興味があったテーマを自覚しておく。	後期に扱いたいテーマについて考えておく	100分 180分

フィードバック 毎回の授業で小さな課題を与える。各課題は回収後にコメントをつけて返却し、濃やかなフィードバックを行う。

成績評価 授業への取り組み 50%、レポート 50%

テキスト 戸田山和久『新版 論文の教室—レポートから卒論まで』（NHKブックス No.1194）東京：NHK出版、2012。
このほか、必要に応じてプリントを配布します。

オフィスアワー 授業内で随時質問や相談に応じます。また、メールでも質問、相談を受け付けます。

備考 受講者数などによって、授業の内容を変更することがあります。変更点は、事前に連絡します。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>							

音楽教育-2

※大学音楽学部「演習（音楽教育A）」を履修のこと

教授 山内雅子／准教授 田中里佳

科目コード：EDU502

対象コース／専門／学年：音楽学・器楽・声楽専攻

形態：演習 単位数：2単位

概要 音楽教育の卒業論文を執筆するための基礎的なスキルを身に付ける。それぞれの学生が関心をもった分野について学生が自身が論文を検索し、レビューし発表する。質疑応答を通して、新たな課題を発見したり、更に課題を深く掘り下げ、それぞれの学生が卒業論文として取り組むテーマを絞り込んでいく。

到達目標 音楽教育研究について、研究領域や研究方法を理解し、論文執筆のスキルを身に付けると共に、卒業論文のテーマを決め、大まかな研究計画をたてることを到達目標とする。

授業計画 後期は、前期で学んだことを踏まえて、受講者それぞれの関心に即した論文を書くことを想定し、各自研究の目的および方法を定め、「はじめに」や「研究の方法」の部分を書く。

【AL】			事前	事後	162分
第1回	前期の学修の振り返りと、後期の学修の進め方について		前期の学びを振り返り、関心をもった分野や研究方法をまとめる。	自分の論文主題設定に向けて、学修のスケジュールを把握し、学修計画を考える。	108分
第2回	音楽教育研究の実践演習 学生A 論文レビューと討論		発表学生は、自分で選んだ論文をレビューしてくる。他の学生は、図書館等で論文を検索する。	発表者による発表と討論を通して学んだことをまとめる。	162分 108分
第3回	音楽教育研究の実践演習 学生B 論文レビューと討論		発表学生は、自分で選んだ論文をレビューしてくる。他の学生は、図書館等で論文を検索する。	発表者による発表と討論を通して学んだことをまとめる。	162分 108分
第4回	音楽教育研究の実践演習 学生C 論文レビューと討論		発表学生は、自分で選んだ論文をレビューしてくる。他の学生は、図書館等で論文を検索する。	発表者による発表と討論を通して学んだことをまとめる。	162分 108分
第5回	音楽教育研究の実践演習 学生D 論文レビューと討論		発表学生は、自分で選んだ論文をレビューしてくる。他の学生は、図書館等で論文を検索する。	発表者による発表と討論を通して学んだことをまとめる。	162分 108分
第6回	音楽教育研究の実践演習 学生A 先行研究に使える論文をレビューし、討論する		発表学生は、自分で選んだ論文をレビューしてくる。他の学生は、図書館等で論文を検索する。	発表者による発表と討論を通して学んだことをまとめる。	162分 108分
第7回	音楽教育研究の実践演習 学生B 先行研究に使える論文レビューと討論		発表学生は、自分で選んだ論文をレビューしてくる。他の学生は、図書館等で論文を検索する。	発表者による発表と討論を通して学んだことをまとめる。	162分 108分
第8回	音楽教育研究の実践演習 学生C 先行研究に使える論文レビューと討論		発表学生は、自分で選んだ論文をレビューしてくる。他の学生は、図書館等で論文を検索する。	発表者による発表と討論を通して学んだことをまとめる。	162分 108分
第9回	音楽教育研究の実践演習 学生D 先行研究に使える論文レビューと討論		発表学生は、自分で選んだ論文をレビューしてくる。他の学生は、図書館等で論文を検索する。	発表者による発表と討論を通して学んだことをまとめる。	162分 108分
第10回	研究主題の検討		これまでの学修を基に、各自の論文主題の方向について、案を考えてくる。	各自の提案と意見交換、指導内容をもとに、論文主題を再度考え、まとめる。	162分 108分
第11回	研究主題と研究方法の検討		論文主題の再提案と共に、研究方法について考え、まとめてくる。	各自の提案と意見交換、指導されたことを基に、論文主題と研究の方法を検討する。	162分 108分
第12回	指導担当教官の仮決定と今後の研究計画についての検討		修正した論文主題と研究方法を提案できるよう準備する。	各自の提案と意見交換、指導された内容を生かして修正すると共に、大まかな研究計画をたてる。	162分 108分
第13回	それぞれの研究主題・研究領域の先行研究の検索と精査		これまでの学修を基に研究主題、研究方法、研究計画を作成する。	指導教官（仮）の指導を受け、研究領域について先行研究の検索と精査を行う。	162分 108分
第14回	それぞれの研究主題設定の理由ならびに研究の目的について		研究主題設定の理由と研究の目的を書く。	研究主題設定の理由と研究の目的を修正する。	162分 108分
第15回	それぞれの研究の方法についての検討		研究の方法について書く。	2月、3月に進めておく課題を明確にし、取り組む。	162分 108分

フィードバック 毎回の授業で小さな課題を与える。各課題は回収後にコメントをつけて返却し、濃やかなフィードバックを行う。

成績評価 授業への取り組み：発表課題の準備が十分になされている。友人の発表に対して適切な質問・指摘ができています。レポート課題及び発表：資料を効果的に用いて、相手に伝わる内容になっているか。

テキスト 中学校学習指導要領解説 音楽編（平成29年）・それぞれ、学生が選んだ論文をコピーし、持参する。

オフィスアワー Eメールにて相談の上、対応する。 masako.yamauchi@uenogakuen.ac.jp

備考 受講者数などによって、授業の内容を変更することがあります。変更点は、事前に連絡します。本演習は、音楽教育に関する論文執筆のための講義と演習が中心となる。講義はゼミ形式で発表と討論と指導を核として行う。後期の12回以降は、音楽教育担当教員が複数で対応することもある。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・目的意識	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>							

音楽史-1

※大学音楽学部「演習（西洋音楽史）」を履修のこと

教授 上尾信也

科目コード：MUS507

対象コース／専門／学年：音楽学・器楽・声楽専攻

形態：演習	単位数：2単位
概要	音楽学の卒業論文を書くことを目指し、研究方法と論文作成の具体的演習を行う。本年度は、『西洋音楽史』の文献調査をテーマとして、上野学園図書館の一次史料、二次史料を踏査し、多角的な分析を試みる。過去の研究がどのような形で現在の「学」と実践をつつてきたか学び取る。
到達目標	テーマ設定、企画・構成、研究の方法、まとめ方・書き方について演習を行い、各自の卒業研究に結び付けていくことを目的とする。

授業計画		
【AL】		
第1回	音楽史の成立	事前 上尾『音楽のヨーロッパ史』を読む 事後 授業でとりあげた参考文献や参考事項について調べる 110分 170分
第2回	音楽史の資料とは～史料と楽譜	事前 前回の参考文献の一つを読んでおく 事後 授業でとりあげた参考文献や参考事項について調べる 110分 170分
第3回	文献資料と非文献資料	事前 前回の参考文献の一つを読んでおく 事後 授業でとりあげた参考文献や参考事項について調べる 110分 170分
第4回	音楽の非文献資料としての楽器	事前 非文献資料の例を具体的に考える 事後 楽器について考察を進めてみる 110分 170分
第5回	音楽の非文献資料としての図像資料	事前 楽器の描かれた図像（絵画作品）の例を具体的に考えてみる 事後 図像学あるいは楽器学のついで参考文献を調べてみる 110分 170分
第6回	音楽作品と資料としての楽譜	事前 楽譜・記譜法について『新グローヴ世界音楽事典』の該当項目を予習する。 事後 授業でとりあげた「記譜法」のレジメを精読し、そのほかの文献について調べる 110分 170分
第7回	ベートーヴェンの初版譜について	事前 任意の音楽作品の楽譜についてあらかじめ用意しておく。 事後 授業で示された初版譜の成立について「BeethovenWV」を用いて調査する 110分 170分
第8回	一次史料と二次史料	事前 歴史資料についてあらかじめ百科事典や辞事典より調べておく 事後 歴史学における一次史料と二次史料についての参考文献を調べる 110分 170分
第9回	ベートーヴェンの初版譜についての調査発表	事前 調査発表のための準備 事後 調査のまとめをレポート文書とする 110分 170分
第10回	「音楽史を作った」研究と文献	事前 音楽史について『新グローヴ世界音楽事典』の該当項目を予習する 事後 『新グローヴ世界音楽事典』とNGD 2版の異同を調べる 110分 170分
第11回	音楽史の文献と資料（sources）・『新グローヴ世界音楽事典』より	事前 『新グローヴ世界音楽事典』のsourcesの項目をあらかじめ目を通す 事後 『新グローヴ世界音楽事典』のsourcesの項目をまとめる 110分 170分
第12回	資料研究と様式研究	事前 19世紀の音楽史の流れを予習しておく 事後 19世紀の音楽学の動向を復習する 110分 170分
第13回	音楽史の時代区分	事前 音楽史の時代区分について音楽史書の異同を調べる 事後 音楽史書の書かれた時代と音楽史の時代区分の関連について、具体的な関係を調べる 110分 170分
第14回	音楽史の時代区分についての文献調査	事前 音楽史の時代区分と音楽史書の関係を分類する 事後 音楽史の時代区分と音楽史書の関係を分類する 110分 110分
第15回	音楽史の時代区分についての調査発表と報告	事前 音楽史の時代区分と音楽史書の関係を分類し、発表用にまとめる 事後 発表したものを報告書にまとめる 170分 110分

フィードバック 各発表による質疑応答や普段の質問事項の整理と検討

成績評価 受講状況（30％）と、研究発表とレポート（3回）をそれぞれ案分（20, 20, 30％）して評価する

テキスト 参考文献はその都度提示する

オフィスアワー 各授業後

備考 英、独、仏、伊、羅の辞書を使えること

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生産学習意識
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

音楽史-2

※大学音楽学部「演習（西洋音楽史）」を履修のこと

教授 上尾信也

科目コード：MUS508

対象コース／専門／学年：音楽学・器楽・声楽専攻

形態：演習	単位数：2単位
概要	音楽学の卒業論文を書くことを目指し、研究方法と論文作成の具体的演習を行う。本年度は、『西洋音楽史』の文献調査をテーマとして、上野学園図書館の一次史料、二次史料を踏査し、多角的な分析を試みる。過去の研究がどのような形で現在の「学」と実践をつつてきたか学び取る。
到達目標	テーマ設定、企画・構成、研究の方法、まとめ方・書き方について実習を行い、各自の卒業研究に結び付けていくことを目的とする。

授業計画		
【AL】		
第1回	上野学園図書館の文献資料を探る	事前 図書館の分類項目（洋書）を調べる 60分 事後 上野学園図書館の文献資料（音楽）がどのような分類か調べる 220分
第2回	上野学園図書館の文献資料から「音楽学」「音楽史」関連の洋書	事前 実際にどのような音楽史関連の洋書があるか手に取ってみる 110分 事後 欧米語による音楽書の内容について調査する 170分
第3回	貴重図書の音楽書	事前 貴重図書目録を調査しあらかじめ作者と題目を理解する 110分 事後 書誌項目をつくる 170分
第4回	貴重図書の音楽書の書誌項目	事前 書誌項目をつくる 140分 事後 書誌項目をつくる 140分
第5回	貴重図書の音楽書の成立年代	事前 書誌項目をつくる 140分 事後 成立年代ごとに分類する 140分
第6回	19世紀の音楽書	事前 図書目録を調査しあらかじめ作者と題目を理解する 110分 事後 書誌項目をつくる 170分
第7回	19世紀の音楽書の書誌項目	事前 書誌項目をつくる 140分 事後 書誌項目をつくる 140分
第8回	19世紀の音楽書の成立年代	事前 書誌項目をつくる 140分 事後 成立年代ごとに分類する 140分
第9回	19世紀の音楽書の分類	事前 成立年代ごとに分類する 140分 事後 成立年代ごとに分類する 140分
第10回	20世紀前半の音楽書	事前 図書目録を調査しあらかじめ作者と題目を理解する 110分 事後 書誌項目をつくる 170分
第11回	20世紀前半の音楽書の書誌項目	事前 書誌項目をつくる 140分 事後 書誌項目をつくる 140分
第12回	20世紀全体の音楽書の成立年代	事前 書誌項目をつくる 140分 事後 成立年代ごとに分類する 140分
第13回	20世紀の音楽学と音楽書の傾向	事前 傾向を考えてみる 110分 事後 傾向の要点をまとめて、自分にとっての関心や課題を考える 170分
第14回	上野学園図書館の文献資料の調査から得られた課題	事前 課題報告の準備 140分 事後 課題報告の準備 140分
第15回	課題報告とまとめ	事前 課題報告の準備 60分 事後 報告のレポート文書を作成 220分

フィードバック 各発表による質疑応答や普段の質問事項の整理と検討

成績評価 受講状況（30%）と、研究発表とレポート（3回）をそれぞれ案分（20, 20, 30%）して評価する

テキスト 参考文献はその都度提示する

オフィスアワー 各授業後

備考 英、独、仏、伊、羅の辞書を使えること

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>															

応用音楽理論-1

非常勤講師 井元透馬

科目コード：SLF501

対象コース／専門／学年：音楽学・器楽・声楽専攻

形態：講義

単位数：2単位

概要 楽曲を論理的に捉える能力を養い、高度で専門的な楽曲分析能力を習得する。

到達目標 基本的な和声法・対位法を用いた楽曲の試作を通して、音楽理論や楽式についての理解深める。
様々な楽曲の分析を通して、楽曲の特徴を的確に把握し表現に結びつける能力を獲得する。

授業計画 楽曲分析と作品の施策を中心に授業を行う。

第1回	ガイダンス 基本的な知識の確認	事前 音楽理論についての復習をする。 事後 授業で扱った内容の復習を行う。	130分 140分
第2回	楽曲分析の基礎① 和音記号・非和声音	事前 和声についての復習を行う。 事後 授業で扱った内容の復習を行う。	130分 140分
第3回	楽曲分析の基礎② 1～3部形式	事前 1～3部形式について概要を把握する。 事後 授業で扱った内容の復習を行う。	130分 140分
第4回	楽曲分析の基礎③ 複合3部形式	事前 複合3部形式について概要を把握する。 事後 授業で扱った内容の復習を行う。	130分 140分
第5回	楽曲分析の基礎④ ロンド形式	事前 ロンド形式についての概要を把握する。 事後 授業で扱った内容の復習を行う。	130分 140分
第6回	楽曲分析の基礎⑤ ソナタ形式(ピアノ曲)	事前 ソナタ形式についての概要を把握する。 事後 授業で扱った内容の復習を行う。	130分 140分
第7回	楽曲分析の基礎⑥ ソナタ形式(管弦楽曲)	事前 任意の交響曲のうちソナタ形式で書かれた楽章を鑑賞・観察する。 事後 授業で扱った内容の復習を行う。	130分 140分
第8回	和声的楽曲の試作① 旋律の作成	事前 和声的な楽曲を鑑賞・観察する。 事後 旋律の作成を進める。	130分 140分
第9回	和声的楽曲の試作② 伴奏の作成	事前 旋律を完成させる。 事後 試作品を完成させる。	130分 140分
第10回	和声的楽曲の試作③ 作品の発表	事前 試作品演奏の練習をする。 事後 作成した和声的楽曲について見直しを行う。	130分 140分
第11回	純粹対位法	事前 対位法についての概要を把握する。 事後 授業で扱った内容の復習を行う。	130分 140分
第12回	インヴェンションの分析①	事前 指示された楽曲の分析を行う。 事後 授業で扱った内容の復習を行う。	130分 140分
第13回	インヴェンションの分析②	事前 指示された楽曲の分析を行う。 事後 授業で扱った内容の復習を行う。	130分 140分
第14回	インヴェンションの試作	事前 インヴェンションの特徴を把握する。 事後 インヴェンションの試作を進める。	130分 140分
第15回	試作したインヴェンションの発表 まとめ	事前 インヴェンションを完成させる。 事後 作成したインヴェンションについて見直しを行う。	130分 140分

フィードバック 実施した課題の添削、解説によりフィードバックを行う。

成績評価 授業への取り組みによる

テキスト 使用する楽譜や参考文献は授業内で指示する。
その他、必要に応じてプリントを配布する。

オフィスアワー 授業後教室で対応。

備考 五線ノートを用意すること。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>						

応用音楽理論-2

非常勤講師 井元透馬

科目コード：SLF502

対象コース／専門／学年：音楽学・器楽・声楽専攻

形態：講義

単位数：2単位

概要 応用音楽理論-1を履修済みの学生を対象とする。楽曲を論理的に捉える能力を養い、高度で専門的な楽曲分析能力を習得する。

到達目標 基本的な和声法・対位法を用いた楽曲の試作を通して、音楽理論や楽式についての理解深める。
様々な楽曲の分析を通して、楽曲の特徴を的確に把握し表現に結びつける能力を獲得する。

授業計画 楽曲分析と作品の施策を中心に授業を行う。

第1回	ガイダンス 様々なカノン	事前	カノンについての概要を把握する。	130分
		事後	授業で扱った内容の復習を行う。	140分
第2回	カノンの試作	事前	カノンの作成方法を調べる。	130分
		事後	カノンの施策を進める。	140分
第3回	試作したカノンの演奏 カノンで書かれた楽曲の分析	事前	カノンを完成させ、演奏練習を行う。	130分
		事後	カノンについての復習を行う。	140分
第4回	フーガの分析① フーガの素材	事前	フーガについての概要を把握する。	130分
		事後	授業で扱った内容の復習を行う。	140分
第5回	フーガの分析② J.S.Bachのフーガ	事前	J.S.Bachのフーガの鑑賞、演奏、観察を行う。	130分
		事後	授業で扱った内容の復習を行う。	140分
第6回	フーガの分析③ 古典派のフーガ	事前	古典派の作曲家のフーガを鑑賞、観察する。	130分
		事後	授業で扱った内容の復習を行う。	140分
第7回	フーガの分析④ M.Ravelのフーガ	事前	M.Ravelのフーガの鑑賞、演奏、観察を行う。	130分
		事後	授業で扱った内容の復習を行う。	140分
第8回	フーガの分析⑤ 現代のフーガ	事前	現代音楽でフーガがどのように扱われているか調べる。	130分
		事後	授業で扱った内容の復習を行う。	140分
第9回	近現代の音楽① 調性の崩壊	事前	調性崩壊のプロセスを調べる。	130分
		事後	授業で扱った内容の復習を行う。	140分
第10回	近現代の音楽② 12音技法	事前	12音技法についての概要を把握する。	130分
		事後	授業で扱った内容の復習を行う。	140分
第11回	12音技法の楽曲の試作① セリーの作成 単旋律の楽曲の試作	事前	12音技法に用いられるセリーの特徴を把握する	130分
		事後	単旋律の楽曲の作成を進める。	140分
第12回	12音技法の楽曲の試作② 同時に複数の音が響く楽曲の試作	事前	単旋律の楽曲を完成させる。	130分
		事後	試作品全てを完成させる。	140分
第13回	試作した12音技法による楽曲の演奏	事前	試作品の演奏練習を行う。	130分
		事後	試作品を見直す。	140分
第14回	近現代の音楽③ 旋法による音楽	事前	移調の限られた旋法についての概要を把握する。	130分
		事後	授業で扱った内容の復習を行う。	140分
第15回	まとめ	事前	練習に取り組んでいる楽曲を音楽理論という観点から観察する。	130分
		事後	楽曲を表現するためには何が必要かを考えつつ練習に取り組む。	140分

フィードバック 実施した課題の添削、解説によりフィードバックを行う。

成績評価 授業への取り組みによる

テキスト 使用する楽譜や参考文献は授業内で指示する。
その他、必要に応じてプリントを配布する。

オフィスアワー 授業後教室で対応。

備考 五線ノートを用意すること。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>						

古楽実習-1

教授 小林英之

科目コード：IND507

対象コース/専門/学年： 器楽・声楽専攻

形態：演習

単位数：2 単位

概要 選択したオルガン・古楽器部門の楽器の演奏を通じ、専門楽器の作品を別の視点から考察する。

到達目標 当学で古楽部門に属し実際に学べる楽器（オルガン、チェンバロ、フォルテピアノ、ヴィオラ・ダ・ガンバ、リュート、リコーダー、トラヴェルソ）や、当学の古楽器コレクションに接しながら、主として 17, 18 世紀の作品の演奏法を研究する（アンサンブルを含む）。
（この授業計画は目標であって、課題の難易度や取り組みの進捗状況に応じ、個々の課題に取り組む時間に増減があるものとする。）

授業計画 この授業計画は目標であって、課題の難易度や取り組みの進捗状況に応じ、個々の課題に取り組む時間に増減があるものとする。

第 1 回	ガイダンス。個人の演奏技術の判定。個人の能力に応じて学習用作品を決定。	事前 学ぶ楽器について下調べ。 事後 学ぶ作品の楽譜探索。	170 分 170 分
第 2 回	作品 A に取り組む 1（技術的な課題）	事前 譜読みをする。 事後 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。	170 分 170 分
第 3 回	作品 A に取り組む 2（表現力）	事前 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。 事後 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。	170 分 170 分
第 4 回	作品 A に取り組む 3（より高度な表現力を目指す）	事前 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。 事後 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。	170 分 170 分
第 5 回	作品 A に取り組む 4（総合）	事前 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。 事後 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。	170 分 170 分
第 6 回	作品 A に取り組む 5（仕上げ、別課題の決定）。	事前 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。 事後 学ぶ作品の楽譜探索。	170 分 170 分
第 7 回	作品 B に取り組む 1（技術的な課題）	事前 譜読みをする。 事後 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。	170 分 170 分
第 8 回	作品 B に取り組む 2（表現力）	事前 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。 事後 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。	170 分 170 分
第 9 回	作品 B に取り組む 3（より高度な表現力を目指す）	事前 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。 事後 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。	170 分 170 分
第 10 回	作品 B に取り組む 4（総合）	事前 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。 事後 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。	170 分 170 分
第 11 回	作品 B に取り組む 5（仕上げ、別課題の決定）。	事前 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。 事後 学ぶ作品の楽譜探索。	170 分 170 分
第 12 回	作品 C に取り組む 1（技術的な課題）	事前 譜読みをする。 事後 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。	170 分 170 分
第 13 回	作品 C に取り組む 2（表現力）	事前 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。 事後 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。	170 分 170 分
第 14 回	作品 C に取り組む 3（より高度な表現力を目指す）	事前 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。 事後 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。	170 分 170 分
第 15 回	作品 C に取り組む 4（総合）	事前 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。 事後 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。	170 分 170 分

フィードバック レッスン時間ごとの課題の達成度についてのコメント。

成績評価 専攻科修了演奏会の成績、平常の取り組みを総合して評価する。

テキスト その都度指定し、市販されていないものについては入手方法を指導する。

オフィスアワー 各教員の出校日、各教員のレッスン室。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>									

古楽実習-2

教授 小林英之

科目コード：IND508

対象コース/専門/学年： 器楽・声楽専攻

形態：演習

単位数：2 単位

概要 選択したオルガン・古楽器部門の楽器の演奏を通じ、専門楽器の作品を別の視点から考察する。

到達目標 当学で古楽部門に属し実際に学べる楽器（オルガン、チェンバロ、フォルテピアノ、ヴィオラ・ダ・ガンバ、リュート、リコーダー、トラヴェルソ）や、当学の古楽器コレクションに接しながら、主として 17, 18 世紀の作品の演奏法を研究する（アンサンブルを含む）。（この授業計画は目標であって、課題の難易度や取り組みの進捗状況に応じ、個々の課題に取り組む時間に増減があるものとする。）

授業計画 この授業計画は目標であって、課題の難易度や取り組みの進捗状況に応じ、個々の課題に取り組む時間に増減があるものとする。

第 1 回	作品 C に取り組む 5（仕上げ）、別課題の決定。	事前 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。 事後 学ぶ作品の楽譜探索。	170 分 170 分
第 2 回	作品 D に取り組む 1（技術的な課題）	事前 譜読みをする。 事後 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。	170 分 170 分
第 3 回	作品 D に取り組む 2（表現力）	事前 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。 事後 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。	170 分 170 分
第 4 回	作品 D に取り組む 3（より高度な表現力を目指す）	事前 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。 事後 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。	170 分 170 分
第 5 回	作品 D に取り組む 4（総合）	事前 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。 事後 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。	170 分 170 分
第 6 回	作品 D に取り組む 5（仕上げ）、別課題の決定。	事前 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。 事後 学ぶ作品の楽譜探索。	170 分 170 分
第 7 回	作品 E に取り組む 1（技術的な課題）	事前 譜読みをする。 事後 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。	170 分 170 分
第 8 回	作品 E に取り組む 2（表現力）	事前 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。 事後 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。	170 分 170 分
第 9 回	作品 E に取り組む 3（より高度な表現力を目指す）	事前 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。 事後 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。	170 分 170 分
第 10 回	作品 E に取り組む 4（総合）	事前 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。 事後 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。	170 分 170 分
第 11 回	作品 E に取り組む 5（仕上げ）。	事前 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。 事後 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。	170 分 170 分
第 12 回	学習した作品をすべて復習する 1（A、B、C）	事前 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。 事後 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。	170 分 170 分
第 13 回	学習した作品をすべて復習する 2（D、E）	事前 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。 事後 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。	170 分 170 分
第 14 回	学習した作品をすべて演奏する。	事前 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。 事後 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。	170 分 170 分
第 15 回	発表会準備（参加希望者のみ）	事前 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。 事後 該当楽器で特に興味を持った点を深めてみる。	170 分 170 分

フィードバック レッスン時間ごとの課題の達成度についてのコメント。

成績評価 専攻科修了演奏会の成績、平常の取り組みを総合して評価する。

テキスト その都度指定し、市販されていないものについては入手方法を指導する。

オフィスアワー 各教員の出校日、各教員のレッスン室。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>									

副科器楽-1

ピアノ部会主任 教授 山崎紫乃

科目コード：IND501

対象コース/専門/学年：音楽学専攻

形態：実技

単位数：2 単位

概要 これまでの学修を基に、個人レッスンによるピアノ学修を継続する。バッハの作品と古典派の作品を中心に取り組む。

到達目標 これまで修得した技術や表現力を見直し、更に深め、それぞれの専門分野の研究に役立て、反映させることを目標とする。

授業計画 前期 15 回 毎週 各人 20 分

回数	実技実習	事前	事後	170 分
第 1 回	実技実習(1) 学習計画 進度に合わせた課題設定	学習経験を基に自己の現状分析。	担当教員と設定した課題について自己検討。	170 分
第 2 回	実技実習(2) 基礎技術の自己練習	音階練習。	指使いの徹底。	170 分
第 3 回	実技実習(3) 打鍵法、効果的な手腕の使い方	音階の反復練習。	打鍵の角度や深さ、スピードを意識して反復練習。	170 分
第 4 回	実技実習(4) 練習曲 (正確な演奏)	読譜。	指使いの徹底。	170 分
第 5 回	実技実習(5) 練習曲 (強弱表現、リズム)	反復練習。	強弱の徹底、リズムの確認。	170 分
第 6 回	実技実習(6) 奏法 (アーティキュレーション)	スタッカート、レガートの練習。	正しい手腕の使い方を実践しながら反復練習。	170 分
第 7 回	実技実習(7) 奏法 (装飾音)	指の基礎練習。	装飾音の弾き方を確認しながら反復練習。	170 分
第 8 回	実技実習(8) 鍵盤楽器の歴史認識	バロックから現代までの鍵盤楽器の歴史を調べる。	楽器の変遷に伴う奏法をピアノで確認する。	170 分
第 9 回	実技実習(9) バッハ作品について	バッハの作品を読譜。	バッハの音楽の特徴を踏まえて練習。	170 分
第 10 回	実技実習(10) 対位法作品演奏	対位法について研究。	対位法の奏法を練習。	170 分
第 11 回	実技実習(11) 対位法作品の追求	各声部の明確な弾き分けを徹底練習と暗譜。	各声部の弾き分け、和声進行、拍子感を徹底する。	170 分
第 12 回	実技実習(12) 古典派作品について	古典派作品の読譜。	古典派音楽の様式を確認する。	170 分
第 13 回	実技実習(13) 古典派作品の奏法	様式を確認しながら反復練習。	形式を理解し表現を工夫する。	170 分
第 14 回	実技実習(14) 古典派作品の表現	反復練習と暗譜。	形式、様式を踏まえた奏法の徹底練習と習得。	170 分
第 15 回	実技実習(15) 成果発表	暗譜で反復練習。	学習の成果を暗譜で発表。	170 分

フィードバック 最後に成果発表を行い、担当教員からのコメントを受け取る。

成績評価 平常点および与えられた課題の取り組み方による。

テキスト 各自の進度に合わせた課題を中心に演習を行う。

オフィスアワー ※4 月レッスンガイダンス後の実技担当者発表掲示を参照のこと。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				

副科器楽-2

ピアノ部会主任 教授 山崎紫乃

科目コード：IND502

対象コース/専門/学年：音楽学専攻

形態：実技

単位数：2 単位

概要 個人レッスンによる学習を継続することで、ピアノの可能性をより深く学ぶための授業。
主にロマン派の作品を中心に幅広に表現力について考える。

到達目標 ピアノを深く学ぶことにより、それぞれの専門分野の研究に役立てると共に、音楽の基礎的な部分をより確固たるものにするを目標とする。

授業計画 前期 15 回 毎週 各人 20 分

回数	実技実習	事前	事後	170 分
第 1 回	実技実習(1) 後期の目標と課題設定	前期の成果を基に課題確認。	課題設定と読譜。	170 分
第 2 回	実技実習(2) ロマン派音楽について	ロマン派の様式について調べる。	ロマン派の表現法を工夫。	170 分
第 3 回	実技実習(3) ペダルについて	響きのイメージを持って練習。	響きを聴きながらペダルの踏み方の練習。	170 分
第 4 回	実技実習(4) 表現の可能性	強弱、ペダル、奏法を駆使して作品の表現を追求する。	作品に相応しい表現を徹底練習。	170 分
第 5 回	実技実習(5) ロマン派仕上げ	暗譜。	ロマン派に相応しい奏法、表現を確認し反復練習。	170 分
第 6 回	実技実習(6) 自由曲	学習したい作品の読譜。	音、指使い、リズムの徹底練習。	170 分
第 7 回	実技実習(7) 形式、構成について	全体の構成を分析する。	正しい構成と形式を理解し、演奏において整理する。	170 分
第 8 回	実技実習(8) 技術的問題について	反復練習。問題の箇所を把握する。	技術的問題、奏法について担当教員のアドバイスを基に改善練習。	170 分
第 9 回	実技実習(9) 表現の掘り下げ	作品の内容理解とイメージを明確にする。	様々な表現法を工夫、練習。	170 分
第 10 回	実技実習(10) 自在な演奏	暗譜。	作品に相応しいテンポ、表現の徹底練習。	170 分
第 11 回	実技実習(11) 表現の徹底	暗譜で反復練習。	幅広い強弱と豊かな音色の追求。	170 分
第 12 回	実技実習(12) テンポについて	作品に相応しいテンポの研究。	音楽的な流れとテンポ、表現の徹底。	170 分
第 13 回	実技実習(13) バランスの調整	技術、表現の確認と練習。	構成感、作品の正確に合った表現の徹底。	170 分
第 14 回	実技実習(14) 仕上げとまとめ	これまでの学習を基に反復練習。	より確実に明確な演奏を目指して反復練習。	170 分
第 15 回	実技実習(15) 成果発表	総合的な練習。	演奏を振り返り、成功した点と今後の課題を整理する。	170 分

フィードバック 最後に成果発表を行い、担当教員からのコメントを受け取る。

成績評価 平常点および与えられた課題の取り組み方による。

テキスト 各自の進度に合わせた課題を中心に演習を行う。

オフィスアワー ※4 月レッスンガイダンス後の実技担当者発表掲示を参照のこと。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	プレゼンテーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				

副科声楽-1

声楽コース部会主任 教授 吉田伸昭

科目コード：IND511

対象コース/専門/学年：音楽学専攻

形態：実技

単位数：2単位

概要 個人レッスンの形態で声楽の技術、音楽を学ぶ。
各々の研究課題に対しての事前、事後の学習が重要となる。

到達目標 ①声楽の発声の基本を学ぶ。
②イタリア古典歌曲を中心的題材として、言語を伴った声楽の表現を学びながら、それぞれの専門実技に応用できるような読譜力、解釈力、和声感、様式感を身につける。

授業計画 1ゼメスタ15回
実技演習においては、ここの学生の特性を見極め、その進捗に即して課題を選択しレッスンする。

第1回	ガイダンス 各自の学習計画を立てる	事前	これまでの声楽に関する学修を確認し学習計画を練る	170分
		事後	学習計画を確認し、楽譜等の準備をする	170分
第2回	エチュード・イタリア古典歌曲 呼吸法、発声法を中心に	事前	発声練習を重ね、次回のレッスン予定のエチュード、歌曲の譜読みをする	170分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	170分
第3回	エチュード・イタリア古典歌曲 母音の純化、子音の明確化を中心に	事前	次回のレッスン予定のエチュード、歌曲の練習を重ねる	170分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	170分
第4回	エチュード・イタリア古典歌曲 基礎的問題点の解決	事前	次回のレッスン予定のエチュード、歌曲の練習を重ねる	170分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	170分
第5回	エチュード・イタリア古典歌曲 声域の拡大と歌唱技術の向上をはかる	事前	次回のレッスン予定のエチュード、歌曲の練習を重ねる	170分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	170分
第6回	イタリア古典歌曲 楽譜を読み込む① 言語、和声感、様式感を中心に	事前	次回のレッスン予定のイタリア古典歌曲の練習を重ねる(言葉の意味に留意する)	170分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	170分
第7回	イタリア古典歌曲 楽譜を読み込む② 表現の発展	事前	次回のレッスン予定のイタリア古典歌曲の練習を重ねる(イタリア語のディクショに留意する)	170分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	170分
第8回	イタリア古典歌曲 声域・カテゴリーの確立	事前	次回のレッスン予定のイタリア古典歌曲の練習を重ねる(イタリア語のディクショに留意する)	170分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	170分
第9回	各々の声のカテゴリーを踏まえ、複数の課題楽曲を選択する	事前	次回のレッスン予定のイタリア古典歌曲の練習を重ねる(イタリア語のディクショに留意する)	170分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	170分
第10回	選択した楽曲につき正確な読譜と詩の解釈を進める	事前	次回のレッスン予定の歌曲の練習を重ねる	170分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	170分
第11回	上記に基づき演奏の深化をはかる	事前	次回のレッスン予定の歌曲の練習を重ねる(音楽的な表現に留意する)	170分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	170分
第12回	問題点の認識と解決をはかる	事前	次回のレッスン予定の歌曲の練習を重ねる(音楽的な表現に留意する)	170分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	170分
第13回	ピアノ伴奏を伴い楽曲の研究を深める	事前	伴奏合わせを重ねる	170分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	170分
第14回	ピアノ伴奏を伴い表現の発展、演奏の質の向上をはかる	事前	伴奏合わせを重ね、表現の確立をはかる	170分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	170分
第15回	前期のまとめ	事前	伴奏合わせを重ね、表現の確立をはかる	170分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	170分

フィードバック 前期試演後に個人面談の形で前期を振り返り、成果や次へ課題を話し合う

成績評価 試演会を評価する

テキスト 授業計画欄を参照のこと。

オフィスアワー 各教員の在校時間内（ただしレッスン時間を除く）
各教員のレッスン室

備考

学位授与の方針との関連

知識・技能・理解		知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>								

副科声楽-2

声楽コース部会主任 教授 吉田伸昭

科目コード：IND512

対象コース/専門/学年：音楽学専攻

形態：実技

単位数：2単位

概要 個人レッスンの形態で声楽の基本的な技術、音楽を学ぶ。
課題に対しての事前、事後の各自の学習が重要となる。

到達目標 ①声楽の発声の基本を確立する。
②日本、ドイツ歌曲、オペラなど幅広く声楽の表現を学びながら、それぞれの専門実技に応用できるような確かな読譜力、解釈力、和声感、様式感を身につける。

授業計画 1ゼメスタ15回
実技演習においては、ここの学生の特性を見極め、その進捗に即して課題を選択しレッスンする。

回数	内容	事前	事後	時間
第1回	前期成果の確認と後期の学習計画を立てる	前期の学修を確認し学習計画を練る	レッスンで指摘を受けた点の改善	170分
第2回	異なる時代、異なる言語による作品の比較研究 日本歌曲、ドイツ歌曲を中心に	事前 次回のレッスン予定の歌曲の練習を重ねる	事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	170分
第3回	日本歌曲、ドイツ歌曲 楽譜を読み込む① 言語、和声感、様式感を中心に	事前 次回のレッスン予定の歌曲の練習を重ねる(言葉の意味、ディクシオンに留意する)	事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	170分
第4回	日本歌曲、ドイツ歌曲 楽譜を読み込む② 表現の発展	事前 次回のレッスン予定の歌曲の練習を重ねる(音楽的な表現に留意する)	事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	170分
第5回	オペラを知る 歌曲作品とオペラアリアとの比較研究	事前 次回のレッスン予定の楽曲の練習を重ねる	事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	170分
第6回	オペラアリア(あるいはロマン派歌曲) 楽譜を読み込む① 言語、和声感、様式感を中心に	事前 次回のレッスン予定の楽曲の練習を重ねる(言葉の意味、ディクシオンに留意する)	事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	170分
第7回	オペラアリア(あるいはロマン派歌曲) 楽譜を読み込む② 表現の発展	事前 次回のレッスン予定の楽曲の練習を重ねる(音楽的な表現に留意する)	事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	170分
第8回	各々の声の CATEGORY を踏まえ、複数の課題楽曲を選択する	事前 次回のレッスン予定の楽曲の練習を重ねる	事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	170分
第9回	選択した楽曲につき正確な読譜と詩の解釈を進める	事前 次回のレッスン予定の楽曲の練習を重ねる	事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	170分
第10回	上記に基づき演奏の深化をはかる	事前 次回のレッスン予定の楽曲の練習を重ねる	事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	170分
第11回	ピアノ伴奏を伴い楽曲の研究を深める	事前 事前にピアニストと伴奏合わせをする	事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	170分
第12回	暗譜を確かなものとする	事前 伴奏合わせを重ねる	事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	170分
第13回	暗譜の上、楽曲の演奏内容を深める	事前 伴奏合わせを重ねる	事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	170分
第14回	暗譜の上、演奏の完成度を高める	事前 伴奏合わせを重ね、暗譜の確認、表現の確立をはかる	事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	170分
第15回	後期のまとめ	事前 伴奏合わせを重ね、暗譜の確認、表現の確立をはかる	事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	170分

フィードバック 試験後に個人面談の形で前期を振り返り、成果や次へ課題を話し合う

成績評価 試演会を評価する

テキスト 授業計画欄を参照のこと。

オフィスアワー 各教員の在校時間内（ただしレッスン時間を除く）
各教員のレッスン室

備考

学位授与の方針との関連

知識・技能・理解		知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				

